

東北大学埋蔵文化財調査年報 8

—仙台城二の丸跡第9地点の調査—



東北大学埋蔵文化財調査研究センター

1997

東北大学埋蔵文化財調査年報 8

東北大学埋蔵文化財調査研究センター
1997



1. 二の丸跡第9地点 ピット56・8層出土南蛮人人形



2. 二の丸跡第9地点 1期の陶磁器



3. 二の丸跡第9地点 16号溝出土漆器皿



4. 二の丸跡第9地点 I期の漆器椀



5. 二の丸跡第9地点 16号土坑出土磁器



6. 二の丸跡第9地点 16号土坑出土陶器



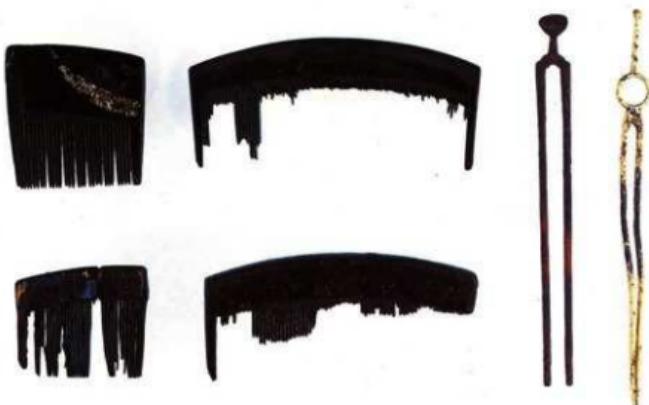
7. 二の丸跡第9地点 16号土坑出土土器



8. 二の丸跡第9地点 16号土坑出土漆器皿



9. 二の丸跡第9地点 16号土坑出土漆器椀



10. 二の丸跡第9地点 16号土坑出土鞞・簪



11. 二の丸跡第9地点 15号土坑出土磁器



12. 二の丸跡第9地点 15号土坑出土陶器



13. 二の丸跡第9地点 15号土坑出土土器・土人形



14. 二の丸跡第9地点 12号土坑出土陶磁器・土器



15. 二の丸跡第9地点 1号池出土磁器



16. 二の丸跡第9地点 1号池出土陶器

序

平成6年5月17日、東北大学埋蔵文化財調査委員会とその調査組織である埋蔵文化財調査室が改組され、東北大学埋蔵文化財調査研究センターが開設された。昭和58年4月から10年間、川内地区、青葉山地区など東北大学構内の埋蔵文化財調査を進めてきた調査委員会は、その機能を埋蔵文化財調査研究センター運営委員会に移すこととなった。そしてセンターには調査研究員1名を増員し、調査研究員3名の体制で、構内の埋蔵文化財の調査・研究に取り組み、調査資料の整理・分析、調査報告書の作成、出土文化財の管理と活用にあたることとなった。

調査委員会の発足以来、石田名香雄委員長、渡辺信夫調査室長のもとで、調査室は施設工事に伴う構内遺跡の事前調査に、効率的かつ高い技術水準で対処するため、最も有効な調査方法を検討し、様々な工夫を加えつつ、調査を実施してきた。また、かけがえのない重要な遺跡、遺構を可能な限り保存する立場から、調査計画・方法を検討し、慎重かつ迅速な調査に努力してきた。委員会では調査内容を検討、評価し、遺構保存のため、様々な具体策を講じた。

次いで平成元年からは大谷茂盛委員長、須藤調査室長、さらに平成2年からは西澤潤一委員長のもとで、成果を積み重ね、調査組織として、学内外からの信頼を確立することができた。

調査室は、その発足以来、様々な調査の成果をあげている。ことに、青葉山B遺跡における6万年以前の前期旧石器の発見や、仙台城二の丸跡の調査で、二の丸の遺構が良好に保存され、遺物も豊富に残されていることを明らかにし、さらに二の丸拡張以前に存在した西屋敷を発見するなど、その成果は大きく、学界でも高い評価をえている。

さらに、西澤委員長のもとでは学内の協力をえて、調査室へのPEG含浸装置の設置など、調査室の設備、体制も充実した。近年、構内の設備工事に伴う遺跡の事前調査が著しく増大し、それに対処するため、調査室を改組し、本センターが新たに発足することとなった。

本年報は、この新たな体制のもとに刊行される初めての調査報告書である。掲載されるのは、平成2年度に実施した、文・法医学部研究棟の新營に伴う二の丸跡第9地点の調査である。調査地点は二の丸台所門付近にあたり、17世紀初頭の伊達宗泰の屋敷跡、1638年の二の丸造営から幕末・明治初頭にいたる、6期の遺構の変遷が捉えられ、各時期の陶磁器など貴重な資料が豊富に出土した。ことに17世紀初頭の唐津、18世紀後半の大堀相馬焼など貴重な資料がえられている。今回、その検出遺構のデータと、膨大な出土資料が、この報告書にまとめられた。

本年報の刊行にあたり、関係各位の協力と支援に心から感謝する次第である。

埋蔵文化財調査研究センター

センター長 須藤 隆

例　　言

1. 本年報は、東北大学構内において、東北大学埋蔵文化財調査委員会が1990年度行った遺跡調査、ならびに研究成果をまとめたものである。

2. 報告される遺跡と略号、発掘調査期間は以下の通りである。

仙台城二の丸跡第9次調査地点　試掘調査　1989年6月29日～7月26日

(略号NM9)　　本調査(建物本体部分)　1990年5月10日～11月29日

本調査(付帯施設部分)　1991年3月14日～3月27日

3. 調査・整理作業は、東北大学埋蔵文化財調査委員会の委嘱を受け、埋蔵文化財調査室が行った(1994年度からは埋蔵文化財調査研究センター)。

4. 本年報の編集は、須藤隆の指導のもとに、藤沢敦・閔根達人・菊池佳子が担当した。

5. 本文は、藤沢敦・閔根達人・菊池佳子が分担執筆した他、第Ⅱ章5. 自然科学的分析については、以下の方々に分析を依頼し、原稿をいただいた。

(1) 植物遺体：内藤俊彦(東北大学理学部附属植物園)

(2) 花粉分析：竹内貞子(齊藤報恩会自然史博物館)

なお、動物遺存体については、出土量が多いため、主要なものについてのみ、東北大学文学部考古学研究室の富岡直人氏に同定を依頼し、同定された種名を、層序・遺構の記載においてふれるにとどめた。詳細な分析は、あらためて実施し、報告する予定である。

これ以外の本文執筆分担は、以下の通りである。

第Ⅰ章、第Ⅱ章1、第Ⅱ章4(2)・(3)・(5)・(7)～(10)、第Ⅱ章6：藤沢敦

第Ⅱ章2、第Ⅱ章3、第Ⅱ章4(1)：閔根達人

第Ⅱ章4(4)・(6)　　：菊池佳子

6. 発掘調査および整理・報告書作成にあたっては、以下の方々や関係機関から御指導・御協力を賜った。記して感謝申し上げる(敬称略)。

阿子島香(東北大学文学部) 大橋康二(九州陶磁文化館) 蟹澤聰史(東北大学理学部)

中川学(東北大学記念資料室) 本田泰貴(東北陶磁文化館)

宮城県教育委員会・仙台市教育委員会・仙台市博物館・東北大学考古学研究室

7. 出土遺物・調査記録類は、東北大学埋蔵文化財調査研究センターが保管・管理している。

凡 例

- 方位は真北に統一してある。
- 図1と図2は、それぞれ国土地理院作成の、2万5千分の1地形図「仙台西北部」と「仙台西南部」、1万分の1地形図「青葉山」を使用した。
- 川内地区的仙台城二の丸跡、および北方の武家屋敷地区にあたる地域の地形測量図は、仙台市教育委員会の作成による「仙台城跡地形図」(縮尺500分の1)を使用した。
- 遺物の実測図および写真的縮尺は、各々に示した。
- 挿図中のスクリーン・トーンの表現は、特に記した以外は、下記の通りである。

遺構平面図 柱痕跡: [■] 杠: [■]

遺構断面図 柱痕跡: [■] 碑: [■]

遺物実測図 青磁釉: [■] 付着物: [■]

- 遺物観察表の法量の単位は、特に記載がないものは、cmである。
- 引用・参考文献は、巻末にまとめた。また本文中で、東北大学埋蔵文化財調査年報を引用する場合は、年報1という形で略記した。

発掘調査参加者

青山圭一 阿部喜美 阿部志う 阿部哲人 阿部友衛 安藤邦彦 伊東千穂 伊東紀治
歌川喜恵子 梅内真 梅沢みえ 羽陽毅 太田すあ子 太田はるよ 神山和芳 菅野春枝
菊地スミ子 菊池とよみ 菊池佳子 木崎義明 斎藤公孝 佐伯晴子 酒井重史 酒井洋一
佐々木啓一 佐々木寅男 佐藤幸喜 澤田敦 柴田順子 渋谷努 庄子一夫 菅原伸一
菅原よしの 鈴木亜紀子 高橋和子 高橋健寿 谷口耕生 崔熙柱 津島秀章 富岡直人
永田英明 中村裕 成田日出男 新沼よしえ 信沢秀子 長谷川チエ子 日向野紀子
日向野洋子 本多昭子 星野さゆり 松川弘子 三浦幸子 三辻和弥 茂庭千晴
八重座のり子 横山東市 吉田能成 吉田雅行 吉田泰子 米倉浩司 渡辺清子

整理作業参加者

青井恭子 青山博樹 石井忍 石井みゆき 石堂祐子 今泉八重子 伊藤大介 伊藤典子
一野瀬昌寿 大谷基 大塚玲子 大本麻美 織茂麻木子 内海薰 小山久美子 勝山美佐子
菊地大介 熊谷宏靖 倉持恭子 小関満知子 後藤真希子 古山友子 斎藤美穂
佐々木きみ子 佐藤剛 庄司明美 白石浩子 菅原友子 須田誠 田原由男 千葉あけ美
独古史恵 兵藤多佳子 藤田直行 松澤香理 溝口彰啓 森島康江 和田潤子

東北大学埋蔵文化財調査委員会（1990年度）

委員長	学 長	西澤潤一
委員	川内地区協議会委員長 青葉山地区協議会委員長 星陵地区協議会委員長 片平地区協議会委員長	(経済学部長) (理学部長) (医学部長) (非水研所長)
	文学部 教授	大槻幹郎
	文学部 教授	桜井英樹
	文学部 教授	吉永馨
	文学部 助教授	池上雄作
	理学部 教授	渡辺信夫
	工学部 教授	羽下徳彦
	文学部 長	須藤隆
	法学部 長	今泉 隆雄
	事務局 長	中川久夫
調査員	文学部 助手	坂田 泉
	文学部 助手	菊田茂男
幹事	施設部 長	小田中聰樹
	庶務部 長	垂木祐三
	経理部 長	佐久間光平
		山田 しょう
		原山明宗
		堀道博
		三橋正夫

東北大学埋蔵文化財調査研究センター設置規程

(平成6年5月17日 規第56号)

(設置)

第一条 東北大学(以下「本学」という。)に、東北大学埋蔵文化財調査研究センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第二条 センターは、本学の施設整備が円滑に行われるために、構内の埋蔵文化財に関する調査及び研究を行い、併せて資料の保管及びその活用を図ることを目的とする。

(職員)

第三条 センターに、センター長、調査研究員及びその他の職員を置く。

2 センター長は、本学の専任の教授をもって充て、総長が命ずる。

3 センター長は、センターの業務を掌理する。

4 センター長の任期は、二年とし、再任を妨げない。

5 調査研究員は、本学の専任の教官をもって充て、総長が命ずる。

6 調査研究員は、センターの業務に従事する。

(運営委員会)

第四条 センターに、センターの組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(組織)

第五条 委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 東北大学施設整備委員会各地区協議会の協議員 各一名

二 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は助教授 若干名

三 発掘調査地に関連のある部局の教授又は助教授で、その都度委員長が指名するもの

四 施設部長

(委員長)

第六条 委員長は、センター長をもって充てる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員会の同意を得て、委員以外の者を委員会に出席させ、講演について、必要な説明をさせ、又は意見を述べさせることができる。

(専門委員会)

第七条 委員会に、埋蔵文化財の発掘調査に関する専門の事項を調査審議させるため、専門委員会を置く。

2 専門委員会は、委員長及び次の各号に掲げる専門委員をもって組織する。

一 調査研究員

二 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は助教授 若干名

三 施設部企画課長

四 発掘調査地に関連のある部局の事務部の長

3 委員長は、センター長をもって充てる。

(委嘱)

第八条 第五条第一号から第三号までに掲げる委員並びに前条第二項第二号及び第四号に掲げる専門委員は、総長が委嘱する。

(幹事)

第九条 委員会に幹事を置き、施設部企画課長をもって充てる。

(事務)

第十条 センターの事務は、当分の間、事務局施設部において処理する。

(雑則)

第十一条 この規程に定めるものほか、センターの組織及び運営に関し必要な事項は、センター長が定める。

附 則（略）

東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会
(1997年1月現在)

委員長	センター長	(文学部 教授)	須藤 隆
委員	川内地区協議会	(経済学部教授)	鈴木 良隆
	青葉山地区協議会	(薬学部教授)	佐藤 進
	星陵地区協議会	(医学部教授)	大井 龍司
	片平地区協議会	(素材工学研究所教授)	島田 吕彦
文学部	教授		羽下 徳彦
文学部	教授		今泉 隆雄
文学部	助教授		阿子島 香
理学部	教授		蟹澤 聰史
工学部	助教授		飯瀬 康一
東北アジア研究センター	教授		入間田 宣夫
施設部	長		渡邊 正雄
幹事	施設部 企画課長		渡邊 三郎

東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会専門委員会
(1997年1月現在)

委員長	センター長	(文学部 教授)	須藤 隆
委員	文学部 教授		羽下 徳彦
	文学部 教授		今泉 隆雄
	文学部 助教授		阿子島 香
理学部	教授		蟹澤 聰史
工学部	助教授		飯瀬 康一
東北アジア研究センター	教授		入間田 宣夫
調査研究員	(文学部 助手)		藤沢 敦
調査研究員	(文学部 助手)		関根 達人
調査研究員	(文学部 助手)		菊池 佳子
理学部	事務長		金田 一夫
施設部	企画課長		渡邊 三郎

目 次

巻頭カラー図版

序

例言・凡例

東北大学埋蔵文化財調査委員会委員（1990年度）

東北大学埋蔵文化財調査研究センター規程

東北大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会委員（1996年度）

目次

図目次

表目次

図版目次

第Ⅰ章 1990年度調査の概要	1
1.はじめに	1
2.発掘調査の概要	1
(1) 川内地区の調査	1
(2) 青葉山地区的調査	4
(3) 富沢地区的調査	4
3. そのほかの調査室の活動	4
第Ⅱ章 仙台城二の丸跡第9次調査地点（NM9）の調査	10
1. 調査経緯	10
(1) 川内地区の立地と歴史	10
(2) 1989年度までの調査	11
(3) 調査地点の位置	12
(4) 調査方法と経過	12
2. 層序と時期区分	15
3. 検出遺構	17
(1) I期の遺構	17
① Ia期の遺構	17
② Ib期の遺構	18

(2) II期の遺構	26
(3) III期の遺構	29
(4) IV期の遺構	37
(5) V期の遺構	43
(6) VI期の遺構	48
4. 出土遺物	53
(1) 陶磁器	53
(2) 土師質土器・瓦質土器	62
(3) 土製品・人形	64
(4) 瓦	64
(5) 木製品・漆塗製品	68
(6) 金属製品	74
(7) 石器・石製品	76
(8) 骨角製品	77
(9) ガラス製品	77
⑩ その他の遺物	77
5. 自然科学的分析	258
(1) 植物遺体	258
(2) 花粉分析	261
6. まとめ	265

引用参考文献

英文要旨

写真図版

図 目 次

図1 東北大大学と周辺の遺跡	2	図28 第9地点出土磁器(9)	86
図2 仙台城と二の丸の位置	3	図29 第9地点出土磁器(10)	87
図3 仙台城二の丸跡・武家屋敷跡 調査地点	5	図30 第9地点出土磁器(11)	88
図4 青葉山地区調査地点	7	図31 第9地点出土磁器(12)	89
図5 工学部管理棟前地点 平面図・断面図	9	図32 第9地点出土磁器(13)	90
図6 二の丸地区の変遷模式図	10	図33 第9地点出土磁器(14)	91
図7 二の丸跡第9次調査地点 調査区の位置	13	図34 第9地点出土磁器(15)	92
図8 第9地点基本層序模式図	16	図35 第9地点出土磁器(16)	93
図9 第9地点調査区外周壁断面図(1)	17	図36 第9地点出土磁器(17)	94
図10 第9地点調査区外周壁断面図(2)	18	図37 第9地点出土磁器(18)	95
図11 第9地点Ia期検出遺構	21	図38 第9地点出土磁器(19)	96
図12 第9地点Ib期検出遺構	23	図39 第9地点出土磁器(20)	97
図13 第9地点II期検出遺構	27	図40 第9地点出土陶器(1)	98
図14 第9地点III期検出遺構	33	図41 第9地点出土陶器(2)	99
図15 第9地点III期断面図	35	図42 第9地点出土陶器(3)	100
図16 第9地点IV期検出遺構	41	図43 第9地点出土陶器(4)	101
図17 第9地点V期検出遺構	45	図44 第9地点出土陶器(5)	102
図18 第9地点V期断面図	47	図45 第9地点出土陶器(6)	103
図19 第9地点VI期検出遺構	51	図46 第9地点出土陶器(7)	104
図20 第9地点出土磁器(1)	78	図47 第9地点出土陶器(8)	105
図21 第9地点出土磁器(2)	79	図48 第9地点出土陶器(9)	106
図22 第9地点出土磁器(3)	80	図49 第9地点出土陶器(10)	107
図23 第9地点出土磁器(4)	81	図50 第9地点出土陶器(11)	108
図24 第9地点出土磁器(5)	82	図51 第9地点出土陶器(12)	109
図25 第9地点出土磁器(6)	83	図52 第9地点出土陶器(13)	110
図26 第9地点出土磁器(7)	84	図53 第9地点出土陶器(14)	111
図27 第9地点出土磁器(8)	85	図54 第9地点出土陶器(15)	112
		図55 第9地点出土陶器(16)	113
		図56 第9地点出土陶器(17)	114
		図57 第9地点出土陶器(18)	115

図58 第9地点出土陶器(9) ······	116	図90 第9地点出土軒丸瓦類(3) ······	148
図59 第9地点出土陶器(2) ······	117	図91 第9地点出土軒平瓦類(1) ······	149
図60 第9地点出土陶器(1) ······	118	図92 第9地点出土軒平瓦類(2) ······	
図61 第9地点出土陶器(2) ······	119	軒棟瓦(1) ······	150
図62 第9地点出土陶器(2) ······	120	図93 第9地点出土軒棟瓦(2) ······	151
図63 第9地点出土陶器(2) ······	121	図94 第9地点出土丸瓦(1) ······	152
図64 第9地点出土陶器(2) ······	122	図95 第9地点出土丸瓦(2) ······	153
図65 第9地点出土陶器(2) ······	123	図96 第9地点出土丸瓦(3) ······	154
図66 第9地点出土陶器(2) ······	124	図97 第9地点出土丸瓦(4) ······	155
図67 第9地点出土陶器(2) ······	125	図98 第9地点出土平瓦(1) ······	156
図68 第9地点出土陶器(2) ······	126	図99 第9地点出土平瓦(2) ······	
図69 第9地点出土陶器(2) ······	127	棟瓦(1) ······	157
図70 第9地点出土土器(1) ······	128	図100 第9地点出土棟瓦(2) ······	158
図71 第9地点出土土器(2) ······	129	図101 第9地点出土棟瓦(3) ······	159
図72 第9地点出土土器(3) ······	130	図102 第9地点出土板扉瓦(1) ······	160
図73 第9地点出土土器(4) ······	131	図103 第9地点出土板扉瓦(2) ······	161
図74 第9地点出土土器(5) ······	132	図104 第9地点出土板扉瓦(3) ······	162
図75 第9地点出土土器(6) ······	133	図105 第9地点出土板扉瓦(4) ······	163
図76 第9地点出土土器(7) ······	134	図106 第9地点出土板扉瓦(5) · T字瓦 ·	
図77 第9地点出土土器(8) ······	135	輪違い(1) ······	164
図78 第9地点出土土器(9) ······	136	図107 第9地点出土輪違い(2) ·	
図79 第9地点出土土器(10) ······	137	面戸瓦 ······	165
図80 第9地点出土土器(11) ······	138	図108 第9地点出土冠瓦 ······	166
図81 第9地点出土土器(12) ······	139	図109 第9地点出土棟瓦(1) ······	167
図82 第9地点出土土器(13) ······	140	図110 第9地点出土棟瓦(2) ·	
図83 第9地点出土土器(14) ······	141	その他の瓦(1) ······	168
図84 第9地点出土土器(15) ······	142	図111 第9地点出土その他の瓦(2) ······	169
図85 第9地点出土土製品 · 人形(1) ······	143	図112 第9地点出土その他の瓦(3) ······	170
図86 第9地点出土土製品 · 人形(2) ······	144	図113 第9地点出土刻印瓦 ······	171
図87 第9地点出土土製品 · 人形(3) ······	145	図114 第9地点出土櫛 ······	172
図88 第9地点出土軒丸瓦類(1) ······	146	図115 第9地点出土下駄(1) ······	173
図89 第9地点出土軒丸瓦類(2) ······	147	図116 第9地点出土下駄(2) ······	174

図117 第9地点出土下駄(3)	175	図140 第9地点出土	
図118 第9地点出土下駄(4)	176	その他の木製品(8)	198
図119 第9地点出土箸状木製品	177	図141 第9地点出土	
図120 第9地点出土膳類(1)	178	その他の木製品(9)	199
図121 第9地点出土膳類(2)	179	図142 第9地点出土漆椀(1)	200
図122 第9地点出土膳類(3)	180	図143 第9地点出土漆椀(2)	201
図123 第9地点出土曲物	181	図144 第9地点出土漆椀(3)	202
図124 第9地点出土円板状木製品(1)	182	図145 第9地点出土漆椀(4)・漆皿	203
図125 第9地点出土		図146 第9地点出土	
円板状木製品(2)・栓	183	その他の漆塗製品(1)	204
図126 第9地点出土桶・樽類(1)	184	図147 第9地点出土	
図127 第9地点出土桶・樽類(2)	185	その他の漆塗製品(2)	205
図128 第9地点出土桶・樽類(3)	186	図148 第9地点出土	
図129 第9地点出土桶・樽類(4)	187	その他の漆塗製品(3)	206
図130 第9地点出土桶・樽類(5)	188	図149 第9地点出土	
図131 第9地点出土桶・樽類(6)	189	その他の漆塗製品(4)	207
図132 第9地点出土桶・樽類(7)	190	図150 第9地点出土	
図133 第9地点出土		その他の漆塗製品(5)	208
その他の木製品(1)	191	図151 第9地点出土古銭	209
図134 第9地点出土		図152 第9地点出土煙管(1)	210
その他の木製品(2)	192	図153 第9地点出土煙管(2)	211
図135 第9地点出土		図154 第9地点出土	
その他の木製品(3)	193	その他の金属製品(1)	212
図136 第9地点出土		図155 第9地点出土	
その他の木製品(4)	194	その他の金属製品(2)	213
図137 第9地点出土		図156 第9地点出土	
その他の木製品(5)	195	その他の金属製品(3)	214
図138 第9地点出土		図157 第9地点出土	
その他の木製品(6)	196	その他の金属製品(4)	215
図139 第9地点出土		図158 第9地点出土石器・石製品(1)	216
その他の木製品(7)	197	図159 第9地点出土石製品(2)	
		その他の遺物	217

図160 第9地点における

主要花粉ダイアグラム 264

表 目 次

表1 1990年度調査概要表	1	表21 第9地点出土陶器観察表(4)	237
表2 第9地点出土磁器集計表(1)	218	表22 第9地点出土陶器観察表(5)	238
表3 第9地点出土磁器集計表(2)	219	表23 第9地点出土陶器観察表(6)	239
表4 第9地点出土陶器集計表(1)	220	表24 第9地点出土陶器観察表(7)	240
表5 第9地点出土陶器集計表(2)	221	表25 第9地点出土土製品観察表	240
表6 第9地点出土上器・ 土製品集計表(1)	222	表26 第9地点出土 上部質土器皿観察表(1)	241
表7 第9地点出土上器・ 土製品集計表(2)	223	表27 第9地点出土 土部質土器皿観察表(2)	242
表8 第9地点出土瓦集計表(1)	224	表28 第9地点出土その他の土師質 土器・瓦質上器観察表(1)	243
表9 第9地点出土瓦集計表(2)	225	表29 第9地点出土その他の土師質 土器・瓦質土器観察表(2)	244
表10 第9地点出土木製品・ 塗塗製品集計表(1)	226	表30 第9地点出土軒丸瓦観察表	244
表11 第9地点出土木製品・ 塗塗製品集計表(2)	227	表31 第9地点出土丸瓦観察表	244
表12 第9地点出土 その他の遺物集計表(1)	228	表32 第9地点出土軒平瓦観察表	245
表13 第9地点出土 その他の遺物集計表(2)	229	表33 第9地点出土平瓦1類観察表	245
表14 第9地点出土磁器観察表(1)	230	表34 第9地点出土平瓦2類観察表	246
表15 第9地点出土磁器観察表(2)	231	表35 第9地点出土軒棧瓦観察表	246
表16 第9地点出土磁器観察表(3)	232	表36 第9地点出土棧瓦観察表	247
表17 第9地点出土磁器観察表(4)	233	表37 第9地点出土板辦瓦観察表	247
表18 第9地点出土陶器観察表(1)	234	表38 第9地点出土面戸瓦観察表	247
表19 第9地点出土陶器観察表(2)	235	表39 第9地点出土輪違い観察表	247
表20 第9地点出土陶器観察表(3)	236	表40 第9地点出土鳥伏間観察表	247
		表41 第9地点出土棟瓦観察表	247
		表42 第9地点出土贊斗瓦観察表	247

表43 第9地点出土T字瓦観察表	248	表54 第9地点出土	
表44 第9地点出土その他の瓦観察表	248	その他の木製品観察表	253
表45 第9地点出土箸状木製品観察表	248	表55 第9地点出土古鉄観察表	254
表46 第9地点出土櫛観察表	249	表56 第9地点出土煙管(顧首)観察表	255
表47 第9地点出土上下駄観察表	249	表57 第9地点出土煙管(吸口)観察表	255
表48 第9地点出土膳類観察表	249	表58 第9地点出土	
表49 第9地点出土曲物観察表	250	その他の金属製品観察表	256
表50 第9地点出土桶・樽類観察表	250	表59 第9地点出土	
表51 第9地点出土 漆塗椀・皿類観察表	251	その他の遺物観察表	257
表52 第9地点出土 その他の漆塗製品観察表	252	表60 第9地点出土植物遺体一覧表	260
表53 第9地点出土 円板状木製品観察表	252	表61 第9地点における花粉百分率表	261
		表62 第9地点における 出現花粉個数表	262

図版目次

図版1 第9地点全景(1)	275	図版13 第9地点IV期の遺構(3) · V期の遺構(1)	287
図版2 第9地点全景(2)	276	図版14 第9地点V期の遺構(2)	288
図版3 第9地点断面	277	図版15 第9地点V期の遺構(3) · VI期の遺構	289
図版4 第9地点I期の遺構(1)	278	図版16 第9地点出土磁器(1)	290
図版5 第9地点I期の遺構(2)	279	図版17 第9地点出土磁器(2)	291
図版6 第9地点I期の遺構(3)	280	図版18 第9地点出土磁器(3)	292
図版7 第9地点II期の遺構 · III期の遺構(1)	281	図版19 第9地点出土磁器(4)	293
図版8 第9地点III期の遺構(2)	282	図版20 第9地点出土磁器(5)	294
図版9 第9地点III期の遺構(3)	283	図版21 第9地点出土磁器(6)	295
図版10 第9地点III期の遺構(4)	284	図版22 第9地点出土磁器(7)	296
図版11 第9地点IV期の遺構(1)	285	図版23 第9地点出土磁器(8)	297
図版12 第9地点IV期の遺構(2)	286		

図版24	第9地点出土磁器(9) ······	298	図版56	第9地点出土陶器(3) ······	330
図版25	第9地点出土磁器(10) ······	299	図版57	第9地点出土土器(1) ······	331
図版26	第9地点出土磁器(11) ······	300	図版58	第9地点出土土器(2) ······	332
図版27	第9地点出土磁器(12) ······	301	図版59	第9地点出土土器(3) ······	333
図版28	第9地点出土磁器(13) ······	302	図版60	第9地点出土土器(4) ······	334
図版29	第9地点出土磁器(14) ······	303	図版61	第9地点出土土器(5) ······	335
図版30	第9地点出土磁器(15) ······	304	図版62	第9地点出土土器(6) ······	336
図版31	第9地点出土磁器(16) ······	305	図版63	第9地点出土土器(7) ······	337
図版32	第9地点出土陶器(1) ······	306	図版64	第9地点出土上上器(8) ······	338
図版33	第9地点出土陶器(2) ······	307	図版65	第9地点出土上上器(9) ······	339
図版34	第9地点出土陶器(3) ······	308	図版66	第9地点出土上上製品 ······	
図版35	第9地点出土陶器(4) ······	309		人形(1) ······	340
図版36	第9地点出土陶器(5) ······	310	図版67	第9地点出土土製品 ······	
図版37	第9地点出土陶器(6) ······	311		人形(2) ······	341
図版38	第9地点出土陶器(7) ······	312	図版68	第9地点出土軒丸瓦類(1) ······	342
図版39	第9地点出土陶器(8) ······	313	図版69	第9地点出土軒丸瓦類(2) ······	
図版40	第9地点出土陶器(9) ······	314		軒平・軒棟瓦(1) ······	343
図版41	第9地点出土陶器(10) ······	315	図版70	第9地点出土軒平 ······	
図版42	第9地点出土陶器(11) ······	316		軒棟瓦(2) ······	344
図版43	第9地点出土陶器(12) ······	317	図版71	第9地点出土丸瓦(1) ······	345
図版44	第9地点出土陶器(13) ······	318	図版72	第9地点出土丸瓦(2) ······	
図版45	第9地点出土陶器(14) ······	319		平瓦(1) ······	346
図版46	第9地点出土陶器(15) ······	320	図版73	第9地点出土平瓦(2) ······	
図版47	第9地点出土陶器(16) ······	321		棟瓦(1) ······	347
図版48	第9地点出土陶器(17) ······	322	図版74	第9地点出土棟瓦(2) ······	
図版49	第9地点出土陶器(18) ······	323		板擗瓦(1) ······	348
図版50	第9地点出土陶器(19) ······	324	図版75	第9地点出土板擗瓦(2) ······	349
図版51	第9地点出土陶器(20) ······	325	図版76	第9地点出土板擗瓦(3) ······	
図版52	第9地点出土陶器(21) ······	326		T字瓦・輪違い・面戸瓦(1) ······	350
図版53	第9地点出土陶器(22) ······	327	図版77	第9地点出土面戸瓦(2) ······	
図版54	第9地点出土陶器(23) ······	328		冠瓦・棟瓦・その他の瓦(1) ······	351
図版55	第9地点出土陶器(24) ······	329	図版78	第9地点出土その他の瓦(2) ······	352

図版79 第9地点出土刻印瓦	353	図版100 第9地点出土	
図版80 第9地点出土櫛	354	その他の木製品(5)	374
図版81 第9地点出土下駄(1)	355	図版101 第9地点出土	
図版82 第9地点出土下駄(2)	356	その他の木製品(6)	375
図版83 第9地点出土下駄(3)	357	図版102 第9地点出土漆椀(1)	376
図版84 第9地点出土下駄(4)・ 膳類(1)	358	図版103 第9地点出土漆椀(2)	377
図版85 第9地点出土膳類(2)	359	図版104 第9地点出土漆椀(3)	378
図版86 第9地点出土箸状木製品	360	図版105 第9地点出土漆椀(4)	379
図版87 第9地点出土曲物・ 円板状木製品(1)	361	図版106 第9地点出土漆椀(5)・漆皿	380
図版88 第9地点出土円板状木製品(2)・ 栓	362	図版107 第9地点出土	
図版89 第9地点出土桶・樽類(1)	363	その他の漆塗製品(1)	381
図版90 第9地点出土桶・樽類(2)	364	図版108 第9地点出土	
図版91 第9地点出土桶・樽類(3)	365	その他の漆塗製品(2)	382
図版92 第9地点出土桶・樽類(4)	366	図版109 第9地点出土	
図版93 第9地点出土桶・樽類(5)	367	その他の漆塗製品(3)	383
図版94 第9地点出土桶・樽類(6)	368	図版110 第9地点出土	
図版95 第9地点出土桶・樽類(7)	369	その他の漆塗製品(4)	384
図版96 第9地点出土		図版111 第9地点出土古銭	385
その他の木製品(1)	370	図版112 第9地点出土煙管	386
図版97 第9地点出土		図版113 第9地点出土	
その他の木製品(2)	371	その他の金属製品(1)	387
図版98 第9地点出土		図版114 第9地点出土	
その他の木製品(3)	372	その他の金属製品(2)	388
図版99 第9地点出土		図版115 第9地点出土	
その他の木製品(4)	373	その他の金属製品(3)	389
		図版116 第9地点出土上石器・ 石製品(1)	390
		図版117 第9地点出土石製品(2)・ その他の遺物	391

第Ⅰ章 1990年度調査の概要

1. はじめに

東北大学には、川内・青葉山・片平・星陵・雨宮の各キャンパスに加えて、他に多くの研究施設があり、その敷地は10県にわたる広大なものとなっている。これらの各地区の構内には、多くの埋蔵文化財があり、特に川内地区は、近世の仙台城二の丸跡と武家屋敷跡にあたり、青葉山地区には旧石器時代から古代の遺跡が存在する（図1・2）。

これらの大学構内の埋蔵文化財の調査・保護を組織的に行うために、1983年度に東北大学埋蔵文化財調査委員会が組織され、その実務機関として埋蔵文化財調査室が置かれた。調査委員会および調査室は、1994年度に東北大学埋蔵文化財調査研究センターへと改組され、現在に至っている。1983年度以来、調査委員会・センターは、大学構内の埋蔵文化財調査を実施するとともに、調査成果を『東北大学埋蔵文化財調査年報』1～7において報告してきた。

1990年度においても、仙台城二の丸跡を中心に調査が行われ、新たな資料を提供することになった。本報告書は、これらの調査成果についてとりまとめたものである。

2. 埋蔵文化財調査の概要

1990年度は、川内地区において本調査1件、青葉山地区において試掘調査1件、富沢地区において立会調査1件の、計3件の調査を実施した（表1）。

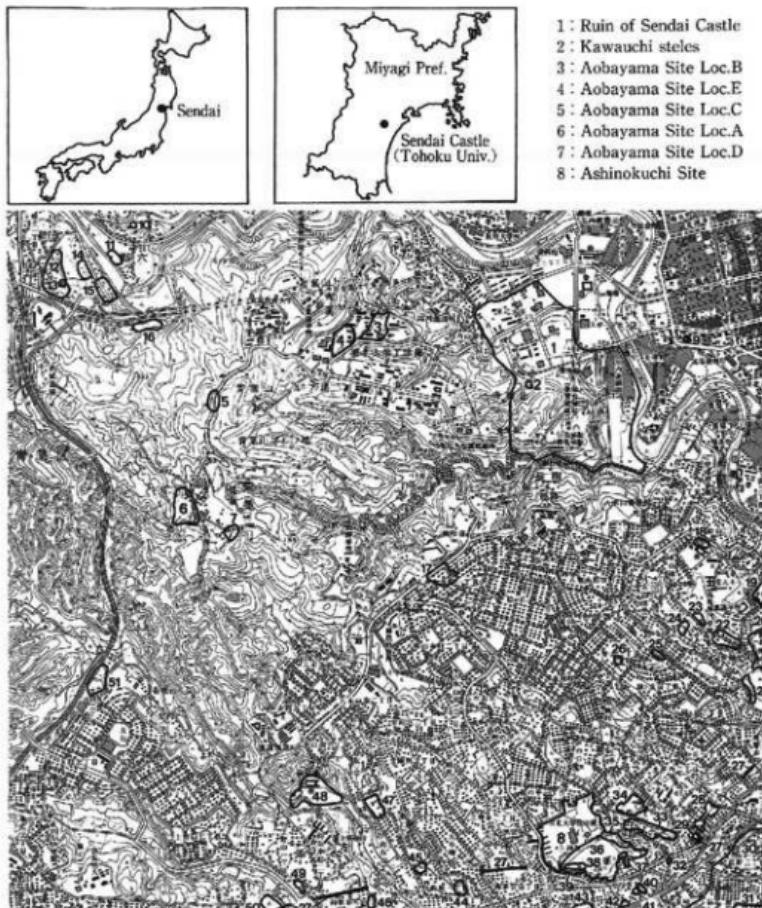
(1) 川内地区の調査

川内地区では、文・法学部研究棟新館に伴う本調査（仙台城二の丸跡第9地点、NM9）を実施した（図3）。前年度の試掘調査に続くもので、建物本体部分の調査を5月から11月にかけて行い、付帯施設（排水管設置）部分については、3月に調査を行っている。この地点は、二の丸の裏門である「台所門」の脇にあたる場所で、上層では台所門の脇の掘跡、その内側の池跡、ゴミ穴などが検出され、陶磁器を始め各種の遺物が大量に出土した。また、二の丸造営に伴うと考えられる大規模な整地層の下層からも、掘立柱建物跡や溝跡が検出され、江戸時代初頭の遺物も多く出土した。これらは、二の丸造営以前にこの場所に置かれていた、初代藩主伊達政宗の四男伊達宗泰の屋敷に関わるものと考えられる。本年報では、この第9地点の調査

表1 1990年度調査概要表

Tab. 1 Excavations on the campus in the fiscal year 1990

調査の種類	調査地点	原因	調査期間	面積	時期
本調査	仙台城二の丸跡第9地点(NM9)	文・法学部研究棟新館	5/10～11/29・3/14～3/27	473㎡	近世
試掘調査	T字部管理棟前地点	基礎整備	3/19～4/12	132㎡	—
立会調査	富沢地区野球場北側地点	フェンス取設	3/26～3/28	120㎡	—



- 1: 仙台城跡 2: 川内古碑群 3: 青葉山遺跡B地点 4: 青葉山遺跡E地点 5: 青葉山遺跡C地点
 6: 青葉山遺跡A地点 7: 青葉山遺跡D地点 8: 声の口遺跡 9: 片平仙台大神宮の板碑
 10: 郷六日如米の碑 11: 福岡城跡 12: 郷六城跡 13: 郷六建武碑 14: 沼田遺跡 15: 郷六御殿跡
 16: 郷六道跡 17: 松ヶ岡遺跡 18: 向山高麗道跡 19: 萩ヶ丘遺跡 20: 茂ヶ崎城跡
 21: 二ツ沢横穴墓群 22: 萩ヶ岡B遺跡 23: 八木山跡町遺跡 24: 二ツ沢遺跡 25: 青山二丁目遺跡
 26: 青山二丁目B遺跡 27: 杉土手(鹿除土手) 28: 砂押星敷遺跡 29: 砂押古墳 30: 富沢遺跡
 31: 泉崎浦遺跡 32: 金洗沢古墳 33: 土手内里跡 34: 土手内里遺跡 35: 土手内横穴墓群
 36: 三神峯遺跡 37: 金山窓跡 38: 三神峯古墳群 39: 富沢窓跡 40: 裏町東遺跡 41: 裏町古墳
 42: 原東道路 43: 原遺跡 44: 八幡遺跡 45: 後田遺跡 46: 町遺跡 47: 神流山遺跡
 48: 駒堂平遺跡 49: 上野山遺跡 50: 北前遺跡 51: 佐保山東遺跡

図1 東北大学と周辺の遺跡
Fig.1 Archaeological sites and Tohoku University

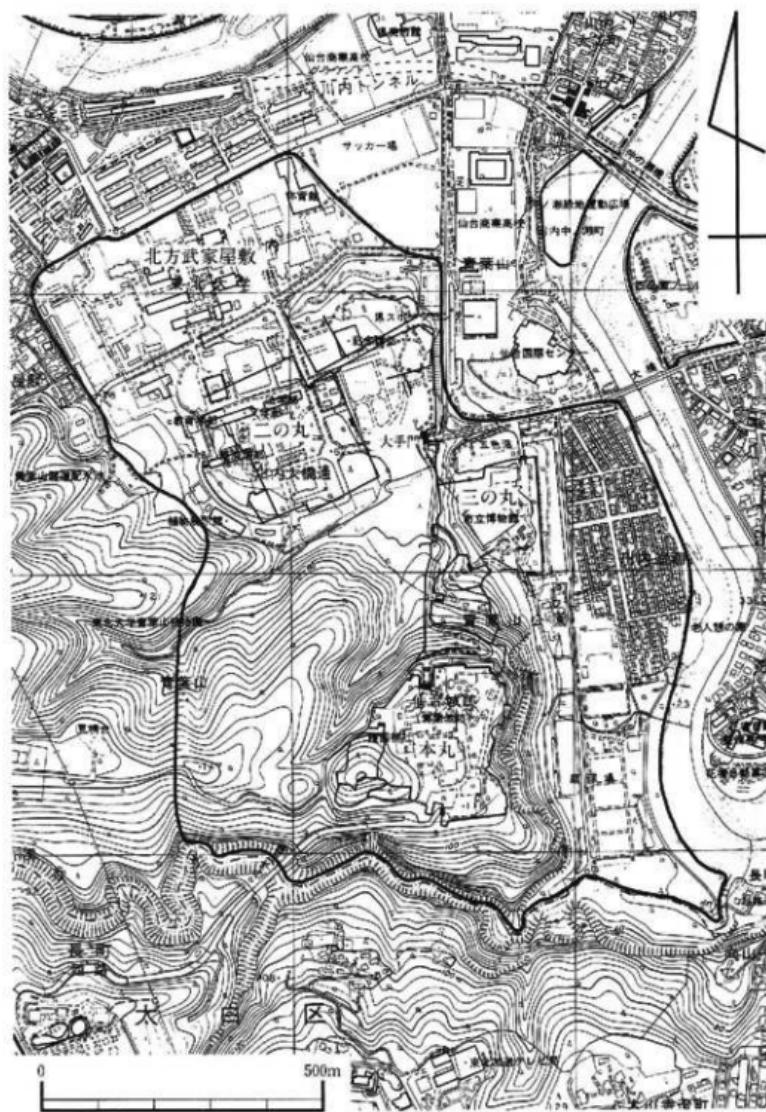


図2 仙台城と二の丸の位置
Fig.2 Distribution of Sendai Castle

について、これらをまとめて報告する。ただし今回の調査は、これまでに実施した調査の中では最も遺物量が多く、紙幅の関係もあり、本年報では事実報告を中心に報告する。遺構・遺物に関する詳細な検討は、1983年度以来実施してきた二の丸跡の調査成果全般を検討する形で、今後まとめて随時公表していく予定である。

(2) 青葉山地区の調査

青葉山地区では、工学部管理棟東側の環境整備に伴う試掘調査を実施した(図4)。この地点は、1989年度に一部の盛土を重機によって掘ったところ、旧石器時代に相当する火山灰層が良好に残存していることが明らかになったため、遺構・遺物の有無を確認するために、本年度に試掘調査を実施した(図5)。開発予定区域内に、調査区を11ヶ所設定し調査を行った。ほとんどの調査区において、大学造成時の盛土の下に、大きな溝や堅穴が多数発見されたが、これらは内部の埋土の状態から、かなり新しい時代のものと考えられ、戦前の陸軍演習場に関わる遺構と思われる。これらの陸軍演習場に関わる遺構によって破壊されている部分以外は、全体に旧石器時代の地層の保存状態は良好であった。代表的な地層断面を図5に示す。しかし、調査区内では、陸軍関係以外の遺構・遺物は発見されなかった。

(3) 富沢地区の調査

富沢地区では、理学部附属原子核理学研究施設の北側にある野球場のフェンス取設に伴って、立会調査を実施した。調査地点は、1976年度に東北大学文学部考古学研究室が調査を実施し、平安時代の堅穴遺構などが検出された芦の口遺跡に隣接する場所であり、遺跡の範囲がこの地点まで延びることも予想されたが、野球場造成時に、厚い盛土がなされていると考えられたため立会調査としたものである。調査の結果、遺構・遺物は発見されなかった。

3. そのほかの調査室の活動

1990年度は、二の丸跡第9地点の調査において重要な成果が得られたため、調査成果の公開・活用も、この第9地点の成果に関するものが中心となった。第9地点の調査中の11月10日に現地説明会を開催し、200名近い参加者があった。学内への広報活動としては、二の丸跡第9地点の調査中に、「仙台城二の丸第9地点の発掘調査」を『東北大学学報』第1275号に寄稿し、調査の途中経過を公表した。さらに調査終了後の速報として「仙台城二の丸第9地点の調査終了」を『東北大学学報』第1289号に寄稿した。学会での発表としては、12月9日に開催された宮城県遺跡調査成果発表会で、第9地点の調査成果について発表した。また『考古学ジャーナル』332に、調査成果の速報として「仙台城二の丸跡第9地点の調査」を投稿した。

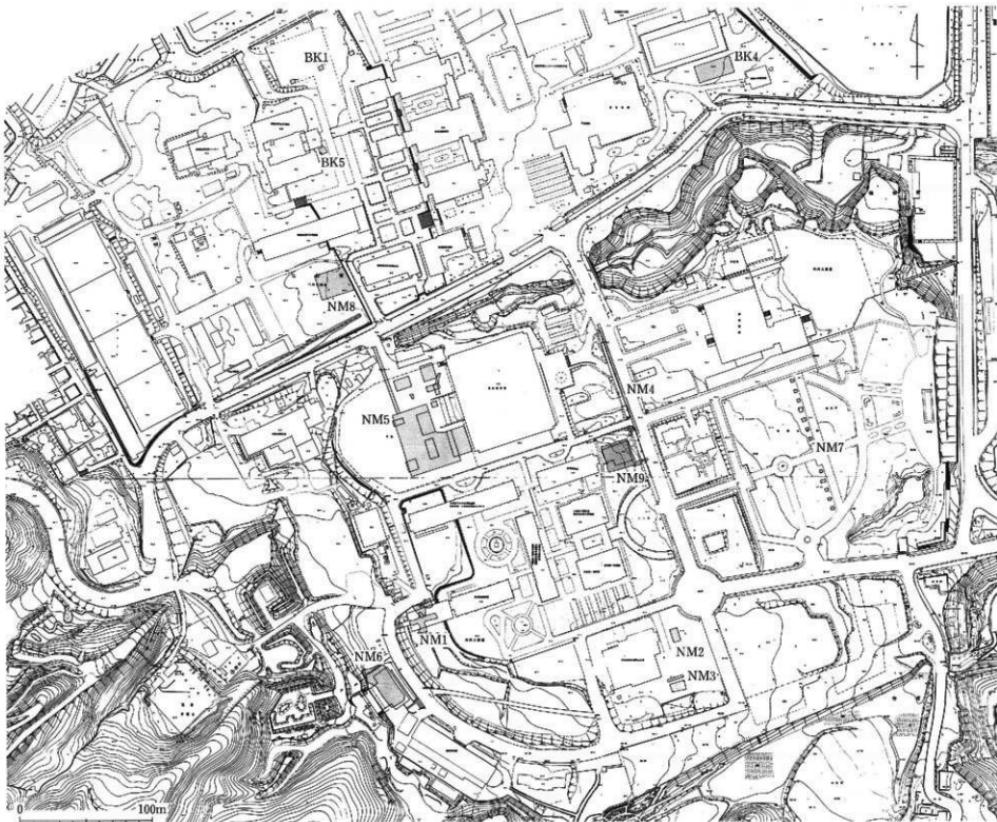
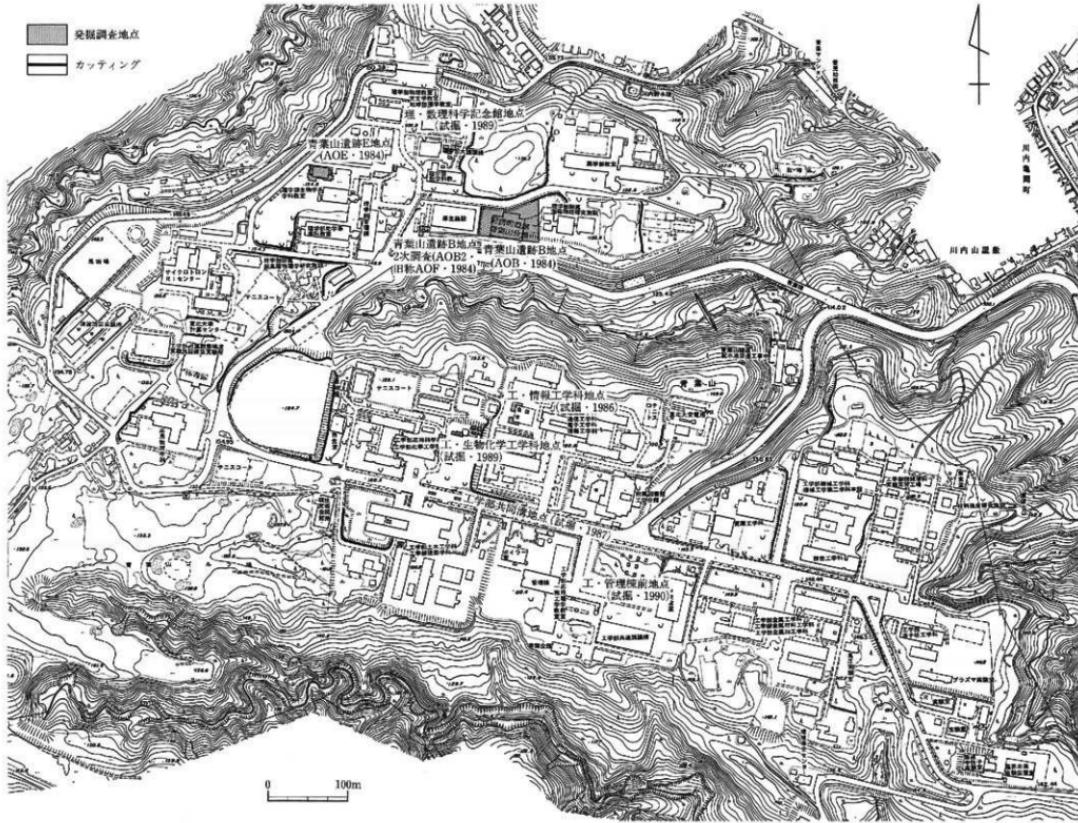
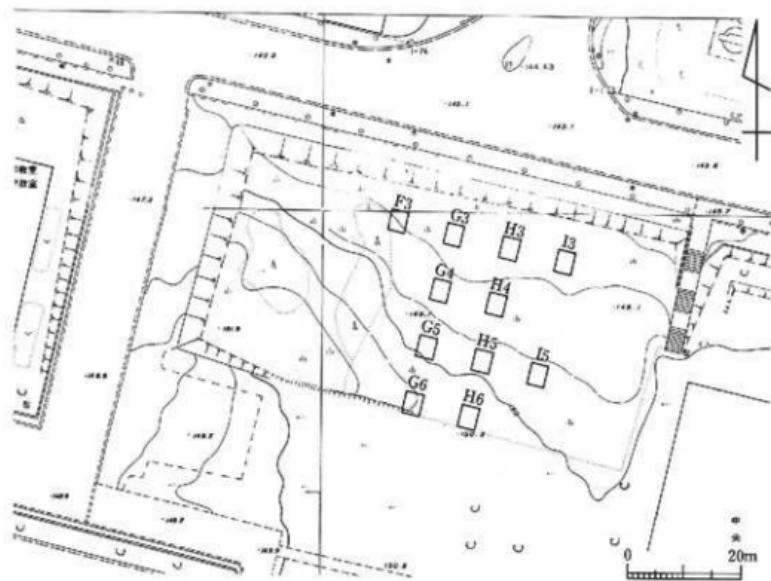


図3 仙台城二の丸跡・武家屋敷跡調査地点
Fig.3 Location of excavations until 1990 at *Ninomaru*(NM i.e. Secondary Citadel)
and *samurai residence*(BK)





F3区西壁

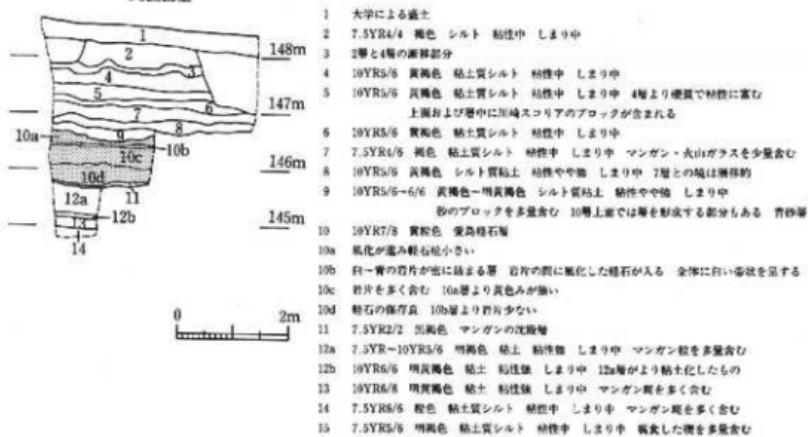


図5 工学部管理棟前地点平面図・断面図

Fig.5 Plan and cross section of test trenches at the campus of faculty of engineering

第Ⅱ章 仙台城二の丸跡第9地点 (NM9) の調査

1. 調査経緯

(1) 川内地区の立地と歴史

東北大大学の附属図書館、および文系4学部、記念講堂、国際文化研究科などが置かれている現在の川内地区は、江戸時代の仙台城二の丸跡、周辺の武家屋敷跡などに相当する。

仙台城は、仙台市街地の西方、広瀬川を渡った、通称青葉山の東端に位置している（図1）。本丸は、三方（北・東・南）を広瀬川と竜の口渓谷に囲まれた海拔115～140mの急崖上に立地しており、また北側の二の丸、北東の三の丸も、それぞれ海拔61～78m、40mの階段状の河岸段丘面上にある（奥津春生1967）。この中で東北大大学構内の二の丸は、東方を蛇行する広瀬川に向かって緩やかに傾斜する上町段丘上（武藏野面相当）に位置する（図2）。

仙台城は、慶長5年（1600年）伊達政宗によって本丸の築城が開始される。川内地区には、伊達政宗の四男伊達宗泰（岩出山領主）の屋敷が置かれていたことが、『東奥老士夜話』の記載から知られている。しかし、伊達宗泰の屋敷については、これ以外の文献記録が無く、何時造営され、どのように使われたかは不明である。宗泰の屋敷を描いた絵図もなく、敷地の大き

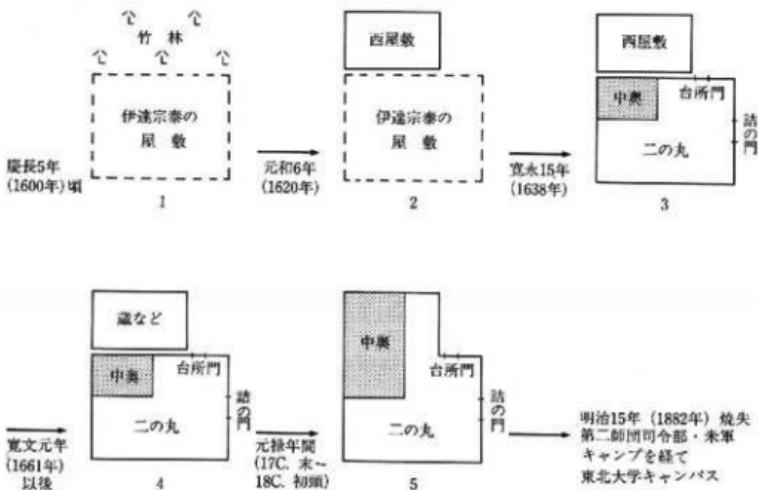


図6 二の丸地区的変遷模式図
Fig.6 Schematic illustrations about transition of *Ninomaru*

さも不明である。この宗泰の屋敷の北側は、竹林であったことが、同じく『東奥老士夜話』に記されている（図6-1）。元和6年（1620年）には、徳川家康の七男松平忠輝に嫁いでいた政宗の長女五郎八姫が、忠輝が改易処分となったことに伴い退居することとなったため、五郎八姫の居館である西屋敷が造営される（図6-2）。寛永15年（1638年）、二代藩主伊達忠宗は、もとの伊達宗泰の屋敷地において二の丸の造営を始める。幕藩体制の安定とともに本丸の山城的な立地は不便となつたことが、二の丸造営の理由と考えられている。二の丸の北隣には、五郎八姫の西屋敷が存続している（図6-3）。

二の丸が完成して後、仙台藩の政治・諸儀式の中心はここに移され、二代藩主以降はその居館ともなる。寛文元年（1661年）には五郎八姫が死去し、西屋敷のあった場所は「天麟院様光御屋敷」と呼ばれ、蔵や作業場、下級藩士の居所など、実務的な空間となる（図6-4）。さらに元禄年間には、四代藩主綱村によって二の丸は大改造され、もとの西屋敷の敷地を取り込んで拡大される（図6-5）。その後いくたびかの災害や火災を被るが、その度に再建され、二の丸は幕末まで、事実上仙台城の中核として機能していく（仙台市教育委員会1967）。

版籍奉還の明治2年（1869年）には、二の丸に勤政庁が置かれ、明治4年（1871年）の廢藩置県後は、仙台城が明治政府・兵部省の管轄下に移るとともに東北鎮台（後に仙台鎮台と改む）が置かれる。この頃に本丸の建物群は取り壊されるが、二の丸建物群は依然として残っている。しかし、この二の丸建物群も、明治15年（1882年）の火災によって、ほとんどが焼失してしまう。その後、当地には陸軍第一師団が置かれ、敗戦まで続くこととなる。敗戦間近の昭和20年（1945年）7月、仙台空襲の際に、大手門などわずかに残った建物も焼失し、仙台城の建物は全て失われてしまう。戦後は米軍の駐留地となり、昭和32年（1957年）、米軍より返還されてのち東北大学がこの川内地区に移転し、現在に至るのである。

（2）1989年度までの調査

仙台城二の丸・武家屋敷跡である川内地区の発掘調査は、仙台市教育委員会、東北大学考古学研究室によって小規模な調査が行われたことがあるが、組織的・継続的に行われるのは、東北大学に埋蔵文化財調査委員会が置かれた1983年度以降のことである。委員会による川内地区的発掘調査は、これまでに8地点を数える。この中で特に第2地点では、二の丸の中心である小広間付近の建物と推定される礎石建物跡が発見されている。第3地点では小広間の南西の元御書院の周辺の建物が検出されている。第4地点・第6地点では、それぞれ二の丸の北東・西の外郭付近の遺構が発見されている。第7地点では二の丸東方の蔵にかかる遺構が発見されており、第8地点では二の丸北側の堀（池）が発見されている。また、第4地点の調査では、二の丸造成時の大規模な整地層の下層から、伊達宗泰の屋敷に関連すると考えられる遺構も検

出されている。第5地点では、元禄年間の拡張後の中奥の、北側の門とその周辺の遺構が発見され、元禄年間の整地層の下層からは、五郎八姫の西屋敷の遺構も検出されている（年報1、3、4・5、6、7）。

（3）調査地点の位置

第9地点は、法医学棟の東側にあたり、綠地として利用されていた場所である。これまでの調査結果をもとにした絵図との対比では、二の丸の裏門である「台所門」が今回の調査区の東隅付近にあたると考えられる。「台所門」の位置は、二の丸造営以降、元禄年間の大改造を経ても、その位置は大きく変わらなかったことが絵図からうかがえる。そのため今回の調査区は、二の丸造営以降、一貫して「台所門」の脇からその周辺にあたる区域と考えられる。

1987年度に実施した第4地点の調査では、その調査区の南端で、大規模な整地層の下層から、溝状の遺構が検出されている（年報5）。この整地層が二の丸造営時の整地層に相当すると考えられ、その下層の溝状の遺構が、伊達宗泰の屋敷とその北側の五郎八姫の西屋敷を区画する施設と考えられる。今回の調査区は、この区画施設の南端付近と、それからさらに南側の伊達宗泰の屋敷に入った部分に相当する。

（4）調査方法と経過

本調査に先立って、1989年度に約1ヶ月間の試掘調査を行った。1988年度に本調査を実施した図書館造営に伴う第5地点の調査において、試掘調査段階での計画が、本調査を開始すると大幅な変更を余儀なくされたことの反省に立ち、今回の試掘調査では、建築計画区域の全域を対象として、精査が必要な遺構面の数、遺構の残存状況、遺物の残存状況を把握し、本調査の計画を詳細にたてるすることを目的とした。当初は、予定区域のはば全域の約500m²を対象としたが、予定地内の歩道・立木・埋設管などの支障物の移設が完了していないことや、耕土置場の確保が難しかったため、予定の約半分の260m²を対象に試掘調査を行った。

調査に際しては、建物予定区域に沿って基準線を設定し、4mのグリッドを組んだ。以後、翌年の本調査に至るまで、すべてこのグリッドに基づいて調査を行っている。グリッド設定の際の基準点の国土座標値は下記のとおりで、基準線は北から17°22'56"西偏している（図7）。

原点NM 9—① X = -193 665.500 原点NM 9—② X = -193 663.119
Y = 1 991.380 Y = 1 998.986

まず、重機によって大学・米軍による盛土を排除し、明治時代の第二衛團期の遺構面を露出させた。一部区域については、節面を掘り下げ、二の丸期の遺構面を精査し、遺構の分布状況を確認した。また、搅乱を利用して深掘りを行い下層の状況も確認した。その結果、後世の

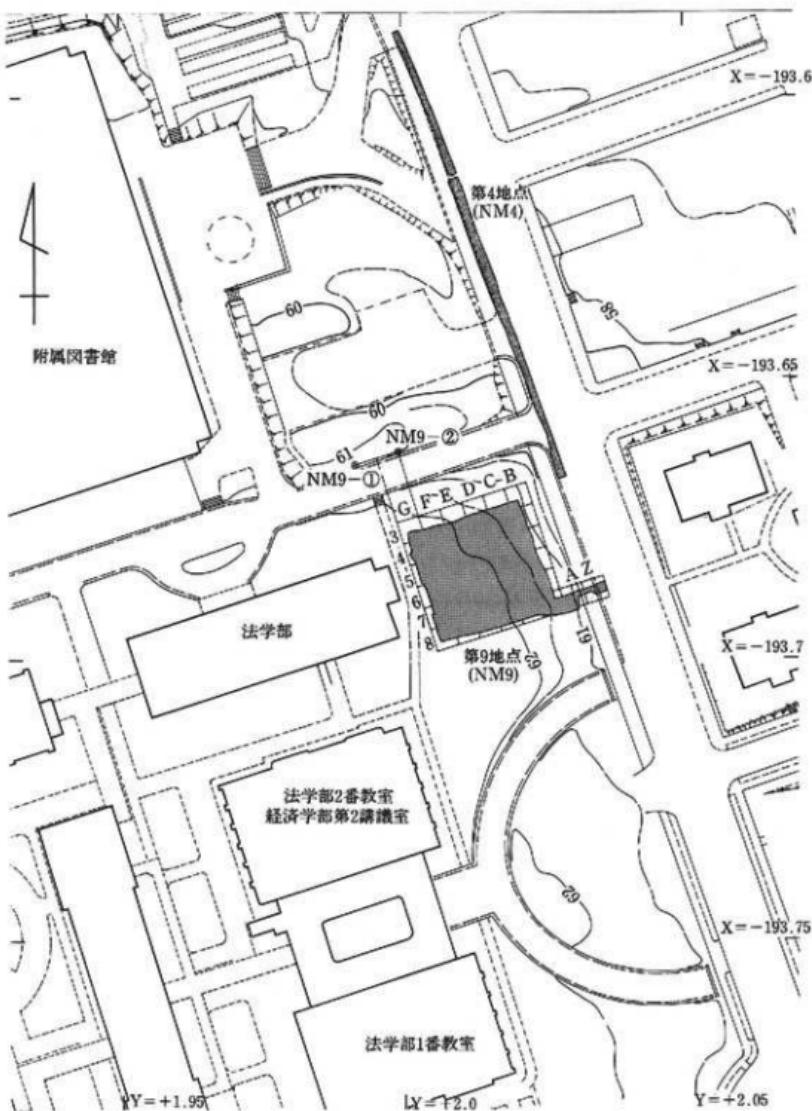


図7 二の丸跡第9次調査地点調査区の位置

Fig.7 Location of NM9 i.e. Location 9 of Ninomaru (Secondary Citadel)

擾乱はあるものの、全体として江戸時代の遺構面の保存は良好であること、江戸時代の遺構面は少なくとも3時期、部分的には4時期確認されること、二の丸造営に伴う大規模な整地層の下層にも遺構面が存在し、二の丸造営以前に置かれていた伊達宗泰の屋敷に関わる遺構と考えられること、下層遺構では木製品・漆塗製品や動物遺存体などの有機質遺物が良好に遺存していることが明らかとなった。以上の試掘結果を踏まえて本調査計画をたて、本調査は翌年の1990年度に実施することとなった。

本調査の内、建物本体部分の調査は、6ヶ月間の予定で1990年の5月から開始した。5月10日から16日の間で重機によって盛土を排除し、16日から作業員を投入して精査を開始した。5列と6列の境付近に米軍時代の共同溝による擾乱が東西に存在したため、これより北側の3～5列を北区、南側の6～9区を南区として調査を進めた。北区は9月3日までに上層遺構の調査が終了し、引き続いて下層遺構の調査に移行した。南区は10月1日までに上層遺構の調査が終了し、こちらも引き続いて下層遺構の調査に移った。上層遺構と下層遺構の間の整地層は、二の丸造営に伴うものと考えられ、厚いところでは1.5mにもおよぶため、この整地層の除去にも重機を使用した。天候にも恵まれて調査はほぼ予定通り進行し、11月29日には、精査を終了した。下層遺構は、建物の基礎の杭によって破壊される部分以外は、基礎の掘削深度より深くなり破壊されないため、全体に山砂を30cmの厚さで敷いた後、重機によって埋め戻して、12月6日にはすべての作業を終了した。

付帯施設については、排水管(污水管・雨水管)部分が遺構面まで達する深さであったため、この部分について、1991年の3月14日から27日までの期間で本調査を行った。管の埋設のため破壊される深さまで調査を行い、それより深い部分については調査は行っていない。

整理作業は、翌1991年度から5ヶ年の計画で開始した。しかし、それ以前の調査に関わる作業が多く残っており、そちらを優先せざるを得なかったことなどから、1993年度までは、水洗・注記、一部の接合などの基礎的な作業を終えたに留まり、本格的な整理作業は、1994年度からであった。整理作業の際、他の業務や作業工程との関係から、層序や遺構の整理を進める時間が確保できず、報告資料の抽出・登録や実測作業を先行させざるを得なかった。そのため、これらの作業は現場での層名・遺構名称に従って行った。その後の層序と遺構の整理によって、層名・遺構名称の変更が大幅に必要となったため、遺物の登録番号が、遺構や層ごとに並ばず、かなり前後する部分が出てしまう結果となっており、大きな反省点である。

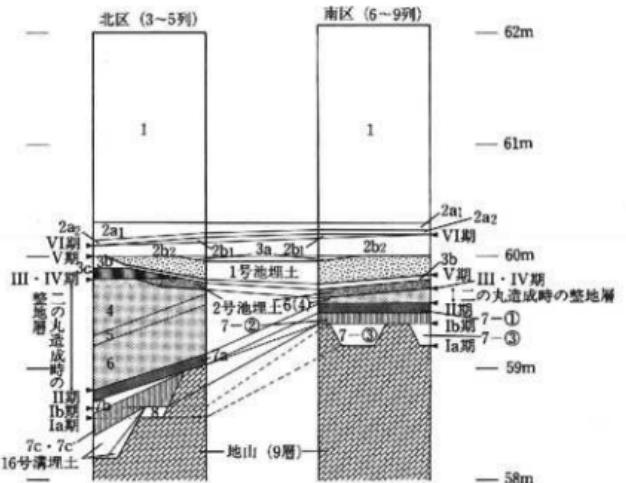
2. 層序と時期区分

調査区は、東西方向の米軍共同溝によって、3列から5列の北区と、6列から9列の南区に分断されている。調査時には、層の様相が異なることもあり、北区と南区とで別個に層名を付けている。地山の標高から、付近の旧地形は、調査区の南西部で最も高く、そこから北および東に向かって緩やかに傾斜している。したがって初期の造成では、この傾斜を平らにならす目的で、北東部に厚く南西部に薄い盛土を行っている。検出遺構は、調査区全域に及ぶ大規模な整地層をはさんで、上層遺構群と、下層遺構群とに大きく分けることができる。図8に、基本層序と遺構の検出面との対応関係を模式的に示した。

下層の遺構群は、大別2時期、細別3時期に細分できる。最も古いIa期の遺構は、地山（9層）上面で検出されている。この段階では、盛土を用いた整地は行われておらず、緩やかな傾斜面は、階段状に削り出されている。次に階段状の段差に部分的な盛土（8層）を行い、その上にIb期の建物が作られる。斜面の上方にあたる南区には、8層は存在せず、I期の遺構は全て地山面で検出している。北区では、Ib期の大溝（16号溝）がある程度埋没した段階で、残っていた産地に盛土（7c・7c'層）が行われる。さらに、I期の遺構は、調査区の全面にわたる整地層（北区の7a層、南区の7-①層）によって覆われている。II期の遺構は、この整地層の上面で検出された。7d・7c・7b・7a層には、動物遺存体が含まれており、哺乳類ではイス・シカ、魚類ではスズキ・マグロ類・タイ科、貝類ではアカニシが多い。

上層の遺構群のうち、III期からV期が二の丸に相当すると考えられる。北区の4・5・6層と、それらに対応する南区の6（4）層が、寛永15年（1638年）に始まる二の丸造営に伴う整地層と考えられる。これらの整地層による造成の結果、二の丸期（III・IV・V期）の遺構は、ほぼ平坦な面に構築されている。III期と、続くIV期の遺構は、北区の4層、南区の6（4）層上面で検出されている。III期とIV期の分別に関しては、個々の遺構の切り合い関係や出土遺物の年代を基準に、遺構の種類を参考にして行った。III期とIV期の年代の境は、17世紀末から18世紀初頭にあたると考えられ、元禄年間に行われた二の丸改造に関連する可能性が高い。III・IV期の遺構は、3c・3b層によって埋められており、その上面でV期の遺構が検出されている。IV期とV期の境は、遺物の年代から、19世紀初頭と考えられる。3c・3b層は多量の炭化物を含み、3c層には瓦片も多いことから、これらの層は、落雷により二の丸殿舎を全焼した、文化元年（1804年）の大火災の後かたづけに關連して形成された可能性がある。V期の遺構を覆っている3a層は炭化物を多く含み、場所によって焼土や多量の瓦が見られることから、明治15年（1882年）の大火に伴い形成されたと考えられる。3a層から出土した、溶融板ガラスや明治9年鋳造の1銭銅貨は、上記の推測と合致する。

V期の遺構は、主として、明治21年（1888年）以降の陸軍第二師団に関連する遺構である。



-北区・南区共通-

1層 米軍・大学による盛土
2 a 1層 10YR 4/3に近い黄褐色・10YR 4/4褐色砂質シルト。纏り草の根を多く含む整地層。レンガやコンクリートなど舗装部材が含まれる。

2 a 2層 10YR 3/2 黒褐色砂質シルト。黒褐色シルトブロック・小礫・炭化物が多く含む細粒初期の整地層。レンガ・瓦片が含まれる。
2 b 1層 10YR 3/3 黒褐色砂質シルト。

2 b 2層 10YR 5/6 黒褐色砂質シルト。纏り草の根を含む細粒初期の整地層。

3 a 層 10YR 4/2 黒褐色砂質シルト・10YR 3/2 黑褐色砂質シルト。炭化物を多く含み、場所によって黄土や多量の瓦が見られる事から、明治15年の大火に伴い形成された可能性が高い。

3 b 層 2.5YR 4/2 黑褐色砂質シルト。斑状に焼成土にグライ化。炭化物・小礫を多く含む。

3 c 層 10YR 5/3に近い黄褐色砂質シルト・10YR 4/2 黑褐色砂質シルト。比較的均質な整地層。炭化物・小礫・瓦片が含まれる。

3' c' 層 10YR 3/3 黑褐色砂質シルト。小礫・炭化物を含む。部分的に分布する。

9層 10YR 5/4に近い黄褐色シルト。地山。

-北区-

4層 10YR 5/6 黑褐色砂質。部分的にない黄褐色粘土ブロックを含む整地層。

5層 7.5YR 3/3 黑褐色砂質シルト。比較的均質な整地層。炭化物を少量含む。

6層 10YR 5/6 黑褐色砂質。整地層。下部に鉛分の沈殿がみられる。

7 a 層 7.5YR 2/2 黑褐色シルト・7.5YR 3/1 黑褐色シルト。炭化物が多く含み、植物の根の一筋が保存している。

7 b 層 7.5YR 2/1 黑褐色砂質シルト。炭化物・植物遺存体を多く含む。自然堆積か。

7 c 層 7.5YR 3/2 黑褐色シルト。小礫を少量含む整地層。

7 d 層 7.5YR 3/1 黑褐色砂質シルト。炭化物・砂礫を含む。自然堆積か。

8層 2.5GY 4/1 黃褐色砂質シルト・7.5GY 5/1 灰褐色砂質シルト。炭化物・砂礫を含む不均質な層。最古段階の整地層。

-南区-

6(0)層 北区の4層・5層・6層に対比される整地層。

7-①層 10YR 4/2 黑褐色砂質シルト。炭化物を少量含む整地層で、北区の7 a 層に対比される。

7-②層 2.5YR 5/4 黄褐色シルト。均質な整地層で、北区では7 c' 層に対比される。

7-③層 10YR 3/4 黑褐色シルト。炭化物・黄褐色砂質シルトブロックを含む整地層。北区の5層に対比される。

7-④層 10YR 4/3に近い黄褐色シルト。均質で、地山(9層)の一部がグライ化した可能性もある。

図8 第9地点基本層序模式図

Fig.8 Schematic profiles of NM9

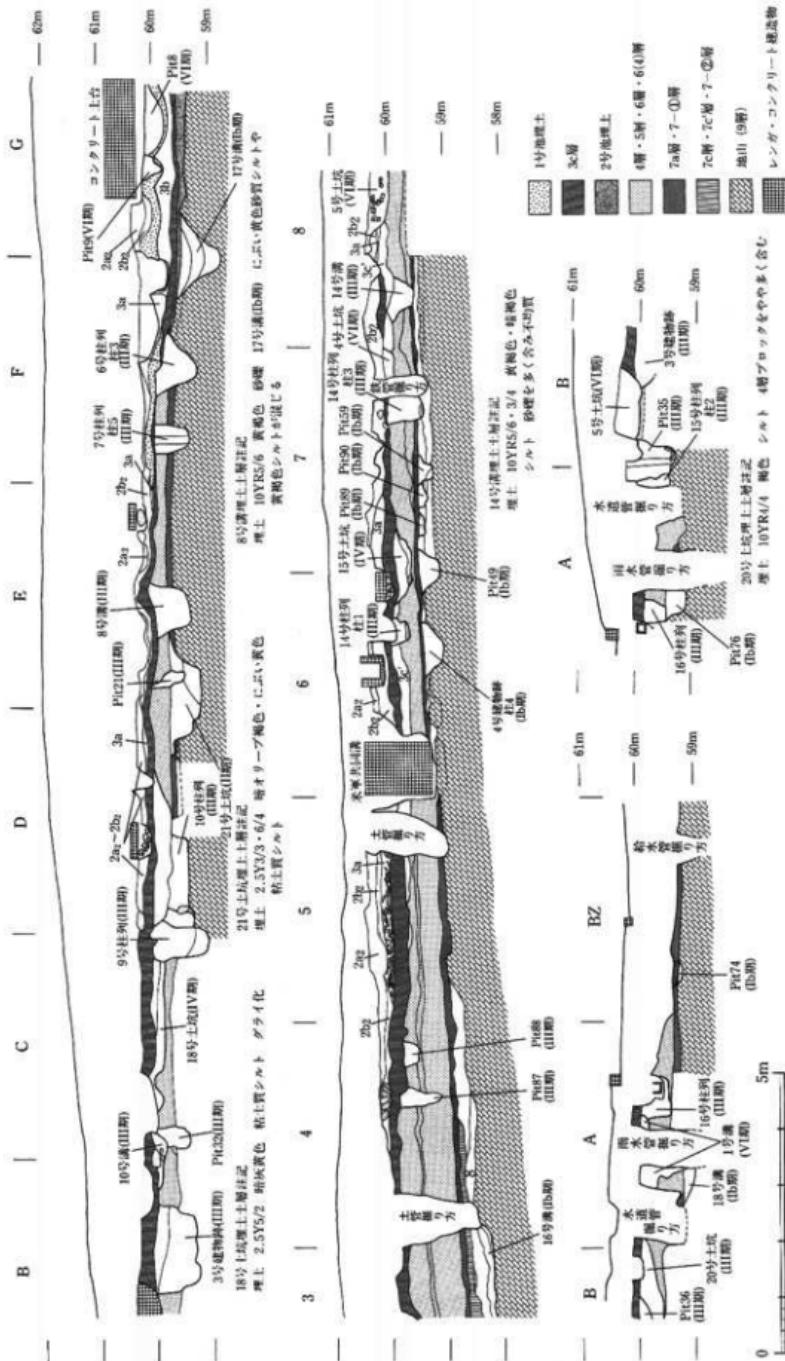


図9 第9地点調査区外周壁断面図(1)

Fig.9 Cross sections of excavation at NM9(1)

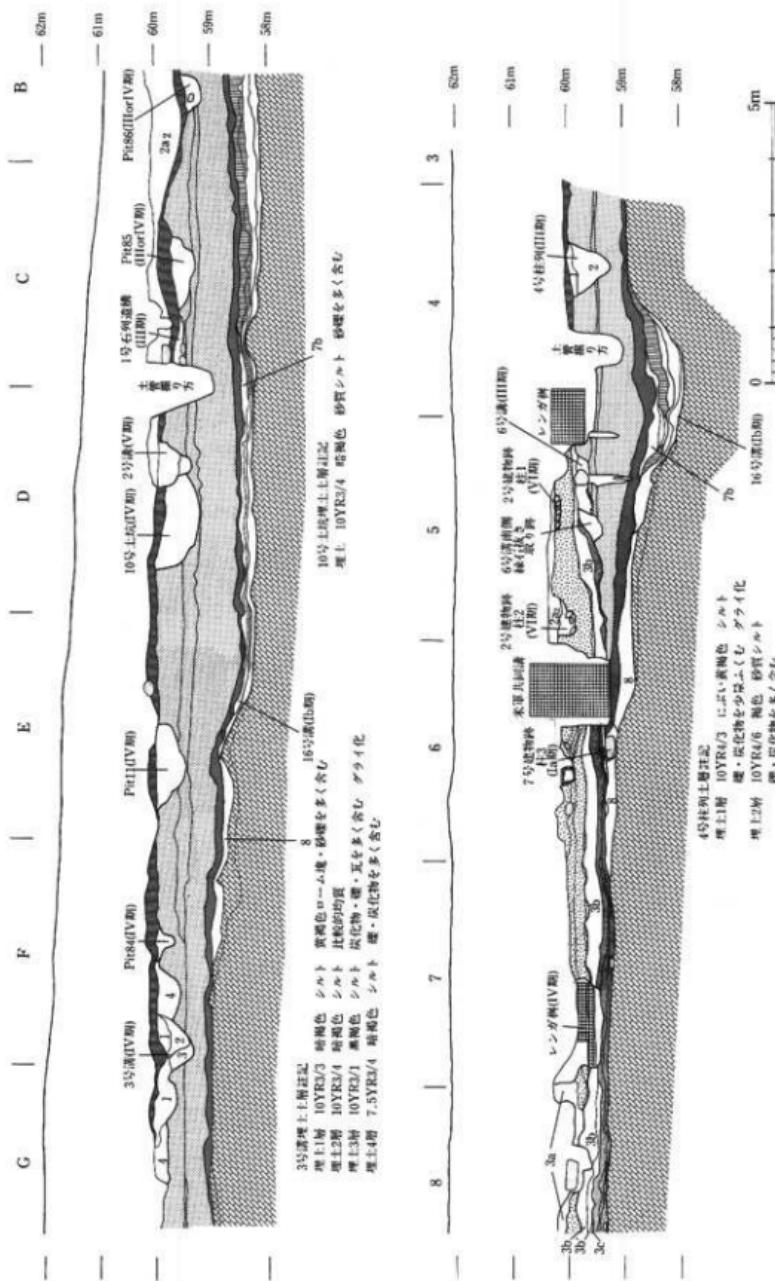


図10 第9地点調査区外周壁断面図(2)
Fig.10 Cross sections of excavation at NM9(2)

3. 検出遺構

(1) I期の遺構

寛永15年に始まる二の丸造営以前に存在した屋敷跡で、Ia期とIb期に細分される。「東奥老士夜話」には、堀江傳七という老人からの伝聞という形で、二の丸が造営される以前に、伊達三河守宗泰の屋敷が存在していたことが記載されている。本期の遺構が、宗泰の屋敷の一部に相当する可能性がある。先述のように、Ia期とIb期とを分ける最古段階の整地層（8層）は、調査区の北側にのみ分布している。整地層と南区検出の遺構との上下関係は、部分的にしか捉えられていないが、遺構の切り合い関係などから、2時期に細分した。なお、そのうえでどちらに属するか判らない遺構に関しては、Ib期に含めた。

① Ia期の遺構

6列から北側は、一辺が4~5m程度の方形の落ちが連続し、北に向かって階段状の段差が造り出されている。調査区の北端部分の様相は、Ib期の16号溝によって破壊されているため不明である。調査区の中央やや北寄りの位置で、7号建物跡が検出されている。連続する方形の落ちの性格は判然としないが、各々の段差の規模は10~20cm程度であり、それぞれの区画では平坦面を確保しようとの意図が窺えることから、整地に関連する事業と理解した。

【7号建物跡】(図10・11、図版4・6)

調査区の中央やや北よりの位置で検出された、E-29°-N方向の、東西に長い掘立柱建物跡である。柱穴の確認面は地山上面である。雨落溝と考えられる19号溝との位置関係から、柱穴5と柱穴9を結ぶ柱筋が、本建物跡の南辺と想定できる。この柱筋の西側延長線上には、2箇所に礎石が認められ、柱間も合致することから、柱穴は認められないが、それらを柱3、柱4とした。基本的には掘立柱建物であるが、地盤が弱く、柱が沈下する恐れのある箇所については、柱穴の中に石を据えている可能性が高い。北側はIb期の16号溝によって大きく破壊されているが、柱1と柱2がかろうじて確認できた。柱2と柱10との間隔は約180cmであり、桁間90cmの丁度2倍となることから、本来、柱2と柱10との間にもう一つ柱穴が存在していた可能性もある。柱穴は、直径約30cmの円形で、断面には柱の痕跡が確認できる。

【19号溝】(図11)

AE~G-6区において、一部を検出したに過ぎない。7号建物跡の南側に沿って、東西南向に延びる素掘りの溝である。調査時に、先述の方形の落ちを先行して掘り下げてしまっている部分があり、その部分では溝の輪郭が捉えられていない。また、溝の東端についても、1号池や米軍共同溝による破壊のため、不明である。上幅約1m、下幅約0.5m、検出面からの深さ約0.4mの溝である。溝の方向は7号建物跡の南辺に平行しており、位置的にも7号建物南側の雨落溝であった可能性が高い。埋土は上下2層に分かれる。埋土の堆積状況から、自然

に埋まつた可能性が高いと判断される。

【20号溝】(図11、図版5)

A D・A C—7区で検出された、南北方向の溝である。I b期の5号建物跡柱3に切られている。溝の南端は捉えられたが、北端に関しては、V期の1号池による破壊のため不明である。上幅約1.1m、検出面からの深さ約0.5mの、断面がV字に近い形態の溝である。埋土は4層に分かれる。最上層には地山の土がブロック状に多く含まれることから、ある程度自然に埋まつた後、最終的には人為的に埋め戻されていると考えられる。確認できた部分が限られているため、正確な方向を求ることはできないが、7号建物跡の梁の方向に平行すると思われる。

【21号溝】(図11、図版5)

A C—6区で検出された、南北方向の溝である。この部分には8層が存在しないため、所属の時期を決めるることは困難であるが、I b期の5号建物跡柱1に切られていることから、--応、本期に含めた。溝の幅は約0.2m、検出面からの深さは5cm程度である。

【22号土坑】(図11)

A C・A B—5区で検出された。平面形は、長辺約1.8m、短辺約1.2mの隅丸長方形を呈する。平面の形態から土坑としたが、壁の立ち上がりは緩やかで、浅い窪みに近い。

② I b期の遺構

調査区の北側で大溝が、南側では複数の掘立柱建物跡が重複して検出された。調査区の南側には、8層が分布していないため、所属時期をI a期とI b期のどちらにすべきか判断できない遺構も存在しているが、その場合には本期に含めた。また、南側には建物跡や柱列として列びが捉えられなかったピットが比較的多く存在している。それらのなかで、A E—7区ピット56の埋土からは、志野の南蛮人形(図85、図版66)の胴体が出土し、これはAD—8区8層出土の頭部と接合した。16号溝などから古銭が出土しているが、銭名の判明するものは全て渡来銭であり、寛永通宝は一点も含まれていない。また、本期の遺構を覆っている、7層から出土した古銭も全て渡来銭である。このことからも、本期の下限の年代は、寛永通宝の公式な鋳造が開始された、寛永13年(1636年)を遡る可能性が高いことが裏付けられる。

【4号建物跡】(図9・12)

調査区南側の6～8列で検出された掘立柱建物跡である。南北4間分、東西6間分が確認できた。東側では、調査区外に広がりを持つ可能性もある。方向は、E—28°—Nで、桁間約180cm、梁間約240cmである。柱1と柱3を結ぶ北辺の柱列は、柱4と柱9を結ぶ柱筋からの距離が約120cmと短く、柱穴の深さも他の柱穴より比較的浅いことから、底または縁に相当すると考えられる。南側は地山面から柱穴が掘り込まれているのに対して、北側ではI a期に存在していた階段状の段差を埋めている8層を切って柱穴が掘られている。柱穴どうしの切り合

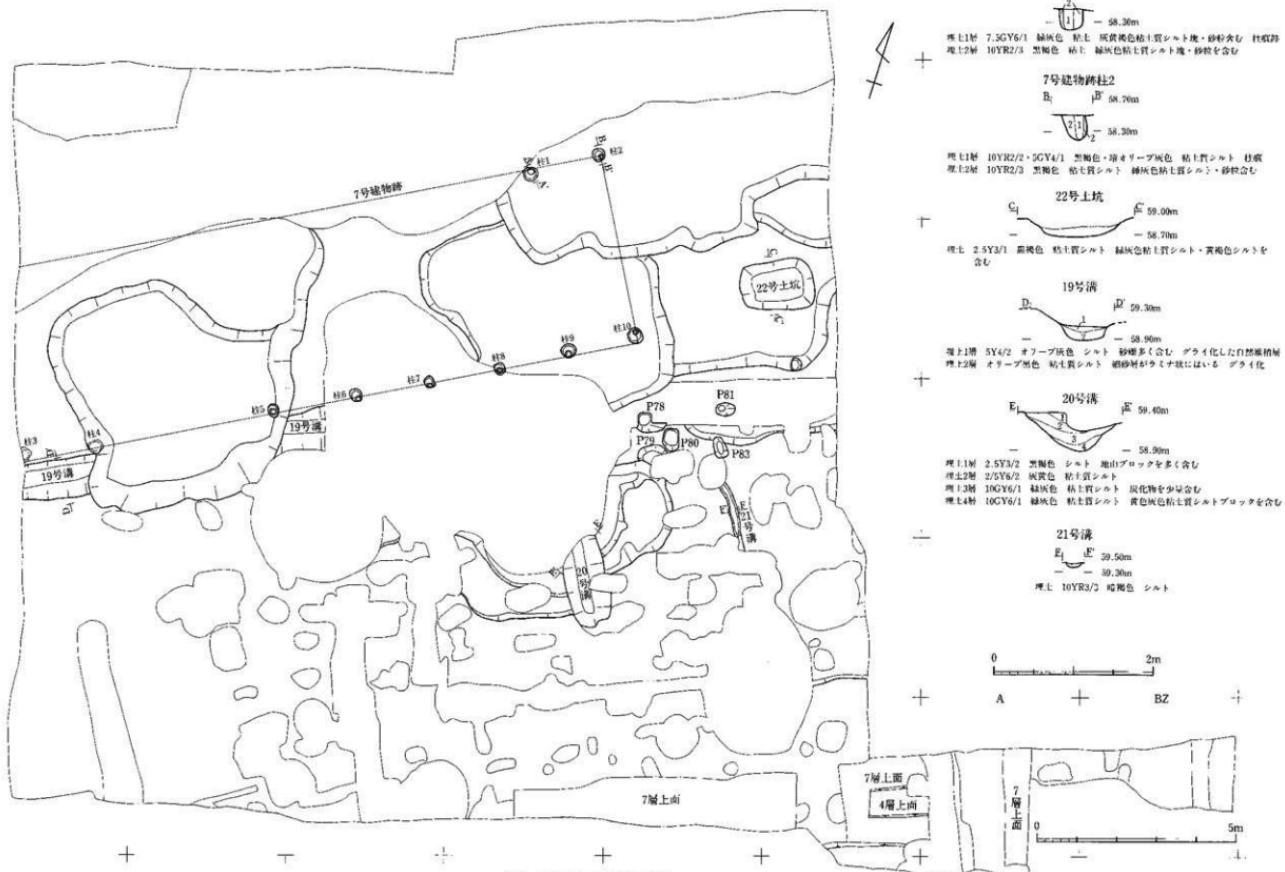


図11 第9地点1期検出遺構
Fig.11 Features of phase 1a at NM9

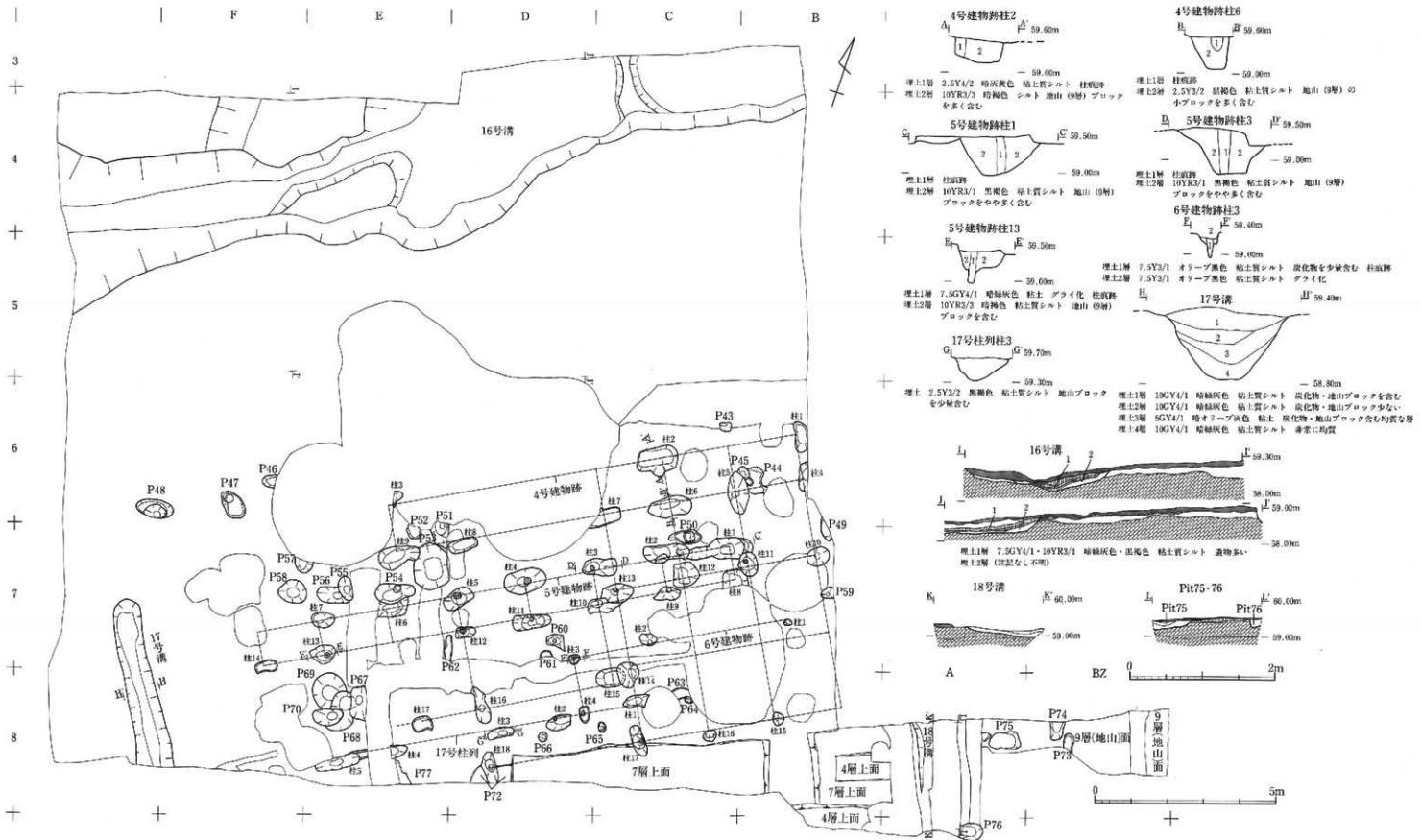


圖12 第9地點 1b 期檢出遺構
Fig.12 Features of phase 1 b at NM9

い関係から、ほぼ同じ位置で確認された5号建物跡よりも新しいことが判る。

【5号建物跡】(図12)

調査区南側の7・8列で検出された、4号建物跡に切られる掘立柱建物跡である。検出面は地山上面であるが、この部分には8層が存在していないため、掘り込み面からIa・Ib期の区別をすることはできない。柱筋は4号建物跡とは異なり、Ia期の7号建物跡と一致する。したがってIa期に遡る可能性も十分あるが、面上には本期に含めて示した。南北2間分、東西7間分が確認されている。本建物跡の西側には17号溝が、東側には18号溝があり、位置関係から、本建物跡に付随する可能性が考えられる。4号建物跡と同様、北側には、幅約104cmの庇あるいは縁が付く構造の建物である。桁間は約192cm、梁間は約220cmである。建物跡の方向は、4号建物跡同様、E-28°-Nである。構造、規模ともに、4号建物跡と共通することから、ほぼ同じ位置で、同様の性格の建物が建て替えられたと推定される。本建物跡の柱穴2からは、志野の小皿片が2点出土している。

【6号建物跡】(図12)

A B～A D-7・8区で検出された掘立柱建物跡である。東西3間分、南北1間分を確認している。桁間約216cm、梁間156cmで、建物の方向はE-28°-Nである。位置的にみて、4・5号建物跡と切り合いを有するが、新旧関係は捉えられていない。柱穴の大きさからみて、4・5建物に比べ、小規模な建物であったと考えられる。

【17号柱列】(図12)

A C～A E-8区で、東西に列ぶ柱穴が5基検出された。柱間は約228cm、方向はE-29°-Nである。柱穴の平面は、概して東西方向に長い梢円形を呈する。位置的にみて、4・6号建物跡と切り合いを有するが、新旧関係は捉えられていない。

【16号溝】(図9・10・12、図版4・5・6)

調査区北側の3・4列で検出された、東西方向の大規模な溝である。溝の上幅は、西側の最も狭い部分でも約3m、東側では4m以上ある。溝の方向は、南側で検出された建物群に平行する。溝を境に南と北では段差が存在しており、北側に比べ南側が約0.4m程高い。溝の底面は平坦ではなく、東西方向に水路状に窪んだ箇所も認められることから、水を山側の西から東へ流す役割を有していた可能性が考えられる。溝の堆積土のうち上部のものは、溝の輪郭を超えて外側に大きく広がりを持つことから、基本層(7b・7c層)として扱い、最下層の2枚に関してのみ堆上の1層、2層とした。埋土1層には比較的多くの遺物が含まれている。その上にのる7c・7c'層は、本溝の窪みおよびその周辺に施された整地層と考えられる。7c・7c'層の上面でも、若干の窪みとして溝の名残を留めており、その部分に7b層が自然堆積している。本溝は、その規模から屋敷を区画する施設と考えられる。位置的には、溝の北側に存

在した西屋敷との屋敷境の溝であった可能性が高い。埋土から出土した陶器では、唐津産の向付が多く、他に見込みに菊花の鉄絵のある志野織部の小皿や織部の向付等も出土している。木製品は埋土1層に多く、櫛、下駄、漆塗の碗・皿類が出土している。出土した陶器は、16世紀末から17世紀初頭に製作されたものがほとんどである。埋土1層からは吉錢が6点出土しているが、無文銀銭と考えられる資料1点を除き、すべて渡来銭である。

【17号溝】(図9・12)

AG-7・8区で検出された。上幅約1.7m、下幅約0.4m、検出面からの深さ約1mを測る。溝の埋土は4層に細分されているが、いずれも地山のブロックを含む比較的均質な層であり、一度に埋め戻された可能性が高い。溝の方向は、東側に存在する獨立柱建物群の梁筋に平行する。溝は、北端で急に立ち上がる事が確認されている。本溝の東側で検出された建物群を挟んで反対側では、同様の位置に18号溝が確認されている。両者が一对の溝として、建物の存在する部分を区画していた可能性が考えられる。

【18号溝】(図9・12)

AA-8区で検出された南北方向の溝である。溝の南北は調査区外に延びており、東半分も雨水管によって破壊されているため、西側の立ち上がりが部分的に確認されたに過ぎない。溝の方向は、ほぼ17号溝に平行すると考えられる。

(2) II期の遺構

北区の7a層上面、南区の7-①層上面が本期の遺構面である。調査区の中央部および南西部は、それぞれV期の1号池、Ⅶ期の2号池による破壊が本期の遺構面まで及んでいる。また、調査区の北側部分に関しては、二の丸造成時の大規模な盛土である4・5・6層を調査時に重機で除去した際に、本期の遺構面を誤って削平してしまったため、遺構を確認できていない。したがって本期の遺構は南区の一部で検出したのみである。年代的には、I期と同様、二の丸の造成が始まる、寛永15年以前に位置づけられる。本期の遺構としては、畝状遺構とそれに伴う溝の他に、土坑1基とピット5基がある。このうちピットに関しては、埋り込み面が確認できたのは1基のみであるが、規模がほぼ同じであり、位置的にも関連する可能性が高いため、まとめて本期に入れた。

【畝状遺構】(図13、図版7)

AB・AC-6・7区で、南北方向の小溝が多数検出された。溝の幅は20~30cm前後、溝と溝の間隔もほぼ同様である。溝の方向は、N-18°-Wである。また南側には、これらの小溝に直交する東西方向の15号溝が存在することから、両者を一連のものとして理解し、畝の畝とその区画溝と考えた。

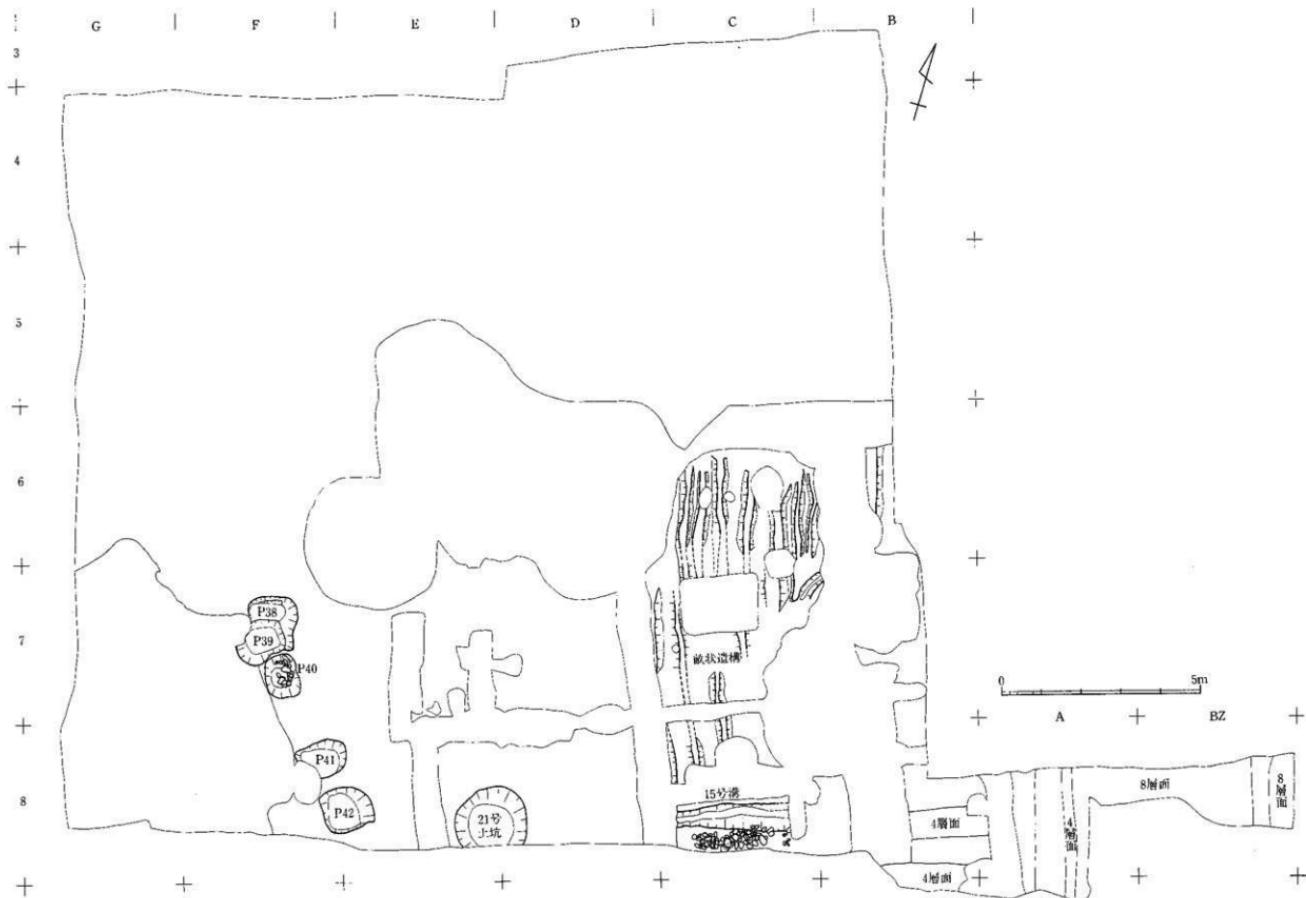


図13 第9地点II期検出遺構
Fig.13 Features of phase II at NM9

【15号溝】(図13)

上幅は0.4~0.7m、下幅約0.2m程の溝である。溝の方向はE—18°—Nで、溝の南側には直径20~40cm程度の円礫の集積が認められる。上述の通り、畠の小区画溝と考えられる。

【21号土坑】(図9・13)

A D・A E—8区で検出された、円形の土坑で、南側は調査区の外壁にかかっている。底面はほぼ平坦であり、断面形は逆台形を呈する。

(3) III期の遺構

4層上面で検出している。遺構は調査区のはば全域で確認されているが、特に調査区の東側、A B～A D列の遺構密度が高い。柱穴が多く検出されており、南北方向に列ぶものが目立つ。似通った構造を持つ同一方向の柱列が、近接した位置で検出されるケースも含まれている。おそらく、同じ様な施設を、若干東西方向に移動しただけで、全体の配置を換えることなく建て替えた結果と考えられる。後続するIV期の遺構も検出面は同じであり、切り合い関係から帰属時期を決めた。帰属時期の判る遺構では、柱列や溝はIII期に、土坑の多くはIV期に多い傾向が認められることから、切り合いを持たず時期の確定できない遺構については、遺構の性格を考慮して帰属時期を決めた。本期の上限は、二の丸の造営が開始された寛永15年である。下限については、遺構に共存した遺物の製作年代を参考に、およそ17世紀末・18世紀初頭と推定した。また、検出された遺構のあり方から、二期とIV期では、二の丸内においても場の使われ方が大きく変化していることが予想され、二の丸が大きく改造された元禄年間が両期の境に相当する可能性が高い。本期に含めた遺構からは、永楽鏡2点、古寛永1点が出土している。

【3号建物跡】(図9・14、図版7・10)

調査区の東側、A B・A C列で検出された、E—25°—N方向の建物跡である。柱穴は、上幅約1.5m、下幅約1.2m、深さ約0.8mの底の平坦な南北溝の底面で確認されている。この溝は布掘と考えられ、柱穴は溝の東西両端に列ぶ。溝は5列の北端で立ち上がりが確認されており、柱穴6を含む東西の柱筋が北辺に相当する。南側については調査区外に延びていくことがほぼ確定であり、桁行8間以上の建物であったと考えられる。柱穴には、柱の沈下を防ぐ目的で、扁平な河原石が置かれている。溝の東西の向き合う柱穴を比較した場合、東側の柱穴の掘り方のほうが全て西側のものより深い。また、東側の柱穴では、礎石は柱穴の底面に据えられているのに対して、西側の柱穴では、穴の上面、即ち布掘の底面レベルに礎石が据えられている。礎石と礎石の間隔は、桁間で約172cm、梁間は約104cmである。本建物跡の東側では、平行する14号柱列が確認されている。本建物跡の柱穴2と9を結ぶ延長線上に、14号柱列の柱1が存在しており、しかも本建物跡の柱9と14号柱列の柱1とは、13号溝により繋がって

いる。本建物跡の柱穴の部分では14号溝が東に延びている。14号柱列の柱間は約172cmであり、本建物跡の桁間に一致する。以上の点から、14号柱列は本建物跡の一部である可能性は高いと考えられる。その場合、柱間や柱穴の構造から見て、溝の西側に位置している柱穴は、底あるいは縁に当たると思われる。14号柱列を独立した別の構造物とした場合には、本建物跡は、建物跡というよりも、支柱を伴う構であった可能性が高い。その場合には、溝の東側の柱穴が本柱に、西側の柱穴が支柱に、それぞれ相当すると考えられる。本建物跡の柱穴3からは、猪形の土人形、円板状土製品が出土している。

【4号柱列】(図10・14、図版7・8・10)

調査区の北側、3・4列で検出された。上幅約0.6m、下幅約0.4m、検出面からの深さ約0.2mの布掘の中に円形の扁平な河原石を礎石として置いてある。礎石と礎石の間隔は、140~160cmである。溝の西側部分では、礎石は失われている。方向はE-25°-Nであり、東西とともに調査区外へ延びている。検出された柱列の中では、柱を支える構造が簡素であることから、礎など、柱にあまり重圧のかからない上屋構造の施設であったと考えられる。なお本柱列の布掘は13号柱列の柱穴1に切られている。

【5号柱列】(図14)

A F-6・7区において、Ⅳ期の2号池の底面で検出された3つの柱穴からなる。北及び南側では、2号池の底面レベルが低いために、柱穴が失われた可能性が高く、本来は南北に更に延びていたと考えられる。柱穴1では底面に礎石が据えられているが、柱穴2には礎石がなく、柱の痕跡に接して石が立てられているのが確認された。後者は、柱と柱穴の隙間を埋め、柱を固定する目的で、石を据えたと考えられる。柱列の方向はE-25°-Nであり、柱間は約264cmである。柱穴の切り合いから、本柱列は、西側に隣接する6号柱列より新しいことが判る。柱の間隔が広いことから礎跡と考えられ、6号柱列を作り替えた可能性が高い。

【6号柱列】(図9・14)

5号柱列の西側に隣接する位置で、3つの柱穴が検出された。5号柱列同様、2号池による破壊のため北への延びは確認できない。また、柱2と柱3の間も2号池による破壊が及んでおり、本来はこの部分にも柱穴が1基存在していたと考えられる。検出された柱穴は、5号柱穴に比べ若干大きめである。柱列の方向、柱間は、5号柱列に一致する。なお、5号柱列の柱穴による破壊のため、本柱列の柱穴の構造は不明である。

【7号柱列】(図9・14)

5号柱列の東側に検出された、5・6号柱列と平行する柱列である。5基の柱穴が確認されている。南側は調査区外へ延びていくことが確認できるが、北側への延びは2号池による破壊のため不明である。柱穴の大きさは、5号柱列に近い。柱の間隔は一定ではないようだが、柱

2と3の間を除き、140~160cm程度である。柱2と3の間は、ちょうどその倍近い距離であり、検出できなかったものの、本来は間に柱穴が存在した可能性もある。

【8号柱列】(図14)

AD・AE—7区で検出された、礎石を有する柱列である。北側はV期の1号池によって、南側は進駐軍のゴミ穴により破壊されている。柱1と柱2は振り方を共有しており、幅約0.45m、確認面からの深さ約0.3mの布掘の底面に礎石が置かれている。溝の壁は、ほぼ垂直に立ち上がる。柱3は進駐軍によるゴミ穴の底面で確認されたため、礎石を残すのみであったが、本来は柱1・2と同様、礎石は溝の底面に据えられていたと考えられる。方向はN=24°—Wであり、柱の間隔は約120cmである。方向や柱穴の構造という点では、東側に隣接して検出された9号柱列に類似しており、新旧関係は不明であるが、建て替えが行われている可能性がある。柱穴3からは、信楽の擂鉢片が出上している。

【9号柱列】(図9・14・15、図版8・10)

調査区の中央やや東寄りのAD列で検出された、N=25°—W方向の柱列である。8号柱列と同じく、布掘のなかに約172cm間隔で礎石を据えている。礎石は部分的にしか残っていないが、布掘自体は、1号池で破壊された箇所を除き、比較的良好な状態で検出された。幅は約0.7mで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。布掘の北端は、3・4列を東西に走る4号柱列の南隣で確認されおり、両者は同時に存在していた可能性が高い。南端部は、10号柱列に直交するかたちで接続する。10号柱列の柱2は、本柱列の柱筋の延長線上に位置している。9号・10号柱列は一連の遺構で、10号柱列の柱2とした部分で90°西に曲がると理解することもできる。両者の礎石のレベル差が約50cmであることから、一応両者は別物であると考えたが、一連の遺構であるとすれば、部分的に舟形状の構造を持つ溝の可能性が考えられる。布掘の埋土から、17世紀代の唐津産の大鉢片や、体部に三引両文の刻印のある瓦質土器が出土している。

【10号柱列】(図9・14・15、図版8・10)

AC・AD—8区で検出された、東西方向の柱列であり、調査区の南壁にかかる。布掘は深く、確認面から底面まで、約80cmを測る。布掘の壁は、他の柱列と同様、垂直に近い。礎石と礎石の間隔は、約140cmである。

【11号柱列】(図14・15、図版10)

AC・AD列で検出された、9号柱列に平行する柱列である。北側は上管の振り方により、中央部分は1号池により、南側はV期の4号・5号溝により、それぞれ破壊されており、部分的に柱穴の列びが捉えられたに過ぎない。柱穴は円形に近い。柱間は約180cmである。

【12号柱列】(図14・15、図版9)

AC列で検出された南北方向の柱列で、10号溝を横して柱穴が掘られている。柱穴は比較的

大きく、残りの良いものでは直径約0.5m、深さも60cmを超す。柱痕跡の周辺には、柱の根本を固めていたと考えられる小礫が残っていた。方向はN-25°-Wで、柱間は約180cmである。北側は上管の掘り方により破壊されている。南側は調査区外に延びている可能性もあるが、柱4で西に90°折れ、柱穴であるピット30に繋がることも考えられる。

【13号柱列】(図14・15)

A B-3・4区で4基の柱穴の列びが確認された。方向はN-25°-Wで、柱間は約180cmである。柱穴の平面形は、直径20~30cm程度の円形を呈する。切り合いから、4号柱列や3号建物跡より新しいことが判る。柱穴1からは、ほぼ完形の秉燭が出土している。

【14号柱列】(図9・14・15)

調査区の東壁際、A B-6・7区で検出された、礎石を有する南北方向の柱列である。3号建物跡の項で述べたように、柱間や柱筋の方向が、西側に隣接する3号建物跡に一致し、柱穴も東西方向の小溝によって3号建物跡の柱穴に繋がることから、同建物跡の一部であった可能性がある。

【15号柱列】(図9・14・15)

A A・A B-8区で検出された2基の柱穴を、列びから南北方向の柱列とした。柱穴の平面形は方形に近く、確認面からの深さは約40cmある。柱穴の底面には礎石が据えられている。柱1と柱2の間隔は、約180cmである。20号上坑に切られている。

【16号柱列】(図9・14・15、図版8)

A A-8区で検出された、布堀内に礎石を配置する南北方向の柱列である。東半部が大きく削平されており、溝の幅は不明である。礎石と礎石の間隔は、約120cmである。

【6号溝】(図10・14・15、図版9・10)

A D~A G-5区で検出された、東西方向の石組溝である。東側では9号柱列に切られており、それより東では確認されていない。Ⅳ期の2号池によって破壊されているが、西側は調査区外に延びていることが確認された。石組は西側の一部に残存していただけである。溝のなかには小礫が散かれ、北側には溝の内側の面を描えて、人頭大の側石が据えられている。溝の西側は2号池により破壊されているが、調査区の西壁断面には、側石の抜き取り穴と考えられる落ちこみが認められることから、溝の南側にも同様の側石が存在していたと考えられる。北側の側石の上面から、溝の底面に敷かれた小礫の面までのレベル差は、約30cmある。埋土中から、17世紀後葉から18世紀前葉に比定される肥前産白磁小皿や、同じく唐津産大鉢が出土している。瓦では、巴文丸瓦や、細枯梗+唐草3b類を瓦当に持つ軒平瓦が見られる。

【7号溝】(図14・15)

A E-7区で検出された南北方向の溝である。上幅約0.8m、下幅約0.5mで、確認面から

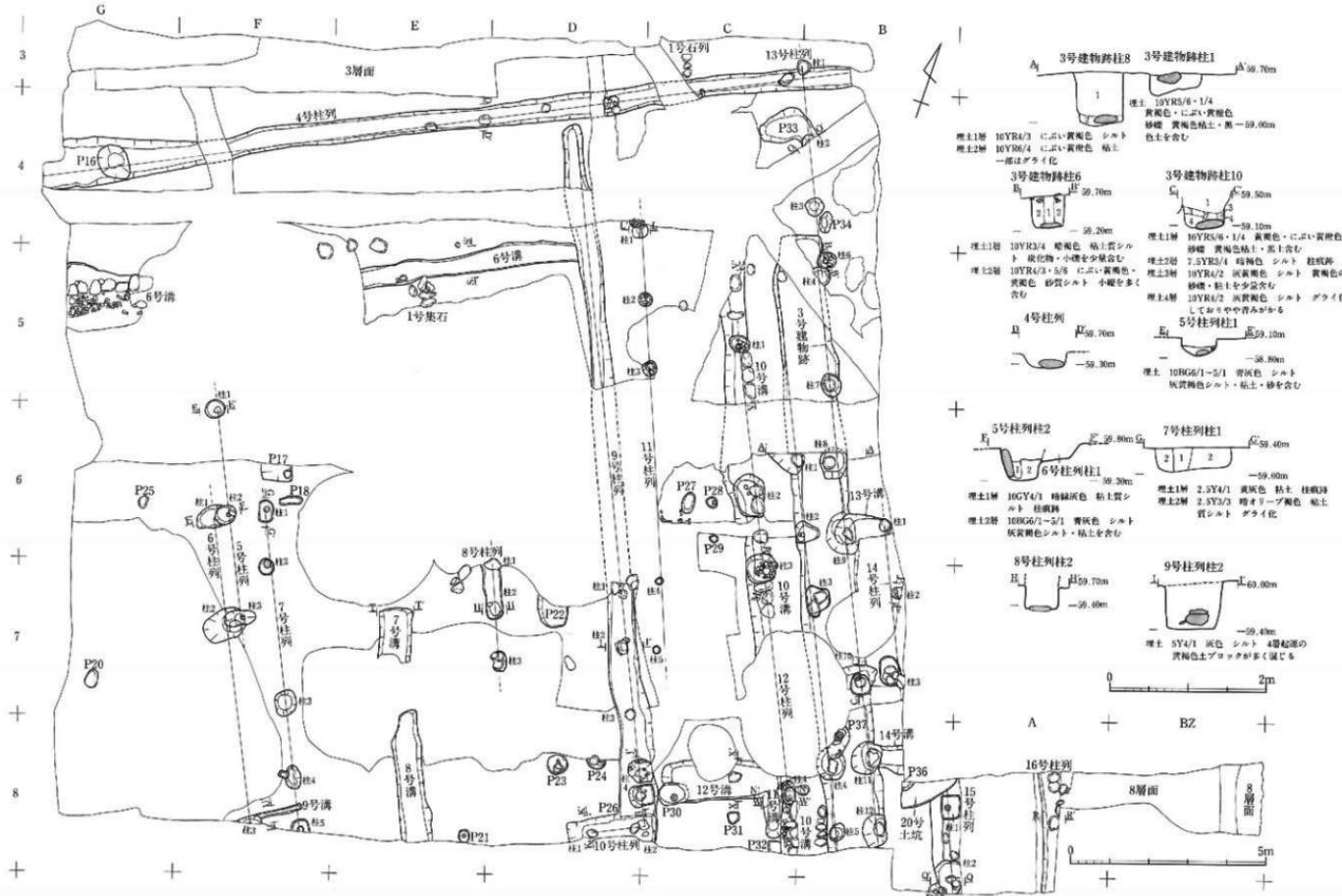


圖14 第9地點III期檢出遺構
Fig.14 Features of phase III at NM9

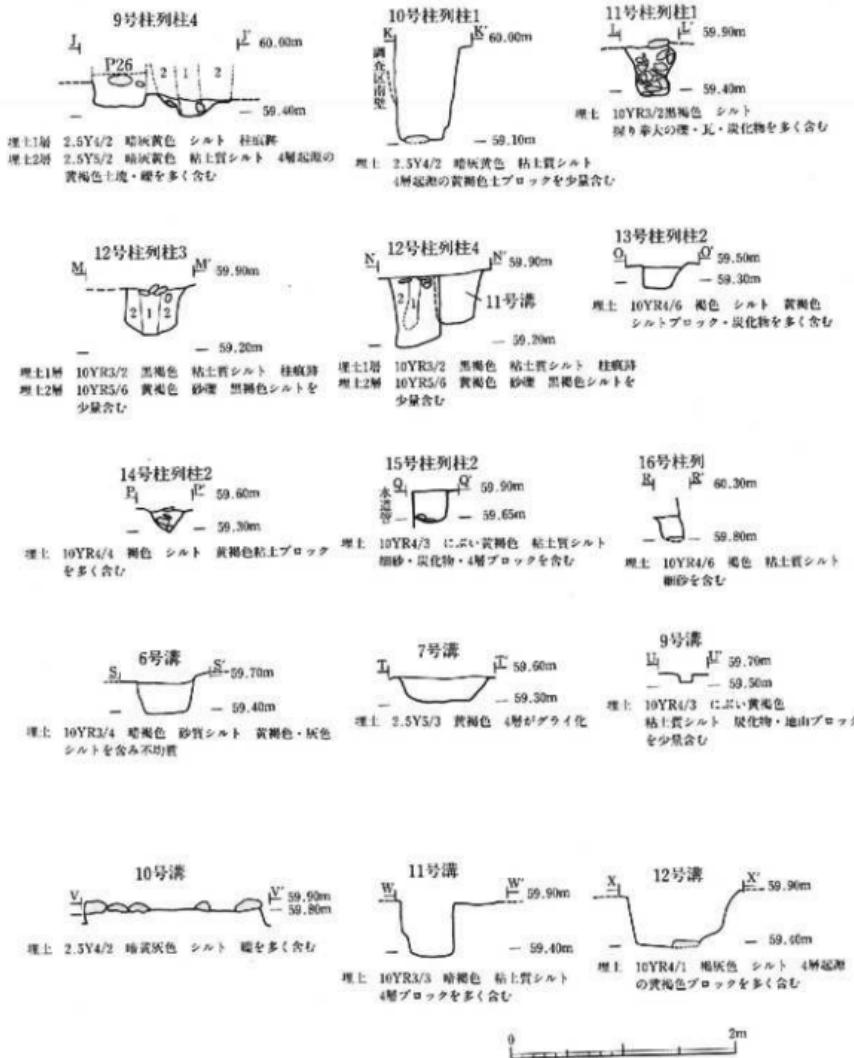


図15 第9地点III期断面図
Fig.15 Cross sections of phase III at NM9

の深さは約20cmである。北側は立ち上がりが確認されている。南側は進駐軍のゴミ穴によって破壊されているが、方向、特徴が木溝の南で検出された8号溝に一致することから、両者は本来一連の遺構であったと考えられる。

【8号溝】(図9・14、図版9・10)

A E—7・8区で検出された南北方向の溝である。北側は進駐軍のゴミ穴により破壊されており、南側は調査区外に延びている。上幅約1.0m、下幅約0.6mで、南壁断面の観察によれば、掘り込み面からの深さは約70cmある。方向は、N—25°—Wである。礎石は存在していないが、北端部が急に立ち上がる点や、溝の幅と深さが他の布掘に類似する点からみて、本来は柱列であった可能性もある。

【9号溝】(図14・15)

A F—8区で検出された東西方向の小溝である。幅は約11cm、深さ6cm、断面は長方形を呈する。木質部は残っていないが、形状と規模からみて、木樋が埋設されていたと考えられる。なお西側は、6号柱列の柱穴3により破壊されている。

【10号溝】(図9・14・15、図版7・9)

3号建物跡の西側に隣接して検出された南北方向の溝である。12号柱列と重複しており、柱穴による破壊が著しいが、部分的に側石が残っている。側石は本来、溝の両側に存在していたが、東側のものは南端部に残存するのみで、ほとんど失われている。側石はいずれも溝の内側の面を掘り抜いて据えられており、側石の掘り方の中には、小砾が詰められている箇所も認められる。本溝は東側で3号建物跡の布掘と接しており、東側の側石の掘り方は布掘に切られているが、これが両者の新旧関係を示すものなのか、それとも単に作業工程上の時間差を示すもののかは判然としない。側石と側石との間隔は約50cmで、その中間点から、確認されている西側の掘り方ラインまでの距離は約70cmである。埋土からは磁器・陶器・土器・瓦等が比較的多く出土している。磁器では、1630~40年代に比定できる肥前産中皿がある。陶器には17世紀代の瀬戸・美濃産桶鉢がある。瓦では、雪持瓦(細葉)+唐草2種を瓦当にもつ軒平瓦が出土している。

【11号溝】(図14・15)

A C—8区で検出された、10号溝に平行する溝である。調査時には、埋土上部を別の溝と誤認してしまっている。また、調査時には12号溝と一緒に掘りあげているが、断面等の記録がなく、両者が本来一連の遺構であったのか、新旧関係にある別の遺構であったのか判然としない。しかし、掘り込み面・底面のレベルとも同じであり、両者は直交する方向にあることから、一連の遺構であった可能性が高いと考える。溝の幅は約0.45m、確認面からの深さは約50cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【12号溝】(図14・15)

AC—8区で検出された、11号溝に直交する溝である。前述の通り、11号溝と一連の遺構であった可能性が高い。上幅約1m、下幅約0.6mで、確認面から底面までは約50cmである。溝の底面には一箇所だけあるが礎石と考えられる扁平な河原石がある。溝の幅・深さ、断面形は他の布掘に類似することから、本来は、11号溝と一連で、直角に曲がる溝であった可能性がある。埋土からは、17世紀代の瀬戸・美濃産灰釉盤の破片が出土している。

【13号溝】(図14)

3号建物跡柱9と14号柱列柱1とを結ぶ、東西方向の小溝である。独立した別の溝として扱ったが、本来は礎石を据えるための布掘であって、それらの遺構の一端になる可能性が高い。

【14号溝】(図9・14)

AB—8区で検出された、東西方向の小溝である。西側で3号建物跡柱1に繋がっており、13号溝同様、3号建物跡の一部であった可能性が高い。埋土からは、17世紀後葉～18世紀代と考えられる、完形の肥前産磁器小瓶が出土している。

【20号土坑】(図9・14)

AB—8区、排水管区の北西隅で検出された。本来、本体区側にも延びていたはずであるが、本体区調査時には確認できていない。壁の立ち上がりの緩やかな皿状の落ち込みである。

【1号石列遺構】(図10・14)

4号柱列の北側、AC—3区において、人頭大の石が3個、南北に列んで検出された。掘り方が確認できていない上、北壁に近く、南側も土管によって破壊されており、全体の形状が判らない。

(4) IV期の遺構

III期の遺構同様、4層上面で検出され、3c層が存在する場所では、上部を3c層に覆われている。調査区の中央より西には2号池が大きく広がっており、東には多数の土坑が存在している。本期の下限については、土坑および池の埋土に含まれる遺物の製作年代から、19世紀初頭と推定された。本期の遺構から出土した古銭は、元豊通宝1点、古寛永2点、新寛永18点(うち文銭3点)であり、圧倒的に新寛永の比率が高い。本期に属する池の底面の廃材などから、本期の終末の段階に、建物等の解体が行われていることが推測される。また、本期の遺構を覆っている3b・3c層は比較的多くの瓦片や炭化物を含む整地層である。これらの事実から、本期の下限の年代としては、二の丸殿舎を全焼する大火災の発生した文化元年(1804年)が適当と思われる。

【2号池】(図9・16、図版11)

A F・AG—4～8区で検出された。東側は、V期の1号池・1号井戸や進駐軍のゴミ穴により大きく破壊されており、輪郭が捉えられていない。西側では調査区外へ広がりを持つ。北側では4列と5列の境付近に岸があり、3号溝に接続している。底面のレベルは南西部が最も低く、その部分では、地山（9層）面まで掘り下げている。底面の傾斜から考えて、池の中心は調査区よりも西方にあった可能性が高く、池全体の規模は、1号池に比べかなり大きくなると推定される。埋土は、①・②・③の3層に細分された。埋土③層と①層は、炭化物や植物遺体を多く含む植物層であり、ある程度自然に堆積したと考えられる。埋土②層は部分的に施された盛上がりグライ化したものと思われる。池の底面では、多量の廃材が検出された。享和二年（1802年）御家作御絵図写や、文化元年（1804年）御造営御絵図写には、二の丸台所門の北西に当たる場所に、中島を有する大きな池が示されている。製作年が近接しているにも関わらず、両絵図で池の形に違いが見られる。その原因は、絵図を作る際に、建物等に比べて池の位置や形に十分な配慮がなされていなかった、あるいは、実際、池の形状が変わりやすい状態にあった、のどちらかであろう。いずれにせよ、2号池が絵図に示された池と関連を有していた可能性は高い。陶磁器は埋土①・②層に多く、瓦と木製品は埋土③層に多い。陶磁器は、18世紀後葉～19世紀前葉のものが主体を占める。上質の皿も多量に出土している。

【3号溝】(図10・16、図版11)

A F・AG—4区で検出された溝で、南側は2号池に接続する。溝の幅は、狭い部分で0.8m程度、調査区の北壁際で東西に広がることが確認されており、調査区の北側に池が存在していた可能性がある。溝の方向は、二の丸期の建物等の軸線より若干西に傾いており、N-34°～W程度である。溝の埋土の状態から、最終的に溝は、埋め戻されたと考えられる。埋土からは、18世紀後葉～末葉の肥前彦融器九碗などが出土している。瓦もある程度出土しており、雪持瓶（太葉）+唐草2種を瓦當にもつ軒平瓦が見られる。

【4号溝】(図16、図版12)

A C・AD—7区で検出された、石組溝である。北側はV期の1号池によって破壊されている。南側は鉄管による搅乱のため破壊されている。溝は鉄管による搅乱の南側にも延びていたと考えられるが、検出されていない。南側にある19号土坑が、本溝の一部であった可能性もある。溝の方向は、3号溝同様、二の丸期の建物等の軸線より若干西に傾いており、N-34°～W程度である。側石は、溝の内側の面を描えて据えられている。側石と側石の間は約0.5mで、側石の掘り方まで含めた幅は、およそ1.4mを測る。底面には小礫が敷かれていたと考えられ、その一部が残存していた。1号池によって破壊されているため、2号池と本溝が繋がっていたかどうかは不明であるが、方向が3号溝と一致することから、3号溝同様、2号池に

関連した施設であった可能性が考えられる。埋土からは、瓦當に四弁花十唐草6類をもつ軒平瓦が出土している。

【5号溝】(図16)

4号溝の東側で検出された溝で、西側を4号溝によって大きく破壊されている。所々に側石と思われる人頭大の石が残存していることから、石組溝であったと推定される。方向も4号溝と一致しており、本溝が4号溝に作り替えられた可能性が高い。埋土からは18世紀代の瀬戸・美濃産陶器や墓石が出土している。

【10号土坑】(図10・16)

A D—3区で検出された土坑で、調査区の北壁にかかる。掘り込み面からの深さは、約80cmである。

【11号土坑】(図16)

A B—4区で検出された浅い土坑で、調査時には3d層の落ち込みとしていた遺構である。

【12号土坑】(図16)

土管およびそれが接続する溝により大きく破壊されているため、調査時には東側の一部分だけが遺構として認識されていた。図面を整理する段階で、遺物の出土状況や、土管による擾乱の壁の断面図から、本土坑の輪郭を推定した。まとまった量の陶磁器や土師質土器の皿が出土している。時期的には、18世紀後葉から19世紀前葉に製作されたものが主体を占め、肥前産磁器、瀬戸・美濃産陶器、大堀相馬産陶器、小野相馬産陶器等が多く認められる。

【13号土坑】(図16、図版11・13)

A B・A C—5区で検出された土坑で、底面には角材が井桁に組んで据えられている。角材の交差する部分は和釘が打たれている。土坑の輪郭は、組まれた角材に沿った形を呈している。南側は共同溝によって壊されているが、井桁に組まれたものとは別の角材の一部が残っており、角材は単に井桁に組むだけでなく底面を縦横に張り巡らされていた可能性がある。埋土は角材の上面から上と下で2層に分かれる。埋土下層は4層起源の上で、角材を据えた後に隙間に埋め戻されたと考えられる。角材は、一辺が約10cmの太さである。角材の上には板等は残されていなかったが、おそらく角材は、床を支えるための棟の役目を果たしていたと考えられる。江戸遺跡から検出されている穴蔵(地下式土坑)には、これに類似する基礎を持ったもののが存在するが、本遺構の場合、壁の立ち上がりは50cm程度しかないため、地上に上屋を持つ構造物の基礎である可能性が高い。埋土からは、陶磁器、土器、瓦が比較的多く出土している。12号土坑に比べ、上器の出土量は少なく、瓦が多い。陶磁器は18世紀後葉の資料が多い。

【14号土坑】(図16、図版11)

A C・A D—5区で検出された土坑で、東側を土管により破壊されている。平面は橢円形を

呈し、壁の立ち上がりは比較的緩やかである。埋土からは、多量の瓦が出土しており、一種の瓦窯まりと考えられる。鳥形の水滴などの肥前磁器が出土しており、それらの製作年代から、上坑の年代は17世紀末頃と推定される。Ⅲ期の11号柱列の柱穴を切っていることから、Ⅳ期に含めたが、Ⅲ期にあがる可能性もある。元禄年間の二の丸大改造時に、建物解体に伴い生じた瓦類を廃棄した遺構であろうか。

【15号土坑】(図9・16、図版11・12・13)

AB—7区で検出された土坑で、北側は方形で浅く、段につき、南側に円形の深い落ち込みがある。南西には16号土坑が隣接して存在する。両土坑の最上部は同時に埋没しており、埋土1・2層は共通している。調査時にも、当初、両者を同一の土坑として掘り下げている。そのため、本来区別されるべき埋土3層についても、土坑で分けずに遺物を取り上げてしまった部分がある。埋土4層以下については、土坑毎に遺物を取り上げている。埋土1層は、層の特徴が基本層の3c層に類似しており、両者は一連の堆積であろう。16号土坑と共通する埋土1層には瓦が多く、埋土2層は均質な粘土層で、遺物をほとんど含まない。埋土3・4・5層には多量の炭化物が含まれる。炭化物の量が最も多い埋土5層には焼土も含まれている。埋土3層以下では、多種多様な遺物が出土した。木製品も出土しているが、16号土坑に比べ格段に少ない。出土した陶磁器は、伝世された可能性の高い少量の優品を除けば、18世紀後葉のものが圧倒的多数を占める。16号土坑とともに、ゴミ穴と推定される。

【16号土坑】(図16、図版12・13)

AB・AC—7・8区にまたがり検出された土坑で、平面形は長方形に近い。壁は垂直に近く、底面はほぼ平坦である。最下層の埋土5f層は、未分解の植物を多量に含む腐食上で、人工遺物はほとんど見られない。埋土5層はさらに7層に細分でき、5d層を中心に、陶磁器、瓦、木製品など多種多様な遺物を多量に含んでいる。埋土4層には遺物は少なく、埋土3層には、細片化した陶磁器が含まれている。15号土坑の項で述べたように、本土坑の埋土1・2層は、15号土坑と共通しているが、埋土5層に関しては、15号土坑の埋土5・6層に切られていることが確認されている。15号土坑同様、出土した陶磁器は、伝世された可能性の高い少量の優品を除けば、18世紀後葉のものが圧倒的多数を占める。また、15号土坑には少ない木製品も多く、下駄や漆塗りの椀・皿類が量的にまとまって出土している。

【17号土坑】(図16、図版12)

AD—7・8区で検出された、南北方向に長い梢円形の土坑である。浅く壁の立ち上がりも緩やかである。18世紀代の肥前磁器や、土師質土器の皿等が出土している。

【18号土坑】(図9・16、図版11)

AC—8区で検出された、穂が多量に含まれる落ち込みで、一部は調査区の南壁にかかる。

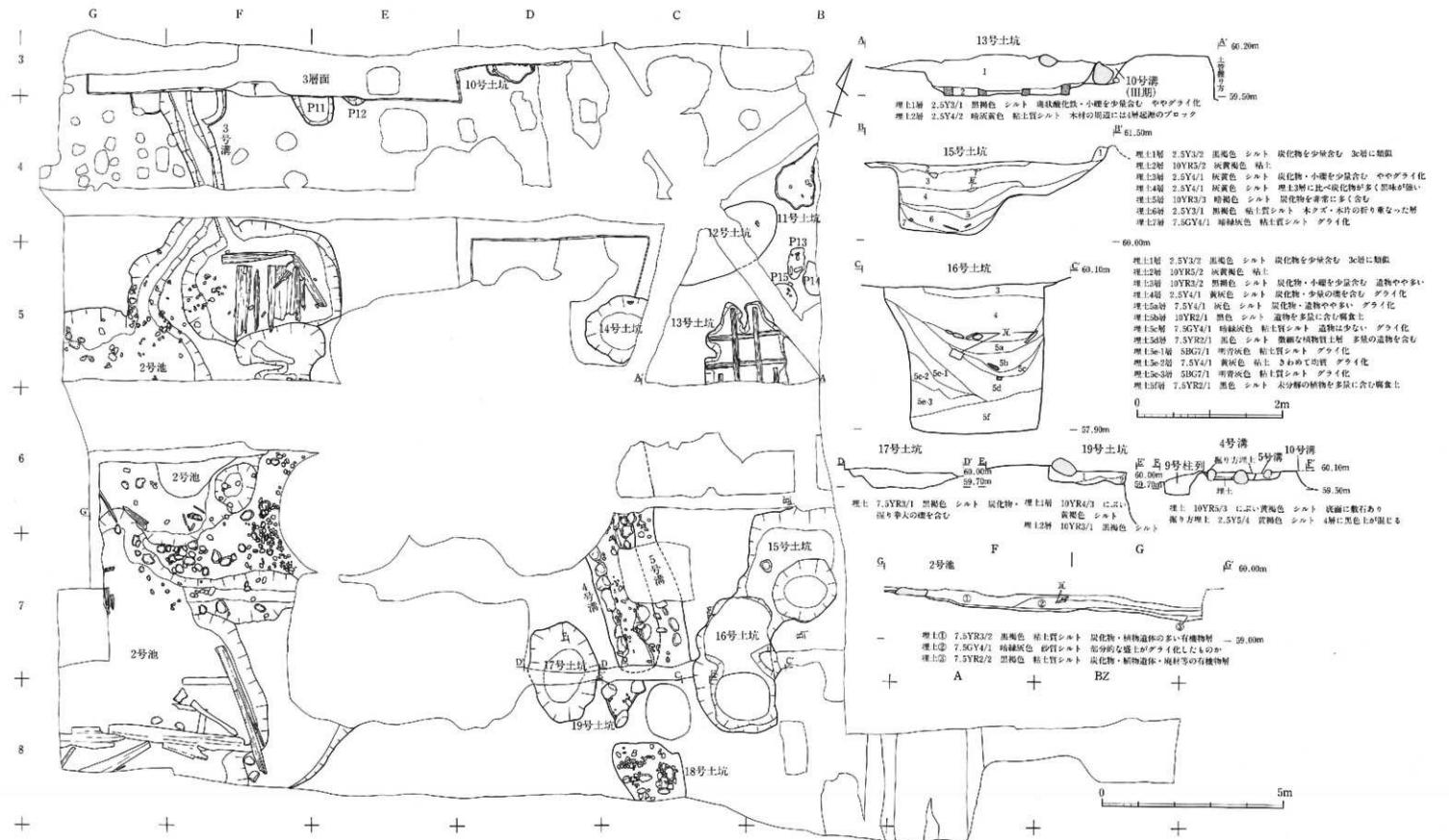


図16 第9地点IV期検出遺構
Fig.16 Features of phase IV at NM9

4号溝の延長とも考えられるが、石の列びが明確でなく、軸線も若干ずれることから、別の遺構と考えた。本土坑に多量に含まれている礫は、失われたと考えられる4号溝の南側部分、あるいは5号溝に用いられていたものが廃棄されたものであろうか。

【19号土坑】(図16、図版II)

AG—8区、4号溝の南側で検出された。北側を鉄管の搅乱で破壊されている。壁際に人頭大の礫が3個残されている。底面は平坦で、堆土1層が4号溝の埋土に類似することから、その延長部分の可能性がある。

(5) V期の遺構

本期の遺構は、基本層の3b・3c層を掘り込んでおり、3a層に覆われている。層序と時期区分のところで述べたとおり、前者は文化元年（1804年）の大火灾直後の整地層に、後者は明治15年（1882年）の大火に伴い形成された層に、それぞれ比定できる。AD列より西側には1号池が大きく広がっている。1号池の北東角からは2号溝が北に向かって伸びている。AE—6・7区では、1号池の南側に隣接して、1号井戸が検出された。それ以外は、2号溝の周辺に浅い落ち込みが数箇所確認されただけである。1号池は、その位置からみて、V期の2号池を踏襲し、新たに掘り直した可能性が高い。1号池、1号井戸をはじめ、本期の遺構から出土した陶磁器は、19世紀前葉～中葉のものが主体を占めている。本期の遺構の埋土からは101点の釘が出土しているが、うち100点は和釘である。1点見られた洋釘は、1号池埋土の最上層出土上であり、何らかの理由で混入した可能性が高い。したがって本期は洋釘が普及する以前の時期にあたる。1号池の埋土⑦～⑨層からは、明治二分金が出土していることから、明治初頭には1号池の機能は停止しており、埋め立てが行われていたと考えられる。1号池の埋土には、瓦や建具等の建築部材、ならびに陶磁器、漆器をはじめとする多種多様な生活用具が多量に含まれている。これらの廃棄物は、版籍奉還に伴う勤政府の設置（1869年）、廢藩置県に伴う東北鎮台の設置（1871年）等、明治初頭に行われた、旧二の丸殿舎の整理の過程で生じたと想定される。

【1号池】(図9・10・17・18、図版13・14・15)

AD列より西に大きく広がる池跡である。V期の2号池と重なる位置にある。調査時には、両者の埋土の違いを十分認識できずに、2号池の底面まで掘り下げてしまつておらず、池の輪郭に関する記録が失われている。図17の平面図に示した1号池の輪郭は、1号池の広がりのなかで、2号池の底面より深い部分を示しているに過ぎず、調査区西壁断面の観察から、実際には図17に示した輪郭よりも西側に広がりを有していたことは確実である。AF・AG列における1号池の輪郭は、2号池を踏襲していたと推定される。2号池との違いでは、2号池の最も深

い部分が調査区内ではなく、より西方にあったと推測されるのに対して、1号池では、AD—5区とAD—6区の境付近で最も深くなる。2号池同様、1号池も北側に接続する溝が確認されている。付随する溝の位置も東に移動していることから、1号池は、基本的に2号池の位置を踏襲しつつも、若干東に移動ないし拡張して掘られた可能性がある。池は方形の落ち込みが連続する形状を呈しており、個々の落ち込みの底面は平坦である。壁の立ち上がりは比較的急で、深さも1.5m以上に及んでいる。埋土は、①層から⑩層まで、10枚に細分された。埋土③・④・⑦・⑨層には有機質が多く含まれており、これらの層からは、陶磁器・木製品をはじめとする多量の遺物が出土している。とりわけ、埋土⑦・⑨層には多量の木材・木製品が堆積しており、それに挟まれた埋土⑧層には炭化物が層状に認められる。埋土の上部は、有機質の堆積物と水成堆積したと考えられる粘土層が互層になっている。また、埋土中には、アビ・ハマグリ・シジミといった貝類も比較的多く見られる。1号池から出土した多量の陶磁器は、大部分が19世紀前葉～中葉の資料であり、特に層位的な変化は認められない。このことは、1号池が本来の機能を停止したと推定される19世紀中頃、これらの遺物が比較的短期間に捨てられたことを示していると理解される。

【2号溝】(図10・17、図版13・14)

AD—3～5区で検出された南北溝である。南端は1号池の北東隅に繋がっており、北側は調査区外に延びている。上幅約1.6m、下幅約0.4m、深さはおよそ40cmである。溝の方向は、N—25°Wである。埋土は3層に分かれ、瓦片や炭化物・小礫を多く含む。1・2層は人為的な埋め戻し土と考えられる。AD—4区の南側では、埋土1層と2層の層理面に、板材等が堆積していた。溝の埋土は、1号池の埋土⑦～⑨層に切られており、池よりも先に埋め戻されたと考えられる。

【1号井戸】(図17・18、図版13・14)

掘り込み面は、3b層の下。円形の石積井戸である。井戸の直径は約1.1m、確認面での掘り方の直径は、およそ3.6mである。井戸の側石には、長軸70～80cm程度のやや平たい石が選ばれており、長軸を井戸の中心に向け、放射状に積み重ねている。掘り方の中には、小礫が多量に詰め込まれており、上部には大きめの礫が含まれている。井戸は大部分が埋め戻されてしまっているが、最上部はしばらくの間、窪地として残っていたと考えられる。窪地が最終的に埋まるのは、1号池の埋没と併行し、池の埋土の一部が入り込んでいる。埋土からは、18・19世紀代の陶磁器や漆碗が出土している。含まれる陶磁器から、井戸が完全に埋まりきったのは、19世紀中頃と推定される。

【6号土坑】(図17)

AC—3・4区で検出された、不整形の深い落ち込みである。西側を土管により破壊されて

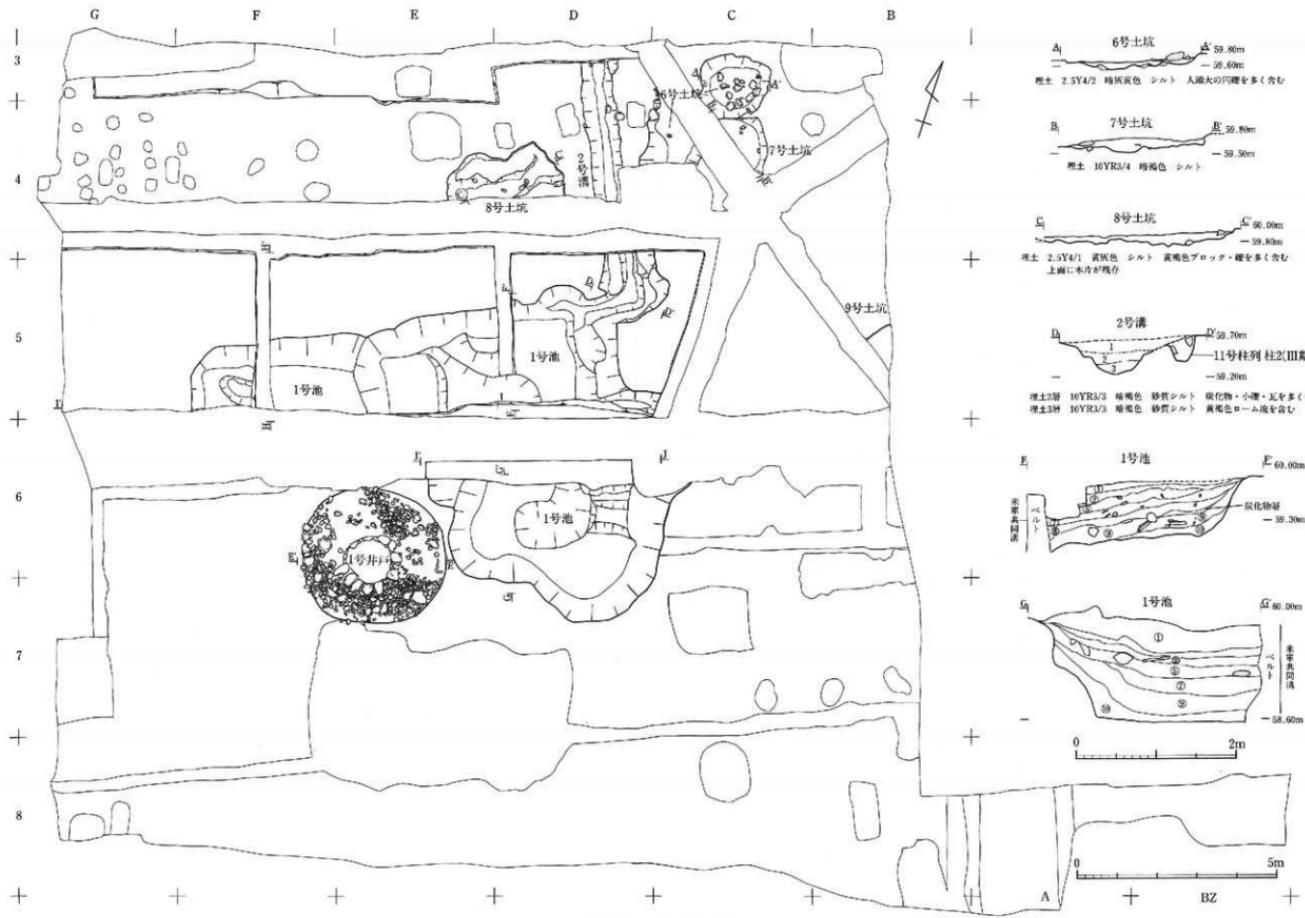


図17 第9地点V期検出遺構

Fig.17 Features of phase V at NM9

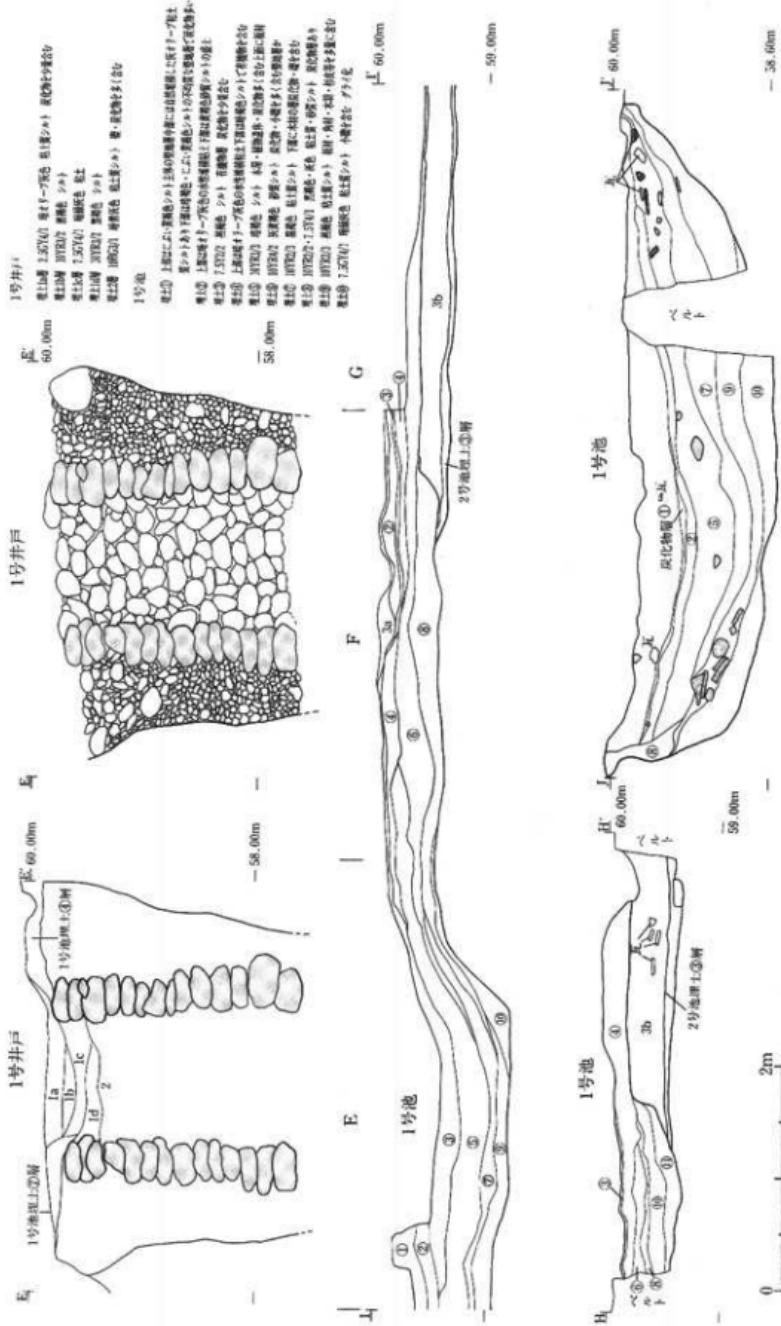


圖118 第9地點V期斷面圖
Fig.118 Cross sections of phase V at NM9

おり、南側では 7 号土坑に接している。埋土には人頭大の円礫が多く含まれている。

【7号土坑】(図17)

6 号土坑の南に接して検出された浅い落ち込みで、西側を土管によって大きく破壊されている。埋土から、大堀相馬産の陶器小碗や埴焼の乗燭等、19世紀代前葉～中葉の遺物が出土している。

【8号土坑】(図17)

2 号溝の西側、A D・A E—4 区で検出された浅い落ち込みで、南側が土管で破壊されている。埋土から、19世紀前葉に比定できる、鉄絵山水文が描かれた大堀相馬産灰釉小皿が出土している。

【9号土坑】(図17)

A B—5 区で検出された浅い落ち込みである。東側は調査区の東壁にかかり、西側は土管により破壊されているため、全体の形状は不明である。土坑として扱ったが、この部分の 3a 層には多量の瓦が含まれており、そのため、その一部が落ち込んだ可能性が高い。

(6) VI期の遺構

明治15年（1882年）の大火に伴う 3a 層を掘り込んでいる遺構で、陸軍第二師団に関連した遺構である。調査時には、江戸期の面まで重機による表土剥ぎを行っている。そのため、明治以降の遺構に関しては、調査段階で、江戸時代に通る可能性があると判断した場合に限って、遺構確認・精査を行っている。本期の遺構が部分的にしか存在しないのは、上記の理由による。

【1号建物跡】(図19、図版15)

A G—4 区で検出された掘立柱建物跡である。南北 3 間分、東西 2 間分が確認されている。柱穴の直径は約 30 cm で、隅丸方形を呈する。柱の痕跡から、角柱が使われていたことが判る。建物の方向は、N—24°—W である。柱間は、梁と桁で異なり、梁間約 92 cm、桁間約 76 cm である。直接遺構の切り合いは無いか、位置的には、1 号柱列、2 号柱列と重複している。

【2号建物跡】(図10・19)

A F・A G—5 区で、根石が 4 箇所確認されており、この部分に礎石建物が存在していたことが判った。試掘の段階では、さらに多くの根石を検出しているが、本調査時には、重機により表土を除去する際に削平してしまった結果、4 箇所しか記録がない。南側が米軍の共同溝によって破壊されていることもあり、根石がどのような位置に配置されていたか、全体像は不明である。調査区の西壁断面から、それらの根石の掘り方は、1 号池の埋土を掘り込んでおり、2a₂ 層に覆われていることが判る。残存する根石の位置から推定して、建物の方向は、E—24°—N、柱間は約 180 cm と思われる。

【1号柱列】(図19、図版15)

4列で確認された、東西方向の柱列である。柱穴は、AG—4区で3基、AD—4区で3基確認された。AE・AF—4区で柱穴が確認されていないのは、重機で表土を削ぐ際に、周囲より深く削っており、失われてしまったためと考えられる。柱列の方向はE—24°—Nであり、柱間は約180cmである。柱穴は、南北方向に長い長方形を呈する。確認面からの深さは浅く、柱穴の底面には長方形の礎板が存在している。礎板には、洋釘が打たれたものも認められる。直接遺構の切り合は無いが、位置的には、1号建物跡、2号柱列と重複している。また、本柱列の柱筋上に位置する1号木箱埋設遺構は、本柱列が解である場合には新旧関係にあることになり、本柱列が建物である場合には一連の施設の可能性が高い。

【2号柱列】(図19)

AF・AG—4区で、東西に列ぶ柱穴が4基検出された。柱穴は小さく、深さも浅い。柱間は約84cmである。柱列の方向はE—35°—Nであり、二の丸期の基準線からずれている。調査時には掘り込み面を確認できていないが、埋土の特徴が3層に類似することから、本期に含めた。しかし、柱穴4は3号溝に接する位置にある上、柱筋が3号溝と直交することから、V期に遡る可能性もある。

【3号柱列】(図19)

AB・AC—7区で、礎板を有する柱穴が、東西に4基列んで検出された。柱穴は南北に若干長い梢円形である。柱穴の確認面から底面までの深さは、約15cmと浅い。底面には長方形の板材が礎板として置かれている。柱列の方向はE—24°—Nで、柱間はおよそ180cmである。柱穴2の埋土3層と4層から、それぞれ雁首2点、吸口2点、計4点の煙管がセットで出土している。構造は1号柱列に類似する。柱穴からは和釘と洋釘の両方が出土している。

【1号溝】(図19)

AA—8区、排水管区で検出された、N—25°—W方向の南北溝である。確認面からの深さは、約8cmである。東側を雨水管により大きく破壊されているため、溝の幅は不明である。

【1号土坑】(図19)

AF—4区の調査区北壁際で位置する。平面のプランを確認しただけで、精査は行っておらず、詳細は不明である。

【2号土坑】(図19)

AE—3区、調査区北壁際の3層上面で検出された遺構である。平面形は、東西90cm、南北75cmの方形を呈し、深さは約15cmである。底面はほぼ平坦である。東側に隣接した位置に扁平な礎が数個残っており、土坑の周囲には本来石が敷かれていた可能性がある。本土坑の南側には、便所跡と考えられる1号木箱埋設遺構が存在しており、それとプランが類似する

ことから、本土坑についても便槽を埋設する施設であった可能性がある。

【3号土坑】(図19)

A B - A C - 6・7区で検出された、平面形が東西方向に長い長方形の土坑である。底面は平らで、西壁際に石列が認められる。基本的に石は1段で、石の下には瓦片が置かれているが、石が2段に積まれている箇所もある。調査時に掘り下げている段階では、3c層を掘り込んでいるとの認識が為されていた。しかし、その後の見解では、当初3c層と考えていた層に関して、Ⅶ期の15号土坑の埋土上部であった可能性が指摘されている。また、調査区の東壁にかかっているが、断面図には記載がないため、掘り込み面を確認することはできない。19世紀前葉～中葉の陶磁器が多く出土していることから、Ⅶ期に遡る可能性もある。

【4号土坑】(図9・19)

A B - 7・8区で検出された遺構で、調査区の東壁にかかる。北側を土管により破壊されている。3c層を掘り込んでおり、師団初期の整地層と考えられる2b₂層に覆われている。確認面からの深さは約20cmで、底面はほぼ平坦である。

【5号土坑】(図9・19)

A B - 8区、本体区と排水管区の接続部分で検出された。調査区の南壁にかかる、断面の観察から、3c層を掘り込んでいることが判る。調査時には、師団期の焼却炉跡と認識されているが、精査を行っていないため、詳細は不明である。

【1号暗渠】(図19)

4列の北側を東西に走る暗渠である。西側は調査区西壁にかかる。調査区東壁には断面は認められない。調査時に明治時代の暗渠と判明したため、輪郭を捉えただけで精査を行っていない。方向は、二の丸基準である、N-24°~25°-Wを踏襲しており、米軍が使用していた土管の方向とは異なる。暗渠の北側には、土管が東西に存在しており、複数の土管が交差する部分には樹が設置されている。本暗渠は、それらの土管に先行し、同様の排水機能を担っていたと考えられる。

【1号木箱埋設遺構】(図19、図版15)

A E - 4区で検出した、内部に木箱を埋設した遺構である。掘り方の平面形は方形で、上辺は約1.2m、底辺は約0.8mある。掘り方の埋土には礫が多く含まれている。木箱は、70cm四方の底板に、高さ約60cmの側板を洋釘で打ちつけたもので、天井板は存在していない。木箱の中には、礫と角材を支えとして、板材が斜めに置かれていた。木箱の底面に薄く認められる粘土は、斜めの板材を固定するために、意図的に敷かれた可能性がある。木箱は便槽と考えられ、斜めの板は、糞尿の跳ね返りを防ぐために置かれた可能性がある。

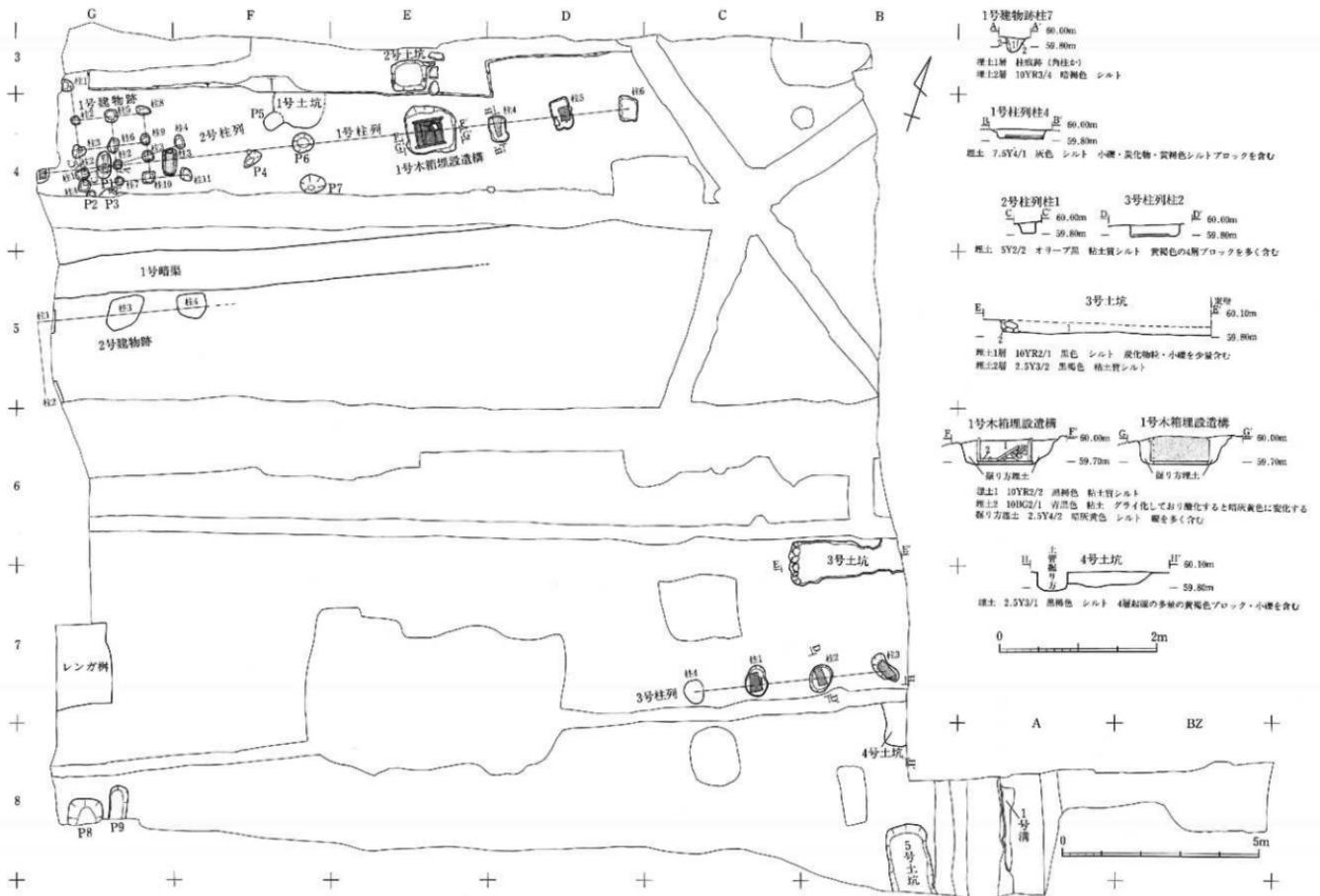


図19 第9地点VI期検出構造

Fig.19 Features of phase VI at NM9

4. 出土遺物

第9地点の調査では、これまでの仙台城二の丸跡の調査の中では、最も多量の遺物が出土し、その種類も多岐にわたっている。そのため、江戸時代の資料については、同種のものが複数出土しているもの以外は、可能な限り資料提示に努めたが、明治時代以降の遺物については、基本的に省略することとした。結果として、総計1454点の資料を、ここに提示することとなった。

また今回の調査では、共伴資料や層序関係から年代の限定できる一括資料中の遺物が、その大半を占めることも大きな特徴で、極めて重要な資料と言えるであろう。そのため、それぞれの資料について、詳細な検討を加えることが必要であるが、紙幅の関係もあり、ここでは資料提示を旨として、概略を指摘するにとどめたい。

1997年現在までに、仙台城二の丸跡の調査において、江戸時代の遺物がまとまって出土している調査は、今回報告する第9地点の調査が、最後となる。これまでにまとまった遺物が出土している、第2地点（1983年度調査）、第5地点（1988年度調査）などの成果を合わせて、仙台城二の丸跡全体の様相を整理する中で、第9地点の出土遺物についても、改めて検討を加え、次号以降の年報において、順次報告していく予定である。

(1) 陶磁器

① 資料化の方法

接合、同一個体認定作業後の総破片数は、磁器4757点、陶器5371点を数える。陶磁器の出土量を比較検討する場合には、数量（numbers）、重量（weights）、完形品換算値（vessel-equivalent）、完形品換算推定値（estimated-vessel-equivalent）等、いくつかの定量化の方法がある。時間的な制約だけでなく、対象となる陶磁器が多種多様で、完形品に換算することが困難であるとの方法上の理由から、本報告では、接合、同一個体の認定を行った上で、破片数を用いて定量化を図った（表2～5）。したがって、個体識別が困難である資料や、埋没中に多数の細片になりやすい大形品、器厚の薄い資料については、破片数が必ずしも実際の個体数を反映しているとはいがたい場合も考えられる。例えば、実際に第9地点から出土した資料のうち、大堀相馬産の土瓶は、比較的大形で器壁が薄い上、規格性が高く、個体の識別が困難である。したがって、大堀相馬産の土瓶の破片数として示した値には、上記の問題が生じている可能性が高い。個体識別が困難という意味では、本来、組として存在していた資料が一括して揃いで出土した場合についても、個体の識別が難しく、個体数の算定に問題が生じる可能性が高い。例えば、本遺跡の下層から出土した唐津産の向付や、蓮池水鳥文を描いた青花小皿に関しては、上記の問題が当てはまる。

時期的には、16世紀末・17世紀初頭から現代のものまで、様々な時代の資料が含まれている。量的にまとまっているのは、16世紀末・17世紀初頭、18世紀後葉、19世紀前葉から中葉の3時期の資料である。このうち、前二者については、これまで仙台城二の丸跡からは断片的な資料しか出土していないため、今回、全体の様相を呈示できるように、できるだけ図化にとめた。19世紀の資料は、第5地点の1・2号土坑をはじめ、これまでにも多くの資料を呈示しており、全体の様相はそれらと共に通じるため、類型化した上で、代表例を呈示するにとめた。

② 出土状況

陶磁器は、基本層では、2層が最も多く、3c・3b・3a層がこれに次ぐ。二の丸造成期の敷地層である4・5・6層は、ほとんど遺物を含んでおらず、下層では、8層と7a層から比較的まとまった量の陶磁器が出土している。遺構では、V期の1号池から最も多くの陶磁器が出土している。VI期の遺構では、15号、16号の両土坑をはじめとして、12号土坑、13号土坑、2号池から多くの陶磁器が出土している。下層では、Ib期の16号構の資料が多少量的にまとまっている程度で、遺構に伴う陶磁器はあまり多くない。

③ 材質分類とその基準

やきものは、胎土・焼成技法・釉薬などの製作技術に基づき、通常、磁器・陶器・炻器・土器に分類される。しかし、肉眼観察による材質分類に基づいていることもあって、実際の資料では、いすれに区分すべきか判断に迷うことも少なくない。本報告では、産地を考慮にいれながら、陶磁器を磁器と陶器に分類し、炻器という分類名称は用いていない。磁器には、明末清初のスワートー（漳州窯系）製品や、波佐見、切込等、有色胎土を用いた「半磁半陶」が含まれる。反対に、大堀相馬製品には、磁器質の胎土を用いたものも少量存在するが、それらは全て陶器に分類した。他に、通常炻器として分類されるもの、例えば、伊万里の油鉢、志戸呂系徳利等は、陶器に分類した。また、堤の透明釉（鉛釉）を掛けた製品は、焼成温度が低く、胎土も土器と変わらないが、施釉である点を重視して、軟質施釉陶器に分類した。

④ 生産地の同定と製作年代推定の根拠

磁器では、肥前、瀬戸・美濃、畿内、切込、平清水、中国が、陶器では、肥前、唐津、瀬戸・美濃、京・信楽、岸、大堀相馬、小野相馬、堤、平清水、淡路、志戸呂、堺の製品を抽出できた。生産地の同定および製品の年代的位置づけに関しては、肥前など、生産地での研究が進展している場合には、その研究に依拠し、そうでない場合には、江戸における消費地編年を参考とした。また、江戸遺跡からあまり出土しない東北の地方窯の製品については、窯跡の調査が行われている切込、岸は、その調査成果を、それ以外は、仙台城を中心とする消費地遺跡出土資料ならびに、東北陶磁文化館所蔵の窯跡採集資料に基づいて、生産地同定・製作年代の推定

を行った。

肥前産磁器としたものには、佐賀鍋島藩領内で焼かれた有田磁器以外に、大村藩領内の「波佐見焼」や、平戸松浦藩領内の「平戸焼」が含まれる。瀬戸・美濃産磁器は、いわゆる「新製染付」と呼ばれる製品である。畿内産磁器に分類した製品は、V期の1号池から出土した、128（図34・図版26）の湯冷まし1点のみである。胎土は瀬戸・美濃に類似するが、器形、文様が特殊で、一点物と考えられることから、窯は特定できないものの、畿内で製作された可能性が高いと判断した。

切込産磁器では、中型端反碗、中型広東碗、中鉢、小皿、火入が確認された。本報告で切込と同定したものは、肥前製品との差異が顕著な時期、すなわち、中山下地点の報告（佐藤広史ほか1990）のⅢ期およびⅡ期の一部に相当する製品である。実年代は、1860年代を中心となる。胎土は、肥前泉山の七に比べ若干密度・溶解度が高く、鉄分を多く含む。鉄分の含有量が多い上に、焼成時に燃料を節約したためか、胎質は灰色に近い。成形上は、全体に歩留まりを良くするためか、安定した器形が好まれ、底部等の細部の処理の不徹底が目立つ。不純物を多く含む具須により山水文が描かれる製品が多い。また、具須を用いたダミの濃淡の変異幅は狭く、グラデーション効果が十分でない。切込のⅠ期・Ⅱ期の製品は、比較的良質の胎土、具須を用いている上、成形技術のレベルもⅢ期に比べ高いため、肥前製品との識別が困難である。従って、肥前に分類した磁器に、切込のこの時期の製品が混入している可能性があるが、量的にはごく限られたものであろう。

平清水産磁器では、中型丸碗、中型端反碗、小皿、極小皿（型打角型手塗皿）が確認された。いずれも19世紀中葉に製作されたものである。平清水産磁器については、瀬戸・美濃製品との識別が問題となる。平清水の胎土は瀬戸・美濃に似て、ガラス質で光沢のある緻密なものであるが、窯跡に廻棄された製品にみられるヘタリ等から、耐火度は低いと推定される。成形技法の点では、瀬戸・美濃に比べ全体的に粗雑さが目立ち、特に型打の角皿にその傾向が強い。高台の断面は三角形を呈する。具須は、瀬戸・美濃同様、良質なものが用いられているが、石灰分が少ないため、瀬戸・美濃のように具須の表面が大きく盛り上がることはない。石灰釉の透明度自体は高いが、釉切れ部分の処理は粗雑である。文様は、瀬戸・美濃製品に其象文が多く用いられるのに対して、よろけ縞等の幾何学的な地文が主体となる。平清水産に分類した磁器には以上のような特徴が認められるが、窯跡の発掘調査が行われていない現状では、初期の製品についてもこのような特徴が当てはまるかどうか検討できない。従って、瀬戸・美濃に分類した磁器に、平清水の初期の製品が混入している可能性も否定できない。

肥前および唐津産陶器の同定、製作年代の推定は、生産地での研究を基に、江戸遺跡の調査成果を参考として行った。江戸遺跡の調査報告では、18世紀以降、唐津系製品の出土量は格段

に減り、江戸時代後期には、江戸ではほとんど流通していなかったとの指摘がある（新宿区内藤町遺跡調査会1992）。18世紀以降の唐津系陶器に関する筆者の知見が乏しいこともあり、その時代の資料に関しては、生産地の同定・製作年代の推定に誤認が生じている可能性がある。しかし、江戸遺跡同様、流通量そのものが少ない可能性が高いため、大きな問題はないと思われる。

瀬戸と美濃の陶器に関しては、胎土・製作技術の共通する部分が多いため、生産地を示す際には、基本的に瀬戸・美濃と一括記した。ただし、志野、織部、志野織部については美濃に、白色胎土に白化粧土・染付を施した製品（例えば図58-622の土瓶）に関しては瀬戸に、生産地名を限定した。

京・信楽系陶器に関しては、窯跡の調査が進んでおらず、生産地での研究成果を利用することができないために、主として、京や江戸をはじめとする消費地での研究を参考とした。京焼には胎土に信楽の土を用いたものが少くない上、18世紀以降の信楽製品の実体が必ずしも明らかでないため、本報告で生産地名を示す場合には、長石を多く含む信楽に特徴的な胎土を有する製品以外、京・信楽として両者を併記した。

福島市飯坂岸窯の陶器である可能性の高い資料としては、口縁部に灰釉を施した擂鉢がある（図59-486・487）。技法的には唐津の製品に類似する点が多いが、胎土の点からみて岸窯の可能性が高いと判断した。これらの資料は、後世の遺構に混入しており、出土層位から製作年代を推定できないため、岸窯の調査所見（鈴木・堀江1996）に基づき、17世紀中葉から18世紀前葉の年代を与えた。

大堀相馬と小野相馬については、年報7でその概念を提示しており、本報告もそれに依拠している。窯跡の調査が進展していない現状では、製品の特徴・変遷には不明な点も多い。同定ならびに製作年代推定は、年報7に示した消費地編年の試案を基に、第9地点の良好な一括資料を考慮して行った。今回の資料で特に問題となるのは、18世紀後葉の一括資料の中にみられる、鉄輪の描かれる灰釉陶器の一群（図46-359、図49-406、図50-429）である。この一群の生産地としては、瀬戸・美濃と大堀相馬の両者が考えられる。胎土は密で大堀相馬に近いが、釉切れ部分の処理は丁寧で、その点は瀬戸・美濃製品に近い。大堀相馬の鉄輪の初発期の様相については未だ良く判っていないため、これらの製品の生産地は不明とした。なお、相馬藩の御用窯である田代窯（相馬駒焼）に関しては、特に18世紀代の製品の特徴が判らないため、生産地名として用いなかった。従って、大堀相馬としたものの中には田代窯の製品が含まれている可能性がある。

生産地を仙台市堤窯としたものは、伝世品との対比が可能な資料で、19世紀代に作られたものがほとんどである。壺、甕、擂鉢、中鉢、植木鉢、大皿、灯明皿、秉杓、油壺、焙烙、上

鍋、水滴等、多様な器種が確認された。このうち、焰口、中鉢、秉獨、水滴には透明釉(鉛釉)が用いられる場合もあるが、それ以外の器種では、鉄釉を施す例が圧倒的に多い。胎土は、比較的密なものから非常に粗いものまで多様であるが、胎土に多くの混入物を含む場合でも、口縁部付近は非常に硬く焼き締まっていて、軟質な底部とは対照的な様相を呈する。壺、甕は、頸部が短く、胴部最大径の位置が低いため、全体のプロポーションが丸みを帯びている。壺、甕、鉢の口縁部は、ガムナ状あるいは玉縁状に強く外側に折り返される。これら堤産製品と類似し、型式学的にやや古い一群の資料があり、3c層等から出土している。壺、甕、秉獨がある。年代的には18世紀末葉から19世紀初頭の所産と考えられるが、窯跡の調査例が無く、その時期の堤製品の様相が不明なため、本報告では、堤?とし、その可能性を表記するにとどめた。なお、後述するように、V期の15号土坑から出土した18世紀後葉の一括資料には、堤?としたものに先行する可能性のある資料も含まれているが、それらの生産地は不明としている。

平清水産の陶器とした製品には、V期の1号池から出土した、呉須で文様を描いた灰釉小皿がある(図63—540・563)。これらの口縁部は玉縁状に肥厚し、体部の立ち上がりが比較的急である。見込には目跡が残る。釉薬は淡灰白色で、半失透である。

⑤ 時期毎の様相

一括資料を中心に、出土陶磁器の様相を時期別に述べる。

【16世紀末葉から17世紀初頭】

この時期の資料は、基本層の7・8層ならびにIb期の16号溝からまとめて出土している。これらの層から出土した資料を層位的にみた場合、8層には織部や志野縁部がみられない等、時期的な変化を示していると考えられる点も認められるが、量的に少ないので、以下の記述では、それらを一括して扱う。

磁器は量的に多くないが、全て中国産で、伊万里は認められない。これは、下層の時期が、二の丸の造成以前、即ち寛永15年(1638年)以前に相当し、肥前磁器の生産開始もない段階であるためと考えられる。青花では、内面に蓮池水鳥文を描いた小皿(図20—1)が何枚か組で出土している点が注目される。この時期の製品としては、他に攬乱や表土から出土した資料ではあるが、漳州窯系と考えられる青花碗(図39—207)や呉須赤絵大皿(図38—205)、いわゆる古染付に分類される向付(図39—210)がある。

陶器では、絵唐津が多く、向付類がまとめて出土している。唐津産の向付のいくつかは組で出土しており、同じものを組とする例(図41—328と329)の他、絵変わりのものを組み合わせる例(図40—325と326)がみられる。この時期の唐津製品としては、向付の他に、碗(図40—302、図43—303)、小型の輪花皿(図41—320)、大鉢(図44—329)、片口鉢(図40—309)、

描鉢（図43-307・308）がある。陶器で、唐津に次いで多いのは、瀬戸・美濃である。志野の小皿（図42-314・317、図43-315・316）や織部の向付（図41-335・336、図42-337）、志野織部の小皿（図41-318、図43-319）の他、天目碗（図42-301）、大鉢（図42-311・313、図43-312）、描鉢（図42-304、図43-306）がある。信楽は壺が1点だけ確認された（図43-322）。図40に示した321の四耳壺は、いわゆる「丹波壺」で、大坂城下町高麗橋1丁目P調査地点から類似資料（土岐市美濃陶磁歴史館1993）が出土している。その他、この時期の陶器では、唐津の香茶碗（図55-575）が、3c層に混入して出土している。志野の白天日茶碗（図69-686）も出土しているが、残念ながら出土層位が不明である。

901の南蛮人人形（図85、図版66、巻頭図版1）は、8層と、Ib期のピット56から出土したもののが接合した。両足・両手を欠損している。右手と左肩の2箇所に、直径5mm程度の孔が穿けられている。服装は、胸元にレース飾りのあるブラウス？の上に和服あるいはガウン（僧衣）と思われる上着を羽織り、頭に帽子？を被る。口と頸の髪や帯、衣服・帽子？の一部が鉄絵によって表現されている。上着の背の部分には、鉄絵で欄文が描かれている。帽子と下に着た洋服からみて、ボルトガル・スペイン等の南蛮人の姿を意識して造形したものと理解した。本例は鉄絵の上に長石釉を掛けた焼成した、志野の製品であるが、管見にして類例を知らない。これに関連する可能性のある資料では、織部の南蛮人燭台と、伊万里の唐人人形が時期的に近い。前者には、いくつかの類例が知られているが、それらは、高さが20cm程度で、頭上に蠟燭皿をのせ、カルサンと呼ばれる洋袴を履き、顔の彫りが深く表情のきつい壯年の男性である等の特徴を有する。これらは、土岐市泉町久尻の元屋敷跡あるいはそれに近い築根の窯で焼かれたとされ、同志社大学の構内遺跡では、実際に出土した例が知られている。後者には、高さが5cm程度で、下半身の背面側に直径1.5cm程度の孔があり、頭部を生やした老年の男性である等の特徴がある。いわき市龍門寺遺跡をはじめとして、いくつかの出土例が知られており、墓等の宗教施設との関連が想定される。製作年代は、1630-40年代と推定されている。本遺跡出土の南蛮人人形は、頭上に蠟燭皿をのせておらず、大きさや左右のバランスの点からみて、どちらかの手に蠟燭皿を持っていた可能性も低い。右手と左肩の2箇所にある小孔を重視すれば、水滴あるいは香炉の可能性もある。水滴とした場合、胎土や成形・内面調整の点で、吸水性・保水性に問題がある。香炉の場合には、織部の木菴香炉のように、両足部分が胴体とは別に「落とし」として造られている必要がある。現状では、用途を限定できないため、単に形状を指して、「南蛮人人形」と報告した。

【17世紀中葉から末葉】

この時期の資料は、一括資料もわずかで、出土点数自体も少ない。10号溝と14号土坑出土資料が、点数は少ないものの、時期的なまとまりを示す可能性がある。10号溝から出土した見込

に藤花を描く磁器中皿は、佐賀県杵島郡山内町窯ノ辻窯に類例がみられる（大橋1994）、1630—40年代に製作されたものと考えられる。14号土坑からは、17世紀後半の上手の磁器中鉢（図25—55）や、色絵鶴型水滴（図25—58）が出土している。後者については、類似資料が、江戸一橋高校地点や弘前城三の丸跡から出土している（今井・会津1981、九州陶磁文化館1984、都立一橋高校内遺跡調査団1985）。後述するように、17世紀後葉から18世紀の初頭に作られた上手の磁器や肥前産の京焼写し陶器が、N期の遺構や整地層から出土する場合があるが、それらはおそらく伝世された品であろう。

【18世紀前葉から中葉】

この時期の資料も、前代同様少なく、時期的にまとまりを有する一括資料はない。N期の15・16号土坑から、18世紀後葉の製品に混じって少量出土する程度である。

【18世紀後葉】

この時期の陶磁器は、N期のゴミ穴である15・16号土坑から多量に出土しており、それらは、該期の陶磁器の組成を考える上で極めて重要である。

磁器は、肥前大橋編年N期のなかでも比較的新しいものを主体とし、若干の伝世品を含む。碗や皿には、いわゆる「くらわんか手」のものが比較的多くみられる（図20—6、図21—10・14、図22—24・27、図23—30等）。くらわんか手の製品にはコンニャク判も多用されているが、輪郭が崩れたものが多く、文様は総じて不明瞭である。高台内に構成の崩れた渦福鉢をもつ碗・皿も比較的多くみられる。図21—11の丸碗は、有田の山内町の筒江窯の製品で、高台内の二重方形枠内に「筒江」の崩し文字鉢を有する。伝世されたと考えられるものには、明末の五彩磁器（図22—20）と、17世紀末葉から18世紀初頭に作られた上手の肥前磁器（図22—21・23、図24—37）がある。前者は、いわゆる「天啓赤絵」に属し、漆黒ぎされた痕跡が認められる。肥前の色絵磁器は少なく、図23—35・222等、小型の製品がみられる程度である。両土坑から出土した磁器のなかで、図23—33の筒型碗や図24—41の鉢は最も新しく位置づけられる。それらの製作年代と、広東碗が含まれない点からみて、一括資料群の下限年代は1780年代頃と推定される。

陶器では、大堀相馬が最も多く、生産地の判明する資料のおよそ半数を占めている。大堀相馬に次いで多いのが小野相馬であり、相双陶器の占める比率は非常に高いと考えられる。相双陶器以外では、京・信楽が瀬戸・美濃を上回る量、出土している。肥前製品は極めて少ない。大堀相馬には、灰釉丸碗〈中型・小型〉（図45—347～349、図49—402～405・409～411）、鉄釉流し掛け灰釉丸碗（図45—351）、灰釉・鉄釉掛け分け丸碗〈大型・中型〉、灰釉腰折碗（図46—360・361、図49—407・408）、鉄釉流し掛け灰釉丸皿（図47—369）、灰釉丸皿〈大型・中型・小型〉（図48—375、図49—419、図50—416）、灰釉輪花皿（図47—371・372、図51—418）、

灰釉猪口（図46-381・382）、灰釉小壺（図46-383）、鉄釉流し掛け灰釉香炉（図46-385）、灰釉・鉄釉掛け分け瓢箪型小壺（図50-424）、鉄釉仏壇器（図51-428）等、多様な製品が認められる。灰釉・鉄釉掛け分け丸碗は、中型のもの（図46-354～357）は腰部に刻線を巡らし、大型のもの（図46-353、図50-401）は刻線を持たない傾向にある。皿類には、見込みに印花文を押す例（図47-369・371・372、図50-416）が認められる。小野相馬には、灰釉中鉢（図48-365・366）、灰釉小皿（図48-373）、火入「香炉」（図46-384）、灰釉灰吹（図46-378）、灰釉・鉄釉掛け分け灰吹（図46-389）、灰釉醤水入（図48-394、図51-430・435）が認められる。碗と皿が主要な器種である大堀相馬とは、対照的な器種のあり方をしており、小野相馬と大堀相馬は、器種の点で、相互補完的な用いられ方がされていた可能性が高い。京・信楽では、色絵丸碗（図45-340～344、図49-397・398）、鉄絵丸碗（図45-345・346）、色絵腰折碗（図46-387）、鉄絵小鏡子（図46-377）、合子（図48-393）が確認された。いずれも、この時期の大堀相馬や小野相馬にはみられない高級器種である。瀬戸・美濃では、灰釉小碗（図46-362・363）、鉄絵大鉢「笠原鉢」（図47-364）、灰釉中鉢（図47-367）、灰釉水注（図48-376）、見込印花文大皿（図50-415）、灰釉水滴（図85-432）が認められた。364の笠原鉢は伝世していた可能性がある。また、415の見込に印花文を持つ大皿に関しては、大堀相馬で写し（図47-369、図50-416）が作られており、それらの範となつた製品である。大堀相馬や小野相馬と一部重なる器種もあるが、主体となるのは、やはりこの時期の相双陶器では一般的でない器種であり、それらを選択的に取り込み、使用していたと考えられる。生産地不明としたもののかでは、鉄絵のある灰釉製品の一群（図46-359、図49-406、図50-429）と、鉄釉を掛けた一群（図50-431、図51-421・422・425、図52-442）が問題となる。前者は、瀬戸・美濃の製品の可能性が高いが、胎土は大堀相馬とも類似しており、未だ実体の判らない、大堀相馬における初現期の鉄絵製品の可能性もある。後者に関しては、技術的には唐津との関連を考えられ、堤の製品である可能性もあるが、18世紀代の堤焼の実体が不明なため、検討することができない。明和6年（1769年）には、「瀬戸物并瀬戸瓦師」であった寺田屋が、親類の瓦師と連名で、「北十番丁雷神堀北堤下」の土地の借用を藩に願い出ており（笠原1996）、遅くとも18世紀後葉迄には、堤において施釉陶器の生産が開始されていた可能性は極めて高い。また、同時に生産されている瀬戸瓦（赤瓦）に鉄釉が用いられている点を考慮すれば、この段階の陶器の釉薬も鉄釉が主体であった可能性は高いものと思われる。

【18世紀末葉から19世紀初頭】

この時期の資料は、IV期の12号土坑、同じく2号池とそれに接続する3号溝、IV期の遺構を覆う3c層から出土している。磁器は肥前のみで、瀬戸の「新製染付」は含まれない。15・16号土坑出土の一括資料との比較では、磁器に関しては、蓋付きの碗（図26-175、図27-142等）

の急激な増加と、それに関連した、碗の口縁部内面装飾（図25—50・63、図26—170、図27—137・138）の流行が、陶器に関しては、鉄絵のある大堀相馬製品の増加（あるいは出現？）、大堀相馬の釉調の変化が指摘できる。大堀相馬の灰釉の変異は大きいが、この時期に、「糠白釉」と呼ばれる半失透系の灰釉が使われ始めたと考えられる。2号池からは鉄釉や長須で走馬文を描いた碗（図53—588、図54—608）が出土しているが、これらに関しては、2号池に重複する1号池の遺物が混入した可能性もある。

【19世紀前葉から中葉】

この時期の資料は、V期の1号池から多量に出土している。磁器は瀬戸が最も多く、肥前がこれに次ぐ。器種との関係をみてみると、肥前と瀬戸は競合する部分も多いが、小型端反碗は瀬戸産が、小型の輪花皿と段重は肥前産が、それぞれ主体を占めるようである。瀬戸と肥前以外では、切込、平清水といった東北地方の製品が若干存在する。切込には、中型端反碗（図28—179、図29—75・180）、広東碗（図29—182）、玉縁の小皿（図34—121）、中鉢（図36—186）がある。平清水には、中型丸碗（図33—107）、中型端反碗（図33—110、図36—160）、玉縁の小皿（図29—72、図34—120）、極小皿（図34—122）、型打の角皿（図31—94）がある。磁器に関しては、切込や平清水は、それらと競合関係にある、瀬戸・肥前という二大生産地の製品が多量に出回ることで、流通量をかなり狭められていたと考えられる。それ以外の産地のものとしては、清朝の小型碗（図30—80）や、畿内で作られた可能性の高い湯冷まし（図34—128）が出上している。陶器に関しては、圧倒的に大堀相馬の比率が高く、堤がこれに次ぐ。大堀相馬では、土瓶と行平鍋（図60—521・522・524～528、図65—556・557）が量的に多く、他に、鉄釉中碗（図63—535）、外面鉄釉・内面灰釉の中碗（図58—479）、鉄釉流し掛け灰釉筒型碗（図58—480）、徳利（図59—505～507、図64—554、図65—553）、水注（図62—509）、カンテラ（図62—508）、灯明皿（図62—513、図67—569）、上鍋（図60—518・519、図61—523）、植木鉢（図58—490）等、多様な器種が認められる。上瓶には、青土瓶（図56—541、図58—621・623、図61—493、図64—542、図65—550）、鉄絵灰釉土瓶（図62—558、図66—567、図64—545・547～549、図65—552）、青釉鉄絵灰釉土瓶（図61—495・496、図62—559、図64—543、図67—475）、鉄絵筒描き灰釉土瓶（図61—497・498、図62—504）、白泥筒描き灰釉上瓶（図61—494、図64—546）等、いくつかの種類がある。堤の製品には、中鉢（図55—537、図59—483）、播鉢（図57—488、図59—489）、植木鉢（図58—491）、土鍋（図60—560）、培焰（図62—532・533・561・562）、秉燭（図64—555、図67—570）等の、日用雑器的な「荒物」が多く、土瓶（図61—501）のような「小間物」は少ない。18世紀代に比較的割合の高かった小野相馬の出土量は激減する。小野相馬製品の激減の背景には、この時期、同じ「荒物」を扱う城下の堤において、急激な生産量の増加が図られたという事情があると考えられる。瀬戸・美濃産の陶器は、陶胎染付の中

碗（図53—590）、小碗（図58—481）、甕（図59—510・511）、玩具（図85—534）等が少量みられる程度である。他には、平清水産の貝須絵灰釉小皿（図63—540・563）や淡路産と考えられる湯通し（図58—529）が確認できた。

（2）土師質土器・瓦質土器（図70～84、図版57～65、表26～29）

土師質土器・瓦質土器は各期の遺構・層から出土しているが、特に1号池や、15号土坑・16号土坑でまとまって出土している。中でも、土師質土器の皿が圧倒的多数を占めることは、これまでの二の丸跡の調査と同様である。皿については、出土量が多いため、法量や切り離し技法が類似する資料については、代表的なもののみを資料化した。また、穿孔がなされていたり、墨書きが認められるものは、全て図化した。これ以外の土師質土器・瓦質土器については、ある程度特徴の判明するものについては、可能な限り図化するよう努めた。併し、同様の資料が、同じ場所から出土している場合には、遺存状態の良いもので代表させている。

土師質土器の皿は、Ⅰ期以降の全ての資料が、ロクロ整形のもので、手づくねのものは無い。ロクロ整形で底部を回転糸切りするA類と、外面と底面にミガキによる再調整を加えるB類に大別できる。B類の皿には、ミガキによる再調整の以前に、ケズリが加えられている痕跡が観察できるものがある。

皿A類は、底部の回転糸切りの技法によって分類が可能である。技法aとしたものは、通常の回転糸切りで、糸切りの痕跡の中心がどちらか一方に寄るものである。技法bとしたものは、中心が底面のほぼ中央に位置し、糸の圧痕かとおもわれるものが、この中心から弧状に伸びるものである（図版65）。

皿B類と、皿A類の技法bは、比較的まとまって皿が出土しているⅠ期の資料には、全く認められない。皿B類が1点だけ基本層5層から出土している以外は、Ⅱ期・Ⅲ期の資料には、両者とも含まれていない。Ⅳ期・Ⅴ期は、土器の出土数自体が少ないので確実ではないが、少なくともこの2者が安定した比率を占めるのは、Ⅵ期以降である。

耳皿は8層から1点出土しているが（図70—710）、残存状態が良くないため確実ではない。この1点以外は、全てⅥ期以降のものである。15号土坑でややまとまって出土している以外は、数は少ない。

焼塙壺は、13点と少なく、その内Ⅰ期のものが6点を占める（図70—711～716）。この内の714・715は、畿内産のものと思われるが、他の4点はロクロ整形で地元産の可能性が考えられる資料である。711・712は、体部が緩やかに弯曲し、2ないし3条の緩やかな稜を形成するものである。716は、この形態のものに、格子目のタタキが加えられている。17世紀後半以降に、仙台藩領内にのみ流通する、格子目タタキの焼塙壺の成立を考える上で重要な資料である。18

世紀以降の資料は、残存状態の良いものがほとんどない。16号土坑から出土している焼塙壺（図74—760）は、口縁部に段の付く印籠形のもので、刻印部分は欠損しているが、最内産のものと思われる。

上師質土器の焰烙が、15号土坑と16号土坑から出土している（図74—763、図77—792）。中空の短い柄が付くもので、柄の中程に小孔が開けられており、木などを差し込んで使用したものと考えられる。これらが祖型となって、軟質施釉陶器の焰烙（図57—619、図62—532・533・561・562、図67—661）が成立するものと考えられる。

遺存状態が良くなく國化したものは少ないが、上師質土器で大型のものとしては、火鉢・擂鉢・火消壺・さなどがあるが、出土量はきわめて少ない。これら以外の上師質土器には、小型で実用品とは考え難い、ミニチュアかと思われるものがある。壺・壺・鉢・擂鉢・杯？・蓋などがみられ、15号土坑と16号土坑から多く出土している。図73—756は16号土坑出土の豆甕で、「御落成」との墨書が認められ、底部に焼成前の穿孔がなされている。建物造営の際の儀式などで、使用された可能性が考えられる。

瓦質土器は、大部分はⅣ期以降の遺構・層からの出土である。それ以前の資料では、火入1点と蓋1点が國化できただけである（図71—718・721）。

瓦質上器では、鉢類が大半を占め、そのほとんどは火鉢と思われる。火鉢には、浅くて口縁部が錫状に広がるもの、深くて口縁部が厚みを増すだけのものに大別できる。前者には、口縁部の下に繩目状の突帯がめぐるものもあり、また法量の点でも変異が大きい。

火鉢以外の瓦質土器では、火入、手炙り、焜炉、蚊遣り、十能などが出土している。16号土坑からは兎をかたどったものが出土しており（図75—765）、内側の底の部分に火熱を受けた痕跡が残ることから、手炙りと考えられる。図74—796は同じく16号土坑出土のもので、焜炉ではないかと考えた。

2号池・3c層・1号池などで出土している蚊遣りとしたもの（図79—835、図80—836、図82—878・879・885）は、ほぼ円形の上半部と、幅広がりの台状の下半部からなり、上半部には円窓が6個、下半部には横長の窓が開けられるものである。底面には三足が付く。内側の底の部分には、火熱を受けた痕跡が認められる。これらには図80—837、図82—880の蓋が伴うと考えられる。同様のものは、宮城県志田郡松山町の上野館跡で出土しており、七輪として報告されている（佐久間光平ほか1993）。上野館跡では、二の丸例と同様なものと、上半部と下半部の境がふさがれ、そこに小円孔が多数開けられた、作りつけのさなになっているものとが出土している。今回の調査出土のものを観察すると、國化しなかった破片も含めて、本体の上半部と蓋の内面には、多量のタール状の付着物が付いている。特に、本体上半部にあけられた円窓と、蓋にあけられた円窓から、外側にはみ出すほど多量のタール状の付着物が認められ、多

量の煙を出す機能が想定されることから、蚊遣りの可能性を考えた。すなわち、本体上半部と下半部の境の狭くなった部分にさなを置き、その上に置いたものを、下半部に入れた炭で熱して、煙を出す構造と考えられる。

(3) 土製品・人形（図85～87、図版66・67、表25）

図85の432・534・901～905は施釉陶器で、集計表・観察表、および記載は陶器に含めていい。本来は別にすべきであろうが、図面の縮尺の関係から、図は土製品・土人形と一括した。ここでは、これら以外の土師質の土製品・土人形について触れる。

土製品・土人形は61点出土しているが、IV期以降の出土が多く、I～III期のものはわずかである。15号土坑と3c層でやまとまって出土している以外は、いずれの遺構・層でも多くて数点の出土に留まる。

土人形には、人間を表したもの以外では、猫・犬・猪・馬・猿・魚などが認められる。このうち、猿などを表したもの（図86-907・910～912、図87-928・937）は、胴体に手足などの部分を接合して製作された、手づくねのものである。これら以外の土人形は、型作りで、大型のものは中空になるが、小型のものは中実である。土製品では、鉛以外のものについては、用途を明確にはできなかった。鉛には、中実のものが1点あり（図86-913）、形だけを模したものである。これ以外は中空で、中に土玉が入っており、鳴らすことができるものである。

(4) 瓦

分類・集計・計測の方法は年報6・7に基本的に準じているが、年報6でふれたように、これまでの平瓦類の分類基準では、弯曲のある破片と全く平坦な破片を一括してしまい、全く平坦なものの分布を把握するのに問題があった。今回はその点を改善するため、弯曲をもつものと全く平坦なものを区別し、前者を平瓦1類、後者を2類として集計した。

全体的な出土傾向をみると、基本層では8層・北区7a～d各層から10点前後の出土がある。II期とIII期の間に盛られた4～6層からは殆ど出土していないが、これらの層は重機で掘っているため、必ずしも正確な傾向を示してはいない。3層になるとそれまでとは比べものにならない多量の出土がみられる。

遺構から瓦の出土がみられるのは8層上面のIb期からで、III期まではごく少量にすぎない。IV・V期に爆発的に出土量が増え、VI期はまたさほど多くない。個別の遺構では、IV期の14号土坑・2号池、V期の1号池から際だって多量の出土がみられる。

以下種類毎に特徴をみていくことにする。

【軒丸瓦類】(図88~90、図版68・69、表30)

70点の出土がある。瓦当文様には三引両文(35点)、九曜文(23点)、連珠巴文(9点)、巴文(3点)があり、菊花文がないのを除けば、構成は第5地点と変わらない。瓦当直径は、三引両文が13.5~19.0cmと幅が広く、16cm台を空白として数値の分布が分かれる。九曜文では15.2~17.6cmで土体は16~17cmにある。連珠巴文では、3点のデータで16.5~17.4cm、巴文は2点のデータしかないが、17.3~17.5cmとまとまっている。

巴文はいずれも左巻きの三ツ巴で、珠文数は二の丸跡出土例の中では最多の21個のものがみられる。

【鳥伏間】(図90、図版69、表40)

九曜文のものが大小2点認められた(127・128)。

【軒平瓦類】(図91・92、図版69・70、表32)

41点の出土がある。頭幅のわかるものは4点で、平均して24.8cmである。平瓦部の長さのわかるものは2点で、27.1cmと32.5cmのものがある。図91の22はⅣ期2号池出土で1点だけ全体に鉄釉が施された瀬戸瓦である。

瓦当文様の分類と名称も第5地点の報告(年報6)に従っているが、これまで未知であったものには新たな名称をつけている。

文様構成では、雪持笠+唐草2類の構成のものが11点で最も多く、その中でも細葉が8点を占める。最も古い例はⅢ期の10号溝掘り方から出土した細葉の図91-37である。

次いで多いのが7点の唐草1類の組み合わせで、組み合う中心飾りの種類が他地点に比べて多様である。図92の26は三引両、27は三枚笠であるが上部に一本線が付加されており、これを雪持笠における雪の表現の退化形態ととらえて、雪持三枚笠と考えておきたい。31は隅切折敷の中に三の字を配したもので、笠原(1996)によれば、4代藩主鍋村夫人仙姫の実家である小田原藩主鍋氏の家紋であり、同論文には軒丸瓦の瓦当文様に用いられた例が紹介されている。30は第4地点に出土例があり、星文の可能性も考えていたが、軒棧瓦105ではこの中に蕊の表現があり、五弁の花(陰桔梗)を表現したものである。この例から、30や第4地点の例は、本来の陰桔梗文から蕊が省略されたものとみなせ、星であって陸軍と関係するとの想定はできないことになる。今回、蕊のあるものを陰桔梗1類、蕊の省略されたものを陰桔梗2類とした。陰桔梗は、3代藩主鍋宗の側室であった三澤初子の出た三澤氏の家紋であるとのことで、初子の靈屋周辺から、やはり唐草1類と組み合わせて軒平瓦に使用された例が採集されている(笠原1996)。

唐草3類では3a類2点と3b類1点、細分不明が3点で少量である。中心飾りが唯一判明する図91の36はⅢ期の6号溝出土で、37と並んで今回の出土例では最も古い時期の出土であ

る。唐草4類・5類は各1点の出土しかなく、中心飾りも不明である。

図92の20・24・38・39はこれまで仙台城関係では知られていなかったものである。

20は、文様構成の原則が二の丸の主体を占めるものとは異なっており、類例を求めるに、いわゆる江戸式と呼ばれているものの系譜をひくと考えられる。これまでの分類にあてはめることができないので、当面「江戸式」と仮称しておきたい。

39は二の丸では珍しい三角形の瓦当面をもつもので、四弁花を中心飾りとし、唐草文も1～5類にはあてはまらないので、新たに唐草6類とした。この形態のものは第7地点でも出土しているが、文様は異なっている。24・38は文様の全体構成も推定できない。

【軒棟瓦】(図92・93、図版69・70、表35)

明らかに軒棟瓦と確認されたのは29点である。小巴部分の瓦当文様には、軒丸瓦にみられる4種類の文様がすべて使用されていることが確認された。量的には巴文が13点で群をぬき、その他は1～2点である。その他に無文(万十)が7点と約4分の1を占める。垂れ部分の文様では唐草1類・2類・5類が確認され、小巴に九曜文、垂れに陰桔梗1類+唐草1類の組み合わせが確認された(図92-105)。図92の103は無文のもので、凸面側に宮の字と漢数字(五?□)を組み合わせた刻印がある。

【九瓦類】(図94～97、図版71・72、表31)

計測可能なものは45点出土している。玉縁を含んだ全長では26.8～31.1cmのものがあり、29～30cmを主体としている。平均すると29.5cmである。V期1号池、IV期2号池、14号土坑、16号土坑からの出土が多いが、時期による大きさの変化は特に認められない。

【平瓦類】(図98～99、図版72・73、表33・34)

平瓦1類の計測可能なものは28点である。頭幅で最小のもの12.6cmを除くと平均23.8cm、尻幅で平均24.8cm、長さでは同27.4cmである。図98の58は、凹面と凸面の周縁部に鉄軸が施されたものである。

平瓦2類では長幅いずれか計測可能なものが13点あり、幅は平均28.5cm、長さの平均38.1cmである。長さの計測可能だったものは2点で、数値が後に述べる板擣瓦のそれに近く、また溝も確認されることから、その破片である可能性が高い。

【棟瓦類】(図100・101、図版73・74、表36)

計測可能なものは11点で、全長では23.7～38.7cmの幅があり、幅では23.0～34.3cmまである。長幅とも判明するものでは、38.7cm×34.3cm(図100-99)、24.8cm×29.2cm(図100-100)の組合せがある。

図101の97は引掛棟瓦で、凸面に「宮五六」の刻印がある。102は板状の突起(水返し?)がつけられたもの。

【板張瓦】(図102~106、図版74~76、表37)

3b層、1号池、2号池を中心としてまとまった出上がある。計測可能なものの、図示したものは1号池を主体とする。棟のないものは平瓦2類に含まれている可能性があるが、全体が明らかなものは確認されなかった。棟の断面形状では長方形と山形があるが、長方形のものが殆どで、すべて左棟である。各部の計測値もばらつきが小さい。平均すると全長37.6cm、全幅32.6cm、棟幅5.8cmとなる。釘穴は3個のものと2個のものがある。棟とは反対側の長辺に沿って断面V字形の溝がまっすぐに刻まれる。図106の112は1点のみ山形・右棟のもので、上端にも棟状の突帯がつけられ、その部分に釘穴がうがたれている。

【T字瓦】(図106、図版76、表43)

平坦な長方形の部分の中央、ないし中央と一短辺に突起をつけた形状のものをT字瓦と仮称している。棟のない板張瓦と組み合わせて使われたと推定しているものである(年報6)。全体の明らかなものはないが、3号柱列柱2、1号池、2号池、15号土坑から計8点確認された。大きさの変異は小さく、平均して全幅9.4cm、突起幅2.6cmである。

【輪違い】(図106・107、図版76、表39)

輪違いと確認できたのは6点で、計測可能であったのは図示した2点のみである。

【面戸瓦】(図107、図版76・77、表38)

確認された45点のうち32点が、Ⅳ期の14号土坑からまとめて出土している。

【冠瓦】(図108、図版77、表44)

101は明確な稜線をもたず丸みをもった形状のもの。屈曲部に小さく玉縁状のものがつけられている。149は稜線をもち、中央が最も厚く、部分によって厚みに大分違いがみられる。

【棟瓦】(図109・110、図版77、表41)

図109の130は板状の棟がつくもので、棟の切れる側の辺に釘穴が1個うがたれている。129は山形の棟のもので、片側に垂れがつけられている。図110の131は、凹面側の端の一部に板状の突起がつけられ、その外側に釘穴が少なくとも3個うがたれたものである。

【その他の瓦】(図110~112、図版77・78、表42・44)

図110の146は片面に筋状の筋がつけられた平坦な破片である。148は鬼瓦に組み合わせられるものであろうか。片側に櫛目がつけられている。132は谷丸瓦である。

図111の132・133は平坦な長方形に作られた楕斗瓦で、132は3個の釘穴がうがたれている。

図111の138・139・140・151は鬼瓦の破片と考えられる。138には鱗状の文様があるので鱗であろう。140は円柱状の突起がつけられる。

図112の142は突起のついた弯曲のある破片、143は片面が弯曲した細いもの、145は平坦なもので斜めに分割されているようである。いずれもどのような用途のものか不明である。144・

147は平面三角形で、2～3ヶ所の釘穴を有する。縫などの谷部分に使用したものであろうか。

【刻印のある瓦】(図113、図版79)

多種が認められた。大部分が二の丸跡では未知だったのである。具体的な人名や屋号を示すとみられるもの、片假名1文字のものなど、「文字型」が多く多様である。同一個体の2ヶ所におされたものも4点確認された。48・91・92は2ヶ所とも同種のもので、91はさらに「ヨ」が二つ組になっている。109は異なる種類のものがおされている。

丸の中に山(^)と守の字を重ねたもの(41・43・56・57・61・73・83・85・93・109・146)が多く出土しており、特筆される。第5地点出土の121(年報6回88)は報告時には全形が不明であったが、今回の出土例によりこの類であることが明らかになった。

刻印のおされた瓦の種類をみると、平瓦2類が圧倒的に多い傾向がある。

棟瓦にみられる「宮+漢数字」の刻印は3点で、2点は五六と組合い、残りの1点も五六の可能性が高い。

(5) 木製品・漆塗製品

整理作業の便宜上、木製品・漆塗製品や竹製のものも一括して処理した。木製の杭と加工木については集計のみで、図示したものはない。杭は、角杭と丸杭に分けて、点数を集計した。加工木は、板材・角材・丸材・細片に分類して点数を集計した。横断面の短辺と長辺の比率が、おおむね1:2より大きいものを板材、それより小さいものを角材とした。屋根材に使われたと考えられる杉の樹皮が、1号池を中心に膨大な量が出土しているが、現場で水洗の上、特別な加工のみられないものは、現地で廃棄している。木羽については、調査時の取り扱い方法の記録が残っていないため、取り上げられたものの重量を計測して集計表に掲載したが、量が少なすぎるため、杉皮と同様に扱い現地で廃棄している可能性も残るが、確実ではない。

木製品・漆塗製品は、Ia期とIb期の、8層、16号溝埋土、16号溝の埋まつ後の窪地を埋めている7a～7d層と、IV期の15号土坑、16号土坑、2号池、V期の1号池からまとめて出土している。これら以外からの出土量はきわめて少ない。特に、16号土坑と1号池からの出土が大半を占める。

漆塗製品で、うるみ漆としたものは、褐色を呈するものであるが、色調には微妙な変異がある。黒に朱、あるいは紅殼を混合した「うるみ」と呼ばれるものの可能性が考えられることから、うるみ漆?として記載した。

【櫛】(図114、図版80、表46)

齒の部分の小片を除く、9点を図化した。漆塗りのものが3点あり、内2点は、朱・銀で文様を描いている。他のものは白木である。188は、齒の部分と棟の手に持つ部分が別作りで、

組み合わせ式のものである。187は同様のものの、棟の部分と思われる。観察表の法量は、aが横の幅、bが縦の長さ、cが縦の長さの内、歯の部分を除いた長さである。() 内は残存値である。

【下駄】(図115~118、図版81~84、表47)

25点出土しており、下駄と判断できる全ての資料を図化した。I期の遺構・層出土のものが10点、16号土坑が8点、15号土坑が1点、1号池が6点である。一木から台と歯を切り出した連歯下駄、別材で作った台と歯を組み合わせた差歛下駄、歯をもたない無歛下駄に大別できる。差歛下駄は、台の表に歯のはぞが露出しない陰卯差歛下駄が1号池に3点認められる以外は、いずれも台の表に歯のはぞが露出する露卯差歛下駄である。無歛下駄としたもの(図118-186・213)は、歯を削り出していない扁平なもので、側面底部側を半月形に削るものである。2点とも1号池の出土である。前の緒孔だけがあけられており、後ろは両側それぞれに、2個の小さな釘孔が残っている。鼻緒は、前は孔に通し、後ろは小さな釘2本で止めたものと考えられる。連歛下駄・差歛下駄は、台の形状で丸形と角形に分けた。

塗りのものは、16号土坑・15号土坑・1号池から各1点の、計3点出土しており、I期のものには認められない。図117の72・136・137は同一個体の露卯差歛下駄である。72が土圧で大きくゆがんでいたため、接合して図化することができなかったので、別々に図化したものである。図117の144は、15号土坑出土の連歛下駄で、前の歯が先端まで続き、緒孔の部分の裏面が方形に削り込まれるものである。図118の151は、1号池出土の陰卯差歛下駄である。

この3点の他は、全て白木の下駄である。16号溝から出土した図115の33・34は、一对になるもので、大きさから見て子供用であろう。

【箸状木製品】(図119、図版86、表45)

白木の箸状木製品については、出土個体数を算出し、それらの特徴を抽出する目的で、両端もしくは一方の端が残っている資料を対象に、属性の観察を行った。したがって、両端が残存していない資料については、集計の対象からははずれることとなる。両端が残っていない資料のみが出土している場合、箸状木製品の有無が問題になるが、分析上の大きな問題は生じないと考えられることから、このような方法を採用した。ほとんどが16号土坑から出土しており、他にI期の8層・16号溝・7層から出土している以外は、ごくわずかである。両端の形状が判明するものも、これらの遺構・層出土のものに限られる。

先端形状は、特に加工を加えず切断面を残すもの(A類)、先細に作り出すが切断面を残すもの(B類)、先端を尖らし切断面を残さないもの(C類)、ヘラ状に作り出すもの(D類)の4類型に分けた。完形品での両端形状の組み合わせは、5類型が確認された。AA類355点、AB類1点、AC類3点、AD類5点、CD類1点、DD類1点で、圧倒的にAA類が多い。

一方の端のみ残存している資料でも、A類の比率が極めて高い。整形については、丁寧な整形が行われ断面形が円形を呈するものを良とし、整形があまり行われず面が残るものを不良とした。資料化にあたっては、各類型の代表的な資料を提示した。

8層・16号溝・7層から出土している資料は、数が少ないと、変異が大きい。両端が残るものではAC類1点(272)、AD類2点(273・276)、BB類1点(274)で、AA類がみられない。275は断面が方形のものである。

16号土坑出土のものでは、AB類1点(289)、AC類3点(285・290・291)、AD類3点(277・295)、BB類1点、CD類1点(282)、DD類1点(292)が認められる以外は、355点がAA類で占められる。AA類の長さを見ると、ほとんどが19cmから22cmの間におさまる、21cm前後に集中する。長さが22cmを越えるものは、280の1点だけである。17.6cmのものが1点認められる以外には、19cm以下のものは無い。したがって、16号土坑出土のAA類の箸は、ほぼ7寸に統一されていると考えられる。二の丸跡第5地点の元禄年間を中心とする資料では、AA類は8寸前後に集中していたとの明確に異なる。また、281・286・287は竹製のもので、整理作業の便宜上箸状木製品に含めたが、串の可能性が高い。

塗刷りの箸は、16号土坑・1号池・1号溝で出土しているが、計11点と数は少ない。全面朱塗りのもの(69)と、上端付近だけに朱塗りを施すもの(182)がある。

【膳類】(図120～122、図版84・85、表48)

各種の膳、三方、折敷と思われるものを、膳類として一括した。15号土坑から盤の部分の可能性がある破片が1点ある以外は、16号土坑と1号池から出土しているだけである。小破片を除いたものは全て図化した。

図120～110と図121～158は、2枚の板状の足が付く両足膳の盤の部分である。図120の89・90・102・130と、図122の165・201・202が、この両足膳の足の部分になると思われる。足には同様の形態で、白木のものと塗刷りのものの両方が認められる。足の上部には、1ないし2ヶ所に、方形の切り欠きが認められる。両方の足の間に、盤に接して、補強のために、1本ないしは2本の細い角材が渡されていたものと考えられる。図122～202には、2ヶ所の方形の切り欠きの外側に、上下に溝が彫られており、大きなものは、両方の足の間に板を渡す場合もあったことが知れる。

図121の179は、裏面に方形にめぐると考えられる、彫り込みが認められ、筒状の足が付くものと思われる。図122の173は、残存する部分には、足が付いていた痕跡が認められないものである。

【曲物】(図123、図版87、表49)

側板が残存しており、明らかに曲物と判別可能なものを曲物として集計した。16号土坑

と1号池から出土している。次の円板状木製品に、曲物の天板もしくは底板が多く含まれているものと考えられ、実際の数量はかなり多くなる可能性が残っている。底板もしくは天板に、側板が付いて残っているものを実測した。側板のみのものは、一周が残存するものと、焼印が認められるものを実測した。

【円板状木製品】(図124・125、図版87・88、表53)

平面形が円形で、薄い木製品を一括したが、直径では5cmから16cm前後まで、変異幅が大きい。大半は、曲物の底板もしくは天板と考えられるが、小さいものは、提灯の上下両端の板になる可能性もある。中央に小孔を持つものがほとんどである。後に触れる桶・樽類の天板・底板と考えられるものは、厚さが1cm以上であるのに対して、この円板状木製品の厚さは0.2~1.2cmである。厚いものについては区別が困難であるが、大多数のものは厚さ1cm以下である。16号土坑と1号池からまとめて出土している他、15号土坑から2点出土している。各遺構内で、法量が類似するものについては、代表的な資料のみを図化した。側面に木釘が残ったり、釘孔が観察できるものがあり、側板を止めるためのものと思われる。

中央に小孔が認められる例が大多数を占めるが、図124-120は、他のものと比べるとわずかであるが径が大きく、形が整っており、意図的に穿孔された可能性が高い。他のものは、孔の形態が整っておらず、反対側まで貫通していない場合が多い。図124-115のように、中心からはずれた所にもう一つの孔がみられ、そこを中心とした円が、針か刃物のような道具で刻まれている場合が見られることから、これらの小孔は、円形を描くための、コンパスのような道具の一端を刺した孔の可能性が強い。

【栓】(図125、図版88、表54)

栓は10点出土しており、全て図化した。45は7d層出土のもので、両端の径がほとんど変わらないため、栓でない可能性も残る。他は16号土坑と1号池出土のものである。210は、細い側の端近くに円孔があけられており、栓であるとすれば用途の理解に苦しむ。あるいは、栓以外のものになるのかも知れない。

【桶・樽類】(図126~132、図版89~95、表50)

桶もしくは樽の類になると思われる、弧状に整形された側板を並べて、たがでとめたものである。側板の保存状態が良くない場合は、天板が伴っていたかどうか判断が難しい。そのため、桶・樽類として一括した。集計にあたっては、側板は接合するものでも、板の数で集計した。16号土坑出土の側板の数が多いのは、接合するもの多いためで、個体数が多いわけではない。また、天板・底板についても、孔が残っていたり取っ手の付くものなどは天板と判断できるが、それ以外のものでは天板か底板かを判断することは難しいため、天板もしくは底板としてまとめて集計した。16号土坑と1号池から多く出土しており、特に天板・底板は1号池か

らの出土が目立つ。これ以外の出土量はごくわずかで、Ⅰ期の造構・層からは出土していない。

側板については、接合するものや、角樽の取っ手の部分など特殊なものや、焼印が認められるものについて図化した。底板もしくは天板については、法量が類似するものは、代表的な資料のみを図化している他、焼印の認められるものや取っ手の付くものは、全て掲載した。図127の224・225は、出土状況から、側板と底板・天板が伴うことが明らかなものであるが、いずれもゆがみのため、組み合わせて実測できなかったので、別々に図化したものである。

【その他の木製品】(図133~141、図版96~101、表54)

上記以外の木製品を、ここにまとめたが、種類や用途が分からぬるものも多い。以下、簡単に気づいた点について触れる。

図133の189・190・193・197・255は、削り抜きの容器である。197には口縁近くに方形の孔が穿たれており、柄杓の可能性がある。44は16号溝出土のヘラ状のもので、片面には刃物で付けられたような傷が認められ、その裏側が焼けている。その形態から、蒲鉾板と考えた。刃物のような傷は、蒲鉾を盛る時か、はがす時に付いたもの可能性が考えられる。

楔は図134に示した以外に、217・218とはほぼ同じ大きさのものが、同じ1号池埋土⑦~⑨層において6点出土している。図134の43は7d層出土のもので、形態から荷札ではないかと考え、詳細に観察したが、墨書の痕跡は見い出だせなかった。図134の203は、脚部の部材で、将棋盤のようなものの脚部であろうか。

図135の108・206は八角形の平面形を呈する板状のものであるが、どこにも他の部材を接合した痕跡が確認できない。図136の49・104は枕状の製品であるが、先端に近い部分に、釘が打たれているものである。

図137の198は、それぞれの部材を止めた木釘が破損して別々になっており、破損した釘が邪魔になって組み立てられないが、本来は箱状の同一の個体である。図136-196・199・204、図137-195・205も、箱状の製品の部材であろう。199・205の焼印、あるいは用途不明の図139の216に付けられた焼印は、いずれも桶・樽類に付けられた焼印と共通するものである。

図139の212は、便所の金隠し板かと思われるもので、両側の幅が変わる部分に、斜めに釘が打たれた跡が残る。

図140の200は、断面逆台形の箱状のもので、上面には一辺にのみ釘孔が残るが、下面には各辺に釘孔が認められる。111は、引き出し状のものであるが、側板の上面・下面ともに釘孔などは認められない。

図141の207は、矢印状の平面形のものの周りに板が付く大型のもので、表面には樹枝状の溝が刻まれている。直線的に突き出す部分をまたぐ形で付けられる側板には、この溝の部分が切

り欠かれており、溝も突き出す部分に伸びていく。何かの液体を注いで使う道具であろうか。

【漆塗椀・皿】(図142~145、図版102~106、表51)

I期の8層・16号溝・7層と、16号土坑・1号池からまとめて出土している。これら以外のものは、15号土坑・3c層・1号井戸などでわずかに出土しているだけである。同種のものでも、可能な限り資料化することとした。遺存状態が良くなくとも、文様などが明らかなものについては、写真だけでも、できるだけ掲載するようにした。

I期の造構・層出土の漆施については、身と蓋の区分に苦慮した。図143の12・13は、内面に文様を持つ点から、蓋の可能性も考えたが、部体の立ち上がりが大きいため、身としたが確実ではない。I期の椀の身は、高台が高く腰が張るものが多いが、高台が低いものも含まれている。蓋は、高さが低いものが多い。内面あるいは外側に、細い線を全体に配し、その中に笹や千鳥を描くものと、丸に三引両文と寿あるいは草文を組み合わせたものが主体を占める。高台内に「一」を朱漆で描くものが多く見られ、十字状の線刻を入れるものも多い。しかし、これら以外の、文字を使った高台内銘、あるいは蓋のつまみ内の銘を入れるものは、このI期の資料にはみられず、次に述べる16号土坑などII期以降の資料に認められる。皿は3点が図化できたが、大きさはそれぞれ異なっている。図145の18は、椀の蓋と形態が似ているが、外側が朱漆のみで文様が描かれないことから、皿と判断した。内面には、三引両文違いと草文を配する。24は内面に瓜と思われる文様を描く。27は、遺存状態が良くないが、かなり大きくなるものである。

16号土坑の椀の身は、高台が低いものが増えたが、高台が高いものもある(図144-52・54・60・66)。腰部に稜線を形成するものや、浅いものも存在し、器形の種類が増えている。蓋は背の高いものがほとんどである。文様は、身・蓋とともに家紋を配するものが多い他、竹文、梅文や鷺の羽文に羽根帯文、鶴に亀文などがみられる。図144の143は、15号土坑出土のもので、桜花と輪違い散らし文が描かれる。146は3b層出土のもので、内外面朱漆のうえに、高台に明るさの異なる朱漆で線を引くものである。皿は2点を図化できた。図145の67は朱と金で松竹梅文を描くもので、あるいは盆とするべきかもしれない。

1号池出土の椀は、保存状態が全体に悪いが、高台の高いものはみられず、全て低いものである。蓋には、扁平なもののが存在する(図145-176)。身・蓋とも、文様を描くものが少ない。175は、地が朱漆の上に、黒漆で網目文を描くもので、朱漆の地に黒漆で文様を描くものは、これ1点のみである。皿は小型のものが1点出土している。

【その他の漆塗製品】(図146~150、図版107~110、表52)

上記以外の漆塗製品を、ここにまとめた。可能な限り資料化に努めたが、板状のものに漆が残っている程度のものは図化していない。漆膜のみが残っているものについては、文様が認め

られるものについて、写真だけを掲載した。16号溝・7層と、16号土坑や1号池からの出土がほとんどで、それ以外からの出上はわずかである。

図146には、比較的小型のものを集めた。9は、削り抜きの容器である。形態から、椀とは異なるものである。26は椀状の破片であるが、口径がかなり大きくなる可能性があり、盃のようなものの口縁部の可能性がある。28・157は合子状の容器の蓋である。172と181は、板状の破片で、黒漆の地に文様が描かれているものである。152は小型の製品で、縁の部分は金色に塗られている。何かに付けられた飾りの部分であろうか。174は四足膳の、足の部分の可能性がある。75はヘラ状のもので、側面に固まりになって漆が付着しており、製品というよりは、漆を塗る際に使用された道具の可能性がある。149は杓子、150・155はヘラ状のもので、155はしゃもじ状の形態を呈する。

図147の74と270は、鏡箱である。178は、縁の端面が金色に塗られたもので、あるいは重箱の側板になるかも知れない。図148の156は、箱枕で、a～cの部材に分かれているが、同一の個体である。163・164は箱状製品の部材であろう。図147の153・154と図148の159・180は、台か足の部分の部材であろう。図149の160は、大きな箱状部材と考えられる。図150の161は、大型の板状のもので、裏面の縁に部材のはがれた跡が、表面には井桁状に部材の痕跡が認められ、取っ手の可能性がある。この取っ手の難ぎ目に黒漆が認められるだけなので、木製品に含まれた方が良いかも知れない。表面の中央に、黒漆で「魚」と書かれており、魚を入れる箱の蓋であろうか。

(6) 金属製品

全体的な出土状況をみると、基本層では、2層に釘を主とする各種製品がやや多い他は、さほど集中しない。遺構では1号池、15号土坑、16号土坑から比較的まとまった出土がみられる。釘は和釘と洋釘に分けて集計している。洋釘がⅢ・Ⅳ期の遺構からも出土していることになっているが、遺構をうまく掘れず混入した可能性が高い。

古銭・煙管は出土資料のすべてを登録し、可能な限り図化しているが、その他については残存状況のよいものを任意に選んで登録・図化している。

また素材に関しては、銅とその合金を正確に区別することができなかったため、合金の可能性のあるものもすべて銅と記載している。実際のところその大部分は真鍮などの合金の可能性が高いと考えられる。

以下、古銭・煙管・その他に分けてみていく。

【古銭】(図151、図版111、表55)

渡来銭、寛永通宝(古・新)、銀錢?、雁首銭、明治二分金、一銭銅貨、半銭銅貨があり、

合計66点が出土した。

層位・時期毎にみると、I期の遺構及び7層以下からは寛永通宝の出土がみられないことが明確である。遺構ではIb期の16号溝から渡来銭・銀鏡？が、N期の16号土坑から寛永通宝がまとまって出土している。

【煙管】(図152・153、図版112、表56・57)

雁首33点、吸口26点、雁首か吸口か不明のもの2点の合計61点の出土がみられる。雁首・吸口ともに、3号柱列、1号池、16号土坑、15号土坑からまとめて出土している。

形態分類は年報6に従い、2本の管を接続して成形し肩がつくI類と1本の管で成形され、肩のつかないII類に分け、脂返しの形状によって細分している。I類のうち90のように脂返しの部分が極端に短く屈曲のないものはこれまでの分類にはなかったため、新たにIC類とした。また、75は火皿の接合部に補強帶をまわしたもののように見えるが、実物の観察からは火皿と一体の可能性が高いと考えられるため、接合方法の2類に分類している。

雁首では、図152の66～69が二の丸造営前の17世紀前半のもので、いずれもI類である。II～III期のものがないが、IV期の15・16号土坑になると殆どII B類となり、3c層の段階でII C類が出現し、その後その比率が大きくなるという傾向がみてとれる。82は線刻による施文がみられるが、何を表現しているのか判然としない。

吸口では、I～III期の資料としてはIb期の図153～99しかなく、時期的な変化は明確でない。

99は全体に細身でくびれのない形態を呈している。101には葉のついた枝、109には朴葉のような大きな葉を2本組み合わせ円形にした意匠の文様が彫刻されている。82には細かな直線と曲線から成る文様、113にも曲線と魚々子による文様がみられるが、残りが悪く、意匠やその技法についてはよくわからない。

【その他の金属製品】(図154～157、図版113～115、表58)

図154の128・130～133・135は簪で、細かい菱鉢があって形もバラエティに富んでいる。耳搔きがつくものとつかないもの、文様が両面にあるものと片面のものがある。132は房のついた組を結んだ状態を模したとみられる文様が両面に施される。133は片面に目盛り状に刻みがつけられている。上部に穿孔があり、輪が通されている。

137・138は両区で茎があり別作りの柄がつけられる小刀、139は柄まで一体に作り出された小柄である。140・142は鍔で、141・180は目貫と考えられる。141は薄く平坦で、中心に穿孔があり半分に折れている。たがねにより細かい文様が刻まれている。180は立体的で花をかたどったものとみられる。裏面に突起がある。

図155の143は鍔で、木柄と釘で接合している。木質の上から押された金具のごく一部も残存

している。145は炭挟み、144は火箸で上部が細かな平行線で装飾されている。146はさな状の穿孔ある円板、147は畝状の凹凸が片面につけられたてのような製品である。148は門扉等の側面に差し込んで使用された蝶番の一部、図156の153・154は木質に釘で取り付けられた状態の小型の蝶番で、よく似ており同じ製品の一部とみられるが、互いには組み合わない。筒状部内には棒が残っている。151は小札であろうか。

149は鮮やかな金色を呈している。櫛等の縁を補強し装飾したものであろう。150は半裁した木瓜形で、一辺に差し込むための爪が作り出されている。152は宝珠形の部分に輪をつけベンダント・トップ状に加工したものである。

155～157は家具の脚や縁に付けられる金具とみられ、いずれも細かな文様が打ち出されている。158も家具の飾りであろう。159は釦隠しのようなものであろうか。

161は先の尖った鉤状のもので他端に穿孔がある。162は鎌。163・164はバッカル様のもの。165は鎌あるいはフックと対になる金具であろうか。166は火打ち金の可能性がある。

図157の181は銅釦。172は鍋の取っ手。183～185はいずれも3c層出土で、184は定かでないが、鐵鍋である。図示していないが屈曲率が違う別個体とみられる破片が存在する。183は直径24cm程と推定される。

167～170・174～179はなんらかの部材とみられるが、用途不明である。

(7) 石器・石製品

【石器】(図158、図版116、表59)

石器は17点出土しており、石匙1点、石核2点、フレーク10点、チップ3点、磨製石斧1点である。I期の遺構・層位からの出土が多い。フレーク、チップ以外の遺物は全て図化した。剝片石器の石材には、頁岩・流紋岩・玉髓・碧玉が認められる。これまでの二の丸跡の調査では、今回の調査地点に近接する第4地点(年報5)で、石器や繩文土器が出土しており、この周辺に繩文時代の遺跡が存在しているものと考えられる。

【石製品】(図158・159、図版116・117、表59)

火打ち石と考えられるものが7点出土しており、全てを図化した。I期からV期にいたる時期のもので、特に集中する場所は無い。いずれも、稜線に細かなつぶれ状の剥離が認められることから、火打ち石と判断した。玉髓製が5点、水晶製が2点である。

硯は19点出土している。3c層からの出土が4点と、やや多いものの、特に集中して出土しているところは認められない。その内、全体の特徴が判明するものや、特殊なものを資料化した。14は、裏面に梅と思われる花を線刻する。15は海にあたる部分の裏面に、横方向に溝を刻むものである。16は裏面の線刻から、滋賀県高島郡安曇川町周辺で生産された、高島硯と考え

られるものである（垣内光次郎1994）。また、集計表で不明としたもののはほとんどは、硯もししくは温石の破片と考えられる、板状の粘板岩の破片である。

I2は写真のみを掲載したが、石英安山岩質凝灰岩を、円盤状に加工したもので、上下両面に焼けた痕跡が残る。

上記以外の石製品としては、墓石、戸車？と、文字を線刻した用途不明品が、それぞれ1点出土している他、資料化はしなかったが、雲母の破片が2点出土している。明確な加工痕跡は認め難いが、端部が直線的に切断されている可能性も残る。香をたく時に火の上におく銀葉（香敷）の可能性もある。

(8) 骨角製品（図159、図版117、表59）

3点出土しているだけである。B1は骨角製かと思われるもので、簪の先端にある耳搔きの部分であろう。B2は鼈甲製の可能性があり、櫛になるかと思われるが、確定ではない。残る1点は、鼈甲製の簪の可能性の考えられる小片である。

(9) ガラス製品（図159、図版117、表59）

明治以降のものが多く、江戸時代の遺物はきわめて少ない。江戸時代の遺物と考えられ、ある程度特徴が判明するもの5点を、資料化した。それ以外は、小片か、あるいは明治以降の遺物と考えられるものである。江戸時代の造構・層位から、ビール瓶や板ガラスなどが出土しているが、混入であろう。G1～4は15号土坑出土の簪と考えられるもので、いずれも褐色を呈する。G5は管状のものの破片で、これも褐色を呈する。

(10) その他の遺物

その他の遺物としたものは、全て明治以降のものである。革製の軍靴と思われるもの、ガラス製や金属製のボタンなどが出土している。

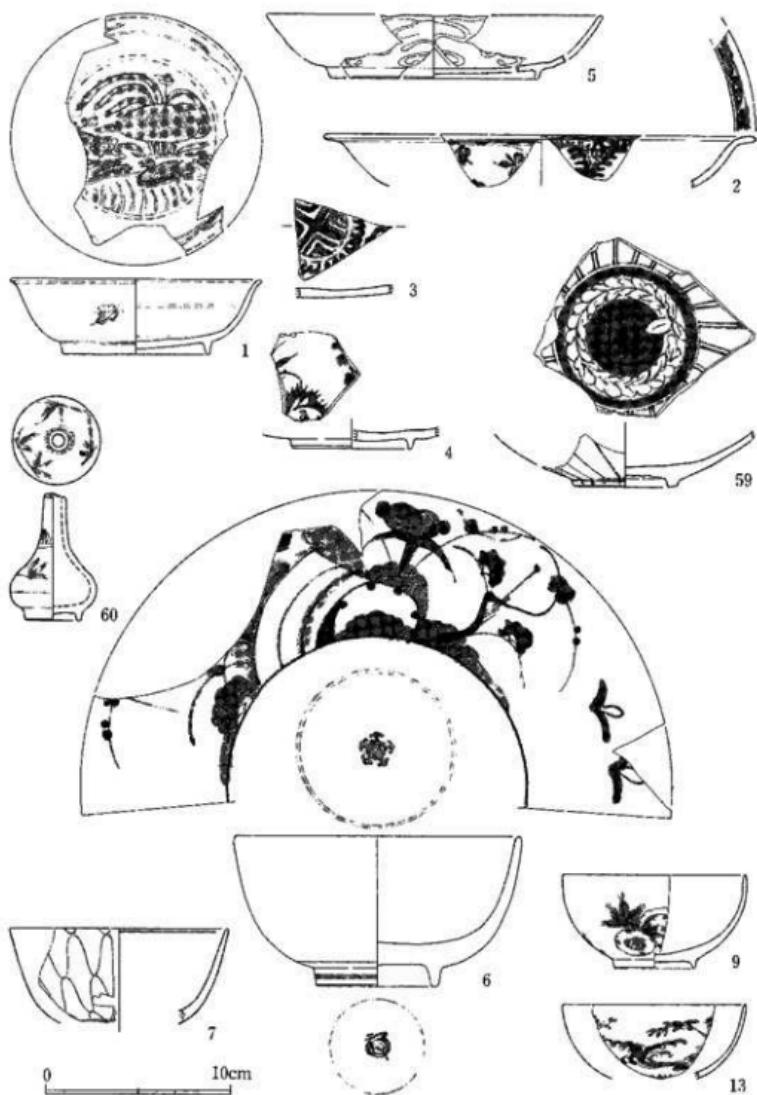


圖20 第9地點出土磁器(1)
Fig.20 Porcelains from NM9(1)

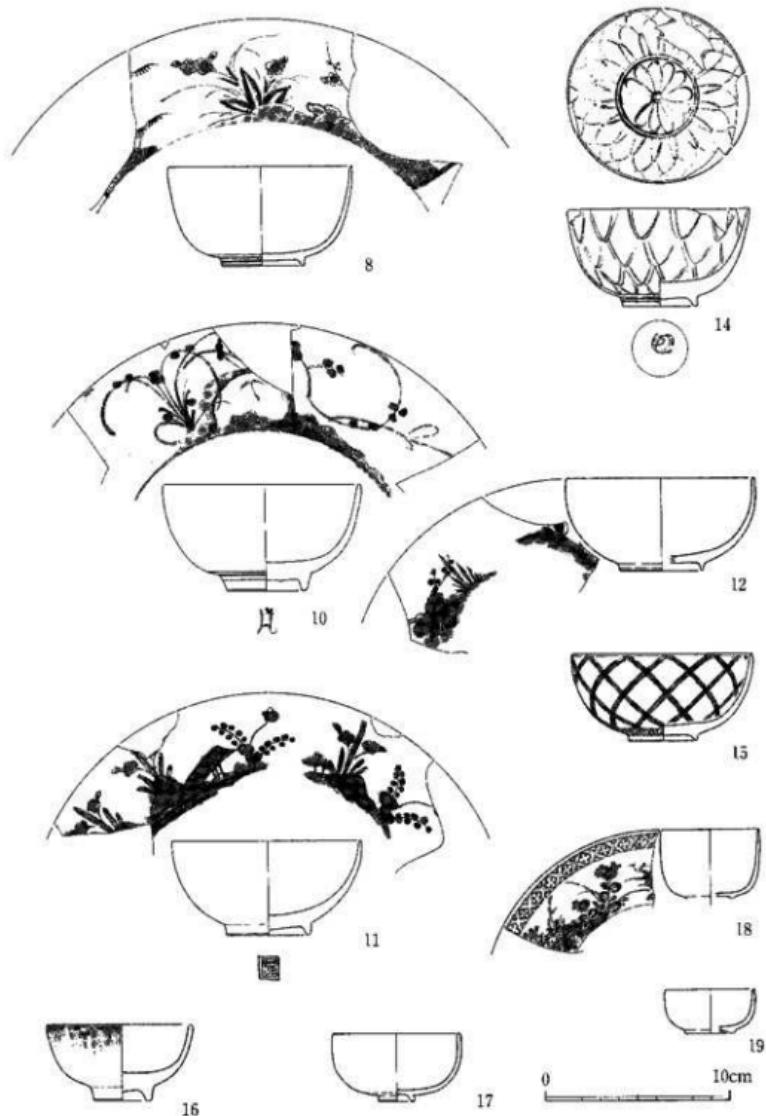


圖21 第9地點出土磁器(2)
Fig.21 Porcelains from NM9(2)

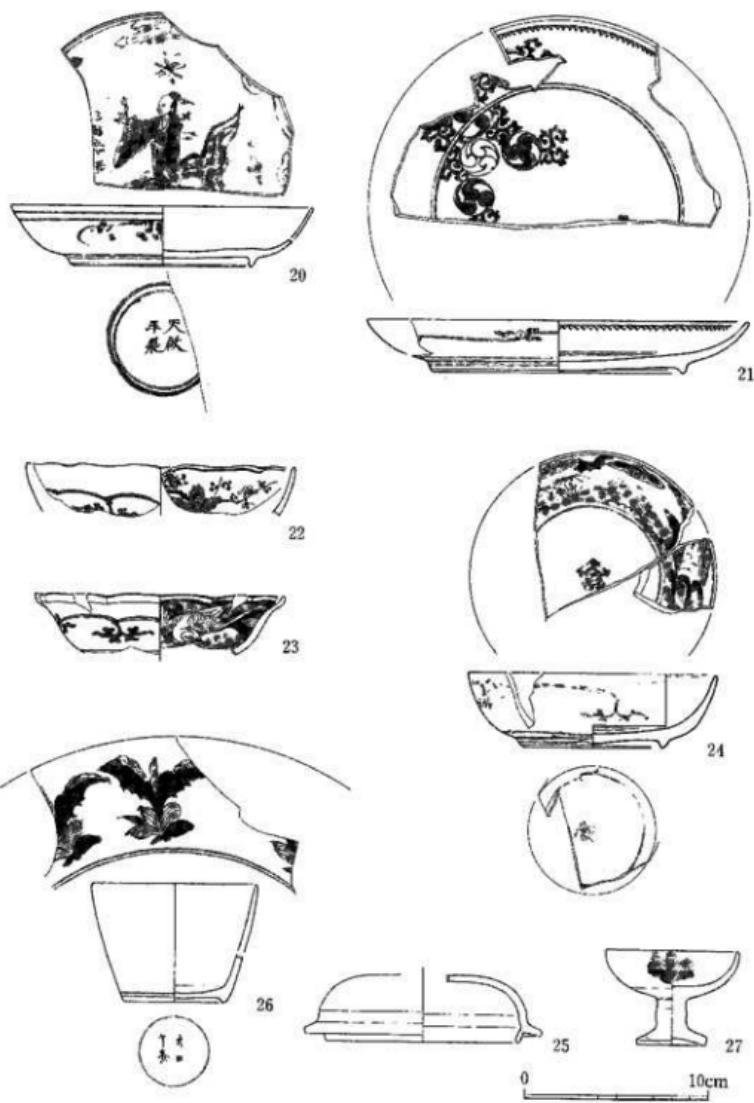


圖22 第9地點出土磁器(3)
Fig.22 Porcelains from NM9(3)

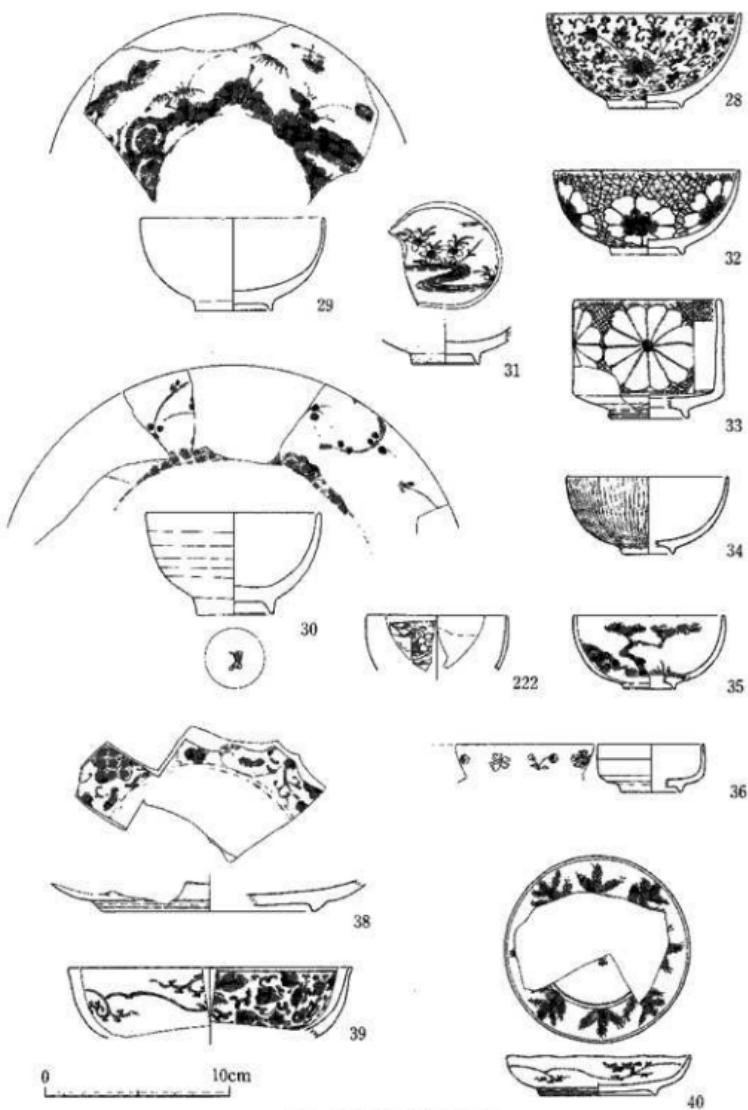


图23 第9地点出土器物(4)
Fig.23 Porcelains from NM9(4)

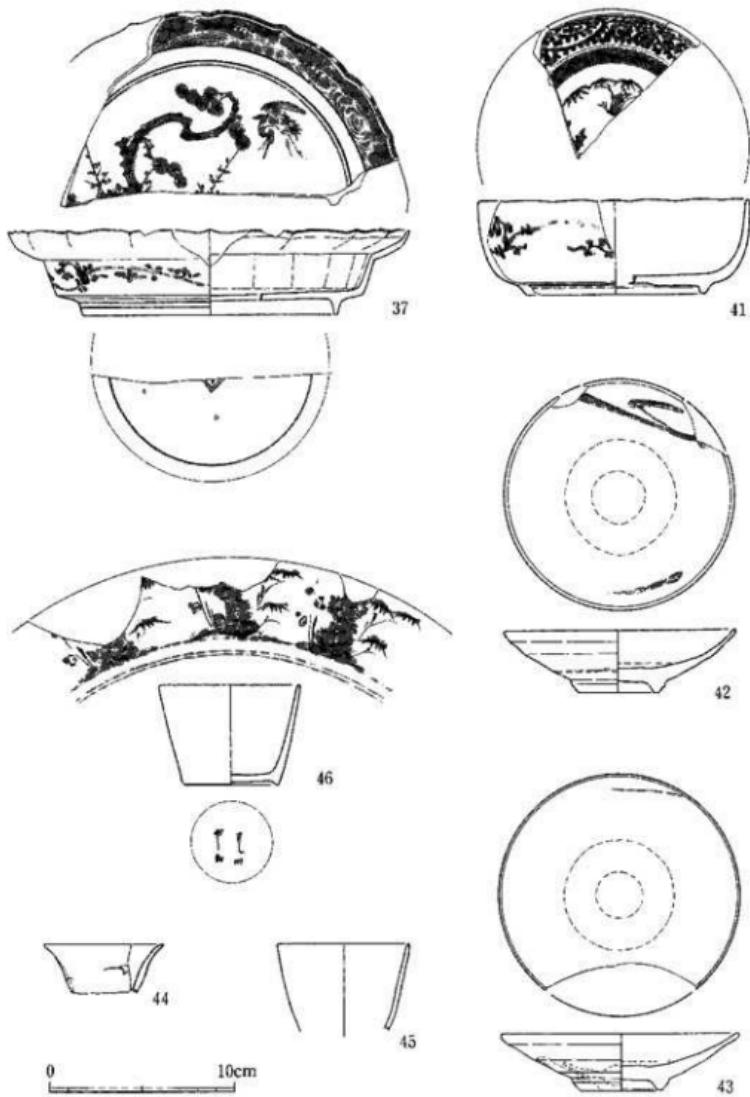


图24 第9地点出土磁器(5)
Fig.24 Porcelains from NM9(5)



图25 第9地点出土磁器(6)
Fig.25 Porcelains from NM9(6)

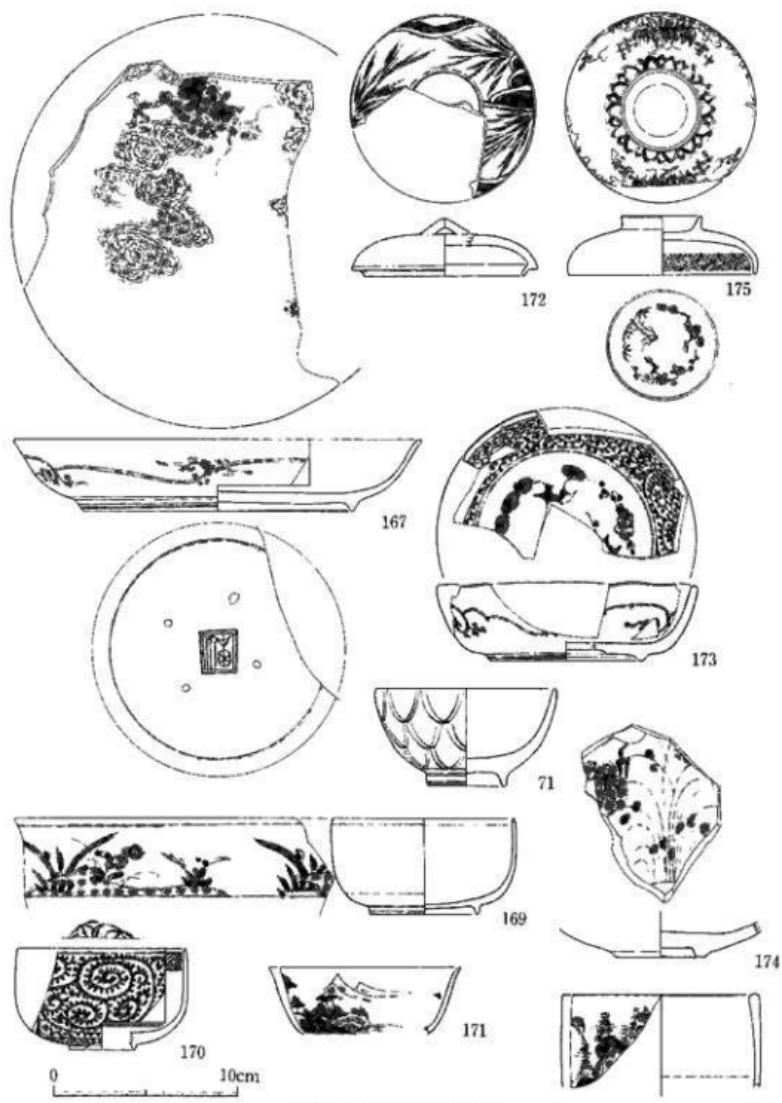


图26 第9地点出土瓷器(7)
Fig.26 Porcelains from NM9(7)

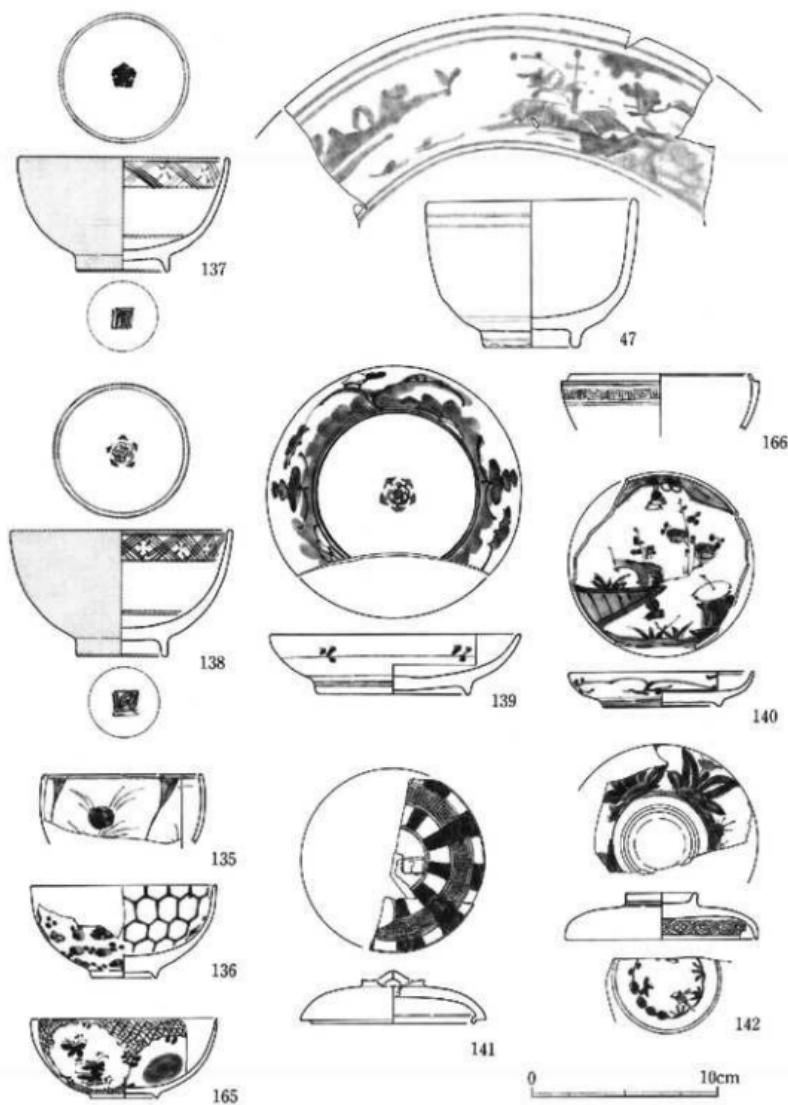


图27 第9地点出土磁器(8)
Fig.27 Porcelains from NM9(8)

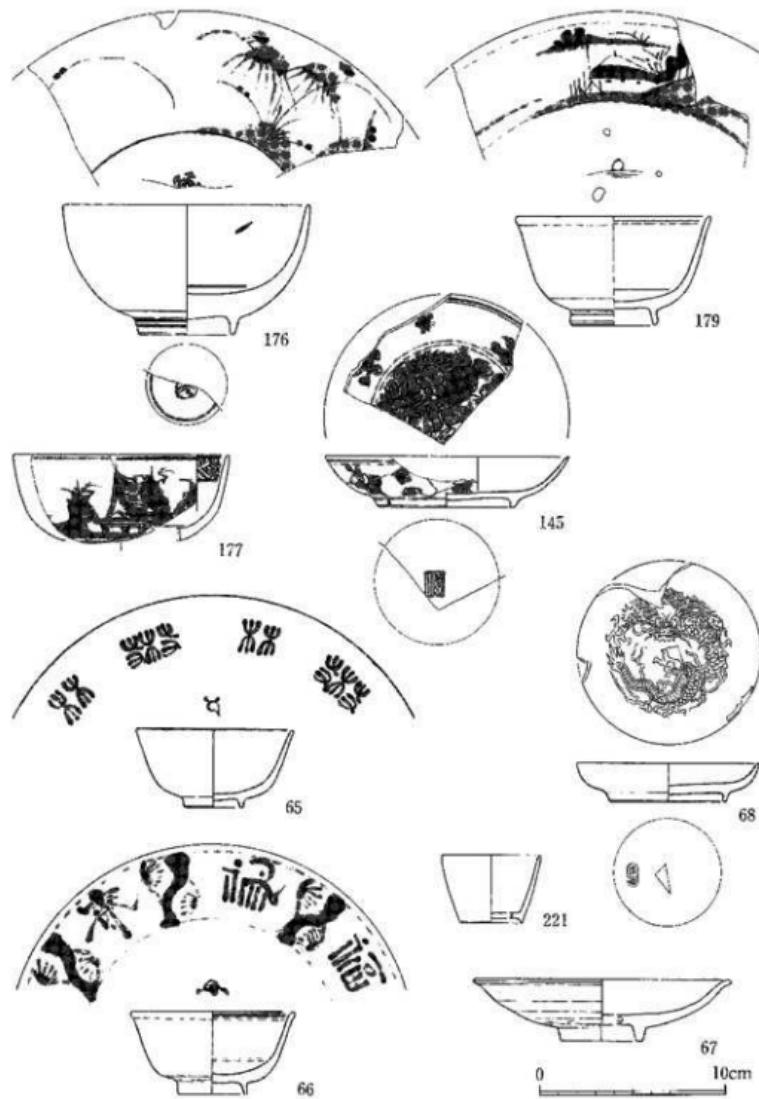


图28 第9地点出土磁器(9)
Fig.28 Porcelains from NM9(9)

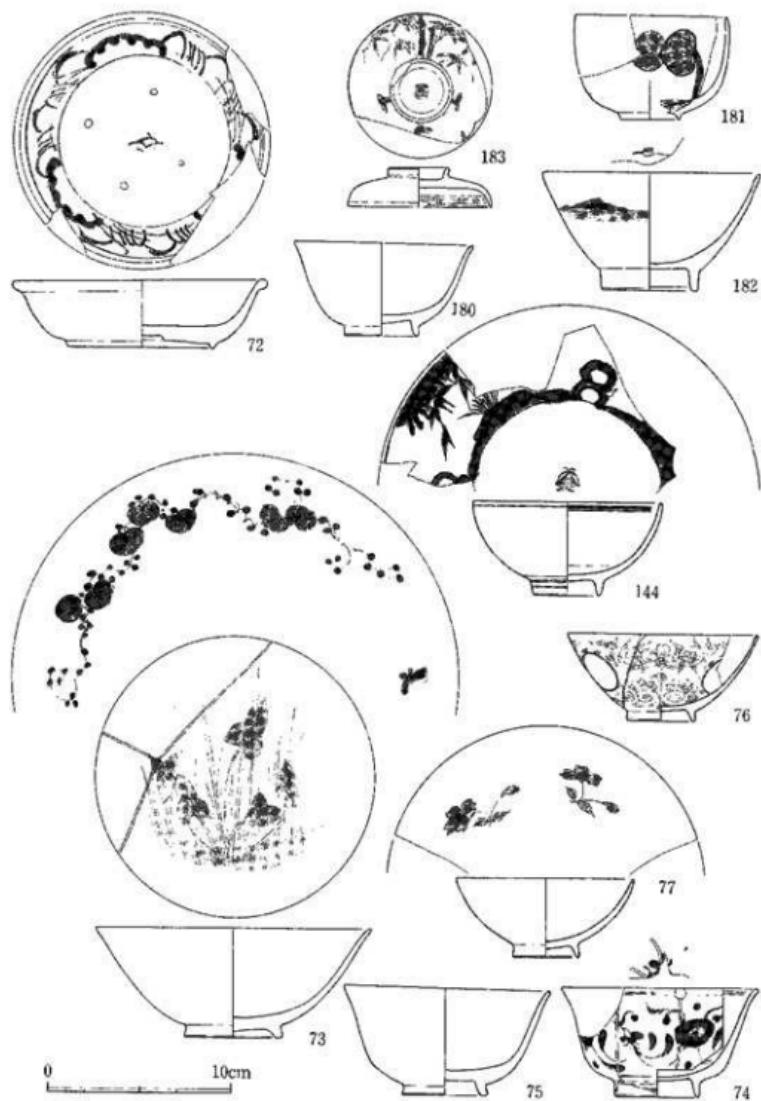


图29 第9地点出土磁器(10)
Fig. 29 Porcelains from NM9(10)

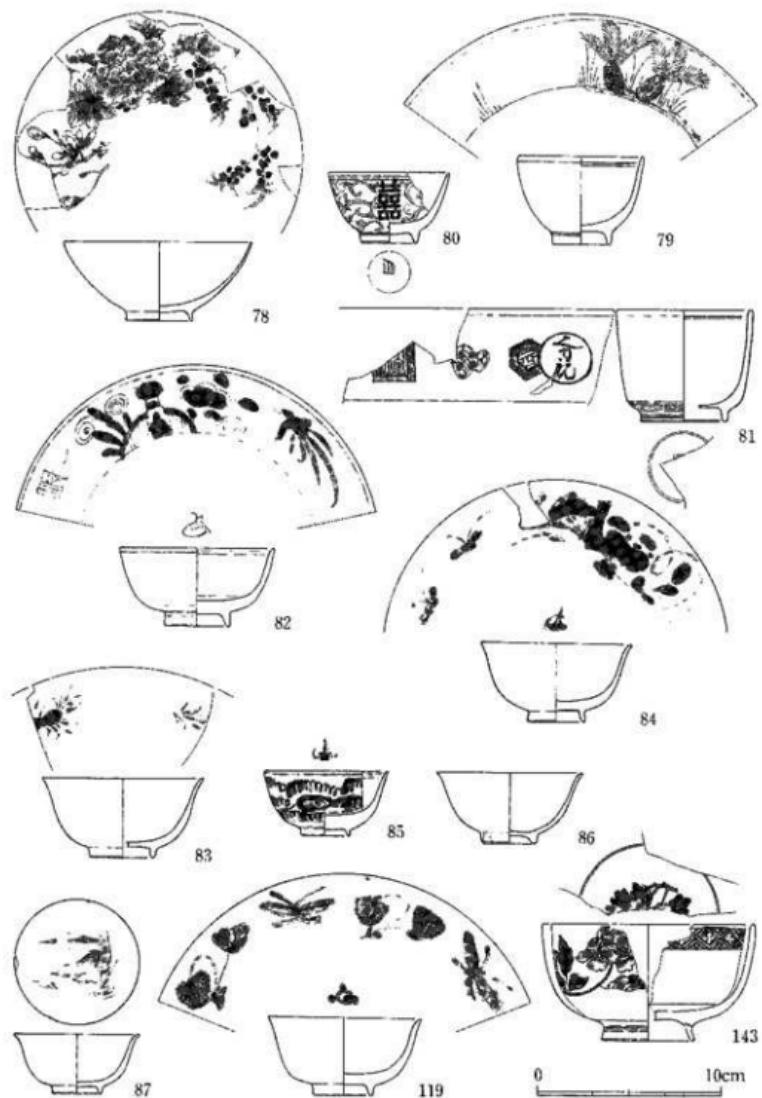


图30 第9地点出土磁器(11)
Fig.30 Porcelains from NM9(11)

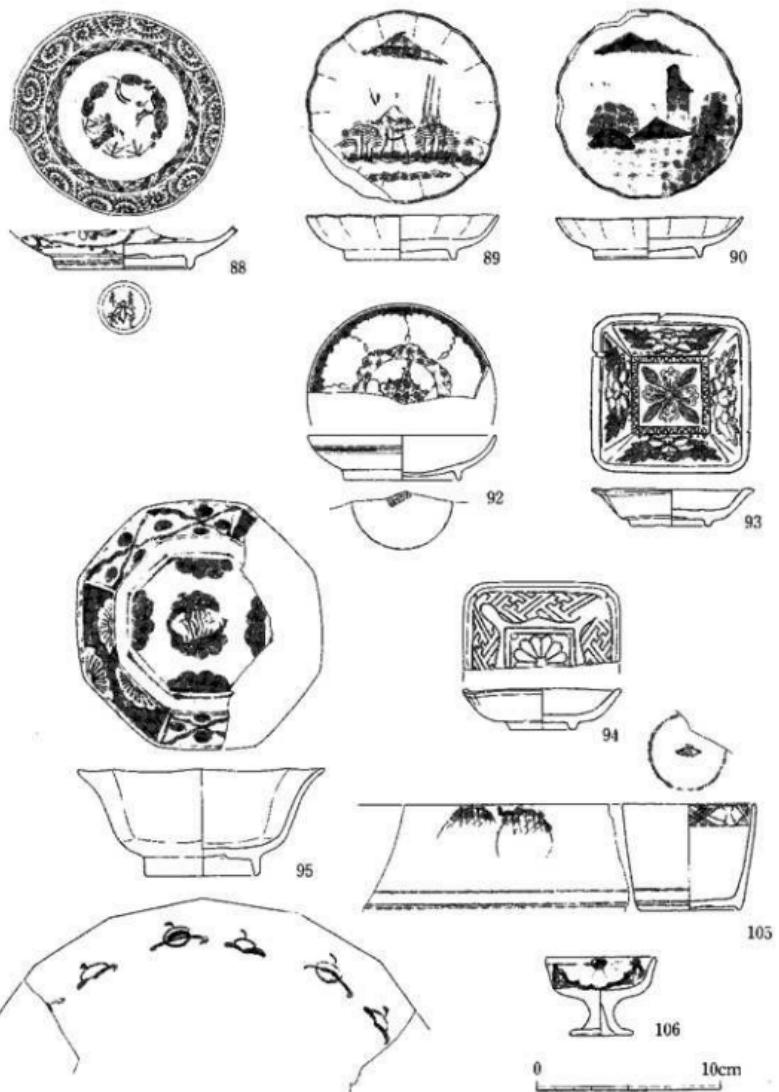


图31 第9地点出土磁器(12)
Fig.31 Porcelains from NM9(12)

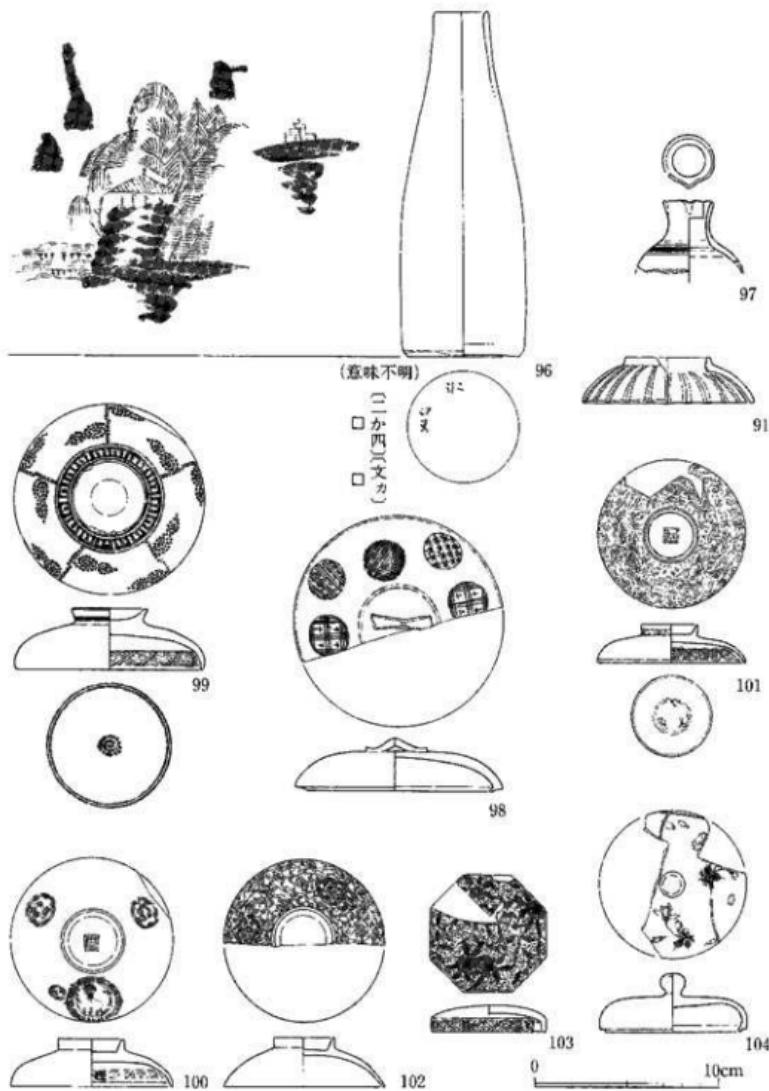


图32 第9地点出土磁器(13)
Fig.32 Porcelains from NM9(13)

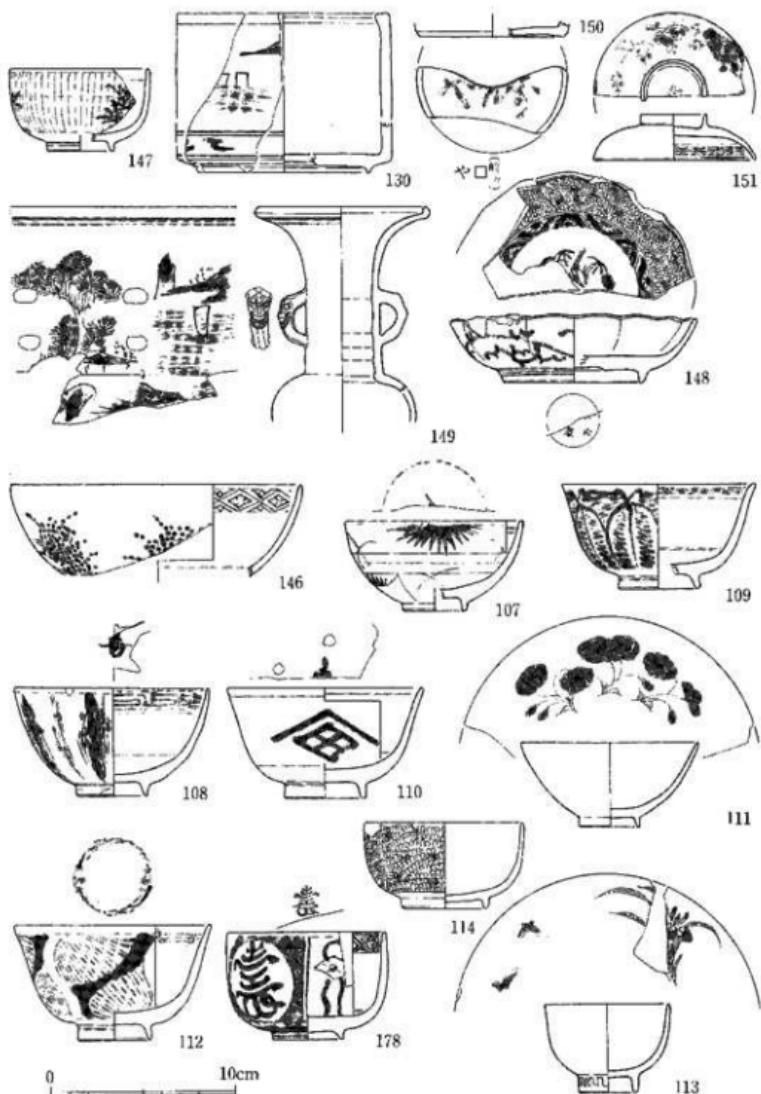


圖33 第9地点出土磁器(14)
Fig.33 Porcelains from NM9(14)

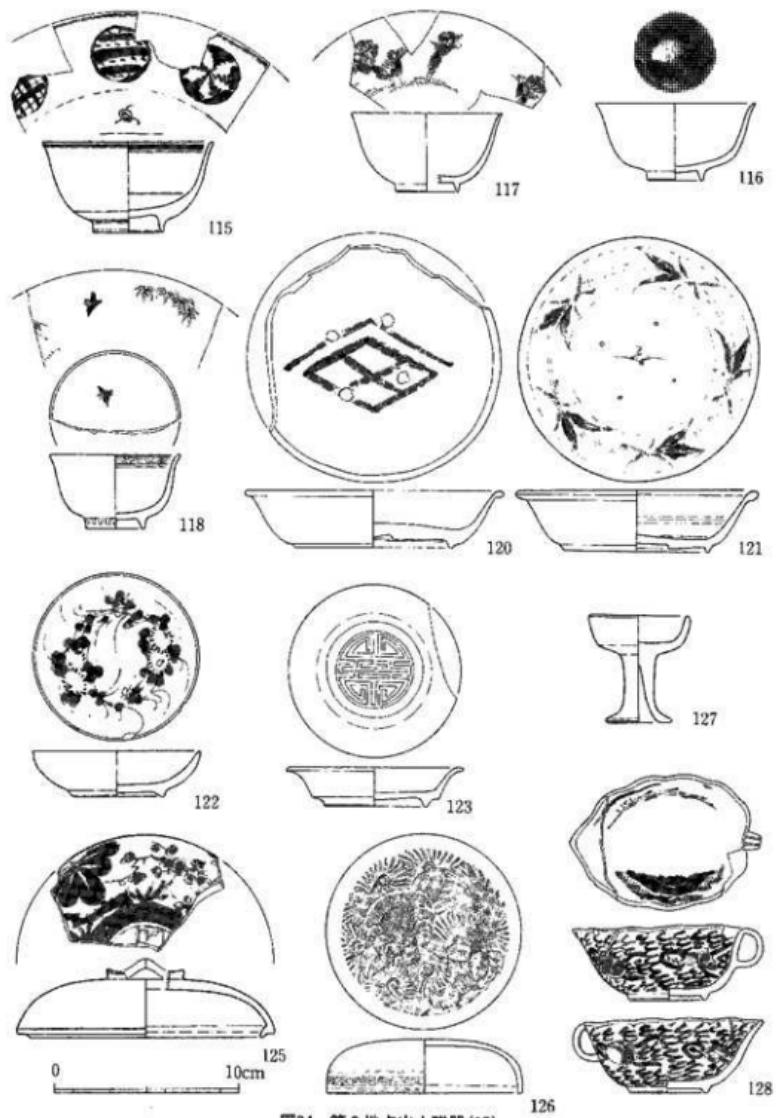


图34 第9地点出土器物(15)
Fig.34 Porcelains from NM9(15)

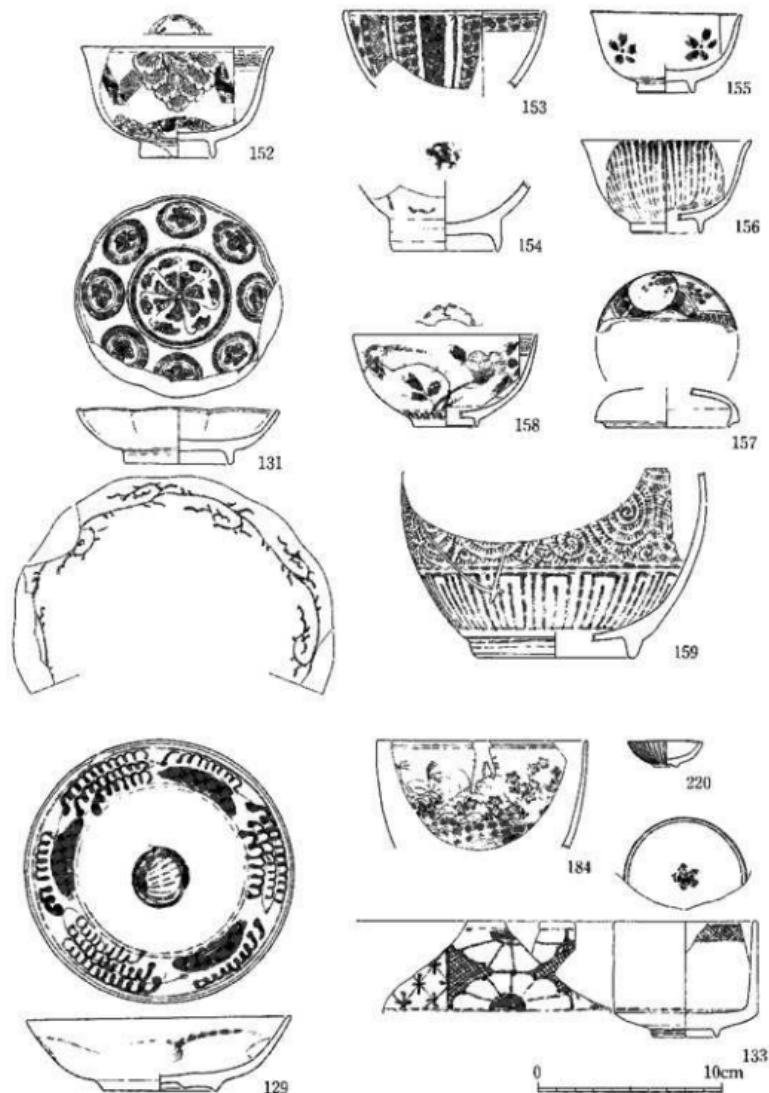


图35 第9地点出土器物(16)
Fig.35 Porcelains from NM9(16)

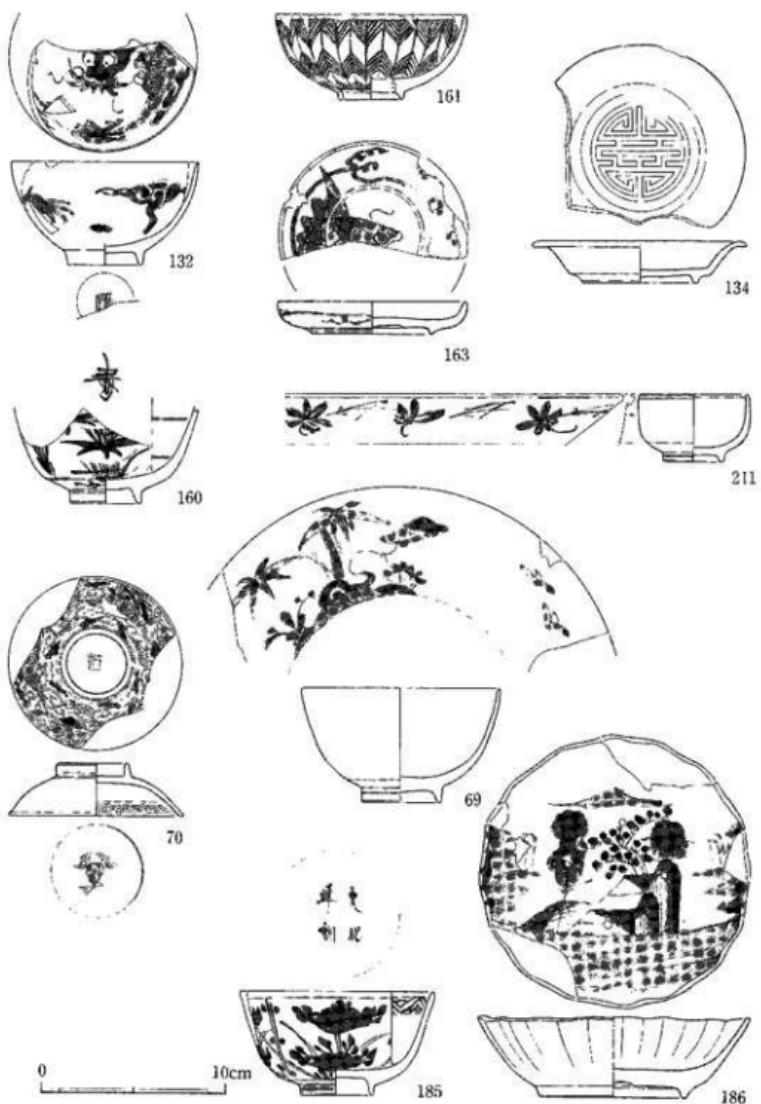


图36 第9地点出土磁器(17)
Fig.36 Porcelains from NM9(17)

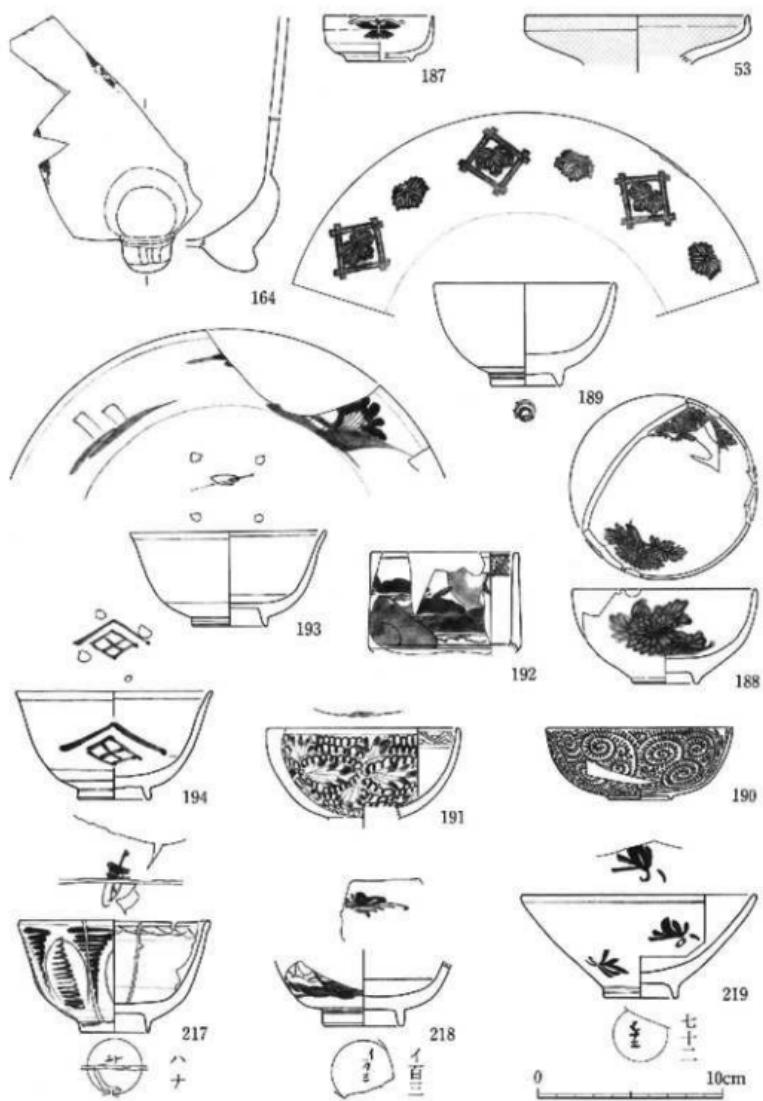


图37 第9地点出土磁器(18)
Fig.37 Porcelains from NM9 (18)

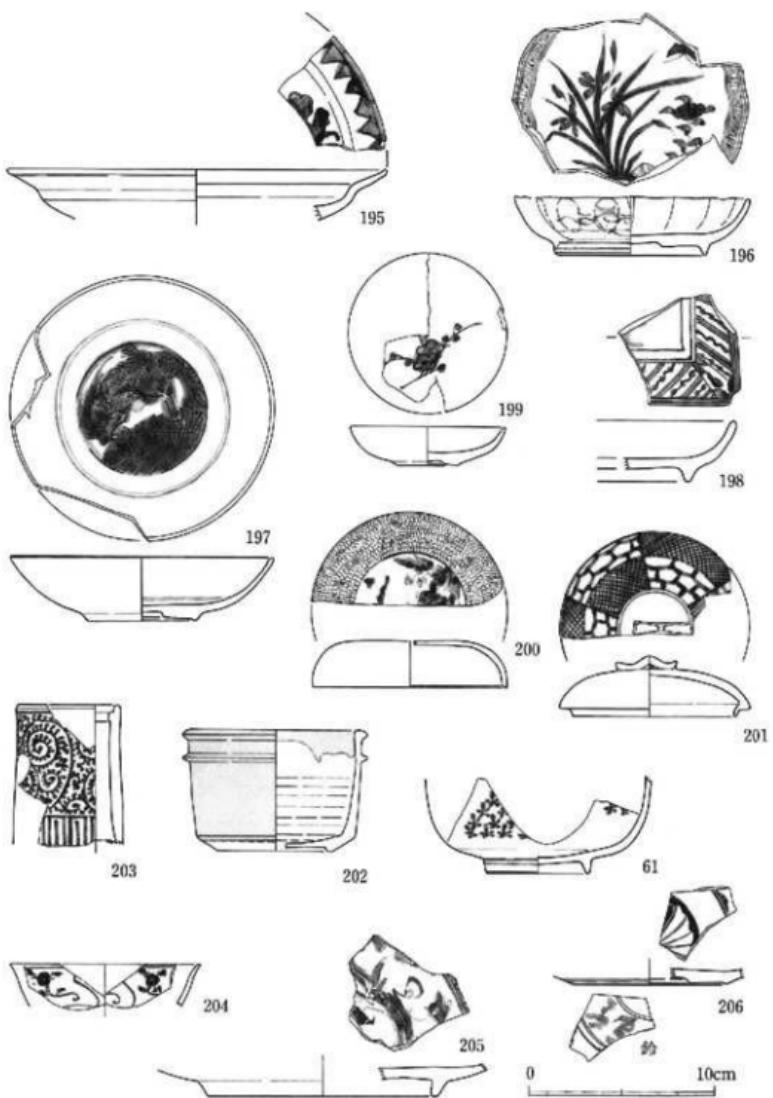


图38 第9地点出土磁器(19)
Fig.38 Porcelains from NM9 (19)

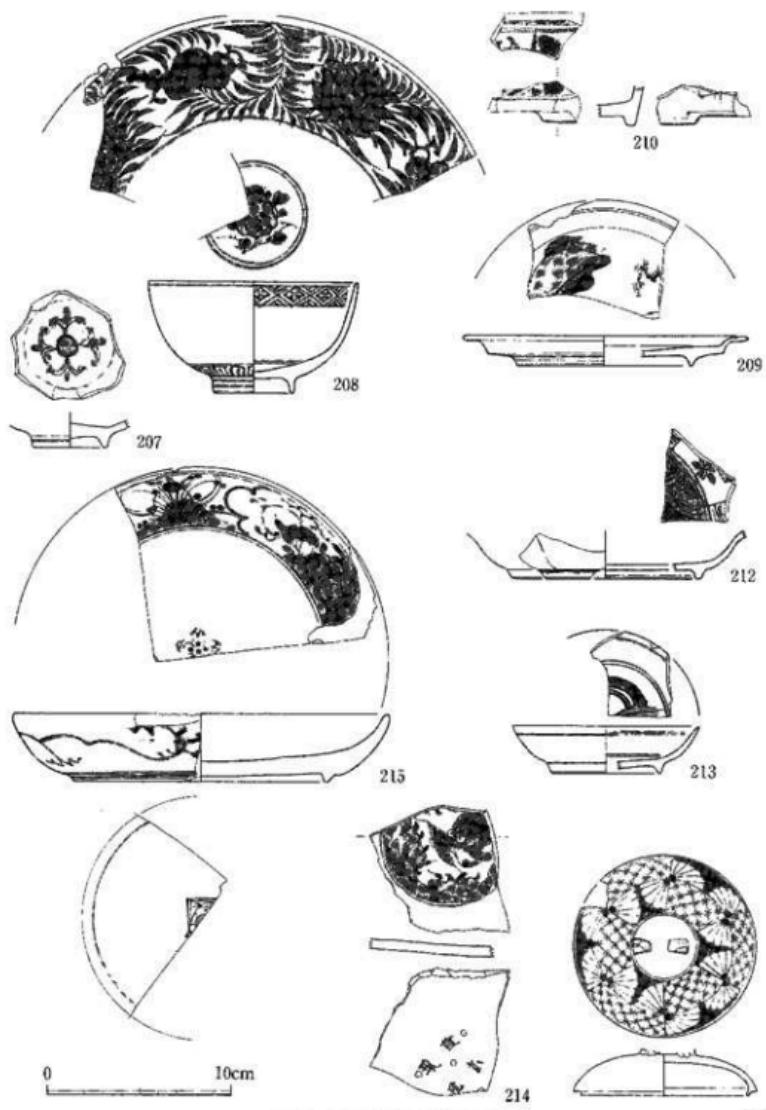


图39 第9地点出土瓷器(20)
Fig.39 Porcelains from NM9 (20)

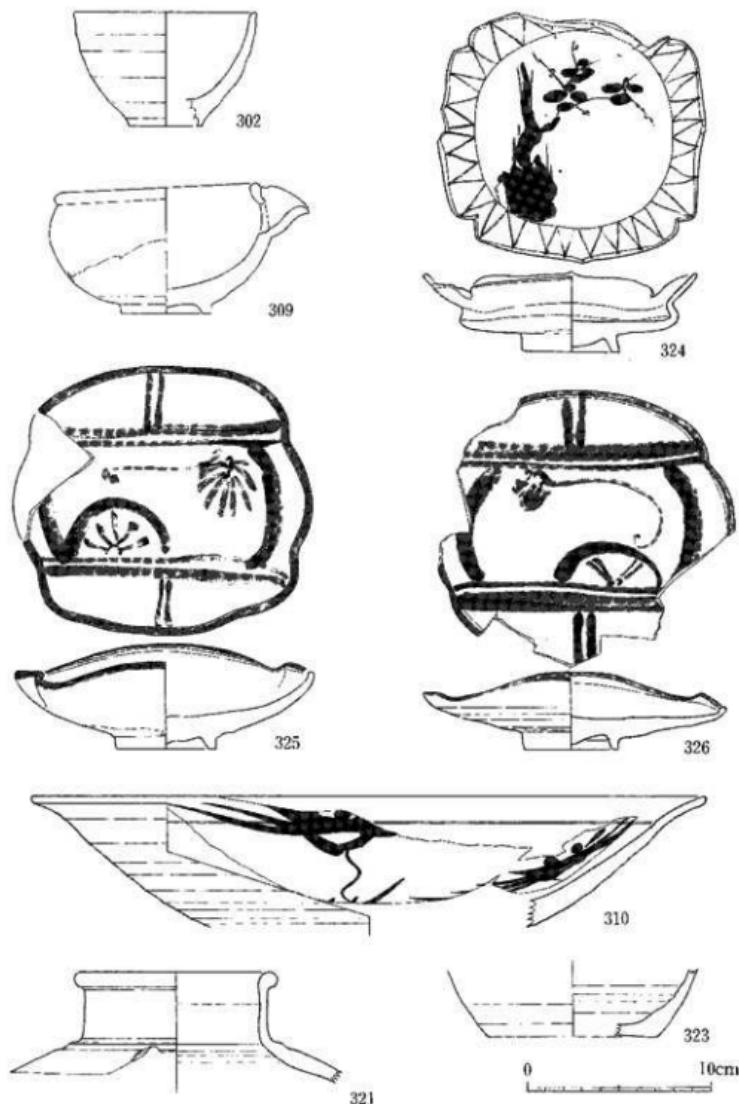


图40 第9地点出土陶器(1)
Fig.40 Glazed ceramics from NM9(1)

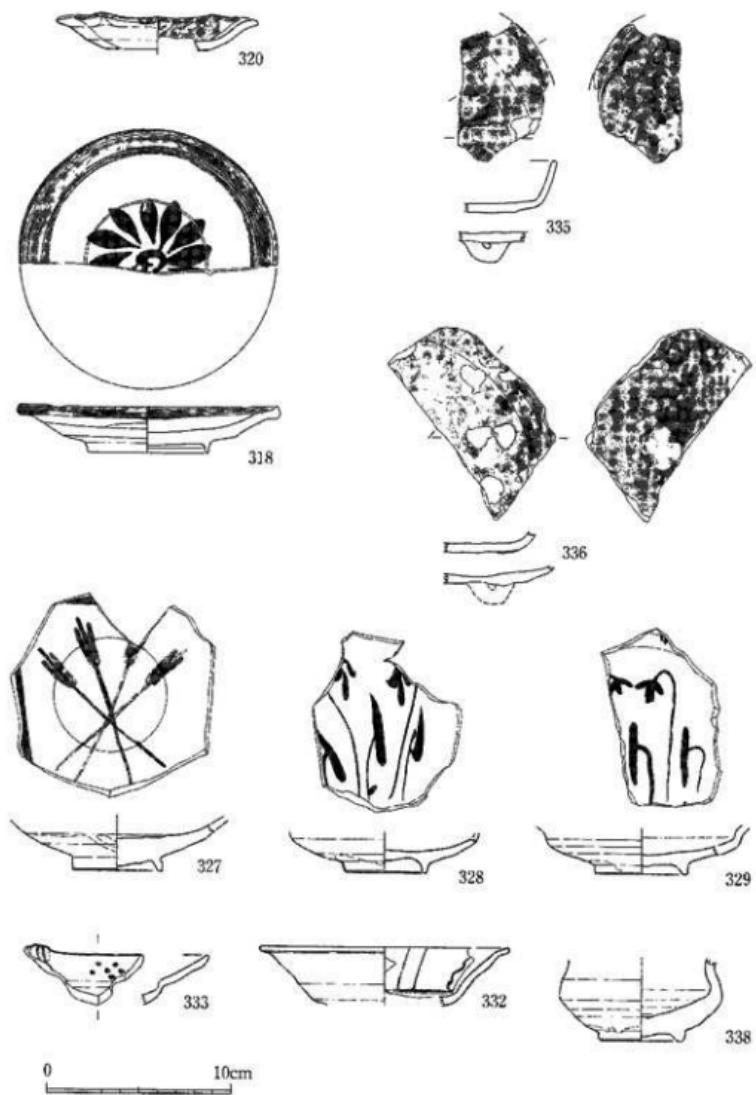


图41 第9地点出土陶器(2)
Fig.41 Glazed ceramics from NM9(2)

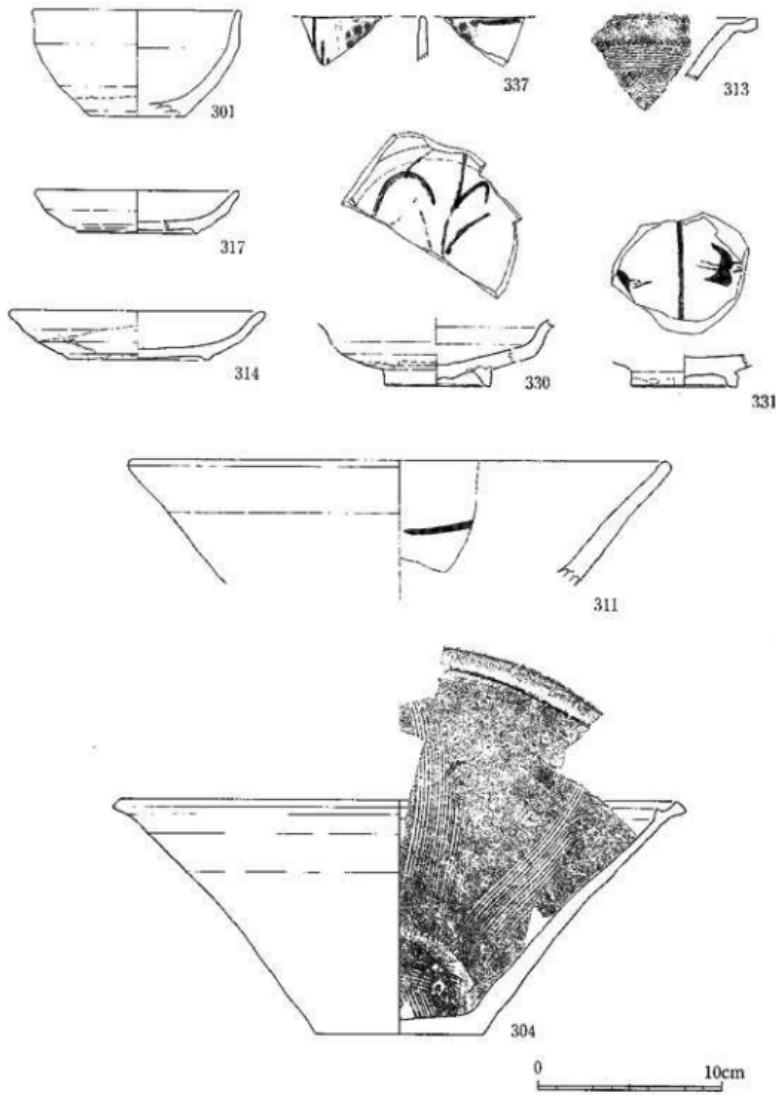


图42 第9地点出土陶器(3)
Fig.42 Glazed ceramics from NM9(3)

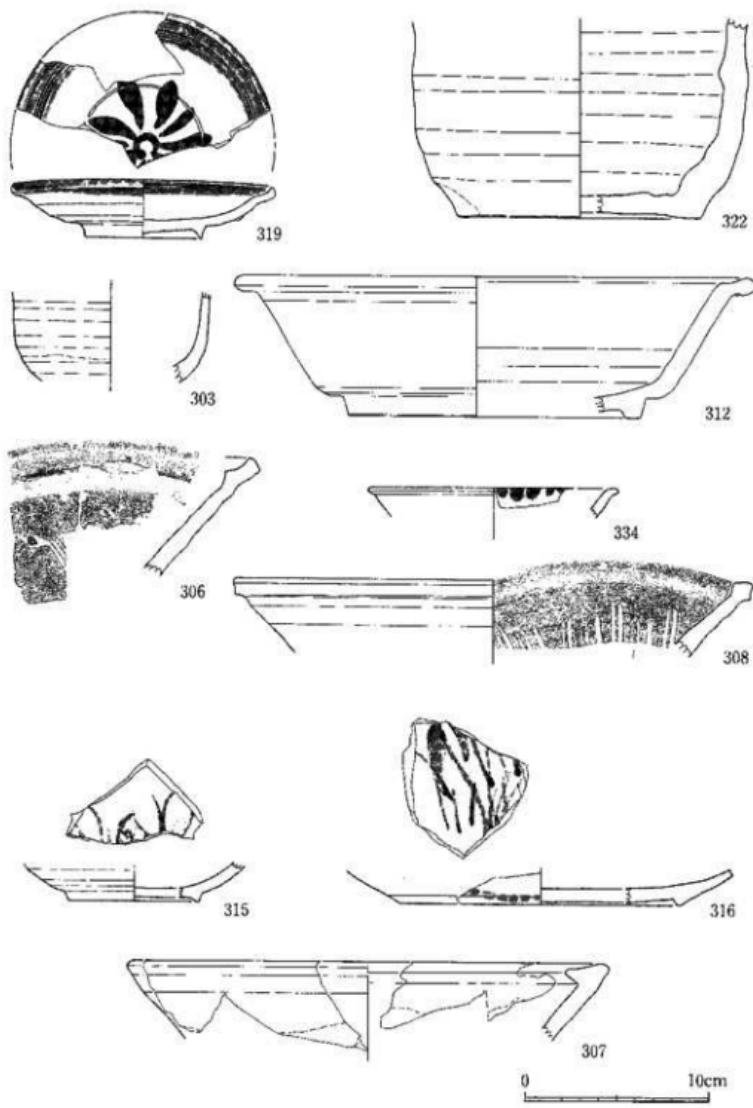


图43 第9地点出土陶器(4)
Fig.43 Glazed ceramics from NM9(4)

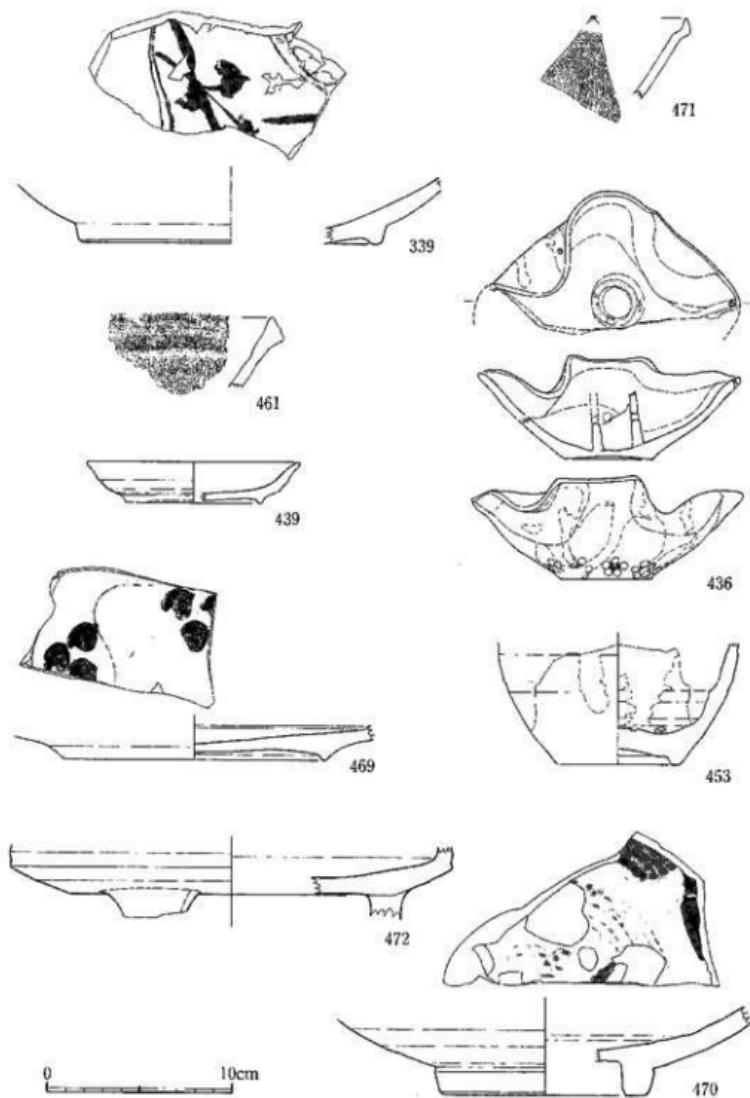


图44 第9地点出土陶器(5)
Fig.44 Glazed ceramics from NM9(5)

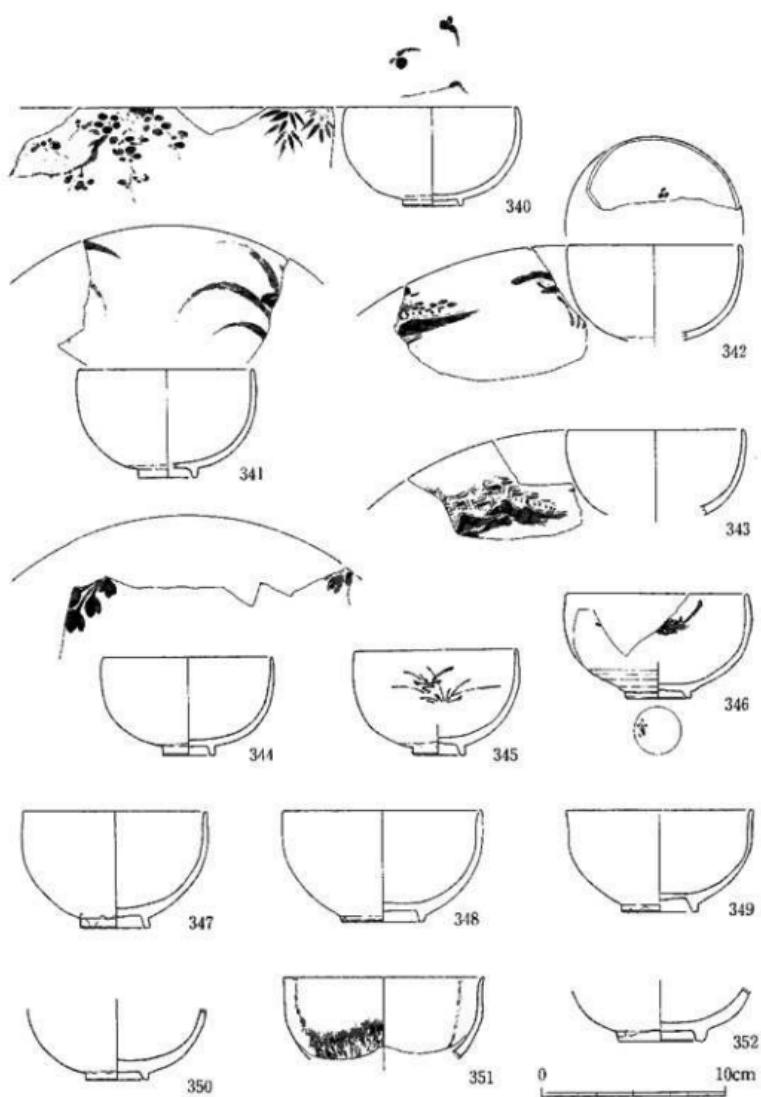


图45 第9地点出土陶器(6)
Fig.45 Glazed ceramics from NM9(6)

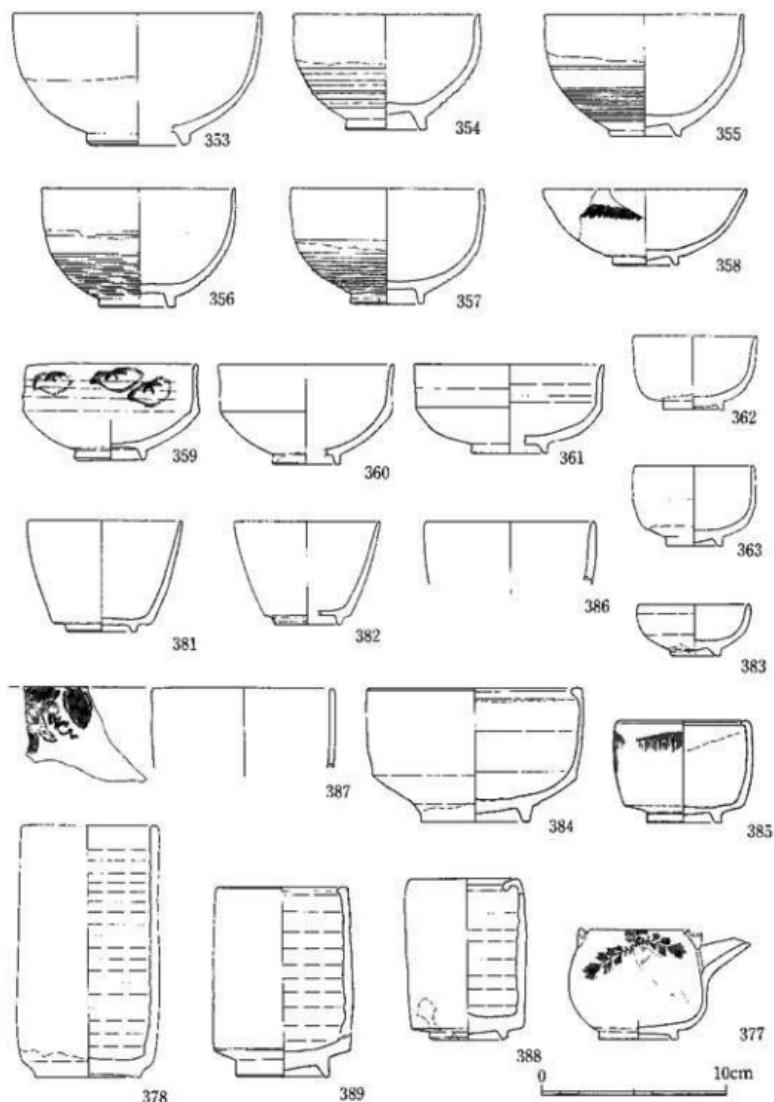


圖46 第9地點出土陶器(7)
Fig.46 Glazed ceramics from NM9(7)

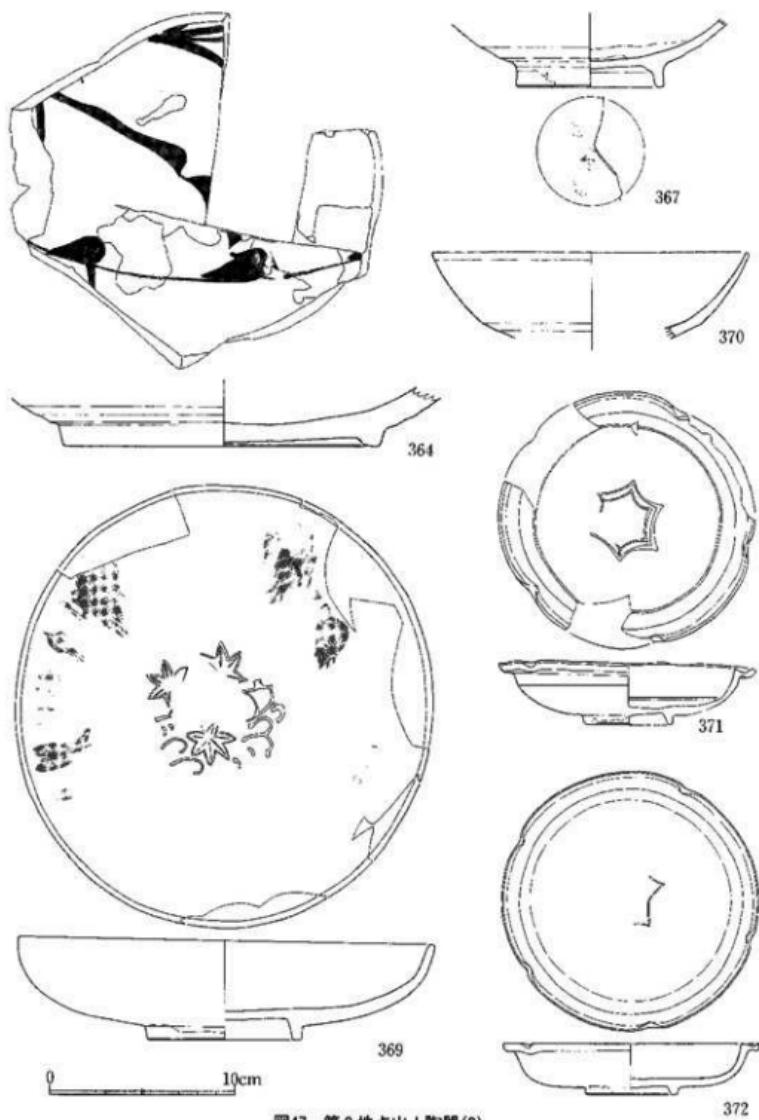


图47 第9地点出土陶器(8)
Fig.47 Glazed ceramics from NM9(8)

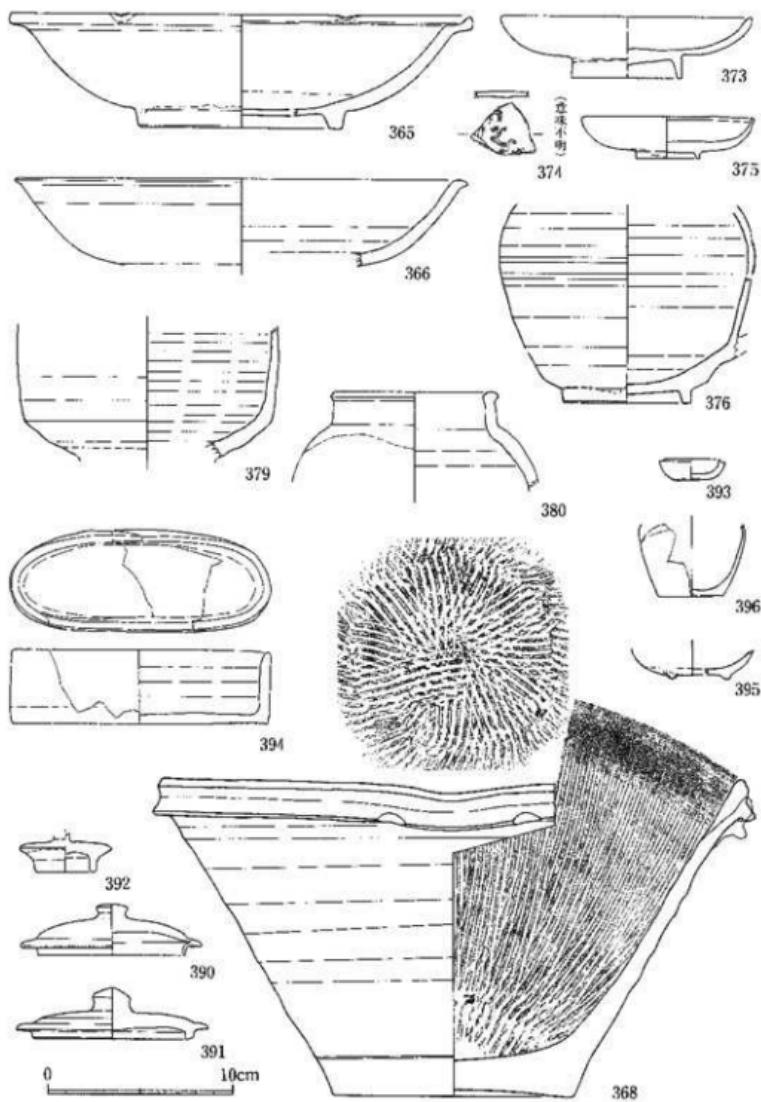


图48 第9地点出土陶器(9)
Fig.48 Glazed ceramics from NM9(9)

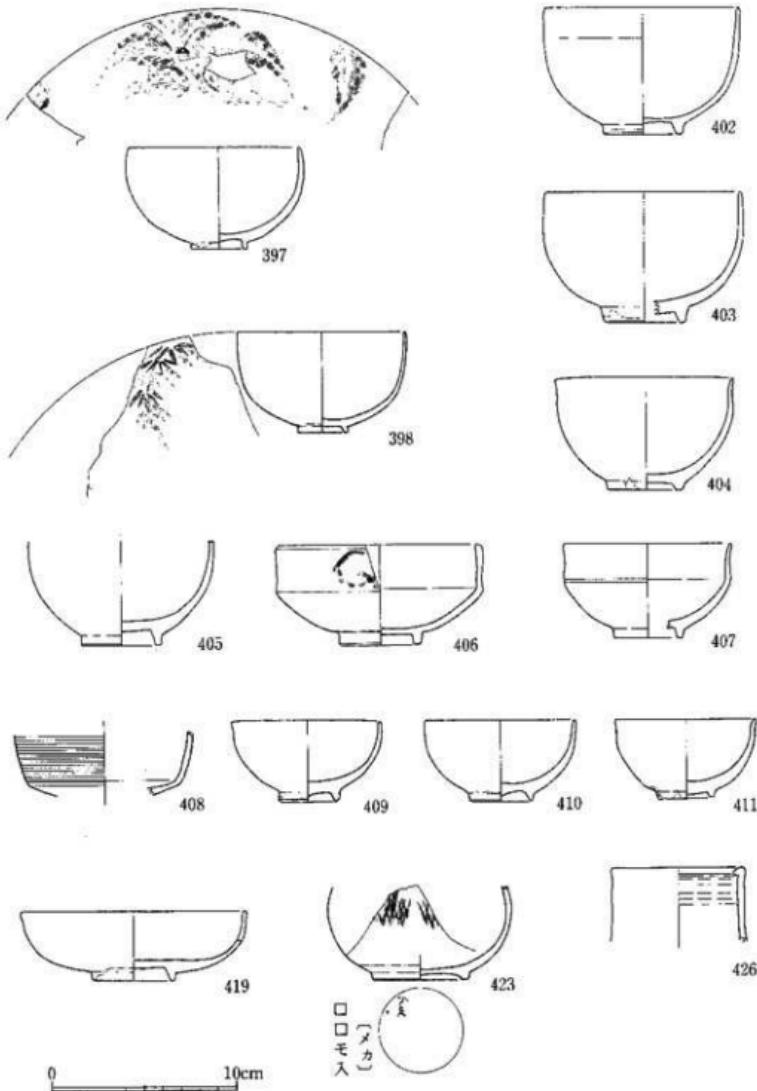


図49 第9地点出土陶器(10)
Fig.49 Glazed ceramics from NM9(10)

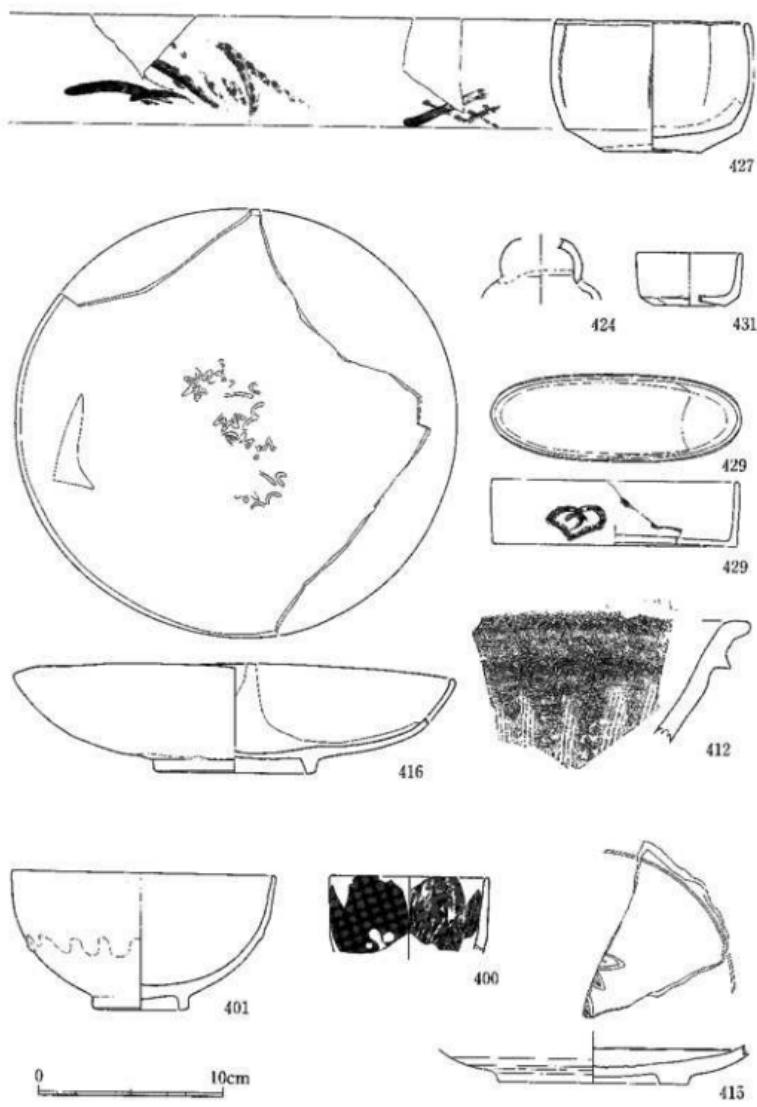


圖50 第9地點出土陶器(11)
Fig.50 Glazed ceramics from NM9(11)

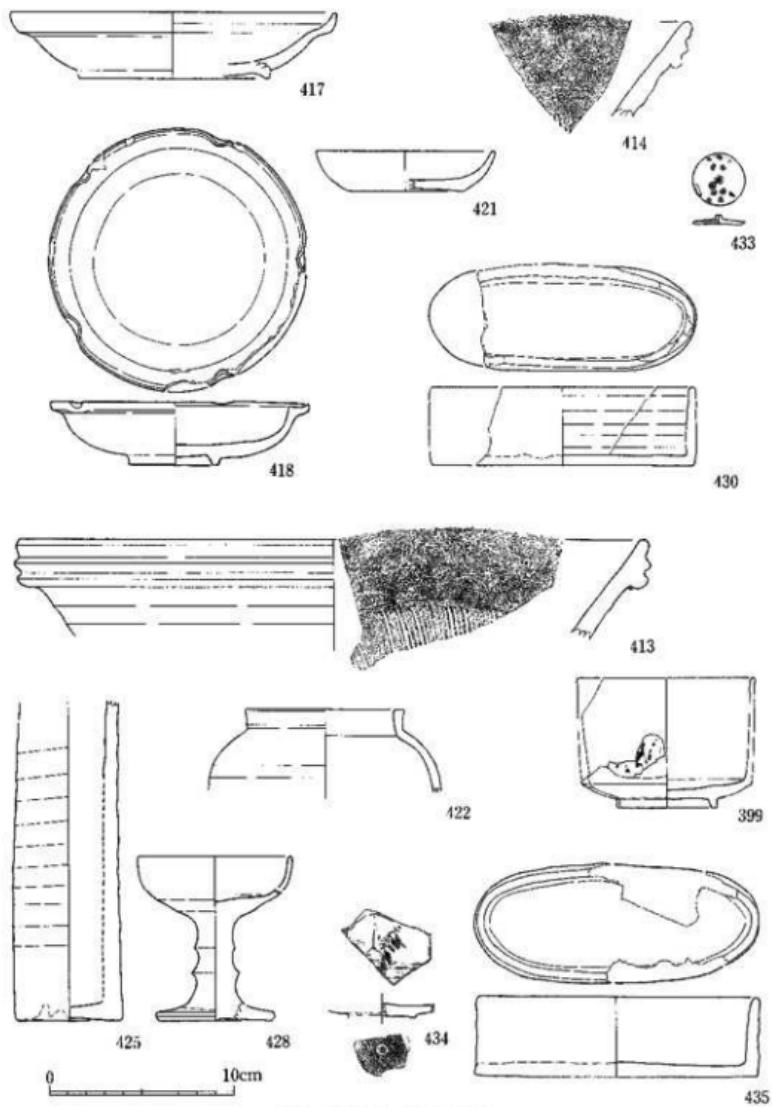


图51 第9地点出土陶器(12)
Fig.51 Glazed ceramics from NM9(12)

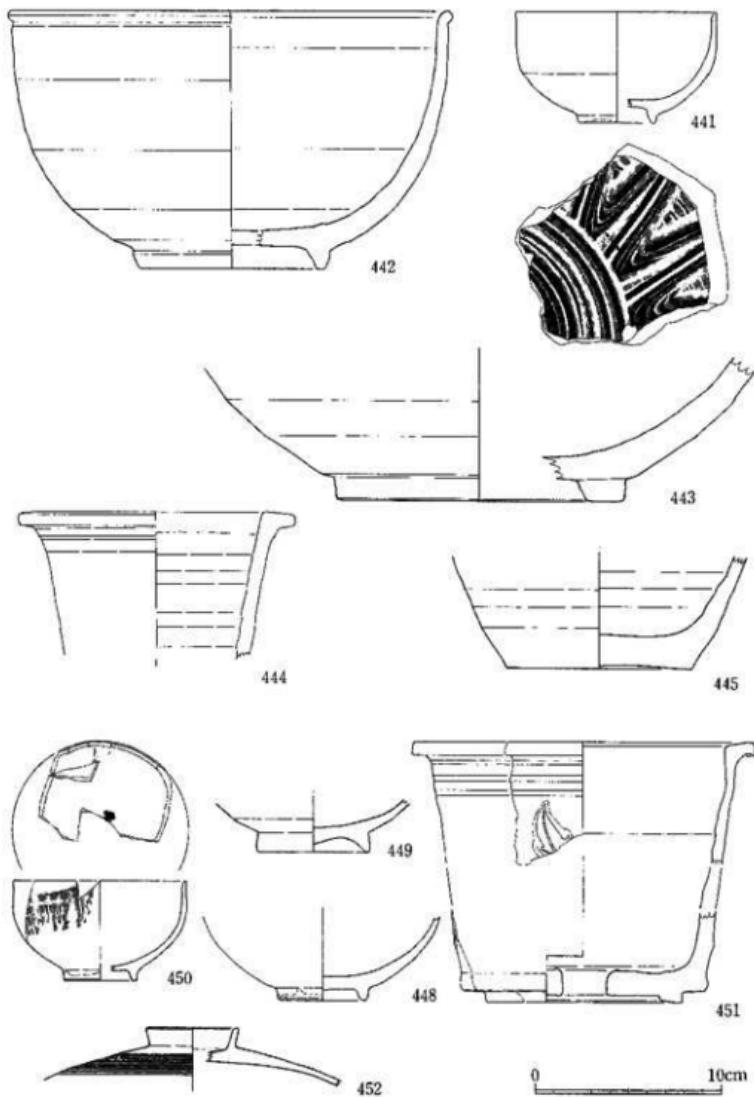


图52 第9地点出土陶器(13)
Fig.52 Glazed ceramics from NM9(13)

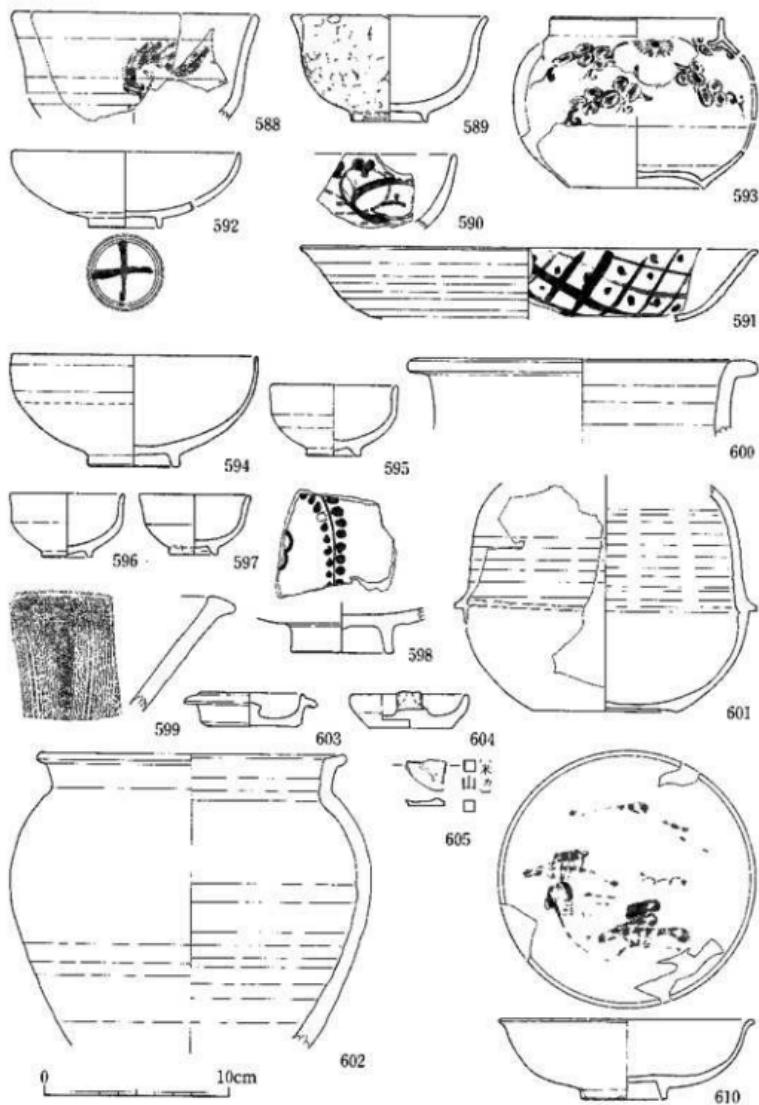


图53 第9地点出土陶器(14)
Fig.53 Glazed ceramics from NM9(14)

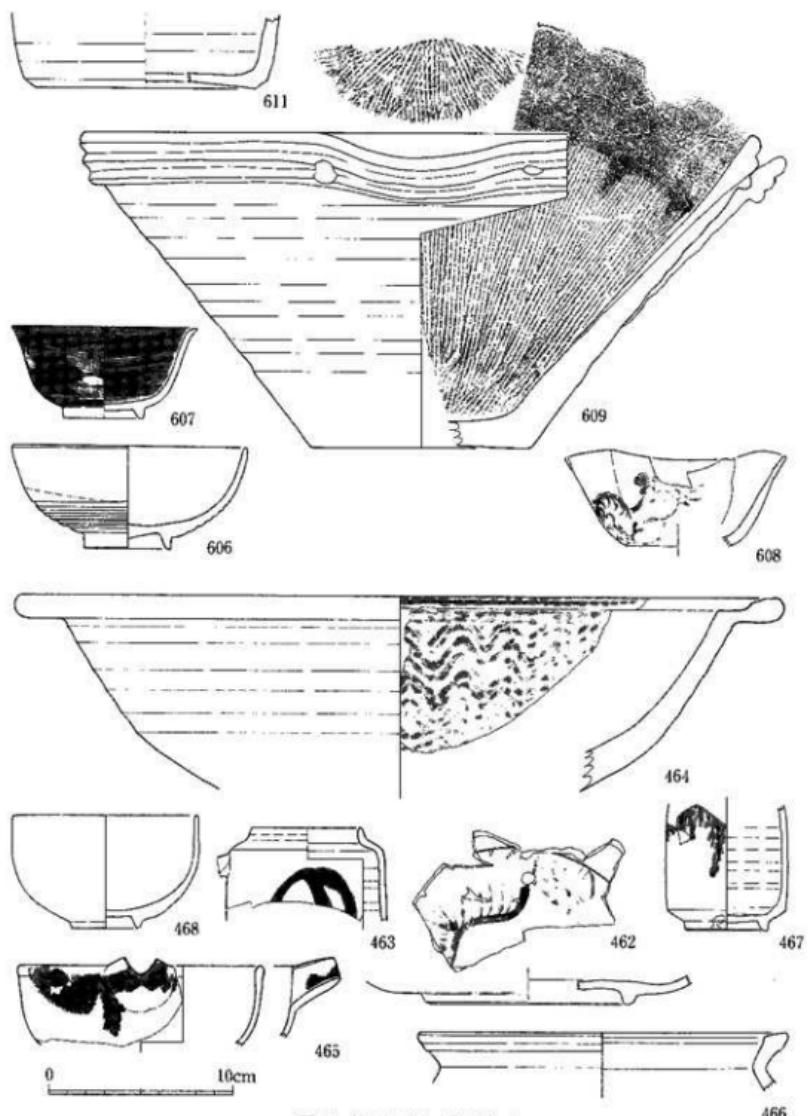


图54 第9地点出土陶器(15)
Fig.54 Glazed ceramics from NM9(15)

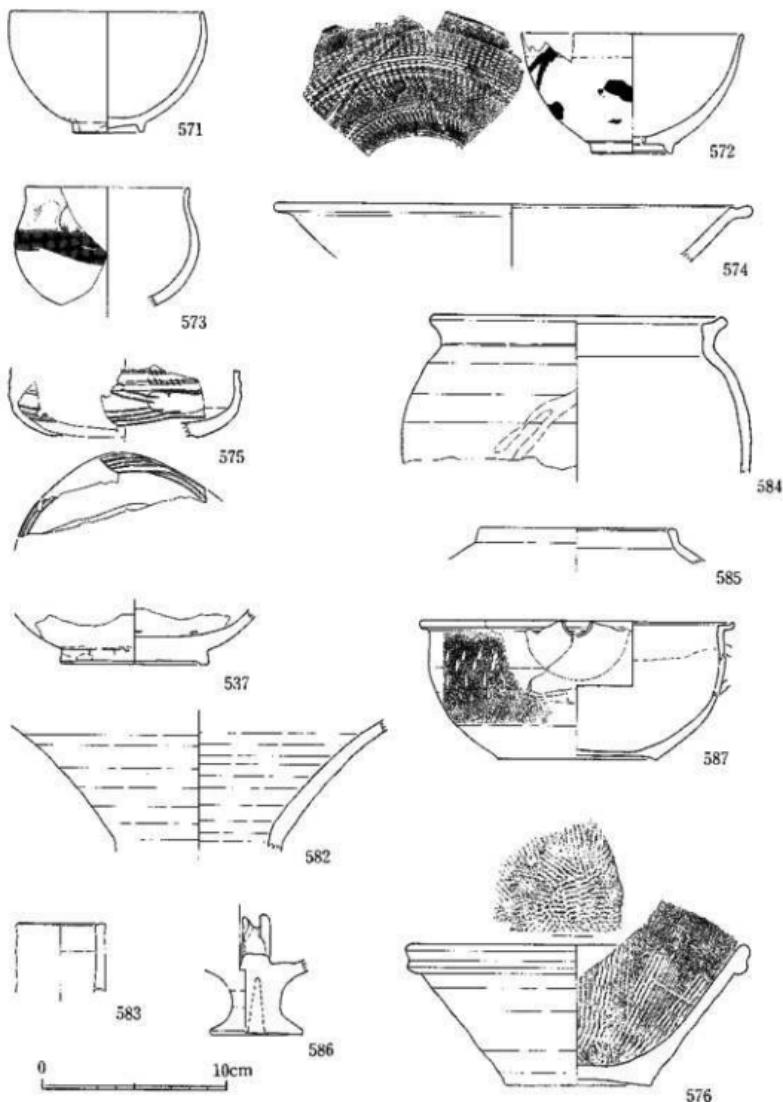


图55 第9地点出土陶器(16)
Fig.55 Glazed ceramics from NM9(16)

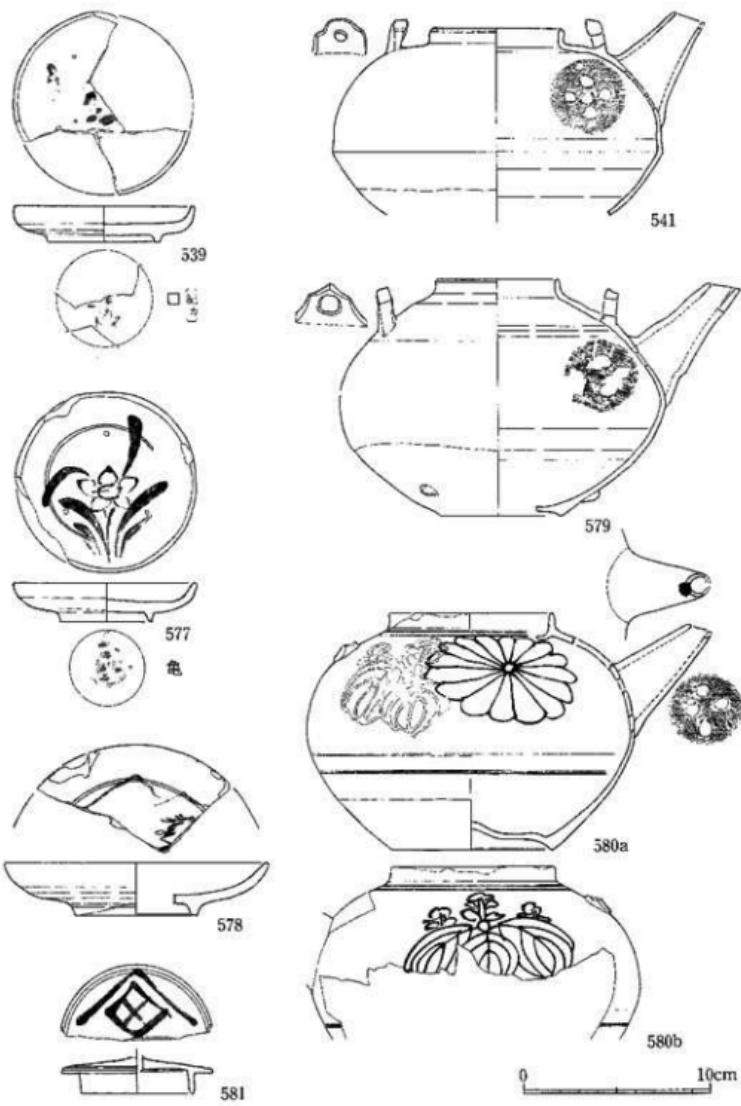


圖56 第9地點出土陶器(17)
Fig.56 Glazed ceramics from NM9(17)

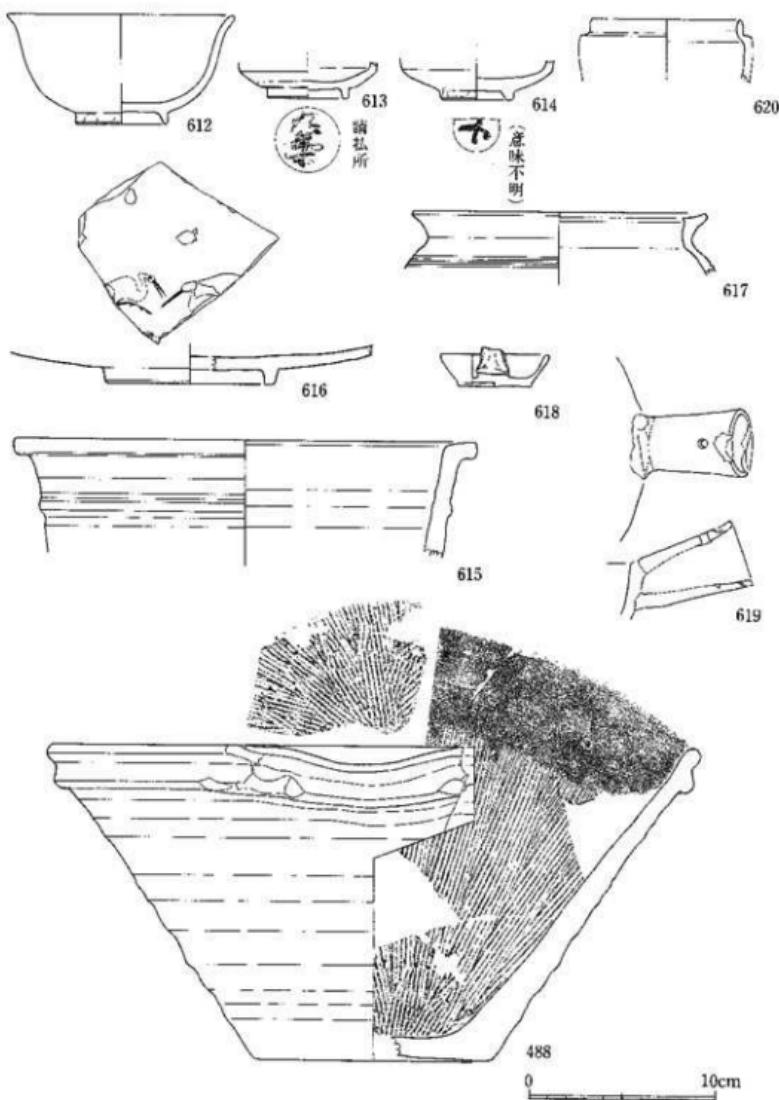


图57 第9地点出土陶器(18)
Fig.57 Glazed ceramics from NM9(18)

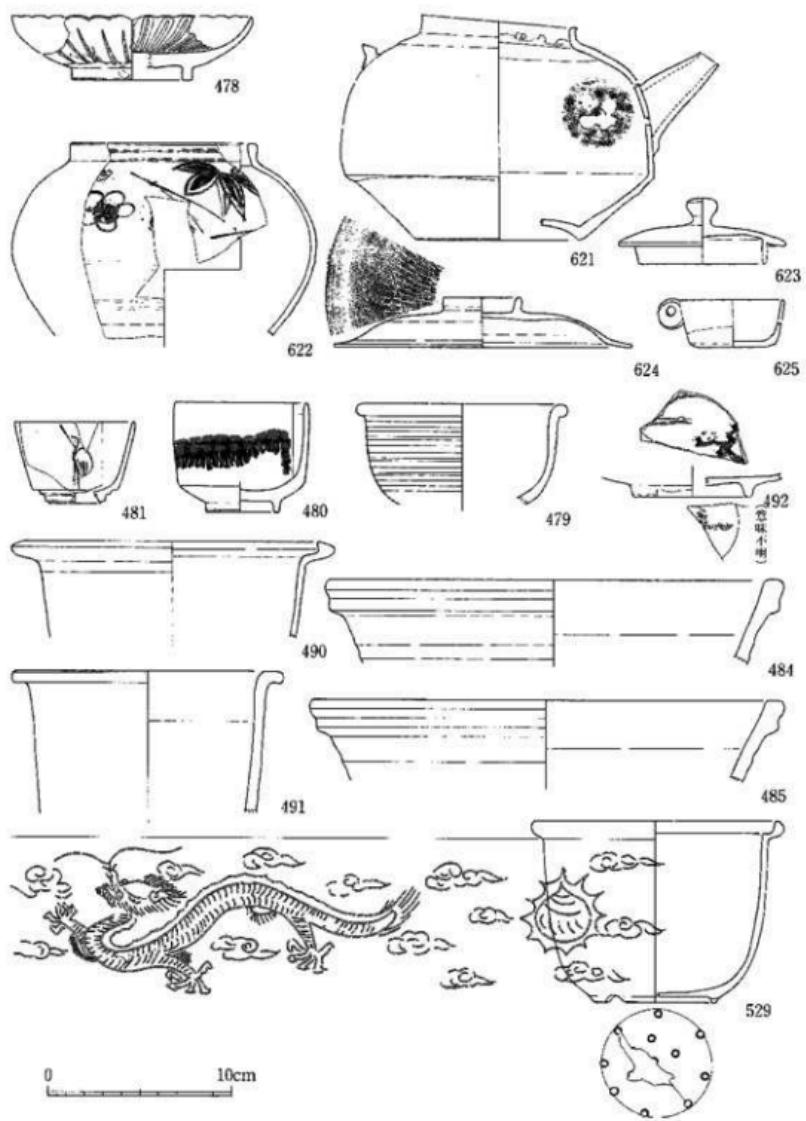


图58 第9地点出土陶器(19)
Fig.58 Glazed ceramics from NM9(19)

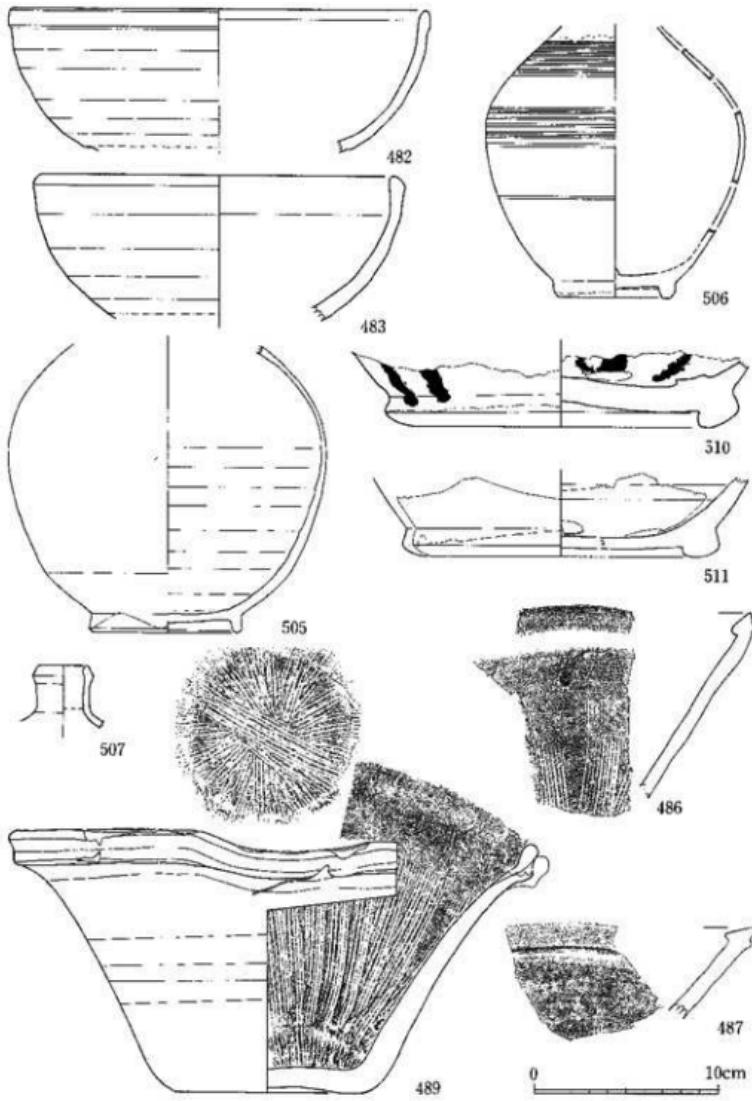


図59 第9地点出土陶器(20)
Fig.59 Glazed ceramics from NM9(20)

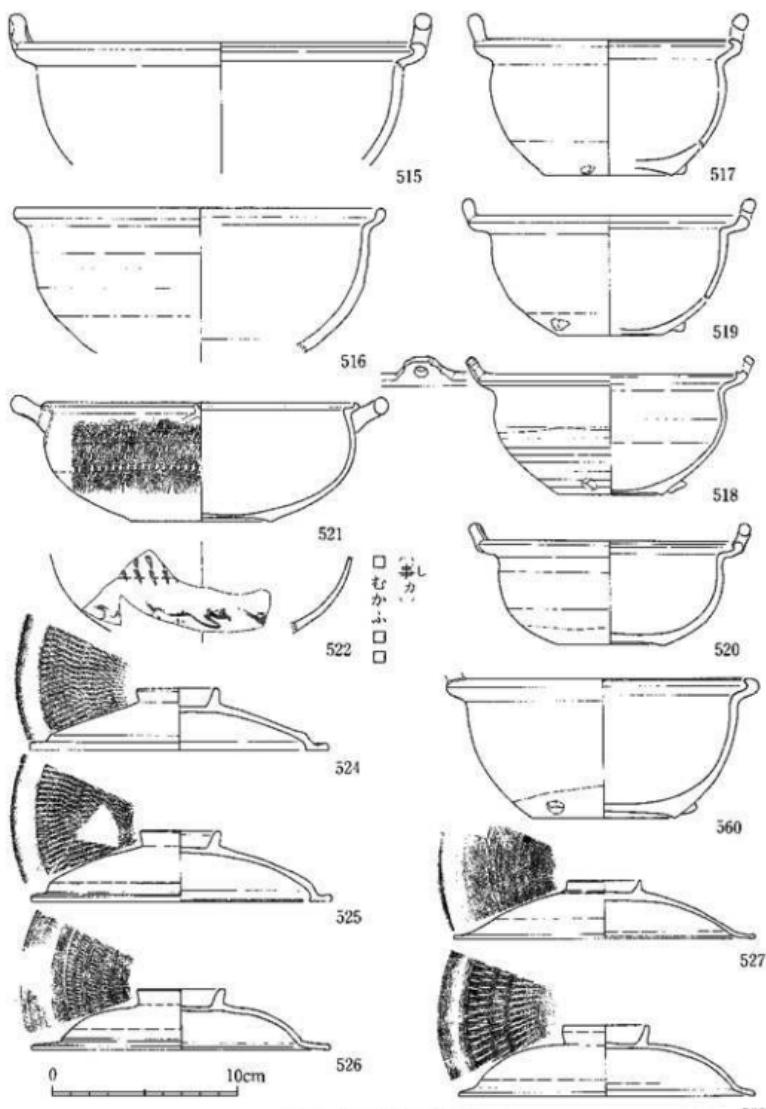


図60 第9地点出土陶器(21)
Fig.60 Glazed ceramics from NM9(21)

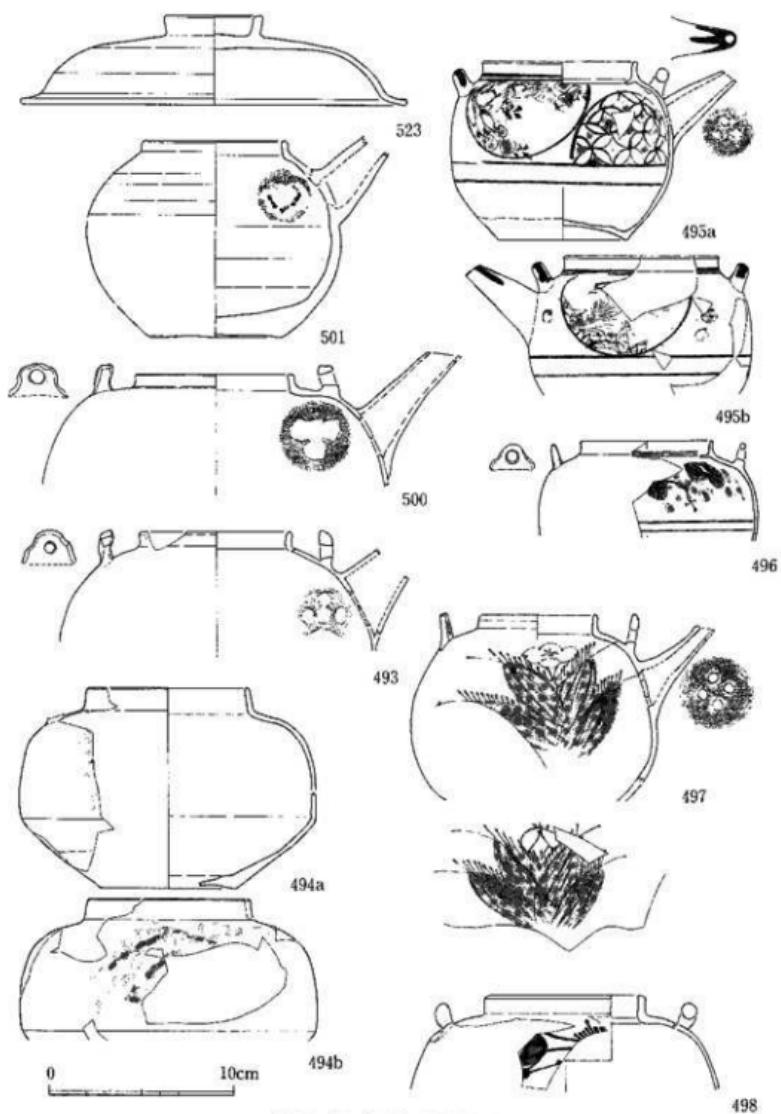


图61 第9地点出土陶器(22)
Fig.61 Glazed ceramics from NM9(22)

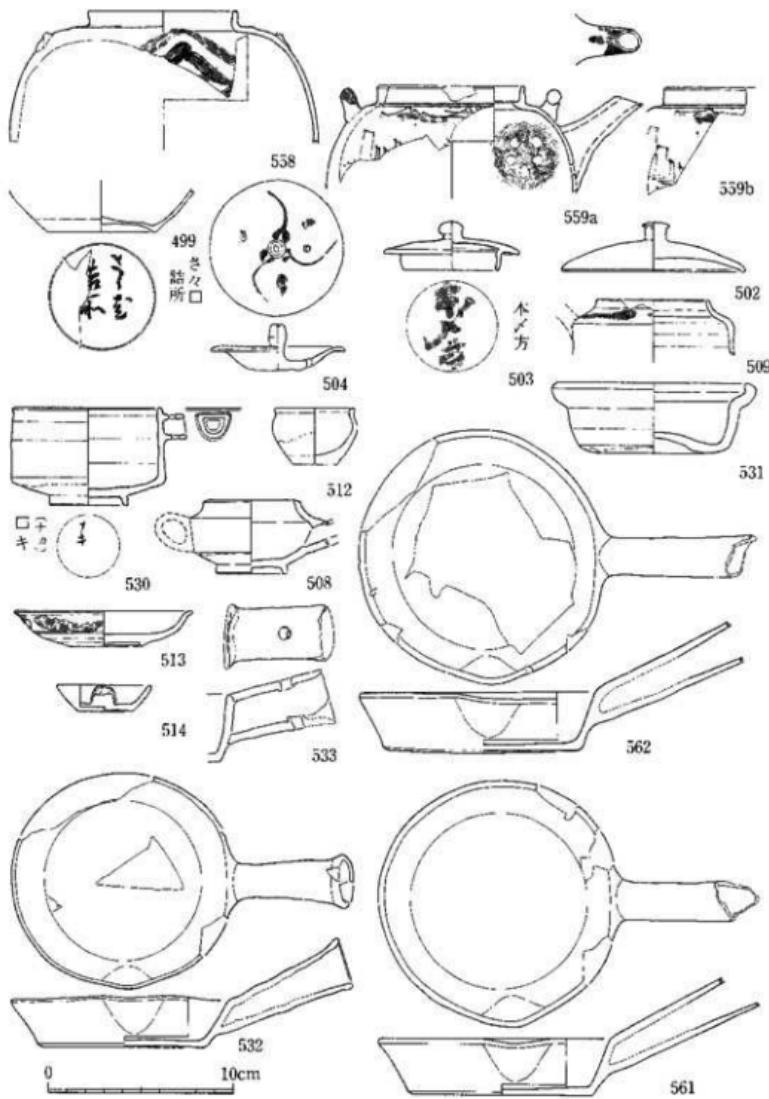


圖62 第9地點出土陶器(23)
Fig.62 Glazed ceramics from NM9(23)

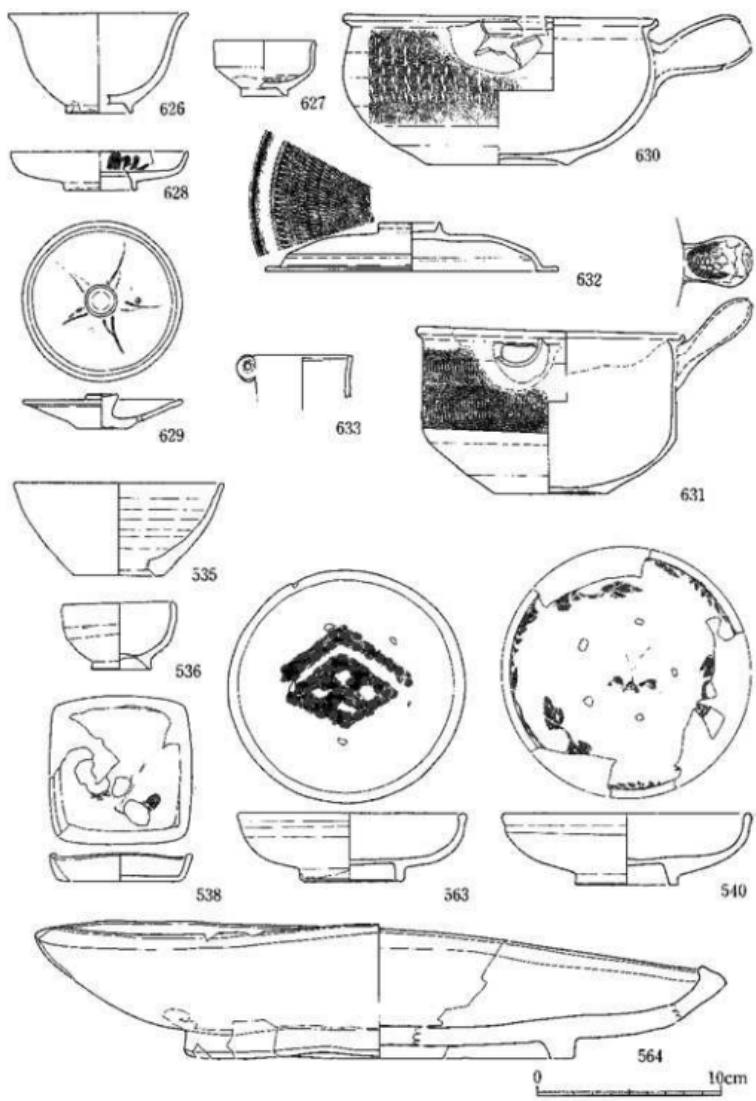


图63 第9地点出土陶器(24)
Fig.63 Glazed ceramics from NM9(24)

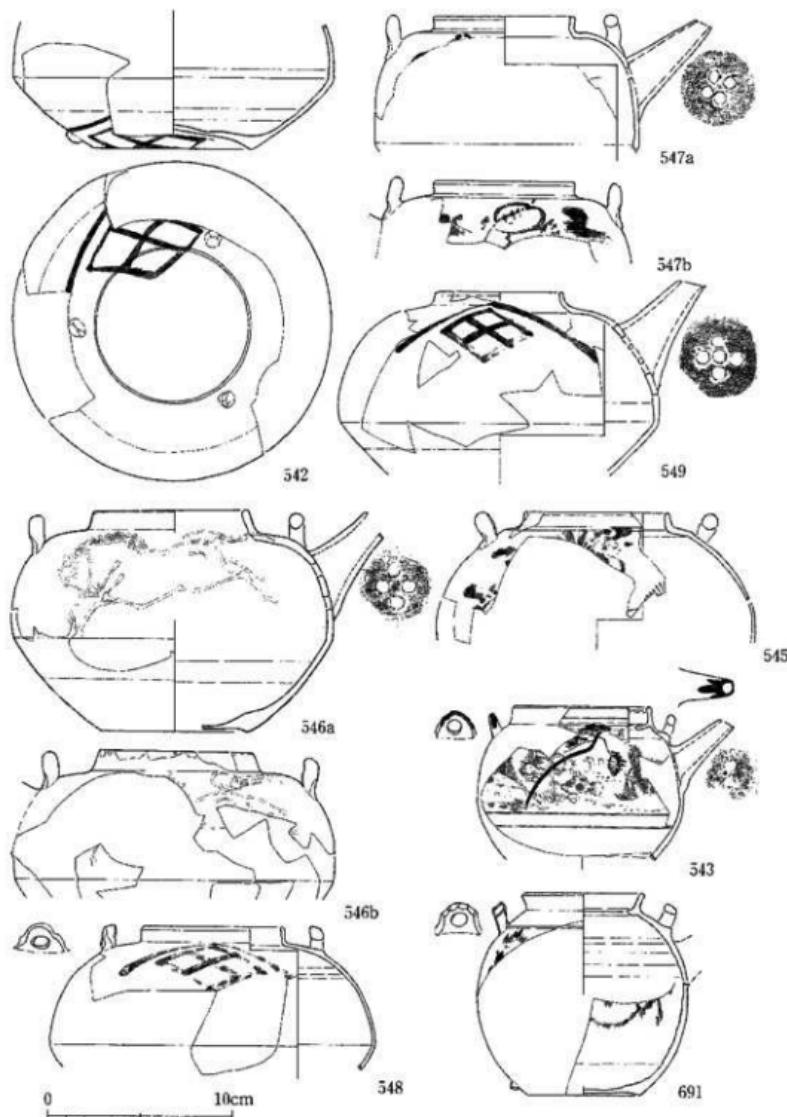


图64 第9地点出土陶器(25)
Fig.64 Glazed ceramics from NM9(25)

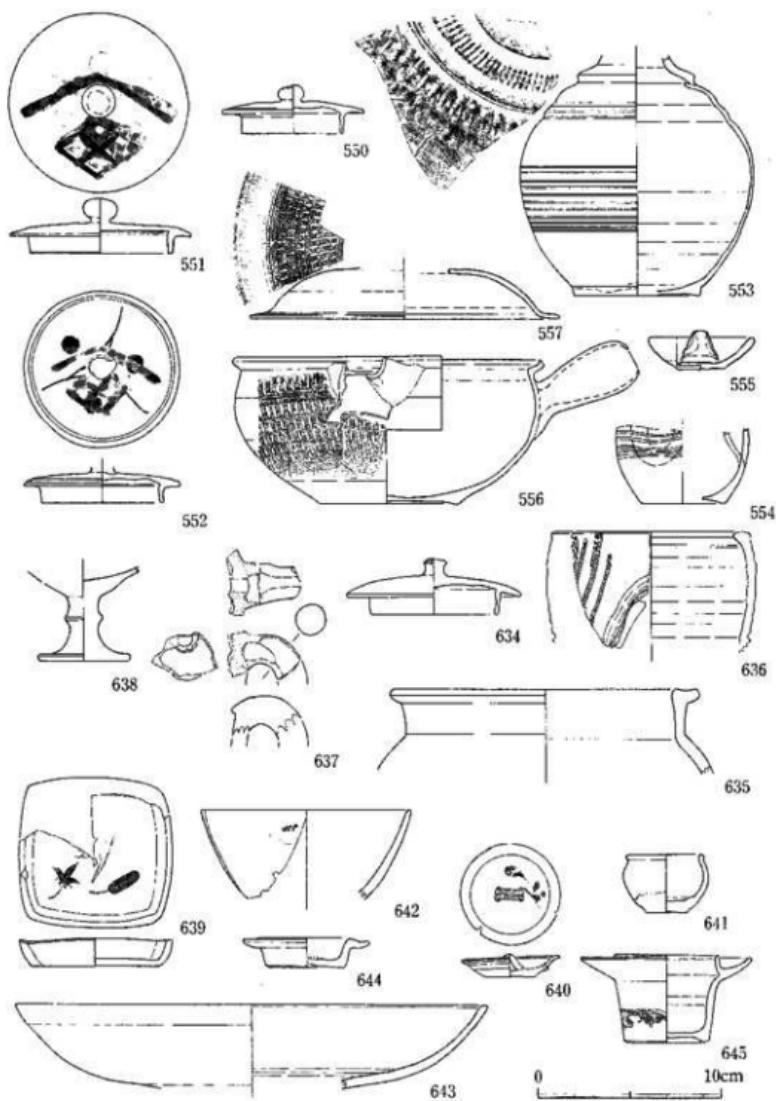


图65 第9地点出土陶器(26)
Fig.65 Glazed ceramics from NM9(26)

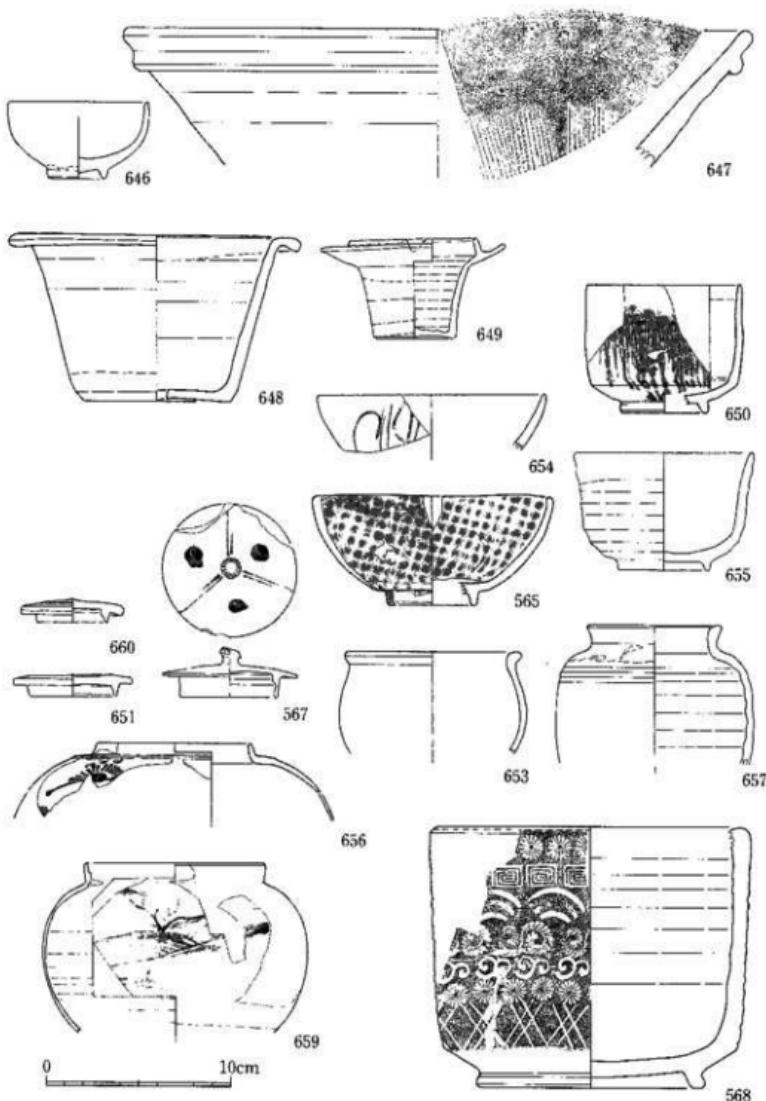


图66 第9地点出土陶器(27)
Fig.66 Glazed ceramics from NM9(27)

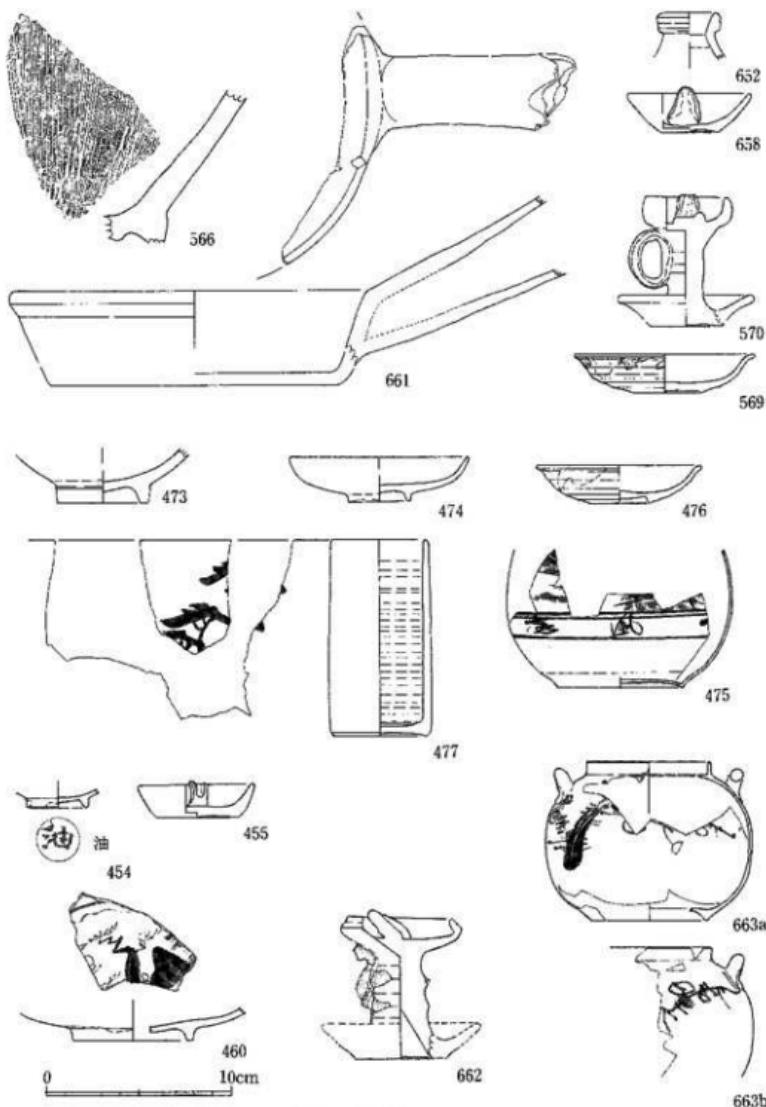


图67 第9地点出土陶器(28)
Fig.67 Glazed ceramics from NM9(28)

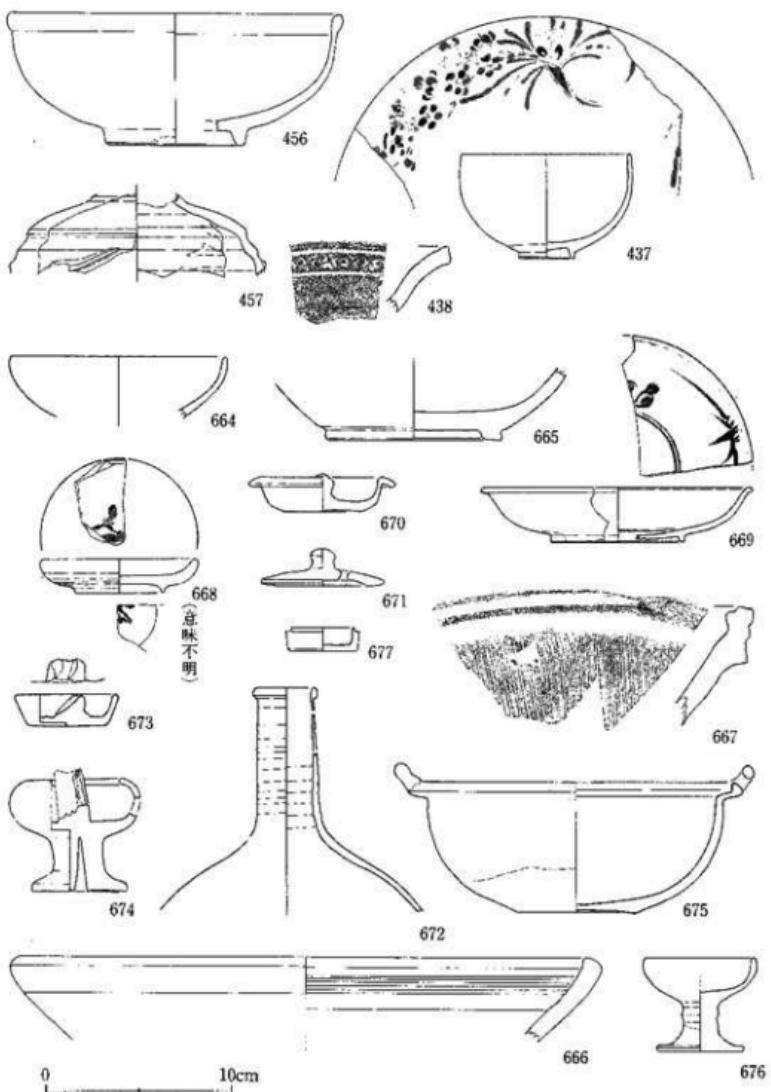


图68 第9地点出土陶器(29)
Fig.68 Glazed ceramics from NM9(29)

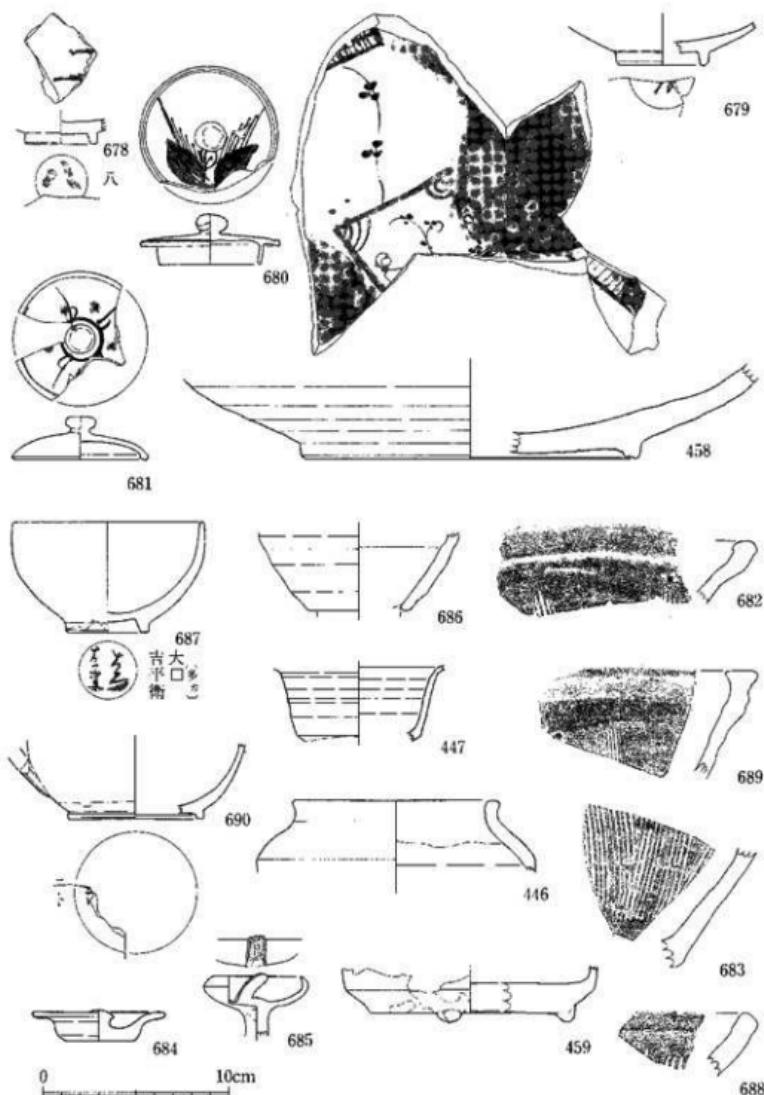


图69 第9地点出土陶器(30)
Fig.69 Glazed ceramics from NM9(30)

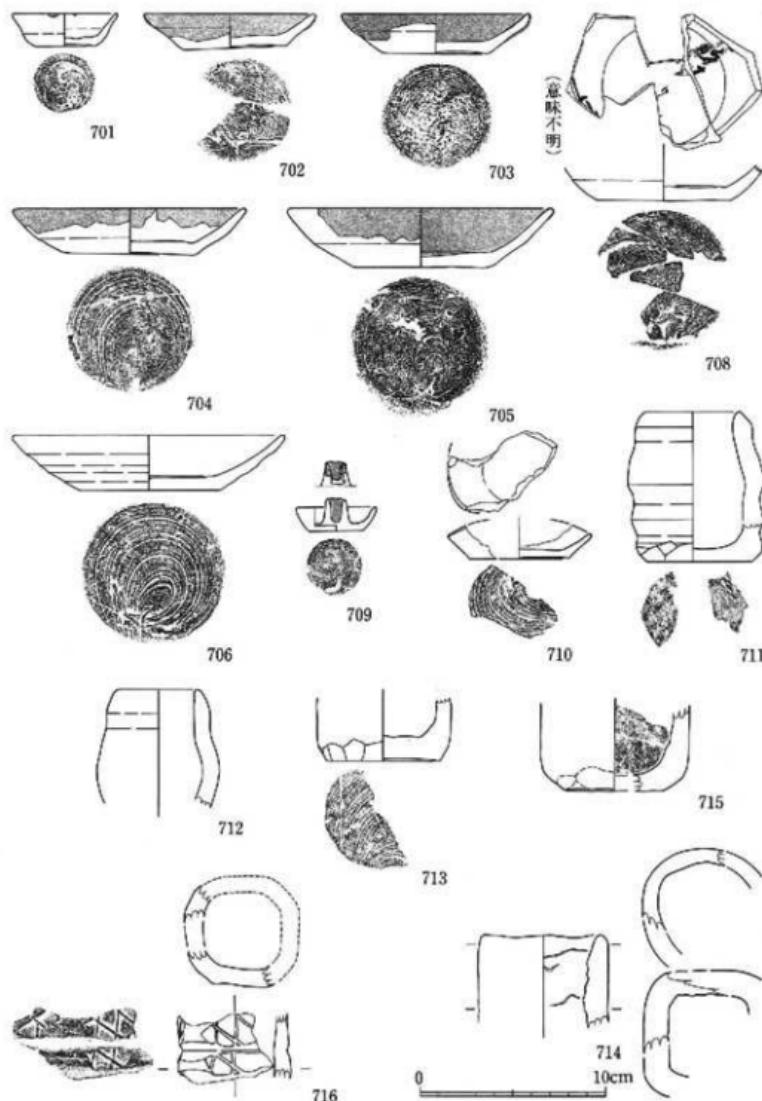


図70 第9地点出土土器(1)
Fig.70 Ceramics from NM9(1)

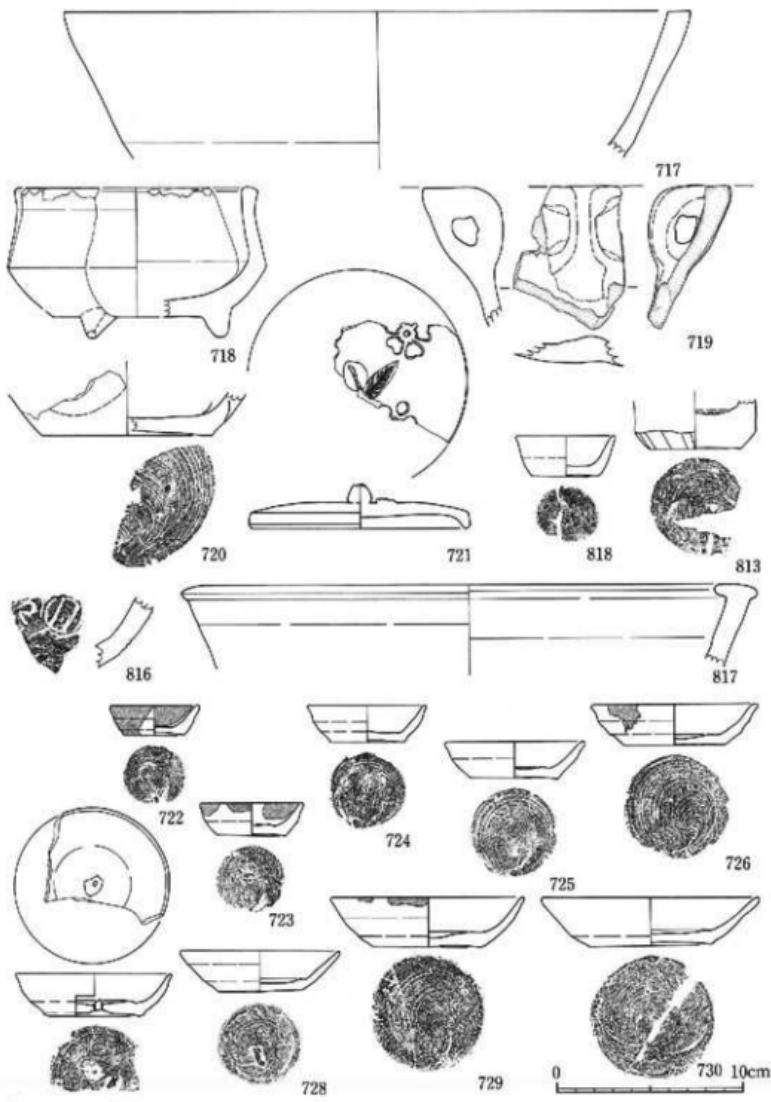


图71 第9地点出土土器(2)
Fig.71 Ceramics from NM9(2)

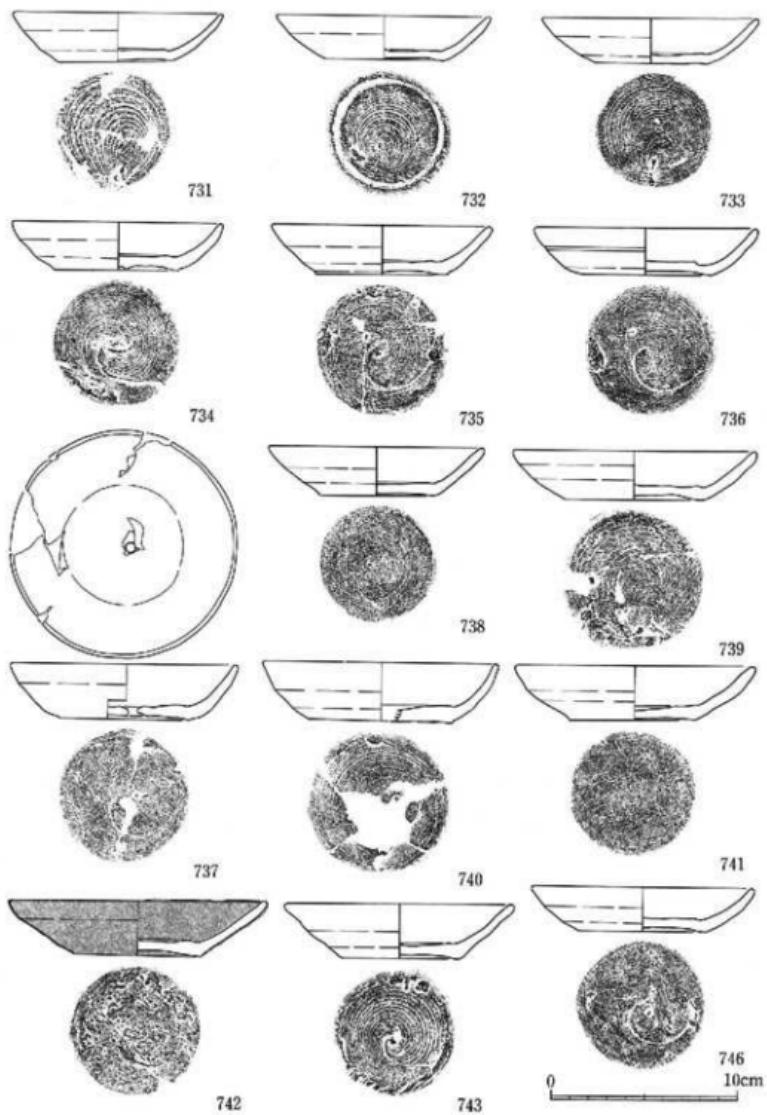


図72 第9地点出土土器(3)
Fig.72 Ceramics from NM9(3)

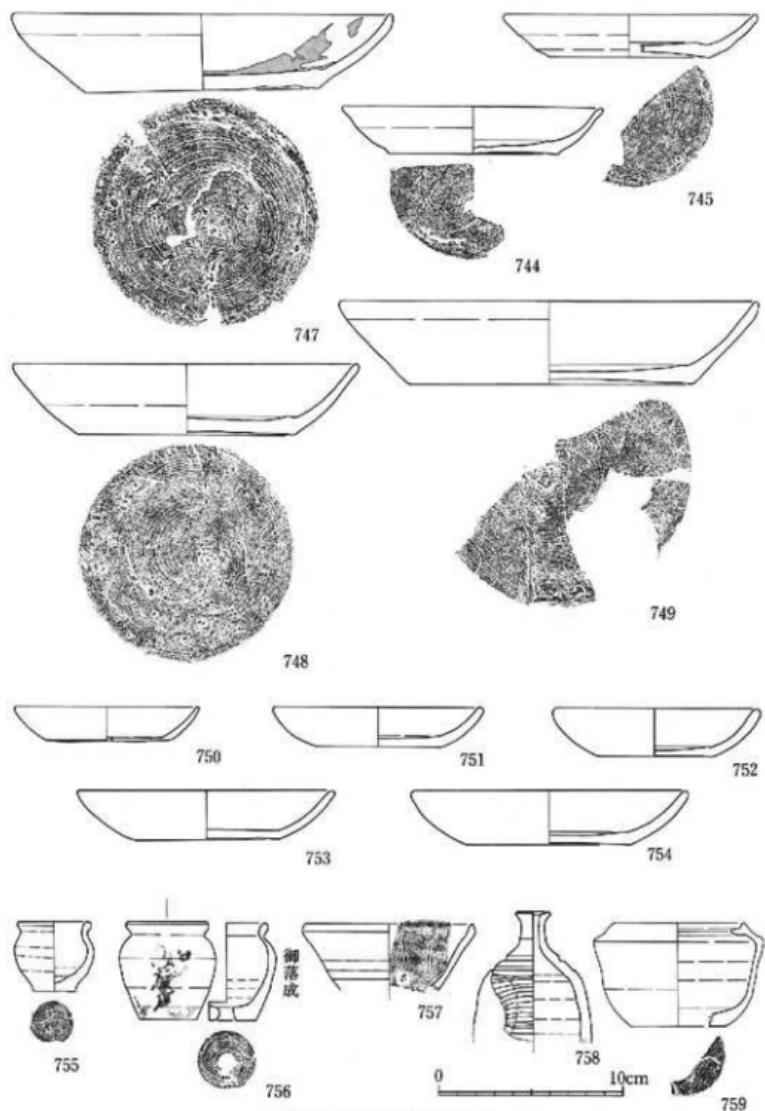


图73 第9地点出土土器(4)
Fig.73 Ceramics from NM9(4)

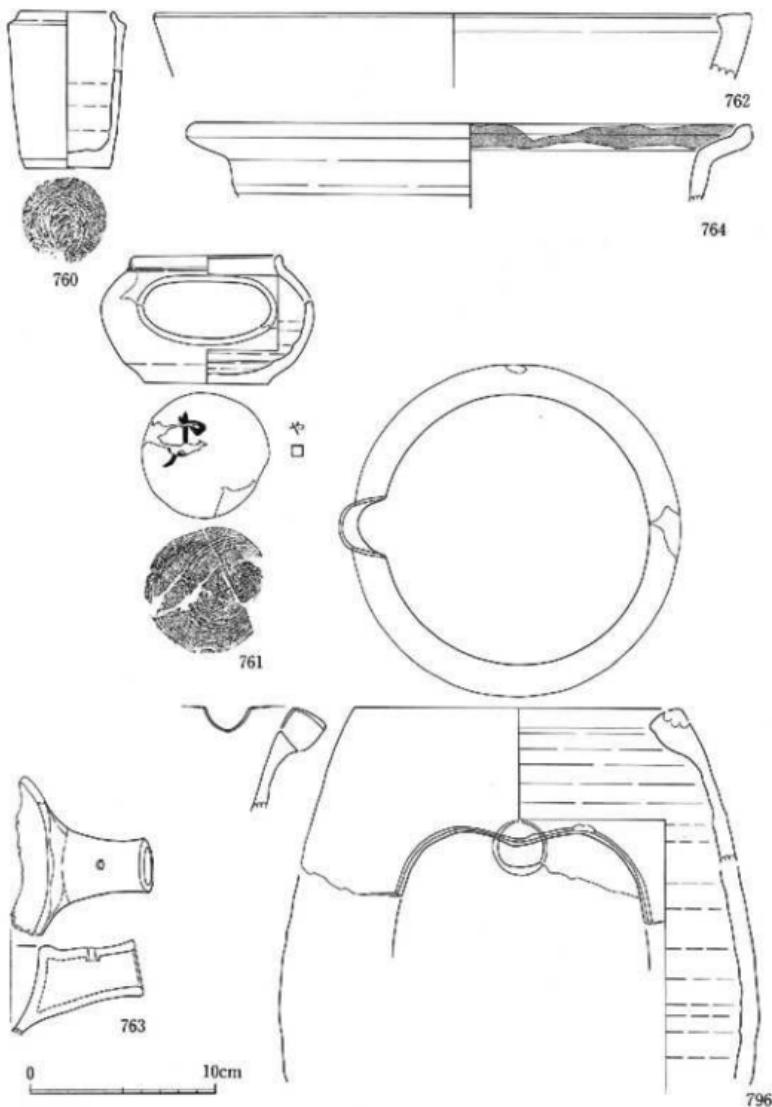


図74 第9地点出土土器(5)
Fig.74 Ceramics from NM9(5)

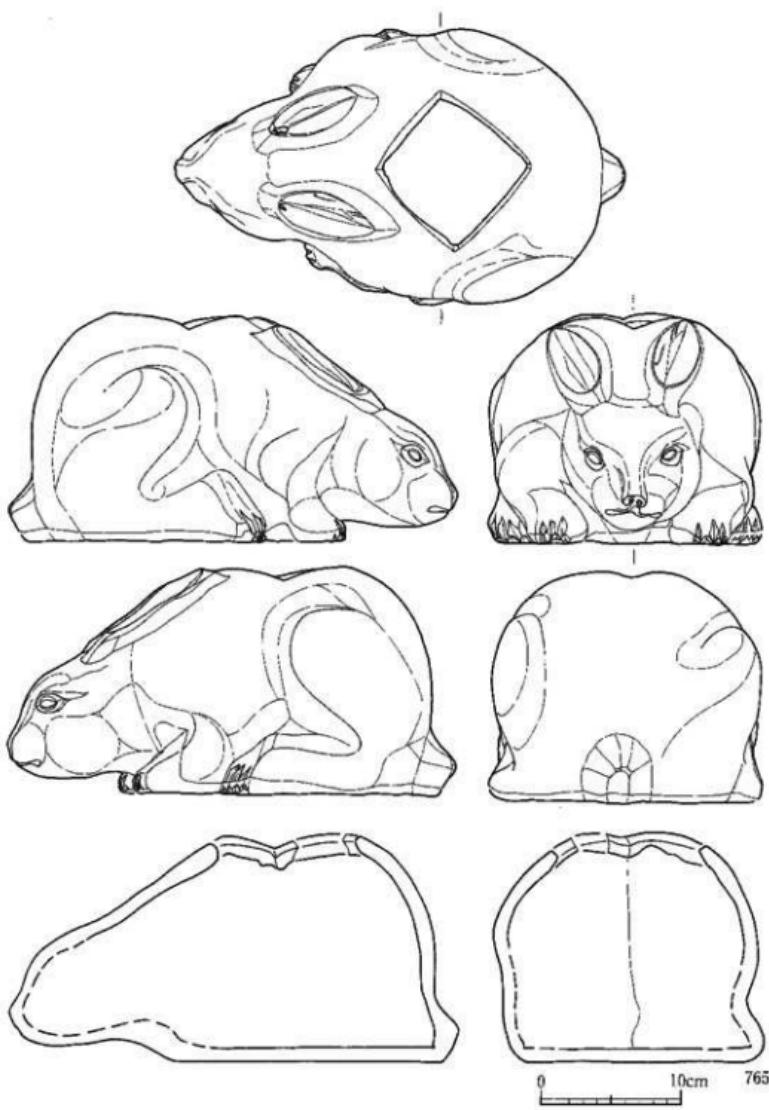


图75 第9地点出土土器(6)
Fig.75 Ceramics from NM9(6)

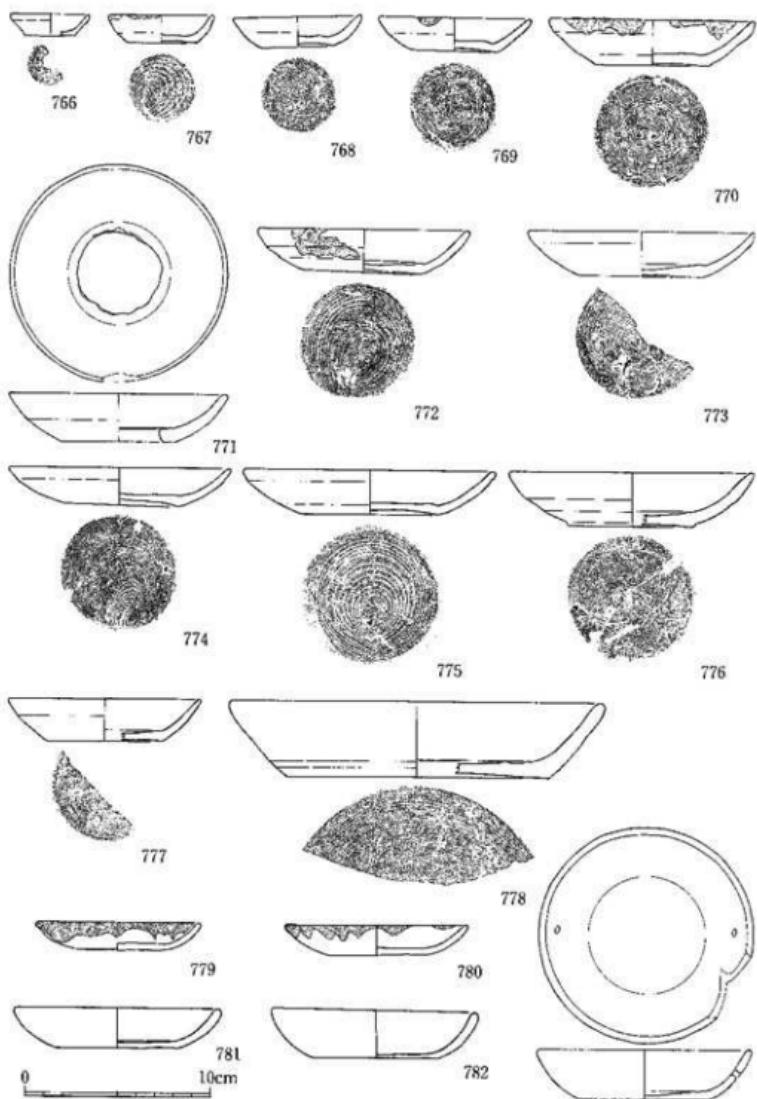


图76 第9地点出土土器(7)
Fig.76 Ceramics from NM9(7)

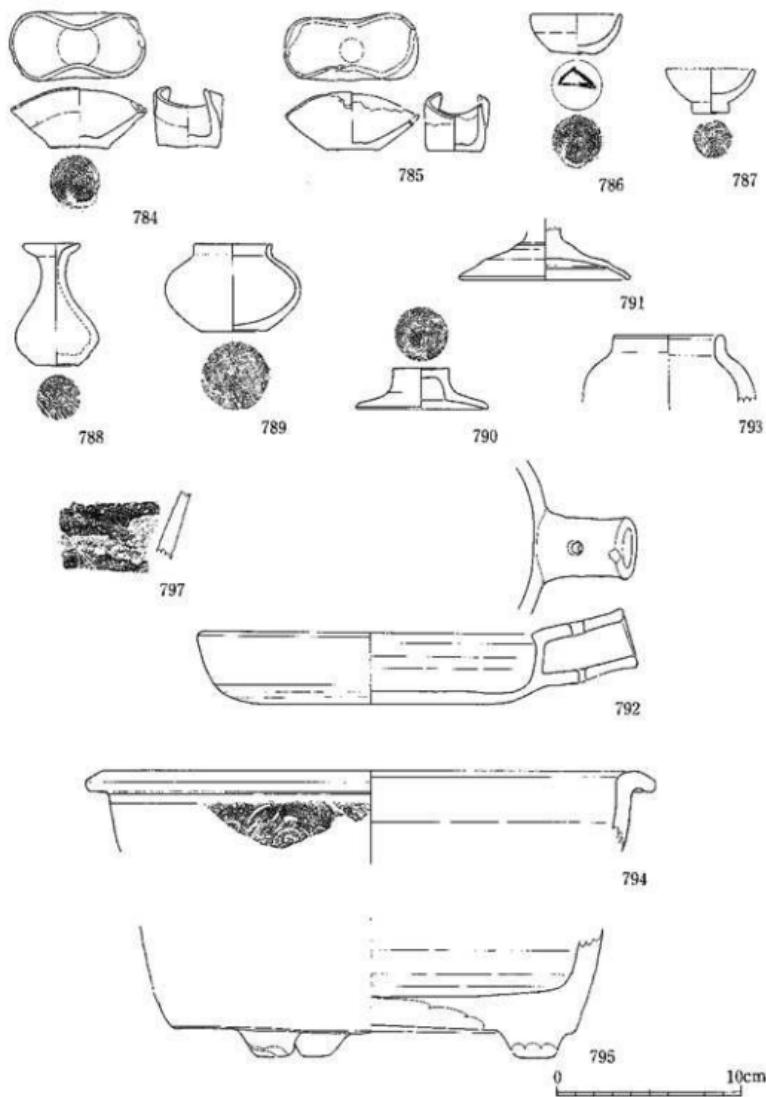


图77 第9地点出土土器(8)
Fig.77 Ceramics from NM9 (8)

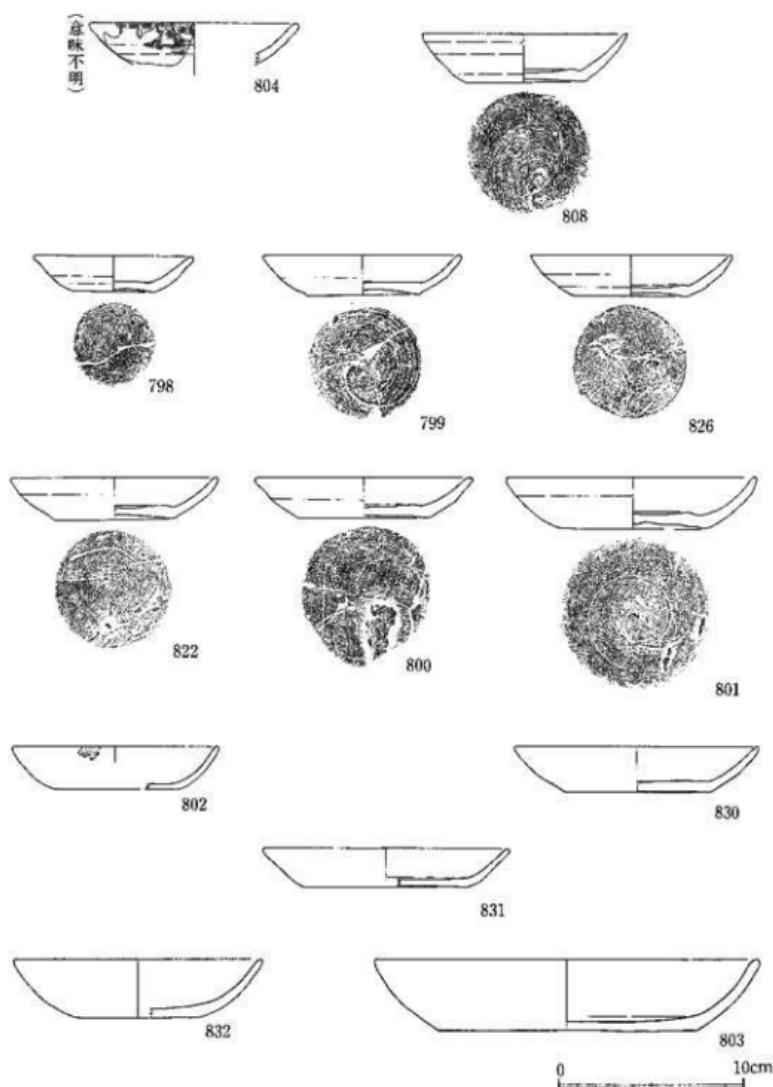


圖78 第9地點出土土器(9)
Fig.78 Ceramics from NM9(9)

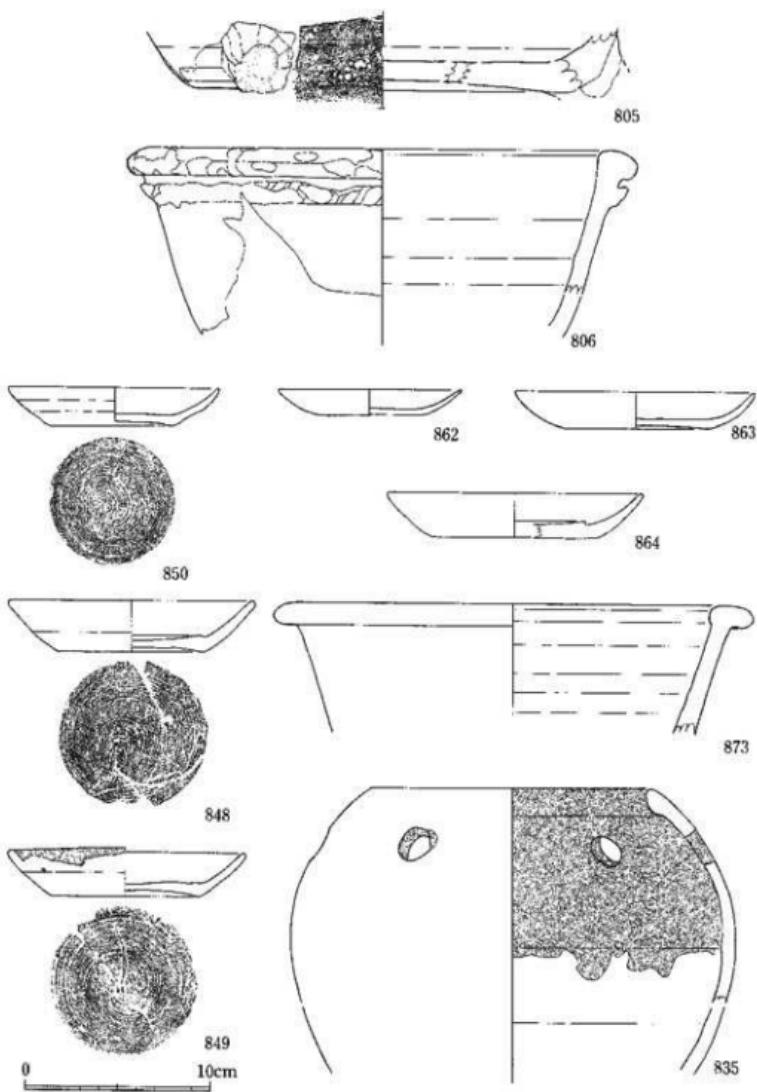


图79 第9地点出土土器(10)
Fig.79 Ceramics from NM9(10)

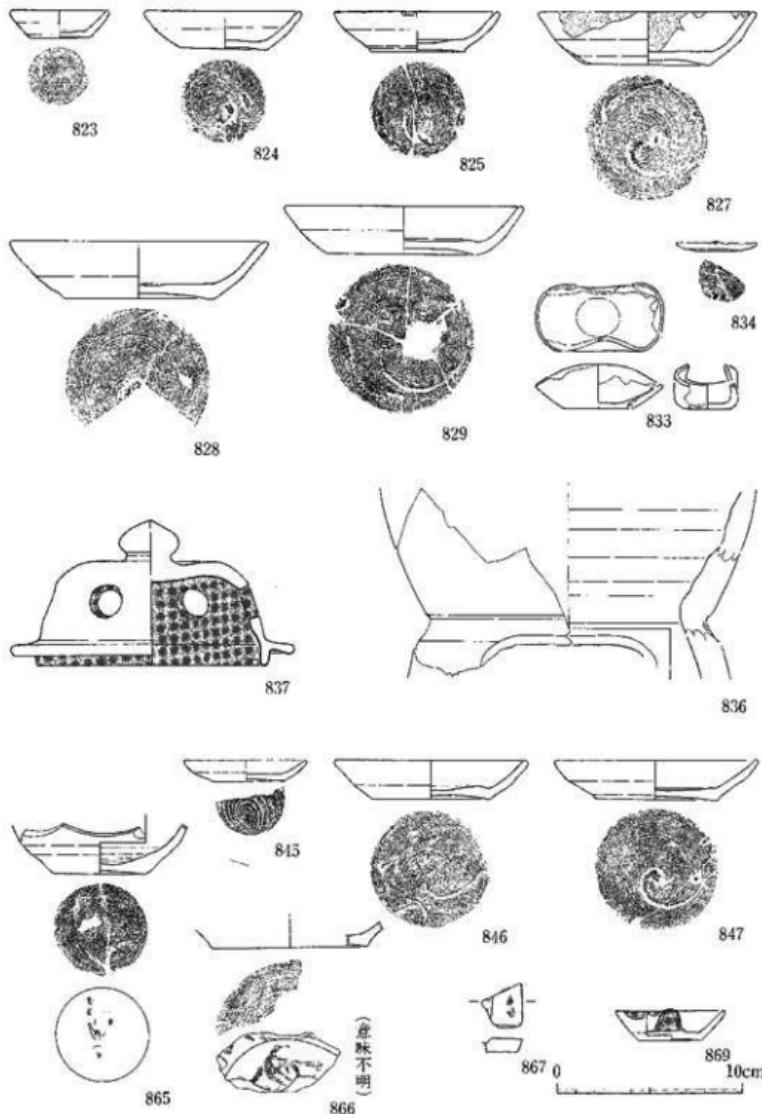


图80 第9地点出土土器(11)
Fig. 80 Ceramics from NM9(11)

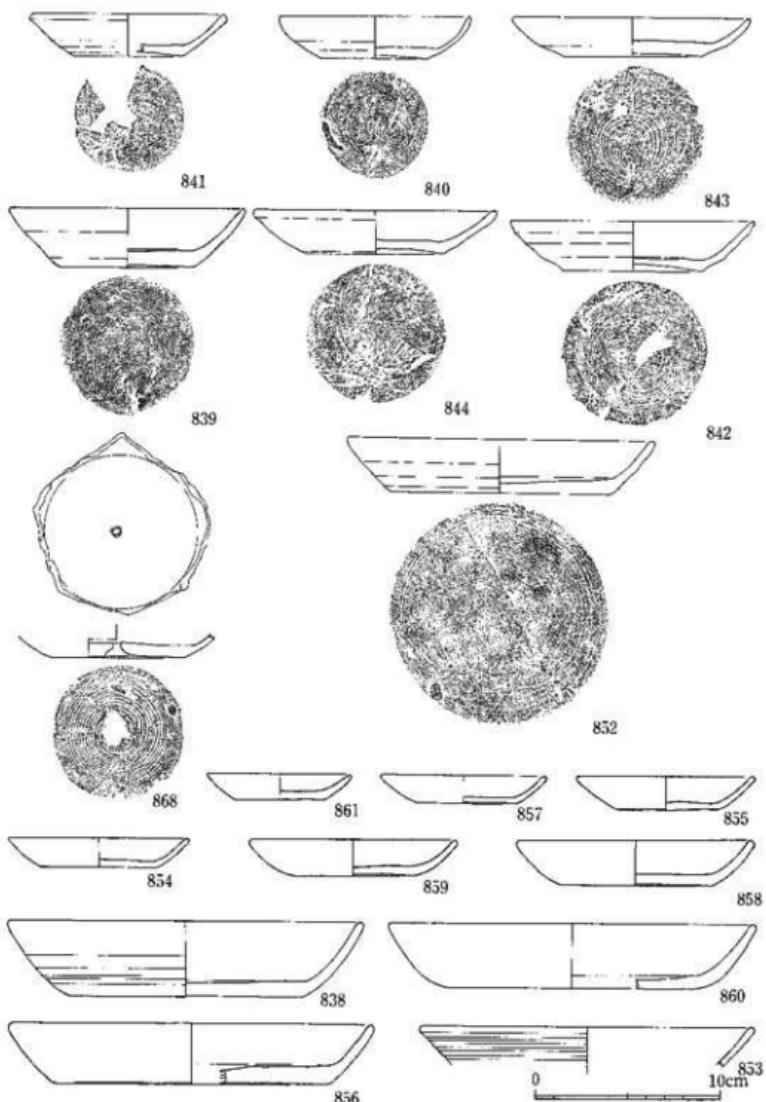


图81 第9地点出土土器(12)
Fig.81 Ceramics from NM9(12)

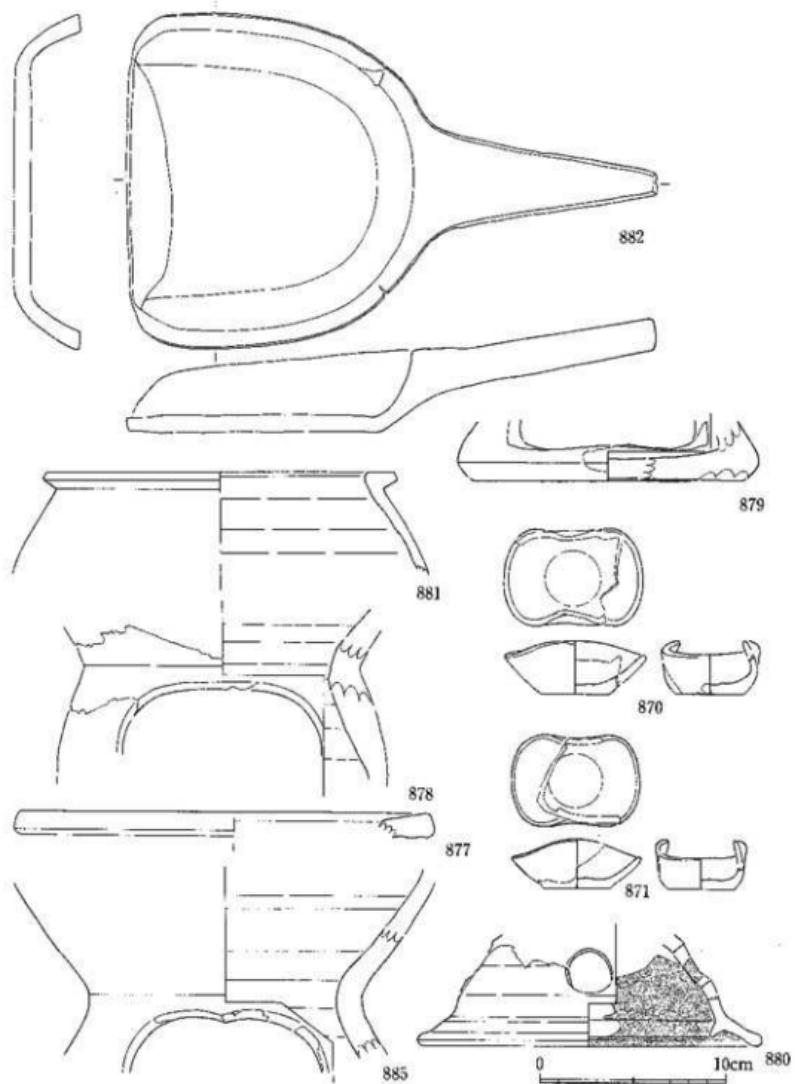


图82 第9地点出土土器(13)
Fig.82 Ceramics from NM9(13)

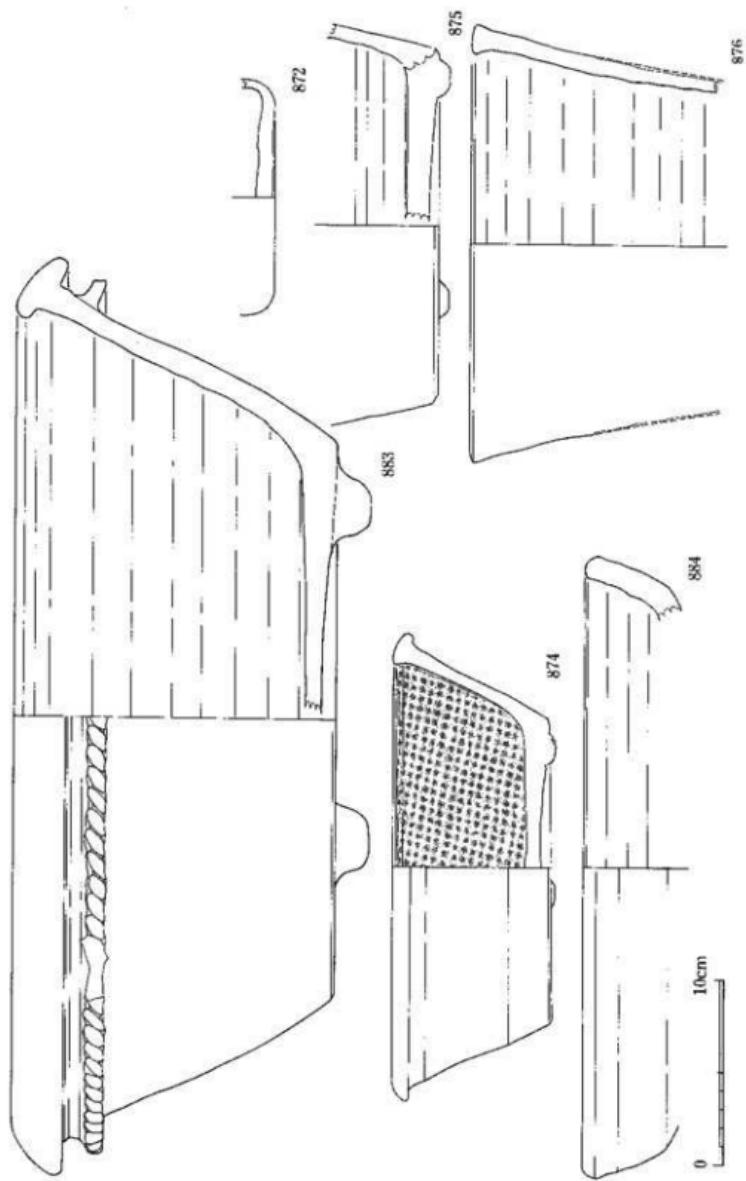


圖83 第9地點出土土器(14)
Fig.83 Ceramics from NM9(14)

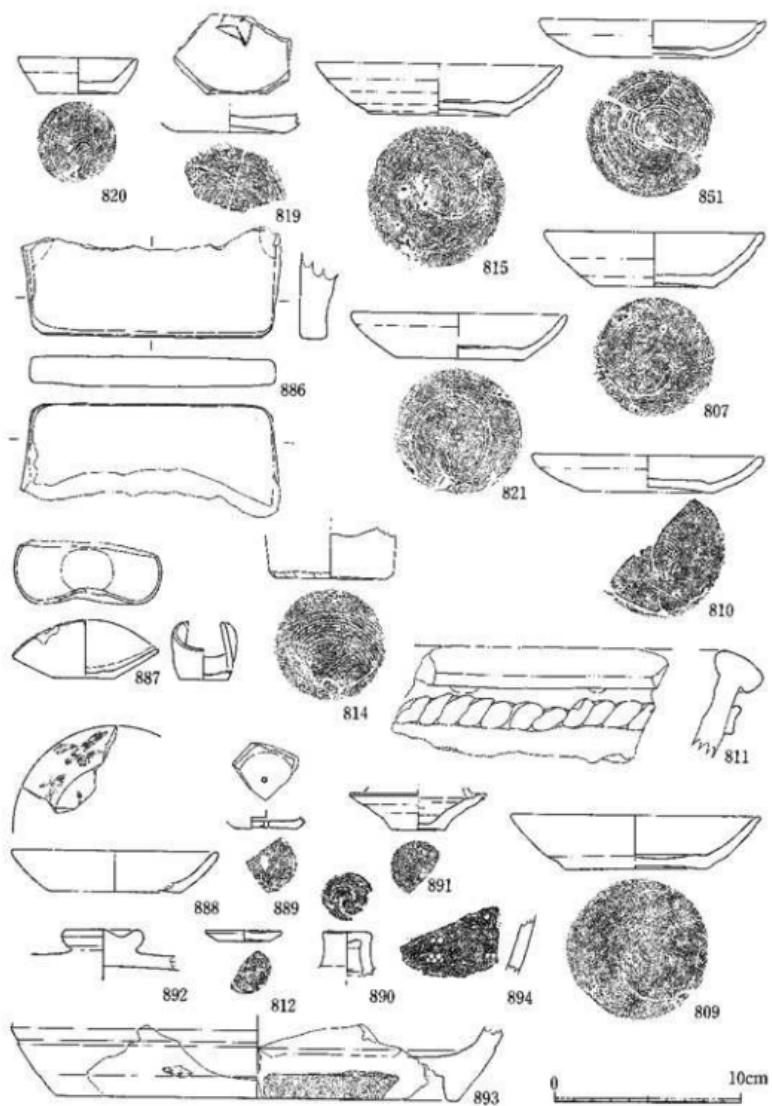


図84 第9地点出土土器(15)
Fig.84 Ceramics from NM9(15)

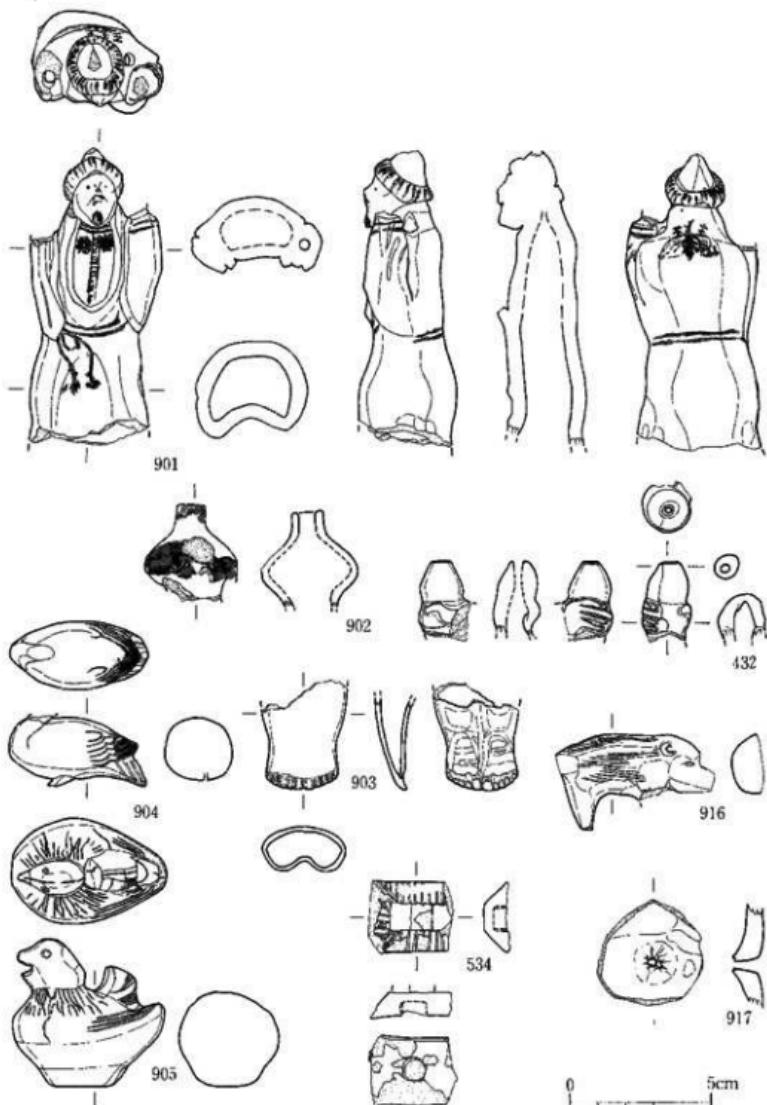


图85 第9地点出土土製品·人形(1)
Fig.85 Clay figures and clay objects from NM9(1)

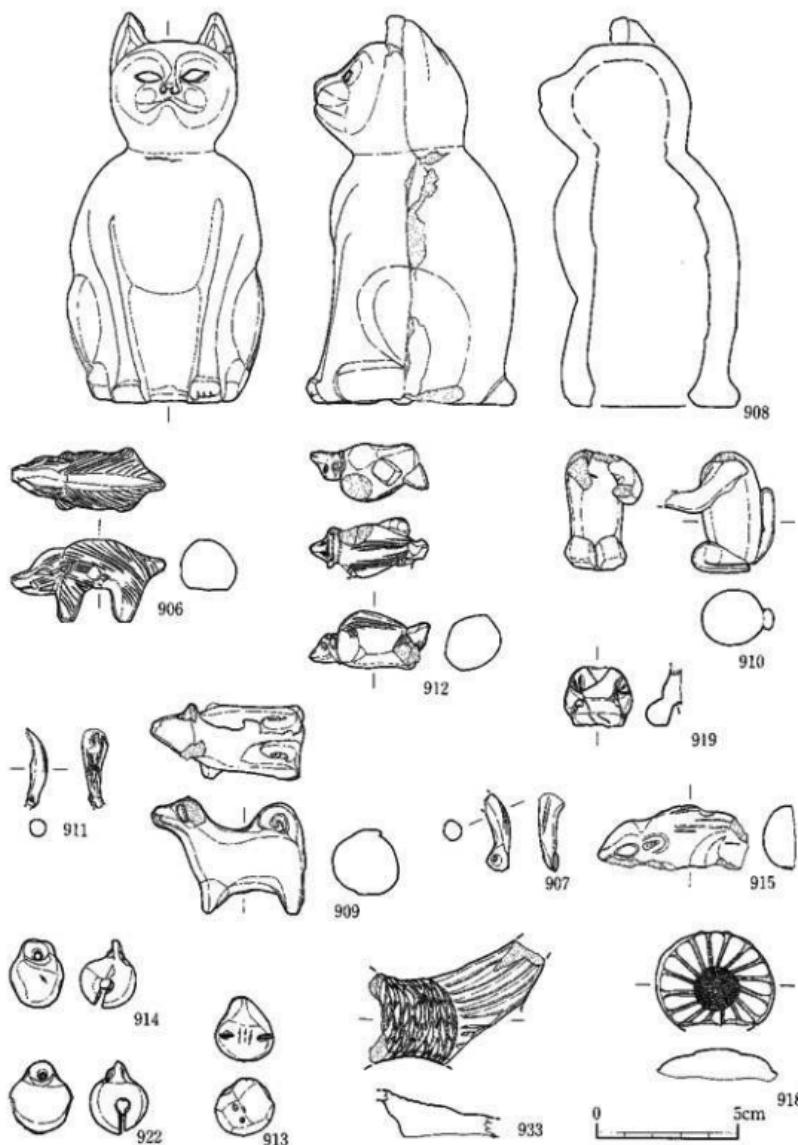


图86 第9地点出土土製品・人形(2)
Fig.86 Clay figures and clay objects from NM9(2)

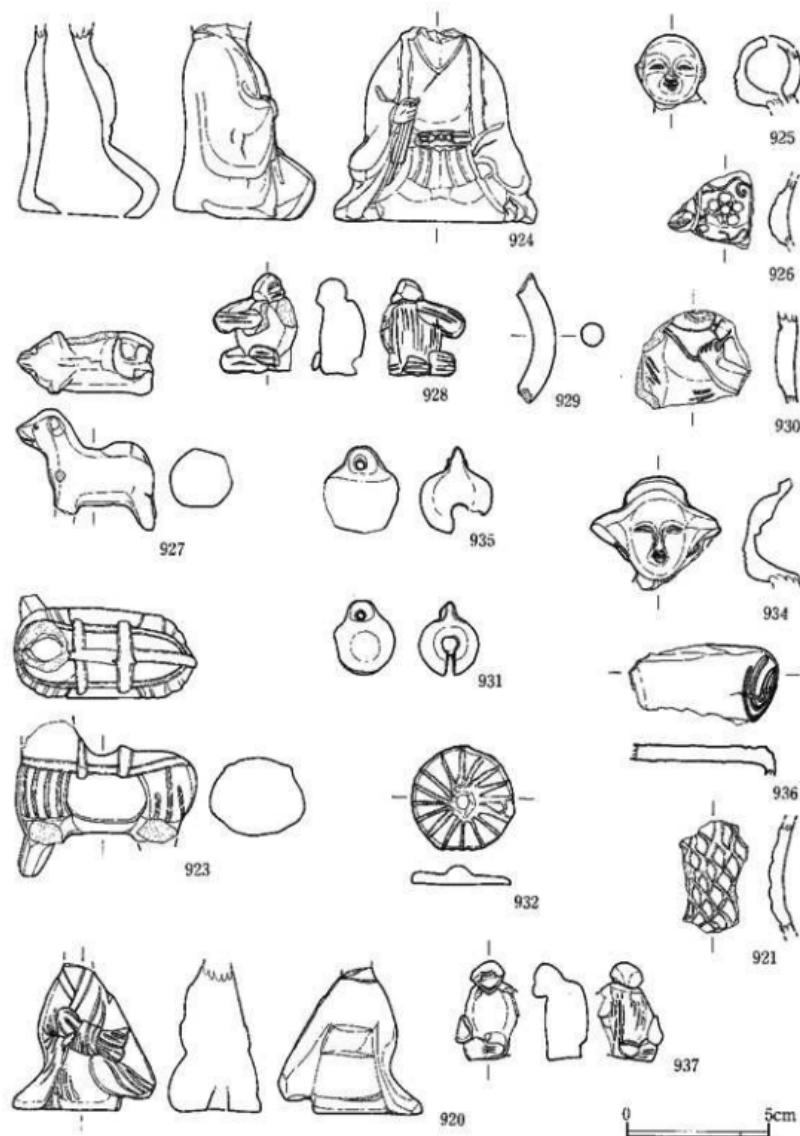


図87 第9地点出土土製品・人形(3)

Fig.87 Clay figures and clay objects from NM9(2)

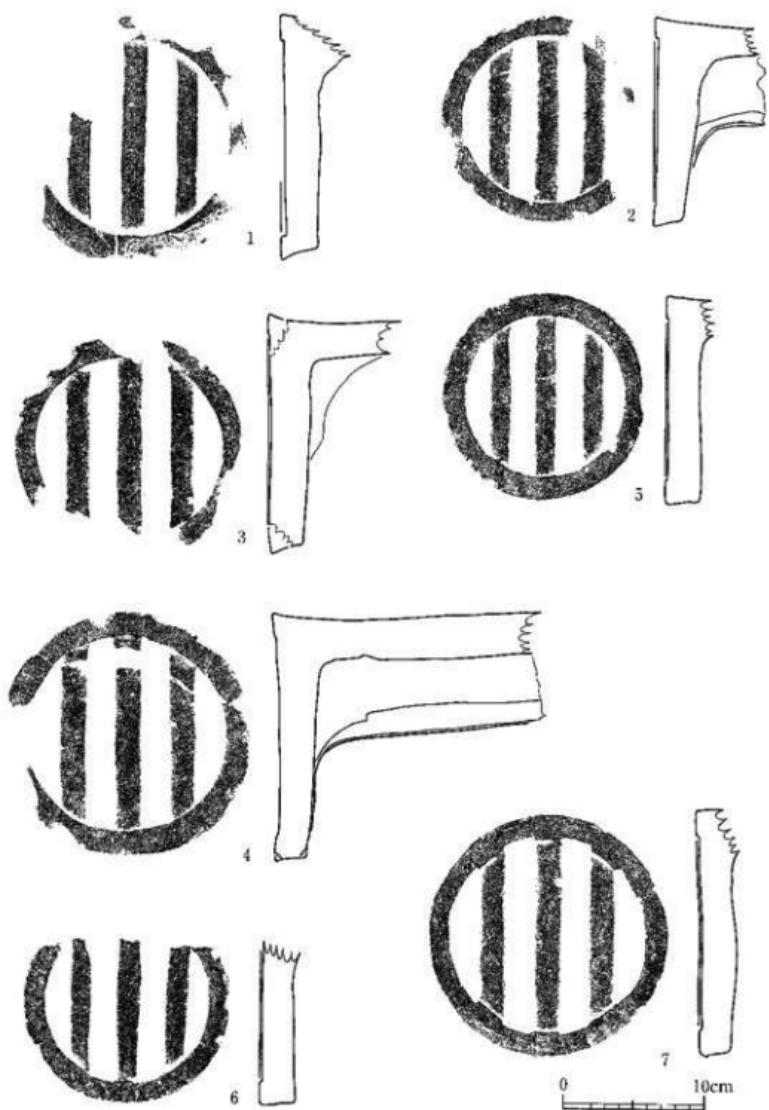


图88 第9地点出土軒丸瓦類(1)
Fig.88 Round eaves tiles from NM9(1)

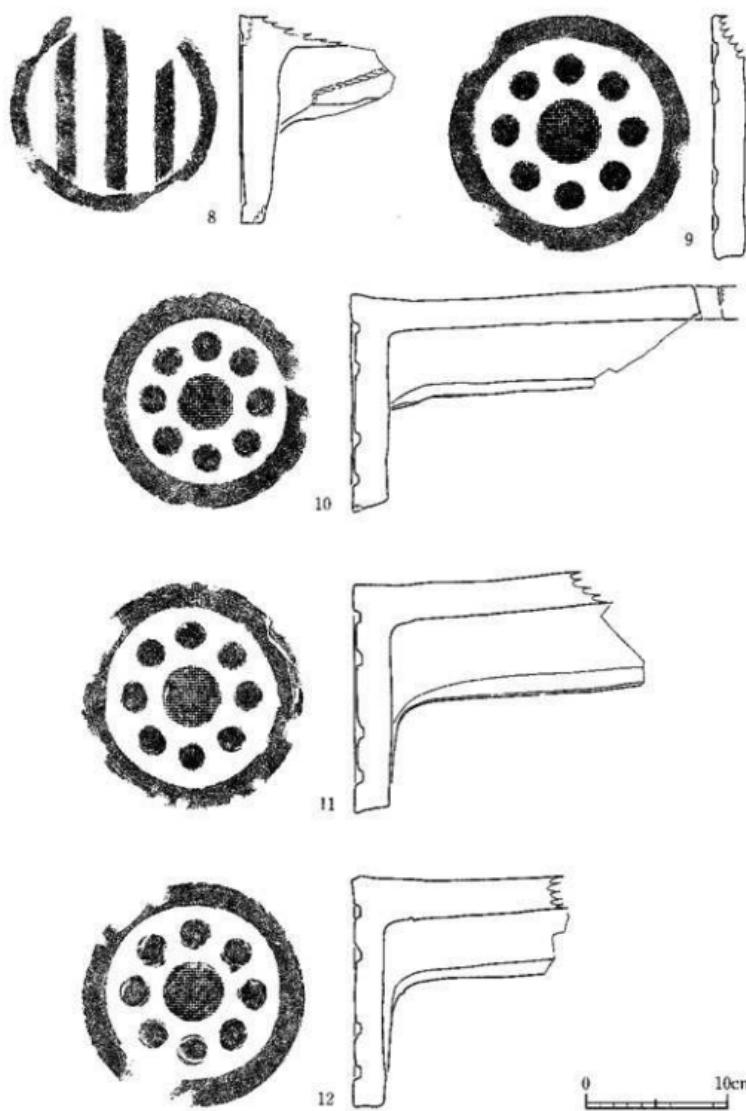


图89 第9地点出土軒丸瓦類(2)
Fig.89 Round eaves tiles from NM9(2)

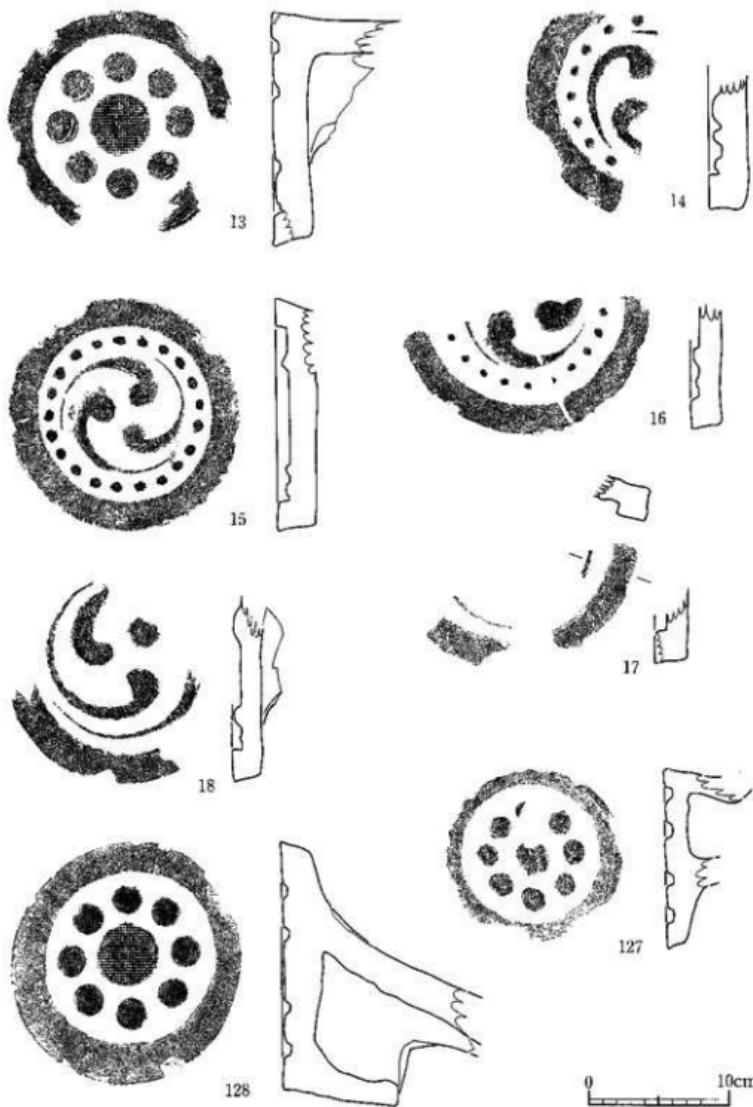


图90 第9地点出土軒丸瓦頬(3)
Fig.90 Round eaves tiles from NM9(3)

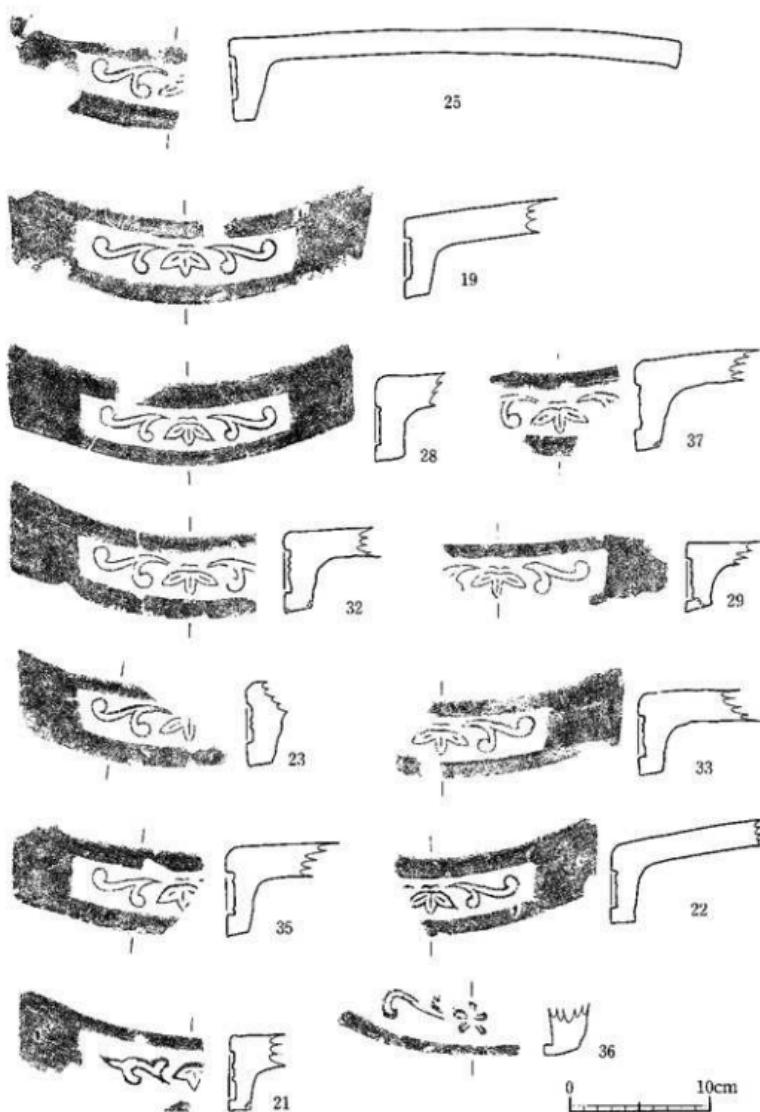


圖91 第9地點出土軒平瓦頬(1)
Fig.91 Flat eaves tiles from NM9



图92 第9地点出土軒平瓦類(2)・軒棧瓦(1)
Fig.92 Flat caves tiles and eaves-pan tiles from NM9

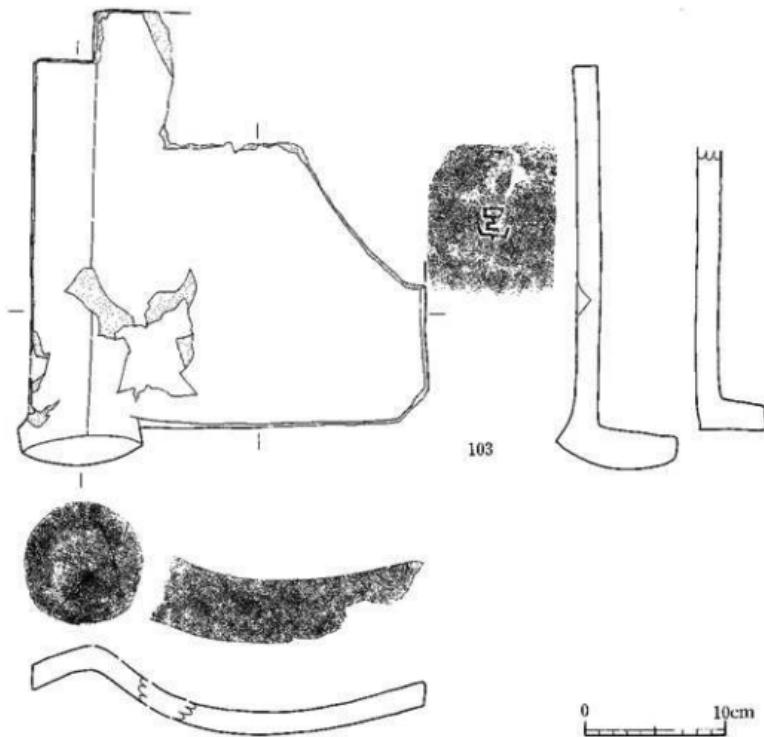
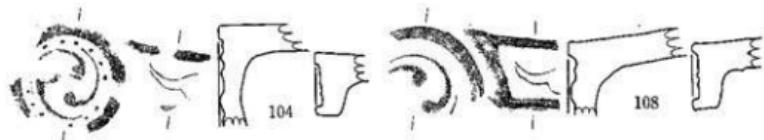


图93 第9地点出土軒棧瓦(2)
Fig.93 Eaves-pan tiles from NM9

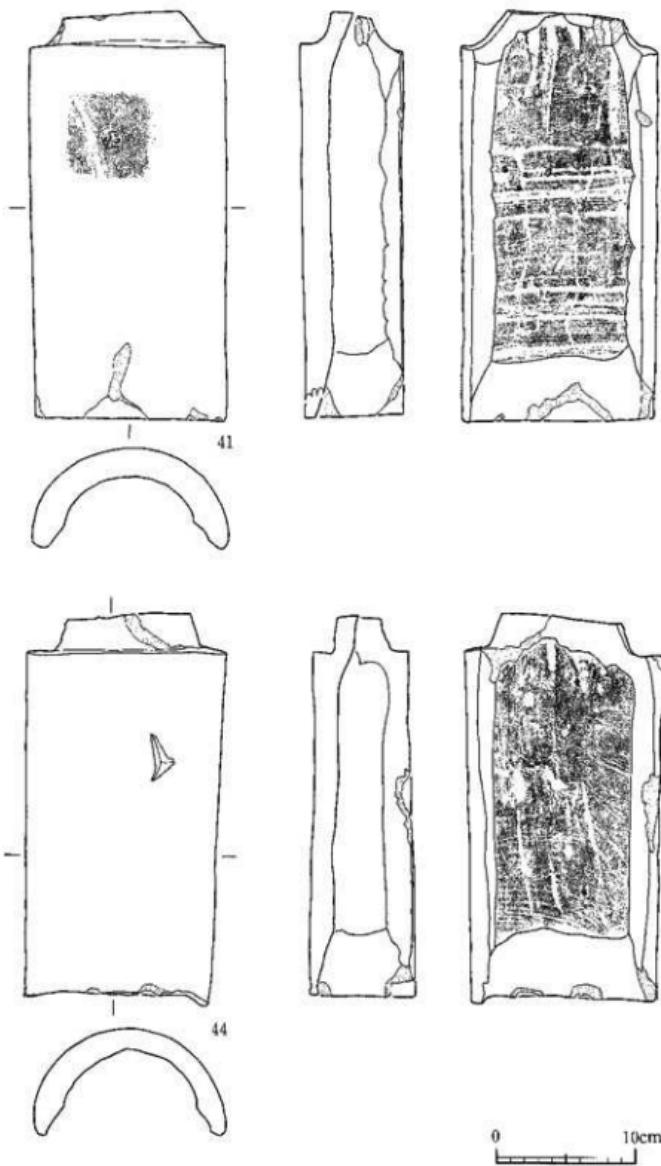


圖94 第9地點出土丸瓦(1)
Fig.94 Round roof tiles from NM9(1)

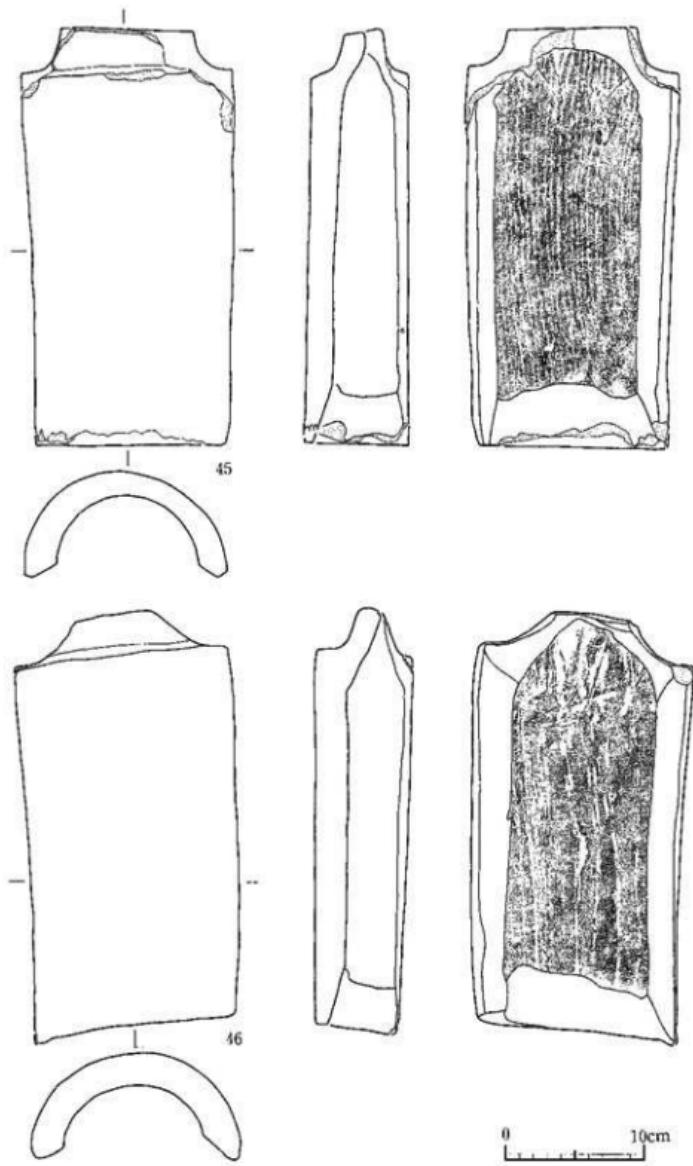


图95 第9地点出土丸瓦(2)
Fig.95 Round roof tiles from NM9(2)

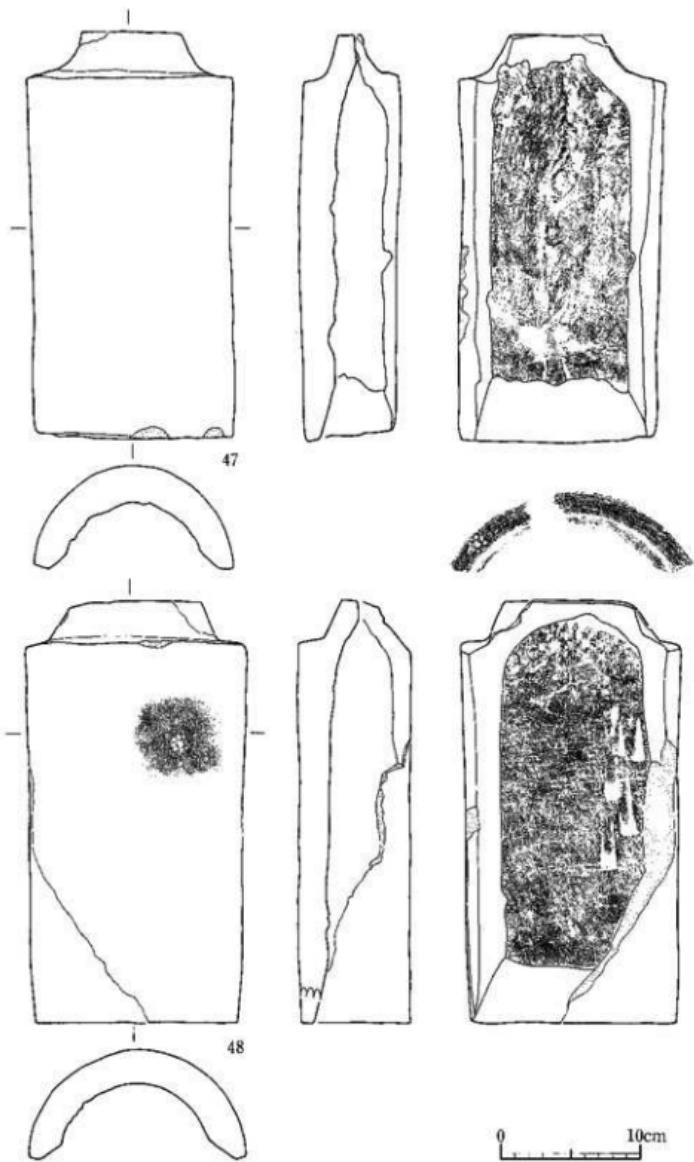


图96 第9地点出土丸瓦(3)
Fig.96 Round roof tiles from NM9(3)

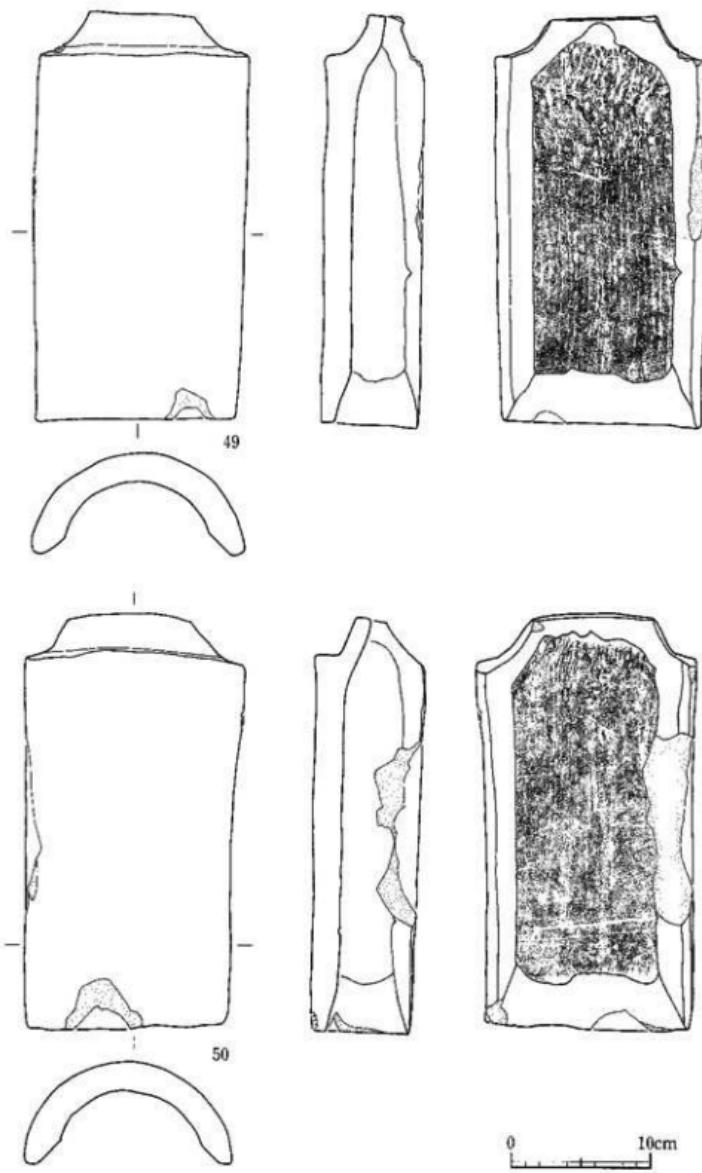


图97 第9地点出土丸瓦(4)
Fig. 97 Round roof tiles from NM9(4)

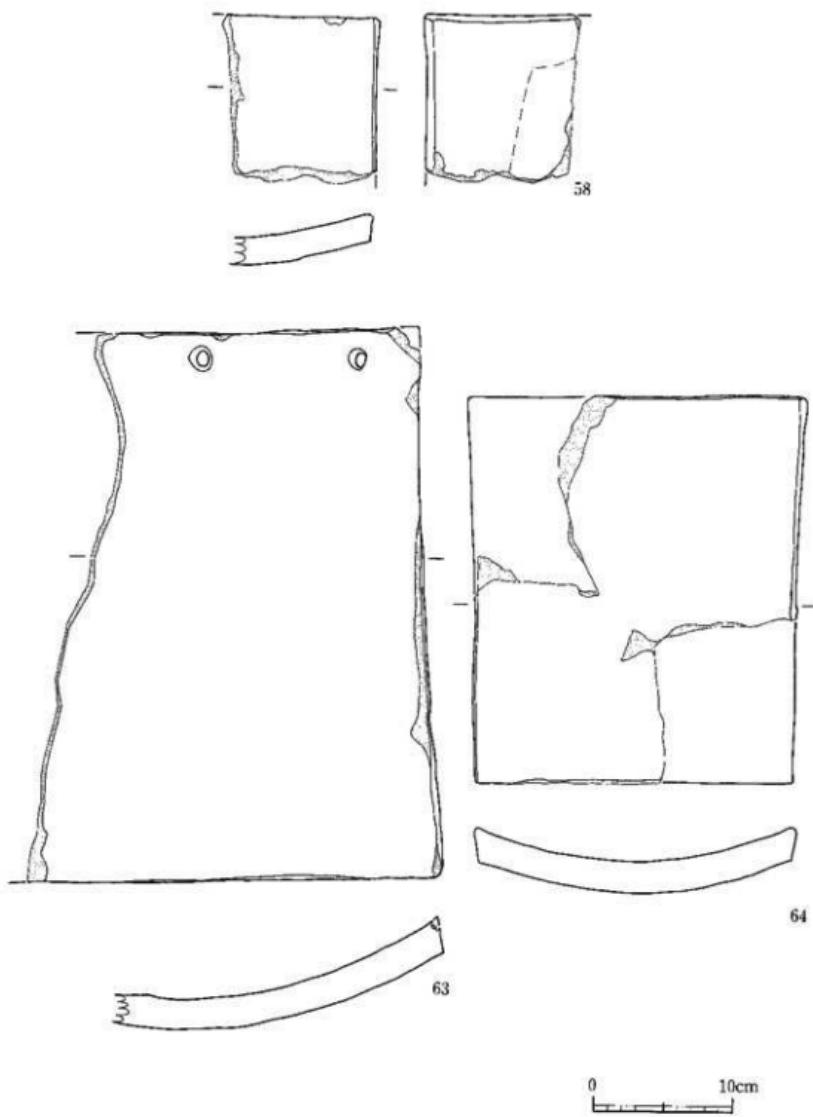


圖98 第9地點出土平瓦(1)
Fig.98 Flat roof tiles from NM9

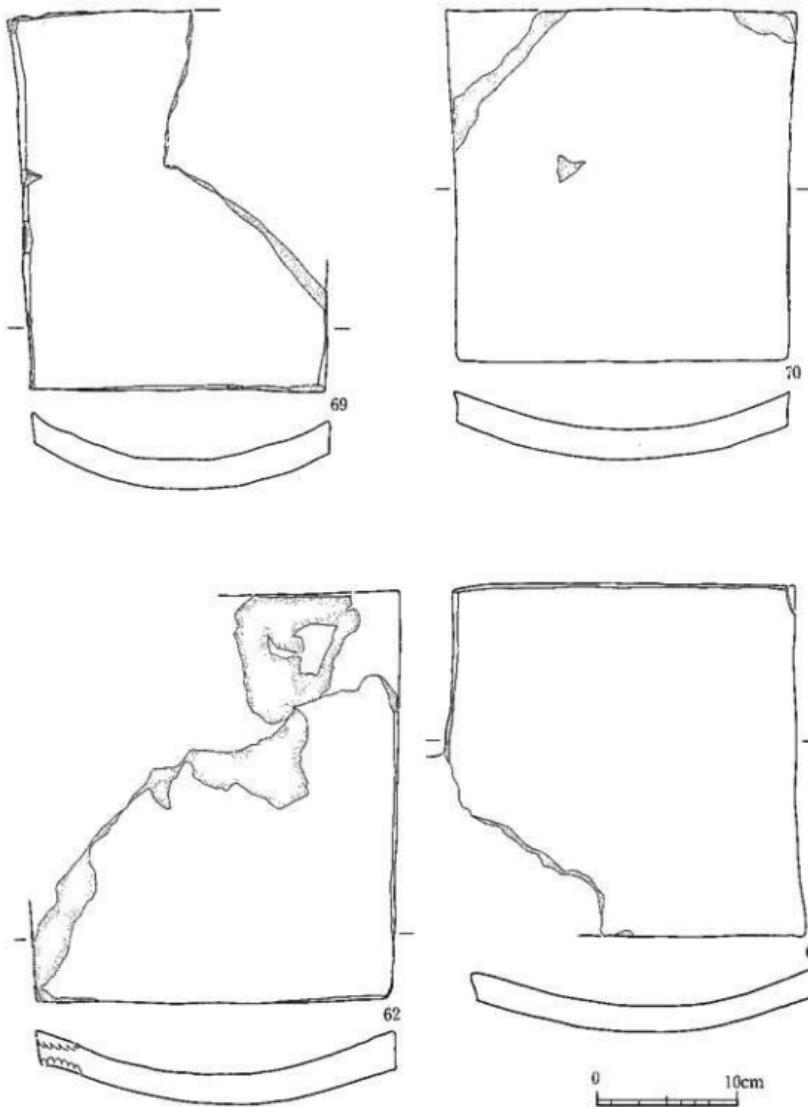
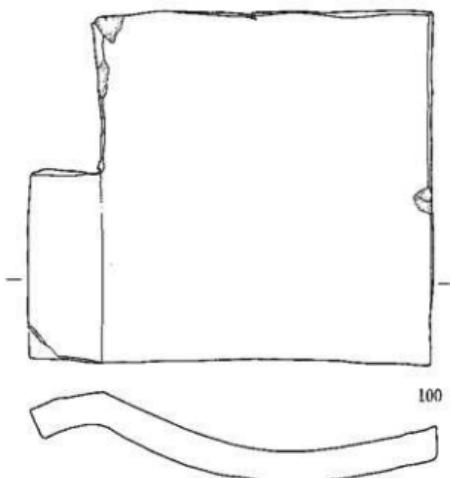
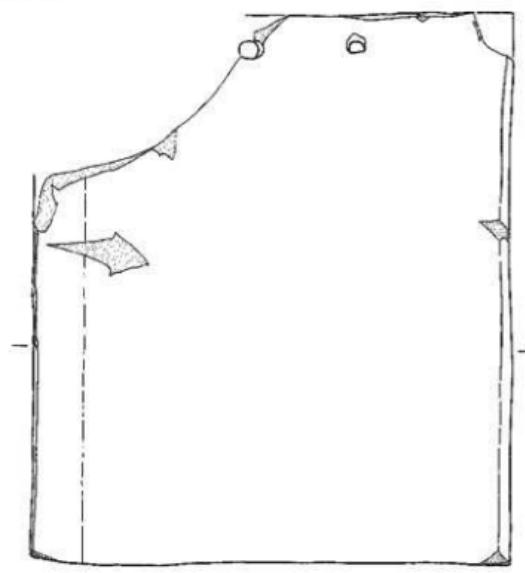


图99 第9地点出土平瓦(2)·棟瓦(1)
Fig.99 Flat roof tiles and pan tile from NM9



100



99

0 10cm

圖100 第9地點出土棧瓦(2)
Fig.100 Pan tiles from NM9(2)

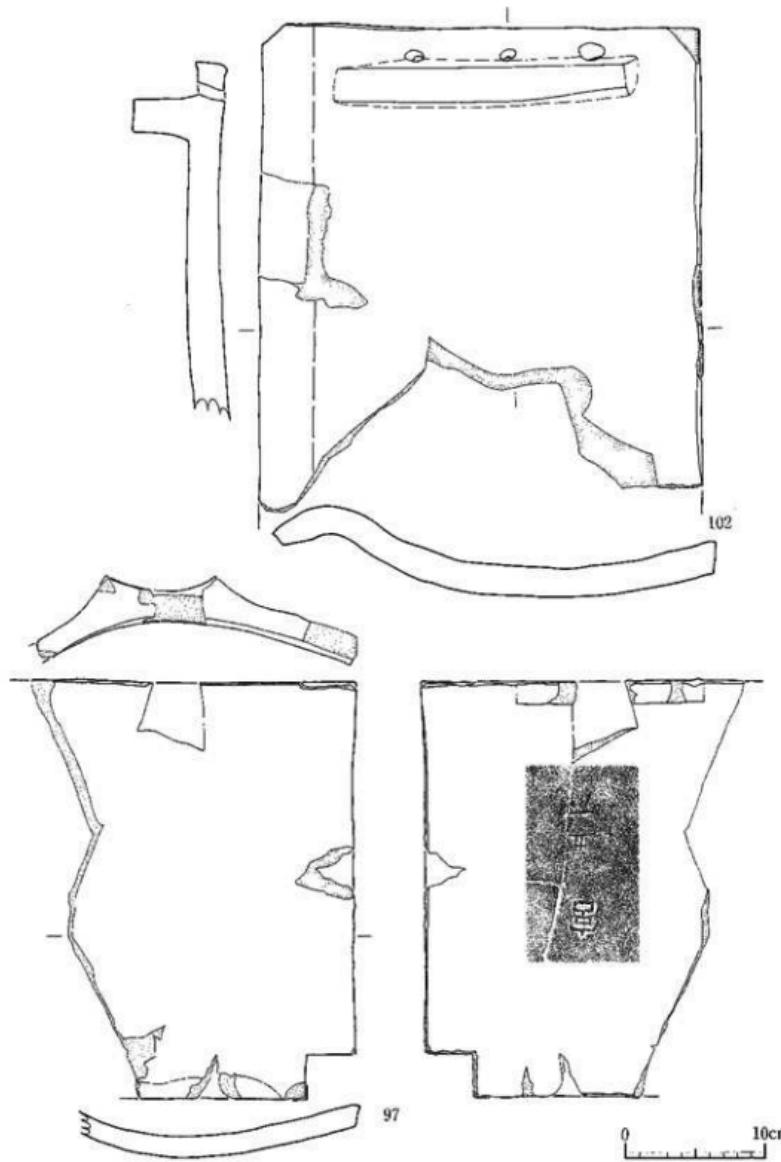
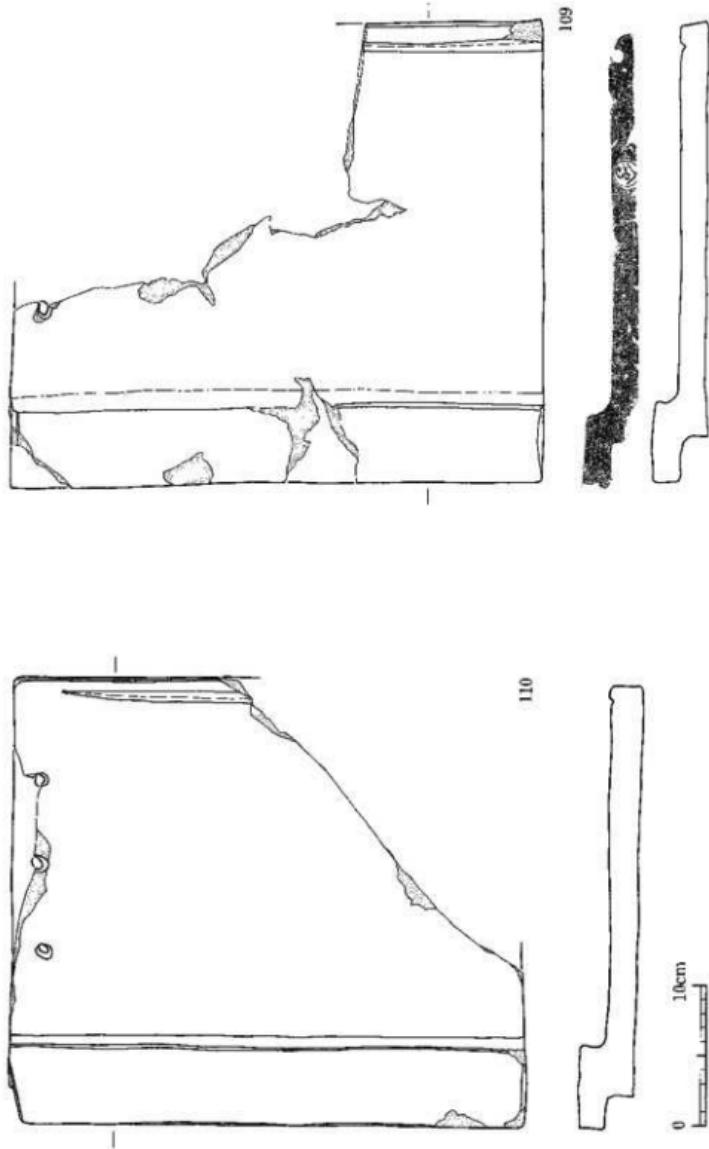


圖101 第9地点出土瓦(3)
Fig.101 Pan tiles from NM9(3)

Fig.102 第9地点出土板带瓦(1)
Fig.102 Pan tiles used for fence from NM9(1)



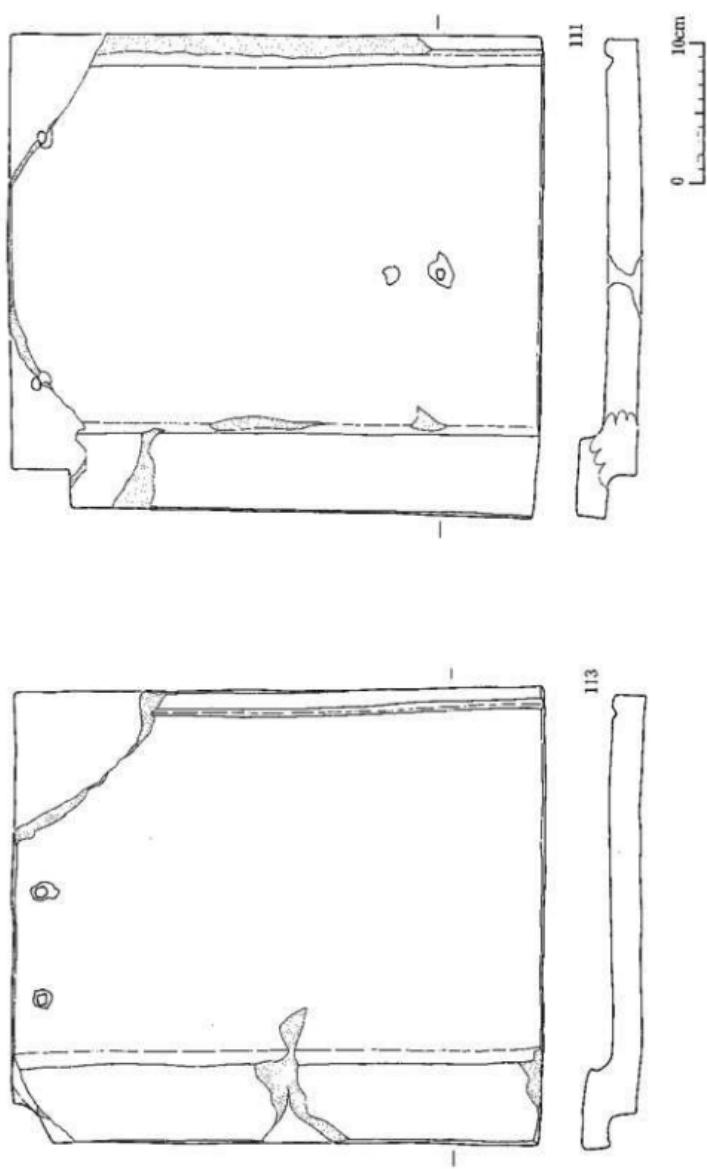


图103 第9地点出土板端瓦(2)
Fig.103 Pan tiles used for fence from NM9(2)

0 10cm

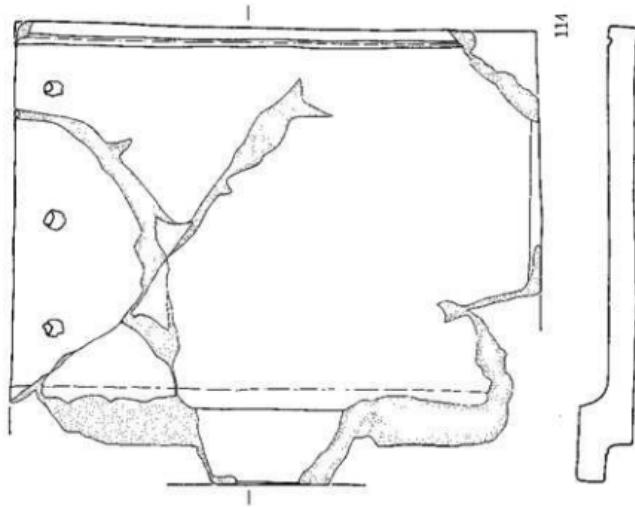
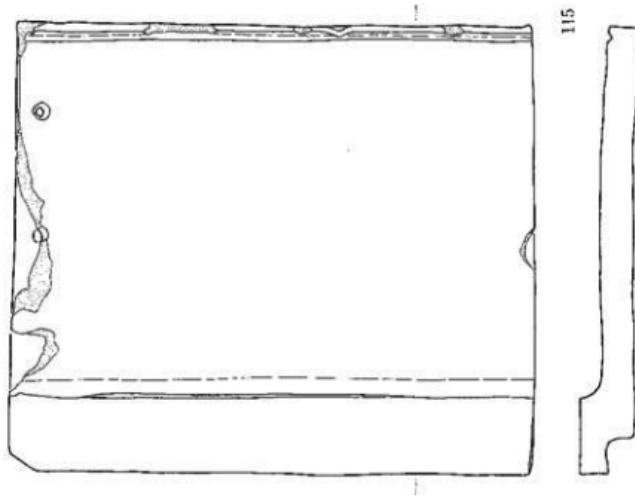


圖104 第9地點出土板櫛瓦(3)
Fig.104 Pan tiles used for fence from NM9(3)



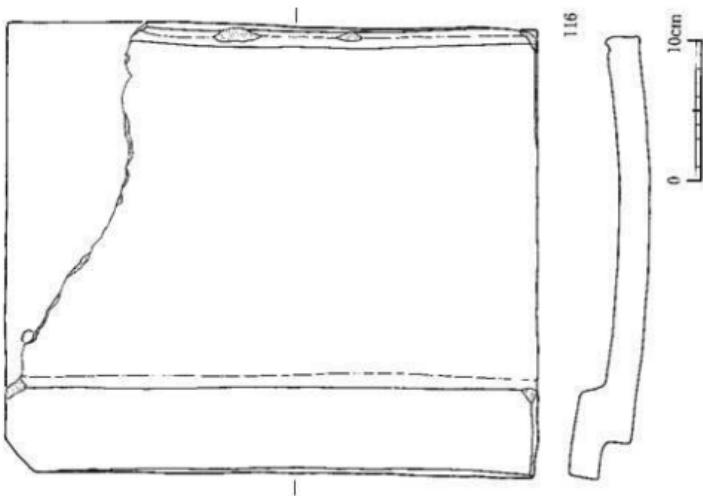
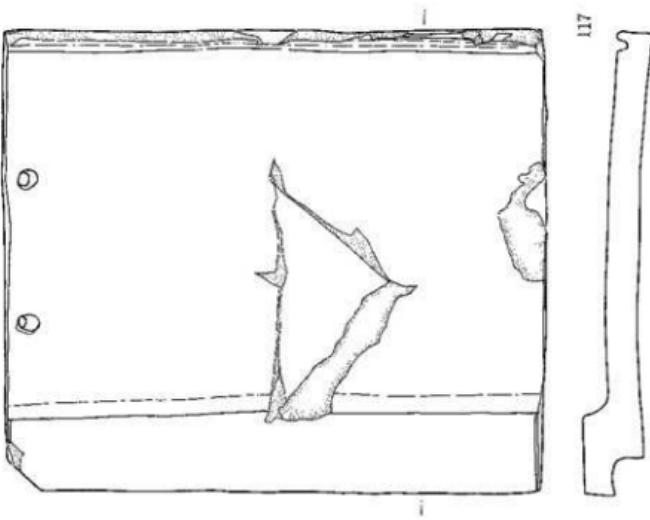
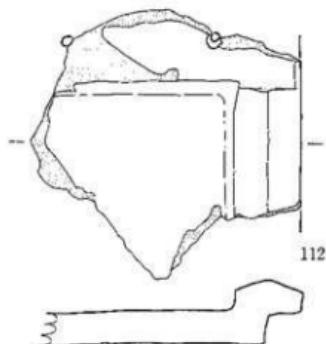
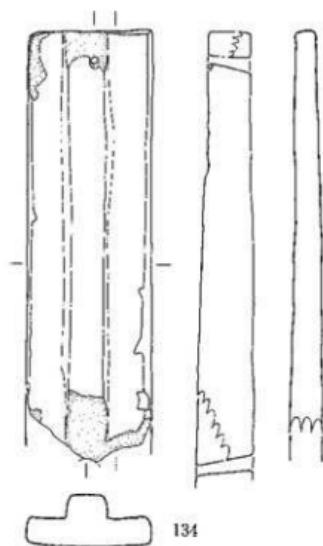


图105 第9地点出土板墙瓦(4)
Fig.105 Pan tiles used for fence from NM9(4)

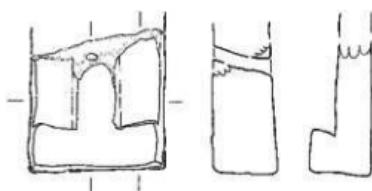




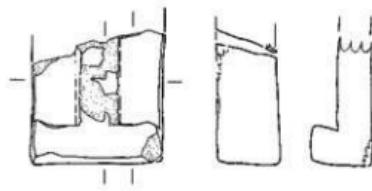
112



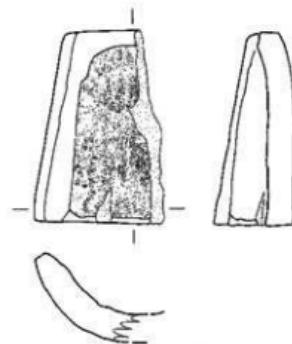
134



135



136



125

0 10cm

図106 第9地点出土板塀瓦(5)・T字瓦・輪違(1)

Fig.106 Pan tiles used for fence and various roof tiles from NM9

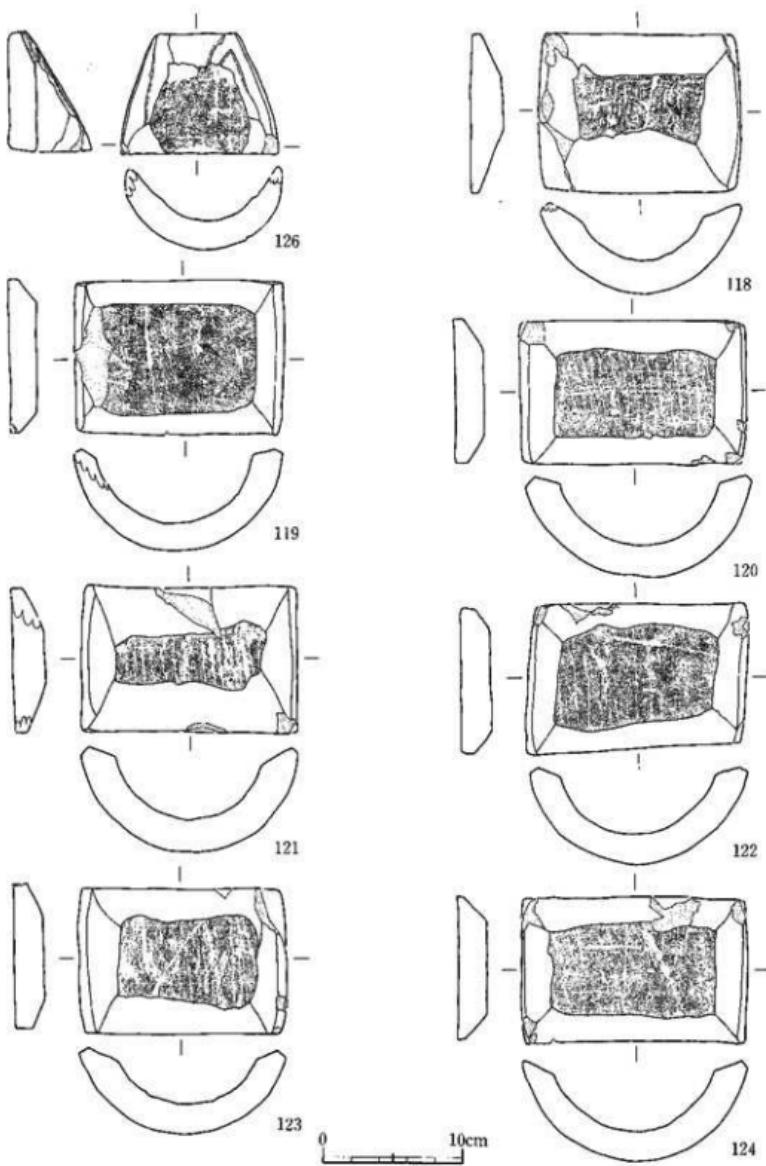
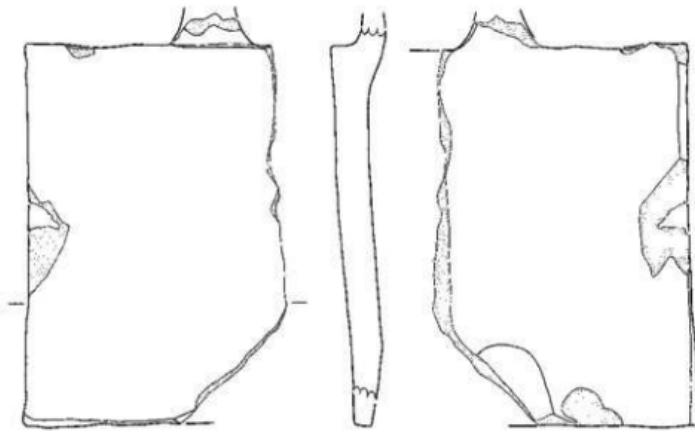
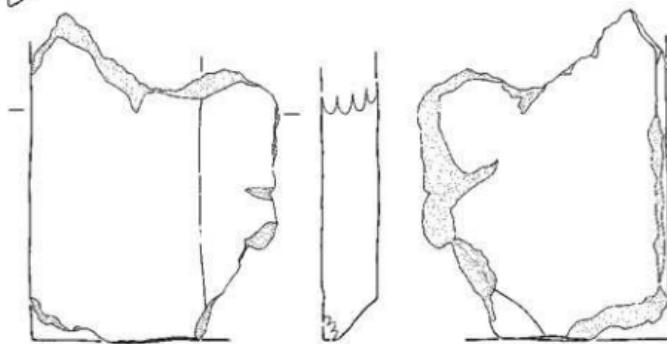
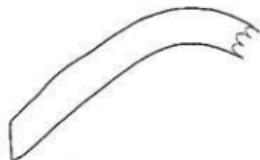


図107 第9地点出土軒違い(2)・面戸瓦
Fig.107 Ridge decoration tile and filler tiles from NM9



101



149

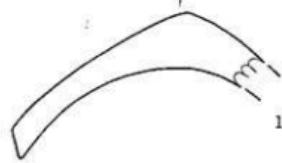


图108 第9地点出土冠瓦
Fig.108 Ridge cover tiles from NM9

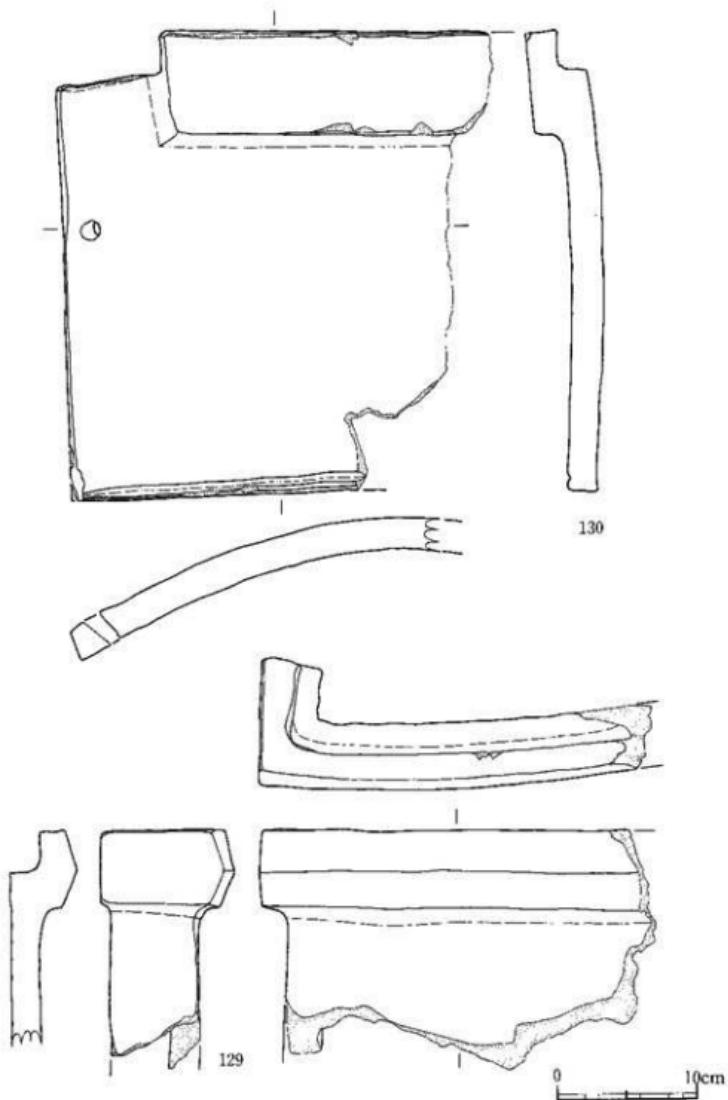


圖109 第9地點出土棟瓦(1)
Fig.109 Ridge cover tiles from NM9

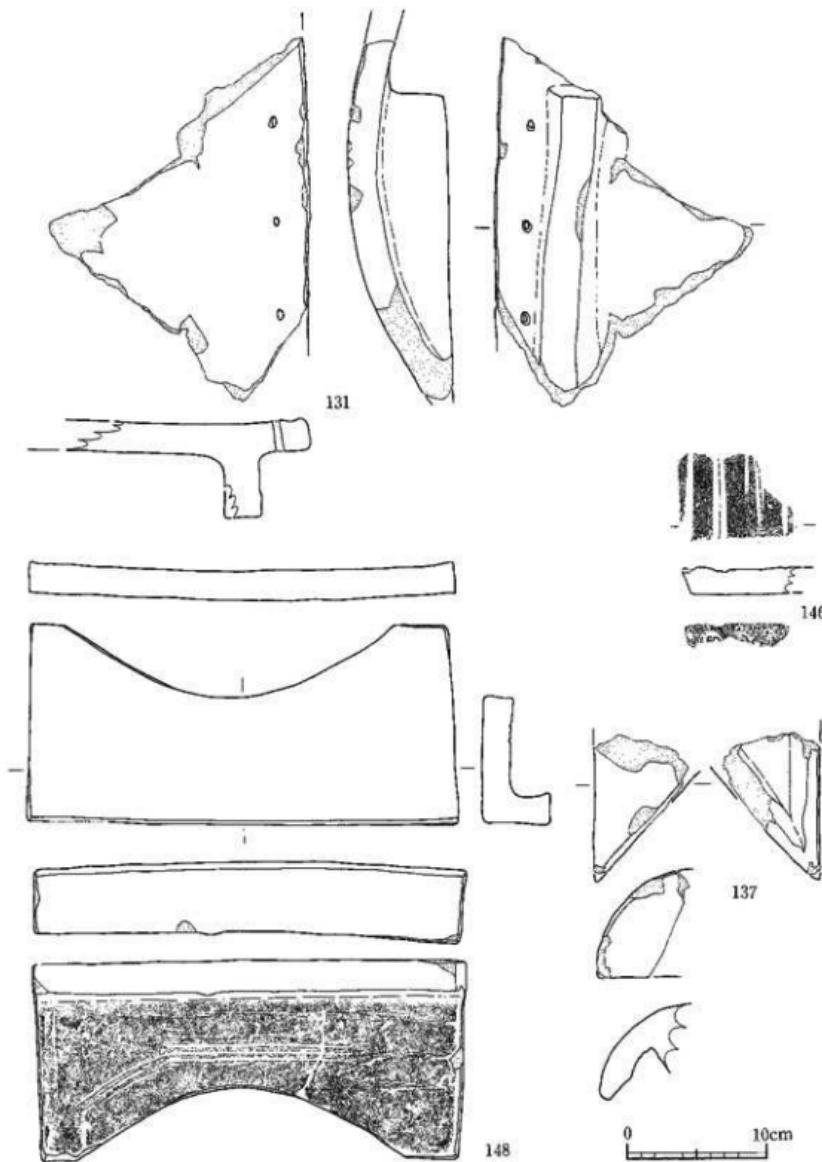


図110 第9地点出土棟瓦(2)・その他の瓦(1)
Fig.110 Ridge cover tile and various roof tiles from NM9

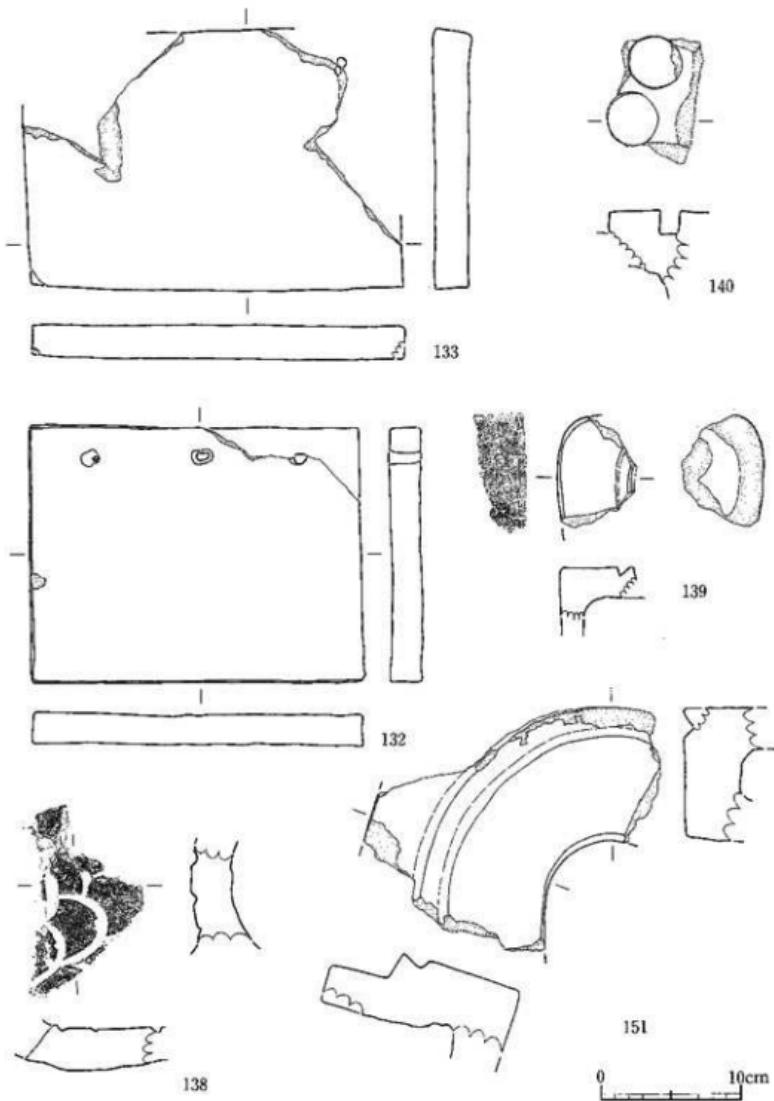


図111 第9地点出土その他の瓦(2)
Fig.111 Various roof tiles from NM9(2)

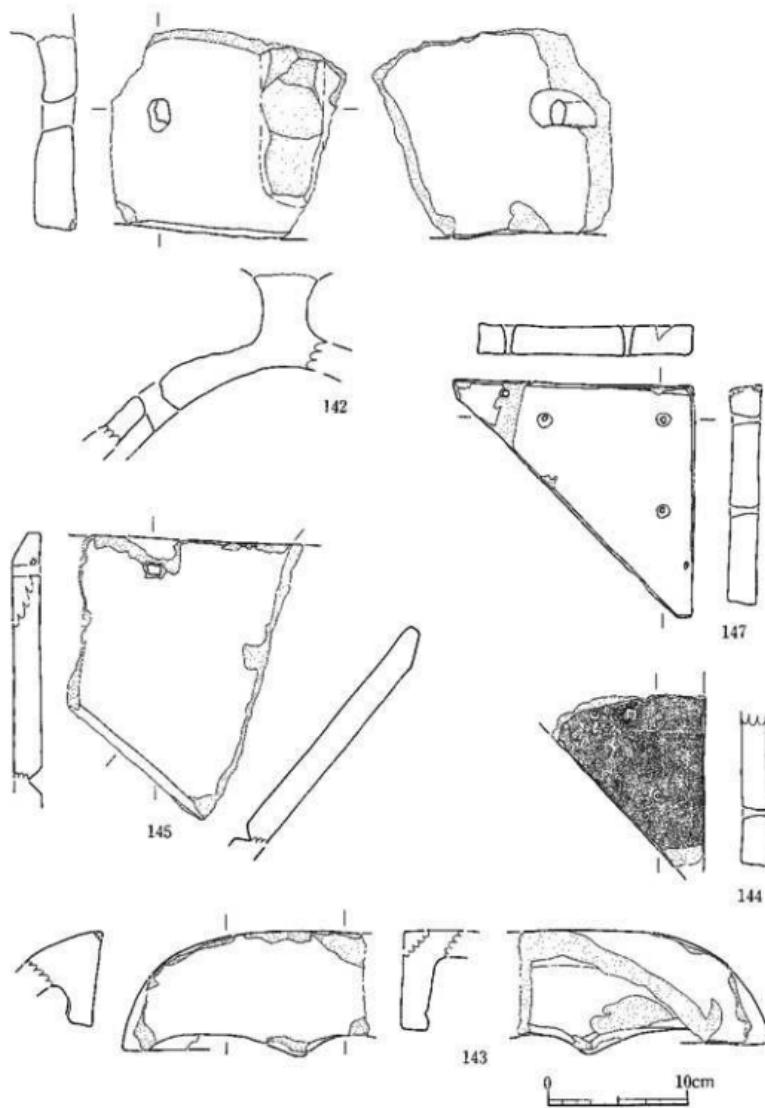


図112 第9地点出土その他の瓦(3)
Fig.112 Various roof tiles from NM9(3)

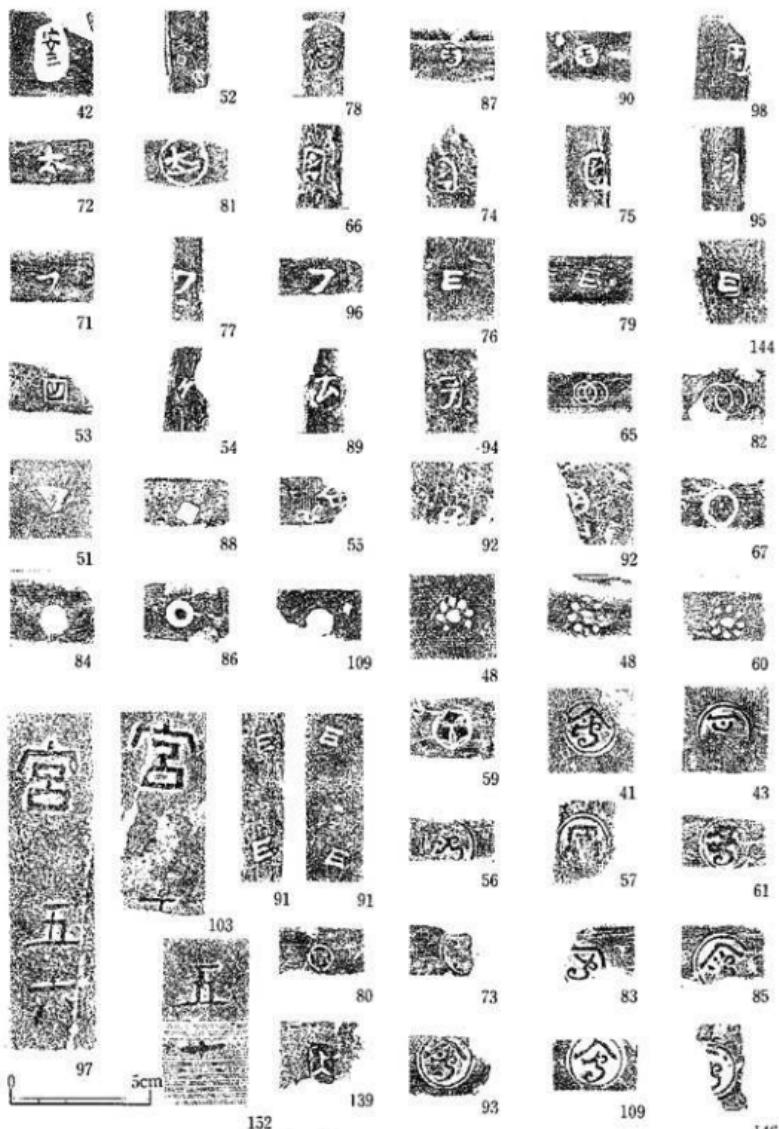


图113 第9地点出土刻印瓦

Fig.113 Roof tiles with seal impression from NM9

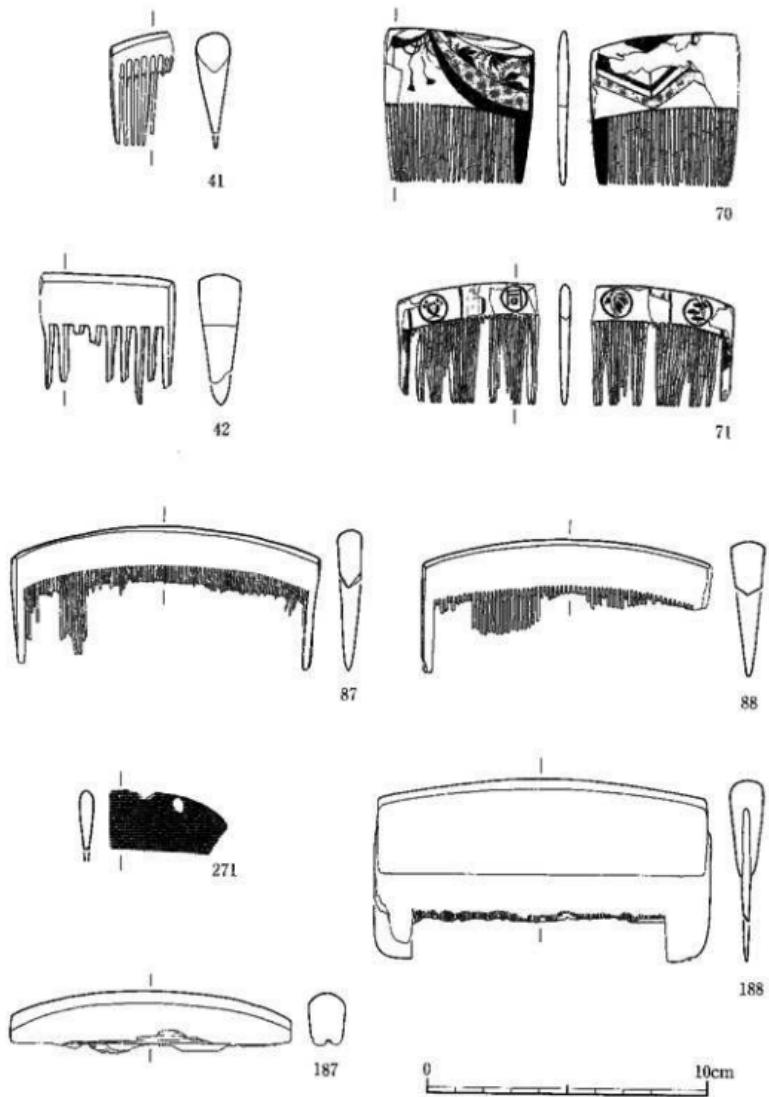


图114 第9地点出土梳
Fig.114 Combs from NM9

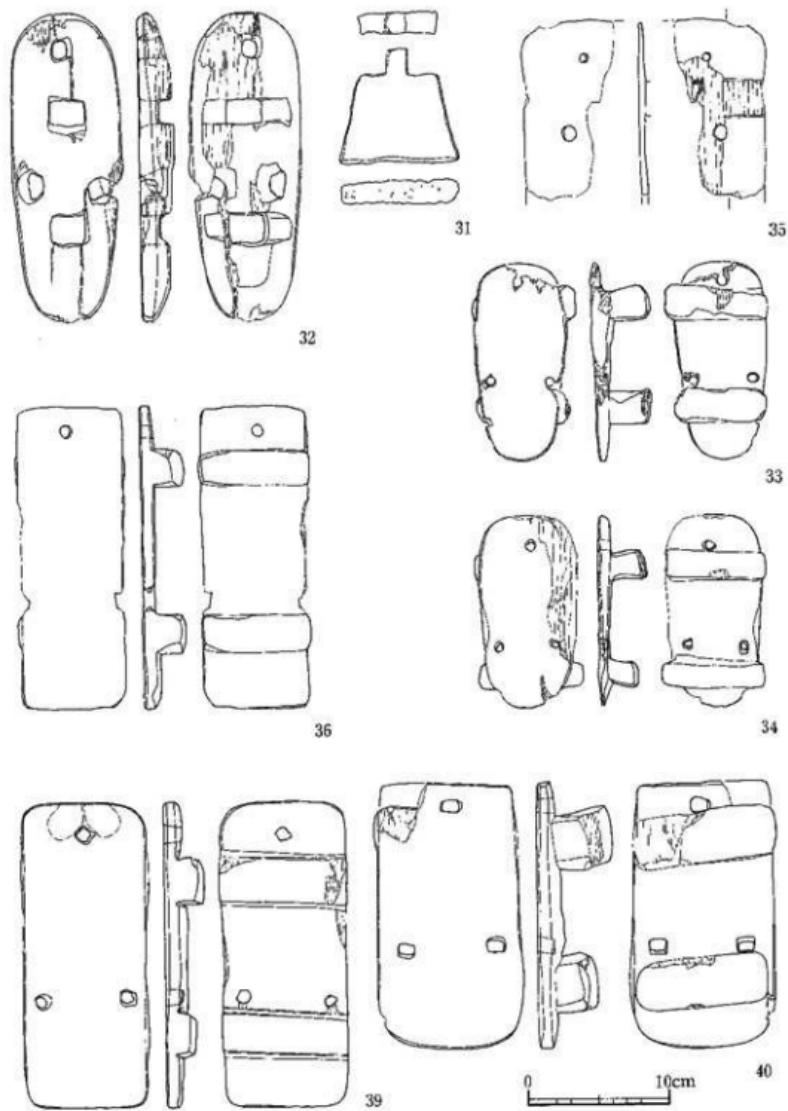
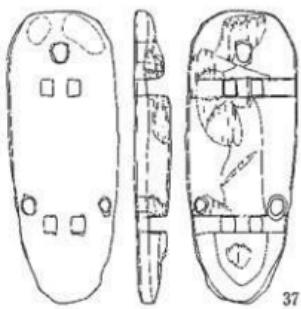
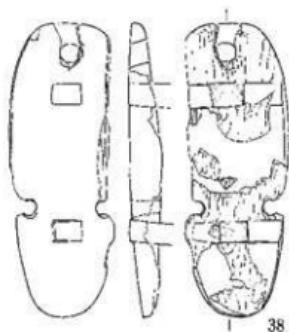


图115 第9地点出土下鞋(1)

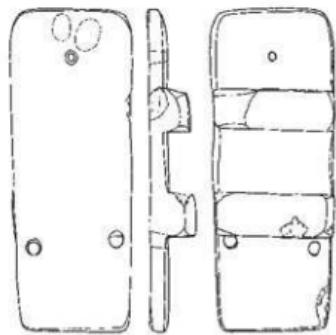
Fig.115 Clogs from NM9(1)



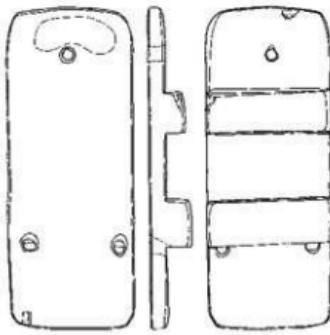
37



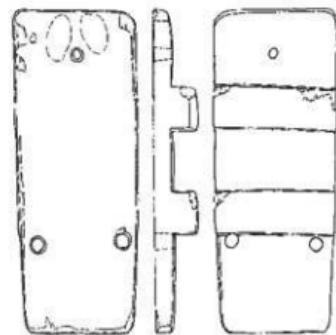
38



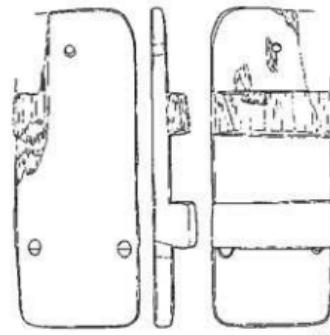
79



83



81



82

0 10cm

图116 第9地点出土下駁(2)

Fig.116 Clogs from NM9(2)

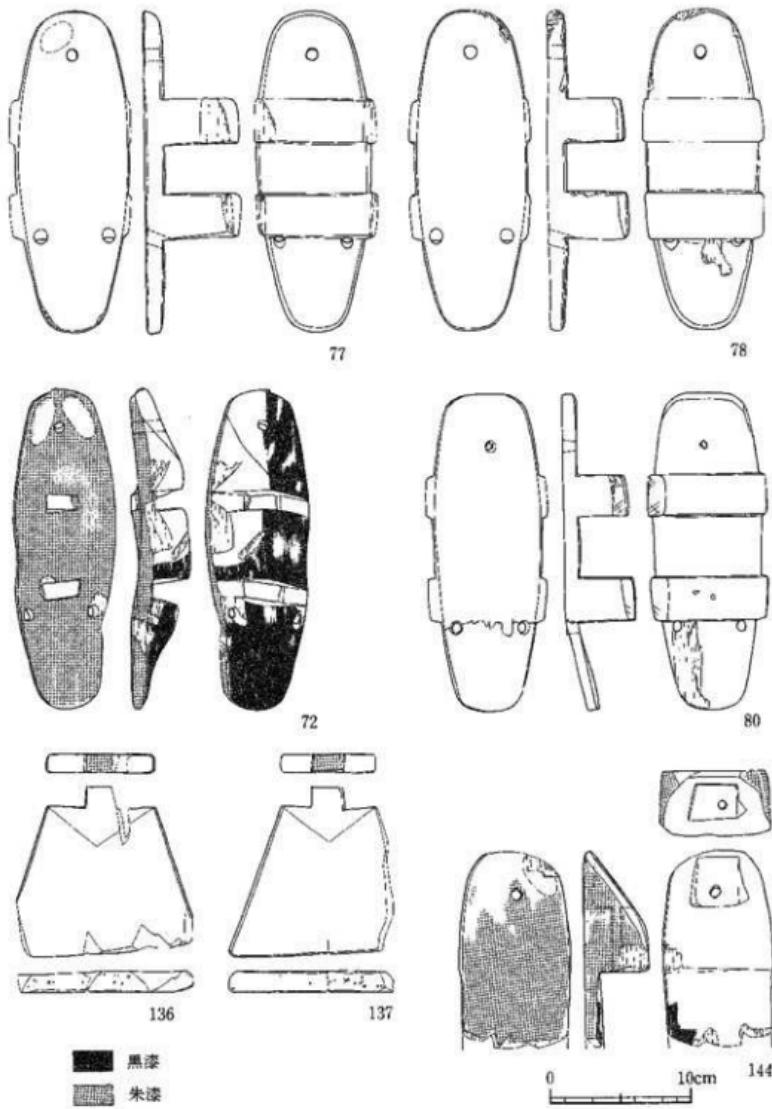


图117 第9地点出土下駁(3)
Fig.117 Clogs from NM9(3)

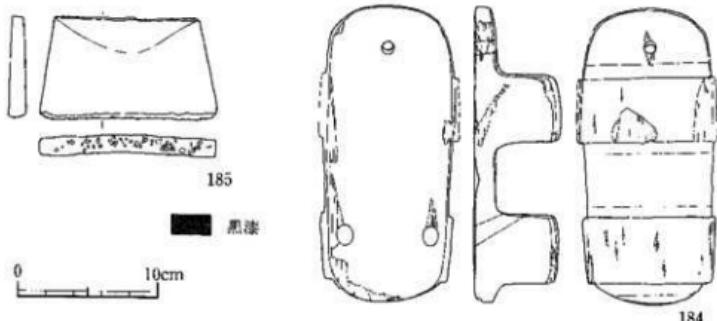
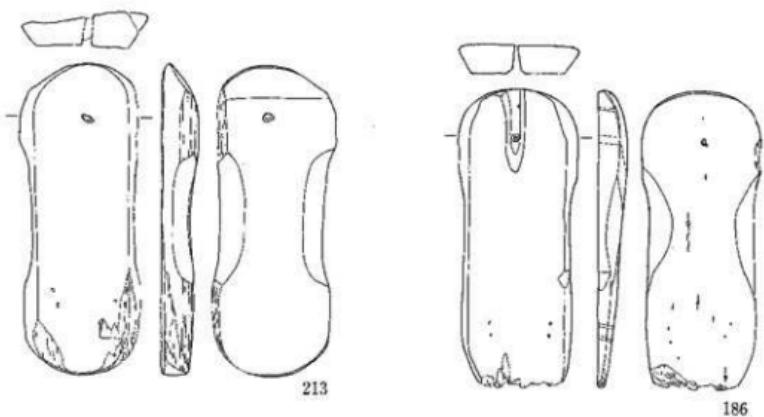
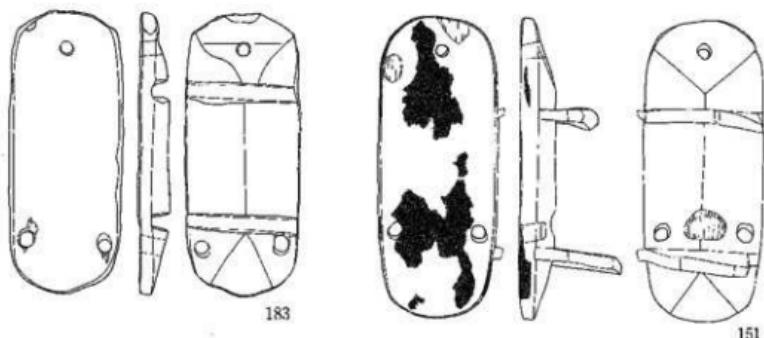


图118 第9地点出土下駄(4)
Fig.118 Clogs from NM9(4)

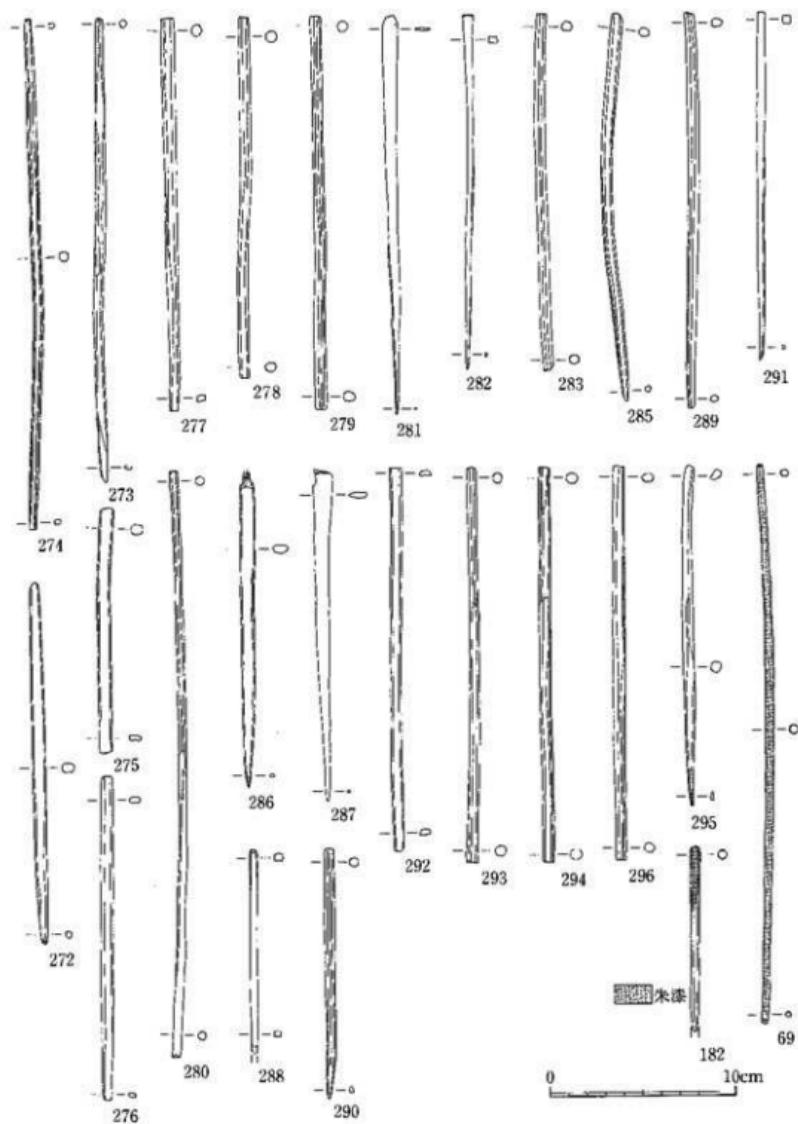
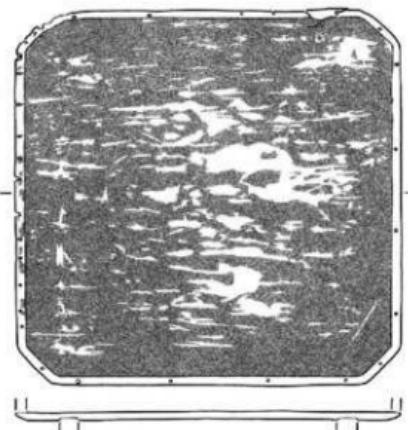
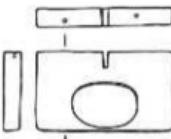


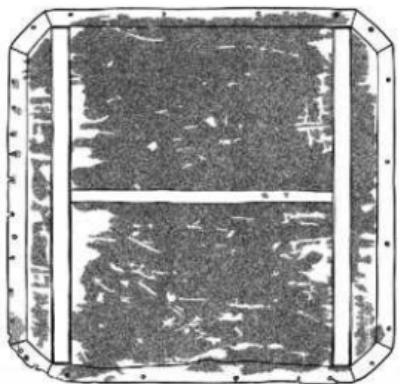
图119 第9地点出土箸状木製品
Fig.119 Wooden chopsticks from NM9



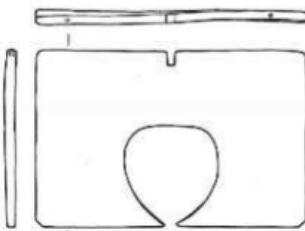
うるみ? 漆
朱漆



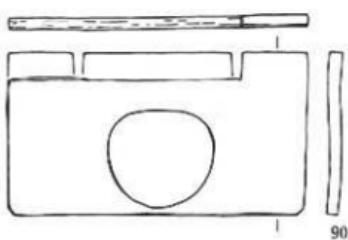
89



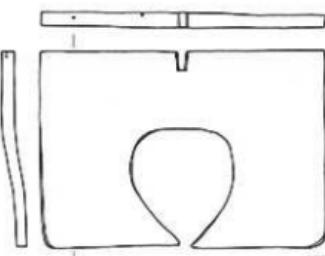
110



102



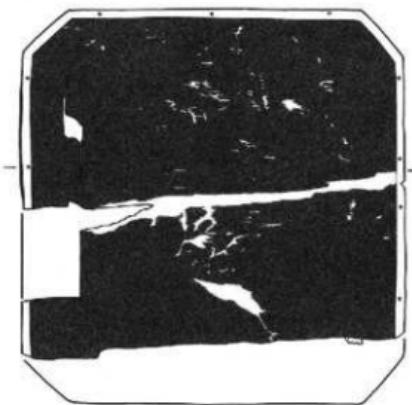
90



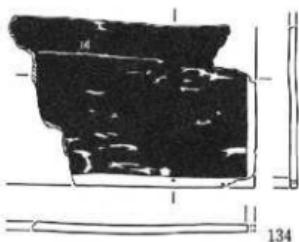
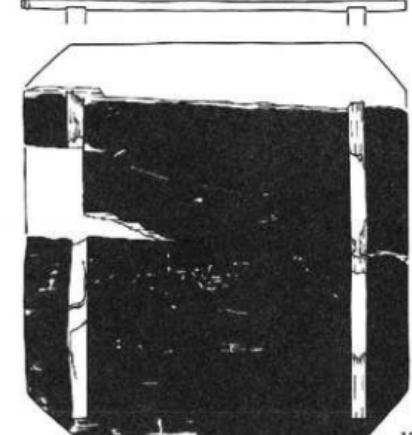
130

0 10cm

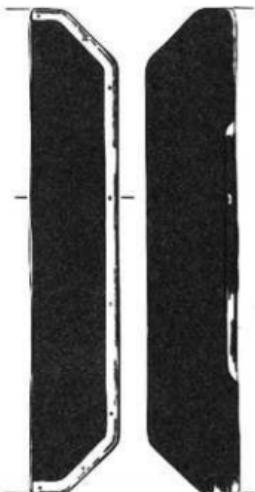
図120 第9地点出土膳類(1)
Fig.120 Wooden tray like objects from NM9(1)



158



134

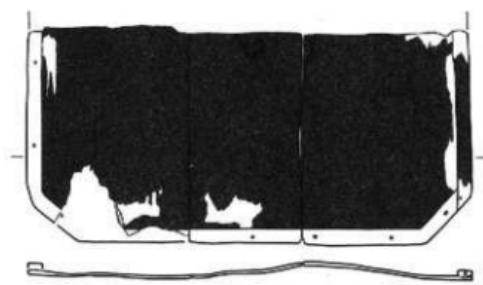


179

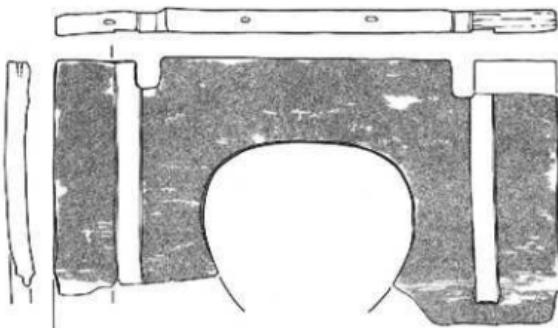
■ 黑漆

0 10cm

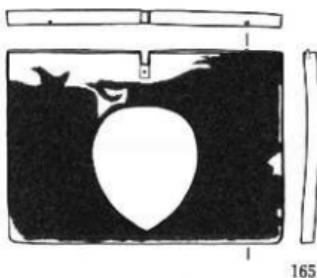
図121 第9地点出土膳類(2)
Fig.121 Wooden tray like objects from NM9(2)



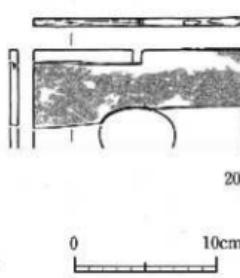
173



202



165



201

■ 黒漆
■ うるみ?漆

0 10cm

図122 第9地点出土膳類(3)

Fig.122 Wooden tray like objects from NM9(3)

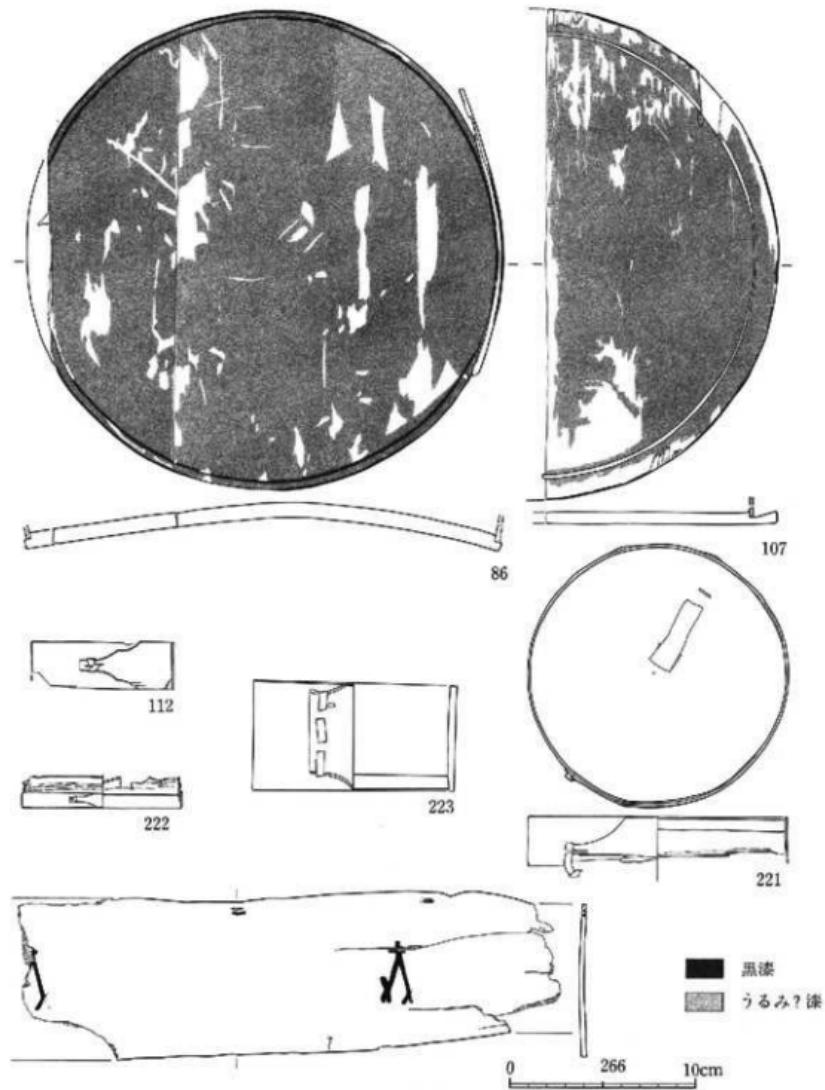


図123 第9地点出土曲物

Fig.123 Round vessels by bending and securing a thin sheet of cypress wood from NM9

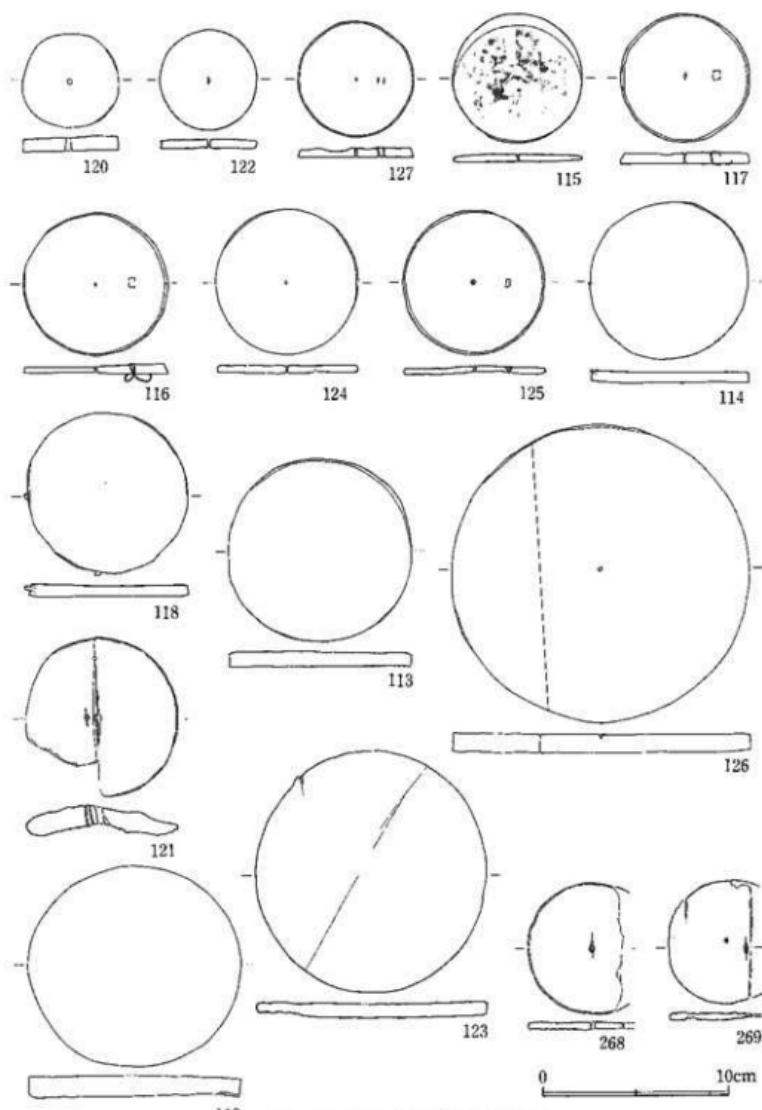


Fig.124 Wooden implements shaped round plate from NM9

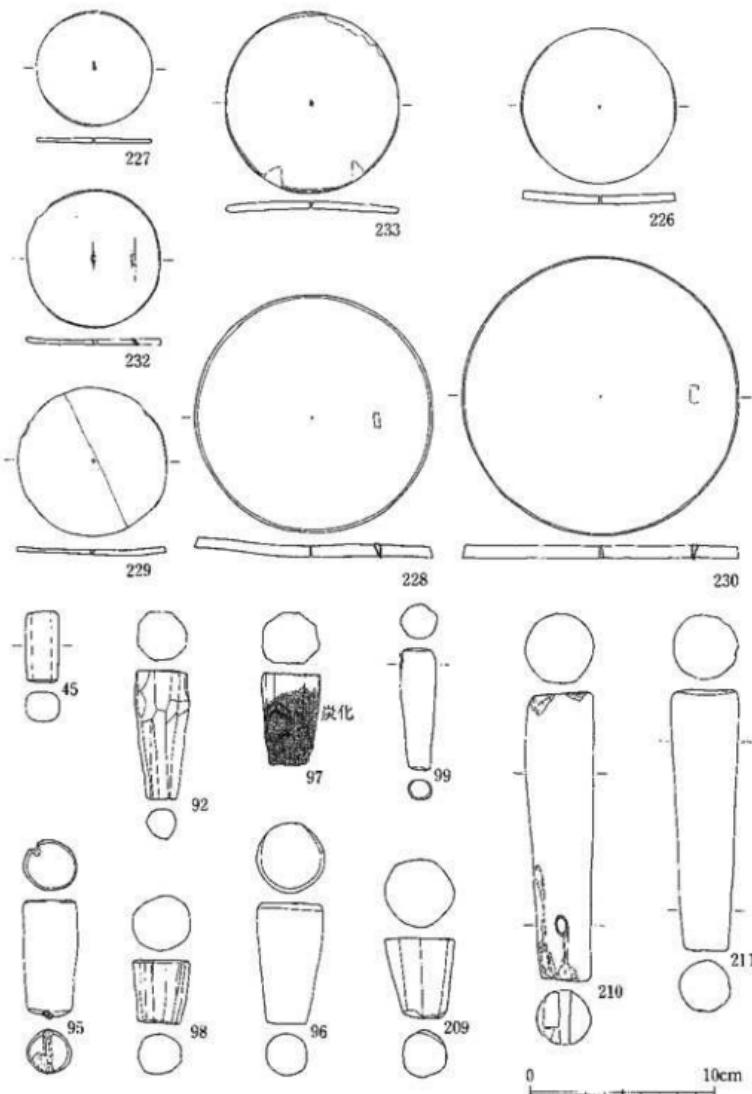
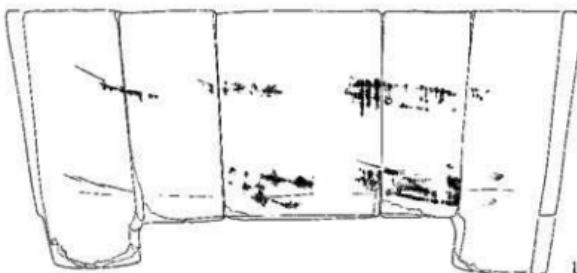


图125 第9地点出土圆板状木製品(2)・栓

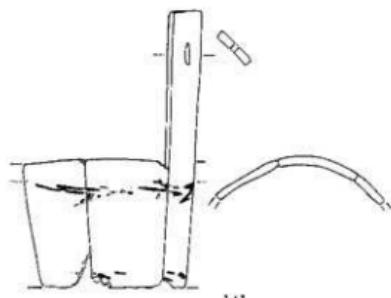
Fig.125 Wooden implements shaped round plate and wooden plugs from NM9



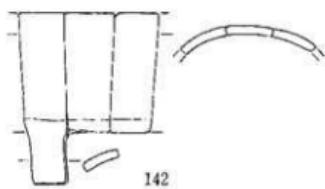
139



140

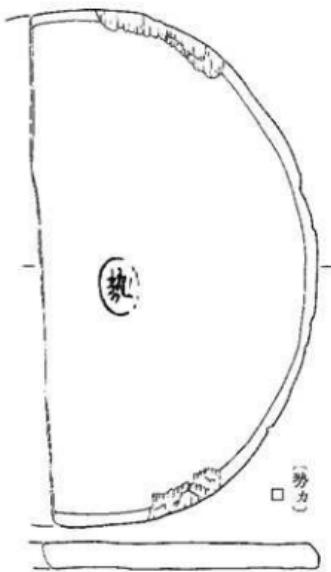


141



142

0 10cm



129

图126 第9地点出土桶・樽類(1)
Fig.126 Troughs and barrels from NM9(1)

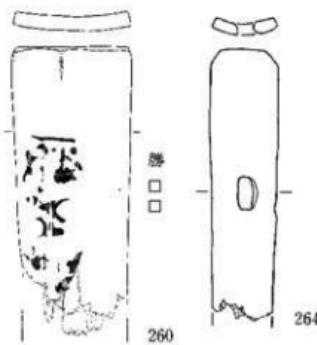
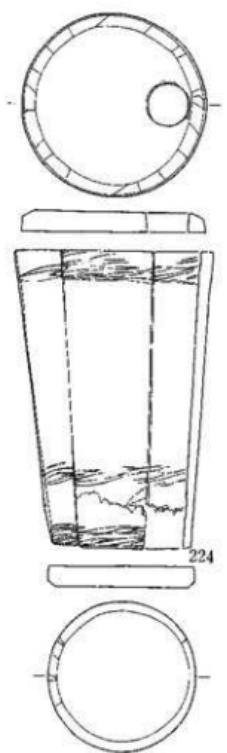
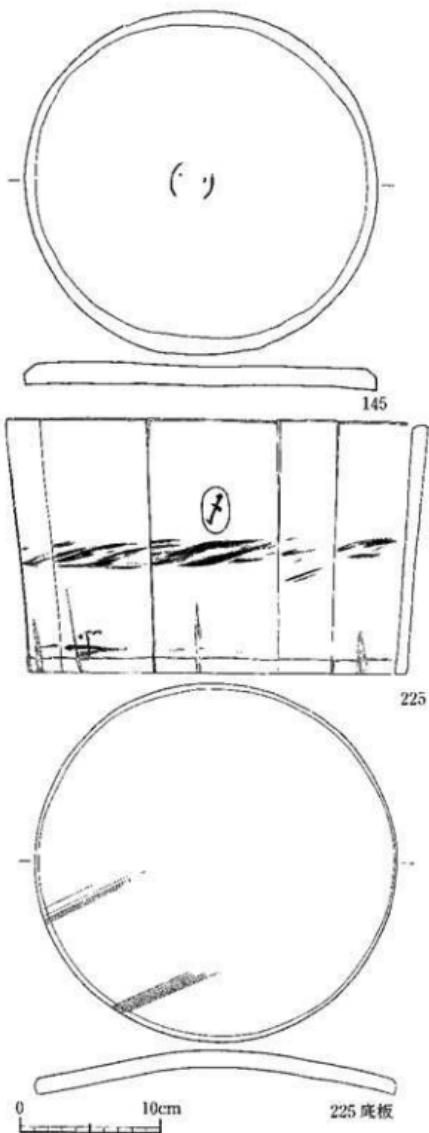


图127 第9地点出土桶・樽類(2)
Fig.127 Troughs and barrels from NM9(2)

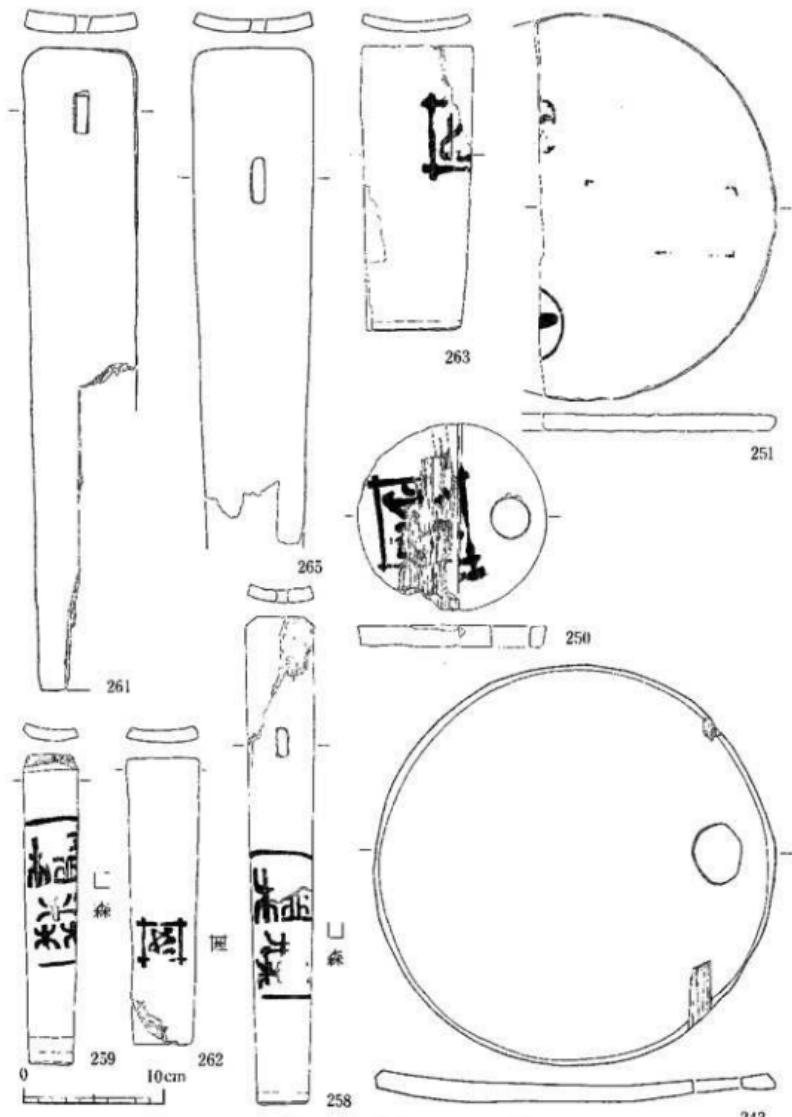


图128 第9地点出土桶·樽类(3)
Fig.128 Troughs and barrels from NM9(3)

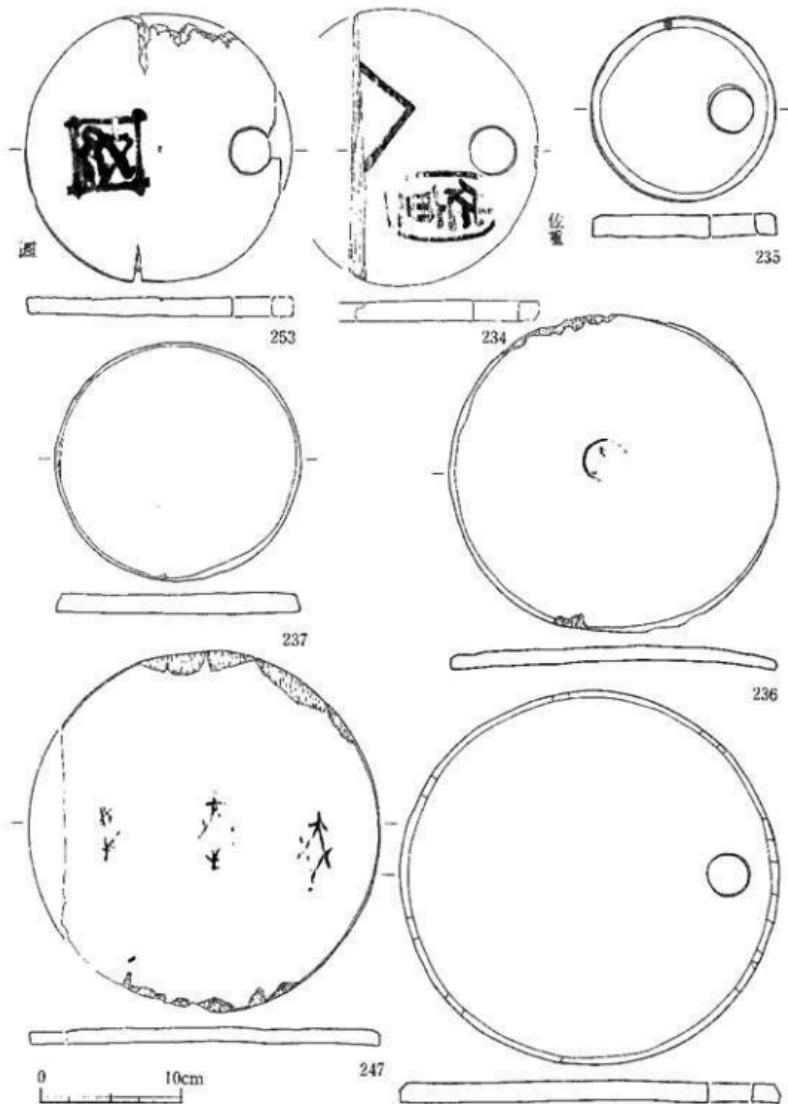


图129 第9地点出土桶·樽类(4)
Fig.129 Troughs and barrels from NM9(4)

245

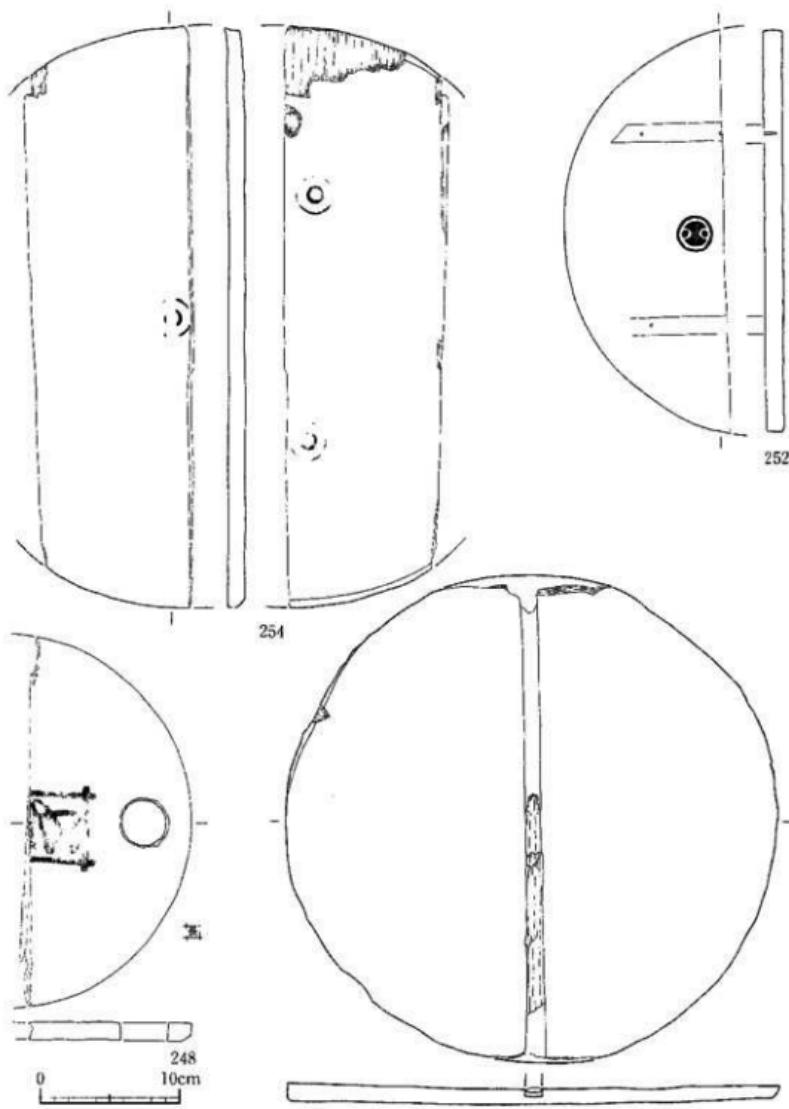


圖130 第9地點出土桶・樽類(5)
Fig.130 Troughs and barrels from NM9(5)

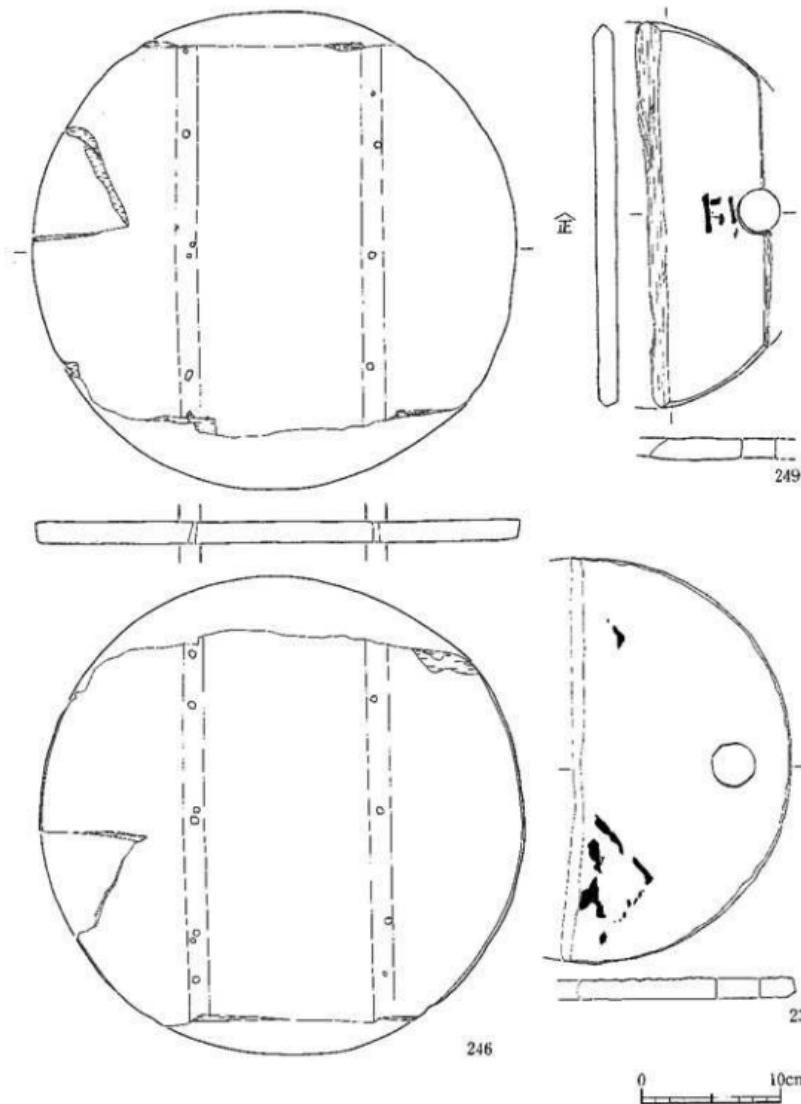


圖131 第9地點出土桶・樽類(6)
Fig.131 Troughs and barrels from NM9(6)

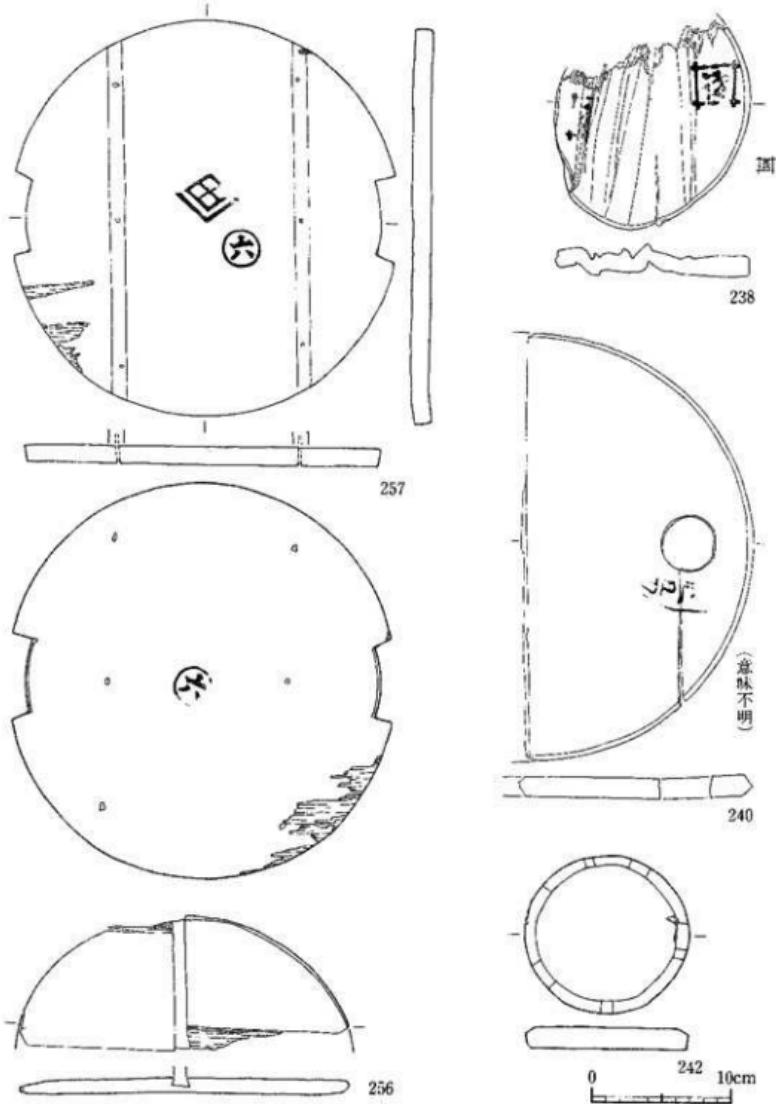


图132 第9地点出土桶・樽類(7)
Fig.132 Troughs and barrels from NM9(7)

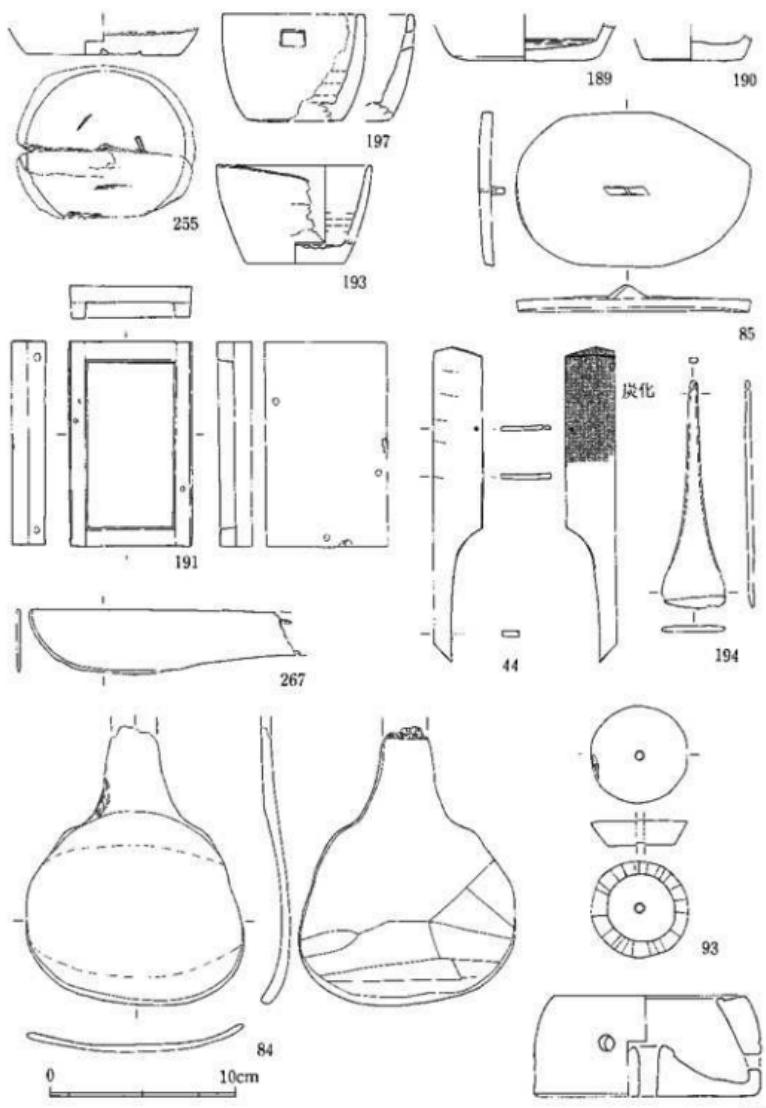


図133 第9地点出土その他の木製品(1)
Fig.133 Various wooden implements from NM9(1)

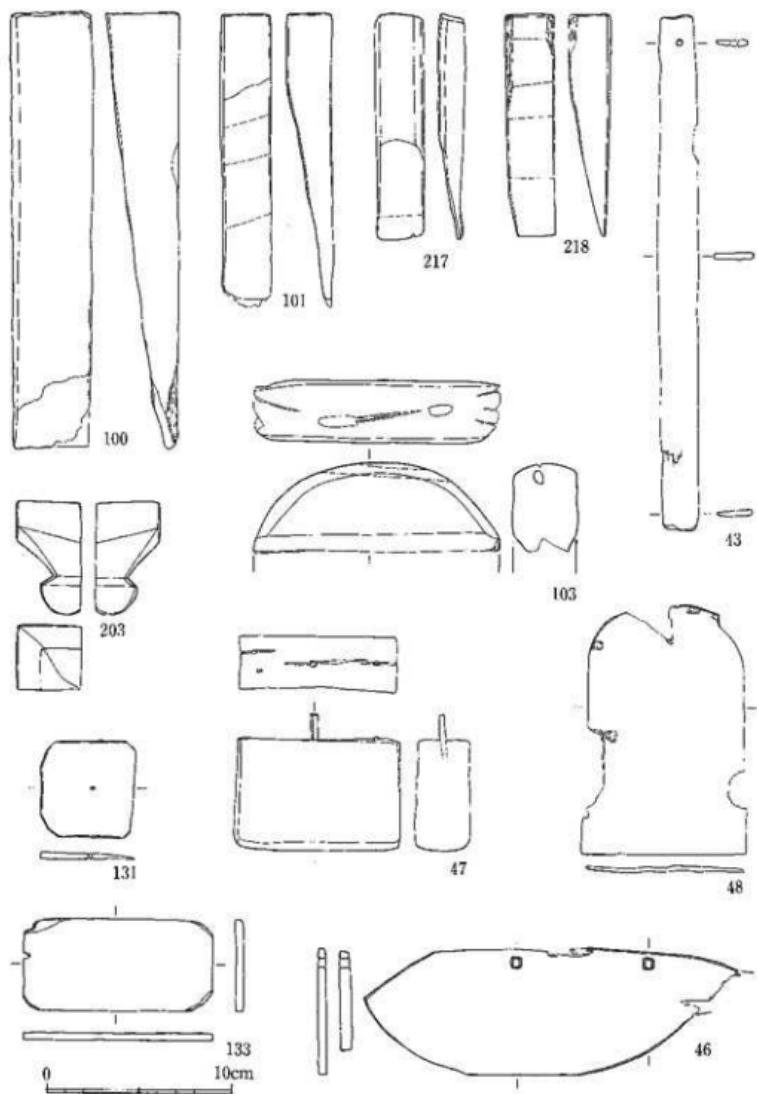


図134 第9地点出土その他の木製品(2)
Fig.134 Various wooden implements from NM9(2)

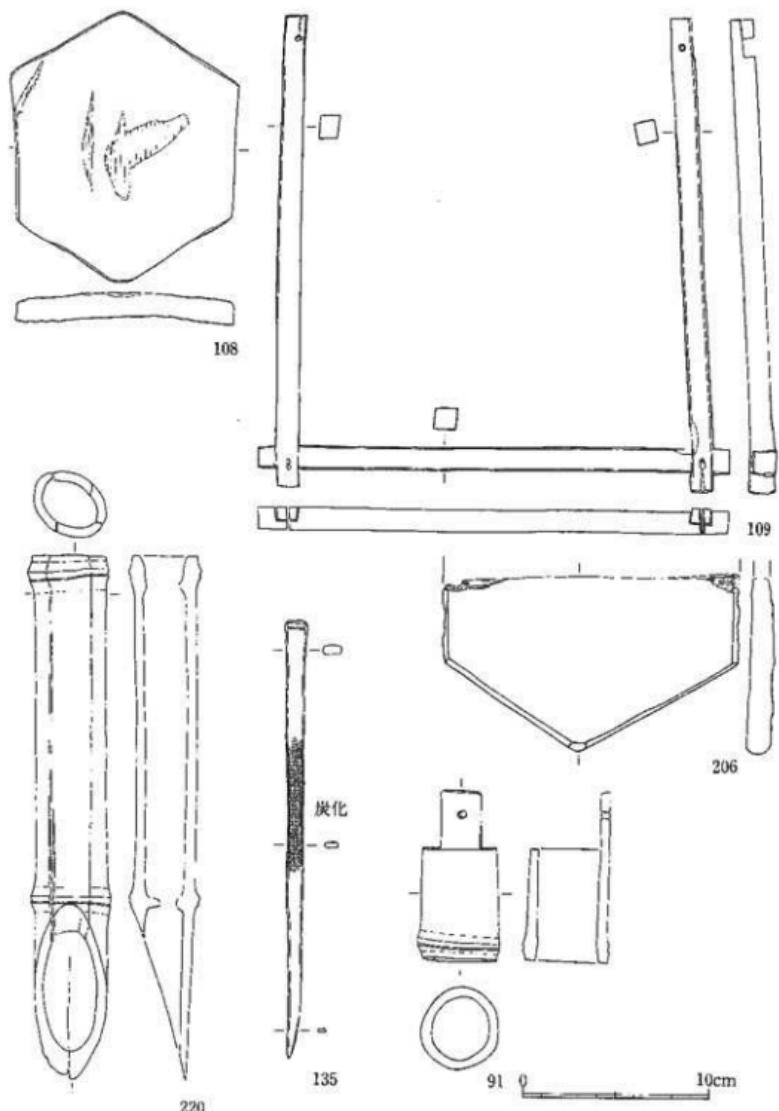


図135 第9地点出土その他の木製品(3)

Fig.135 Various wooden implements from NM9(3)

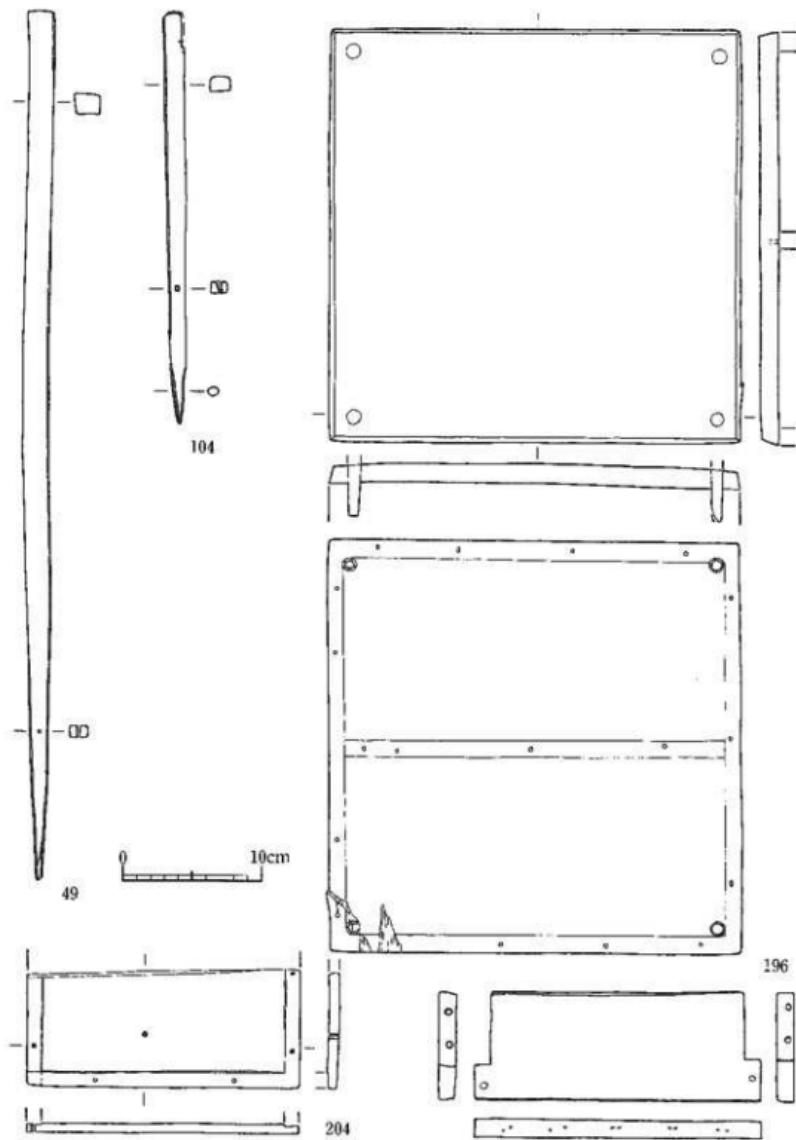


図136 第9地点出土その他の木製品(4)
Fig.136 Various wooden implements from NM9(4)

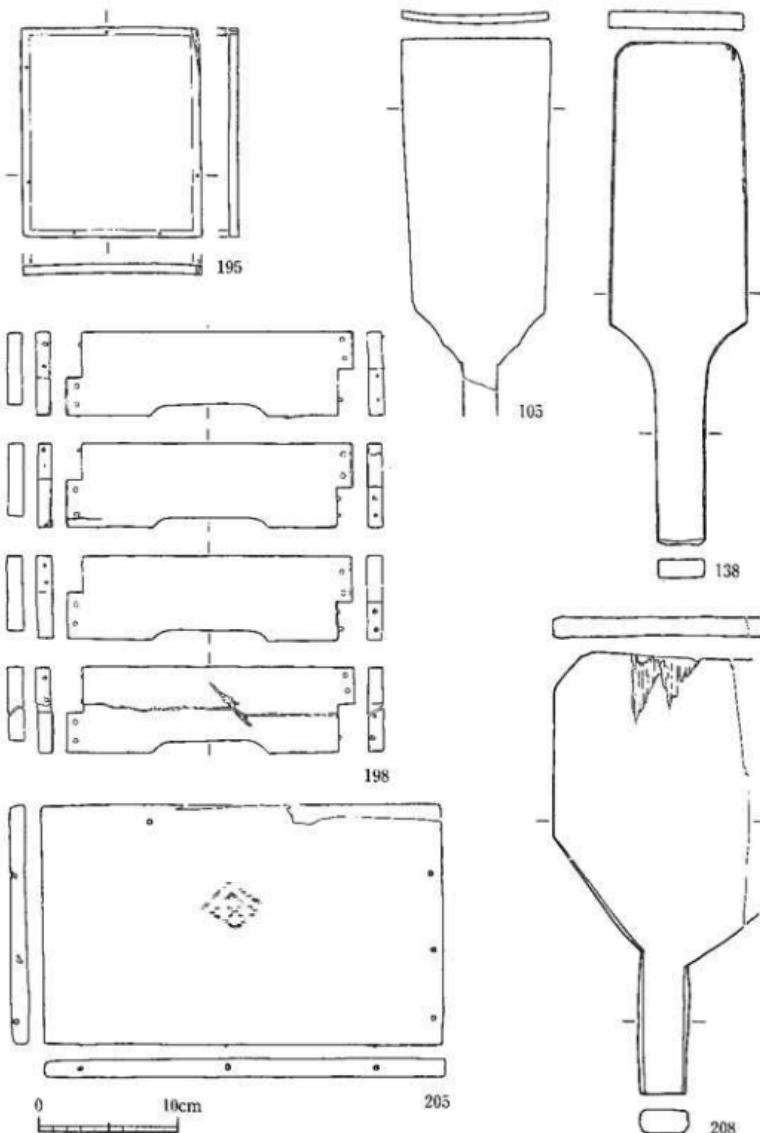


図137 第9地点出土その他の木製品(5)

Fig.137 Various wooden implements from NM9(5)

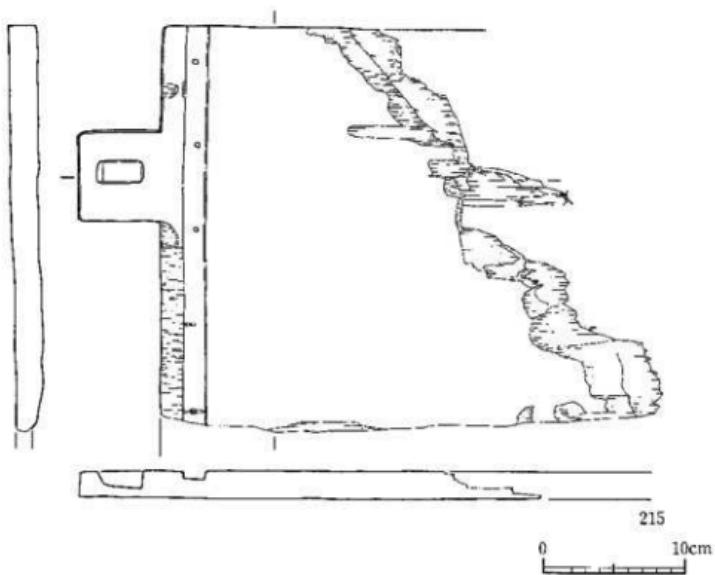
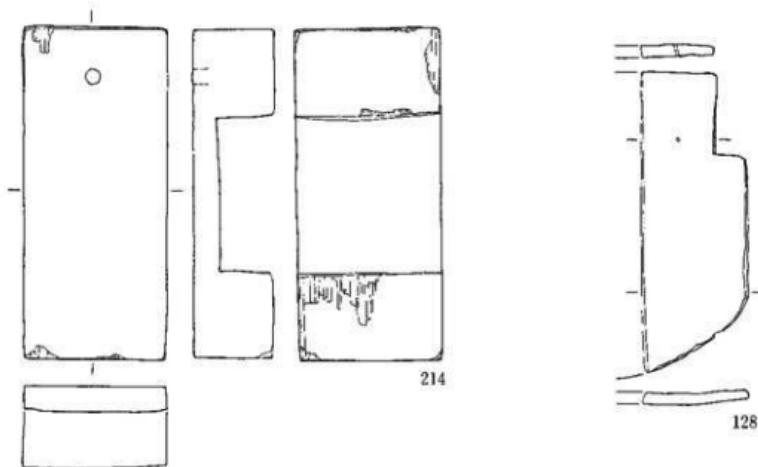


図138 第9地点出土その他の木製品(6)
Fig.138 Various wooden implements from NM9(6)

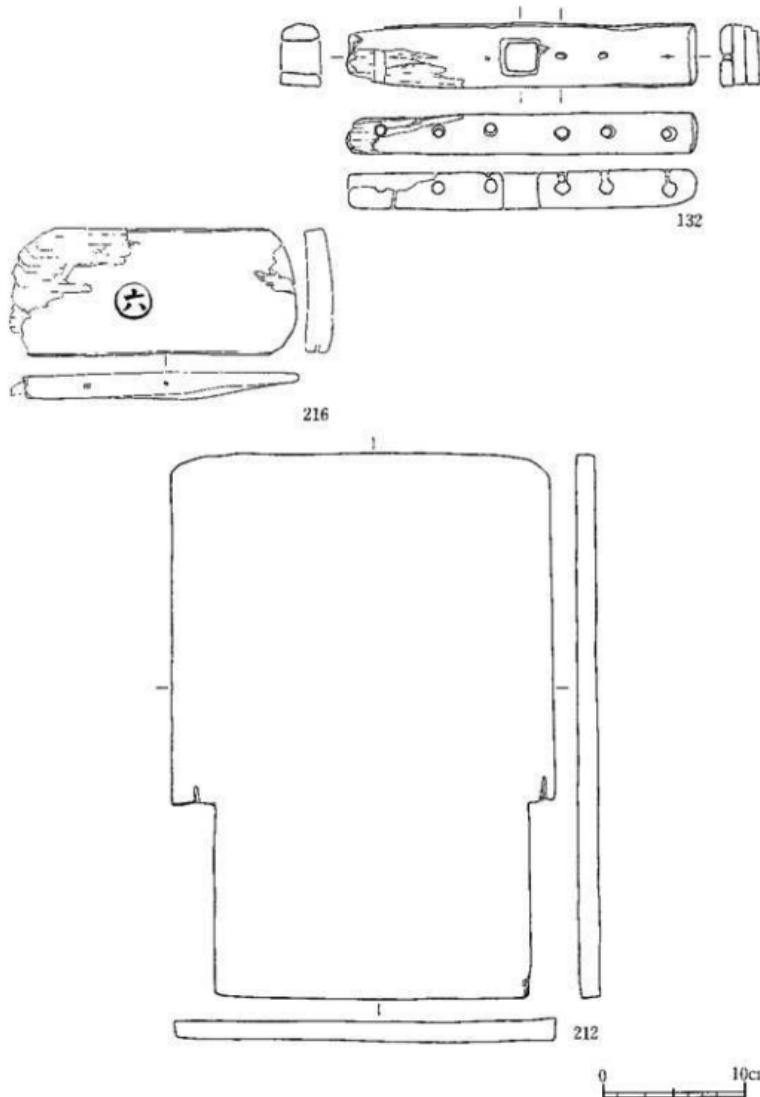


図139 第9地点出土その他の木製品(7)
Fig.139 Various wooden implements from NM9(7)

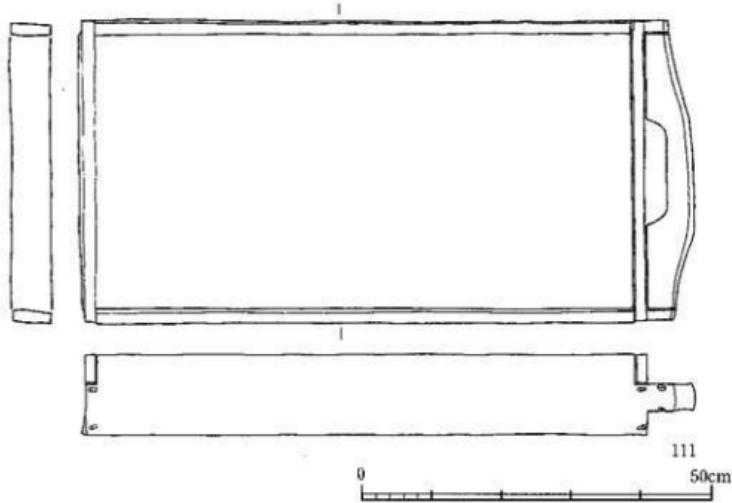
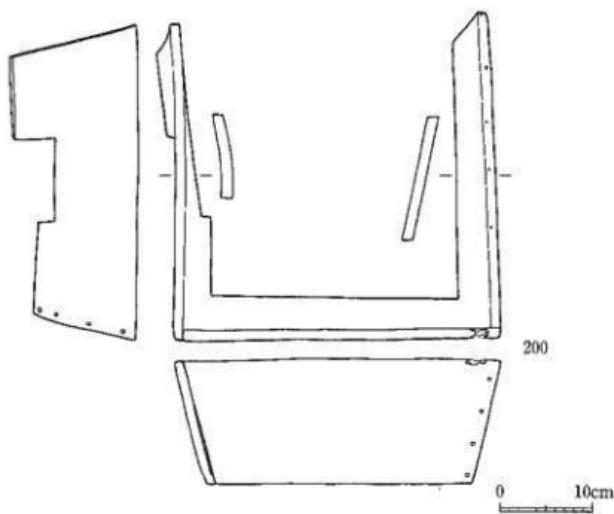


図140 第9地点出土その他の木製品(8)
Fig.140 Various wooden implements from NM9(8)

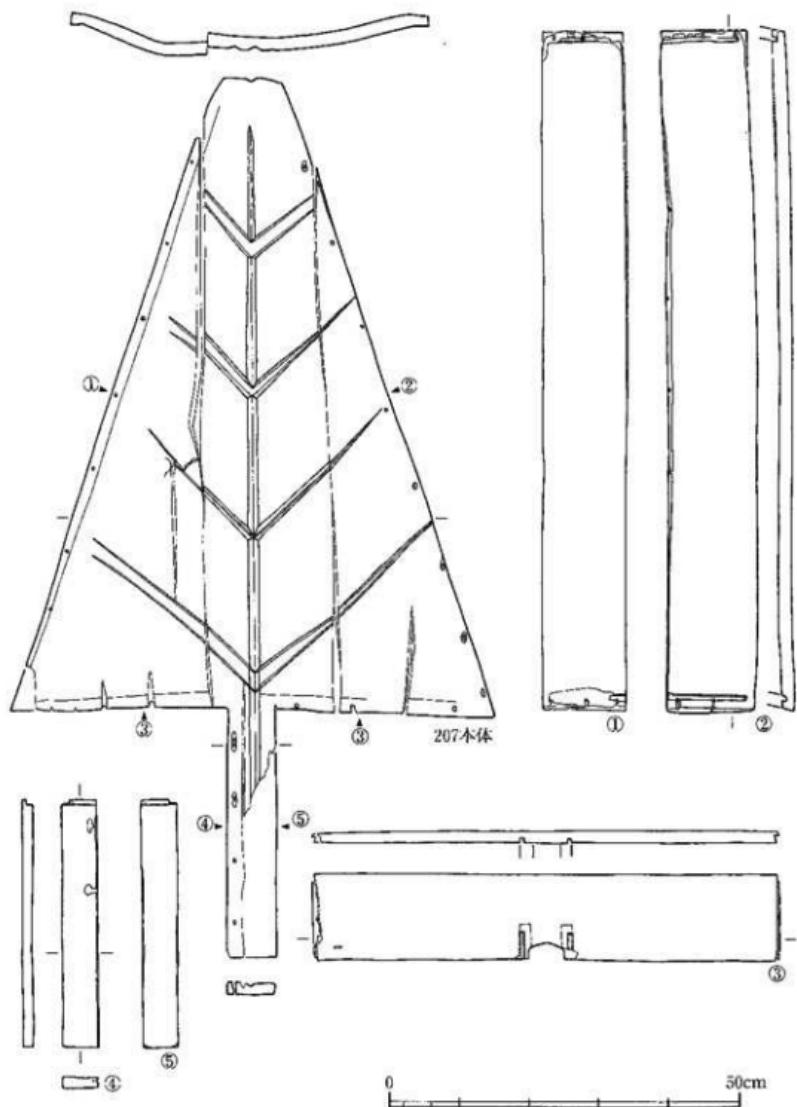


図141 第9地点出土その他の木製品(9)
Fig.141 Various wooden implements from NM9(9)

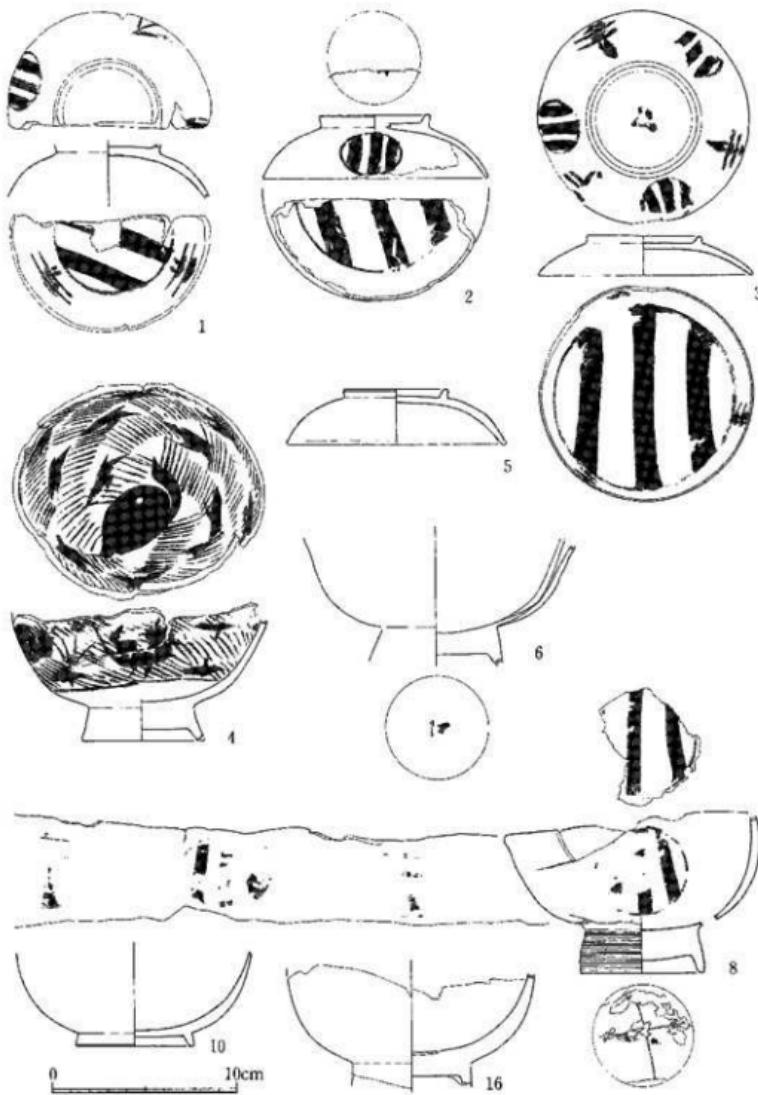


图142 第9地点出土漆碗(1)
Fig.142 Bowls with lacquer from NM9(1)

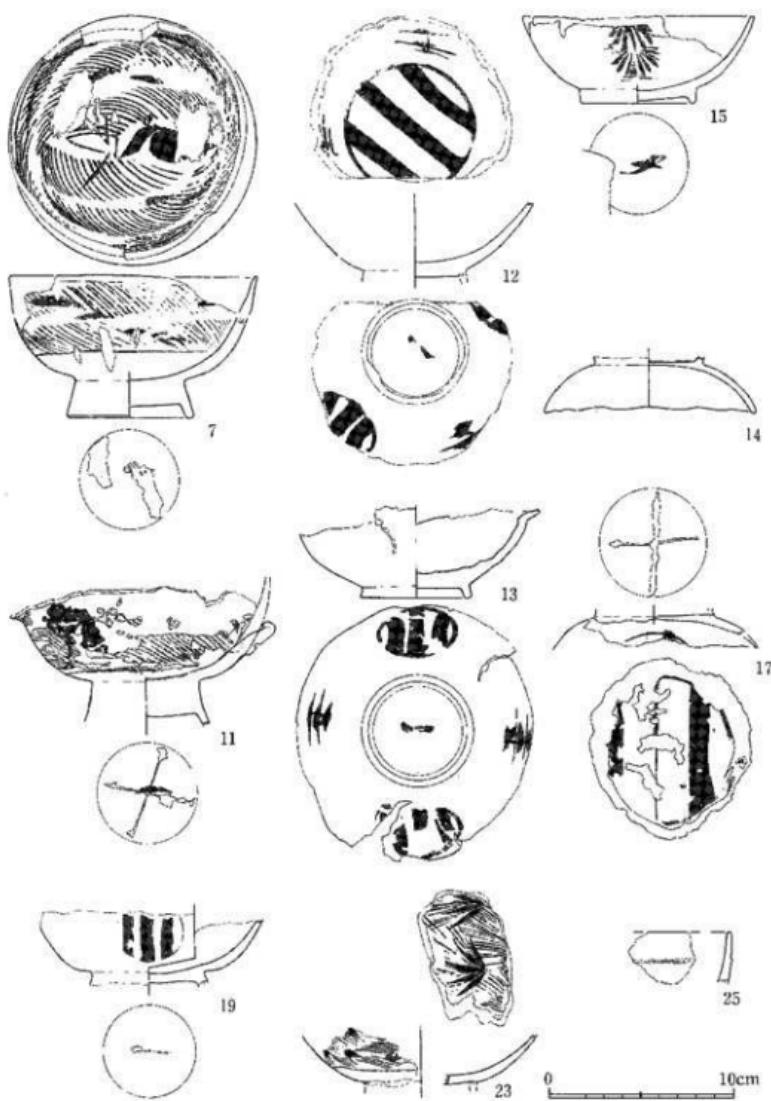


图143 第9地点出土漆碗(2)

Fig.143 Bowls with lacquer from NM9(2)

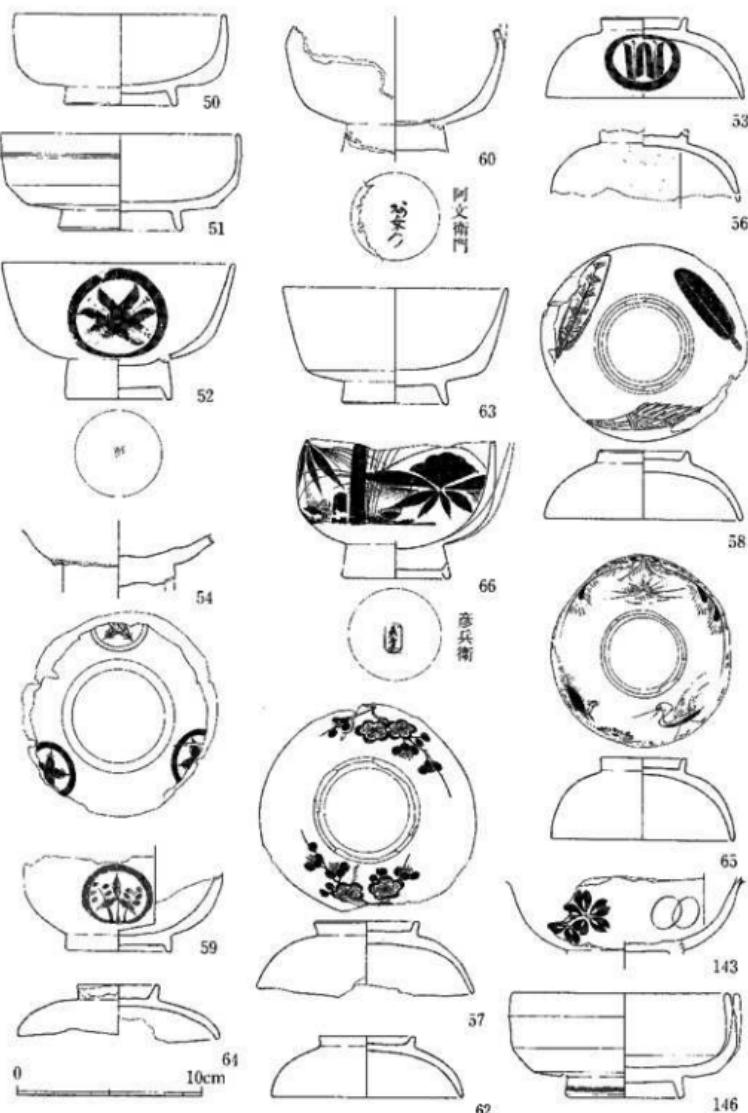


图144 第9地点出土漆碗(3)
Fig.144 Bowls with lacquer from NM9(3)

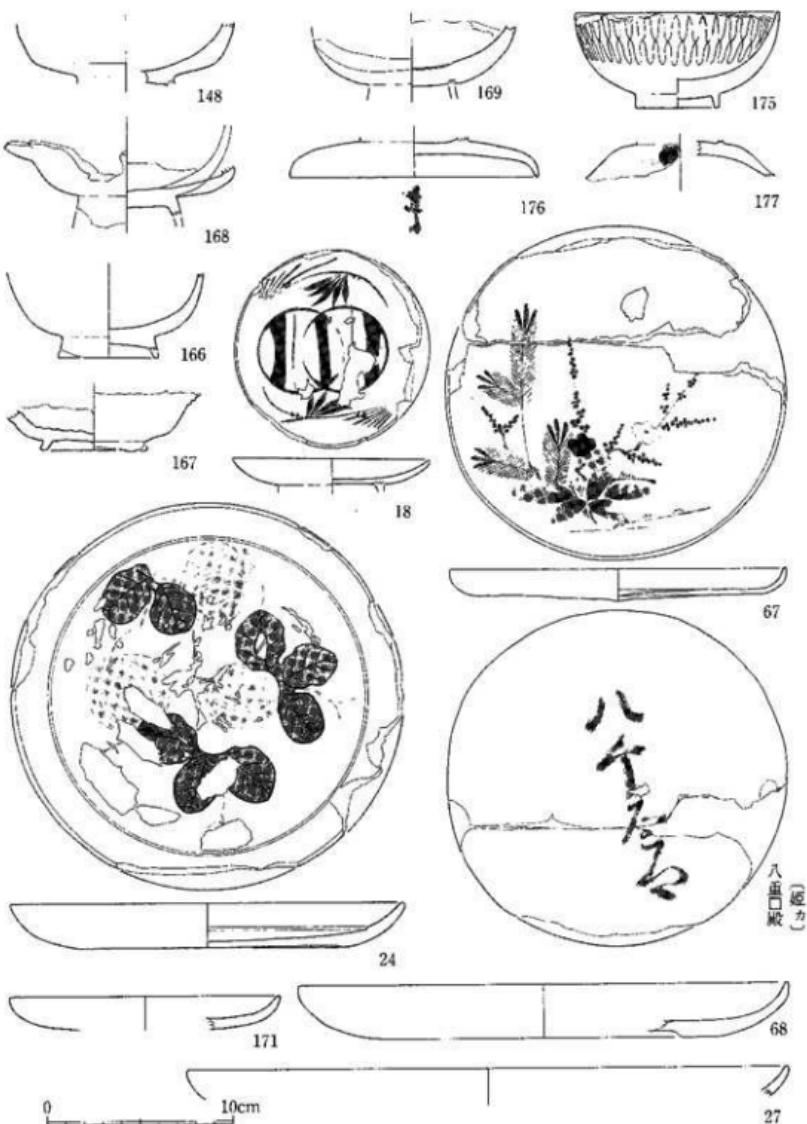


图145 第9地点出土漆碗(4)·漆皿

Fig.145 Bowls and dishes with lacquer from NM9

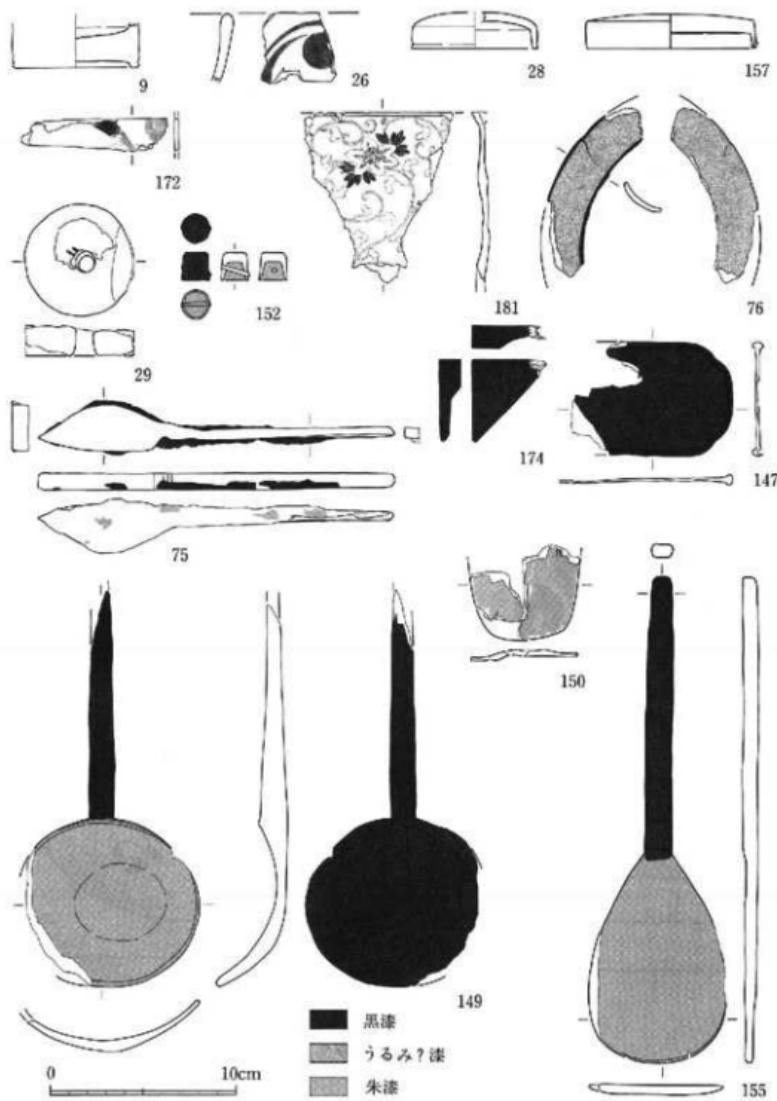


図146 第9地点出土その他の漆塗製品(1)

Fig.146 Various wooden implements with lacquer from NM9(1)

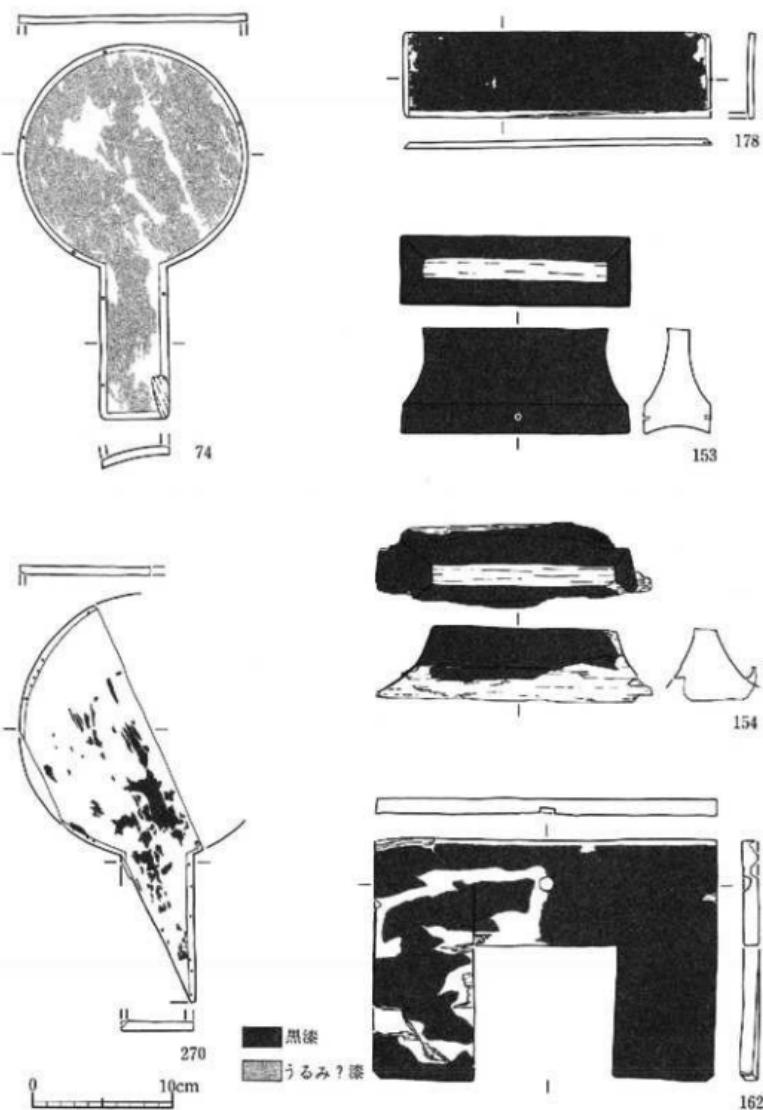


図147 第9地点出土その他の漆塗製品(2)

Fig.147 Various wooden implements with lacquer from NM9(2)

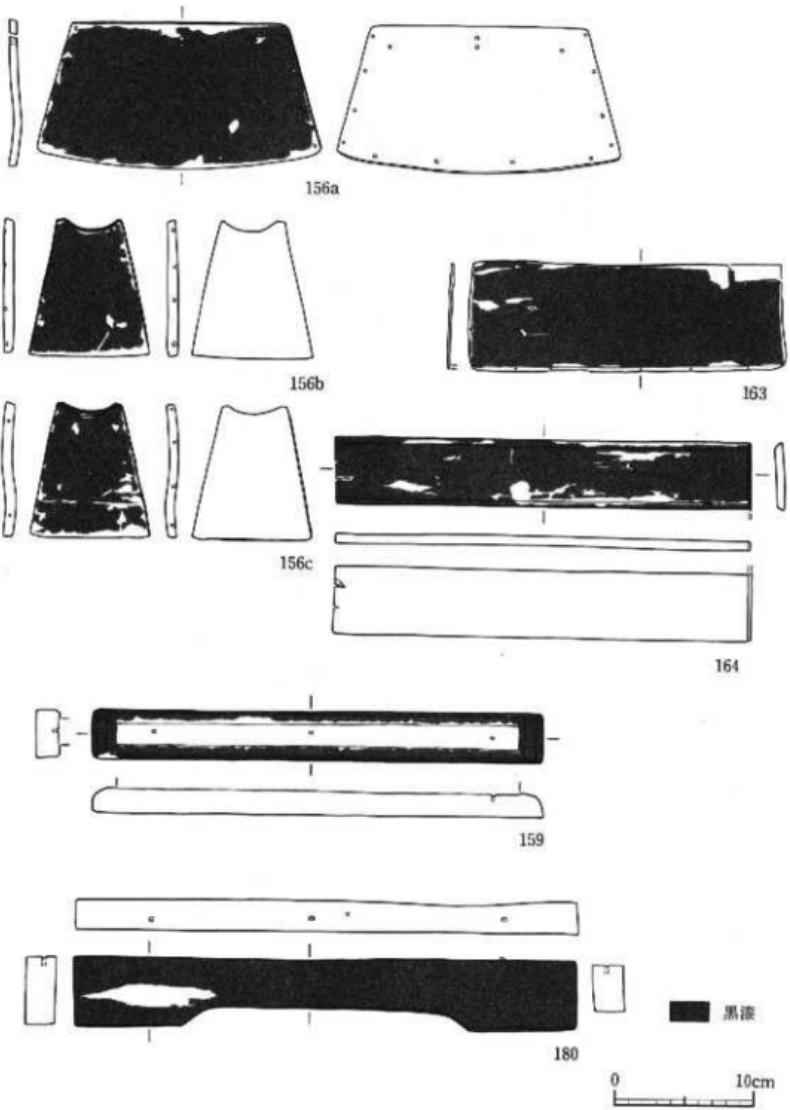


図148 第9地点出土その他の漆塗製品(3)
Fig.148 Various wooden implements with lacquer from NM9(3)

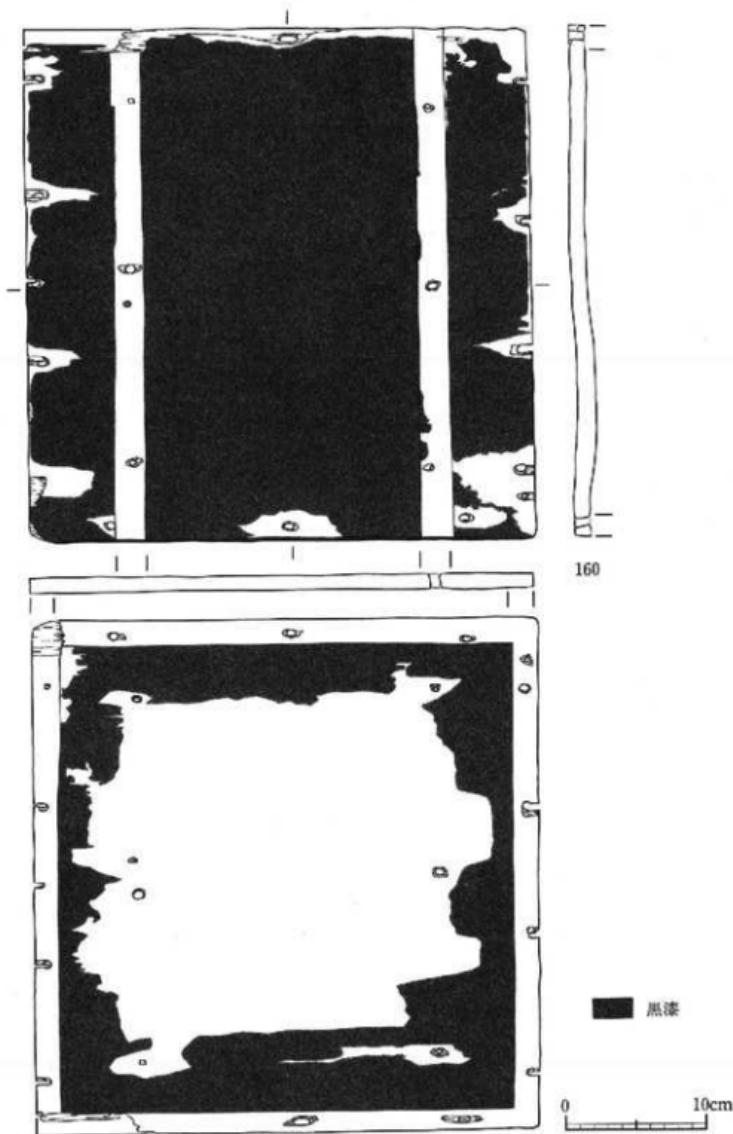
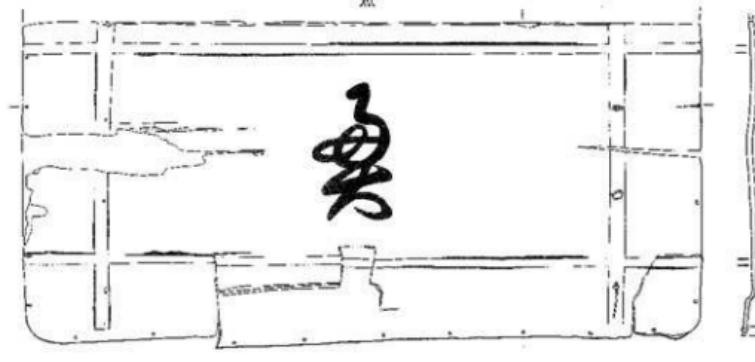


図149 第9地点出土その他の漆塗製品(4)
Fig.149 Various wooden implements with lacquer from NM9(4)

魚



161

■ 黒漆

0 10cm

図150 第9地点出土その他の漆塗製品(5)

Fig.150 Various wooden implements with lacquer from NM9(5)

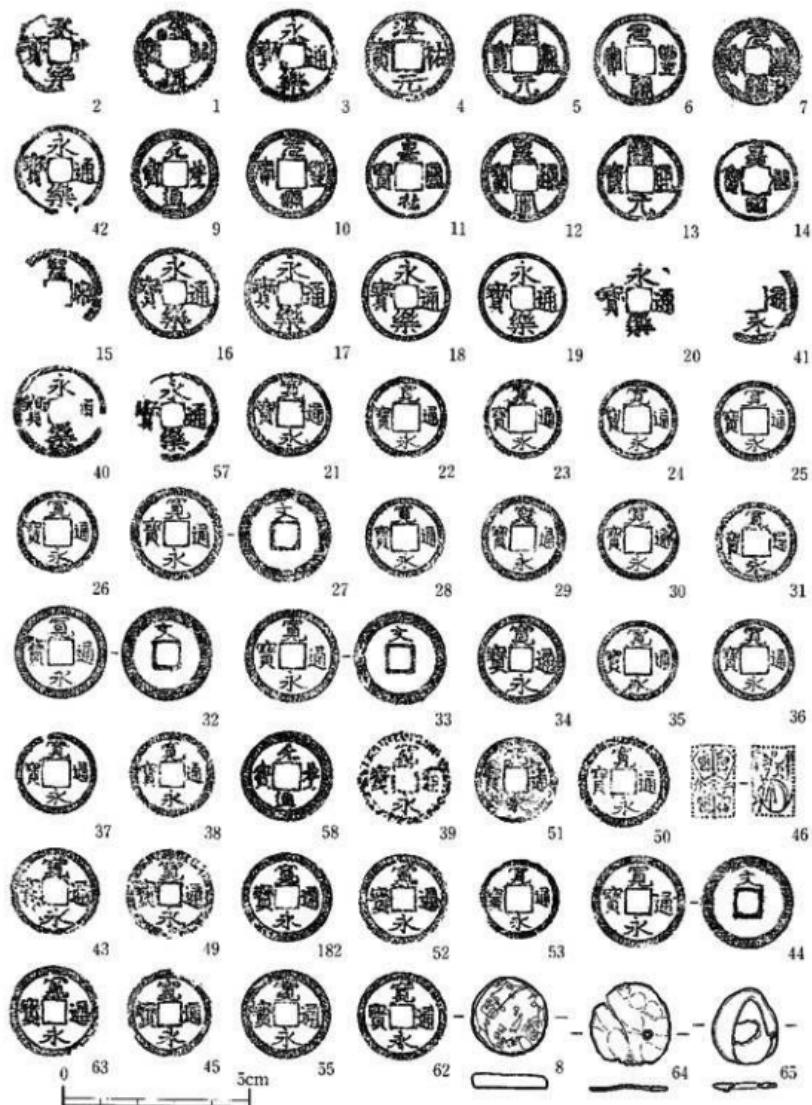


圖151 第9地點出土古錢
Fig.151 Coins from NM9

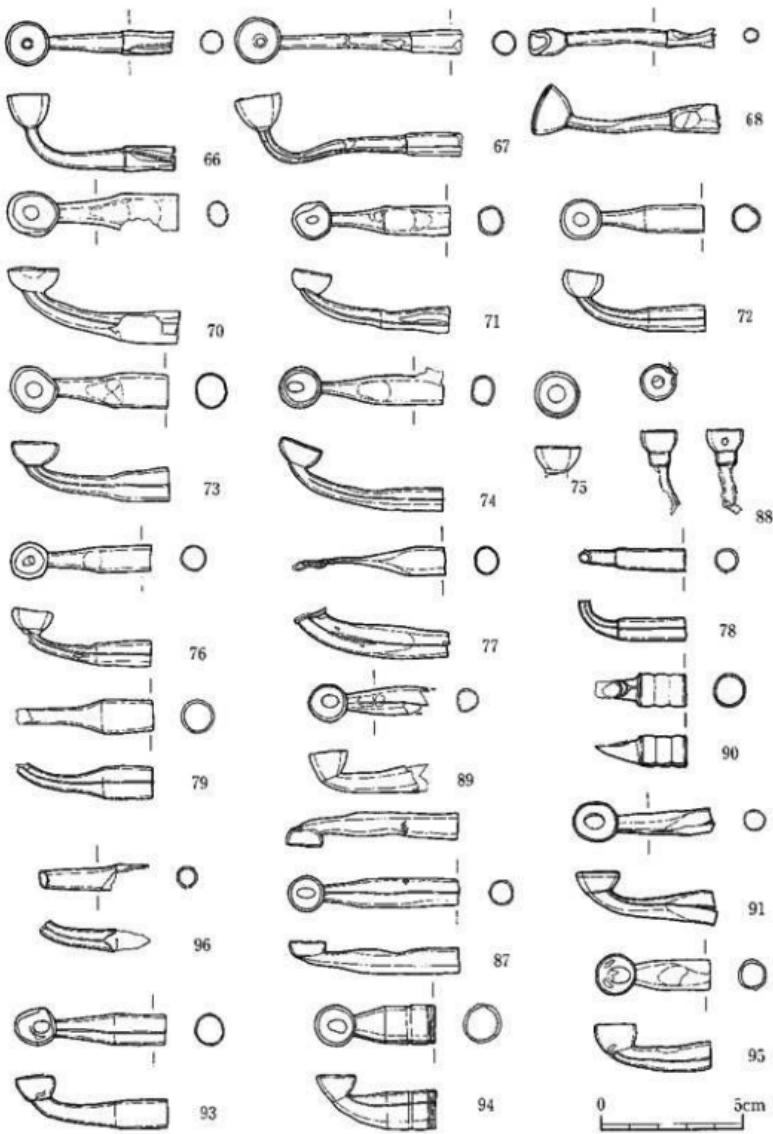


图152 第9地点出土烟管(1)
Fig.152 Pipes from NM9(1)

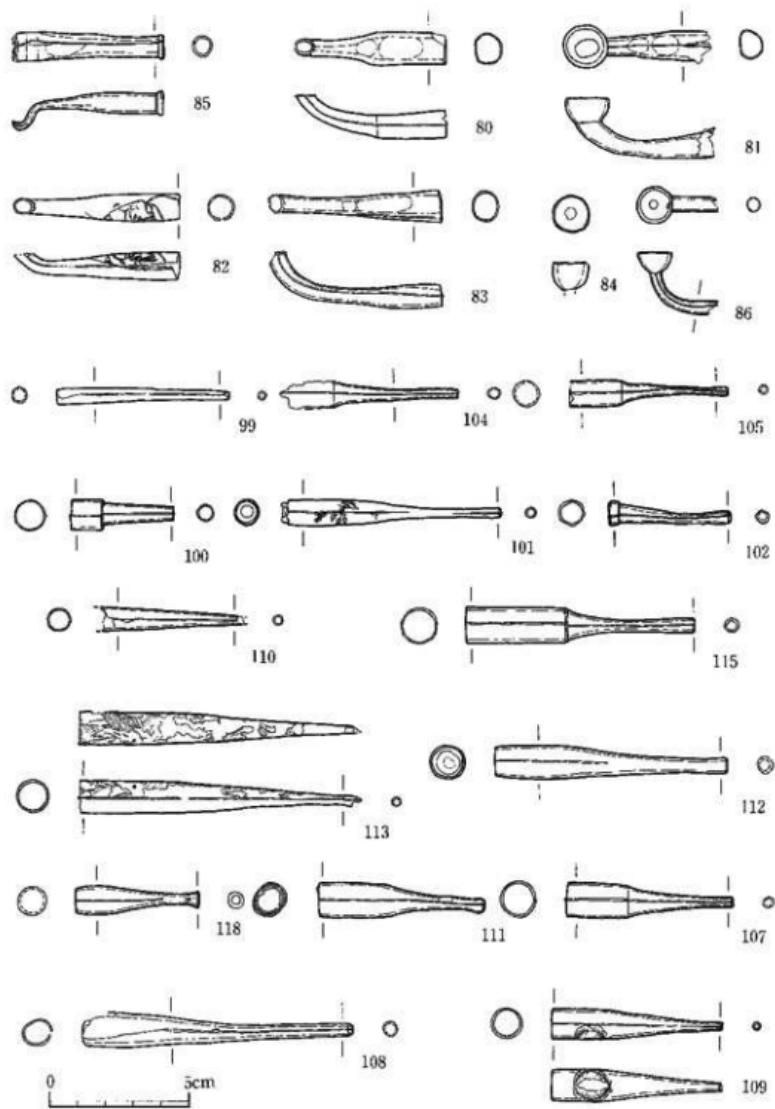


图153 第9地点出土烟管(2)

Fig.153 Pipes from NM9(2)

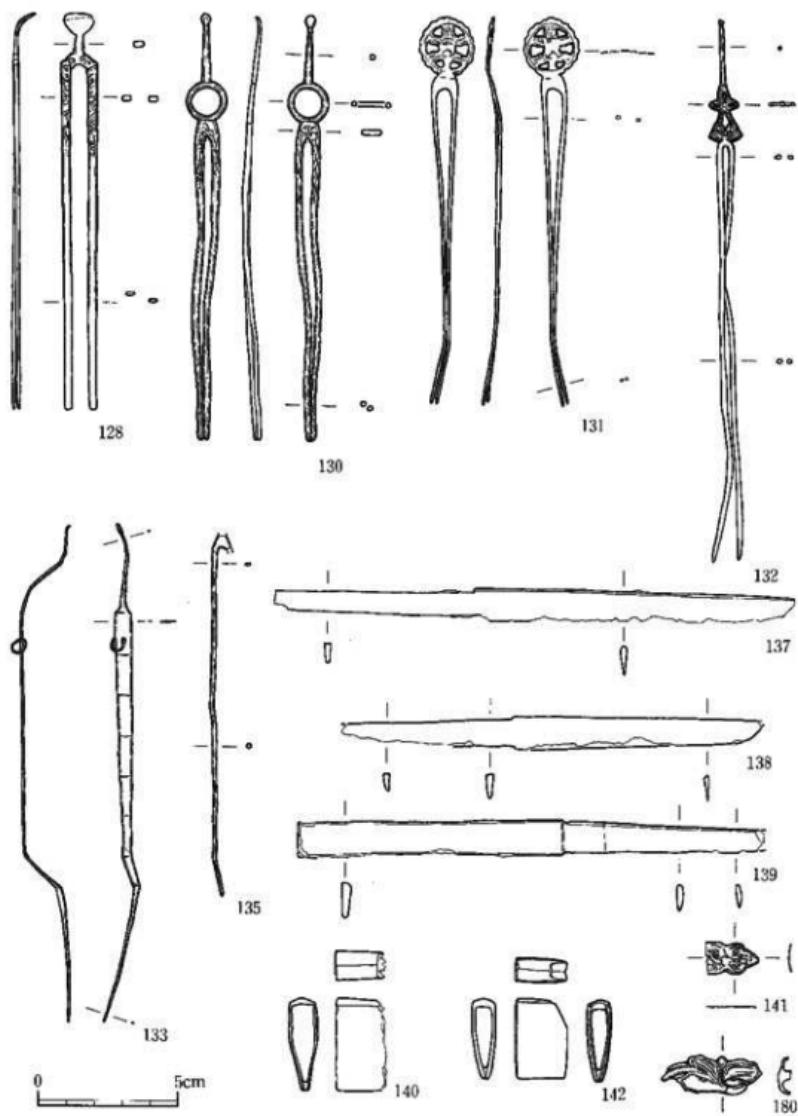


図154 第9地点出土その他の金属製品(1)
Fig.154 Various metal implements from NM9(1)

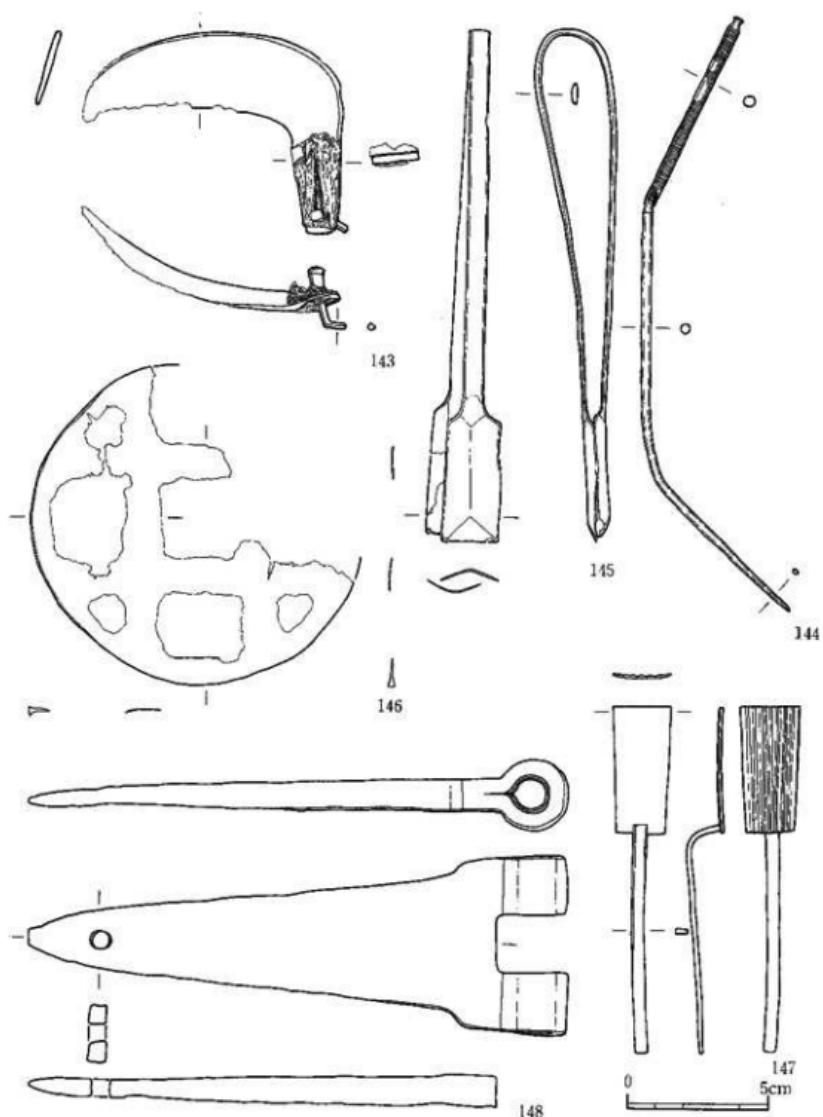


図155 第9地点出土その他の金属製品(2)
Fig.155 Various metal implements from NM9(2)

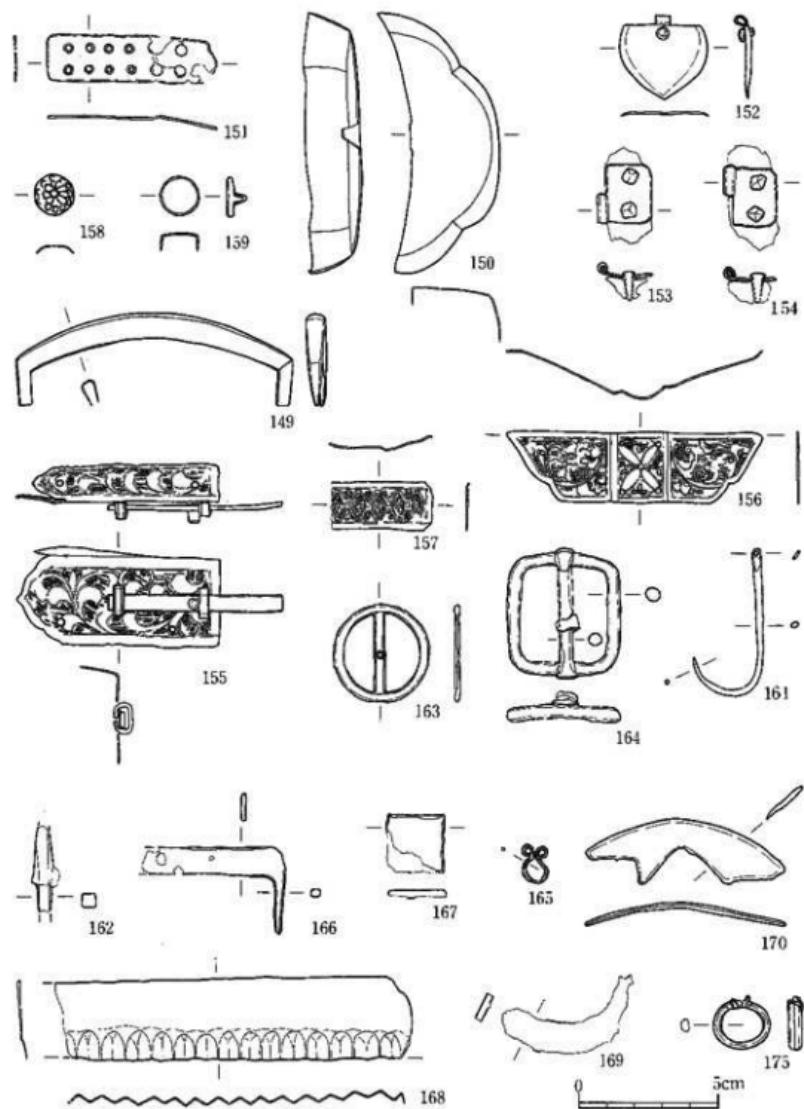


図156 第9地点出土その他の金属製品(3)
Fig.156 Various metal implements from NM9(3)

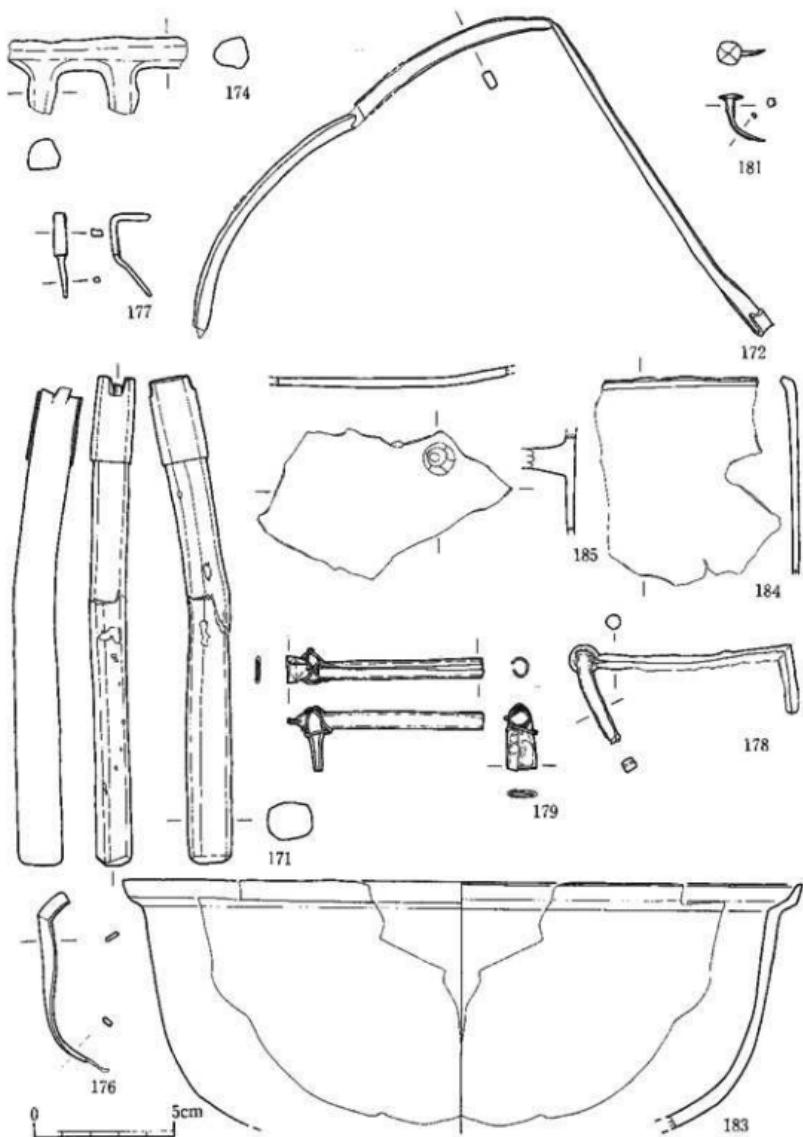


図157 第9地点出土その他の金属製品(4)
Fig.157 Various metal implements from NM9(4)



图158 第9地点出土石器·石制品(1)

Fig.158 Stone tools and Stone-made objects from NM9

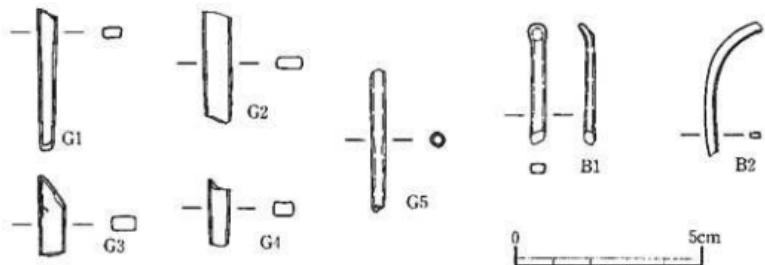
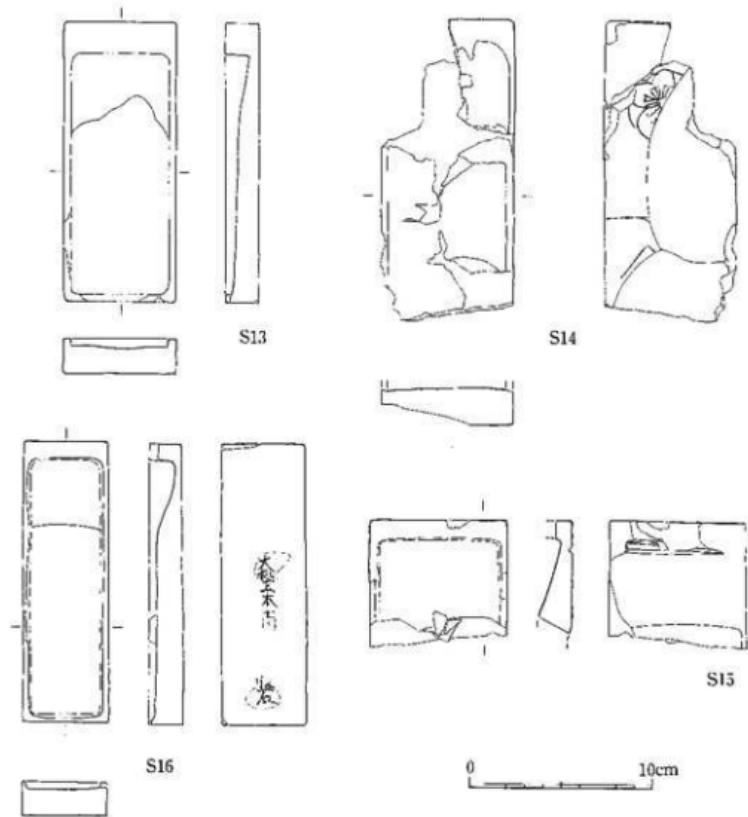


図159 第9地点出土石製品(2)・その他の遺物
Fig.159 Stone-made objects and various implements from NM9

表2 第9地点出土磁器集計表(1)

Tab. 2 Distribution of porcelains at NM9(1)

区・層・地名	大類	中 磁				小 磁				馬				鐵				銅				鉛				諸物				平均	
		丸形	圓形	正角	丸	鏡	鏡	正角	正角	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	
1層	1	24	18	14	—	—	—	—	—	42	21	2	14	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	
1・2層	3	2	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
2層	2	187	3	116	2	80	12	66	1	337	25	260	6	62	16	4	12	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	205		
2・3層	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
3層	5	2	—	—	—	—	—	—	—	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	
3・4層	7	10	3	4	—	—	—	—	—	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	
3・5層	1	22	3	13	1	5	—	—	—	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	28	
3・6層	69	6	13	—	—	—	—	—	—	38	2	24	—	10	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37		
4層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
5層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
6層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
7層	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
北底7・8層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
北底7・9層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
北底7・10層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
南底7・11層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
南底7・12層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
8層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
8層	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
8層	1	15	19	21	4	10	—	—	—	92	6	68	6	3	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	39	
8層	2	37	18	1	30	—	—	—	9	38	5	42	3	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	52	
1・2層の総	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
2号建物跡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1号社跡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
2号社跡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
3号社跡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1号上段	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
2号上段	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
3号上段	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
4号上段	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
5号上段	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
6号上段	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
7号上段	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
8号上段	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
9号上段	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1号施設位不規	4	2	—	—	—	—	—	—	—	3	1	9	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1号施設位不規	54	24	1	19	2	13	—	—	—	63	3	57	1	15	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	58	
1号施設位不規	3	1	2	2	1	2	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	
1号施設位不規	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
1号施設位不規	13	10	4	4	13	—	—	—	—	36	3	17	1	3	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25	
1号施設位不規	3	36	2	19	19	21	36	—	—	47	8	39	3	19	1	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37	
1号施設位不規	17	1	9	9	—	—	—	—	—	4	6	6	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	
1号施設位不規	1	23	12	23	2	36	—	—	—	44	13	25	8	2	1	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13	
1号施設位不規	10	4	1	2	4	3	—	—	—	6	—	—	1	1	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	
1号施設位不規	1	4	1	4	—	—	—	—	—	1	4	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	
1号施設位不規	7	—	—	4	4	—	—	—	3	6	5	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	
その他のV器のビット	4	280	2	77	3	81	5	122	—	260	29	172	2	56	15	3	18	2	23	39	—	—	—	—	—	—	—	—	—	126	
10号上段	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11号上段	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
12号上段	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8
13号上段	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5

表3 第9地点出土磁器集計表(2)
Tab. 3 Distribution of porcelains at NM9(2)

表4 第9地点出土陶器集計表(1)

Tab. 4 Distribution of glazed ceramics at NM9(1)

表6 第9地点出土土器・土製品集計表(1)
Tab. 6 Distribution of ceramics and clay objects at NM9(1)

区・層・遺跡	上 土 質 土 器						瓦 質 土 器						軟質粘土器		上 質 土	
	土	瓦	瓦質	陶器	金	その他の	平底	瓦	瓦質	陶器	金	その他の	平底	堆積	その他の	平底
1号	38			2(火鉢1)		火鉢1	1									
1-2層						手桶1	1									
2層	285	6	2	12		2(火鉢)2(丸鉢)2(丸鉢)不規1	26	6(瓦質1)	7(瓦質2)	2(手桶)1	17	42	中鉢1			
2-3層	2															
3層	59	2											1			
3-4層	196					せなび(火鉢)	2	1				8	3	人形(頭1)		
3-5層	224	3		4	灯明1	6(火鉢2)	2					2	6	人形(火鉢)1瓶1		
3-6層	436	6		7(火鉢1)		2(火鉢)2(手桶)2	25	11(火鉢2)	5(瓦質1)手桶1(火鉢)2(手桶)1	15	9	1	人形(火鉢)2(火鉢)2(火鉢)1(火鉢)1(火鉢)1(火鉢)1(火鉢)1(火鉢)1(火鉢)1			
4層	8															
5層	1			1				1	盛1							
5-6層												1				
6層	6															
7層																
北庭7-A層	29											1				
北庭7-B層	16															
北庭7-C層	13	2														
北庭7-D層	8	2														
南庭7-A層																
南庭7-B層																
南庭7-C層																
南庭7-D層																
1層	5	1	2			手桶1	2							銘1		
1号	273	2		2(火鉢1)		2(火鉢)1	22	3(火鉢2)	2(手桶)1	9	5					
下階	360	1		1	△不規1	12	6			12	10		人形(頭)1(不規1)			
1号漆器類		1	1													
2号漆器類																
1号鉢類																
2号鉢類																
3号鉢類	7			火鉢1												
1号土坑																
2号土坑																
3号土坑	99					1(火鉢)					1		人形(火鉢1)			
4号土坑													2			
5号土坑													1			
6号土坑	10															
7号土坑	27															
8号土坑	7															
9号土坑																
1号施設付近																
その他の施設のビック	6					焼窯1					1	1				
瓦の着小片	103	1	2			1	2				2	1				1
6号土坑	6															
7号土坑	27															
8号土坑	7															
9号土坑																
1号施設付近																
1号施設付近A層	556	4		2(二輪引手鉢)1(火鉢)2	8	9(火鉢4)	1(火鉢2)	10	19				人形(火鉢)2			
1号施設付近B層	29			1		2(火鉢1)						1	1			
1号施設付近C層	62					3						1	1			
1号施設付近D層	190			2(火鉢)2	2	1	燒窯1					4	22			
1号施設付近E層	229	1		2(火鉢)2(丸鉢)2(二輪引手鉢)2	2	11(火鉢5)	1(火鉢)1(火鉢)1(火鉢)1(火鉢)1	4	14	銘1			人形(2(火鉢)1+1(火鉢)1)銘1			
1号施設付近F層	123	1		6(二輪引)		火鉢1					1	3				
1号施設付近G層	6															
1号施設付近H層	177	2		さな1		2(火鉢)2	1(火鉢)1	3	57	水槽1			人形(火鉢)1			
1号施設付近I層	38					10(火鉢3)					1	18				
1号施設付近J層	22	1											2			
2号層	45												9			
3号層	61												1			
その他のV型のビット																
V型の底盤小片	1941	9		2		13	21	26	8	30	131	5				7
10号土坑																
11号土坑																
12号土坑	296	2		1(火鉢1)		2					8	1		人形(火鉢)1銘1		
13号土坑	72	1				2(火鉢2)	七輪1		1	6			銘1(火鉢)1			

表7 第9地点出土器・土製品集計表(2)
Tab. 7 Distribution of ceramics and clay objects at NM9(2)

区・層・遺構	上 級	下 級	種類	個数	瓦 芯 土 器			實質高階土器			土 製 品		
					手標	輪標	その他	手標	輪標	その他	手標	輪標	その他
14号土坑	111				1	火葬2		1			人骨(火葬)1		
15-16号土坑	115	2		2	火葬1			5	火葬火葬1		人骨(火葬)1-4		
15号土坑	496	14			2	火葬1		17	5(火葬)1	11	人骨(火葬)1-11(火葬)1-17(火葬)4		
16号土坑	368	2	2(火葬)1		1	火葬1		9	1	千曲1	3	1	人骨(火葬)1-1
17号牛坑	35	1			2								
18号土坑													
19号土坑													
2号施設土(等)	127					火葬1				1	2		
2号施設土(等)	247	3	1	2(火葬)1		4	3(火葬)1			4			
2号施設土(等)	56			2	2(火葬)1		2(火葬)1		3	1	人骨(火葬)1		
3号井	30							26					
4号井	6												
5号井													
その他の井戸のピット													
貯蔵の施設小計	1960	33	3	10		38	43	35		6	35	18	2
3号施設	1												24
4号施設													
5号施設													
7号施設	45												
8号施設													
9号施設	26						3	1					
10号施設	3						3						
11号施設													
12号施設													
13号施設	2												
14号施設													
15号施設													
16号施設													
17号施設													
6号窯	16												
7号窯													
8号窯													
9号窯													
10号窯	13			1(火葬)1	1								
11号窯													
12号窯	28												
13号窯													
14号窯													
1号墓G													
1号石門													
その他の墓跡のピット	33	14				3							
貯蔵の施設小計	141	13	1			3	4	1					
2号土坑													
15号土坑													
その他の土坑のピット													
墓跡の施設小計													
4号墓													
5号墓													
6号墓													
17号柱穴													
18号柱穴													
19号柱穴													
20号柱穴													
21号柱穴													
その他の1号墓のピット													
1号墓心溝跡小計	21		1					1					
7号施設													
22号土坑													
19号墓													
20号墓													
21号墓													
その他の1号墓のピット													
1号墓心溝跡小計													

表8 二の丸跡第9地点出土瓦集計表(1)
 Tab. 8 Distribution of roof tiles at NM9(1)

表9 二の丸跡第9地点出土瓦集計表(2)
Tab. 9 Distribution of roof tiles at NM9(2)

カッコ内は重量kg

区・所・遺構	平成14年	平成15年	瓦瓦輪	瓦瓦輪	瓦瓦輪	瓦瓦輪	瓦瓦輪	瓦瓦輪	瓦瓦輪	その他瓦	瓦瓦輪
1号土塀											
1号土塀	20(6.67)	21(4.49)	12(5.26)			6(2.02)			2(0.37)		
1号土塀	72(23.89)	79(25.27)	36(17.01)	17(8.05)	19(9.33)	2(0.50)	7(3.27)		1(0.12)	8(3.05)	46(9.22)
1号土塀	7(1.42)	11(2.33)	5(0.85)		1(0.12)						
1号土塀											
1号土塀											
2号地盤上土塀	72(26.32)	57(26.15)	17(6.65)	3(1.03)	43(26.20)	2(0.90)	2(0.35)			3(3.58)	2(0.16)
2号地盤上土塀	11(3.43)	31(9.43)	40(12.07)	5(1.47)	25(18.04)	2(0.77)	4(2.68)	2(0.32)		7(7.43)	4(0.42)
2号地盤上土塀	14(4.08)	59(13.95)	26(12.97)	14(4.26)	45(15.95)	2(0.60)	3(0.67)		1(0.26)	3(1.39)	12(0.15)
3号土塀	18(7.37)	6(1.92)	6(2.00)	2(1.10)	9(2.04)	2(0.60)	1(0.49)			1(1.40)	
4号塀		1(0.12)				2(0.57)	1(0.12)				
5号塀		1(0.92)		1(0.25)							
その他の瓦類のビット	6(1.64)	2(0.43)	1(0.49)								
瓦類の瓦類小計	362(288.27)	300(106.97)	316(106.15)	32(9.65)	371(64.80)	17(8.02)	39(18.91)	38(1.45)	2(1.28)	241(16.92)	73(0.78)
1号建物跡											
4号建物跡	137(2.44)		71(1.93)								
1号建物跡											
6号建物跡											
7号建物跡											
8号建物跡											
9号建物跡											
10号建物跡											
11号建物跡											
12号建物跡											
13号建物跡		1(0.07)	1(0.07)			1(1.30)					
14号建物跡		1(0.29)	1(0.20)	1(0.07)							4(0.07)
15号建物跡											
16号建物跡											
20号土塀											
1号塀	2(0.36)		2(0.17)			1(0.17)	1(0.50)				
7号塀											
8号塀	2(0.36)	3(0.27)	2(0.27)							2(0.02)	
9号塀											
10号塀	1(0.06)	1(0.09)	4(1.10)			1(0.30)					
11号塀											
12号塀	5(0.65)		2(0.46)								
13号塀											
14号塀											
1号塀											
1セクション											
その他の瓦類のビット	2(0.36)					1(0.18)	1(0.79)				
瓦類の瓦類小計	40(9.43)	7(0.97)	2(4.40)			2(1.43)	2(0.53)	2(1.29)			2(0.35)
21号土塀											
15号塀											
その他の瓦類のビット											
瓦類の瓦類小計											
4号建物跡											
5号建物跡											
6号建物跡											
17号建物跡											
16号塀 壁1層	4(1.44)	1(0.97)	6(0.36)							1(0.15)	
16号塀 壁2層	3(0.53)	1(0.84)	2(0.36)				1(0.10)				2(0.07)
17号塀											
18号塀											
その他の1セクションのビット											
1セクションの瓦類小計	14(2.05)	9(0.85)	13(1.78)			1(0.10)	1(0.13)			2(0.07)	
7号建物跡											
19号塀											
20号塀											
21号塀											
その他の1セクションのビット											
1セクションの瓦類小計											

表10 第9地点出土木製品・漆塗製品集計表(1)
Tab. 10 Distribution of wooden implements at NM9(1)

区・部・遺物	丁 目 類	土 器 類				漆 器 類				火 器		鐵 工 具		本 数(g)	形 状					
		漆 器 類	火 器 類	鐵 工 具	其 他	漆 器 類	火 器 類	鐵 工 具	其 他	角 材	火 器 類	鐵 工 具	其 他							
1号																				
1-2号																				
2号			1								1									
3号																				
3-4号																				
3-5号																				
3-6号																				
4号																				
5号																				
6号																				
7号											1									
北区7-1号										4										
北区7-2号		2				2	1	漆器1		1		2	2							
北区7-3号		1				10	漆器1			2		2	1							
北区7-4号		1				17	1	漆器1		1		1								
南区7-1号																				
南区7-2号																				
南区7-3号																				
南区7-4号																				
8号	2	3				4						2								
鏡							鏡1			54	8	1	0.09g							
不明		2	2	ヘラ2	2	鏡1			20	2	13	34.9g	1							
1号漆器																				
2号漆器																				
3-2-3号漆器																				
1号土灰																				
2号土灰																				
3号土灰												3	1.2g							
4号土灰																				
5号土灰																				
1号漆						2	漆器1		1											
1号漆器底漆器			2									1								
その他の漆器のピット																				
4号の漆器小片		2			2		1	1		1	2	1.7g								
5-7-8-9号土灰																				
1号地盤柱不規																				
1号地盤柱1		2					鏡1		2											
1号地盤柱2																				
1号地盤柱3		3				2	漆器1	漆器1	5		20	8	2							
1号地盤柱4		1	1	1		至子1	漆器1	漆器1	6	1	115	18	3	24	0.23g					
1号地盤柱5		3							9		238	90	9	6	11.32g					
1号地盤柱6		1	1	1	2	1	漆器1	漆器1	1											
1号地盤柱7		1																		
1号地盤柱8		1	1	1	1	漆器1	漆器1	漆器1	1											
1号地盤柱9		1	1	1	1	漆器1	漆器1	漆器1	1											
1号地盤柱10-11		1	1	36	18	9	19	漆器1	漆器1	8	1	3	1	723	239	36	96	20.7g	15(867)	
1号地盤柱12		5	2	4	3	漆器1	漆器1	漆器1	1	1	49	14	3	3	0.11g	3				
1号地盤柱13																0.8g				
1号地盤柱14		1		1	1	漆器1					9	1	1							
2号漆																				
1号漆1							1		1											
その他のV型のピット																				
V型の漆器小片	5	3	36	28	13	28	29	15	16	7	22	47	10	2	1364	350	65	134	33.44g	21
10号上灰																				
11号上灰																				
12号中灰																				
13号下灰																				
14号下灰																				

表11 第9地点出土木製品・漆塗製品集計表(2)
Tab. 11 Distribution of wooden implements at NM9(2)

器・類・遺物	木 制 品					漆 塗 品					其 他					加 工 木					本数(g)	件数
	丁	枚	根	箱	束	袋	束	根	束	袋	束	根	束	袋	束	根	束	袋	束	根		
15-16号土灰																						
15号土灰																						
15号土灰	9	757	6	9	50	9	28	内(上)1号土灰(1束度) 内(下)2号土灰(1束度)	10	17	内(上)3号土灰(1束度) 内(下)4号土灰(1束度)	4	103	54	1	20	31.84g	古墳(高さ 10.75m)10				
17号土灰																						
18号土灰																						
19号土灰																						
2号曲輪十日傳																						
2号曲輪十日傳																						
2号曲輪土引鉢																						
2号曲輪																						
4号傳																						
5号傳																						
その他の骨頭のびり																						
5号骨頭小計	9	757	6	10	28	9	28		24	15	29		21	5	2	158	87	8	30	31.87g	14	
1号骨頭																						
1~10号骨頭																						
20号土灰																						
6号傳																						
7号傳																						
8号傳																						
9号傳																						
10号傳																						
11号傳																						
12号傳																						
13号傳																						
14号傳																						
1号漆器																						
1号漆器																						
2号漆器																						
3号漆器																						
4号漆器																						
5号漆器																						
6号漆器																						
7号漆器																						
8号漆器																						
16号漆 土灰1束	8							内(上)1号土灰(1束度) 内(下)2号土灰(1束度)	8	10	2	束1		3		34	1	1				
16号漆 土灰2束																						
17号傳																						
18号傳																						
その他のT字型のびり																						
1.5号T字型小計	8								6	6	10	2		1	1	24	1	1				
2半壇物																						
22号土灰																						
19号傳																						
20号傳																						
21号傳																						
その他のI字型のびり																						
1.5号I字型小計																						

表13 第9地点出土その他の遺物集計表(2)
Tab. 13 Distribution of various implements at NM9(2)

区・層・番号	金・銀・銅						ガラス類			青石器	灰陶器	六角形	金
	土	瓦	瓦	鉄	銅	銀	地錠	集成	その他	ビール瓶	瓶(開閉)	その他	
19号上段													
11号上段													
12号上段	瓦窓丸1												
13号中段				鐵(1)	銅7件6	4-955		十円1					
14号中段													
15-16号中段													
15号中段													
16号中段													
17号上段													
18号上段													
19号上段													
2号地錠上段	鋸窓丸1			鐵(1)	銅7件6	4-955		十円1					
2号地錠上段													
2号地錠上段													
3号窓													
4号窓													
5号窓													
その他の目録(1)ピット													
1号窓の目録小計	瓦窓丸1	鋸窓丸1	鋸窓丸1	銅7件6	4-955	10	16	17	1	-	5	10	-
2号窓の目録	瓦窓丸1												
4-16号柱用													
20号土坑													
4号窓													
2号窓													
3号窓													
10号窓													
11号窓													
12号窓													
13号窓													
14号窓													
1号柱石													
その他の目録(2)ピット	瓦窓												
瓦窓の目録小計	瓦窓2	鋸窓丸1	鋸窓丸1										
21号土坑													
23号窓													
14号窓													
1セリ石													
1号ひ門													
その他の目録(3)ピット	瓦窓												
瓦窓の目録小計	瓦窓2	鋸窓丸1	鋸窓丸1										
22号土坑													
25号窓													
その他の瓦窓のピット	瓦窓2												
瓦窓の目録小計	瓦窓2												
1号地錠													
3号地錠													
6号地錠													
17号地錠													
18号地錠													
19号地錠													
20号地錠													
21号地錠													
その他の1号窓のピット	瓦窓												
1ト朝の遺跡小計	神1件1	瓦窓1	瓦窓1	平削1	鐵(1)	銅(1)		2			8		1
7号地錠													
25号土坑													
19号窓													
20号窓													
21号窓													
その他の1号窓のピット	瓦窓												
1号窓の遺跡小計													

表14 第9地点出土磁器観察表(1)

Tab. 14 Notes on porcelains at NM9(1)

番号	川土	器種	内寸	外寸	記述	文 様	出土	名前	発存年代	備 考	経 路	
001	A95 10号	小・中皿	13.6	7.6	4.1	青花 深刻文	普通	中皿	明治 17C後半	同地蔵鉄鉢	20 11	
002	A95 7号	大皿	23.4	—	—	青花 花葉文	普通	中皿	明治 17C後半	3と同 帯打	20 11	
003	A95 8号	小・中皿	—	—	—	青花 花葉文	普通	中皿	明治 17C後半	緑絞	20 11	
004	APT 7号	小・中皿	—	—	—	青花 花葉文	普通	中皿	明治 17C後半	高台内側面	20 11	
005	AG1 8号	小・中皿	19.2	11.2	2.5	内縁 陰刻文	小中皿	中皿	明治 17C後半	打	20 11	
006	16号土	碗 d.20cm	大皿丸形	13.6	6.8	3.1	青花 深刻文 从正方形 (ソニーフ) 高台内側面	小中皿	把付 18C前~中	くわんかん手	20 11	
007	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	11.8	—	—	青花 文	小中皿	把付 17C後半	—	20 11	
008	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	10.0	4.5	5.4	青花 瓢箪形 入模	普通	把付 17C後半~18C初	—	20 11	
009	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	10.0	4.4	5.1	青花 瓢箪形 花葉文	小中皿	把付 18C後半	—	20 11	
010	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	10.7	4.2	5.8	青花 花葉文 高台内側面	小中皿	把付 18C後半~中	くわんかん手	20 11	
011	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	10.4	4.1	5.1	青花 花葉文 西山内裏方側面 (ソニーフ) 入模	普通	把付 18C後半	山門持持高	20 11	
012	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	10.3	4.5	5.0	青花 深刻文	普通	把付 18C後半	—	20 11	
013	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	10.0	—	—	青花 深刻文	普通	把付 18C後半	—	20 11	
014	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	9.5	4.2	5.3	青花 文	小中皿	把付 18C	くわんかん手	20 11	
015	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	9.5	3.8	4.7	青花 文	普通	把付 18C後半	—	20 11	
016	16号土	碟 d.25cm	小皿丸形	7.7	3.2	4.1	青花 文	普通	把付 18C後半	西山内裏方側面	20 11	
017	16号土	碟 d.25cm	小皿丸形	7.6	2.8	3.7	青花 文	普通	把付 18C	高台内側面	20 11	
018	16号土	碟 d.25cm	小皿丸形	5.4	—	—	青花 文	普通	把付 18C	—	20 11	
019	16号土	碟 d.25cm	小皿	4.8	2.7	2.4	青花 文	普通	把付 18C	—	20 11	
020	16号土	碟 d.25cm	小皿	10.4	9.0	3.7	青花 文 (底) 青花 文 高台内側面	普通	把付 18C	1821~1875	漆塗	20 11
021	16号土	碟 d.25cm	小皿	20.0	13.6	2.4	二把付 青花 文 高台内側面 (ハビタド)	普通	把付 18C後半	1860~1910年代	—	20 11
022	16号土	碟 d.25cm	小皿	14.3	—	—	青花 文	小中皿	把付 18C	—	20 11	
023	16号土	碟 d.25cm	小・中皿	13.6	—	—	青花 文	普通	把付 18C	—	20 11	
024	16号土	碟 d.25cm	小・中皿	13.4	7.0	4.0	青花 深刻文 (底) 青花 文 (ソニーフ) 高台内側面	小中皿	把付 18C後半	くわんかん手	20 11	
025	16号土	碟 d.25cm	蓋 (底)	10.4	—	—	青花 文	小中皿	把付 17C~18C	漆塗の蓋	20 11	
026	16号土	碟 d.25cm	蓋 (底)	9.0	5.3	4.4	青花 文 (底) 青花 文 (ハビタド) 高台内側面	小中皿	把付 18C	—	20 11	
027	16号土	碟 d.25cm	底	7.3	3.7	5.1	青花 (ソニーフ) 文	小中皿	把付 18C	—	20 11	
028	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	18.0	4.3	5.1	青花 文	普通	把付 18C	—	20 11	
029	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	18.0	4.2	5.0	青花 植物文	普通	把付 18C	18C 小一挂	—	20 11
030	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	9.4	4.1	5.5	青花 文 高台内側面	小中皿	把付 18C	くわんかん手	20 11	
031	16号土	碟 d.25cm	小皿丸形	9.7	—	—	青花 文	普通	把付 18C	—	20 11	
032	16号土	碟 d.25cm	小皿丸形	10.2	4.6	4.7	青花 文 (底) 文	普通	把付 18C	—	20 11	
033	16号土	碟 d.25cm	小皿丸形	8.2	4.6	4.5	青花 文 (底) 文	普通	把付 18C後半~19C初	漆塗	20 11	
034	16号土	碟 d.25cm	小皿丸形	8.1	2.7	2.6	青花 文	普通	把付 18C後半	—	20 11	
035	16号土	碟 d.25cm	小皿丸形	8.3	2.7	3.9	青花 文 花葉文	普通	把付 18C後半~19C初	—	20 11	
036	16号土	碟 d.25cm	小皿	9.8	3.3	2.6	青花 (底) 文	普通	把付 18C	漆塗	20 11	
037	16号土	碟 d.25cm	小皿	21.8	13.8	4.7	青花 文 (底) 文	小中皿	把付 1880~1910年代	漆塗	20 11	
038	16号土	碟 d.25cm	中皿	—	—	—	青花 文	中皿	把付 18C	—	20 11	
039	16号土	碟 d.25cm	中皿	14.4	—	—	青花 文	普通	把付 17C後半~18C初	—	20 11	
040	16号土	碟 d.25cm	中皿	10.0	6.3	2.2	青花 文	普通	把付 18C	—	20 11	
041	16号土	碟 d.25cm	中皿	13.6	9.6	5.0	青花 文 (底) 文	普通	把付 18C後半~19C初	—	20 11	
042	16号土	碟 d.25cm	中皿	12.6	4.4	3.4	青花 文 (底) 文	普通	把付 17C後半~18C初	—	20 11	
043	16号土	碟 d.25cm	中皿	12.9	4.4	3.1	青花 文 (底) 文	普通	把付 17C後半~18C初	—	20 11	
044	16号土	碟 d.25cm	盖	8.5	—	—	青花 文	普通	把付 18C	—	20 11	
045	16号土	碟 d.25cm	盖	7.2	—	—	青花 文	普通	把付 18C	—	20 11	
046	16号土	碟 d.25cm	盖	7.7	5.0	3.4	青花 (ソニーフ) 文	中皿	把付 18C後半~19C初	漆塗	20 11	
047	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	11.4	5.2	8.0	山形模様 入模	中皿	把付 18C	中一挂	—	20 11
048	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	10.2	4.2	5.3	青花 文	中皿	把付 18C	くわんかん手	20 11	
049	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	10.2	3.4	2.7	青花 文 (底) 文	中皿	把付 18C	くわんかん手	20 11	
050	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	9.4	3.7	3.7	青花 文 (底) 文	中皿	把付 17C後半~18C初	—	20 11	
051	16号土	碟 d.25cm	中皿丸形	11.0	4.4	5.3	青花 文 (底) 文	中皿	把付 18C	—	20 11	
052	16号土	碟 d.25cm	蓋	5.6	4.3	7.0	青花 文	中皿	把付 18C後半~19C初	—	20 11	
053	16号土	碟 d.25cm	蓋	12.2	—	—	青花 文	中皿	把付 18C	—	20 11	
054	16号土	碟 d.25cm	小・中皿	14.2	—	—	青花 文	普通	把付 17C後半	漆塗	20 11	
055	16号土	碟 d.25cm	中皿	13.0	7.9	6.4	山水模様 (ソニーフ) 文	普通	把付 17C後半	漆塗	20 11	
056	16号土	碟 d.25cm	小・中皿	14.4	—	—	山水模様 (ソニーフ) 文	普通	把付 18C後半	漆塗	20 11	
057	16号土	碟 d.25cm	底	5.0	1.2	1.9	—	普通	把付 18C	—	20 11	
058	16号土	碟 d.25cm	底	—	—	—	青花 文 (底) 文	普通	把付 17C後半	漆塗	20 11	
059	16号土	碟 d.25cm	小・中皿	—	—	—	青花 文	普通	把付 17C後半	漆塗	20 11	
060	16号土	碟 d.25cm	小皿	1.2	1.0	6.9	青花 文	普通	把付 17C後半~18C初	—	20 11	
061	16号土	碟 d.25cm	底	5.7	—	—	青花 文	普通	把付 18C	—	20 11	
062	大皿	—	—	—	—	—	—	普通	—	—	—	
063	3号土	中皿丸形	11.2	—	—	青花 文 (底) 文	中皿	把付 18C後半	—	20 11		

表15 第9地点出土磁器觀察表(2)
Tab. 15 Notes on porcelains at NM9(2)

番号	出上場所	種類	口径 底径 高さ	底評 基盤	文様等	時代	地質	表面化 性	西4	西5
164	2号窓 405層	中国丸皿	9.9 8.1 1.4	黒彩花文 花入模様		伊豫	砂岩	19C後~永	25	13
165	2号窓 横谷	小切地紋皿	9.5 3.2 1.4	黒彩文 鳥込千鳥文		今村	砂岩	19C後	28	12
166	2号窓 205層	小切地紋皿	9.0 3.7 1.3	黒彩文 鳥込千鳥文		伊豫	砂岩	19C後	28	20
167	6号窓	小・中皿	13.0 4.2 3.4	黒文		吉野	泥岩	17C後~18C初	西4内側	28
168	2号窓 205層	脚付小皿	9.8 4.9 2.1	黒彩文 黑口内 刻印「周」		今村	砂岩	19C後	28	20
169	1号窓 405層	中切丸皿	10.7 4.3 1.6	黒彩花文		今村	砂岩	19C後	26	20
170	1号窓 405層	蓋	9.5 3.9 2.8	黒彩花文 黑口内模様		今村	砂岩	19C後	26	20
171	1号窓 405層	中切丸皿	9.1 4.1 1.3	二重唇文 多脚付		吉	砂岩	19C	くらわん少子	26
172	1号窓 405層	小・中皿	14.0 7.0 2.8	黒彩花文 黑口内模様		今村	砂岩	19C後	29	20
173	1号窓 671-3層	うがい茶碗	15.0 6.2 3.9	黒文		吉野	砂岩	19C後	29	20
174	1号窓 671-3層	中國城山	10.6 4.6 3.6	黒彩花文 黑口内模様		吉	砂岩	19C後	29	20
175	1号窓 671-3層	小切地紋皿	12.2 4.6 3.6	黒文		吉野	砂岩	19C後	29	20
176	1号窓 671-3層	中国丸皿	10.3 3.7 1.7	黒彩花文		吉	砂岩	19C後~中	鐵瓶	29
177	1号窓 671-3層	小切丸皿	9.6 3.7 4.2	黒文		今村	砂岩	19C後~中	29	20
178	1号窓 671-3層	中国丸皿	10.2 3.6 1.3	黒文		今村	砂岩	19C後~中	29	20
179	1号窓 671-3層	小切丸皿	8.9 3.1 4.8	黒文		今村	砂岩	19C後~中	29	20
180	1号窓 671-3層	小切丸皿	4.5 2.8 1.9	茶字文 黑彩花文	高台寺作成	吉	砂岩	19C後	29	20
181	1号窓 671-3層	小切地紋皿	7.4 4.6 1.6	黒彩花文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
182	1号窓 671-3層	小切丸皿	8.2 3.4 4.2	黒彩花文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
183	1号窓 671-3層	小切地紋皿	8.9 3.3 4.3	黒文		吉	砂岩	19C後	29	20
184	1号窓 671-3層	小切地紋皿	8.2 2.0 4.3	黒文		吉	砂岩	19C後	29	20
185	1号窓 671-3層	小切地紋皿	9.7 2.6 3.5	黒文		今村	砂岩	19C後	29	20
186	1号窓 671-3層	小切地紋皿	7.8 2.7 3.9	黒文		今村	砂岩	19C後	29	20
187	1号窓 671-3層	小切地紋皿	8.8 2.6 3.2	黒文		吉	砂岩	19C後	29	20
188	1号窓 671-3層	小・中皿	— 3.5 —	黒文		今村	砂岩	19C後	29	20
189	1号窓 671-3層	小切地紋皿	10.4 5.8 7.4	黒彩花文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
190	1号窓 671-3層	小切地紋皿	10.2 6.0 2.2	黒山文	白口	吉	砂岩	19C後	29	20
191	1号窓 671-3層	蓋	9.3 4.4 2.5	口被鐵輪足		今村	砂岩	19C後	29	20
192	1号窓 671-3層	小切地紋皿	10.2 6.0 2.1	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
193	1号窓 671-3層	蓋	8.6 4.3 2.1	鉢形仕上	高台寺作成	吉	砂岩	19C後	29	20
194	1号窓 671-3層	蓋	8.6 3.7 3.2	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
195	1号窓 671-3層	小切地紋皿	15.8 6.0 5.5	工字文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後~中	29	20
196	1号窓 671-3層	鉢	3.0 6.5 18.7	一山文		今村	砂岩	19C後	鐵瓶	29
197	1号窓 671-3層	鉢	— — —	一山文		今村	砂岩	19C後	29	20
198	1号窓 671-3層	鉢	11.2 3.3 2.9	丸文		今村	砂岩	19C後	29	20
199	1号窓 671-3層	蓋	10.3 6.1 3.9	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
200	1号窓 671-3層	蓋	8.8 3.6 2.6	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
201	1号窓 671-3層	鉢	8.0 2.0 2.1	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
202	1号窓 671-3層	蓋	8.8 3.4 2.7	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
203	1号窓 671-3層	鉢	6.1 — —	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後~中	鐵瓶	29
204	1号窓 671-3層	鉢	8.0 1.6 —	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
205	1号窓 671-3層	蓋	7.2 3.3 5.8	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
206	1号窓 671-3層	鉢	6.1 3.5 4.5	茶文		今村	砂岩	19C後~中	鐵瓶	29
207	1号窓 671-3層	中国丸皿	9.6 3.2 4.9	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後~中	29	20
208	1号窓 671-3層	中国丸皿	10.6 3.6 3.8	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後~中	29	20
209	1号窓 671-3層	中国丸皿	10.6 4.5 3.7	茶文		今村	砂岩	19C後~中	29	20
210	1号窓 671-3層	中国丸皿	16.6 4.1 6.0	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後~中	29	20
211	1号窓 671-3層	中国丸皿	9.7 3.3 4.6	茶文		今村	砂岩	19C	鐵瓶	29
212	1号窓 671-3層	中国丸皿	16.7 4.0 6.2	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
213	1号窓 671-3層	小切丸皿	6.6 3.2 4.8	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
214	1号窓 671-3層	小切丸皿	8.6 2.3 4.7	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
215	1号窓 671-3層	小切丸皿	9.2 2.7 4.6	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	鐵瓶	29
216	1号窓 671-3層	小切地紋皿	8.7 3.1 4.2	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後~中	29	20
217	1号窓 671-3層	小切地紋皿	8.2 2.4 4.3	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
218	1号窓 671-3層	蓋	7.0 3.1 6.0	茶文		今村	砂岩	19C後~中	鐵瓶	29
219	1号窓 671-3層	蓋	8.3 2.3 4.2	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
220	1号窓 671-3層	中・皿	14.0 8.5 2.1	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	鐵瓶	29
221	1号窓 671-3層	小・中皿	10.2 7.7 3.4	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
222	1号窓 671-3層	物小皿	9.1 4.9 2.5	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
223	1号窓 671-3層	物小皿	9.6 5.1 2.1	茶文	高台寺作成	今村	砂岩	19C後	29	20
224	大甕									
225	1号窓 671-3層	鉢(蓋)	14.0 — —	茶文		吉野	泥岩	19C後~19C初	26	20
226	1号窓 671-3層	鉢(蓋)	10.6 — —	茶文		今村	砂岩	19C後	26	20

表16 第9地点出土磁器觀察表(3)

Tab. 16 Notes on porcelains at NM9(3)

番号	地 上 領 所	器 物	内 直	外 直	底 直	文 字	銘	地 上	地 下	器 物	器 物 年代	備 考	目 次
127	1号室 地上部	山型器	5.6	3.6	5.6	横印文		普通	櫛目	19C前~中		34	26
128	1号室 地上部	瓶内丸	3.5	4.1	4.1	横印文 小文字 内面に 里山本文		普通	櫛目	19C前~中	Mie	34	26
129	1号室 地上部	小・中直	14.3	4.2	8.0	横印文 乳足川横印文 瓶/里山本文		普通	櫛目	19C中		35	27
130	1号室 地上部	丸入	13.7	9.4	8.7	横印文 瓶/里山本文		普通	櫛目?	19C前~中		35	27
131	1号室 地上部	小・中直	11.1	5.9	3.1	横印文 瓶/里山本文		普通	櫛目	19C前		35	27
132	1号室 地上部	心型丸入	10.1	4.0	5.1	横印文 瓶/里山本文		普通	櫛目	19C前		36	28
133	1号室 地上部	小円筒形	7.9	3.6	6.3	横印文 高山内輪印文		普通	櫛目	19C中		36	28
134	1号室 地上部	小・中直	11.7	6.3	2.3	横印文 瓶/里山本文		普通	櫛目	19C中		36	28
135	AP5 2c 極	中型丸入	8.7			横印文		普通	櫛目	19C~19C前		37	29
136	AP7 2c 極	中型丸入	10.1	3.4	5.0	龜甲文に横印文 兼入墨器		普通	櫛目	19C		37	29
137	1号室 地下	中型丸入	11.4	5.9	5.2	横印文 里山本文(ヨシノヤマ文) 高山内輪印文		普通	櫛目	19C前		37	29
138	AP8 3c 極	中型丸入	12.0	4.9	6.8	横印文 里山本文(ヨシノヤマ文) 兼入墨器 龜甲文		普通	櫛目	19C前		37	29
139	AP7 3c 極	小・中直	12.0	8.5	3.3	横印文 里山本文(ヨシノヤマ文) 兼入墨器		普通	櫛目	19C		37	29
140	AC4 3c 極	中型丸入	10.9	6.4	1.9	横印文		普通	櫛目	19C	ハリヨウヨウミ	37	31
141	AG5 2c 極	浅腹(口)	18.0			横印文		普通	櫛目	19C後半		37	31
142	AB7 2c 極	浅腹(口)	18.1	3.9	2.3	横印文 横印文内輪印文 高山内輪印文		普通	櫛目	19C後半		37	31
143	1号室 地上部	中型丸入	12.6	2.1	6.3	横印文 里山本文(ヨシノヤマ文) 高山内輪印文		普通	櫛目	19C~19C前		38	33
144	1号室 地上部	中型丸入	18.3	3.7	3.1	横印文 里山本文(ヨシノヤマ文) 兼入墨器		普通	櫛目	19C後半		38	33
145	AG2 2c 極	小・中直	2.2	7.5	2.8	横印文に横印文 兼入墨器		普通	櫛目	19C後半		38	33
146	1号室 地上部	大腹丸入	17.8	—		横印文 兼入墨器		普通	櫛目	19C前半		38	33
147	1号室 地上部	小型丸入	7.6	3.6	1.5	横印文 日本文		普通	櫛目	19C後半		38	33
148	1号室 地上部	中型丸入	13.4	7.8	3.7	横印文 里山本文(ヨシノヤマ文) 兼入墨器		普通	櫛目	19C後半		38	33
149	1号室 地上部	丸入	9.2	—		横山本文		普通	櫛目	19C後半		38	33
150	1号室 地上部	圓柱	7.8	—		下凹		普通	机	19C後半	急須(中峰刀)	38	33
151	1号室 地上部	蓋	8.9	3.7	2.6	横印文に横印文 兼入墨器		普通	櫛目	19C		38	33
152	1号室 地上部	中国高脚碗	10.4	4.1	6.0	横印文 里山本文(ヨシノヤマ文)		普通	櫛目	19C後半~中		39	37
153	1号室 地上部	中型丸入	11.0	—		横印文 兼入墨器		普通	櫛目	19C後半		39	37
154	1号室 地上部	中型丸入	—	6.1		見立高足(ヨシノヤマ文)		普通	櫛目	19C後半~19C前		39	37
155	1号室 地上部	中型丸入	8.2	3.2	4.4	横印文 云仙		普通	櫛目	19C中		39	37
156	1号室 地上部	中型丸入	9.3	2.9	5.1	横印文 高山内輪印文		普通	櫛目	19C中		39	37
157	1号室 地上部	深腹(口)	7.8	—		横印文		普通	櫛目	19C前半~中		39	37
158	1号室 地上部	中型丸入	9.9	3.4	5.0	横印文(ヨシノヤマ文) 里山本文(ヨシノヤマ文) 瓶の裏面		普通	櫛目	19C前半~中		39	37
159	1号室 地上部	大直	—	8.1		横印文 兼入墨器		普通	櫛目	19C後半		39	37
160	1号室 地上部	中型丸入	—	8.0		横印文 兼入墨器		普通	櫛目	19C後半		39	37
161	1号室 地上部	中型丸入	10.4	2.5	4.6	朱墨印文		普通	櫛目	19C後半		39	37
162	火垂	—	—	—	—								
163	1号室 地上部	小・中直	18.3	4.5	1.4	横印文竹口 瓶/里山本文(ヨシノヤマ文)		普通	櫛目	19C前~中		39	39
164	1号室 地上部	火垂	—	—	—	横印文		普通	櫛目	19C前~中		39	39
165	1号室 地上部	中型丸入	10.0	3.6	4.3	朱墨印文兼入墨器 瓶の裏面		普通	櫛目	19C後半		39	39
166	1号室 地上部	合子?	10.7	—		横印文		普通	櫛目	19C		39	39
167	2号室 地上部	小・中直	22.2	14.6	3.9	横印文 見立高足(ヨシノヤマ文) 瓶		普通	櫛目	1600-1700年代	ハリヨウヨウミ	39	39
168	2号室 地上部	火入れ	10.7	—		横印文		普通	櫛目	19C前		39	39
169	2号室 地上部	盖	10.0	8.0	5.2	横印文 兼入墨器		普通	櫛目	19C後半	鉢底	39	39
170	2号室 地上部	中型丸入	9.2	3.6	3.5	横印文 瓶/里山本文(ヨシノヤマ文) 兼入墨器		普通	櫛目	19C前		39	39
171	2号室 地上部	中型丸入	10.4	—		山型横印文		普通	櫛目	19C前半~中		39	39
172	2号室 地上部	合子(口)	30.1	—		火垂文		普通	櫛目	19C後半		39	39
173	2号室 地上部	火垂	14.2	8.4	4.3	横印文 里山本文(ヨシノヤマ文) 瓶/里山本文(ヨシノヤマ文)		普通	櫛目	19C後半~19C前		39	39
174	2号室 地上部	小・中直	4.7	—		横印文		普通	櫛目	19C		39	39
175	2号室 地上部	火垂	10.0	4.5	3.2	横印文 里山本文(ヨシノヤマ文) 兼入墨器		普通	櫛目	19C後半~19C前		39	39
176	AG7 3c 極	天型丸入	13.4	5.2	3.7	横印文に横印文 兼入墨器(ヨシノヤマ文) 高山内輪印文		普通	櫛目	19C	くわんしん少子	39	31
177	AG7 3c 極	小・中直	11.7	—		横印文		普通	櫛目	19C後半~19C前		39	31
178	1号室 地上部	中型丸入	6.7	3.9	0.8	火垂文 兼入墨器 瓶/里山本文(ヨシノヤマ文) 瓶の裏面		普通	櫛目	19C後半~19C前		39	31
179	AP5 3c 極	中型丸入	10.6	4.4	5.9	横印文 瓶/里山本文(ヨシノヤマ文) 瓶の裏面		普通	櫛目	19C後半~19C前		39	31
180	1号室 地上部	中型丸入	9.7	2.9	5.1	横印文		普通	櫛目	19C		39	31
181	1号室 地上部	中型丸入	8.0	3.2	5.7	横印文 瓶/里山本文(ヨシノヤマ文)		普通	櫛目	19C後半~19C前		39	31
182	1号室 地上部	中型丸入	11.8	3.3	6.4	横印文 瓶/里山本文(ヨシノヤマ文)		普通	櫛目	19C		39	31
183	1号室 地上部	縁	7.0	2.4	2.2	火垂 文/横印文の名		普通	櫛目	19C		39	31
184	1号室 地上部	縁	11.5	—		火垂文		普通	櫛目	17C後~18C前		39	31
185	AP5 2c 極	中型丸入	10.7	1.0	5.6	内面横印文 兼入墨器 瓶		普通	櫛目	19C後半~中	鉢底	39	31
186	AP5 3c 極	中直	14.8	8.0	4.4	横印文 里山本文(ヨシノヤマ文) 瓶/里山本文(ヨシノヤマ文)		普通	櫛目	19C中		39	31
187	AB5 3c 極	小直	6.0	3.6	2.2	横印文		普通	櫛目	19C後半~19C前		39	31
188	AN6 2c 極	中型丸入	9.9	3.9	5.6	内面横印文(ヨシノヤマ文) 瓶/里山本文(ヨシノヤマ文)		普通	櫛目	19C	(くわんしん少子)	39	31

表17 第9地点出土磁器觀察表(4)
Tab. 17 Notes on porcelains at NM9(4)

番号	出土地点	標名	地質	坑號	陶器	文書	年代	測定地	測定年代	備考	通
130	ADP 2号	中國人頭	10.7	3.1	3.9	織錦草文	唐	鐵門	12C後~中		27 28
131	ADP 2号	中國人頭	10.6	—	—	織錦草文 面孔手形符号	小中型	鐵門	12C後		27 29
132	ADP 2号	中國青花碗	9.2	—	—	藍色繪文 瓷內墨文	中中型	鐵門	12C後~13C前		27 29
133	AGF 2号	中國青花碗	10.7	4.1	5.1	山水文 面孔雙魚文 面孔4隻	鐵路	鐵門	12C~13C		27 29
134	AGF 2号	中國青花碗	10.7	4.0	5.9	山水文 面孔山紋	中中型	鐵門	12C~13C		27 29
135	AGF 2号	中國青花碗	20.6	—	—	二分體文	小中型	鐵門	12C後~13C前		28 29
136	AGF+AGT 2号	小·中盤	12.7	8.2	3.2	山水文 面孔文 繩內墨文 花口 直身帶高台	鐵	測定	12C後半	鐵門	28 30
137	AGF+AGT 2号	小·中盤	14.3	6.0	3.1	雙面鏡子 口紅 內墨文 花口 直身帶高台	鐵道	鐵門	12C~13C		28 30
138	ADH 2号	小·中盤(底盤)	—	3.3	—	山水文 三足六瓣底	中中型	鐵門	12C後		28 30
139	AGF 2号	碟小盤	6.5	3.4	2.2	山水文 帶高台 三瓣口	鐵道	鐵門	12C		28 30
209	—	盤蓋(底)	10.7	—	2.5	山水文 三足六瓣底	青島	鐵門	12C後半		28 30
210	ACI 2号	盤物(底)	12.2	—	3.2	山水文甲子年多點子墨文	鐵道	鐵門	12C後~13C前		28 30
212	—	盤	10.0	5.3	2.6	織錦草文	鐵道	平明	小明		28 30
213	ADP 2号	圓盤	5.7	—	—	織錦草文 面孔手形	鐵	測定	12C後~13C前		28 30
264	—	小玲瓏高盤	10.4	—	—	雙面鏡子	鐵道	鐵門	12C後~13C前		28 30
265	—	大盤	—	—	—	色彩(紅·青·黑)山水文	中中型	鐵門	12C後~13C前	鐵門	28 30
266	—	小·中盤	—	—	—	山水文(底盤文)花口 直身帶高台	鐵道	鐵門	12C後~13C前	鐵門	28 30
267	鐵道	小盤	4.1	—	—	山水文	中中型	鐵門	12C後~13C前	鐵門	28 30
268	鐵道	小玲瓏大盤	11.3	4.2	6.1	山水文 黑牡丹月光 織錦草文	鐵道	鐵門	12C後~13C前		28 30
269	鐵道	小·中盤	15.4	9.6	1.4	山水文	鐵道	鐵門	12C後~13C前		28 30
270	鐵道	圓盤	—	—	—	山水文	鐵道	鐵門	12C後		28 30
271	1号地	蓋物	6.1	5.1	3.7	鐵道(青花)山水文	鐵道	鐵門	12C後~中	山形井	28 30
272	4号地	小·中盤	—	—	—	圓盤山水文	中中型	鐵門	12C後~13C前	鐵門	28 30
273	化德縣坤德堂小明	小·中盤	10.2	6.0	2.4	盤子	鐵道	鐵門	12C後~13C前	鐵門	28 30
274	井上和田不倒	小·中盤	—	—	—	織錦草文 面孔手形符号	鐵道	鐵門	12C後~13C前	ハジキタノイ	28 30
275	井上和田不倒	小·中盤	20.4	13.9	3.7	雙面鏡子(底盤文)見底手按(2枚合併)底盤內墨文(底)	青島	測定	12C	くわんか手	28 30
276	ADH 2号	盤	9.6	—	—	織錦草文	鐵道	鐵門	12C後~13C前		28 30
277	ADH 2号	中國青花盤	10.5	5.8	6.1	雙面(3枚)山水文	中中型	鐵門	鐵道(鐵門)	鐵道(鐵門)	27 29
278	ADH 2号	小盤	—	4.4	—	山水文	中中型	鐵門	鐵道(鐵門)	鐵道(鐵門)	27 29
279	ADH 2号	中國青花盤	12.8	4.1	3.6	山水文 见底墨文	鐵	鐵門	12C後	鐵道(鐵門)	27 29
280	1号地	小盤	4.1	1.3	1.5	山水文	中中型	鐵門	鐵道		28 30
281	2号地 地磚	小盤	5.4	3.4	3.7	山水文	鐵道	鐵門	12C		28 30
282	3号地 3号地	蓋物	—	—	—	色彩(白·金)山水文	鐵道	鐵門	12C後半		28 30

表18 第9地点出土陶器觀察表(1)

Tab. 18 Notes on glazed ceramics at NM9(1)

表19 第9地点出土陶器观察表(2)

Tab. 19 Notes on glazed ceramics at NM9(2)

器物名	出土地点	器形	底径	高	文 带 环	施 胎	施 上	生地地	熟存年代	備 考	内
364 16号土坑 2号4层	大盆	—	17.0	—	带釉草叶纹(深绿色)	灰胎(灰陶质)	青白	带环 龙首	16C	灰瓦当出土	47 3
365 16号土坑 2号4层	小盆	—	—	6.1	灰胎(灰陶质)	灰胎(灰陶色)	中等	小猪足	16C 油灯	灰/火盆底/龙首	48 3
366 16号土坑 3号4层	中盆	24.5	—	—	灰胎(灰陶质)	灰胎(灰陶色)	中等	小猪足	16C 梅子	灰/火盆底/灰陶	48 3
367 16号土坑 3号4层	小盆	—	—	6.1	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环 龙首	16C	灰/火盆底/店名	47 3
368 16号土坑 3号4层	碟	31.4	8.0	17.2	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环 龙首	16C	灰/火盆底	48 3
369 16号土坑 3号4层	人形	22.6	8.4	5.3	带花鸟施加彩绘(深黄色)	灰胎(灰陶质)	青白	人面足	16C	灰/火盆底	47 3
370 16号土坑 3号4层	小中杯	—	17.0	—	—	灰胎(灰陶质)	青白	人面足	16C	灰/火盆底	47 3
371 16号土坑 3号4层	小中杯	13.9	4.9	3.2	达旦日(灰)	灰胎(灰陶质)	青白	大猪足	16C	灰/火盆底	47 3
372 16号土坑 3号4层	小 中盖	14.0	5.9	2.8	带从心底纹	灰胎(灰陶质)	青白	大猪足	16C	灰/火盆底	47 3
373 16号土坑 3号4层	小 中盖	13.8	6.1	3.4	—	灰胎(灰陶质)	中等	小猪足	16C	灰/火盆底	48 3
374 16号土坑 3号4层	小 中盖	—	—	—	灰胎(灰陶质)	青白	大猪足	16C	灰/火盆底	48 3	
375 16号土坑 3号4层	碗	9.4	3.5	2.3	—	灰胎(灰陶质)	青白	人面足	16C	灰/火盆底	48 3
376 16号土坑 3号4层	水盂	—	6.0	—	灰胎(灰陶质)	青白	小猪足	16C	灰/火盆底	48 3	
377 16号土坑 3号4层	小桶子	3.4	4.3	1.9	红陶(深褐色)/白(口)大修	灰胎(灰陶质)	青白	带环 龙首	16C	灰/火盆底	47 3
378 16号土坑 3号4层	碗	7.5	5.7	12.0	—	灰胎(灰陶质)	中等	小猪足	16C	灰/火盆底	47 3
379 16号土坑 3号4层	刮脸刮柄	—	—	—	灰胎(灰陶质)	青白	中等	小猪足	16C	灰/火盆底	47 3
380 16号土坑 3号4层	碟	9.0	—	—	灰胎(灰陶质/深裂口)	灰胎(灰陶质)	中等	大猪足	16C	灰/火盆底	48 3
381 16号土坑 3号4层	碟	8.4	3.9	6.0	灰胎(灰陶质)	青白	大猪足	16C	灰/火盆底	48 3	
382 16号土坑 3号4层	盖口	8.0	3.7	5.5	—	灰胎(灰陶质)	青白	人面足	16C	灰/火盆底	47 3
383 16号土坑 3号4层	小盆	8.5	3.7	2.6	—	灰胎(灰陶质)	青白	大猪足	16C	灰/火盆底	48 3
384 16号土坑 3号4层	大入-带环	11.7	5.9	7.2	—	灰胎(灰陶质)	青白	小猪足	16C	灰/火盆底	47 3
385 16号土坑 3号4层	刮脸	7.3	4.1	5.2	带施加彩绘(深黄色)	灰胎(灰陶质)	中等	大猪足	16C	灰/火盆底	47 3
386 16号土坑 3号4层	小杯	9.4	—	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	48 3	
387 16号土坑 3号4层	中型擦瓶	20.0	—	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	47 3	
388 16号土坑 3号4层	碗	5.9	4.2	9.7	灰胎(灰陶质)	青白	小猪足	16C	灰/火盆底	48 3	
389 16号土坑 3号4层	灰灰	7.2	2.3	10.0	带施加彩绘(深黄色)	灰胎(灰陶质)	中等	大猪足	16C	灰/火盆底	47 3
390 16号土坑 3号4层	盖	10.1	2.0	2.9	灰胎(灰陶质)	青白	大猪足	16C	灰/火盆底	48 3	
391 16号土坑 3号4层	盖	10.4	2.0	2.8	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	47 3	
392 16号土坑 3号4层	盖	4.0	—	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	48 3	
393 16号土坑 3号4层	合子(盖)	3.9	2.4	1.2	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	48 3	
394 16号土坑 3号4层	喝水人	16.1	13.6	4.0	灰胎(灰陶质)	青白	小猪足	16C	灰/火盆底	48 3	
395 16号土坑 3号4层	不坏	—	—	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	48 3	
396 16号土坑 3号4层	不坏	—	3.5	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	48 3	
397 16号土坑 3号4层	中型陶勺	9.2	3.0	5.5	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	48 3	
398 16号土坑 3号4层	中型陶勺	9.2	2.7	5.5	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	48 3	
399 16号土坑 3号4层	中型陶勺	—	—	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	48 3	
400 16号土坑 3号4层	中型陶勺	8.7	—	—	白(口)红陶	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	48 3
401 16号土坑 3号4层	人形先瓶	14.2	5.2	7.3	带施加彩绘(深黄色)	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	50 10
402 17号土坑 1号1层	中型陶勺	10.7	4.5	4.9	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	50 10
403 17号土坑 1号1层	小型先瓶	10.7	4.5	7.1	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	50 10
404 17号土坑 1号1层	中型先瓶	9.7	4.1	6.1	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	50 10	
405 17号土坑 1号1层	小型先瓶	—	4.4	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	50 10	
406 17号土坑 1号1层	中型擦瓶	11.2	4.6	5.4	带施加彩绘(深黄色)	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	50 10
407 17号土坑 1号1层	中型擦瓶	9.1	2.6	2.1	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	50 10	
408 17号土坑 1号1层	中型擦瓶	—	—	—	带施加彩绘(深黄色)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	50 10	
409 17号土坑 1号1层	小型先瓶	8.1	3.2	4.4	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	50 10
410 17号土坑 1号1层	小型先瓶	8.3	3.1	4.4	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	50 10
411 17号土坑 1号1层	小型先瓶	7.5	2.9	4.3	—	灰胎(灰陶质)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	50 10
412 17号土坑 1号1层	刮脸	—	—	—	带施加彩绘(深黄色)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	50 10	
413 17号土坑 1号1层	刮脸	34.2	—	—	带施加彩绘(深黄色)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	51 11	
414 17号土坑 1号1层	刮脸	—	—	—	带施加彩绘(深黄色)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	51 11	
415 17号土坑 1号1层	刮脸	—	—	—	带施加彩绘(深黄色)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	51 11	
416 17号土坑 1号1层	刮脸	—	—	—	带施加彩绘(深黄色)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	51 11	
417 17号土坑 1号1层	大盆	—	—	—	带施加彩绘(深黄色)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	51 11	
418 17号土坑 1号1层	人形	24.0	8.7	5.9	带施加彩绘(深黄色)	灰胎(灰陶质)	中等	大猪足	16C	灰/火盆底	50 10
419 17号土坑 1号1层	中-中	17.7	20.2	3.6	禹山(青)	禹山	带环?	16C	灰/火盆底	51 11	
420 17号土坑 1号1层	小-中	14.1	4.9	3.5	禹山(青)	禹山	带环?	16C	灰/火盆底	51 11	
421 17号土坑 1号1层	小-中	12.3	6.3	2.7	禹山(青)	禹山	带环?	16C	灰/火盆底	51 11	
422 大盆	—	—	—	—	禹山(青)	禹山	带环?	16C	灰/火盆底	51 11	
423 小型先瓶	刮脸	9.6	6.2	2.2	带施加彩绘(深黄色)	青白	中等	16C	灰/火盆底	51 11	
424 17号土坑 1号1层	盖	—	8.4	—	灰胎(灰陶色)	青白	带环?	16C	灰/火盆底	51 11	
425 17号土坑 1号1层	损伤不明	—	3.2	—	带施加彩绘(深黄色)	禹山(青)	带环?	16C	灰/火盆底	51 11	
426 17号土坑 1号1层	禹山(青)	—	—	—	禹山(青)	禹山	带环?	16C	灰/火盆底	50 10	
427 17号土坑 1号1层	禹山(青)	禹山	—	—	禹山(青)	禹山	带环?	16C	灰/火盆底	50 10	
428 17号土坑 1号1层	禹山(青)	禹山	—	—	禹山(青)	禹山	带环?	16C	灰/火盆底	50 10	
429 17号土坑 1号1层	禹山(青)	禹山	—	—	禹山(青)	禹山	带环?	16C	灰/火盆底	50 10	

表20 第9地点出土陶器观察表(3)

Tab. 20 Notes on glazed ceramics at NM9(3)

番号	出土地所	種類	口径	底面	文様等	施釉方法	施	胎	生高地	製作年代	備考	目
427	15号中房、窓櫻	小口	10.2	5.2	7.1 装飾(深褐色)文文	内施釉(底面白色)	内施	高	人面模造?	BC後		56 66
428	13号土器、灰面	小口器	5.6	4.4	8.9	施釉(底面白色)	中施	大腹細腰	BC後		51 6	
429	10号上房、櫻	盤	13.4	12.6	3.5 斜削(底面内)文文	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後		56 66
430	15号土器、櫻	盤	16.6	14.1	4.3	内施釉(底面白色)	中施	小厚	人面模造?	BC後		51 6
431	15号上房、櫻	小口?	5.8	2.8	2.9	内施釉(底面白色)	中施	小厚	人面模造?	BC後		51 6
432	15号土器、櫻	灰罐	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	小厚	人面模造?	BC後		51 6
433	15号上房、櫻	罐	2.8	-	0.3 装飾(深褐色)虎皮	内施釉(底面白色)	中施	小厚	人面模造?	BC後		51 6
434	15号土器、灰面	小・中口	2.7	-	斜削(底面内)圓圈(底面内)文文	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作、高台内窓	51 6
435	15-16号上房	盤	-	-	4.6	内施釉(底面白色)	中施	小厚	人面模造?	BC後		51 6
436	15号中房、櫻	碗	6.9	-	印花(文)(海螺文)	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後		44 5
437	15号中房、櫻	中腹丸陶	9.2	8.0	5.6 色點(白・金・金)とあわら文	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後		44 5
438	15号中房、櫻	人鉢	-	-	印花(文)(海螺文)	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後		44 5
439	15号中房、櫻	中口	-	-	印花(文)(海螺文)	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作、高台内窓	51 6
440	15号中房、櫻	小・中口	-	-	2.3	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作、高台内窓	51 6
441	灰罐	-	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作、高台内窓	51 6
442	13号土器、櫻?	中國火鍋	39.8	4.2	4.6	内施釉(底面白色)	中施	人面模造	BC後		52 6	
443	13号土器、櫻?	小口	26.1	10.7	14.4	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後?	先秦手作	52 6
444	3号土器、櫻?	大鉢	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	斜	人面模造?	BC後~13C前		52 6
445	13号土器、櫻?	縫合器	15.0	-	-	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	52 6
446	13号土器、櫻?	蓋	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	52 6
447	3号土器、櫻?	縫合器	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	52 6
448	12号土器、櫻?	人型火鍋	4.9	-	-	内施釉(底面白色)	中施	大腹細腰	BC後		52 6	
449	12号土器、櫻?	中腹圓陶	6.0	-	-	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後?	先秦手作	52 6
450	12号土器、櫻?	小口大腹	-	-	5.4	内施釉(底面白色)	中施	大腹細腰	BC後~13C前	先秦手作	52 6	
451	13号土器、櫻?	縫合器	28.4	16.0	14.8 縫合(縫合)	内施釉(底面白色)	中施	斜	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	52 6
452	22号土器、櫻?	瓶	-	-	3.9?	内施釉(底面白色)	中施	平	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	52 6
453	17号上房	甕	-	-	6.7?	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	52 6	
454	2号土器、櫻?	小柄?	-	-	3.3?	内施釉(底面白色)	中施	小脇?	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	44 5
455	7号土器、櫻?	甕	8.5	4.3	1.8	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
456	2号土器、櫻?	中腹	-	-	7.2	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
457	3号土器、櫻?	甕?	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
458	10号陶	人頭	-	-	-	内施釉(底面白色)背腹底?斜?	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
459	10号陶	器	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
460	8号土器、櫻?	器	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
461	2号中房、櫻?	小・中口	-	-	-	内施釉(底面内)川字	中施	人面模造(底面白色)	BC後		47 5	
462	2号中房、櫻?	瓶	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後		47 5	
463	2号中房、櫻?	小口	-	-	11.5	内施釉(底面内)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
464	2号中房、櫻?	水盆	6.0	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
465	3号中房、櫻?	大鉢	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
466	3号中房、櫻?	口鉢	13.4	-	-	内施釉(底面白色)斜?	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
467	3号中房、櫻?	甕?	-	-	-	内施釉(底面白色)浅L字形	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
468	2号中房、櫻?	灰坑?	4.5	-	-	内施釉(底面白色)浅L字形	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
469	櫻?	中腹丸陶	10.1	3.8	6.1	内施釉(底面白色)	中施	大腹細腰	BC後~13C前~一个	下斗過通、體身小?	47 5	
470	3号中房、櫻?	人鉢	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
471	4号中房、櫻?	大鉢	-	-	11.3	内施釉(底面白色)背腹底?	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
472	2号中房、櫻?	瓶	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
473	17号上房、櫻?	甕?	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
474	1号中房、櫻?	中口	-	-	4.9	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後?	先秦手作	47 5	
475	1号中房、櫻?	瓶小口	9.7	5.3	2.5	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
476	1号中房、櫻?	中腹	-	-	3.9	内施釉(底面白色)	中施	大腹細腰	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
477	1号中房、櫻?	甕?	6.6	3.2	2.1	内施釉(底面白色)	中施	大腹細腰	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
478	1号中房、櫻?	水盆	5.3	3.3	10.6	内施釉(底面白色)文文	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
479	1号中房、櫻?	小・中口	13.0	8.4	3.5	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
480	1号中房、櫻?	小口?	13.5	7.0	5.0	内施釉(底面白色)文文	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
481	1号中房、櫻?	小鉢	7.2	4.9	5.9	内施釉(底面白色)底?	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
482	1号中房、櫻?	小鉢	6.5	3.2	4.3	内施釉(底面白色)文文	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
483	1号中房、櫻?	小・中鉢	22.7	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
484	1号中房、櫻?	人鉢	26.2	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
485	1号中房、櫻?	人鉢?	26.8	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
486	1号中房、櫻?	瓶?	25.7	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
487	1号中房、櫻?	甕?	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
488	1号中房、櫻?	瓶?	-	-	-	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
489	1号中房、櫻?	瓶?	36.5	7.6	16.9	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	
490	1号中房、櫻?	瓶?	36.7	10.2	14.1	内施釉(底面白色)	中施	人面模造?	BC後~13C前	先秦手作	47 5	

表21 第9地点出土陶器觀察表(4)

Tab. 21 Notes on glazed ceramics at NM9(4)

地點	出土地點	性質	出處	器形	文	形狀	施	胎	生	燒	製	燒	
490	1号地 ②層	灰土层	—	—	—	—	灰釉(深灰色)	中空袋	大腹直筒	BC前~今	八角形口盆	58	
491	1号地 ③~④層	烧木灰	—	—	—	—	灰釉(深青色)	小口袋	大腹直筒	BC前~今	—	59	
492	1号地 ③~④層	小中空	—	6.4	—	—	灰釉(深青色)正本文	青釉	大腹直筒	BC前	灰陶 盆	59	
493	1号地 ③~④層	上碗(盒)	8.1	—	—	—	青釉	小口袋	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	60	
494	1号地 ③~④層	下碗(盒)	8.0	7.4	10.8	凸面圓弧形身身外	灰釉(灰青色)	带	大腹直筒	BC中	横幅:10.0(以直徑計)	61	
495	1号地 ③~④層	上碗(盒)	8.2	7.0	9.8	凸面圓弧形身身外	灰釉(灰青色)	带	大腹直筒	BC中	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
496	1号地 ③~④層	十字碗(盒)	7.7	—	—	—	灰釉(灰青色)	带	大腹直筒	BC中	入模實質	61	
497	1号地 ③~④層	土盒(盒)	6.1	—	—	—	灰釉(灰青色)	小口袋	大腹直筒	BC中	68と同一器物	61	
498	1号地 ③~④層	上碗(盒)	8.8	—	—	—	灰釉(灰青色)	小口袋	大腹直筒	BC中	68と同一器物	61	
499	1号地 ③~④層	土盒(盒)	5.8	—	—	—	灰釉(灰青色)	带	大腹直筒	BC中	—	61	
500	1号地 ③~④層	土盒(盒)	8.7	—	—	—	灰釉(灰青色)	带	大腹直筒	BC中	68と同一器物	61	
501	1号地 ③~④層	十字盒(盒)	8.9	7.2	10.6	—	灰釉(深青色)	小口袋	大腹直筒	BC中	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
502	1号地 ③~④層	土盒(盒)	10.0	—	2.7	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC中	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
503	1号地 ③~④層	上碗(盒)	7.5	—	—	—	灰釉(灰青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
504	1号地 ③~④層	下碗(盒)	7.2	—	—	—	灰釉(灰青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
505	1号地 ③~④層	杯	—	9.3	—	—	灰釉(灰青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
506	1号地 ③~④層	杯	—	6.7	—	—	灰釉(灰青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
507	1号地 ③~④層	杯	—	2.7	—	—	灰釉(灰青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
508	1号地 ③~④層	杯	—	5.5	—	—	灰釉(灰青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
509	1号地 ③~④層	水注	6.2	—	—	—	灰釉(深青色)	小口袋	大腹直筒	BC前~今	入模實質	61	
510	1号地 ③~④層	甕	—	18.2	4.0	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
511	1号地 ③~④層	甕	—	17.3	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
512	1号地 ③~④層	甕	—	4.4	2.4	2.1	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
513	1号地 ③~④層	甕	—	9.7	4.0	1.9	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
514	1号地 ③~④層	甕	—	5.1	3.0	1.5	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
515	1号地 ③~④層	罐	—	22.2	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
516	1号地 ③~④層	甕	—	20.2	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
517	1号地 ③~④層	罐	—	14.6	7.0	7.4	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
518	1号地 ③~④層	甕	—	12.4	9.8	7.5	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
519	1号地 ③~④層	罐	—	13.7	5.6	4.5	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
520	1号地 ③~④層	瓶	—	12.3	5.9	6.6	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
521	1号地 ③~④層	行子瓶	—	17.6	7.0	6.7	凸面圓弧形身身外	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61
522	1号地 ③~④層	青瓷罐	—	—	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
523	1号地 ③~④層	罐	—	21.0	5.4	4.8	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
524	1号地 ③~④層	青瓷罐	—	16.7	6.3	5.3	凸面圓弧形身身外	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61
525	1号地 ③~④層	行子瓶	—	16.3	4.4	3.9	凸面圓弧形身身外	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61
526	1号地 ③~④層	青瓷罐	—	18.2	4.3	3.3	凸面圓弧形身身外	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61
527	1号地 ③~④層	青瓷罐	—	16.1	6.1	3.2	凸面圓弧形身身外	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61
528	1号地 ③~④層	行子瓶	—	16.0	4.7	3.2	凸面圓弧形身身外	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61
529	1号地 ③~④層	青瓷罐	—	16.3	6.3	5.8	斜掛耳斜腹	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61
530	1号地 ③~④層	瓶	—	6.2	6.2	5.3	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
531	1号地 ③~④層	青瓷罐	—	11.0	8.1	3.6	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
532	1号地 ③~④層	罐	—	12.0	9.3	5.9	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
533	1号地 ③~④層	渣	—	—	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
534	1号地 ③~④層	瓶	—	—	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
535	1号地 ③~④層	中空	—	11.5	4.8	5.5	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
536	1号地 ③~④層	小碟	—	9.2	5.3	3.6	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
537	1号地 ③~④層	小口碟	—	7.0	—	—	白胎灰(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	入模實質	61	
538	1号地 ③~④層	小口杯	—	7.8	6.1	5.1	白胎灰(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
539	1号地 ③~④層	小口盒	—	9.9	6.1	2.0	白胎灰(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
540	1号地 ③~④層	小口盒	—	13.5	5.6	3.9	白胎灰(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
541	1号地 ③~④層	土盒(盒)	—	7.0	—	—	青釉	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
542	1号地 ③~④層	一號(盒)	—	5.5	5.8	—	青釉	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
543	1号地 ③~④層	二號(盒)	—	7.6	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
544	大窑	—	—	—	—	—	青釉	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
545	1号地 ③~④層	十號(盒)	8.8	—	—	—	灰釉(深青色)花口	带	大腹直筒	BC前~今	入模實質	61	
546	1号地 ③~④層	十一號(盒)	8.4	9.0	12.0	凸面圓弧形身身外	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	本底:7.5 横幅:10.0(以直徑計)	61	
547	1号地 ③~④層	九號(盒)	7.6	—	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	入模實質	61	
548	1号地 ③~④層	土盒(盒)	7.7	—	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	入模實質	61	
549	1号地 ③~④層	土盒(盒)	7.9	—	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	入模實質	61	
550	1号地 ③~④層	土盒(盒)	7.7	—	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	入模實質	61	
551	1号地 ③~④層	一號(盒)	8.8	—	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	入模實質	61	
552	1号地 ③~④層	大盒(盒)	8.3	—	—	—	灰釉(深青色)	带	大腹直筒	BC前~今	入模實質	61	

表22 第9地点出土陶器觀察表(5)

Tab. 22 Notes on glazed ceramics at NM9(5)

器物	玉 土 布 方	地 颜	底 颜	施 色	文 样 等	和 夏	贴 二	主 漆 料	制作年代	集 号	说 明
532 1号地 400层	青州	—	—	绿釉	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 后~中	63	51	
534 1号地 400层	黄州	—	5.4	—	绿釉	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中	64	52
535 1号地 400层	永州	5.6	2.5	2.1	—	绿釉	绿釉	19C 中	64	53	
536 1号地 400层	行平湖(舟)	16.9	7.5	1.8	绿釉	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 后~中	65	52
537 1号地 400层	行平湖(舟)	16.9	7.5	1.8	绿釉	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 后~中	65	52
538 1号地 400层	土质(舟)	2.2	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 后~中	65	52	
539 1号地 400层	400(舟)	2.9	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中	62	51	
540 1号地 400层	土质	17.9	7.8	1.5	绿釉	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 后~中	66	52
541 1号地 400层	玻璃	12.3	19.1	—	绿釉	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中	62	51
542 1号地 400层	玻璃	13.8	18.8	—	绿釉	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中	62	52
543 1号地 400层	小平底	12.9	5.7	3.7	绿釉	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中	63	51
544 1号地 400层	尖底	37.5	11.2	7.9	内绘线	绿釉	绿釉	19C	63	51	
545 1号地 400层	小平底	13.1	4.9	6.8	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中	66	52	
546 1号地 400层	瓶盖	—	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	67	51	
547 1号地 400层	土改(舟)	7.2	—	2.7	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	68	51	
548 1号地 400层	灰土	37.3	12.4	11.1	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
549 1号地 400层	打底料	9.9	3.6	2.1	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
550 1号地 400层	玻璃	4.3	3.9	7.1	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C	67	51	
571 ADP 3+层	小碗	10.6	2.9	4.6	灰釉	灰釉(深灰色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	68	51
572 AGI 2+层	中碗	12.0	4.1	4.3	绿釉	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51
573 AII 3+层	小碗	9.5	—	—	白釉(?)	白釉(深灰色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51
574 ART 3+层	小平底	26.9	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	68	51	
575 ACS 3+层	带盖瓶	—	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
576 ACS 3+层	瓶盖	—	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
577 ADJ 3+层	小平底	16.9	8.8	7.6	灰釉	灰釉(深灰色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51
578 ADJ 3+层	小平底	16.9	5.0	2.1	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
579 ADJ 3+层	小平底	16.2	6.7	4.1	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
579 ADK 3+层	小平底	6.9	6.8	12.8	灰釉	灰釉(深灰色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51
580 AFJ 3+层	土改(舟)	9.0	8.8	12.9	D泥质(深灰色)上绘墨花	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
581 ACH 3+层	土改(舟)	8.2	—	—	D泥质(深灰色)山字形刻花	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
582 ADJ 3+层	小碗	—	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
583 ADJ 3+层	碗	4.9	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
584 ART 3+层	罐	16.1	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
585 ADP 3+层	性	16.8	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
586 ADW 3+层	罐	—	5.8	6.3	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
587 ADJ 3+层	平底瓶	17.1	8.9	7.5	绿釉	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51
588 1号地 2层	小平底	13.5	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
589 2号地 30层	中碗	10.7	4.2	5.8	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
590 2号地 30层	中碗	—	—	—	白釉(深灰色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
591 2号地 30层	小平底	24.8	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
592 2号地 30层	小平底	12.4	4.0	1.7	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
593 2号地 30层	十字	9.4	7.3	9.3	白釉(深灰色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
594 2号地 30层	中碗	13.5	5.1	6.1	白釉(深灰色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
595 2号地 30层	小碗	7.0	3.0	3.9	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
596 2号地 30层	小碗	6.2	2.8	3.5	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
597 2号地 30层	小碗	6.9	2.8	3.5	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
598 2号地 30层	小平底	—	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
599 2号地 30层	小平底	—	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
600 2号地 30层	瓶盖	—	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
601 2号地 30层	盖	—	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
602 2号地 30层	盖	7.2	—	1.5	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
603 2号地 30层	盖	6.5	4.3	2.0	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
604 2号地 30层	十瓶	—	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
605 2号地 30层	中型灰陶	12.9	4.9	5.6	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
606 2号地 30层	小型灰陶	10.1	4.5	5.8	白釉(深灰色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
607 2号地 30层	小型灰陶	12.1	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
608 2号地 30层	盖	26.9	12.8	17.0	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
609 2号地 30层	小平底	10.8	4.6	4.3	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
610 2号地 30层	瓶	—	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
611 2号地 30层	瓶	—	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
612 ADP 3+层	小碗	12.1	5.1	6.0	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
613 ADP 3+层	中型灰陶	7.4	4.1	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
614 AGI 3+层	小碗	—	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	
615 AFQ 3+层	盖	55.3	—	—	绿釉(深绿色)	中子口	大腹圆底	19C 中~19C 初	69	51	

表23 第9地点出土陶器观察表(6)

Tab. 23 Notes on glazed ceramics at NM9(6)

地层	出 土 物 品	基 质	厂 保 瓷 底	釉 颜 色	文 样 字	胎 质	新 + 旧	烧 成 温 度	制 作 年 代	序 号	图	
616	AP5 3号	小 中 盆	9.3	—	凸沿带盖盒 台面磨毛纹	灰胎(灰黑灰色)	中+老	中等	17C 白	带盖 凸沿带盒口盆	57 46	
617	AP5 3号	碗	36.0	—	划花文	灰胎(灰白胎)	中+老	中等	18C 末~19C 白	57 47		
618	AP5 3号	盘	6.0	6.0	1.8	玻璃胎	玻璃胎(深绿色)	中等	普通	18C 末~19C 白	57 48	
619	AP7 3号	碗	—	—	—	玻璃胎(深绿色)	中等	普通	18C 末~19C 白	57 49		
620	AP7 3号	盖和碗	8.2	—	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	18C 中	57 50		
621	1号地 M6过场	土碗(合)	8.3	8.2	12.1	—	有釉	中等	大腹圆底	19C 末~20C 白	58 47	
622	1号地 M6过场	土碗(合)	30.2	—	—	有釉(浅黄色)	玻璃胎(深白色)	普通	19C 中	58 48		
623	1号地 M6过场	土碗(合)	9.1	—	—	青釉	青釉	中等	大腹圆底	19C 白~中	58 49	
624	1号地 M6过场	青釉碗	16.2	4.5	2.7	模印(图案底)	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 50	
625	1号地 M6过场	模印口	5.7	4.7	2.6	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 51	
626	1号地 M6过场	中型模印碗	9.8	3.7	3.4	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 52	
627	1号地 M6过场	小型模印	5.4	2.6	2.1	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 53	
628	1号地 M6过场	小 中 盆	9.7	3.0	2.2	模印(图案底)	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 54	
629	1号地 M6过场	中 盆(合)	8.8	2.7	1.9	灰胎(灰白色)	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 55	
630	1号地 M6过场	打孔器	17.2	7.7	8.1	模印(图案底)(深绿色)	灰胎(灰白色)	中等	大腹圆底	19C 中	58 56	
631	1号地 M6过场	青釉碗	24.6	8.0	10.6	模印(图案底)青釉	灰胎(灰白色)	普通	大腹圆底	19C 白	58 57	
632	1号地 M6过场	打孔器(合)	11.9	3.4	2.7	模印(图案底)(深绿色)	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 中	58 58	
633	1号地 M6过场	网状口	2.5	—	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	大腹圆底	19C 白~中	58 59	
634	1号地 M6过场	土碗(合)	9.4	—	2.0	灰胎(灰白色)	中等	中等	大腹圆底	19C 白~中	58 60	
635	1号地 M6过场	盖	16.6	—	—	模印(图案底)	中等	中等	19C 白~中	58 61		
636	1号地 M6过场	火盆	30.4	—	—	划花文	外模印(图案底)	背脊	大腹圆底	19C 白~中	58 62	
637	1号地 M6过场	陶灰	—	—	—	—	模印(图案底)	普通	中等	19C 白~中	58 63	
638	1号地 M6过场	灰胎碗	—	5.0	—	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	大腹圆底	19C 白~19C 白	58 64
639	1号地 M6过场	盖和碗	9.3	6.9	1.5	模印(图案底)青釉 灰胎(灰白色)	灰胎(灰白色)	中等	19C 白~19C 白	58 65		
640	1号地 M6过场	盖和碗(合)	2.2	—	1.5	点点纹	点点纹	中等	中等	19C 白~19C 白	58 66	
641	1号地 M6过场	可乐	4.2	2.2	3.1	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 67	
642	1号地 M6过场	中型灰碗	11.3	—	—	刮削纹(灰白色)	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 68	
643	1号地 M6过场	大盆	35.6	—	—	模印(图案底)	灰胎(灰白色)	中等	大腹圆底	19C 白~中	58 69	
644	1号地 M6过场	土碗(合)	7.0	—	1.6	—	模印(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 70	
645	1号地 M6过场	红陶豆皿	9.3	4.7	4.9	—	模印(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 71	
646	1号地 M6过场	小瓶	7.7	3.3	4.2	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~19C 白	58 72	
647	1号地 M6过场	网状	36.1	—	—	—	模印(图案底)	中等	中等	19C 白~中	58 73	
648	1号地 M6过场	砾石碗	15.8	8.7	6.0	模印(图案底)	中等	中等	19C 白~中	58 74		
649	1号地 M6过场	打孔器壁	30.1	4.5	5.4	—	模印(图案底)	中等	中等	19C 白~中	58 75	
650	1号地 M6过场	盖	4.8	7.0	—	模印(浅灰色)	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 76	
651	1号地 M6过场	盖	6.4	—	—	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 77	
652	1号地 M6过场	碗	—	—	—	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 78	
653	1号地 M6过场	盖	9.6	—	—	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 79	
654	1号地 M6过场	中型灰碗	12.3	—	—	模印(图案底)纹	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~19C 白	58 80	
655	1号地 M6过场	中型灰碗	9.3	3.0	6.1	模印(灰白色) 灰胎(灰白色)	模印(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 81	
656	1号地 M6过场	上碗(合)	8.3	—	—	模印(图案底)灰胎(灰白色)	模印(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 82	
657	1号地 M6过场	碗	7.3	—	—	模印(图案底)	模印(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 83	
658	1号地 M6过场	打孔器	6.6	3.2	2.1	—	模印(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 84	
659	1号地 M6过场	手执(合)	—	—	—	凸沿带盖盒	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 85	
660	1号地 M6过场	盖	3.4	—	1.3	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 86	
661	1号地 M6过场	砂轮	—	—	—	—	面糊(深绿色)	中等	中等	19C 白~中	58 87	
662	AHS 3号	陶罐	3.6	—	8.0	—	新砂轮(深绿色)	中等	中等	19C 白~中	58 88	
663	AP5 3号	上碗(合)	9.6	6.7	6.6	青釉模印模绘纹	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 89	
664	AP5 3号	小 中 盆	21.8	—	—	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 90	
665	AP5 3号	碗	—	9.7	—	—	模印(深绿色)	中等	中等	19C 白~中	58 91	
666	AC3 3号	小碗	—	—	—	模印文	模印(深绿色)	中等	中等	19C 白~中	58 92	
667	AP5 3号	罐	—	—	—	—	模印(深绿色)	中等	中等	19C 白~中	58 93	
668	AHS 3号	瓶子	9.6	4.9	1.0	青釉模印模绘文	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~19C 白	58 94	
669	AGH 3号	小 中 盆	11.8	—	—	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 95	
670	AGT 3号	上碗(合)	11.8	7.2	3.0	青釉模印模绘文 花花草	浇口	中等	大腹圆底	19C 中	58 96	
671	AH4 2号	土碗(合)	8.7	—	2.0	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 97	
672	AP7 3号	瓶(合)	3.5	—	—	模印(深绿色)(深绿色)	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 98	
673	AHS 2号	打孔器	5.6	4.2	1.8	—	新砂轮(深绿色)	中等	中等	19C 白~中	58 99	
674	AB5 2号	瓦碗	5.1	3.1	6.6	—	模印(深绿色)	中等	中等	19C 白~中	58 100	
675	AB5 2号	土碗	—	—	8.0	—	模印(深绿色)	中等	中等	19C 白~中	58 101	
676	AB5 2号	瓦碗	6.2	1.7	5.1	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 102	
677	AHS 2号	盒子	4.0	3.9	1.3	—	灰胎(灰白色)	中等	中等	19C 白~中	58 103	
678	AB5 2号	瓦罐	—	5.0	—	模印(深绿色)	中等	中等	19C 白~中	58 104		
679	便 杯	中碗	—	5.0	—	模印(深绿色)	中等	中等	19C 白~中	58 105		

表24 第9地点出土陶器観察表(7)

Tab. 24 Notes on glazed ceramics at NM9(7)

番号	出土地所	器種	口径	底径	高さ	文様等	施釉	片手	生産地	製作年代	参考	図	
450	虎丸	土窯(直)	3.5	7.5	2.7	鉢形(淡褐色)直縁と輪足	釉無(器口凸)	手	人地地鳥	19C 中	G2 2 手 368	49	
451	虎丸	土窯(直)	7.5	—	2.4	円筒形直火口内化粧	青白釉	手	大正初期	19C 中	49	50	
452	107号	直縁	—	—	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C	49	50
453	10号窯	直縁	—	—	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C	49	50
454	1号窯 田山一郎作	土窯(直)	7.2	1.7	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C	49	50
455	1号窯 田山一郎作	直縁	—	—	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C	49	50
456	1号窯	直縁	6.8	—	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C 末~18C 初	49	50
457	小町	直縁	—	5.5	—	—	青白釉	手	手	明治~大正	17C 末	49	50
458	不規	直縁	—	—	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C	49	50
459	小町	直縁	—	—	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C	49	50
460	越後守屋作	直縁	—	—	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C	49	50
461	寺地 井上作	直縁	6.8	—	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C 末	49	50
462	14号窯 Pissé	人作(直火人)	—	—	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C	61	62
463	16号窯 田山一郎作	土窯(直)	1.8	—	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C	61	62
464	15号窯 田山一郎作	人形(直)	—	—	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C	61	62
465	15号窯 田山一郎作	人形(直)	—	—	—	—	青釉(淡褐色)	手	手	明治~大正	17C	61	62
466	1号窯 横山作	直縁	2.0	5.5	—	青釉(淡褐色)	手	手	手	明治~大正	17C	61	62

表25 第9地点出土土製品観察表

Tab. 25 Notes on clay objects at NM9

番号	出土地所	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	図
906	16号土器	人形(直)	高 3.0	3.5	2.3	丸形 平底 通風孔により排水を実現	丸形	平底	—	—	—	56
907	16号土器	人形(直)	—	—	—	丸形 中空の部分に穿孔 1 手づくね	丸形	中空	—	—	—	56
908	12号土器	直縁	高 14.0	7.3	7.3	—	直縁	中空	—	—	—	56
909	2号土器	直縁	人形(直)	高 4.2	5.5	2.6	直縁 石灰灰化物 手作り	直縁	石灰灰化物	手作り	—	57
910	2号土器	直縁	人形(直)	—	2.8	—	直縁 石灰灰化物 手作り	直縁	石灰灰化物	手作り	—	57
911	2号土器	直縁	人形(直)	—	—	—	直縁 石灰灰化物 手作り	直縁	石灰灰化物	手作り	—	57
912	2号土器	直縁	人形(直)	高 2.1	2.6	5.2	直縁 石灰灰化物 手作り	直縁	石灰灰化物	手作り	—	57
913	2号土器	直縁	人形(直)	高 2.3	2.1	2.0	直縁 石灰灰化物 手作り	直縁	石灰灰化物	手作り	—	57
914	15号土器	直縁	人形(直)	高 2.1	1.9	1.9	直縁 石灰灰化物 手作り	直縁	石灰灰化物	手作り	—	57
915	15号土器	直縁	人形(直)	—	—	—	人手分の土器(直縁) 青釉・尾足直 中空 手作り	人手分の土器(直縁)	青釉・尾足直	中空 手作り	—	57
916	3号土器	直縁	人形(直)	高 3.3	3.6	—	人手分の土器(直縁) 青釉・尾足直 中空 手作り	人手分の土器(直縁)	青釉・尾足直	中空 手作り	—	57
917	2号土器	直縁	直縁土器	系袋 3.8	3.7	—	人手分の土器(直縁) 青釉・尾足直 中空 手作り	人手分の土器(直縁)	青釉・尾足直	中空 手作り	—	57
918	13号土器	直縁	円盤形多孔性	長径 6.2	4.0	—	花瓶状の状態で発見し 青釉灰化物 1/5 次焼	花瓶状	青釉灰化物	1/5 次焼	—	57
919	14号土器	直縁	人形(直)	—	2.7	—	青釉灰化物 中空 色褪せ 灰化物に墨丸	青釉灰化物	中空	色褪せ 灰化物に墨丸	—	57
920	3号土器	直縁	人形(女性)	—	5.2	3.2	青釉灰化物 小型 直火 手作り	青釉灰化物	小型	直火 手作り	—	57
921	3号土器	直縁	人形(直)	—	—	—	青釉灰化物 小型 タコの巣状 手作り	青釉灰化物	小型	タコの巣状 手作り	—	57
922	12号土器	直縁	人形(直)	2.5	2.1	2.0	立脚 中空 小型直火	立脚	中空	小型直火	—	57
923	11号土器	直縁	人形(直)	—	—	—	青釉灰化物 乳頭状 手作り	青釉灰化物	乳頭状	手作り	—	57
924	AB1 1号	人形	—	—	—	—	青釉灰化物 小型 直火 手作り	青釉灰化物	小型	直火 手作り	—	57
925	AB1 3号	人形	—	—	—	—	青釉灰化物 小型 直火 手作り	青釉灰化物	小型	直火 手作り	—	57
926	AB1 4号	人形	—	—	—	—	青釉灰化物 小型 直火 手作り	青釉灰化物	小型	直火 手作り	—	57
927	AB1 4号	人形(大)	—	4.5	4.7	2.1	青釉灰化物 手作り	青釉灰化物	手作り	手作り	—	57
928	AB1 4号	人形(直)	高 3.5	—	—	—	手作り 本体は鉄錆を被っていたと考えられる	手作り	本体	鉄錆を被っていたと考えられる	—	57
929	AB1 3号	人形	—	—	—	—	青釉灰化物 手作り	青釉灰化物	手作り	手作り	—	57
930	AB1 3号	人形(直)	—	—	—	—	青釉灰化物 手作り	青釉灰化物	手作り	手作り	—	57
931	1号土器	直縁	瓶	2.6	2.1	2.1	青釉 瓶 内底に土	青釉	内底に土	—	—	57
932	2号土器	直縁	人形(直)	—	—	—	青釉 瓶 内底に土	青釉	内底に土	—	—	57
933	JGE 10号	人形(直)	—	—	—	—	青釉 瓶 内底に土	青釉	内底に土	—	—	57
934	JGE 10号	瓶	3.1	—	2.6	—	青釉 瓶 内底に土	青釉	内底に土	—	—	57
935	1号土器	直縁	人形(直)	—	—	—	青釉 瓶 内底に土	青釉	内底に土	—	—	57
936	1号土器	直縁	人形(直)	高 3.1	—	—	青釉 瓶 内底に土	青釉	内底に土	—	—	57

表26 第9地点出土師質土器皿觀察表(1)
Tab. 26 Notes on ceramic plates at NM9(1)

番号	出土地点	口径 (cm)	厚度 (mm)	形状	式	寸法	断面	断面形状	備考	測定
701	AG5 田中	5.7	3.0	1.8	ワタリナード	ハクナード	円柱形	右	内壁	70 55
702	AF5 田中	9.3	5.7	2.1	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	70 55
703	AF5 田中	10.3	5.8	2.3	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁外側	70 55
704	AB5 田中	11.9	6.7	2.0	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	70 55
705	16号地 磐2号	14.3	7.2	3.3	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	70 55
706	AF5-AG5 田中	14.9	7.5	3.3	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	70 55
707	文書									
708	AB4 7号 地 ACK 7号	7.1	—	—	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	70 55
720	16号地 磐2号	4.9	3.1	1.6	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	71 55
721	16号地 磐2号	5.6	3.7	1.8	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	71 55
724	16号地 磐2号	4.3	4.1	2.0	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	71 55
725	16号地 磐2号	7.6	4.8	2.1	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	71 55
726	16号地 磐2号	9.9	5.1	2.3	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	71 55
727	16号地 磐2号	9.6	5.1	2.2	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	71 55
728	16号地 磐2号	8.7	4.6	2.1	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	71 55
729	16号地 磐2号	10.7	6.2	2.8	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	71 55
730	16号地 磐2号	12.8	6.6	2.8	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	71 55
731	16号地 磐2号	11.5	6.3	2.7	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	71 55
732	16号地 磐2号	11.7	6.4	2.4	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
733	16号地 磐2号	11.7	6.1	2.5	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
734	16号地 磐2号	11.5	6.8	2.8	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
735	16号地 磐2号	12.8	7.2	2.8	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
736	16号地 磐2号	12.1	7.0	2.6	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
737	16号地 磐2号	12.2	7.0	2.6	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
738	16号地 磐2号	11.7	6.3	2.7	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
739	16号地 磐2号	15.2	7.5	2.7	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
740	16号地 磐2号	12.6	8.0	2.2	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
741	16号地 磐2号	13.1	6.8	3.1	ワタリナード	ハクナード	円柱形	右	内壁内側	72 55
742	16号地 磐2号	14.0	7.0	3.2	ワタリナード	ハクナード	円柱形	右	内壁内側	72 55
743	16号地 磐2号	12.6	8.1	3.0	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
744	16号地 磐2号	14.2	8.0	2.8	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
745	16号地 磐2号	12.6	8.8	2.8	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
746	16号地 磐2号	12.1	5.9	2.5	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
747	16号地 磐2号	20.6	12.5	4.2	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
748	16号地 磐2号	18.9	11.6	3.8	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
749	16号地 磐2号	22.8	14.0	4.5	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
750	16号地 磐2号	9.8	6.1	2.0	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
751	16号地 磐2号	11.2	6.4	2.2	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
752	16号地 磐2号	11.2	6.2	2.7	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
753	16号地 磐2号	14.0	6.6	2.7	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
754	16号地 磐2号	15.1	6.6	2.9	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
755	16号地 磐2号	12.6	8.8	2.8	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
756	16号地 磐2号	12.1	5.9	2.5	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
757	16号地 磐2号	12.2	6.2	2.7	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
758	16号地 磐2号	7.1	4.0	1.6	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
759	16号地 磐2号	8.3	4.7	2.0	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
760	16号地 磐2号	11.2	6.2	2.5	ワタリナード	ハクナード	円柱形	左	内壁内側	72 55
761	16号地 磐2号	4.3	2.4	1.9	ワタリナード	ハクナード	圓筒形	左	内壁内側	72 55
762	16号地 磐2号	5.2	3.7	1.5	ワタリナード	ハクナード	圓筒形	左	内壁内側	72 55
763	16号地 磐2号	7.1	4.0	1.6	ワタリナード	ハクナード	圓筒形	左	内壁内側	72 55
764	16号地 磐2号	8.3	4.7	2.0	ワタリナード	ハクナード	圓筒形	左	内壁内側	72 55
765	16号地 磐2号	11.2	6.2	2.5	ワタリナード	ハクナード	圓筒形	左	内壁内側	72 55
766	16号地 磐2号	11.8	6.2	2.7	ワタリナード	ハクナード	圓筒形	左	内壁内側	72 55
767	16号地 磐2号	12.2	6.2	2.5	ワタリナード	ハクナード	圓筒形	左	内壁内側	72 55
768	16号地 磐2号	12.1	6.2	2.1	ワタリナード	ハクナード	圓筒形	左	内壁内側	72 55
769	16号地 磐2号	15.8	7.1	2.8	ワタリナード	ハクナード	圓筒形	左	内壁内側	72 55
770	16号地 磐2号	13.3	6.8	2.1	ワタリナード	ハクナード	圓筒形	左	内壁内側	72 55
771	16号地 磐2号	10.1	6.1	2.3	ワタリナード	ハクナード	圓筒形	左	内壁内側	72 55
772	16号地 磐2号	20.4	14.6	4.1	ワタリナード	ハクナード	圓筒形	左	内壁内側	72 55
773	16号地 磐2号	8.9	5.8	1.5	ワタリナード	ハクナード	不規則	左	内壁内側	72 55
774	16号地 磐2号	9.9	5.2	1.8	ワタリナード	ハクナード	不規則	左	内壁内側	72 55
775	16号地 磐2号	11.2	6.6	2.5	ワタリナード	ハクナード	不規則	左	内壁内側	72 55
776	16号地 磐2号	11.2	6.8	2.8	ワタリナード	ハクナード	不規則	左	内壁内側	72 55
777	16号地 磐2号	11.6	6.9	2.8	ワタリナード	ハクナード	不規則	左	内壁内側	72 55
778	16号地 磐2号	4.9	2.4	2.1	ワタリナード	ハクナード	不規則	左	内壁内側	72 55
779	16号地 磐2号	9.6	4.4	2.6	ワタリナード	ハクナード	不規則	左	内壁内側	72 55
780	16号地 磐2号	10.8	6.3	2.4	ワタリナード	ハクナード	不規則	左	内壁内側	72 55
781	6-12号上式	11.9	7.1	2.4	ワタリナード	ハクナード	不規則	左	内壁内側	72 55

表27 第9地点出土土器質観察表(2)
Tab. 27 Notes on ceramic plates at NM9(2)

番号	地 点	内寸 (cm)	外寸 (cm)	形	内面 外面	特徴	出発物質	化粧物質	被 考	記 号	通 号
801	12号土坑	13.7	6.1	2.8	セラミック	ロフナダ	田舎町切削済み	右	山型		78 46
802	12号土坑	11.2	6.3	2.4	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		78 48
803	12号土坑	20.0	14.0	3.9	セラミック	セラミック	セラミック	左	内面底部		78 47
804	13号土坑	11.4	—	—	セラミック	セラミック	下削	左	山型		78 45
805	13号土坑	11.9	6.9	3.0	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	外間に山型		84 55
806	17号土坑	11.1	6.5	3.7	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		78 45
807	17号土坑	13.5	7.7	3.1	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		84 45
808	7号土坑	12.5	7.1	2.0	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右	山型		84 45
809	2号土坑	13.5	7.6	2.8	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		84 45
810	12号土坑	5.4	3.4	2.2	小皿	平削		不規	山型		71 27
811	1号土坑	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	不規	内面底部	内面に山型	84 45
812	1号土坑	6.5	4.4	2.0	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右	山型		84 45
813	13号土坑	11.7	6.9	2.6	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右			84 45
814	13号土坑	11.4	6.2	2.4	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左			78 45
815	AB5 3c 盒	3.9	3.3	1.5	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右			88 62
816	AB5 3c 盒	8.5	4.5	2.1	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左			88 62
817	AC7 3c 盒	9.0	5.1	2.5	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		88 62
818	13号土坑	10.9	6.1	2.3	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左			78 45
819	AB5 3c 盒	11.8	6.7	2.9	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	内面山型		88 62
820	AB7 3c 盒	13.8	7.8	3.7	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左			88 62
821	AB7 3c 盒	13.2	8.1	2.6	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左			88 62
822	13号土坑	13.0	7.6	3.5	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		78 45
823	13号土坑	13.4	8.6	2.1	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		78 45
824	13号土坑	13.2	8.9	2.1	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		78 45
825	1号土坑	18.2	12.5	6.1	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		81 45
826	1号土坑	18.8	7.3	3.2	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
827	1号土坑	10.9	5.8	3.3	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
828	1号土坑	10.7	6.0	2.4	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右	山型		81 45
829	1号土坑	13.3	7.8	2.8	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
830	1号土坑	12.9	7.6	3.6	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右	山型		81 45
831	1号土坑	13.2	7.5	2.3	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右	山型		81 45
832	AB5 3c 盒	6.6	3.8	1.6	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右			88 62
833	AB5 3c 盒	10.5	6.1	2.1	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右			88 62
834	AB7 3c 盒	11.1	6.6	2.3	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	内面底部		88 62
835	2号土坑	12.4	8.0	3.2	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右			78 45
836	2号土坑	12.0	8.0	3.6	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	一端		78 45
837	2号土坑	11.6	8.6	2.1	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右			78 45
838	2号土坑	12.4	9.3	2.1	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右			84 45
839	1号土坑	16.7	11.9	3.2	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	右			81 45
840	1号土坑	18.3	—	—	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		81 45
841	1号土坑	16.9	6.3	1.6	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		81 45
842	1号土坑	9.7	5.5	1.6	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		81 45
843	1号土坑	19.8	14.8	2.3	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		81 45
844	1号土坑	9.0	5.1	1.6	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		81 45
845	1号土坑	12.8	8.5	2.5	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		81 45
846	1号土坑	11.5	6.7	2.6	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		81 45
847	1号土坑	19.9	13.1	3.1	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		81 45
848	1号土坑	7.6	4.9	1.4	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		81 45
849	2号土坑	10.0	5.1	1.8	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		78 45
850	2号土坑	13.9	7.6	2.0	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		78 45
851	2号土坑	13.9	9.7	2.4	セラミック	セラミック	セラミック	左	山型		78 45
852	AB5 3c 盒	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	内面底部	内面に山型	88 62
853	1号土坑	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
854	AB5 3c 盒	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
855	1号土坑	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
856	1号土坑	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
857	1号土坑	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
858	1号土坑	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
859	AB5 3c 盒	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
860	AB5 3c 盒	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
861	AB5 3c 盒	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
862	AB5 3c 盒	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45
863	AB5 3c 盒	—	—	—	セラミック	セラミック	田舎町切削済み	左	山型		81 45

表28 第9地点出土その他の土師質土器・瓦質土器観察表(1)

Tab. 28 Notes on various ceramics at NM9(1)

番号	出土地点	性種	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	目次 号
209	AG5 6号	子供土器 空瓶	4.4	2.9	1.8	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1) 石中に炭化物散在
210	AP4 5号	土質土器 瓶	—	5.4	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
211	AG1 6号	土質土器 烹飯器	5.6	5.7	8.1	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
212	AG4 7号・d級	土質土器 瓶	4.4	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
213	AD1 7号・d級	土質土器 烹飯器	5.3	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
214	AD1 6号 AG5 6号	土質土器 瓶	6.2	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
215	AD1 7号	土質土器 烹飯器	3.4	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
216	AD4 7号 AG5 7号	土質土器 烹飯器	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
217	16号標 301号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
218	16号標 AD5 14号	死滅土器 光沢	3.2	9.0	9.6	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
219	AP3 5号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
220	T-1号	死滅土器 不透明	9.2	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
221	AB7 5号	丸底土器 瓶	—	2.4	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
222	16号標 302号	土質土器 瓶	4.0	2.7	3.9	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
223	16号標 303号	土質土器 瓶	4.5	2.1	5.3	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
224	16号標 304号	土質土器 チップ	9.4	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
225	16号標 305号	土質土器 小瓶	1.9	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
226	16号標 306号・d級	土質土器 瓶	7.0	5.1	5.6	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
227	16号標 307号・d級	土質土器 瓶	5.5	4.6	4.3	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
228	16号標 308号	土質土器 瓶	6.2	8.7	0.9	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1) 正面に呂宋文 舟形文 此器のみ
229	16号標 309号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
230	16号標 310号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
231	16号標 311号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
232	16号標 312号	土質土器 瓶	2.5	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
233	16号標 313号	土質土器 瓶	—	16.2	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
234	16号標 314号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
235	16号標 315号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
236	16号標 316号	死滅土器 不透明	7.4	3.2	3.3	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
237	16号標 317号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
238	16号標 318号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
239	16号標 319号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
240	16号標 320号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
241	16号標 321号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
242	16号標 322号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
243	16号標 323号	土質土器 瓶	4.9	2.1	2.4	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
244	16号標 324号	土質土器 瓶	2.1	2.1	2.4	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
245	16号標 325号	土質土器 チップ	4.2	1.6	4.7	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
246	16号標 326号	土質土器 瓶	7.2	3.0	2.1	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
247	16号標 327号	土質土器 瓶	9.5	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
248	16号標 328号	土質土器 瓶	17.6	12.0	5.2	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
249	5号・2号 地質	死滅土器 不透明	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
250	15号・16号 地質	死滅土器 不透明	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
251	15号・16号 地質	死滅土器 不透明	30.5	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
252	15号・16号 地質	死滅土器 不透明	—	25.5	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
253	15号・16号 地質	死滅土器 不透明	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
254	15号・16号 地質	死滅土器 不透明	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
255	12号・13号・14号	死滅土器 不透明	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
256	11号・12号 地質	死滅土器 不透明	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
257	11号・12号 地質	死滅土器 不透明	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
258	11号・12号 地質	死滅土器 不透明	27.6	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
259	11号・12号 地質	死滅土器 不透明	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
260	11号・12号 地質	死滅土器 不透明	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
261	11号標 3号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
262	F-2号	土質土器 烹飯器	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
263	1号標 5号	死滅土器 不透明	—	5.9	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
264	1号標 6号	死滅土器 不透明	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
265	1号標 7号	死滅土器 不透明	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
266	AB7 2号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
267	AB7 3号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
268	AB7 3号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
269	AB7 3号	土質土器 瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
270	AG5 5号	土質土器 瓶	5.9	3.3	1.7	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
271	AG5 6号	土質土器 瓶	—	3.6	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
272	1号標 5号	土質土器 不透明	—	2.6	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
273	1号標 6号	土質土器 不透明	—	10.2	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
274	2号標 3号	土質土器 不透明	—	26.0	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
275	1号標 4号	死滅土器 大瓶	23.2	15.9	8.9	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
276	1号標 4号	死滅土器 大瓶	—	19.0	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
277	1号標 5号	死滅土器 大瓶	23.8	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
278	1号標 6号	死滅土器 大瓶	22.0	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
279	1号標 7号	死滅土器 大瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)
280	1号標 8号	死滅土器 大瓶	—	—	—	内函 他器内層のクロナビ 地質外層の粘土切削調査(1)

表29 第9地点出土その他の土師質土器・瓦質土器観察表(2)
Tab. 29 Notes on various ceramics at NM9(2)

番号	出 土 場 所	文 種	長 度 (cm)	幅 度 (cm)	高 度 (cm)	備 考	図 版
880	1号地 通路 金印の位置	瓦質土器	26.8	—	—	内面 フローラル模様 内面に斜めの走査線がある	93 6
881	1号地 通路 金印の位置	瓦質土器 不明	19.1	—	—	内面 陶器表面にクロス	93 6
882	1号地 通路	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様	93 6
883	1号地 通路 金印の位置	瓦質土器 不明	25.6	23.6	19.2	内面 フローラル模様 瓦底小面にカホニ見	93 6
884	1号地 通路	瓦質土器 不明	33.6	—	—	内面 フローラル模様	93 6
885	1号地 通路	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	93 6
886	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様	94 6
887	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
888	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
889	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
890	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
891	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
892	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
893	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
894	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
895	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
896	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
897	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
898	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
899	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
900	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
901	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
902	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
903	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
904	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
905	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
906	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
907	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
908	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
909	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
910	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
911	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
912	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
913	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
914	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
915	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
916	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
917	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6
918	AN5 2号	瓦質土器 不明	—	—	—	内面 フローラル模様 体側外壁にオキナ	94 6

表30 第9地点出土軒丸瓦類観察表
Tab. 30 Notes on round eaves tiles at NM9

登録番号	出 土 場 所	瓦 当 文 様	瓦 当 直 径 (cm)	瓦 当 内 径 (cm)	周 線 幅 (cm)	備 考	図 版
001	AB5 3層上	三引四文	17.0	13.9	1.8		88 68
002	2号池 壁②層	三引四文	14.7	12.0	1.6		88 68
003	2号池 壁②層	三引四文	15.1	12.9	1.8		88 68
004	1号池 壁⑦～⑩層	三引四文	17.5	13.2	2.2		88 68
005	14号土坑 墓2層	三引四文	14.8	11.4	1.7		88 68
006	14号土坑 墓2層	三引四文	14.9	11.6	1.7		88 68
007	15号土坑 墓2層	三引四文	16.0	13.8	1.9		88 68
008	16号土坑 墓5a層	三引四文	14.6	12.2	1.6		89 68
009	1号池 壁⑦～⑩層	九瓣文	17.3	13.2	2.1		89 69
010	1号池	九瓣文	15.2	11.4	2.0	鉤穴あり	89 69
011	14号土坑 墓2層	九瓣文	16.3	12.3	2.2		89 69
012	14号土坑 墓2層	九瓣文	16.0	12.4	2.2		89 69
013	14号土坑 墓2層	九瓣文	16.4	12.4	2.2		90 69
014	2号池 壁③層	漁珠巴文	17.4	12.2	2.6		90 69
015	Pt33	漁珠巴文	16.5	12.5	2.0		90 69
016	15号土坑 墓4層	巴文	17.4	13.0	2.2		90 69
017	16号土坑 墓4層	巴文	17.3	12.7	2.3		90 69
018	6号池 墓1層	巴文	17.5	12.9	2.3		90 69

表31 第9地点出土丸瓦観察表
Tab. 31 Notes on round roof tiles at NM9

登録番号	出 土 場 所	周 長 (cm)	項 幅 (cm)	尻 幅 (cm)	玉 線 長 (cm)	備 考	図 版
041	AC6 3a層	26.8	13.7	13.9	2.6	刻印(山に守)	94-113 71-79
042	1号池 墓③層	—	—	—	3.1	刻印(安三)	113 79
043	1F7 3b層	—	—	—	2.7	刻印(山に守)	113 79
044	1F7 3b層	24.7	13.5	14.3	3.2	刻印(山に「守」)	94 71
045	1号池 墓③層	26.1	13.9	14.9	3.8		95 71
046	1号池 墓③層	27.9	14.8	15.8	3.6		95 71
047	1号池 墓③層	25.9	14.0	14.6	3.4		96 71
048	1号池 墓③層	27.5	—	15.8	3.0	刻印2個所(九瓣文)	96-113 71-79
049	1号池 墓④層	26.5	14.3	15.1	3.5		97 72
050	16号土坑 墓4層	26.2	14.4	15.6	3.6		97 72
051	2号池	—	—	15.5	4.0	刻印(三角形)	113 79

表32 第9地点出土軒平瓦類觀察表
Tab. 32 Notes on flat eaves tiles at NM9

登録番号	出上場所	瓦当文様	瓦当形状	瓦当垂長 (cm)	瓦当幅 (cm)	備考	図	図版
019	墳土	雷持鉢(人面) + 唐草2種	太劍	5.5	25.9		91	70
020	擾乱	「江戸式」	太劍	4.2	22.8		92	70
021	1号池 墓⑤層	三枝鉢 + 唐草1種	不明	—	—		91	70
022	2号池 墓①層	雷持鉢(細巻) + 唐草2種	太劍	5.4	—	赤瓦(櫛戸瓦)	91	69
023	2号池 墓②層	雷持鉢(細巻) + 唐草2種	太劍	5.8	—		91	69
024	2号池 墓③層	不明	不明	—	—		92	70
025	AD4 3層	雷持鉢(細巻) + 唐草2種	太劍	5.8	—	長 32.5cm	91	69
026	1号池	三引鉢 + 唐草1種	太劍	5.8	—		92	70
027	AG6 3b 層	雷持三枝鉢 + 唐草1種	太劍	5.5	—		92	70
028	1号池 墓①～⑤層	雷持鉢(細巻) + 唐草2種	太劍	5.8	24.2		91	70
029	1号池 墓⑦～⑨層	雷持鉢(細巻) + 唐草2種	不明	—	—		91	69
030	14号土坑 墓2号	陰模模2種 + 唐草1種	太劍	5.6	—		92	70
031	14号土坑 墓2層	折敷に二文字 + 唐草1種	太劍	5.7	26.3		92	70
032	14号土坑 墓2層	雷持鉢(細巻) + 唐草2種	太劍	5.5	—		91	69
033	14号土坑 墓2層	雷持鉢(細巻) + 唐草2種	太劍	5.6	—		91	69
034	8号土坑	? + 唐草4種	不明	—	—		92	70
035	3号溝 墓3層	雷持鉢(人面) + 唐草2種	太劍	6.1	—		91	69
036	6号溝 墓1層	細模模 + 唐草2種	太劍	—	—		91	69
037	10号溝 刈り方	雷持鉢(細巻) + 唐草2種	太劍	6.3	—		91	69
038	4号溝 墓2層	四升舟 + 唐草6種	劍丸	—	—		92	70
039	1号井戸 墓1層	不明	不明	—	—		92	70
040	1号池 墓⑤層	? + 唐草5種	小弱	5.3	—		92	70

表33 第9地点出土平瓦1類觀察表
Tab. 33 Notes on type 1 of flat roof tiles at NM9

登録番号	出上場所	長 (cm)	頂幅 (cm)	底幅 (cm)	谷深 (mm)	谷深 (mm)	備考	図	図版
052	AB5 3層上面	—	—	—	—	—	刻印(「和山」)	113	79
053	AB5 3層上面	—	—	—	—	—	刻印(「ソ」)	113	79
054	AB5 3層上面	—	—	—	—	—	刻印(「工」)	113	79
055	AB5 3層上面	—	—	—	—	—	刻印	113	79
056	1号池 墓①層	—	—	—	—	—	刻印(川に「守」)	113	79
057	1号池 墓①層	—	—	—	—	—	刻印(川に「守」)	113	79
058	1号池 墓③層	—	—	—	—	—	赤瓦(櫛戸瓦)	98	73
059	2号池 墓③層	—	—	—	—	—	刻印	113	79
060	2号池 墓③層	—	—	—	—	—	刻印(九竜文)	113	79
061	1号池 墓③層	25.4	—	—	—	—	刻印(川に「守」)	113	79
062	1号池 墓③層	28.8	25.5	—	2.9	—		99	73
063	1号池 墓①～②層	39.0	—	—	—	—	釘穴 2個	98	72
064	10号土坑	—	27.4	22.7	—	2.6	—	98	72
065	1号池	—	—	—	—	—	刻印(輪廻い)	113	79
066	1号池	—	—	—	—	—	刻印(「シマ」)	113	79
067	不明	—	—	—	—	—	刻印(○)	113	79
069	柱列3 杜2 墓3号	26.9	21.2	—	3.0	—		99	72
070	1号井戸 墓1層	25.1	23.6	—	2.8	—		99	72

表34 第9地点出土平瓦2類観察表
Tab. 34 Notes on type 2 of flat roof tiles at NM9

登録番号	出土場所	幅 (cm)	長 (cm)	高 (cm)	備考	図	図版
071	AC7 挽乱	—	—	不明	刻印(「ア」)	113	79
072	AC7 挽乱	—	—	不明	刻印(「太」)	113	79
073	AD8 2層	—	—	不明	刻印(「山に守」)	113	79
074	AB6 3a 屋瓦一括	—	—	不明	刻印(「シマ」)	113	79
075	AB6 3a 屋瓦	—	—	不明	刻印(「シマ」)	113	79
076	AB6 3a 屋	—	—	不明	刻印(「ヨ」)	113	79
077	AB6 3a 屋	—	—	不明	刻印(「フ」)	113	79
078	AB6 3a 屋	—	—	不明	刻印(「四宮」)	113	79
079	AB6 3a 屋	—	—	不明	刻印(「カ」)	113	79
080	AB6 3a 屋	—	—	不明	刻印(「ア」)	113	79
081	AC5 3a 屋	—	—	小頭	刻印(「太」)	113	79
082	AG6 3a 屋	—	—	不明	刻印(輪追い)	113	79
083	AD8 3a 屋	—	—	不明	刻印(「山に守」)	113	79
084	1号施 墓④層	—	—	右	刻印(●)	113	79
085	AF7 3b 屋	—	—	不明	刻印(「山に守」)	113	79
086	2号施 墓③層	—	—	右	刻印(「○」)	113	79
087	2号施 墓③層	—	—	小頭	刻印(「吉」)	113	79
088	2号施 墓③層	—	—	小頭	刻印(■)	113	79
089	AB8 3c 屋	—	—	不明	刻印(「ム」)	113	79
090	AC7 3c 屋	—	—	不明	刻印(「吉」)	113	79
091	AC7 3c 屋	—	—	不明	刻印(「ヨ」) 4箇所	113	79
092	AC5 3c 屋	—	—	小頭	刻印(「鑑」)	113	79
093	1号施 墓⑤層	—	—	不明	刻印(「山に守」)	113	79
094	1号施 墓⑦～⑨層	—	—	不明	刻印(「ヲ」)	113	79
095	1号施 墓⑦～⑨層	—	—	不明	刻印(「シマ」)	113	79
096	1号施 墓⑦～⑨層	—	—	不明	刻印(「フ」)	113	79

表35 第9地点出土軒瓦観察表
Tab. 35 Notes on eaves-pan tiles at NM9

登録番号	出土場所	瓦当 小巴部分文様	瓦當 垂れ部分文様	丸當 垂れ形状	備考	図	図版
103	1層	無文(万十)	無文	太鈴	刻印(「宮門」)	93-113	70-79
104	AD5 2層	迷珠二ツ巴文	+唐草1類	不明		93	70
105	AC8 2層	九曜文	陰結梗1類+唐草1類	太鈴		92	70
106	1号施 墓⑥層	三ツ巴文	?+唐草2類	不明		93	70
107	1号施 墓⑦～⑨層	三引尚文	?+唐草5類	不明		92	70
108	1号施 墓⑩層	三ツ巴文	?+唐草1類	不明		93	70
109	1層	三ツ巴文	不明	不明		93	70

表36 第9地点出土棟瓦観察表
Tab. 36 Notes on pan tiles at NM9

登録番号	出土場所	全長 (cm)	全幅 (cm)	さき幅 (cm)	さき足 (cm)	尻切入長 (cm)	頭切入幅 (cm)	備考	図	図版
068	14号土坑 墓2層	24.8	24.1	—	—	—	—		99	73
097	1層	30.2	—	—	—	3.5	—	刻印(「官五六」) 引掛棟瓦	101-113	73-79
098	AB5 3層上面	—	—	—	—	—	—	刻印(「十八」)	113	79
099	1号施 墓③層	38.7	34.3	34.3	—	—	—		100	74
100	1号施 墓①層	24.8	29.2	29.2	13.5	11.3	—		100	73
102	1号施 墓⑩層	—	31.0	—	—	—	—	水返し付き 斧次3	101	74
152	1層	—	—	—	—	—	—	刻印(「五」) 引掛棟瓦	113	79

表37 第9地点出土板棚瓦觀察表

Tab. 37 Notes on pan tiles used for fence at NM9

登録番号	出土場所	全長 (cm)	全幅 (cm)	さき幅 (cm)	接合方法	丸断面形	釘穴 数	備考	図	図版
109	AP6 2層	37.7	33.3	29.3	平行	方形	—	翫(山口守)右側に属	102-113	75-79
110	1号池 墓④～⑤層	35.5	32.6	29.0	不明	方形	3	右側に属	102	75
111	2号池 墓①層	37.8	34.3	29.6	平行	方形	2	右側に属	103	75
112	AG7 3b層	—	—	—	平行	山形	—	—	106	76
113	2号池 墓①層	37.6	32.4	30.2	不明	方形	—	—	103	74
114	1号池 墓②層	37.5	32.2	29.8	斜め	方形	3	右側に属	104	75
115	1号池 墓②層	36.8	31.7	29.8	不規	方形	—	右側に属	104	75
116	1号池 墓⑤層	38.0	31.7	29.0	不明	方形	—	右側に属	105	75
117	1号池 墓⑥層	38.2	32.3	30.4	不明	方形	2	右側に属	105	74

表38 第9地点出土面戸瓦觀察表

Tab. 38 Notes on filler tiles at NM9

登録番号	出土場所	長 (cm)	幅 (cm)	高 (cm)	備考	図	図版	
118	14号土坑 墓1層	14.2	11.2	6.2	—	—	107	76
119	14号土坑 墓2層	15.0	11.0	7.4	—	—	107	76
120	14号土坑 墓2層	16.1	10.0	6.9	—	—	107	76
121	14号土坑 墓2層	15.5	10.3	7.4	—	—	107	76
122	14号土坑 墓2層	15.5	10.5	7.3	—	—	107	76
123	14号土坑 墓2層	15.0	10.3	6.1	—	—	107	77
124	14号土坑 墓2層	16.0	10.2	7.3	—	—	107	77

表39 第9地点出土輪違の観察表

Tab. 39 Notes on ridge decoration tiles at NM9

登録番号	出土場所	長 (cm)	上幅 (cm)	下幅 (cm)	高 (cm)	備考	図	図版
125	1号池 墓3層	13.8	—	—	—	—	106	76
126	1号池 墓5層	8.5	5.5	11.0	5.5	—	107	76

表40 第9地点出土鳥伏間觀察表

Tab. 40 Notes on round eaves tiles of corner at NM9

登録番号	出土場所	瓦当文様	瓦当直径 (cm)	瓦当内径 (cm)	周縁幅 (cm)	備考	図	図版
127	2号池 墓②層	丸彫文	12.6	9.8	1.5	—	90	69
128	1号池 墓③層	丸彫文	17.3	12.4	3.0	あるいは鬼瓦か	90	69

表41 第9地点出土棟瓦觀察表

Tab. 41 Notes on ridge cover tiles at NM9

登録番号	出土場所	長 (cm)	幅 (cm)	残幅 (cm)	袖幅 (cm)	横形状	横	備考	図	図版
129	1号池 墓③層	—	—	5.9	6.4	山形	不明	—	109	77
130	1号池 墓①層	33.0	—	7.1	—	平	有り	釘穴1個	109	77
131	AC6 3a層	—	—	—	—	—	不明	釘穴3個	110	77

表42 第9地点出土熨斗瓦觀察表

Tab. 42 Notes on ridge tiles at NM9

登録番号	出土場所	長 (cm)	厚 (cm)	幅 (cm)	耳長 (cm)	備考	図	図版	
132	1号池 墓④～⑤層	17.9	1.9	23.4	—	—	—	111	78
133	14号土坑 墓2層	18.0	2.1	26.7	—	—	—	111	78

表43 第9地点出土T字瓦観察表

Tab. 43 Notes on tiles which figures of sections are "T" at NM9

登録番号	出土場所	全長 (cm)	突起部 高さ (1) (cm)	高さ (2) (cm)	断面形	備考	図	図版
134	2号池 墓①層	8.8	2.8	3.6	2.0	平		106 76
135	柱3号 柱2 墓3層	9.7	3.3	4.4	2.4	平		106 76
136	15号十坑 墓3層	9.6	3.1	4.2	2.6	平		106 76

高さ(1) 突起部を含む 高さ(2) 突起部を除く

表44 第9地点出土その他の瓦観察表

Tab. 44 Notes on various roof tiles at NM9

登録番号	出土場所	種類	備考	図	図版
101	1号池 墓①層	瓦瓦		108	77
137	2号池 墓②層	瓦丸瓦		110	77
138	AH6 2層	鬼瓦類(地)		111	78
139	AC6 3a 層	鬼瓦類	刻印(「トヘ」?)	111-113	78-79
140	AG6 3b 层	鬼瓦類		111	78
142	擾乱	不明		112	78
143	擾乱	不明		112	78
144	AC6 3a 层	不明	刻印(「ヨ」)	113	78-79
145	2号池 墓①層	不明		112	78
146	1号池 墓⑦~⑨層	不明	刻印(山に「守」)	110-113	77-79
147	1号池 墓⑦~⑨層	不明		110-112	78
148	1号池 墓⑦~⑨層	不明		110	78
149	3号池 墓3層	瓦瓦		108	77
151	AC5 层位不明	鬼瓦類		111	78

表45 第9地点出土箸状木製品観察表

Tab. 45 Notes on wooden chopsticks at NM9

登録番号	出土場所	先端形状	全長 (mm)	最大径 (mm)	整形	備考	図	図版
069	16号十坑 墓5d 層	AA	301	5	不良	全表面漆塗	119	86
182	1号池 墓③層	A	—	5	不良	下地無漆・1端朱漆	119	86
272	AE5 7d 層	AC	195	7	不良	断面形が四角形	119	86
273	AE5 7d 層	AD	252	6	不良		119	86
274	AC4 7d 層	BB	278	5	小良		119	86
275	AB3 7c 層	A	—	7	不良	断面形が四角形	119	86
276	AD4 7c 層	AD	172	7	不良		119	86
277	16号上坑 5f 層	AD	214	6	不良		119	86
278	16号上坑 5c 層	AA	197	6	不良		119	86
279	16号十坑 5c 層	AA	214	6	不良		119	86
280	16号上坑 5d 層	AA	315	5	良	赤色顔料残存	119	86
281	16号土坑 5d 層	C	—	8	不良	竹製?	119	86
282	16号十坑 5d 層	DC	189	6	不良		119	86
283	16号土坑 5d 層	AA	193	6	不良		119	86
285	16号十坑 5d 層	AC	212	6	不良		119	86
286	16号上坑 5d 層	A	—	8	不良	竹製?	119	86
287	16号土坑 5d 層	C	—	9	不良	竹製?	119	86
288	16号十坑 5d 層	A	—	5	不良	断面形が真四角	119	86
289	16号上坑 5d 層	AB	215	6	不良		119	86
290	16号土坑 5d 層	AC	—	5	不良		119	86
291	16号十坑 5d 層	AC	190	5	不良	断面形が四角形	119	86
292	16号上坑 5b 層	DD	209	6	不良	断面形が四角形	119	86
293	16号土坑 5b 層	AA	214	6	不良		119	86
294	16号土坑 5b 層	AA	215	6	良		119	86
295	16号十坑	AD	185	6	不良		119	86
296	16号上坑 5f 層	AA	214	7	不良		119	86

表46 第9地点出土櫛類観察表
Tab. 46 Notes on combs at NM9

登録番号	出土場所	形 (cm)	備 考	図	文 版
041	16号坑 墓1層	a (2.3) b (4.1) c —		114	80
042	16号坑 墓1層	a (4.8) b 4.5 c 2.0		114	80
070	16号土坑 墓5d層	a (5.3) b 4.5 c 2.6	速鑿[地: 黒 楼幕(木・紙)]	114	80
071	16号土坑 墓5d層	a (5.1) b 4.3 c 2.0	速鑿[地: 黒 丸文(朱) 紙]	114	80
087	16号土坑 墓5d層	a 11.1 b 5.1 c 1.4		114	80
088	16号土坑 墓5d層	a (10.2) b (4.6) c 1.5		114	80
187	1号池 墓7~9層	a 10.0 b (2.4) c 1.9		114	80
188	1号池 墓6層	a 12.0 b 6.4 c 3.4		114	80
271	1号池 墓1層	a (4.2) b (2.1) c 2.1	速鑿[地: 朱]	114	80

表47 第9地点出土下駄類観察表
Tab. 47 Notes on wooden clogs at NM9

登録番号	出土場所	種別	長 (cm)	幅 (cm)	高 (cm)	備 考	図	文 版
031	AD6 8層	鷹羽足柄	—	8.5	8.0	底に小石付着	115	81
032	AD5 8層	大雀羽足柄	21.8	7.9	2.5		115	81
033	16号坑 墓1層	丸型連齒	—	7.4	4.3		115	81
034	16号坑 墓1層	丸型連齒	13.5	7.5	3.6		115	81
035	16号坑 墓1層	—	—	—	—	下駄の未製品?	115	81
036	16号坑 墓1層	角型連齒	21.6	7.5	3.1		115	81
037	AC3 7d層	丸型露卯赤漆	20.7	7.9	2.6		116	82
038	AC3 7d層	丸型露卯黒漆	21.0	7.4	2.2	並肩の基部が残っている	116	82
039	AD4 7d層	丸型連齒	21.6	9.1	2.9		115	81
040	AF1 7d層	角型連齒	19.1~10.4	5.3			115	81
072	16号土坑 墓5d層	長円型露卯赤漆	22.6	7.3	4.2	表面朱漆 裏面黒漆	117	83
077	16号土坑 墓5d層	丸型連齒	22.8	8.8	6.8		117	83
078	16号土坑 墓5d層	丸型連齒	22.7	8.8	5.8		117	83
079	16号土坑 墓5d層	角型連齒	23.1	8.8	3.2	表面に使用による指の凹み	116	82
080	16号土坑 墓5d層	丸型連齒	22.4	8.5	5.0	表面に使用による指の凹み	117	83
081	16号土坑 墓5d層	角型連齒	22.9	9.9	3.1	表面に使用による指の凹み	116	82
082	16号土坑 墓5c層	角型連齒	22.5	8.8	3.1		116	82
083	16号土坑 墓5c層	角型連齒	22.7	9.1	3.0	表面に使用による指の凹み	116	82
136	16号土坑 墓5d層	露卯赤漆	—	—	12.0	137と対	117	84
137	16号土坑 墓5d層	露卯赤漆	—	—	12.0	72/1136-137の台部	117	84
144	15号土坑 墓6層	丸型例り	—	8.0	4.5	朱漆(ト地黒漆)	117	84
151	1号池 墓7~9層	丸型露卯赤漆	21.4	8.7	7.3	表面朱漆	118	83
183	1号池 墓5d層	丸型露卯赤漆	20.0	8.2	2.3		118	83
184	1号池 墓5d層	丸型連齒	20.9	8.8	6.2	底に小石付着	118	84
185	1号池 墓5d層	脚部連齒	—	12.6	7.3	底に小石付着	118	81
186	1号池 墓4層	無足(草履)	21.3	8.4	2.3	底に小石付着「養生(素竹)」	118	84
213	1号池 墓7~9層	無足(草履)	21.9	8.4	2.6	裏面底部側を半月形に削る	118	84

表48 第9地点出土膳類観察表
Tab. 48 Notes on wooden tray like objects at NM9

登録番号	出土場所	部位	特 徴	等	図	文 版
089	16号土坑 墓5d層	足	内足跡? 高さ5.7cm 幅9.8cm		120	81
090	16号土坑 墓5d層	足	内足跡? 高さ11.6cm 幅21.2cm		120	84
102	16号土坑 墓5d層	足	内足跡? 高さ12.1cm 幅19.3cm		120	84
110	16号土坑 墓5d層	盤	両足跡? 全向うるみ底? 底板連続時使用の朱漆行者		120	85
130	16号土坑 墓5d層	足	両足跡? 高さ14.0cm 幅20.3cm		120	84
134	16号土坑 墓5d層	盤	片面黒漆塗 側板は失われている		121	85
158	1号池 墓7~9層	盤	両足跡? 全面黒漆塗 幅28.1~27.4cm四方		121	85
165	1号池 墓7~9層	足	内足跡? 全面黒漆塗 高さ13.7cm 幅19.8cm		122	84
173	1号池 墓5d層	盤	折板? 全面黒漆塗 二枚の板を(竹?)軸で横に繋ぐ		122	85
179	1号池 墓1層	盤	三方? 全面黒漆塗 側板は失われている		121	85
201	1号池 墓7~9層	足	内足跡? 全面うるみ漆? 高さ14.8cm		122	84
202	1号池 墓7~9層	足	内足跡? 全面うるみ漆? 高さ36.2cm		122	85

表49 第9地点出土曲物観察表

Tab. 49 Notes on round vessels shaped by bending and securing a thin sheet of cypress wood at NM9

登録番号	出 土 場 所	直径 (cm)	高さ (cm)	特 殊 等	図	図版
086	16号土坑 墓5d層	25.8	—	とじ紐(樹皮)残存 内面うるみ漆?塗	123	87
107	16号土坑 墓5d層	26.4	—	底面全圓うるみ漆?塗	123	87
112	16号土坑 墓5f層	8.2	—	とじ紐(樹皮)残存	123	87
221	1号池 墓⑦～⑨層	14.7	—	蓋とじ紐(樹皮)残存	123	87
222	1号池 墓⑦～⑨層	8.6	—	とじ紐(樹皮)残存	123	87
223	1号池 墓⑥層	11.0	5.9	完形(身)とじ紐(樹皮)残存	123	87
266	1号池 墓⑦～⑨層	—	—	外面に施印	123	87

表50 第9地点出土桶・樽類観察表

Tab. 50 Notes on troughs and barrels at NM9

登録番号	出 土 場 所	部 位	特 殊 等	図	図版
129	16号土坑 5d層	天 or 底板	径36.6cm 焼印(「勢」?)	126	89
139	16号土坑 5d層	側板	口徑41.0cm 高径37.5cm 脚高14.8cm 外面にタガの痕跡	126	89
140	16号土坑 5d層	側板	桶 口径41.4cm 底径35.9cm 脚高18.7cm 脚付 タガの痕跡	126	89
141	16号土坑 5d層	側板	桶 脚高19.7cm 外面にタガの痕跡	126	89
142	16号土坑 5d層	側板	桶 脚高12.2cm 脚付	126	90
145	2号池 墓③層	底板	径25.3cm 焼印	127	90
224	1号池 墓⑦～⑨層	完形	桶 口径14.3cm 底形10.0cm 脚高24.2cm 外面にタガの痕跡	127	90
225	1号池 墓⑤層	完形	桶 口径30.3cm 底径27.0cm 脚高18.0cm 外面に焼印・タガ痕	127	90
234	1号池 墓⑦～⑨層	天板	桶 径19.7cm 桶孔径3.3cm 焼印(「佐重」他)	129	92
235	1号池 墓⑦～⑨層	天板	桶 径13.3cm 桶孔径3.1cm	129	92
236	1号池 墓⑦～⑨層	底板	桶33.4cm 焼印	129	92
237	1号池 墓⑦～⑨層	底板	桶17.5cm	129	92
238	1号池 墓⑤層	天 or 底板	焼印(井桁に「長」)	132	95
239	1号池 墓⑤層	天板	桶 径28.9cm 桶孔径3.1cm 焼印	131	94
240	1号池 墓⑤層	天板	桶 桶孔径3.8cm 焼印	132	95
242	1号池 墓①層	底板	径11.9cm	132	95
243	1号池 墓⑦～⑨層	天板	桶 径28.4cm 桶孔径4.3cm	128	91
244	1号池 墓⑦～⑨層	蓋	桶 径35.2cm 中央部にはめ込み式の把手1本(欠損)	130	93
245	1号池 墓⑦～⑨層	天板	桶 径26.6cm 桶孔径2.9cm	129	92
246	1号池 墓⑦～⑨層	蓋	桶 径34.7cm はめ込み式の把手2本(補修?-欠損)	131	94
247	1号池 墓⑦～⑨層	底板	径25.3cm 焼印	129	92
248	1号池 墓⑦～⑨層	天板	桶 桶孔径3.2cm 焼印(井桁に「長」)	130	93
249	1号池 墓⑦～⑨層	天板	桶 桶孔径3.0cm 焼印(「合」)	131	94
250	1号池 墓⑦～⑨層	天板	桶 径13.5cm 桶孔径2.8cm 焼印	128	91
251	1号池 墓⑦～⑨層	天 or 底板	径27.6cm 焼印	128	91
252	1号池 墓⑦～⑨層	蓋	桶 焼印 はめ込み式の把手2本(欠損)	130	93
253	1号池 墓⑦～⑨層	天板	桶 径19.2cm 桶孔径3.2cm 焼印(井桁に「長」)	129	92
254	1号池 墓⑦～⑨層	天 or 底板	径41.5cm 表裏両面焼印	130	93
256	1号池 墓④層	蓋	桶 中央部にはめ込み式の把手1本(欠損)	132	95
257	1号池 墓⑤層	蓋	桶 表裏両面焼印 はめ込み式の把手2本(欠損) 総2箇所切り込み	132	95
258	1号池 墓⑧層	側板	側板 焼印(「二森」)	128	91
259	1号池 墓⑧層	側板	側板 焼印(「二森」) 258と同一個体?	128	91
260	1号池 墓⑦～⑨層	側板	側板? 焼印(「唐」)	127	91
261	1号池 墓⑦～⑨層	側板	側板	128	91
262	1号池 墓⑤層	側板	焼印(井桁に「長」)	128	91
263	1号池 墓⑤層	側板	焼印	128	91
264	1号池 墓⑥層	側板	提楊	127	90
265	1号池 墓⑥層	側板	提楊	128	91

表51 第9地点出土漆塗椀・皿類觀察表

Tab. 51 Notes on bowls and dishes with lacquer at NM9

登録番号	出土場所	測量	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	高分類	文 様 等	備考(拂ふ)内蔵品	回	図
001 AD4 5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内外黒漆 内外底丸に三引文と草支(朱)			142	102
002 AD5 5号	碗(足)	12.2	6.0	3.4	0.0	地: 内外黒漆 内外底丸に三引文と草支(朱)	拂ふ内蔵(朱)		142	103
003 16号土 塚1層	碗(足)	11.6	6.2	2.0	0.4	地: 内外黒漆 内外底丸に三引文と草支(朱)	拂ふ内蔵(朱)		142	103
004 16号土 塚1層	碗(足)	—	6.5	—	1.9	地: 内外黒漆 内外底丸に文支(朱)			142	102
005 16号土 塚1層	碗(足)	11.9	5.5	3.0	0.5	内外黒漆			142	102
006 16号土 塚1層	碗(足)	—	—	—	—	内外黒漆	高台内蔵(朱)		142	102
007 AR3 7号	碗(足)	13.5	6.9	7.2	2.0	地: 内外黒漆 内外底丸に文支(朱)	高台内蔵(朱)		143	103
008 AR3 7号	碗(足)	—	6.8	—	2.4	地: 内外黒漆 内外底丸に引文支(朱)	高台内蔵(朱) 梵經紙×印		142	102
010 AR3 7号	碗(足)	—	6.4	—	0.7	地: 内外黒漆	高台内に朱墨模		142	102
011 AR3 7号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨 外赤丸文支(朱)	高台内蔵(朱) 通脚×印		143	103
012 AR3 7号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内外黒漆 内外底丸に三引文支 通脚(朱)	高台内蔵(朱)		142	103
013 AR3 7号	碗(足)	—	—	—	0.6	地: 内外黒漆 内外底丸に三引文支と草支(朱)	高台内蔵(朱)		143	103
014 AR3 7号	碗(足)	11.5	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			143	103
015 AR3 7号	碗(足)	12.6	6.4	4.2	0.8	地: 内面赤 片面墨 外赤文支	高台内蔵(朱)		142	102
016 AR3 7号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内外黒漆			142	102
017 AR3 7号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内外黒漆 片面墨 三引文支(朱)	高台内蔵(朱) ×印		143	103
018 16号土 塚1層	玉	16.7	—	1.5	—	地: 内面墨 片面朱 片面三引文支と草支(朱)			145	106
019 AD4 7号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨 外赤二引文支と草支(朱)	高台内蔵(朱)		143	105
020 AR3 7号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面墨 片面朱 不明 内赤丸文支(朱)			—	103
022 AD4 7号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内外黒漆 内外底丸に文支(朱)	拂ふ内文蔵(朱)		—	105
023 AD4 7号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内外黒漆 内外底丸に引文支と文支(朱)			—	104
024 AD4 7号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面墨 片面朱 内赤丸文支(朱)			—	104
025 AC3 7号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内外黒漆 内面底丸に文支(朱)	底部に多数の縫隙底		145	106
027 AD4 7号	瓶	(32.4)	—	—	—	地: 内面墨			143	104
029 16号土 塚5号	碗(足)	11.5	6.0	4.9	1.0	地: 内面赤 外赤墨			144	104
031 16号土 塚5号	碗(足)	11.1	6.8	5.2	1.1	地: 内面赤 外面墨			144	104
033 16号土 塚5号	碗(足)	12.6	5.8	7.4	2.3	地: 内面赤 片面墨 外赤墨文支(朱)	高台内蔵(金) ×印		143	104
034 16号土 塚5号	玉	21.2	14.2	2.4	—	地: 内外黒漆 内面底丸に文支(朱)	底部に多数の縫隙底		145	106
035 AC3 7号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内外黒漆			143	104
037 AD4 7号	瓶	(32.4)	—	—	—	地: 内面墨			145	106
039 16号土 塚5号	碗(足)	11.5	6.0	4.9	1.0	地: 内面赤 外赤墨			144	104
041 16号土 塚5号	碗(足)	11.1	6.8	5.2	1.1	地: 内面赤 外面墨			144	104
043 16号土 塚5号	碗(足)	12.6	5.8	7.4	2.3	地: 内面赤 片面墨 外赤墨文支(朱)	高台内蔵(金) ×印		143	104
053 16号土 塚5号	碗(足)	10.6	5.8	4.4	0.7	地: 内面赤 外面墨 外面底丸に文支(朱)			144	104
054 16号土 塚5号	碗(足)	—	6.0	—	1.7	地: 内面墨 片面朱 外赤丸に赤墨文ノ羽衣(朱) 直所			144	104
055 16号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面墨 片面墨 外面墨文(朱)			—	104
056 16号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨 外面底丸(金) 直所			144	104
057 16号土 塚5号	碗(足)	11.8	5.7	—	6.8	地: 内面赤 片面墨 外面墨文(朱) 直所			144	104
059 16号土 塚5号	碗(足)	10.8	5.0	3.7	0.7	地: 内面赤 片面墨 片面墨文(朱) 刀耕御文			144	105
060 16号土 塚5号	碗(足)	—	3.8	—	0.8	地: 内面赤 外面墨 外面中輪に花狩御文(朱)			144	105
061 16号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨	高台内蔵(朱) 朱文直門		144	105
062 16号土 塚5号	碗(足)	10.1	5.2	3.2	0.5	地: 内面赤 外面墨			144	105
063 16号土 塚5号	碗(足)	12.1	5.8	6.3	1.2	地: 内外黒漆			144	105
064 16号土 塚5号	碗(足)	10.9	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			144	105
065 16号土 塚5号	碗(足)	10.0	4.7	4.4	0.7	地: 内面赤 片面墨 外面墨文(朱) 龜文(朱)			144	105
066 16号土 塚5号	碗(足)	—	6.0	1.9	—	地: 内面赤 片面墨 外面墨文(朱)	高台内蔵(朱) 朱共直		144	105
067 16号土 塚5号	玉	18.2	13.9	1.7	—	地: 内面赤 外面墨 うら手 底内赤墨文(朱) 金	底部に草部 八底(直) 直		145	106
068 16号土 塚5号	玉	26.5	14.6	2.9	—	地: 内面赤 外面墨 直			145	106
142 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外赤墨 両面に櫻花と鶴文(朱)			144	105
144 AG8 5号	碗(足)	(12.3)	6.5	5.7	1.1	地: 内面墨	高台内蔵(朱) 朱共直		144	105
145 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内外黒漆			144	105
146 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			144	105
147 15号土 塚5号	碗(足)	—	5.4	—	1.1	地: 内面赤 外面墨			145	105
148 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			145	105
149 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			145	105
150 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			145	105
151 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨 両面に櫻花と鶴文(朱)	高台内蔵(朱) 朱共直		144	105
152 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			144	105
153 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			144	105
154 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			144	105
155 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			144	105
156 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			144	105
157 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			144	105
158 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			144	105
159 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨			144	105
160 15号土 塚5号	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨 両面に櫻花と鶴文(朱)	拂ふ内蔵(朱)		—	105
171 1号池 塚1層	玉	14.6	—	—	—	地: 内外黒漆			145	106
173 1号池 塚1層	碗(足)	11.0	4.5	9.2	6.7	地: 内面赤 外面墨 両面墨文(朱)			145	106
175 1号池 塚1層	碗(足)	13.4	—	—	—	地: 内面墨 内面墨(朱)			145	106
177 1号池 塚1層	碗(足)	—	—	—	—	地: 内面赤 外面墨 両面墨文(朱)			145	106

表52 第9地点出土その他の漆塗製品観察表
Tab. 52 Notes on various wooden implements with lacquer at NM9

登録番号	出 土 場 所	種 類	特 徴 等	図	図版
009	AC3 7d層	不明	容器? 内面朱 外面黒	146	107
026	AC4 7b層	容器(身)	地: 内面朱 外面黒 外面文様(朱)	146	107
028	AB3 7d層	容器(蓋)	蓋入? 内面朱 外面黒 口径6.8cm	146	107
029	16号施 墓1層	不明	地: 黒 文様(朱)	146	107
030	AB3 7c層	不明	板状 漆鏡のみ 地: 黒 文様(朱・金・うるみ・銀?)	—	107
074	16号土坑 墓5d層	鏡箱	全周うるみ? 銘	147	109
075	16号土坑 墓5d層	ヘラ	片面に朱 上面縁辺に後邊付若干 銘を混せる際に使用?	146	107
076	16号土坑 墓5d層	不明	外面黒 うるみ漆	146	107
147	AG8 3b層	不明	木瓜形 全面黒	146	107
149	1号施 墓8d層	杓子	内面朱 外面墨 納部黒	146	107
150	1号施 墓8d層	ヘラ	内面朱 外面黒	146	107
152	1号施 墓7~9d層	頭(灰)飾	内面金 外面黒	146	107
153	1号施 墓7~9d層	不明	部分黒	147	108
154	1号施 墓7~9d層	不明	部分黒	147	108
155	1号施 墓7~9d層	ヘラ	内外面朱 納部黒 長26.2cm 幅0.9cm	146	107
156	1号施 墓7~9d層	箱	外向黒	148	108
157	1号施 墓7~9d層	容器(蓋)	内外面黒 口径9.1cm	146	107
158	1号施 墓7~9d層	不明	部材 他の部材との接合部分を餘さ全面黒	148	108
160	1号施 墓7~9d層	不明	部材 他の部材との接合部分を餘さ全面黒	149	109
161	1号施 墓7~9d層	不明	箱状製品の部材 片面に黒漆書きの文字(魚)	150	110
162	1号施 墓7~9d層	不明	漆削板? 上端面? を除き全面黒	147	108
163	1号施 墓7~9d層	不明	部材 片面の縫合部を餘さ全面黒	148	108
164	1号施 墓7~9d層	不明	部材 他の部材との接合部分を餘さ全面黒	148	108
172	1号施 墓5d層	不明	地: 内外面黒 片面に文様(朱・金)	146	107
174	1号施 墓⑤層	小柄	脚部 地: 黒	146	107
178	1号施 墓4d層	不明	内外面黒 側面に竹刺?	147	108
180	1号施 墓4d層	不明	脚部 地: 黒	148	108
181	1号施 墓3d層	不明	地: 両面黒 片面に花唐草文(朱・金)	146	107
270	16号土坑 墓5d層	鏡箱	全面黒	147	109

表53 第9地点出土円板状木製品観察表
Tab. 53 Notes on wooden implements shaped round plate at NM9

登録番号	出 土 場 所	直 径 (mm)	厚 (mm)	備 考	図	図版
113	16号土坑 墓5d層	99	8	側面3箇所に斜穴	124	87
114	16号土坑 墓5d層	85	6	側面3箇所に斜穴	124	88
115	16号土坑 墓5d層	69	4	中央に小孔	124	87
116	16号土坑 墓5d層	78	5	中央に小孔 樹皮ぬみ?	124	88
117	16号土坑 墓5d層	69	6	中央に小孔 樹皮ぬみ?	124	87
118	16号土坑 墓5d層	87	6	側面2箇所に小穴	124	88
119	16号土坑 墓5d層	114	11		124	87
120	16号土坑 墓5d層	51	7	中央に小孔 樹皮ぬみ?	124	87
121	16号土坑 墓5d層	86	10	中央に小孔 2箇所に斜穴 小斜溝存	124	88
122	16号土坑 墓5d層	54	4	中央に小孔 2	124	87
123	16号土坑 墓5d層	131	8		124	88
124	16号土坑 墓5d層	78	4	中央に小孔	124	88
125	16号土坑 墓5d層	75	4	中央に小孔 樹皮ぬみ?	124	88
126	16号土坑 墓5d層	161	10	中央に盲孔	124	88
127	16号土坑 墓5d層	62	5	中央に小孔 樹皮ぬみ?	124	87
226	1号施 墓8d層	85	5	中央に小孔	125	88
227	1号施 墓7~9d層	62	2	中央に小孔	125	88
228	1号施 墓7~9d層	129	7	中央に小孔 樹皮ぬみ?	125	88
229	1号施 墓7~9d層	80	3	中央に小孔	125	88
230	1号施 墓5d層	150	7	中央に小孔 樹皮ぬみ?	125	88
232	1号施 墓5d層	74	3	中央に小孔 樹皮ぬみ?	125	88
233	1号施 墓5d層	97	5	中央に小孔	125	88
268	15号土坑 墓6層	70	3	中央に小孔 極み孔痕?	124	88
269	15号土坑 墓6層	66	4	中央に小孔 極み孔痕?	124	88

表54 第9地点出土その他の木製品観察表

Tab. 54 Notes on various wooden implements at NM9

番号	山下系所	種類	法 量	備 考	図 版
043	AB5 7d 頭	鉗子?	長27.8cm 幅8.5cm 厚0.4cm		134 97
044	16号標 7d 頭	精耕板	長17.0cm 幅8.5cm 厚0.3cm	小枝頭片面に焼け跡 線引板の反対側の側に万物底 孔孔1箇所	133 96
045	AB5 7d 頭	鉗子?	長33.4cm 幅1.8cm 厚1.6cm		125 98
046	16号標 7d 頭	不明	長20.4cm 幅6.5cm 厚0.5cm	2箇所穴孔	134 96
047	16号標 7d 頭	不明		柄材 端が焼けで打ち込まれている	134 97
048	AD4 7d 頭	不明	長13.5cm 幅8.5cm 厚0.3cm		134 97
049	16号標 7d 頭	不明	長62.1cm 幅1.8cm 厚1.5cm	断面方形 先端付近に穿孔1箇所	136 100
050	16号上灰 5d 頭	鉤子	幅11.5cm		123 98
051	16号上灰 5d 頭	精耕板	長12.3cm 幅8.5cm 厚1.4cm	端み三角形	133 96
052	16号上灰 5d 頭	精耕板	長9.3cm 幅4.5cm 厚4.5cm	丸穴?	135 97
053	16号上灰 5d 頭	鉤子	長6.6cm 幅2.7cm 厚2.5cm		125 98
054	16号上灰 5d 頭	不明	長7.7cm 幅5.5cm 厚1.5cm	中央部に穿孔1箇所	133 96
055	16号上灰 5d 頭	鉤子	長16.4cm 幅2.8cm 厚2.5cm		125 98
056	16号上灰 5d 頭	鉤子	長5.5cm 幅3.8cm 厚3.7cm		125 98
057	16号上灰 5d 頭	鉤子	長5.0cm 幅3.2cm 厚2.8cm	一端丸化	125 98
058	16号上灰 5d 頭	鉤子	長3.4cm 幅3.5cm 厚2.5cm		125 98
059	16号上灰 5d 頭	鉤子	長6.6cm 幅1.9cm 厚1.5cm		125 98
108	16号上灰 5d 頭	鉤子	長23.4cm 幅4.4cm 厚4.0cm		134 96
109	16号上灰 5d 頭	鉤子	長15.8cm 幅2.8cm 厚2.5cm		134 96
103	16号+灰 5d 頭	不明	厚1.4cm	側面に釘孔の穿通孔	134 96
104	16号+灰 5d 頭	不明	長29.4cm 幅1.5cm 厚1.0cm	木丸2箇所	136 100
105	16号+灰 5d 頭	羽子板	幅10.7cm 厚0.7cm	病院欠損	137 99
108	16号+灰 5d 頭	不明	厚1.4cm		135 97
109	16号+灰 5d 頭	不明	25.5cm四方 厚1.1cm	一端丸抜	135 97
111	16号土灰 5d 頭	不明	長43.9cm 幅21.5cm 厚5.8cm	把手付 痕既欠損?	140 101
125	16号+灰 5d 頭	不明	厚2.8cm	釘丸1箇所	138 99
131	16号土灰 5d 頭	不明	5.1cm四方 幅0.3cm	釘丸3箇所 中央に穿孔	134 96
132	16号+灰 5d 頭	小柄	幅4.6cm 幅2.9cm		139 99
133	16号土灰 5d 頭	不明	長10.3cm 幅4.4cm 厚0.4cm	側丸3方形	134 96
135	16号土灰 5d 頭	羽子板	幅23.5cm 幅1.2cm 厚0.5cm	中央付近に穿行跡	135 97
125	16号+灰 5d 頭	羽子板	幅25.8cm 幅9.6cm 厚1.3cm		137 99
189	1号地 塵土層	安鉢	底径6.9cm	くり抜き	133 96
190	1号地 塵土~2号層	穿縫か鉤子	底径5.5cm	くり抜き	133 96
191	1号地 塵土~2号層	不明	長11.1cm 幅6.6cm 厚1.2cm		133 96
192	1号地 塵土~2号層	不明		黒色油彩?付層	133 96
193	1号地 塵土~2号層	穿縫か鉤子	幅8.5cm 底径5.4cm 厚5.3cm	くり抜き	133 96
194	1号地 塵土層	ヘラ?	幅12.3cm 幅3.5cm 厚2.4cm		133 96
195	1号地 塵土~2号層	器の底?	長14.8cm 幅12.8cm 厚0.7cm		137 98
196	1号地 塵土~2号層	器の底?	長29.3cm四方 厚1.4cm		136 98
197	1号地 塵土層	杓?	幅12.7cm 厚6.2cm 厚5.8cm		133 96
198	1号地 塵土層	器の側板?	20.5cm四方 幅5.9cm	底板欠損	137 98
199	1号地 塾土~2号層	器の底板?		底板	136 98
200	1号地 塽土~2号層	不明	34.2cm四方	端面に板を縛ぐ島の歯穴?	140 101
203	1号地 塽土層	湯の部分?	高6.1cm		134 97
204	1号地 塽土層	湯の部分?			136 98
205	1号地 塽土層	器の底板?		側面(山形)に武田印?	137 98
206	1号地 塽土層	不明	厚1.3cm		125 97
207	1号地 塽土~2号層	不明	長125.6cm 幅6.9cm	片面上に使用状況の焼おび傷板3枚	141 101
208	1号地 塽土層	羽子板?	幅31.3cm 厚1.7cm	片面上に使用状況?	137 99
209	1号地 塽土~2号層	社?	幅4.5cm 幅3.5cm 厚3.7cm		125 98
210	1号地 塽土層	社?	幅15.5cm 幅3.8cm 厚3.7cm	穿孔1箇所	125 98
211	1号地 塽土層	社?	幅14.1cm 幅3.5cm 厚3.4cm		125 98
212	1号地 塽土~2号層	鉤子(煎板)?	長18.5cm 幅27.1cm 厚1.5cm	金隠し	138 100
214	1号地 塽土層	不明	長23.6cm 幅10.3cm 厚1.8cm	穿孔1箇所(木打)	138 99
215	1号地 塽土~2号層	不明	厚2.0cm		138 100
216	1号地 塽土~2号層	不明	厚2.0cm	側面(人字「六」)	139 99
217	1号地 塽土~2号層	鉤子?	長12.2cm 幅2.7cm 厚1.5cm		134 96
218	1号地 塽土~2号層	鉤子?	長12.0cm 幅2.5cm 厚2.0cm		134 96
229	1号地 塽土~2号層	枝から花生?	長28.2cm	竹製	135 97
235	1号地 塽土~2号層	穿縫	直径8.4cm	くり抜き	133 96
267	16号上灰 5d 頭	ヘラ?	幅2.3cm 厚0.2cm		133 96

表55 第9地点出土古錢觀察表
Tab. 55 Notes on coins at NM9

番号	出土地所	銭名	外径 (mm)	穿孔 (mm)	重量 (g)	備考	回	西周
001	16号墓 墓2層	羽政小形	23	7	2.6	完形 銅化顯著	151	111
002	AD5 8層	永泰通宝	—	—	—	一部欠損	151	111
003	16号墓 墓1層	永泰通宝	—	—	—	一部欠損	151	111
004	16号墓 墓1層	新祐元寶	25	7	3.2	完形	151	111
005	16号墓 墓1層	開元通宝	24	7	3.2	完形	151	111
006	16号墓 墓1層	元豐通宝(篆書)	25	7	2.9	完形	151	111
007	16号墓 墓1層	元豐通宝(篆書)	24	7	3.0	完形	151	111
008	16号墓 墓1層	無文銅錢?	20	—	11.3	完形	151	111
009	AE1 7d層	元豐通宝(真書)	24	7	3.8	完形	151	111
010	AE1 7d層	元豐通宝(篆書)	24	7	4.0	完形	151	111
011	AE1 7d層	嘉祐通宝(真書)	23	7	3.1	完形	151	111
012	AC3 7d層	嘉祐通宝(篆書)	24	7	2.6	完形	151	111
013	AG4 7c層	熙寧通宝	23	7	2.1	完形	151	111
014	AB3 7c層	聖宋小形	23	8	3.1	完形	151	111
015	AC5 7c層	聖宋小形(篆書)	—	—	—	1/2枚	151	111
016	AC4 7a層	永泰通宝	25	6	2.7	完形	151	111
017	AC4 7a層	永泰通宝	25	6	2.5	完形	151	111
018	AF6 7a層	永泰通宝	24	6	2.3	完形	151	111
019	AF6 7層	永泰通宝	24	6	1.3	完形	151	111
020	AF6 7層	永泰通宝	—	—	—	一部欠損	151	111
021	16号土坑 墓51層	寛永通宝(新寛永)	22	7	2.0	完形	151	111
022	16号土坑 墓51層	寛永通宝(新寛永)	22	7	1.9	完形	151	111
023	16号土坑 墓51層	寛永通宝(新寛永)	22	7	1.8	完形	151	111
024	16号土坑 墓51層	寛永通宝(新寛永)	21	7	1.4	完形	151	111
025	16号土坑 墓5d層	寛永通宝(新寛永)	22	7	2.2	完形	151	111
026	16号土坑 墓5d層	寛永通宝(新寛永)	23	7	1.6	完形	151	111
027	16号土坑 墓5d層	寛永通宝(新寛永)	25	6	3.2	完形 文鏡	151	111
028	16号土坑 墓5d層	寛永通宝(新寛永)	22	7	2.4	完形	151	111
029	16号1坑 墓5d層	寛永通宝(新寛永)	23	6	3.1	完形	151	111
030	16号1坑 墓5d層	寛永通宝(新寛永)	22	7	2.0	完形	151	111
031	16号土坑 墓5a層	寛永通宝(新寛永)	22	7	1.5	完形	151	111
032	16号土坑 墓5a層	寛永通宝(新寛永)	25	6	3.8	完形 文鏡	151	111
033	16号土坑 墓5d層	寛永通宝(新寛永)	26	6	3.7	完形 文鏡	151	111
034	16号土坑 墓5d層	寛永通宝(山寛永)	24	6	3.8	完形	151	111
035	15号土坑 墓5d層	寛永通宝(新寛永)	21	6	1.8	完形	151	111
036	15号1坑 墓4層	寛永通宝(新寛永)	22	7	1.5	完形	151	111
037	15号1坑 墓4層	寛永通宝(新寛永)	22	7	1.6	完形	151	111
038	15号1坑 墓3層	寛永通宝(新寛永)	23	6	1.8	完形	151	111
039	12号土坑	寛永通宝(古寛永)	—	—	2.9	完形	151	111
040	Pt47	永泰通宝	—	—	—	一部欠損 057と付番していた	151	111
041	Pt39 墓1層	寛永通宝(山寛永)	—	—	—	1/3欠損	151	111
042	Pt70	永泰通宝	25	6	—	二枚重ね 056と付番	151	111
043	2号義 墓2層	寛永通宝(古寛永)	24	6	3.3	完形	151	111
044	撫私	寛永通宝(新寛永)	25	6	3.4	完形 文鏡	151	111
045	3号植物跡	寛永通宝(古寛永)	23	6	2.3	完形	151	111
046	1号池 墓7~9層	明治二分金	—	3.0	完形 長20 細12	151	111	
047	1号池 墓5d層	寛永通宝	24	6	2.1	完形 銅化顯著 銀鏡	—	—
048	AC7 4層上部	判武小形	24	6	2.2	完形 銅化顯著	—	—
049	AB5 3層	寛永通宝(古寛永)	24	5	2.7	完形	151	111
050	2号池 墓1層	寛永通宝(新寛永)	25	6	2.3	完形	151	111
051	AE3 3b層	寛永通宝(新寛永)	23	6	2.1	完形	151	111
052	AB5 2層	寛永通宝(山寛永)	24	6	3.0	完形	151	111
053	AB5 2層	寛永通宝(新寛永)	22	7	1.7	完形	151	111
054	AE5 2d	千秋御賞	22	—	3.3	完形	—	—
055	AG8 層8不明	寛永通宝(古寛永)	24	6	3.1	完形	151	111
056	Pt70	不明(永泰通宝?)	25	6	—	完形 042と付番	—	—
057	Pt37	永泰通宝	—	6	—	一部欠損 040と付番していた	151	111
058	15号土坑 墓1層	元豐通宝(真書)	24	7	2.9	完形	151	111
059	15号土坑 墓1層	寛永通宝?	—	—	—	1/2欠損	—	—
060	AB7 3c層	寛永通宝(新寛永)	—	—	—	1/2欠損	—	—
061	AD8 3a層	1錢銅貨	28	—	6.8	完形 旁治 9年鑄造	—	—
062	Pt1 墓2層	寛永通宝(山寛永)	24	6	4.5	完形	151	111
063	撫私	寛永通宝(山寛永)	24	6	3.1	完形	151	111
064	AC4 7b層	雁首銖	—	—	2.6	小孔あり	151	111
065	15号池 墓1層	雁首銖	—	—	1.2	—	151	111
066	3号1坑 墓1層	寛永通宝(古寛永)	25	6	4.1	完形	151	111

表56 第9地点出土煙管(雁首)観察表

Tab. 56 Notes on pipes (stems and bowls) at NM9

器種番号	出土地場所	全体形状	式別	複合	裏	蓋	蓋長	内径	外径	備考	国	固
							(mm)	(mm)	(mm)			
066	AD5 8号	II B	1b	1	右	60	15	9	ラウ材残存	152	115	
067	AD5 7号	II A	1b	1	左	61	17	8	新木村残存	152	115	
068	AC1 7a 管	I	-	1	右	--	--	--	うすく鍍金が残る	152	115	
069	AD5 7a 管	I B?	-	2	左	--	--	--	新木村 古く火候多	-	-	
070	15号上段 地下	II B	2b	2	左	63	18	10	鍍金残存 防風しのぎのつぶれあり	152	115	
071	15号上段 地下4号	II B	2	左	56	15	10	鍍金残存 防風しのぎのつぶれあり	152	115		
072	15号上段 地下4号	a B	1b	2	左	50	15	10	-	152	115	
073	15号上段 地下4号	a B	2b	2	左	57	17	13	防風しのぎのつぶれあり	152	115	
074	15号上段 地下4号	II H	2b	3	左	56	15	10	防風しのぎのつぶれあり	152	115	
075	15号上段 地下4号	-	2b	3	左	--	--	--	火候のつぶれ残存	152	115	
076	15号上段 地下4号	II H	2	1	左	50	14	9	鍍金残存 ラウ材残存 防風しのぎのつぶれあり 大括内圈に付着物あり	152	115	
077	15号上段 地下4号	II B	-	--	左	--	--	--	ラウ材残存 防風しのぎのつぶれあり	152	115	
078	15号上段 地下4号	II B	-	-	左	--	--	--	ラウ材残存	152	115	
079	15号上段 地下4号	a B	-	-	左	--	--	--	1 ラウ材残存	152	115	
080	15号上段 地下4号	a B	-	2	左	--	--	--	防風しのぎのつぶれあり	152	115	
081	AD5 3号 地下4号	II B	1b	2	左	50	15	10	-	152	115	
082	AD5 3号 地下4号	a B	-	1	左	--	--	--	防風しのぎのつぶれあり 文様あり	152	115	
083	AD5 3号 地下4号	a B	-	1	左	--	--	--	防風しのぎのつぶれあり	152	115	
084	鑿	-	1b	-	-	13	-	-	-	152	115	
085	1号地 埋1号	II	-	-	上	54	-	8	ラウ材残存	153	115	
086	1号地 埋1号	-	1a	2	左	--	--	--	-	153	115	
087	1号地 埋1号	II C	2b	2	上	60	13	9	火候のつぶれあり	152	115	
088	AC1 3c 管	-	1a	1	左	--	--	--	鍍金のつぶれあり	152	115	
089	AC1 3c 管	II C	1b	3	上	42	14	11	鍍金残存 防風しのぎのつぶれあり	152	115	
090	AC1 3c 管	II H	-	-	上	--	--	--	ラウ材残存 防風しのぎのつぶれなし	152	115	
091	1号地 埋1号	a B	2b	1	左	50	16	--	-	152	115	
092	1号地 埋1号	II C	2bT	3	A:	50	-	-	大きいつぶれている 大火候結合部欠損	-	-	
093	1号地 埋1号	II B	-	8	上	55	-	11	-	152	115	
094	1号地 埋1号	II C	2b	3	A:	42	14	13	防風しのぎのつぶれあり	152	115	
095	1号地 埋1号	II C	1b	3	左	40	15	10	防風しのぎのつぶれあり	152	115	
096	1号地 埋1号	-	-	-	左	--	--	--	-	152	115	
097	AD5 2号	-	1b	3	-	--	--	--	火候のつぶれのみ残存	-	-	
098	不明	-	-	-	-	--	--	--	未確認 残存を記す	-	-	

表57 第9地点出土煙管(吸口)観察表

Tab. 57 Notes on pipes (mouthpieces) at NM9

器種番号	出土地場所	全体形状	内長	ラウ	吸口	蓋	備	考	国	固
			(mm)	(mm)	(mm)					
099	16号地 埋2号	II B	62	6	3	-	-	-	153	112
100	16号上段 埋5a 管	II A	37	11	6	-	-	-	153	112
101	16号上段 埋5号	II B	76	9	4	ラウ材残存 鍍金残存 石墨り文	-	153	112	
102	16号上段 埋4號	II A	43	9	4	肩部分の断面が八角形	-	153	112	
103	15号上段 埋5號	-	-	-	-	-	-	-	-	-
104	15号上段 埋5號	II A	-	-	-	鍍金残存	-	153	112	
105	15号上段 埋3號	II A	57	9	3	-	-	-	153	112
106	柱2号 埋2号	-	-	8	-	ラウ材残存	-	-	-	-
107	柱2号 埋2号	II A	60	12	3	-	-	-	153	112
108	柱2号 埋3号	II B	-	-	4	ラウ材残存	-	153	112	
109	柱2号 埋3号	II B	60	10	3	石墨り文 ラウ材残存	-	153	112	
110	13号上段	II B	-	-	-	ラウ材残存	-	153	112	
111	1号井 埋1号	II B	-	-	5	ラウ材残存	-	153	112	
112	1号井 埋1号	II B	84	10	5	ラウ材残存	-	153	112	
113	AC4 3c 管	II B	100	12	3	魚子地に石墨り文 ラウ材残存(表面が無い)	-	153	112	
114	AC4 3c 管	II B	-	-	9	ラウ材残存	-	-	-	-
115	2号井 埋1号	II B	82	12	5	-	-	-	153	112
116	1号地 埋1号	II B	-	-	-	-	-	-	-	-
117	1号地 埋1号	II B	-	-	-	-	-	-	-	-
118	1号地 埋1号	II B	44	9	6	-	-	-	153	112
119	AC5 2號	II B	-	-	9	-	ラウロ付近に磨工あり	-	-	-
120	AC5 2號	II B	66	12	5	ラウ材残存	-	-	-	-
121	AB4 2號	II B	79	10	5	ラウ材残存	-	-	-	-
122	AE8 2號	II A	41	-	3	-	-	-	-	-
123	鍍金	II B	-	-	9	-	ラウ材残存	-	-	-
124	不明	II A	-	-	5	-	-	-	-	-

表58 第9地点出土その他の金属製品観察表

Tab. 58 Notes on various metal implements at NM9

登録番号	出 土 場 所	種 類	素 材	備 考	図	西原
128	16号土坑 埋5層	骨	銅	双足 表面に文様 銀金	154	113
129	16号土坑 埋5層	骨	銅	双足	—	—
130	16号土坑 埋5層	骨	銅	双足 表裏両面に文様 銀金	154	113
131	15号土坑 埋2層	骨	銅	双足 表裏両面に文様 銀金	154	113
132	2号窯 埋2層	骨	銅	双足 表裏両面に文様	154	113
133	1号窯 埋5層	骨	銅	单足 表面に文様	154	113
134	2号窯 埋1層	骨	銅	双足	—	—
135	AF5 2層	骨	銅	双足	154	113
136	AG5 2層	骨	銅	双足	—	—
137	AF5 8層	小刀	鉄	刀身長11.4cm 奥長7.1cm	154	113
138	16号窯 埋1層	小刀	鉄	刀身長8.8cm 奥長6.1cm	154	113
139	2号窯 埋2層	小柄	鉄	柄長9.6cm	154	113
140	AF5 8層	鍔	鉄?	—	154	113
141	1号窯 埋②～④層	自貢	銅	文様	154	113
142	AC5 3c層	鍔	鉄?	—	154	113
143	1号窯 埋⑦～⑨層	鍔	鉄	表面部に木質残存	155	113
144	1号窯 埋⑤層	火箸	鉄	銀金	155	114
145	16号土坑 埋a層	灰鍔?	銅	—	155	113
146	1号井戸 埋2層	質	銅	—	155	114
147	1号窯 埋①層	こて状金具	銅	—	155	114
148	1号窯 埋⑦～⑨層	鍔番(同金具)	鉄	—	155	114
149	1号窯 埋④～⑥層	備の鍔番?	不明	銀金	156	114
150	16号土坑 埋5層	鍔番?	銅	—	156	114
151	16号窯 埋1層	飾金具	銅	—	156	113
152	15号土坑 埋5層	飾金具	銅	—	156	113
153	15号土坑 埋1層	飾金具	銅	木質部残存	156	113
154	15号土坑 埋4層	飾金具	銅	木質部残存 153と同一	156	113
155	1号窯 埋⑦～⑨層	飾金具	銅	文様 同状金具付き	156	114
156	1号窯 埋④層	飾金具	銅	片面に文様	156	114
157	2層	飾金具	銅	片面に文様	156	113
158	AC1 7b層	飾金具	銅	—	156	113
159	1号窯 埋⑦～⑨層	削籠?	銅	—	156	115
160	AF5 8層	鉄砲玉	鉄	—	—	—
161	2号窯 埋1層	鉤	鉄	—	156	113
162	AD4 7c層	鉄	鉄	—	156	113
163	AD7 3c層	環状金具	銅	—	156	114
164	AB6 3c層	小町	鉄	—	156	114
165	1号窯 埋⑤層	鍔?	銅	—	156	116
166	AF4 7d層	火打金?	鉄	—	156	114
167	AF6 7a層	不明	鉄	—	156	114
168	16号土坑 埋5d層	小町	銅	—	156	115
169	Pit8	小町	鉄	—	156	114
170	AB5 3層	不明	鉄	—	156	115
171	16号土坑 埋5d層	着柄金具	銅	納部遺存 柄部表面に黒漆	157	115
172	16号土坑 埋4層	鉄	鉄	—	157	115
173	漫乱	計金?	銅	—	—	—
174	1号窯 埋①～③層	鍔	銅	—	157	115
175	1号窯 埋⑦～⑨層	環状金具	銅	—	—	114
176	15号土坑 埋1層	小町	銅	—	157	115
177	1号窯 埋⑤層	吊り金具?	銅	—	157	115
178	柱列3 住2 埋4層	留金具	鉄	—	157	115
179	1号窯 埋⑤層	不明	銅	—	157	115
180	1号窯 埋①層	日貫	鉄	銀金	154	113
181	16号土坑 埋3d層	釘	銅	—	157	115
183	AC7 3c層	綱	鉄	—	157	115
184	AC7 3c層	綱?	鉄	—	157	115
185	AC7 3c層	綱	鉄	底部脚付	157	115

表59 第9地点出土その他の遺物観察表
Tab. 59 Notes on various implements at NM9

番号 No.	出土場所 Excavation site	種類 Type	長(直径) (cm)	幅(直径) (cm)	厚 (cm)	材質 Material	備考 Remarks	西 No.
S001	5号墓物第15埋1	石核	—	—	—	燧玉		158 116
S002	16号墓 M1層	石核	—	—	—	真白	折れ	158 116
S003	AE8 2層	石核	—	—	—	泥炭岩		158 116
S004	16号墓 墓2層	磨製石斧	—	—	—	石英安山岩質磨火斧		158 116
S005	1号井戸 墓1層	火打ち石	—	—	—	玄武岩		158 116
S006	1号井戸 墓7	火打ち石	—	—	—	玉髓		158 116
S007	1号墓 M1～②層	火打ち石	—	—	—	玉髓		158 116
S008	AB7 3c層	火打ち石	—	—	—	玉髓		158 116
S009	AD4 7b層	不明	—	3.7	0.7	石英安山岩質磨火斧	文字難判(「いら、」)	158 116
S010	AD4 7c層	芦草?	2.7	—	0.8	石英安山岩質磨火斧		158 116
S011	5号墓石剣復元成	磨石	2.2	2.0	0.5	真白		158 116
S012	16号墓 M2層	小削	—	—	—	石英安山岩質磨火斧	洗削した痕跡	— 117
S013	16号上坑 墓5d層	硯	15.1	6.1	1.9	粘板岩		159 117
S014	13号+坑	硯	—	7.1	—	粘板岩	桜花の模刻	159 117
S015	1号墓 墓4層	硯	—	7.4	—	粘板岩	裏面に切込み	159 117
S016	AF5 3層	硯	15.1	4.6	1.8	粘板岩	高橋院? 文字難判(「大極上本高」、「性石」)	159 117
S017	15号+坑 墓4層	火打ち石	—	—	—	水晶		159 117
S018	AD1 8層	火打ち石	—	—	—	水晶		158 116
S019	AC3 7c層	火打ち石	—	—	—	玉髓		158 116
G001	13号上坑 墓1層	器	—	0.5	0.3	ガラス		158 117
G002	15号上坑 墓1層	器	—	0.7	0.3	ガラス		158 117
G003	15号上坑 墓1層	器	—	0.7	0.4	ガラス		158 117
G004	13号上坑 墓1層	器	—	0.5	0.3	ガラス		158 117
G005	13号上坑 墓2層	管状製品	—	0.3	—	ガラス		159 117
B001	14号+坑	管	—	0.4	0.2	骨角?		159 117
B002	1号墓 墓4～5層	不明	—	0.5	0.1	電卓?		159 117

5. 自然科学的分析

(1) 植物遺体

東北大学理学部附属植物園 内藤俊彦

二の丸跡第9地点は、江戸時代初期に伊達政宗の四男である宗泰の屋敷の置かれていた場所に当たるという。二の丸が造営された後には、台所門の西側の地区に当たる。

層序は、地山の上に部分的に8層が認められ、南区の7—①層上面では、畑の跡が確認されている。4・5・6層が二の丸造営時の整地層とされている。3b・3c層は、二の丸期の整地層であるという。上記のような基本層、ならびに各期の遺構の埋土から検出された植物遺体について調査を行った。

検出された植物遺体は、17世紀前半の資料、18世紀後葉の資料、19世紀前～中葉の資料の3群に大別できる。17世紀初頭の資料は、最古段階の整地層である8層、Ib期の16号溝の埋土および同期の遺構を覆う層（7d・7c・7b）から出土している。18世紀後葉の資料は、ゴミ穴と推定されている、V期の16号土坑から出土した資料である。19世紀前～中葉の資料は、V期の1号池から出土している。

出土した植物遺体を裸眼および実体顕微鏡を用いて形態的特徴を検討し、植物図鑑の検索表や記載特徴と照合して種を特定した。植物遺体は、調査時に手掘りで取り上げられたものと、土壤サンプルを水洗して得られた資料がある。土壤サンプルの採取は、植物遺体の集中が認められた場合に、必要に応じて任意に行われている。今回は、確認できた種の記載にとどめ、定量的な検討は後日改めて行うこととした。

調査結果、NM9地点から検出された植物遺体は次の43種類である。

アカザ種子 アカマツ種子 イロハモミジ果実 ウメ核 小ウメ核 キュウリ種子 ウリ科種子 ウワミズザクラ果実 エゴノキ種子 エドヒガン核 オニグルミ核 ヒメグルミ核 カキツバタ種子 カキ種子 カタバミ種子 カボチャ種子 カヤ種子片 キカラスウリ種子 クサネム節果 クマノミズキ種子 クマヤナギ種子 クリ果実片 ケンボナシ種子 サンショウ種子 シラカシ果実片 スイカ種子 スギ種子 スミレ種子 スモモ核 モモ核 セリ科種子 タデ種子 ノブドウ種子 バラ科種子 ヒヨドリジョウゴ種子 ヘチマ種子 マタタビ種子 マツ球果 モミ種子 ツタ種子 ヤブマメ種子 ヤマウルシ種子 ヤマゴボウ種子

その他に種名の不明な液果、果実、種子、樹皮、冬芽、針葉樹の雄花および植物片が認められた。これらの種子のうち、アカザ種子、カタバミ種子、クサネム節果、スミレ種子、セリ科種子、タデ種子、ノブドウ種子、ヒヨドリジョウゴ種子およびヤブマメ種子はいわゆる畠地雜草群落など人為の影響の激しいところに生育する植物である。クサネムは水路脇などの湿地に生育する1年草である。ノブドウやヒヨドリジョウゴは垣根や林縁などに生育し他物にからみ

について登る蔓植物である。

ウメの種類は多數見られるが、品種の同定は不可能であったが、通常のウメと小ウメの2系統があった。イロハモミジは宮城県内には自生しないので、城内に植えられていた株から飛来したものであろう。オニグルミおよびヒメグルミ、特にオニグルミの核には変異が多く認められたので、城内に多くの遊水池が存在することから、城内には多く生育していたであろうと思われる。マツ球果、モミ種子、クマノミズキ種子などは御裏林から供給された可能性が高い。

カヤ種子の破片やクリ果実の破片が認められたが、これらは食用に供された物であろう。モモの核が多數出土しているが、食用に供されたものと思われる。

層位別に出現した種類は表60に示した。年代的には変化が無く、ほぼ同様の植物が検出されている。19世紀前葉から中葉の1号池からはカキツバタの種子が確認された。1号池にカキツバタが植えられていた可能性が高い。

モモ、ウメ、小ウメ、クリ、カヤ、オニグルミ、ヒメグルミ、キュウリ、カボチャ、スイカは食糧として利用されてきている。これらの中カヤは油を取り、灯明の油や食用油として使用され、重要な油脂植物であったと考えられる。また、灰汁抜きをして食糧として利用されてきた。この利用については昭和30年代まで続いていたという。しかし、現在では、殆ど利用はされていない。

オニグルミおよびヒメグルミの種子もクルミ餅などとして、カヤと同様に食糧として利用されてきたものであろう。

ウメや小ウメは梅干しとして利用された残些として捨てられたものか、二の丸の庭園に植えられていた庭木から落下した種子の何れかであろうが、何れであるかは確定できない。

モモはおそらく食糧として果肉を利用した残些として捨てられたものであろうと考えられる。カボチャ、スイカ、キュウリについては食糧として利用された残些が捨てられたものであることは疑う余地はないものであろう。キュウリ種子については全てキュウリとしたが食用のウリ属の他の種類であるかどうかは今後の検討を要する。

土壤層位や遺構などとの関わり、城内における種子類の利用などそれぞれの専門分野との検討が必要であると考えている。

表60 第9地点出土植物遺体一覧表
Tab. 60 List of seeds from NM9

年 代	層 位	種 物	名
	8層	モモ核 オニグルミ核 キュウリ種子 サンショウ種子 イロハモミジ葉実 オニグルミ核 ヘチマ種子 アカマツ種子 スギ種子 クワミズクラ果実 ヒヨドリジョウゴ種子 キガシカクリ種子 ヤマゴボウ種子 クサネム説実 細子不明 植物片不明	
	16号層	モモ核 オニグルミ核 キュウリ種子 サンショウ種子 クリ果実片 不明 不明 植物片小明	
17世紀初期	7d層	モモ核 オニグルミ核 不明種子	
	7c層	モモ核 オニグルミ核 カヤ種子片 サンショウ種子	
	7b層	モモ核 ウメ核 オニグルミ核 キュウリ種子 サンショウ種子 エゴノキ種子 カヤ種子片 ヒヨドリジョウゴ種子	
	7a層	モモ核 オニグルミ核 エゴノキ種子 ノブトウ種子 小明種子片	
17世紀後葉	7層	モモ核 オニグルミ核 シジカシ葉実片 サンショウ種子 ヒヨドリジョウゴ種子 小明種子 特物片不明	
18世紀後葉	16号土坑 埋土5号 16号土坑 埋土5号	モモ核 キュウリ種子 サイカ種子 エドヒガン核 タマノミズキ種子 ヤマウルシ種子 クマヤナギ種子 ヤツバメ種子 ツタ種子 不明果実 不明種子 ウメ核 オニグルミ核 カヤ種子片 アカマツ種子 マタタビ種子 キュウリ種子 スイカ種子 ヒヨドリジョウゴ種子 タマノミズク種子 スミレ種子 サンショウ種子 カタバミ種子 カタバミ種子 サカクシ種子片 不明果実 不明種子	
19世紀 前半—中葉	1号地	モモ核 ウメ核 エドヒガン核 キュウリ種子 サンショウ種子 イロハモミジ葉実片 オニグルミ核 ヒメグルミ核 ツリ葉実片 キュウリ種子 リスイカ種子 カボチャ種子 キカラスウリ種子 ヒヨドリジョウゴ種子 ヤマゴボウ種子 カキ種子 ケンボウ種子 ノブトウ種子 タマゴサシ種子 カキツバタ種子 被要束成 桐木冬季 植物片不明 不明種子	

(2) 花粉分析

齊藤報恩会自然史博物館 竹内貞子

① 試料および分析方法

仙台城二の丸跡第9地点において、1638年の二の丸造営に伴う大規模な整地層をはさんで、それより下層の8層・16号溝埋土・7a～7d層、上層の2号池埋土・3b層・1号池埋土より、それぞれ7試料づつ採取し、花粉分析をおこなった。

分析試料はすべてKOH-HF-アセトトリシス法によった。検鏡にあたってはAlnusを除く木本花粉200個以上を同定し、かつその間に出現したすべての草本花粉およびシダ類胞子を同定した。

② 分析結果および考察

分析の結果は、表61・62、および図160に示す通りであるが、出現率はすべて木本花粉の総量を基準とした百分率であらわしてある。下層の試料は最上部の試料番号7aを除いては、木本花粉の絶対量が少なく、百分率をだすまでにいたらなかった。花粉の出現状況をあらわすために、表62に各資料の出現個数を示した。

下層は全体として絶対花粉量が少ないが、下部でその傾向が著しい。出現する花粉・胞子は主として草本類のそれである。なかでもGramineae(イネ科)とChenopodiaceae(アカザ科)が特に多い。木本類ではFagus(ブナ属)、Quercus(コナラ属)、Cryptomeria(スギ属)、Pinus(マツ属)などが多い。上層は最下部を除いては、木本花粉の割合が多い。木本類の中ではCryptomeriaが50%以上をしめ特に多く、Pinusがこれに次いでいる。

以上の結果および堆積物の状況からみて、下層、上層ともにこの付近の比較的せまい範囲の植生をあらわしていると考えられる。

下層(1600～1638年)は溝の埋土と溝周辺の整地層である。まわりにはイネ科やアカザ科を中心とした草が多く、どちらかというと開けた乾燥した状態であった。丘陵地にはブナ属やコナラ属、クリ属、スギやマツなどが繁っていたと推測される。2号池埋土③層でイネ科を中心とした草本類が圧倒的に多いが、これは池をつくった後の開けた状態の反映と考えられる。

上層でのスギの優勢な出現は、当時すでにこの付近にスギの植林がおこなわれていたということをしめしていると考えられる。

表61 仙台城二の丸跡第9地点における花粉百分率
Tab. 61 Percentage of pollen from NM9

Tab. 61 Percentage of pollen from NM9

年 度	科 目	金 额	期初余额		本期增加		本期减少		期末余额	
			借 方	贷 方	借 方	贷 方	借 方	贷 方	借 方	贷 方
2016-12-31	货币资金	1,160,714.72	1,160,714.72							
	其中：银行存款	1,160,714.72	1,160,714.72							
	库存现金	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	其他货币资金	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应收票据	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应收账款	1,160,714.72	1,160,714.72							
	预付款项	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应收保费	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应收分保账款	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应收分保合同准备金	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应收利息	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应收股利	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	其他应收款	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	买入返售金融资产	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	存货	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	持有待售资产	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	一年内到期的非流动资产	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	其他流动资产	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	流动资产合计	1,160,714.72	1,160,714.72							
	可供出售金融资产	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	长期股权投资	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	投资性房地产	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	固定资产	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	在建工程	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	工程物资	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	固定资产清理	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	生产性生物资产	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	油气资产	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	无形资产	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	开发支出	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	商誉	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	长期应收款	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	长期股权投资减值准备	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	长期债权投资	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	长期应付款	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	预计负债	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	递延所得税资产	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	其他非流动资产	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	非流动资产合计	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	资产总计	1,160,714.72	1,160,714.72							
	流动负债	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	短期借款	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	交易性金融负债	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应付票据	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应付账款	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	预收款项	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应付职工薪酬	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应交税费	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应付利息	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应付股利	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	其他应付款	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	应付分保账款	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	保险合同准备金	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	代理买卖证券款	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	代理承销证券款	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	流动负债合计	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	负债和所有者权益(或股东权益)总计	1,160,714.72	1,160,714.72							

（第1回）やがて9時頃になると、お母さんは（おおきな音で）お出でになりました。（おおきな音で）

表62 仙台城二の丸跡第9地点における出現花粉個数表
Tab. 62 Count of pollen from NM9

		花粉											
		植物					微生物						
		裸子	被子	木本	草本	藻類	菌類	地衣	苔類	蕨類	裸子	被子	微生物
1	1	2	1	2	5	14	1	4	2	2	2	1	2
2	1	2	1	2	5	14	1	4	2	2	2	1	2
3	1	2	1	2	5	6	9	1	4	2	2	1	2
4	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
5	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
6	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
7	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
8	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
9	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
10	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
11	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
12	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
13	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
14	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
15	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
16	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
17	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
18	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
19	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
20	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
21	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
22	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
23	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
24	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
25	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
26	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
27	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
28	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
29	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
30	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
31	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
32	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
33	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
34	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
35	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
36	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
37	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
38	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
39	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
40	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
41	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
42	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
43	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
44	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
45	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
46	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
47	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
48	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
49	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
50	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
51	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
52	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
53	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
54	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
55	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
56	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
57	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
58	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
59	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
60	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
61	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
62	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
63	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
64	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
65	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
66	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
67	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
68	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
69	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
70	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
71	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
72	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
73	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
74	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
75	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
76	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
77	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
78	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
79	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
80	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
81	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
82	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
83	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
84	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
85	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
86	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
87	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
88	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
89	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
90	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
91	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
92	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
93	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
94	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
95	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
96	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
97	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
98	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
99	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
100	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
101	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
102	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
103	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
104	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
105	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
106	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
107	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
108	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
109	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
110	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
111	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
112	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
113	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
114	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
115	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
116	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
117	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
118	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
119	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
120	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
121	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
122	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
123	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
124	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
125	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
126	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
127	1	2	1	2	5	12	1	4	3	1	2	1	2
128	1	2	1	2	5	12	1						

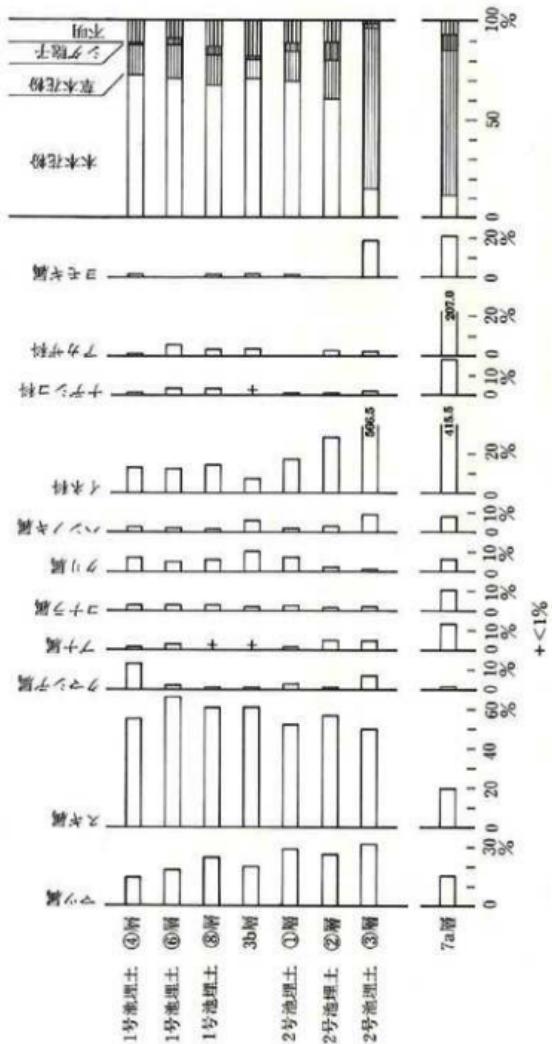


図160 第9地点における主要花粉ダイアグラム
Fig.160 Pollen diagrams from NM9

6.まとめ

(1) 検出遺構

- ①仙台城二の丸跡第9地点の検出遺構は、I期～VI期に大別され、I期はa・bの新古2段階に細別され、合計7段階に分けられる。
- ②Ia期・Ib期の遺構は、寛永15年（1638年）の二の丸造営以前にこの場所に存在したと伝えられる、初代藩主伊達政宗の四男である伊達宗泰の屋敷であると考えられる。I期の遺構には、掘立柱建物跡がある他、Ib期には調査区の北端に東西方向の溝が造られる。この溝は、元和6年（1620年）以降に、伊達宗泰の屋敷の北側に置かれた、伊達政宗の長女五郎八姫の居館である、西屋敷との間を区切る施設の一部と考えられる。
- ③II期の遺構は、寛永15年の二の丸造営の直前にあたる時期と考えられ、煙跡の可能性のある畝状遺構や柱穴が検出されている。
- ④III期以降の遺構は、二の丸造営に伴う大規模な整地層の上に造られている。III期は、二の丸造営以降、元禄年間の二の丸大改造までの時期と考えられる。検出遺構としては、掘立柱列や溝跡などが見られ、二の丸の裏門である台所門の南北側の塀にあたる可能性がある。柱列には、健の手状に曲がる部分も見られる。
- ⑤IV期は、元禄年間の二の丸大改造から、19世紀初頭までと考えられ、土坑・溝・池が発見されている。土坑の多くは、ゴミ穴と考えられ、多量の遺物が出土している。元禄年間の大改造によって、III期に見られた塀と考えられる柱列は、調査区より東側に位置をずらし、その内側にゴミ穴が多く造られたものと考えられる。
- ⑥V期は、19世紀初頭から、明治15年（1882年）に二の丸建物群が全焼する火災までの時期と考えられ、池・井戸・溝・土坑が見られる。
- ⑦VI期は、明治15年の火災以降の時期と考えられ、掘立柱建物跡・土坑・便所跡と考えられる木箱埋設遺構がある。

(2) 出土遺物

- ①江戸時代初頭から明治時代に至る各時期の、膨大な量の遺物が出土しており、その種類も多岐に渡っている。特にI期の7層・8層、16号溝埋上、V期のゴミ穴である15号土坑・16号土坑、V期の1号池からは、良好な一括資料が出土している。これら以外の時期については、ややまとまって出土している遺構・層もあるが、全般に遺物量は少ない。
- ②I期の出土遺物は、下限を二の丸造営の寛永15年（1638年）に限定できる資料である。磁器は中国産で占められ、伊万里は認められない。陶器は唐津の向付類がまとめて出土している他、織部・志野などが見られる。特筆される遺物としては、志野の南蛮人をかたどったと思わ

れる人形がある。土器類では、土師質土器の皿が出土している他、焼塩壺がややまとまってあり、仙台藩独自の焼塩壺の成立を考える上で重要な資料である。木製品・漆塗製品も比較的まとまって出土している。

③Ⅳ期の15号・16号上坑の出土遺物は、磁器から18世紀後葉の一括資料で、様々な種類の遺物が出土している。磁器はほとんどが伊万里で占められる。陶器は大堀相馬が過半を占め、次に多いのが小野相馬である。これら以外には、京・信楽が瀬戸・美濃を上回り、肥前製品は極めて少ない。土師質・瓦質土器も豊富に出上している。特に、16号上坑で木製品・漆塗製品が多く出土している。また瓦は、同じⅣ期の14号土坑でまとまって出土している。

④Ⅴ期の1号池からは、19世紀前葉から中葉の遺物がまとまって出土している。磁器は瀬戸が最多で、伊万里がこれに次ぐ。切込・平清水といった東北地方の製品も若干存在する。陶器は、圧倒的に大堀相馬が多く、堤がこれに次ぐ。土師質土器・瓦質土器や瓦の出土量も多い。木製品・漆塗製品も多く、種類も豊富である。

⑤これらの一括資料は、今後の東北地方の近世考古学研究において、基準資料となりうるものである。

《引用・参考文献》

- 愛知県陶磁資料館 1984 「近世城館跡出土の陶磁」
- 愛知県陶磁資料館 1996 「鳳州赤輪・鳳州染付・鮮花手」
- 菊倉治彦・安藤菊二・橋口秀雄・丸山信編 1970 「事物起源事典(衣食住編)」東京堂出版
- 浅野二郎・鈴木啓・野崎隼・谷口信編 1986 「梁川城本丸・庭園」梁川町文化財調査報告書第6集
- 阿刀田令造 1936 「仙台城下絵図の研究」青葉報恩会博物館図書部研究報告第四
- 飯村均 1987 「福島県新地町十二所A遺跡の近世陶磁器」『福島考古』28 pp. 75~88
- 五十嵐純一 1995 「福島県相馬市田代窯探査の陶磁器」『福島考古』第36号 pp. 17~24
- 伊東信雄 1967 「仙台城の歴史」『仙台城』pp. 1~22 仙台市教育委員会
- 伊藤正義ほか 1990 「東北の陶磁史」福島県立博物館
- 井上喜久男 1992 「尾張陶磁」ニューサイエンス社
- 今井三夫・会津芳子 1981 「史跡 弘前城跡保存修理事業 三の丸施設発掘調査報告書」
- 江戸遺跡研究会 1991 「よみがえる江戸」新人物往来社
- 江戸遺跡研究会 1992 「考古学と江戸文化」江戸遺跡研究会第5回大会発表要旨
- 江戸遺跡研究会 1992 「江戸の食文化」吉川弘文館
- 江戸遺跡研究会 1993 「遺跡にみる幕末から明治」江戸遺跡研究会第6回大会発表要旨
- 江戸遺跡研究会 1995 「江戸時代の生産遺跡」江戸遺跡研究会第7回大会
- 江戸陶磁土器研究グループ 1992 「江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅰ」シンポジウム資料
- 扇浦正義 1993 「江戸発掘」名著出版
- 大竹憲治 1989 「大堀・長井屋跡」浪江町教育委員会
- 大竹憲治 1989 「大堀相馬焼きにおける茶器・照明具の編年」『いわき地方史研究』第26号 pp. 41~55
- 大竹憲治・長瀬尚伸ほか 1982 「近世・山神御跡の研究」福島県大熊町史三巻別冊
- 大橋康二・西田宏子ほか 1988 「別冊太陽 No. 63 古伊万里」平凡社
- 大橋康二 1989 「肥前陶磁」ニューサイエンス社
- 大橋康二 1994 「古伊万里の文様」理工学社
- 大橋康二 1995 「九州における明末~清時代の中国磁器」『青山考古』第12号 pp. 55~68
- 大橋康二・尾崎泰子 1988 「有田町史 古窯園」有田町教育委員会
- 大堀相馬連合組合・創業三百年祭実行委員会 1988 「創業三百年記念誌」
- 奥津春生 1967 「仙台城の地形・地質」『仙台城』pp. 123~165 仙台市教育委員会
- 小田原市教育委員会 1990 「小田原城とその城下」
- 恒内光次郎 1995 「江州高崎窯の生産」『江戸時代の生産遺跡』江戸遺跡研究会第7回大会 pp. 21~32
- 笠原信男 1996 「仙台藩の窯戸瓦」『研究記要』第22巻 pp. 1~23 東北歴史資料館
- 関西近世考古学研究会 1994 「近世陶磁器の諸様相」第6回関西近世考古学研究会大会
- 元興寺文化財研究所 1982 「中・近世瓦の研究~元興寺篇」
- 九州陶磁文化館 1984 「国内出土の肥前陶磁」
- 九州陶磁文化館 1990 「柴田コレクション(I)」

- 九州陶磁文化館 1991 a 『柴田コレクション展(Ⅱ)』
- 九州陶磁文化館 1991 b 『肥前の色絵「その始まりと変遷」展』
- 九州陶磁文化館 1993 『柴田コレクション展(Ⅲ)』
- 九州陶磁文化館 1994 『よみがえる江戸の茶』
- 九州陶磁文化館 1995 『柴田コレクション展(Ⅳ)』
- 古泉弘 1990 『江戸を掘る』柏書房
- 古泉弘 1990 『江戸の穴』柏書房
- 胡原英輔 1993 『明代民窯 青花瓷大観』団結出版社
- 小林清治郎 1982 『仙台城と仙台領の城・要害』日本城郭史研究叢書2
- 佐久間光平・佐藤憲幸ほか 1993 『上野城跡(Ⅲ)』宮城県文化財調査報告書第149集
- 佐久間光平・小村出也 1995 『佐沼城跡』泊町文化財調査報告書第2集 泊町教育委員会
- 佐藤宏一ほか 1987 『宮城町西堀跡、利府町郷楽・天神台遺跡』宮城県文化財調査報告書第123集
- 佐藤広史ほか 1990 『切込窓跡』宮崎町文化財調査報告書第3集
- 新宿区内藤町遺跡調査会 1992 『内藤町遺跡』
- 新宿区歴史博物館 1990 『江戸の暮らし-近世考古学の世界-』
- 鈴木功・堀江格 1996 『福島市飯坂町岸蒸跡について』『福島考古』第37号 pp. 87~110
- 須藤隆・佐久間光平・山田しょう 1991 『仙台城二の丸跡第9地点の調査』『考古学ジャーナル』332 pp. 28~31
- 関善内 1974 『堤焼と陶工たち』萬葉堂書店
- 芹沢長介編 1978 『切込』東北大学文学部考古学研究会
- 芹沢長介ほか 1981 『日本やきもの集成』I 平凡社
- 芹沢長介 1983 『東北地方の近世陶磁』『世界陶磁全集』9 pp. 227~259 小学館
- 仙台市教育委員会 1967 『仙台城』
- 仙台市教育委員会 1985 『仙台城三の丸跡』仙台市文化財調査報告書第76集
- 高橋信一・小野田義和 1990 『福島空港開港跡発掘調査報告3 福音山遺跡』
- 福島県文化財調査報告書第237集
- 高橋良一郎 1977 『相馬の焼き物』ふくしま文庫40 福島中央テレビ
- 川口昭二 1983 『美濃焼』ニューサイエンス社
- 川口昭二編 1993 『美濃焼の焼物』多治見の古窯第3号 多治見市教育委員会
- 竹島國基 1974 『相馬の民窯』『行方文化』第2集 pp. 37~49 はらまち史談会
- たばこと塙の博物館編 1983 『きせる』
- 坪井利弘 1976 『日本の瓦屋根』理工学社
- 坪井利弘 1977 『四輪瓦屋根』理工学社
- 東京人字遺跡調査室 1989 『理学部7号館地点』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書1
- 東京人字遺跡調査室 1990a 『法学部4号館・文学部3号館建設地遺跡』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書2
- 東京人字遺跡調査室 1990b 『医学部附属病院地点』東京大学遺跡調査室発掘調査報告書3
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1990 『山上会館・御殿下記念館地点』東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書4

- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1985 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 1
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1990 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 3
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1992 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 4・5
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1993 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 6
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1994 『東北大学埋蔵文化財調査年報』 7
- 東北大学埋蔵文化財調査室 1989 『仙台城二の丸跡第5地点の調査』『考古学ジャーナル』312 pp. 24~29
- 東北陶磁文化館 1987 『東北の近世陶磁』
- 東北歴史資料館 1995 『仙台・堤のやきもの』
- 都立・橘高校内遺跡調査団 1985 『江戸 都立一橋高校地点発掘調査報告』
- 都立学校遺跡調査会 1990 『白鷗』
- 土岐市美濃陶磁歴史館 1991 『洛中出土の桃山陶器』
- 土岐市美濃陶磁歴史館 1993 『桃山の幸 大坂出土の桃山陶磁』
- 土岐市美濃陶磁歴史館 1994 『大坂出土の桃山陶磁Ⅱ』
- 中山雅弘 1992 『東城跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第31番
- 長崎窯業試験場 1982 『波佐見古陶磁文様集』肥前波佐見焼振興会
- 構崎彰一ほか 1980 『日本のやきもの集成』3 平凡社
- 構崎彰一ほか 1990 『尾呂』瀬戸市教育委員会
- 羽柴直人 1994 『東北地方北部における近世陶磁器の様相』
- 『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要』Ⅲ pp. 95~118
- 原町市教育委員会 1995 『相馬地方の古陶』
- 平川祐文 1995 『三春城下近世追手門前通遺跡群B地点発掘調査報告書』三春町教育委員会
- 藤本強 1990 『埋もれた江戸』平凡社
- 藤沢良祐 1987~89 『本業焼の研究(1)~(3)』『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』6~8
- 福建省博物館 1994 『漳州窑出土青花・赤絵瓷与日本出土中国外 SWATOW』
- 平凡社編集部編 1984 『やきもの事典』
- 本田統一郎 1978 『箸の本』柴田書店
- ボーラ文化研究所 1989 『日本の化粧 道具と心模様』ボーラ文化研究所コレクション 2
- 港区麻布台1丁目遺跡調査会 1986 『郵政省飯倉分館構内遺跡』
- 室野秀文・八木光則ほか 1991 『盛岡城跡Ⅰ』盛岡市教育委員会
- 李正中・朱裕平 1991 『中國古瓷銘文』天津人民出版社
- 山内幹夫ほか 1989 『田舎請戸川農業水利事業関連遺跡調査報告 中平遺跡』
- 福島県文化財調査報告書第208集

REPORT
OF THE ARCHAEOLOGICAL RESEARCH ON THE CAMPUS OF
TOHOKU UNIVERSITY

vol.8 March 1997

The Archaeological Research Center
on the Campus, Tohoku University

Katahiracho, Aoba ward, Sendai 980-77 JAPAN

Summary

This is a report of the *Ninomaru* Location 9 (east of Faculty of Law at Kawauchi Campus of Tohoku University), which was excavated by the Commission of Buried Cultural Properties on Campus in 1989-91. This report gives an outline of archaeological structures and materials found at NM9.

NM9 i.e. Loc.9 of *Ninomaru* (the secondary citadel of Sendai Castle)

The main citadel of Sendai Castle was built in A.D.1600 by *Masamune DATE*, the first *daimyo* of *Sendai-han* (feudal clan comprising a governmental organization in *Edo* period) appointed by the *TOKUGAWA* shogunate. The secondary citadel of Sendai Castle was built in A.D.1638 by *Tadamune DATE*, the second *daimyo* of *Sendai-han* on a lower terrace which had been used as the house of *Muneyasu DATE* (4th son of *Masamune DATE*). The *Ninomaru* had practically been the center of the government of *Sendai-han* for some 250 years until the *Meiji* Restoration. The site area became the Tohoku University campus in 1957 and an organized excavation began in 1983.

So far, 9 locations have been excavated. The excavations at NM9 produced excellent results as follows.

- ① Largely six phases, Ia-V, belonging to *Edo* period (1615-1868) and one phase, VI, belonging to *Meiji* period (1868-1912) are recognized in the archaeological structures found at Loc.9.
- ② The I phase can be subdivided into two phases. The I phase corresponds to the time period from 1600 when the main citadel of Sendai Castle was built, to 1638 when the secondary citadel of Sendai Castle was built. The ruins of buildings and ditches of the I phase are probably related to the residence of *Muneyasu DATE*.

Features belonging to the Ia phase were found on the base of cultural strata. Features belonging to the Ib phase were found on layer 8, which was the oldest landfill deposited during the initial *Edo* period reclamation. Probably, buildings of the Ia phase damaged by earthquakes in 1616 were reconstructed soon. The large ditch of the Ib phase found at the north of the excavated area seems to have been the boundary line between the residence of *Muneyasu DATE* and the *Nishi-yashiki*, residence of *Iroha-hime* (the eldest daughter of *Masamune DATE*). The direction of structures of the I phase is different from the datum line of buildings of the *Ninomaru*.

- ③ The II phase corresponds to the time period around the *Kan-ei* era (1624–1644). At the II phase, southeast parts of this site was used as kitchen gardens for a short span of time. Most of archaeological structures belonging to the I and II phases were covered with the landfill which consists of several different types of grit, and gravel probably imported from the skirts of mountains nearby this site.
- ④ The III phase is dated to a period from the fifteenth year of *Kan-ei* (1638) to during the *Genroku* era (1688–1704) when the secondary citadel was reconstructed in a large scale and enlarged on the north side of it. As the result, it is evident that NM9 was located at the west side of Daidokoromon, which was the north gate of the *Ninomaru* by overlaying the historical illustrated documents of Sendai Castle upon the archaeological structures found by the excavations at the secondary citadel of Sendai Castle. Many post-holes and ditches were detected, superimposed in plan, at this site. Most of post-holes seem to be of fences. The structures of the III phase had been rebuilt more than once. A part of fences is of square form.
- ⑤ The IV phase seems to be from the beginning of the 18th century to the beginning to the 19th century. Many earthen pits were found at east part of this site. At this phase west part of this site had been used as a pond. Considerable changes occurred in the use of space since the III phase, the space was a secluded corner at this phase. Some of pits were disposal pits which include many artifacts. Among the disposal pits, Pit 15 and Pit 16 are most important. Because they were filled with objects such as ceramics, tiles, lacquerwares, wooden implements and ecofacts (faunal remains) belonging to the late 18th century. The structures of this phase may well have been destroyed by the fire in 1804.
- ⑥ The V phase corresponds to the time period from the early 19th century to the middle 19th century. The end of this phase seems to be from the end of *Tokugawa* era (*Edo* period) to the beginning of the *Meiji* period. The surface of occupation at this phase are covered by the layer

which contains burnt soil produced by the catastrophic fire in 1882. The pond of the IV phase was reconstructed at the center of this site, and a well of cobble stone construction was dug on the south shore of the pond. The pond was filled up with the landfill which included many artifacts and ecofacts desposited from the *Ninomaru*.

⑦ At the VI phase (the *Meiji* period and after), this site was used by the Imperial Army. We could discover several features such as structural remains of buildings, lavatory laid with a wooden box, covered conduits and so on.

⑧ As for porcelains and glazed ceramics, assemblages of good quality were excavated from Layer 8 which is the oldest landfill, Ditch 16 which belongs to the Ib phase, Pit 15 and 16 which belong to the IV phase, and the pond of the V phase. Ceramics excavated from Layer 8 and Ditch 16 are from late 16th to early 17th century. They consist of Chinese Porcelains (*Jingdezhen* ware, *Swatow* ware) and glazed ceramics such as *Karatsu* ware, *Seto-Mino* ware (*Shino* ware, *Oribe* ware) and *Shigaraki* ware. Among of them, the most interesting objects is a ceramic doll of western figure, of *Sino* ware. Ceramics excavated from Pit 15 and Pit 16 are dated to the late 18th century. They consist of Japanese porcelains (*Hizen* ware) and glazed ceramics such as *Ohbori-souma* ware, *Ono-souma* ware, *Kyoto* ware and so on. Contrary to most of *Ohbori-souma* ware which were cheap, a great part of *Kyoto* ware were probably the top-priced ceramics at the time. Ceramics excavated from the pond of the V phase are from the early 19th century to the middle 19th century. Though most of porcelains belonging to this time are of two main products: *Hizen* ware and *Seto-mino* ware, the works of minor kilns such as *Kirigome* ware and *Hirashimizu* are also included among the excavated pieces. The most amount of glazed ceramics after *Ohbori-souma* ware is *Tsutsumi* ware produced in *Sendai*, a castle town.

⑨ Most of unglazed ceramics from NM9 are in dish shape. Investigation into the good assemblages of unglazed ceramics showed that most ceramics fired by techniques used to roof tiles were braziers, and they appeared during the 18th century.

⑩ Roof tiles were found from each phase except Ia. Especially, they are numerous in the IV and V phase. We classified several new type designs of eaves tile end pieces. Though most of roof tiles were biscuit ware, a glazed flat eaves tile was excavated from the pond of the IV phase.

⑪ Most of wooden artifacts and lacquerwares were found from Ditch 16 which belongs to the Ib phase, Pit 16 which belongs to the IV phase and, pond of the V phase. They were preserved in relatively good condition due to the near-constant saturation of the soil. Wooden artifacts

and lacquerwares consist of chopsticks, combs, clogs, trays, troughs, barrels, bowls, dishes, battledores, spoons, and so on. Especially, bowls with lacquer were of various kinds, and we could trace the transition among them.

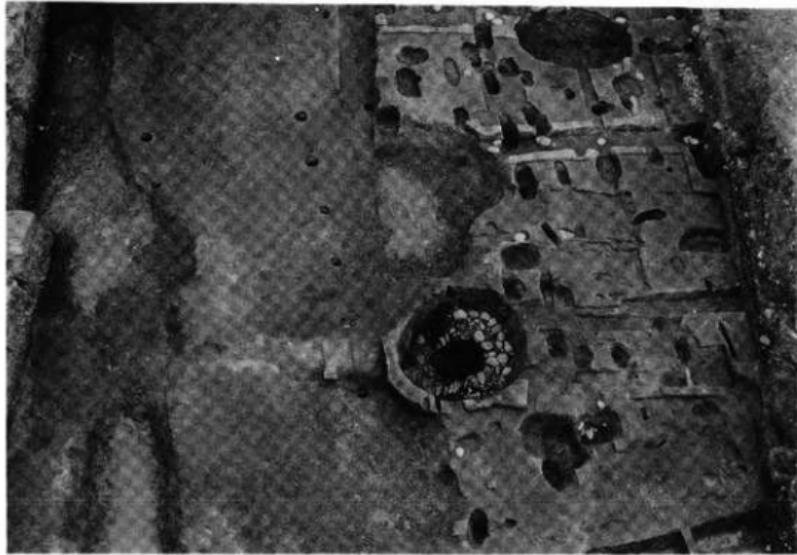
⑫ Various metal implements were found from each phase. There are coins, hair pieces, parts of swords and other various tools. Some of them have exquisite designs. As for metal implements, it is very important to date the end of the I phase, as all coins of the I phase are Chinese.

Although the excavated sector constitutes only a small part of Sendai Castle, we could outline the sequence of features and archaeological remains within the site. Many locations at Sendai Castle and the nearby houses, besides NM9 have been investigated. It is our hope that these research on Sendai Castle will shed light on questions of both the past and present in Sendai, the largest city of the northeastern district of Japan.

写 真 図 版



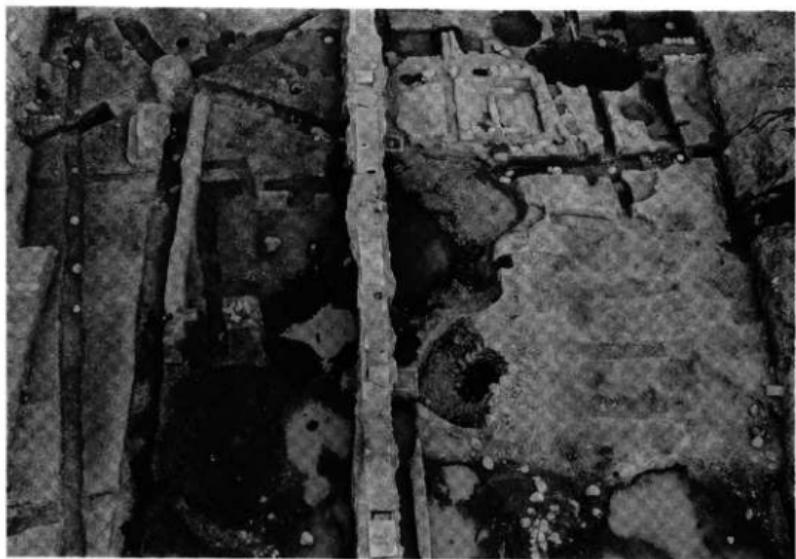
1. 調査前全景（南から）



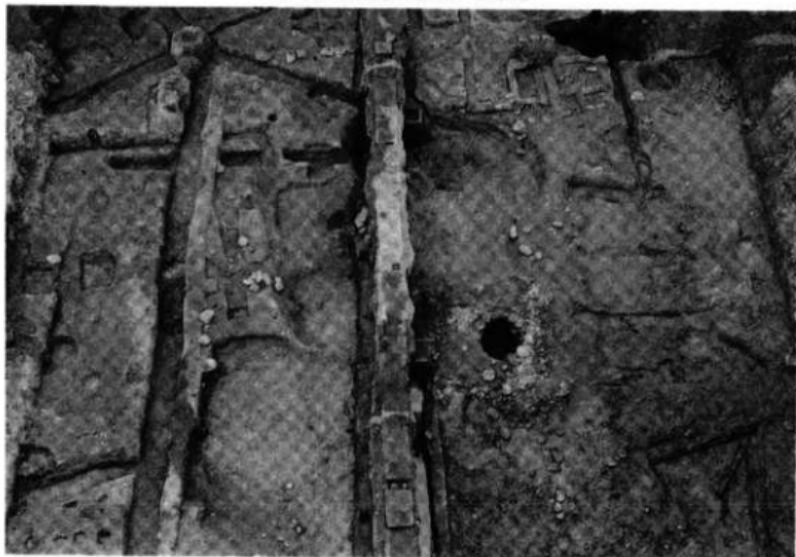
2. 調査区全景 1期相当（西から）

図版1 第9地点全景(1)

Pl.1 Views of NM9(1)



1. 調査区全景 III期相当（西から）



2. 調査区全景 VI~IV期相当（西から）

図版2 第9地点全景(2)

Pl.2 Views of NM9(2)



1. AE~AG 3区 調査区北壁セクション (南から)



2. AB~AD 3区 調査区北壁セクション (南から)



3. AB 3~5区 調査区東壁セクション (西から)



4. 調査区西壁セクション (東から)



5. AG 8区 調査区南壁セクション (北から)



6. AE 8区 調査区南壁セクション (北から)



7. AA~AB 9区 南壁セクション (北から)

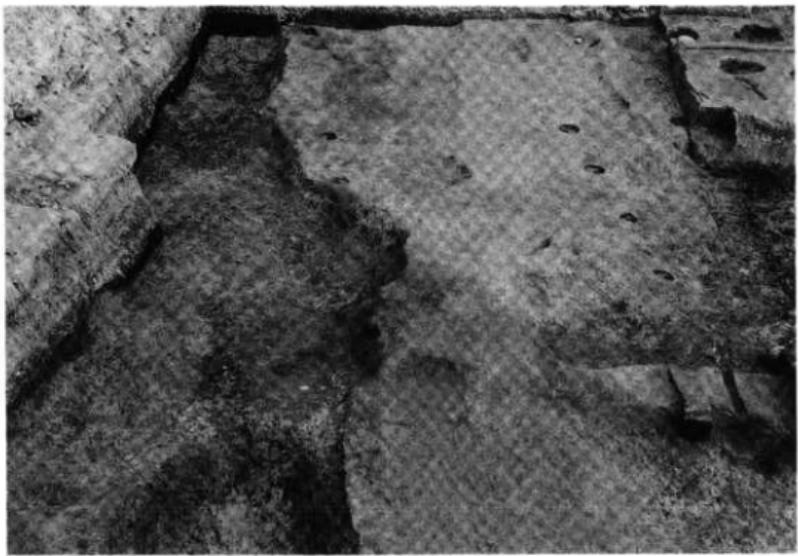


8. AA~AB 8区 北壁セクション (南から)

図版3 第9地点断面
Pl.3 Cross sections of NM9

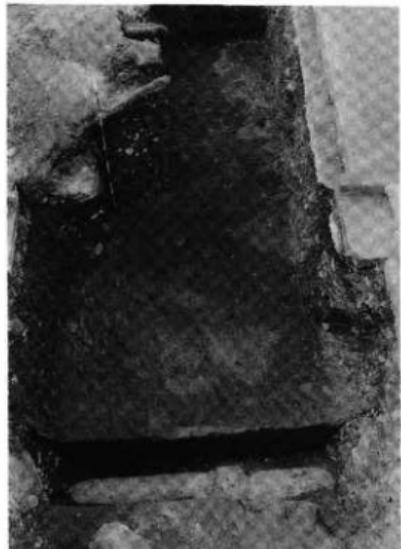


1. 南区Ⅰ期遺構(東から)

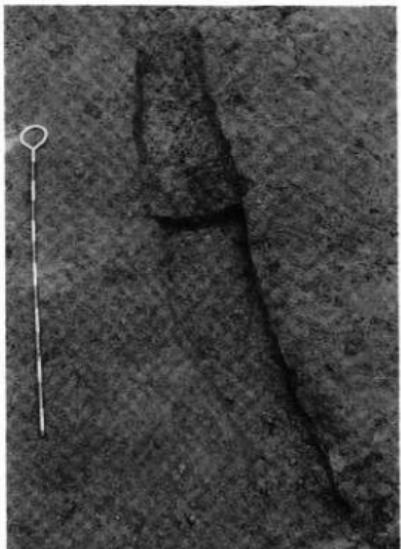


2. 16号溝 7号建物跡(西から)

図版4 第9地点Ⅰ期の遺構(1)
Pl.4 Features of phase I at NM9(1)



1. BZ 8 区 I 期検出遺構 (東から)



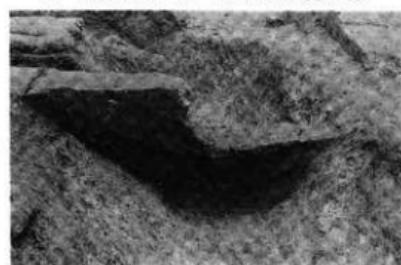
2. 21号溝 (北から)



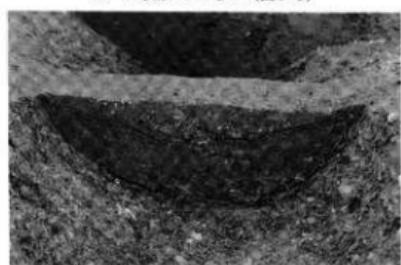
3. 16号溝セクション・調査区西壁 (東から)



4. 16号溝セクション (西から)

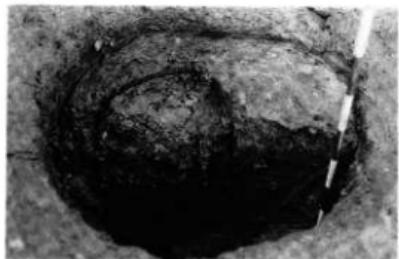


5. 20号溝セクション (北から)

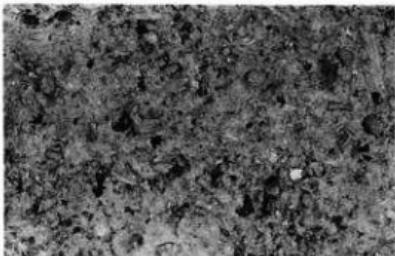


6. 19号溝セクション (東から)

図版5 第9地点I期の遺構(2)
Pl.5 Features of phase I at NM9(2)



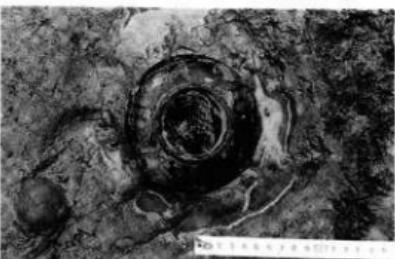
1. 7号施設跡柱穴1セクション（西から）



2. AF 5区 8層中種子出土状況（東から）



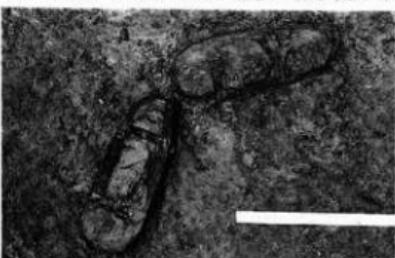
3. Pit56底面南蛮人形（胴体）出土状況（南から）



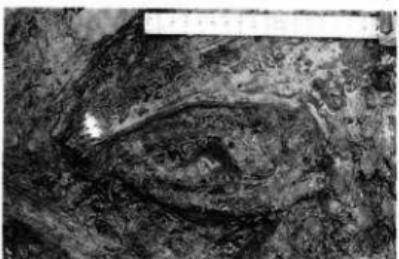
4. AD 4区 16号溝埋土1層中漆碗出土状況（北から）



5. AG 5区 16号溝埋土1層中遺物出土状況（北から）



6. AC 3区 7d層中下駄出土状況（南から）



7. AD 4区 7d層中獸骨出土状況（南から）



8. 7層中マグロ椎骨出土状況（南から）

図版6 第9地点Ⅰ期の遺構(3)
Pl.6 Features of phase I at NM9(3)



1. AC6区 7層上面斬状遺構（東から）



2. AC3区 7a層中豚骨出土状況（東から）



3. AB~AD7・8区 III期遺構群（南から）



4. AB~AC7・8区 10号溝（南から）



5. AG5区 10号溝石組状況（東から）



6. AC5区 10号溝（南から）



7. 3号建物跡柱穴5・12块石検出状況（北から）



8. 4号柱列（北東から）

図版7 第9地点II期・III期の遺構
Pl.7 Features of phase II and III at NM9



1. 4号柱列（西から）



2. 9号柱列（南から）



3. 9・10号柱列（東から）



4. 16号柱列（北から）

図版8 第9地点III期の遺構(1)
Pl.8 Features of phase III at NM9(1)



1. 6号溝（東から）



2. 8号溝（南から）



3. 10号溝（南から）



4. 12号柱列柱穴 3（西から）



5. 12号柱列柱穴セクション（西から）

図版9 第9地点III期の遺構(2)
Pl.9 Features of phase III at NM9(2)



1. 3号建物跡布掘セクション（北から）



2. 3号建物跡柱穴 5セクション（東から）



3. 9・10号柱列セクション・調査区南壁（北から）



4. 11号柱列柱穴 1セクション（北から）



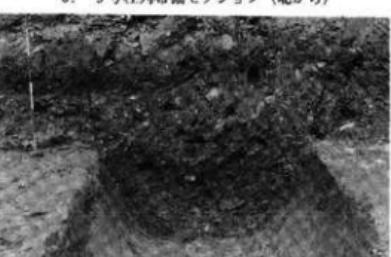
5. 4号柱列布掘セクション（西から）



6. 9号柱列布掘セクション（北から）



7. AD5区 6号溝セクション（東から）



8. 8号溝セクション・調査区南壁（北から）

図版10 第9地点III期の遺構(3)

Pl.10 Features of phase III at NM9(3)



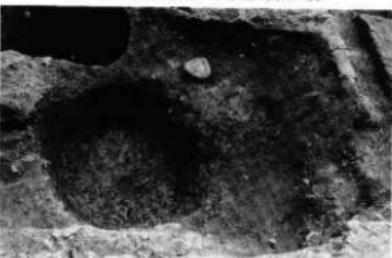
1. AF・AG 6～8区 2号池（南京から）



2. AF・AG 5区 2号池（東から）



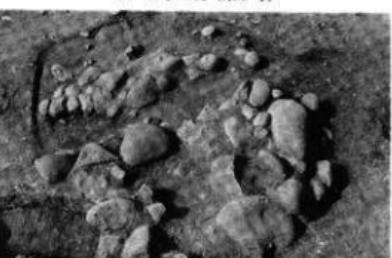
3. 13号土坑（東から）



4. 15号土坑（東から）



5. 14号土坑（南から）



6. 18号土坑（南から）



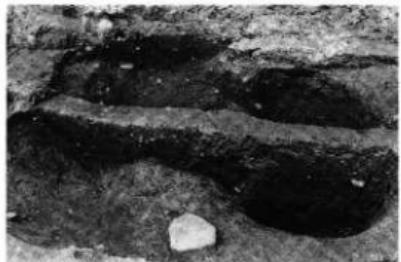
7. 19号土坑（北から）



8. 3号溝（南から）

図版11 第9地点IV期の遺構(1)

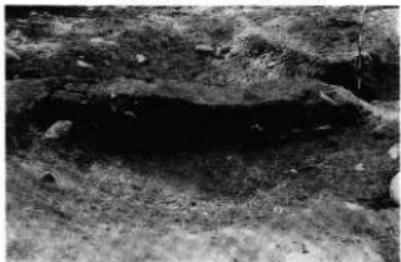
Pl.11 Features of phase IV at NM9(1)



1. 15号土坑セクション（西から）



2. 16号土坑セクション（南から）



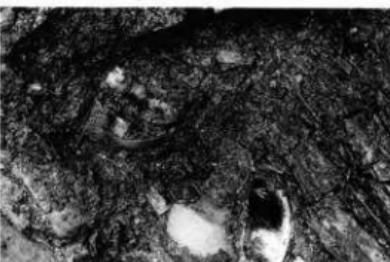
3. 17号土坑セクション（北から）



4. 4号溝セクション（南から）



5. 16号土坑埋土 5d層中遺物出土状況（西から）



6. 16号土坑埋土 5d層中遺物出土状況（西から）



7. 16号土坑埋土 5d層中遺物出土状況（南から）

図版12 第9地点IV期の遺構(2)

Pl.12 Features of phase IV at NM9(2)



1. 16号土坑埋土 5d層中木製品出土状況（東から）



2. 15号土坑埋土 3層中陶器碗出土状況（南から）



3. 12号土坑遺物出土状況（北東から）



4. 1号池（西から）



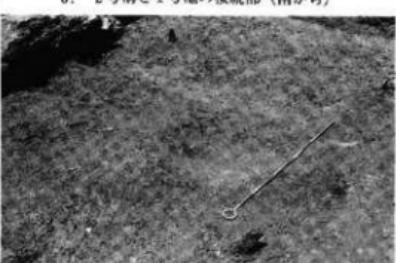
5. AD-AE 6・7区 1号池埋土⑤層上面の状況（西から）



6. 2号溝と1号池の接続部（南から）



7. 1号井戸（北から）



8. AG 7区 3b層上面の蓄状造構（南東から）

図版13 第9地点IV期・V期の遺構
Pl.13 Features of phase IV and V at NM9



1. AD 6 区 1号池南北セクション（東から）



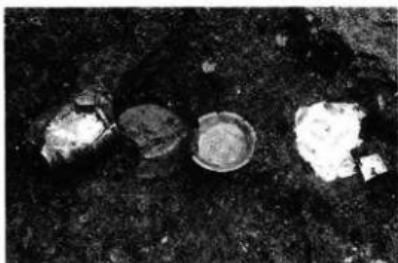
2. AD 6 区 1号池東西セクション（北西から）



3. 1号井戸セクション（北から）



4. 1号井戸（北から）



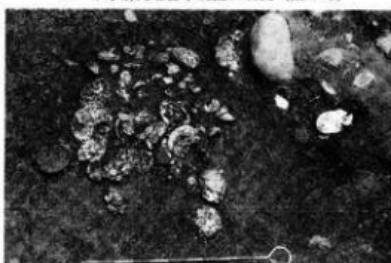
5. 1号池堆土⑦～⑨層中遺物出土状況（東から）



6. 2号溝内磁器小碗出土状況（西から）



7. AD 6 区 1号池堆土⑦～⑨層中曲物出土状況（北から）



図版14 第9地点V期の遺構
Pl.14 Features of phase V at NM9



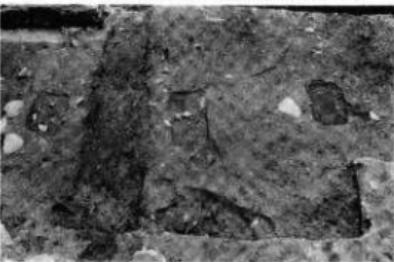
1. AD 7区 1号池埋土⑤層中出土状況（北から）



2. 1号池埋土⑦層中加工木出土状況（南から）



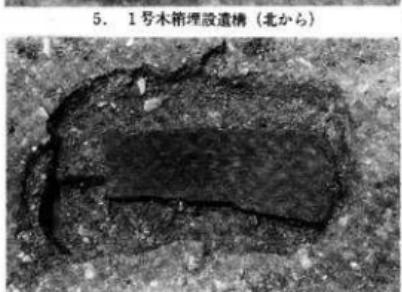
3. 1号建物跡（北から）



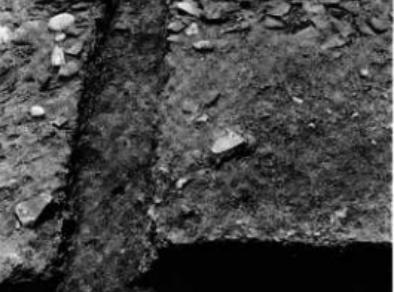
4. 1号柱列柱穴4～6検出状況（北から）



5. 1号木格理設置場（北から）



6. 1号柱列柱穴4 磚板検出状況（東から）



7. AB・AC 6区 3層上面瓦出土状況（東から）

図版15 第9地点V期・VI期の遺構
Pl.15 Features of phase V and VI at NM9



图版16 第9地点出土磁器(1)
Pl.16 Porcelains from NM9(1)

S = 1 : 3



图版17 第9地点出土破器(2)

Pl.17 Porcelains from NM9(2)

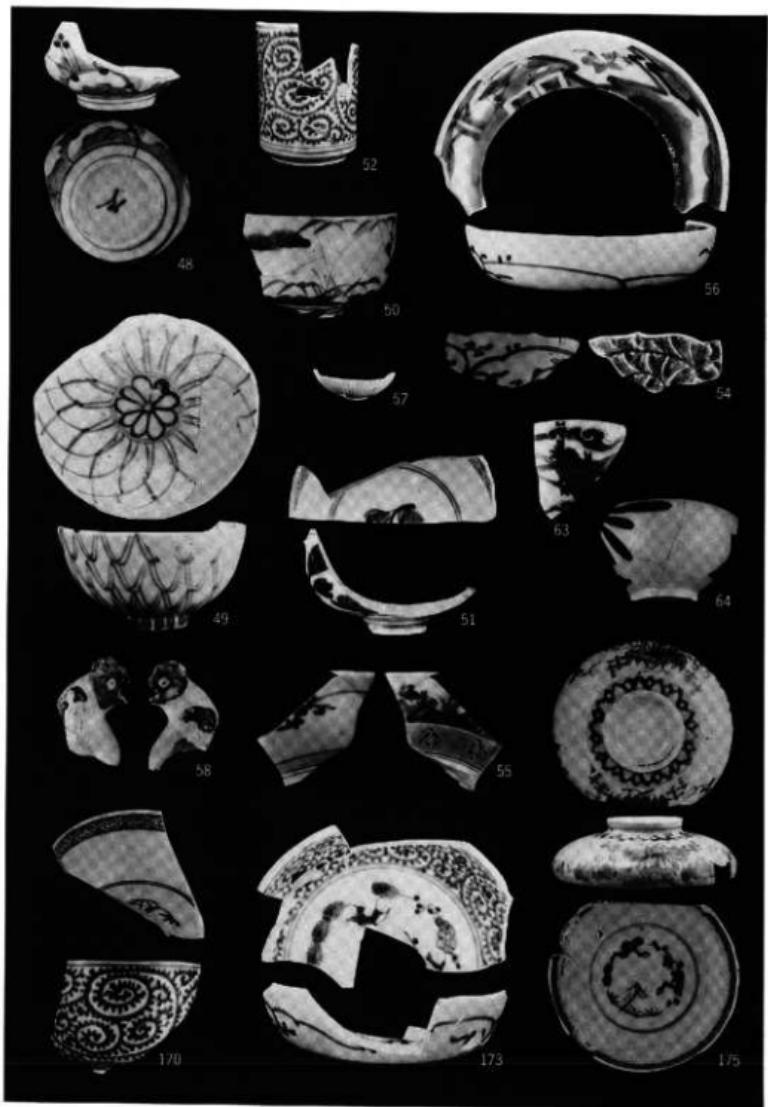
S = 1 : 3



图版18 第9地点出土磁器(3)

Pl.18 Porcelains from NM9(3)

S = 1 : 3



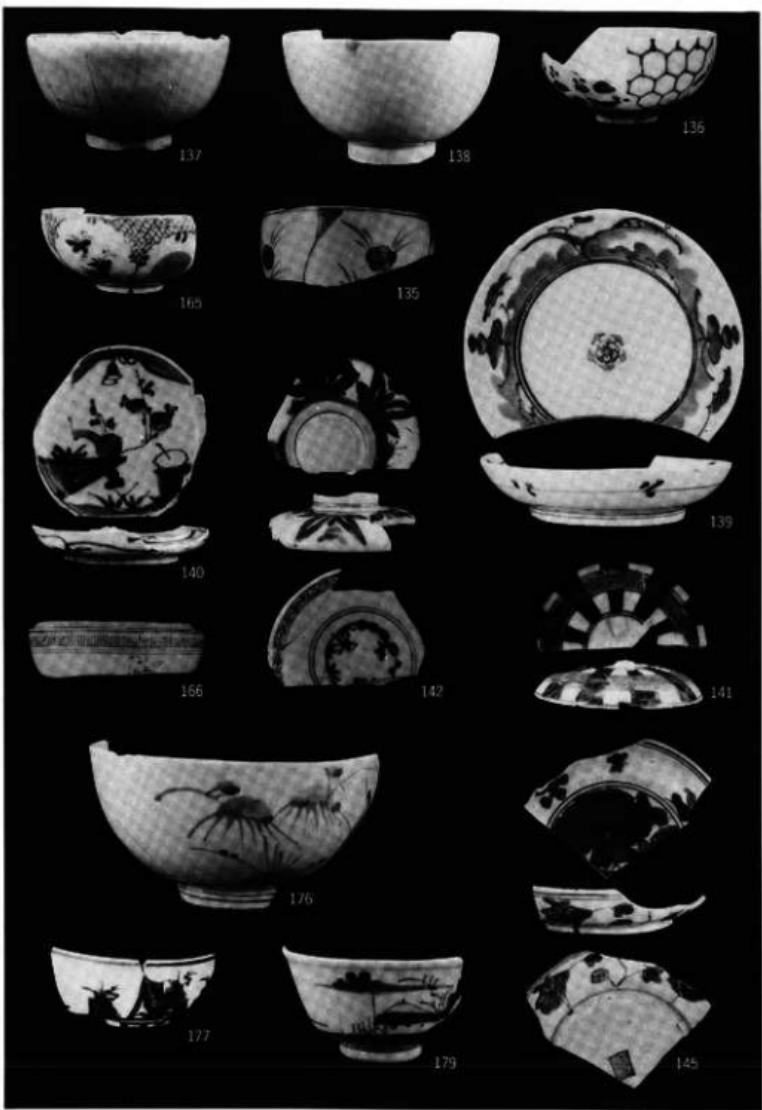
圖版19 第9地點出土磁器(4)
Pl.19 Porcelains from NM9(4)

S = 1 : 3



图版20 第9地点出土磁器(5)
Pl.20 Porcelains from NM9(5)

S = 1 : 3



図版21 第9地点出土磁器(6)

Pl.21 Porcelains from NM9(6)

S = 1 : 3



图版22 第9地点出土磁器(7)

Pl.22 Porcelains from NM9(7)

S = 1 : 3



图版23 第9地点出土瓷器(8)
Pl.23 Porcelains from NM9(8)

S = 1 : 3



图版24 第9地点出土磁器(9)
PL.24 Porcelains from NM9(9)

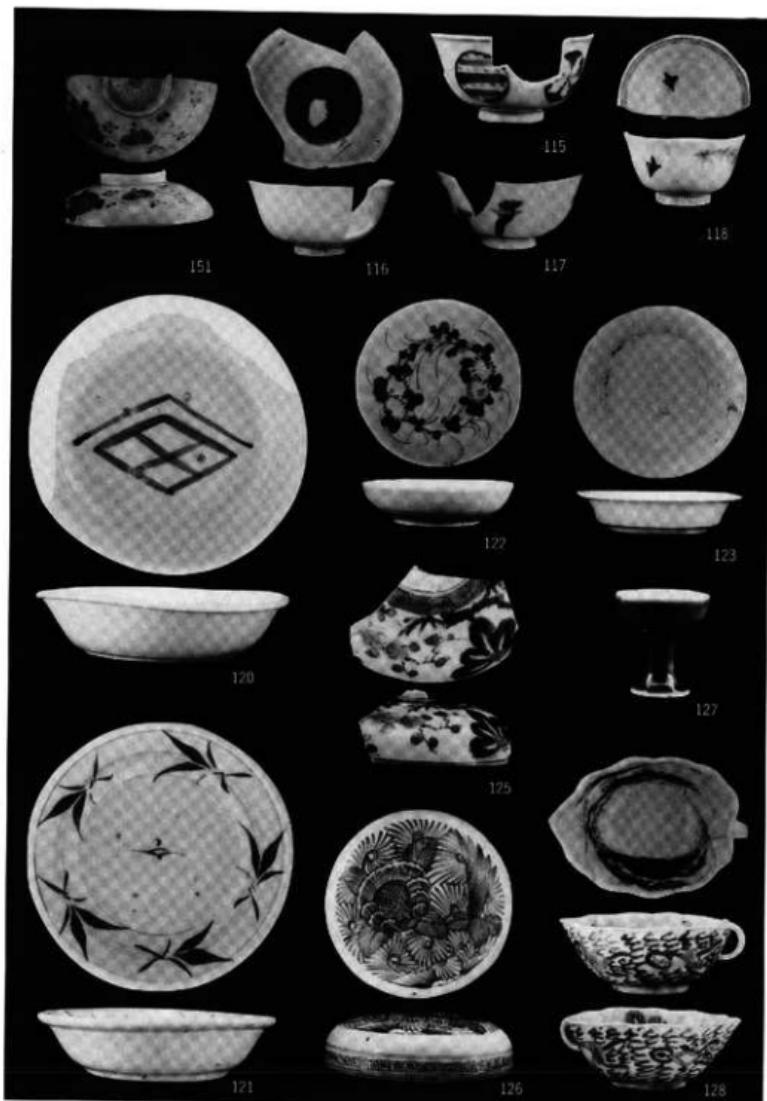
S = 1 : 3



图版25 第9地点出土磁器(10)

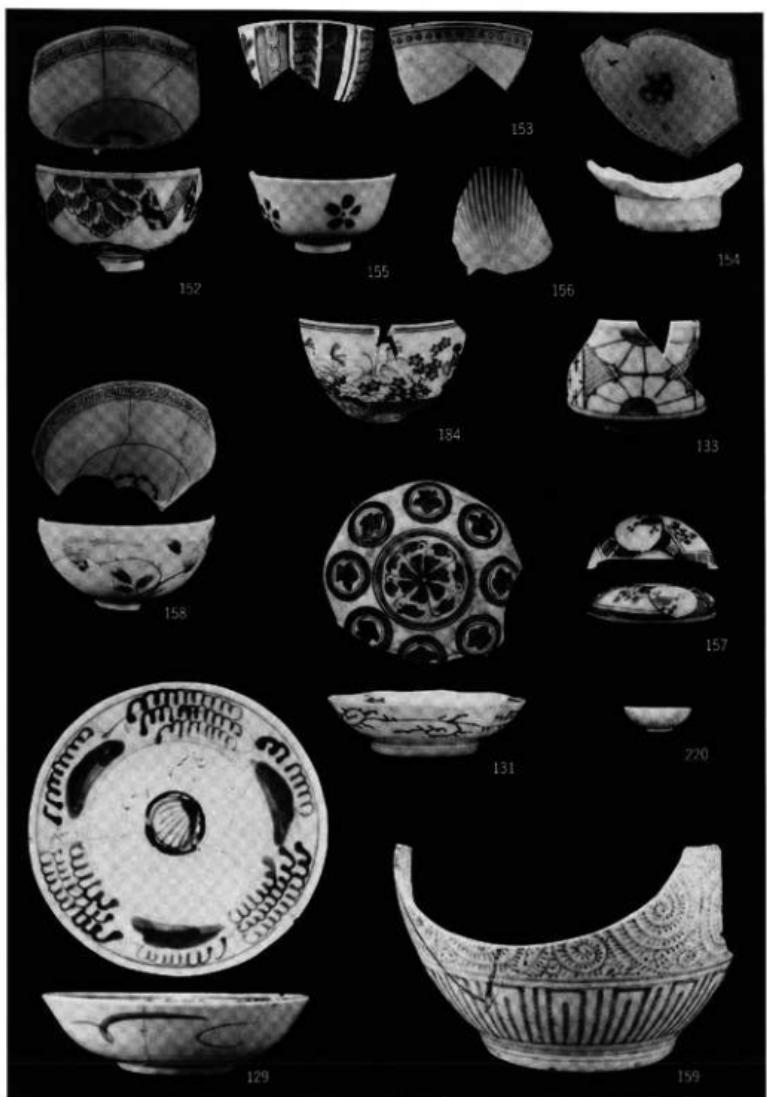
PL.25 Porcelains from NM9(10)

S = 1 : 3



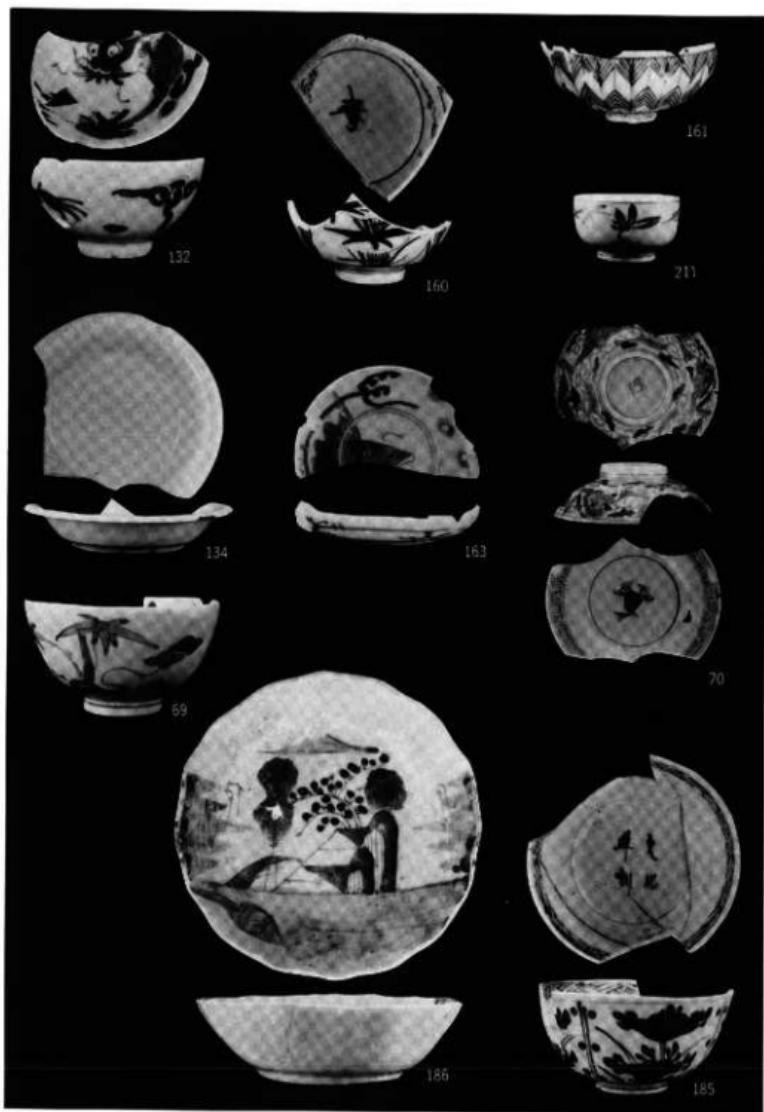
圖版26 第9地點出土磁器(11)
Pl.26 Porcelains from NM9(11)

S = 1 : 3



图版27 第9地点出土瓷器(12)
Pl.27 Porcelains from NM9(12)

S = 1 : 3



图版28 第9地点出土磁器(13)

PL28 Porcelains from NM9(13)

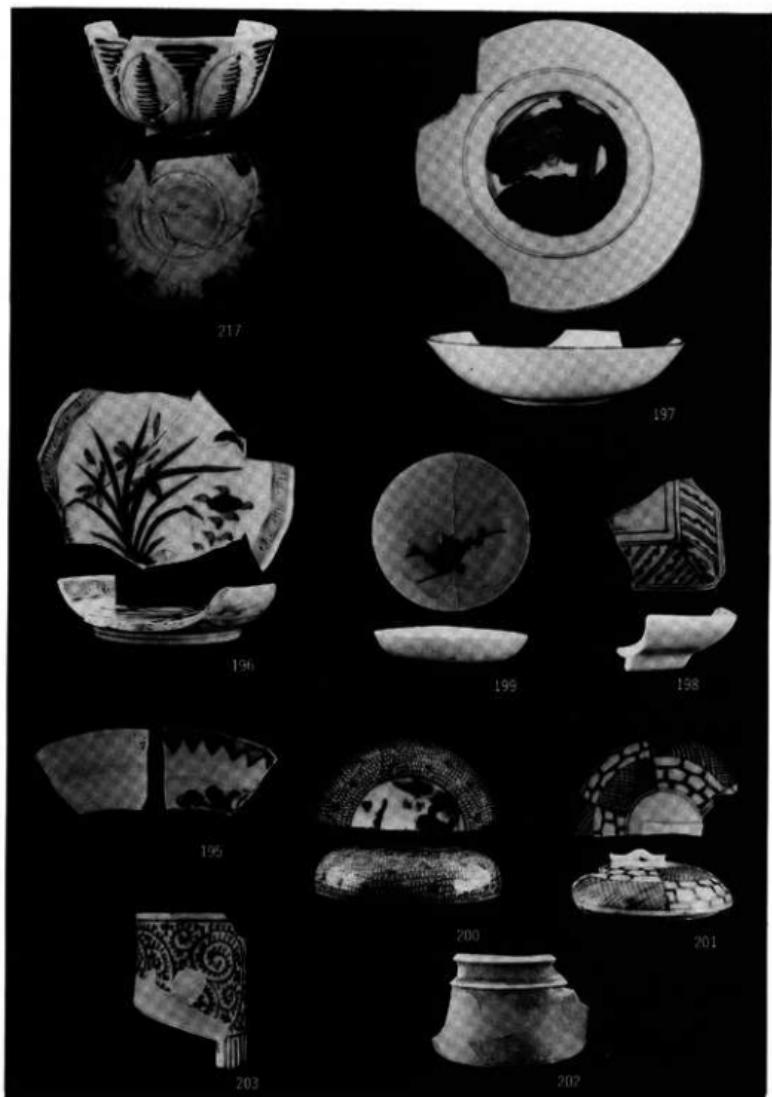
S = 1 : 3



图版29 第9地点出土磁器(14)

Pl.29 Porcelains from NM9(14)

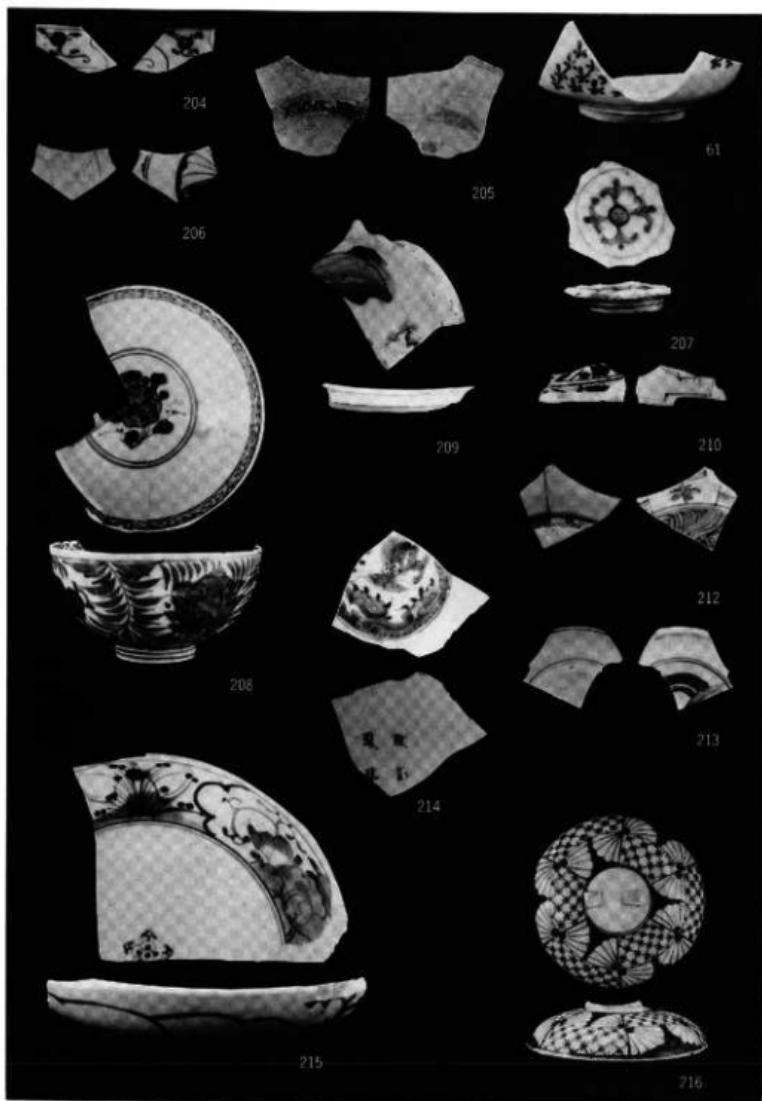
S = 1 : 3



図版30 第9地点出土磁器(15)

Pl.30 Porcelains from NM9(15)

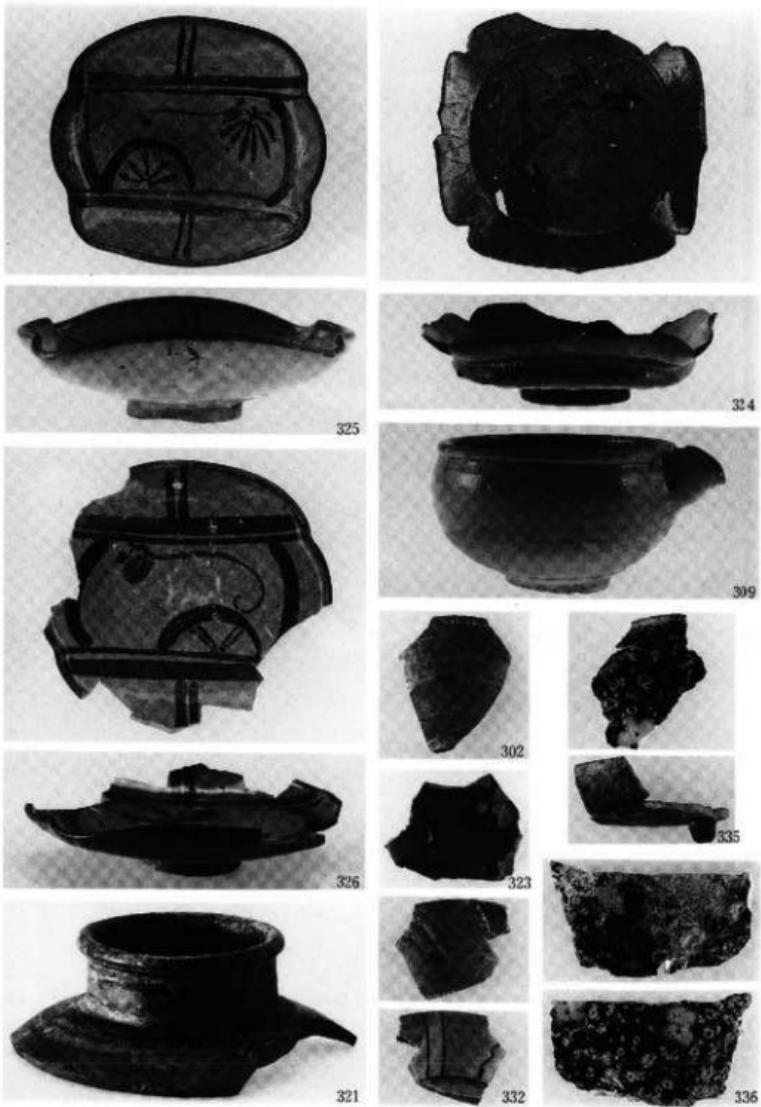
S = 1 : 3



图版31 第9地点出土陶器(16)

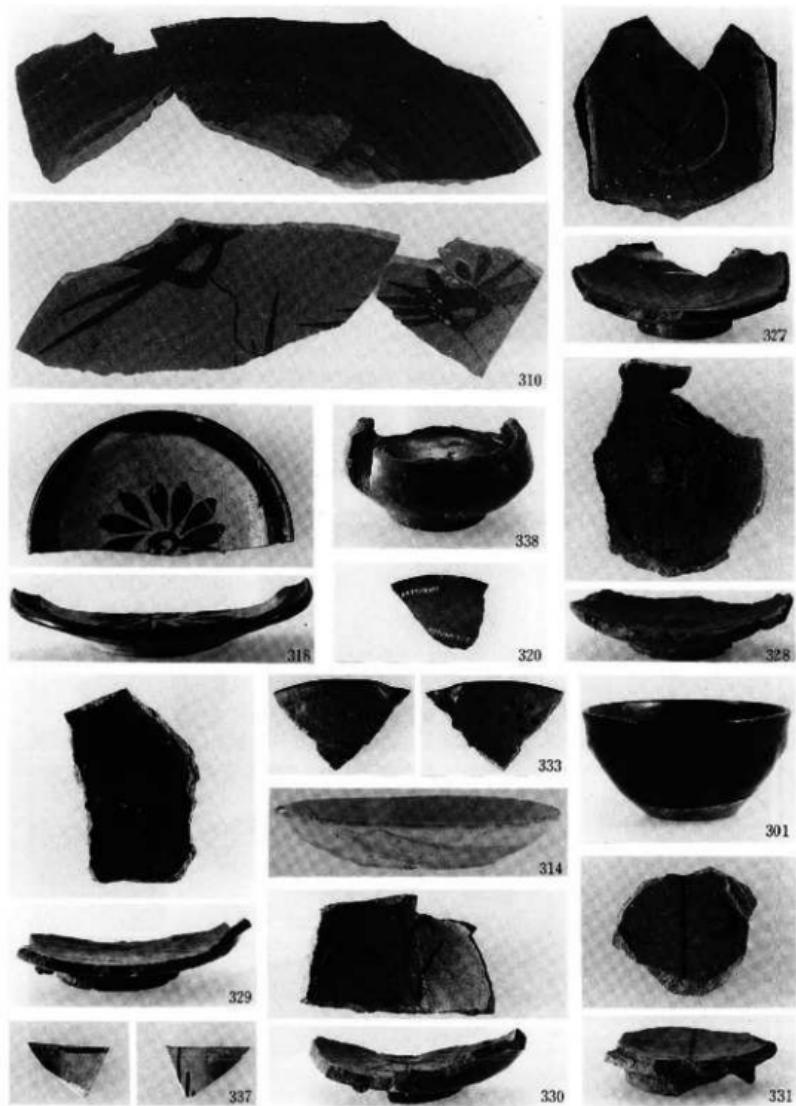
Pl.31 Porcelains from NM9(16)

S = 1 : 3



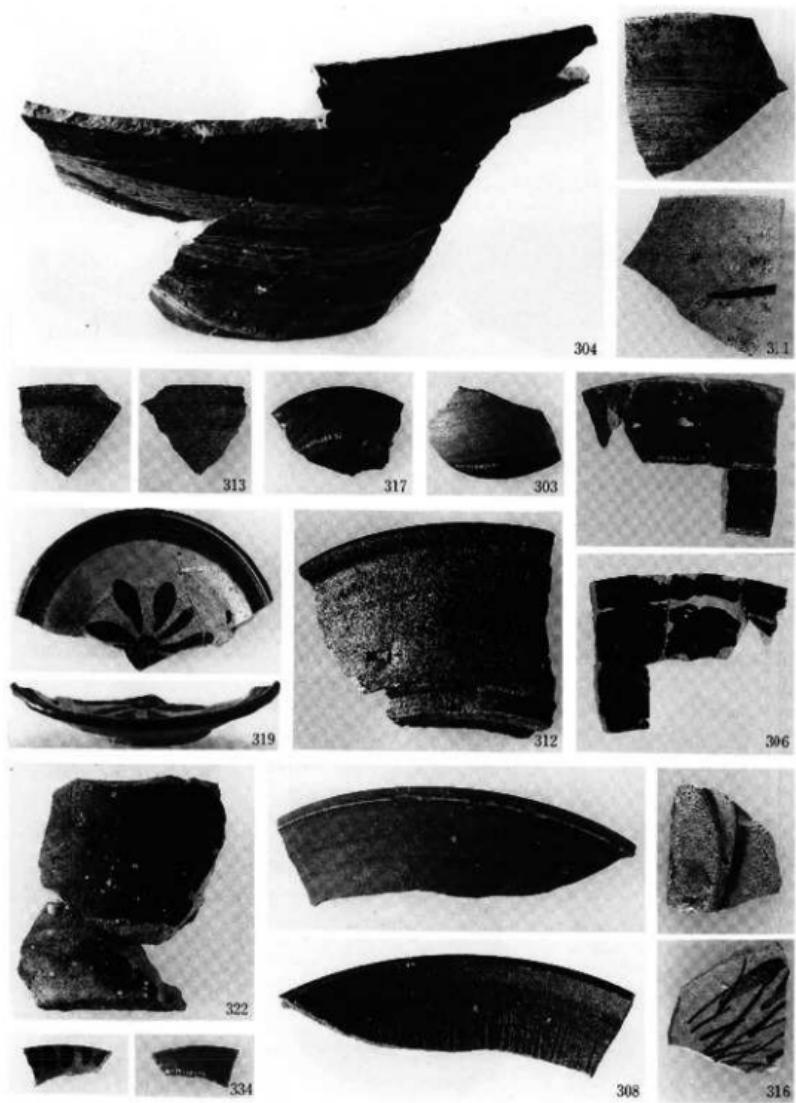
圖版32 第9地點出土陶器(1)
 Pl.32 Glazed ceramics from NM9(1)

$S = 1 : 3$



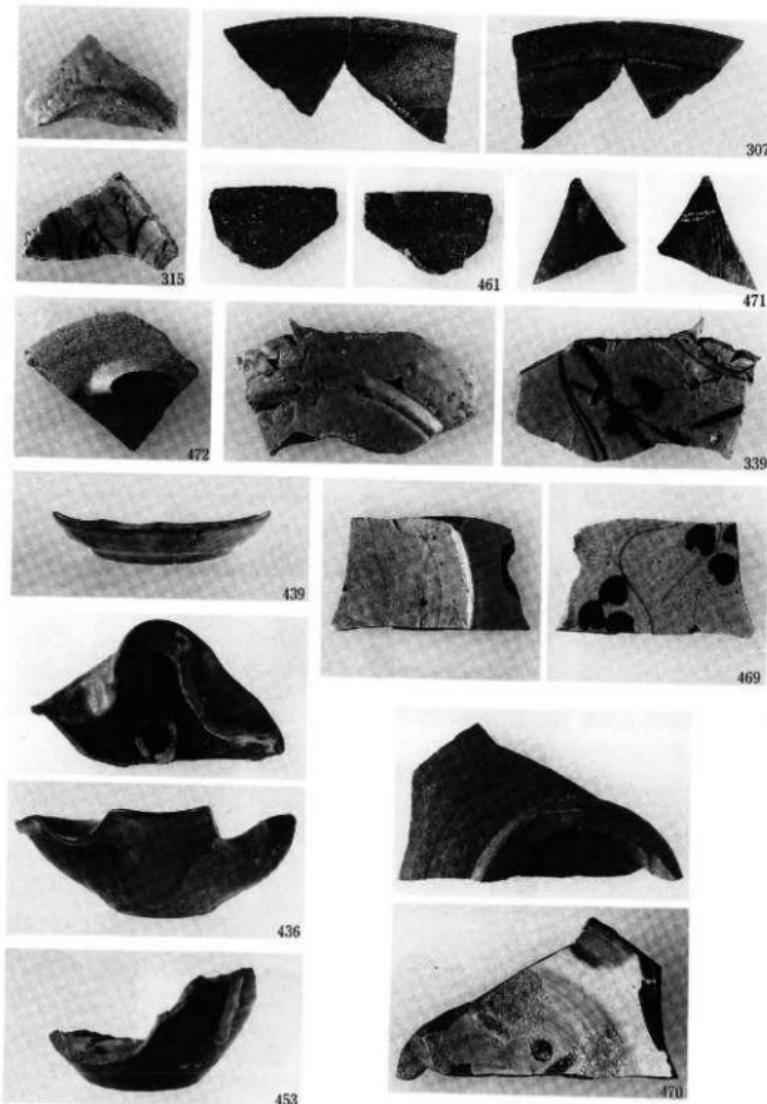
图版33 第9地点出土陶器(2)
PL.33 Glazed ceramics from NM9(2)

S = 1 : 3



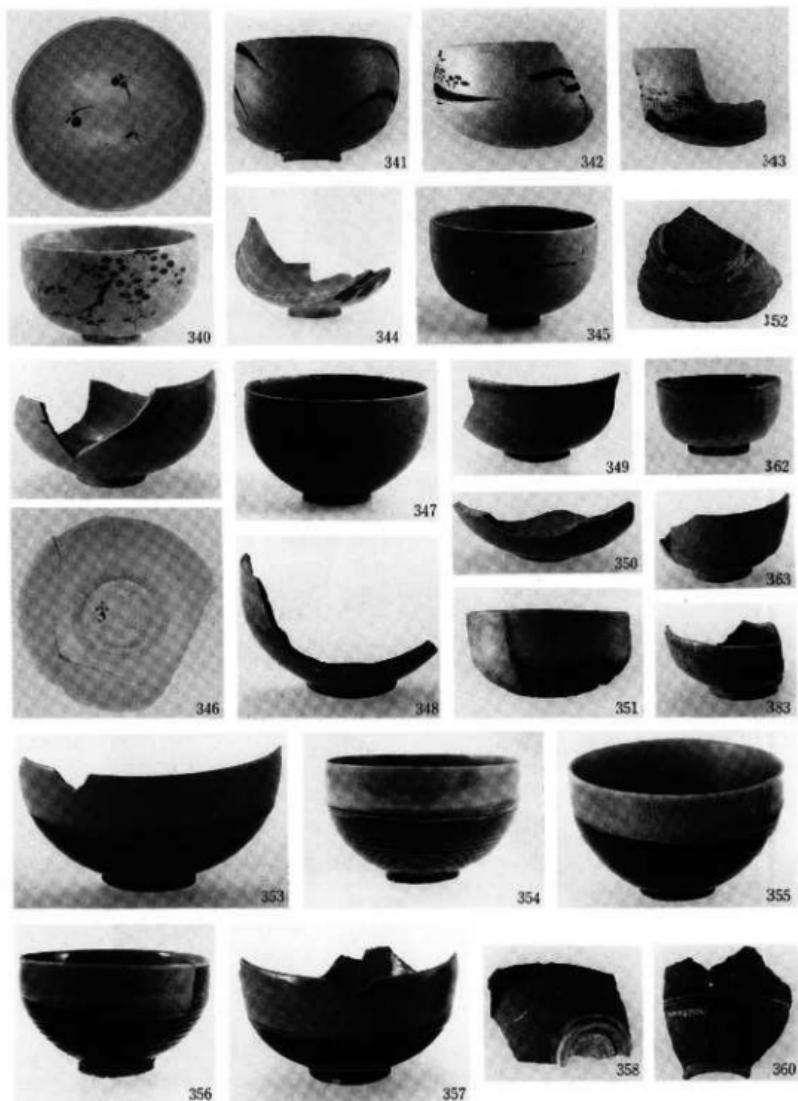
圖版34 第9地點出土陶器(3)
Pl.34 Glazed ceramics from NM9(3)

S = 1 : 3



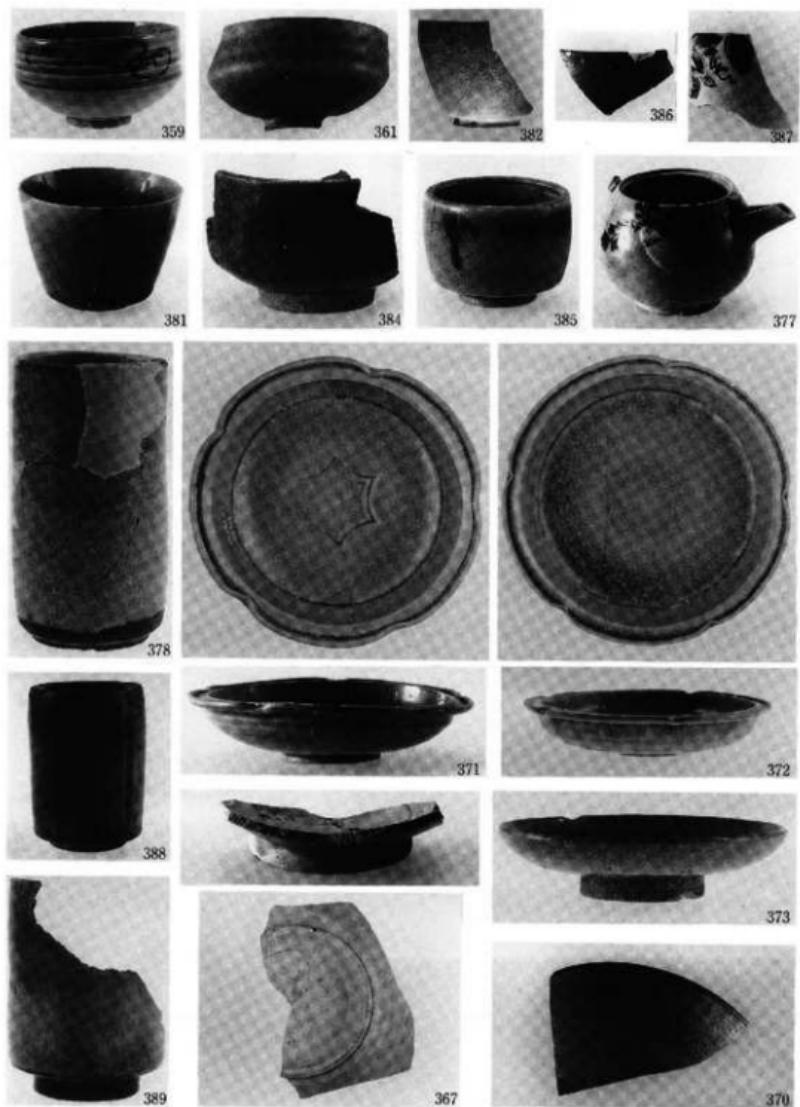
图版35 第9地点出土陶器(4)
Pl.35 Glazed ceramics from NM9(4)

S = 1 : 3



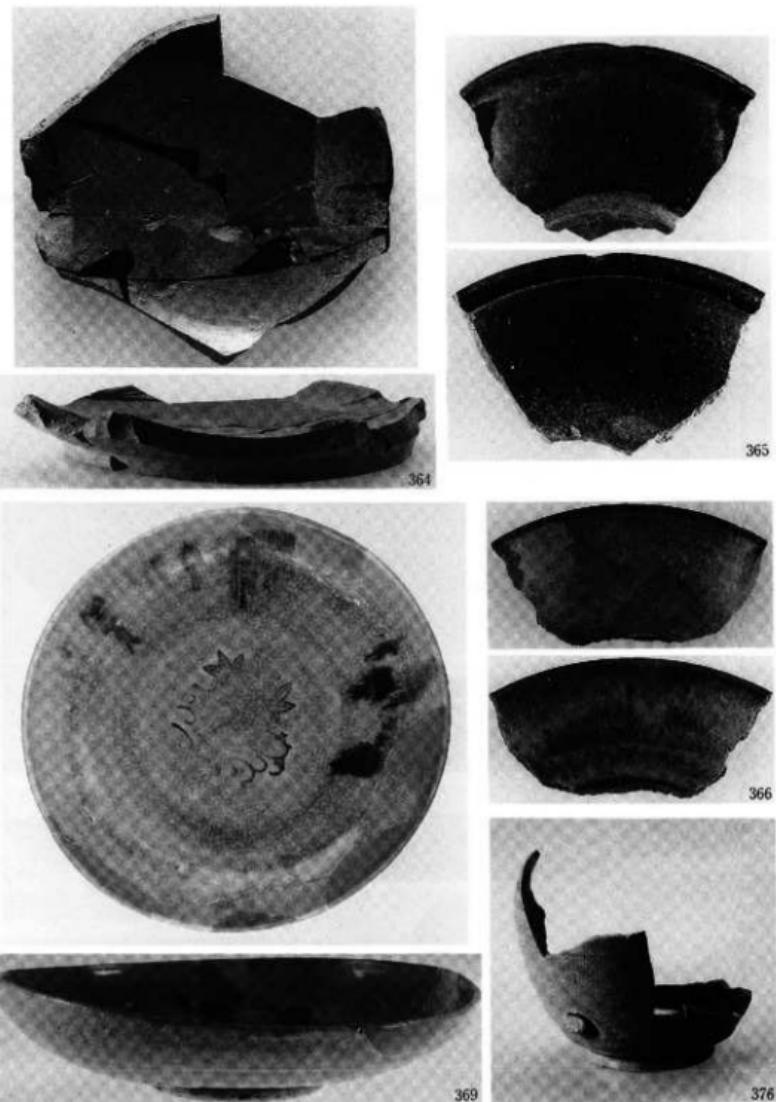
图版36 第9地点出土陶器(5)
Pl.36 Glazed ceramics from NM9(5)

S = 1 : 3



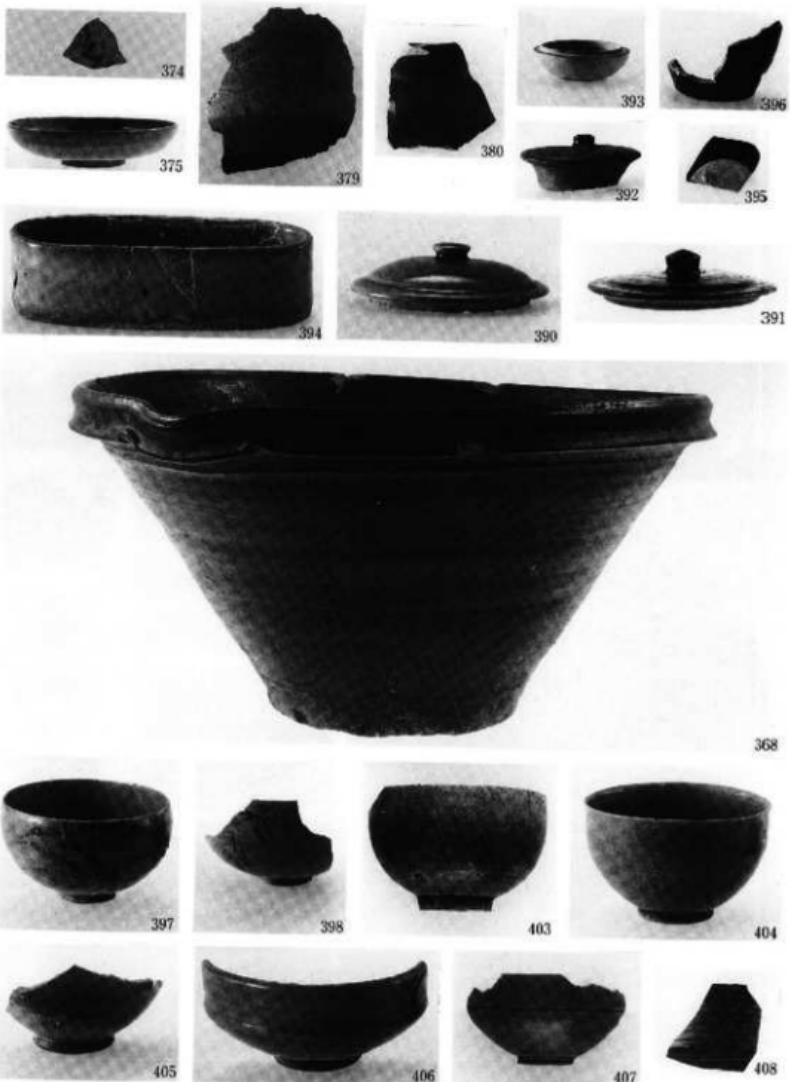
图版37 第9地点出土陶器(6)
Pl.37 Glazed ceramics from NM9(6)

S = 1 : 3



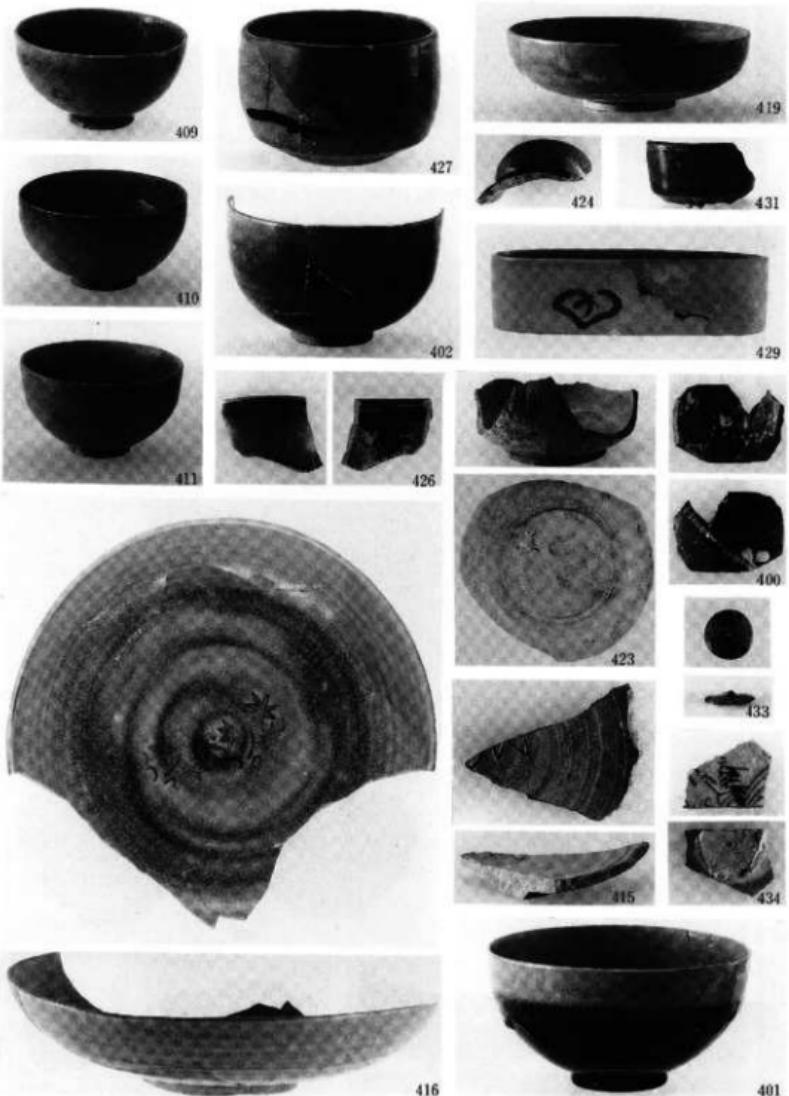
图版38 第9地点出土陶器(7)
Pl.38 Glazed ceramics from NM9(7)

S = 1 : 3



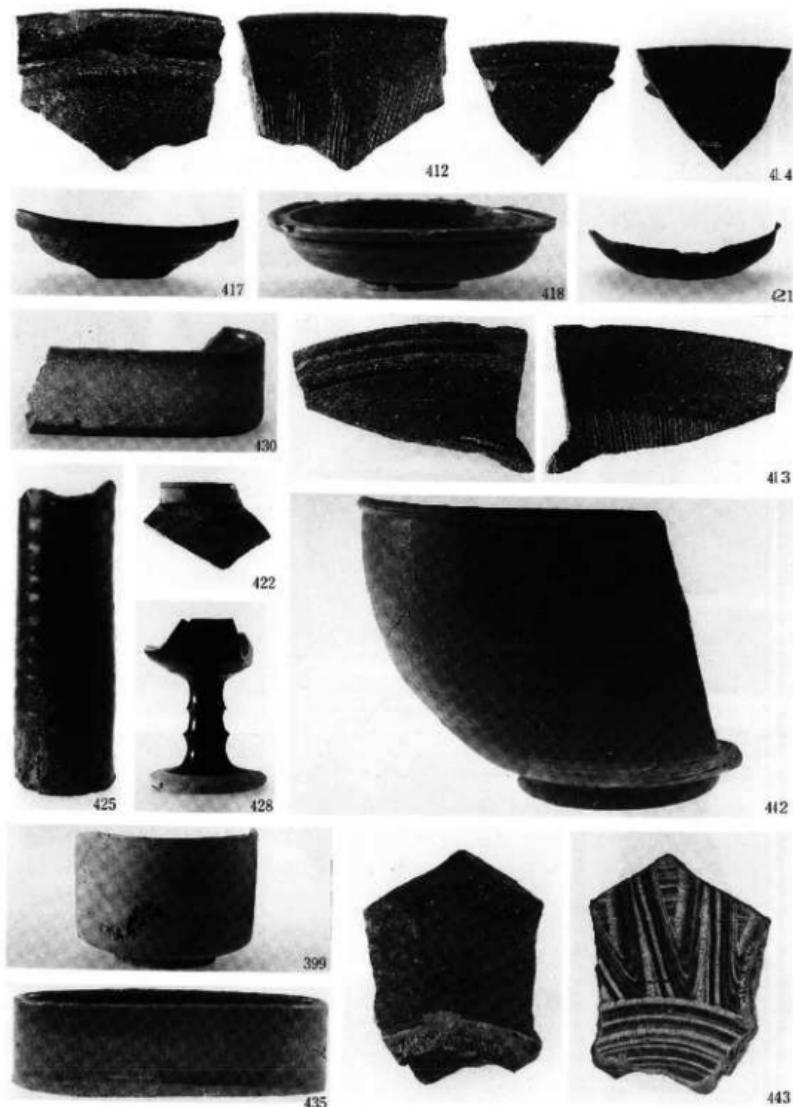
図版39 第9地点出土陶器(8)
Pl.39 Glazed ceramics from NM9(8)

S = 1 : 3



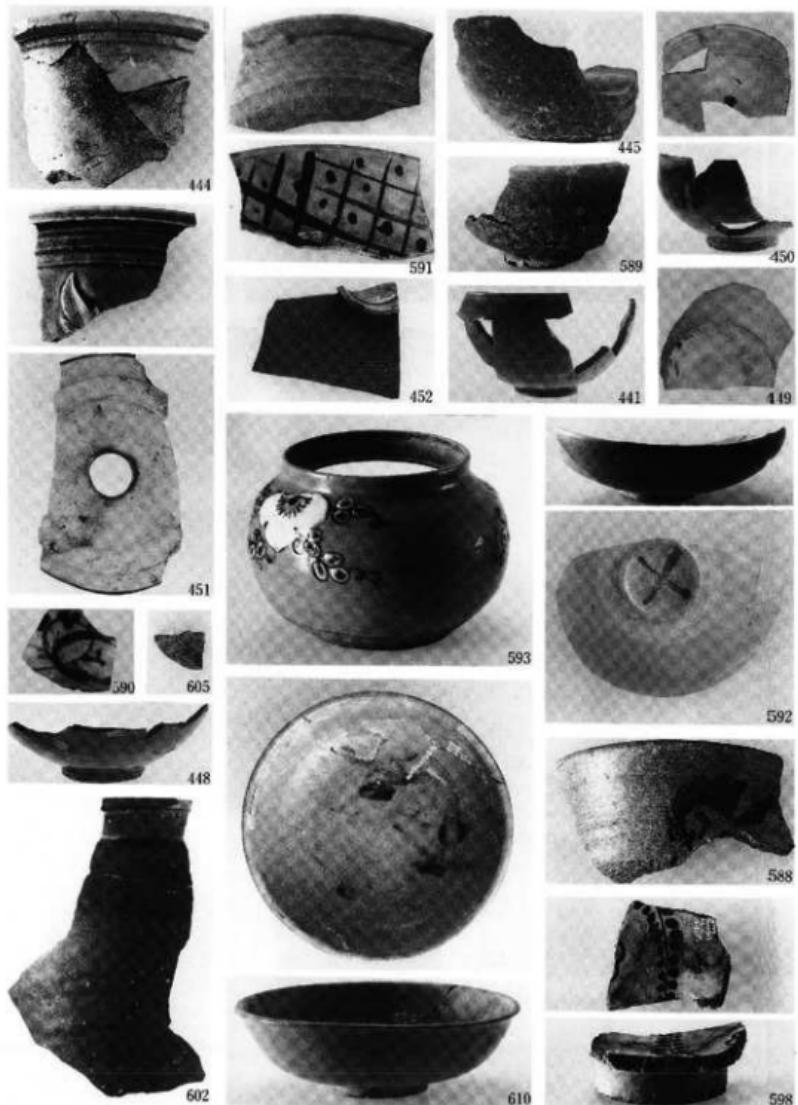
圖版40 第9地點出土陶器(9)
Pl.40 Glazed ceramics from NM9(9)

S = 1 : 3



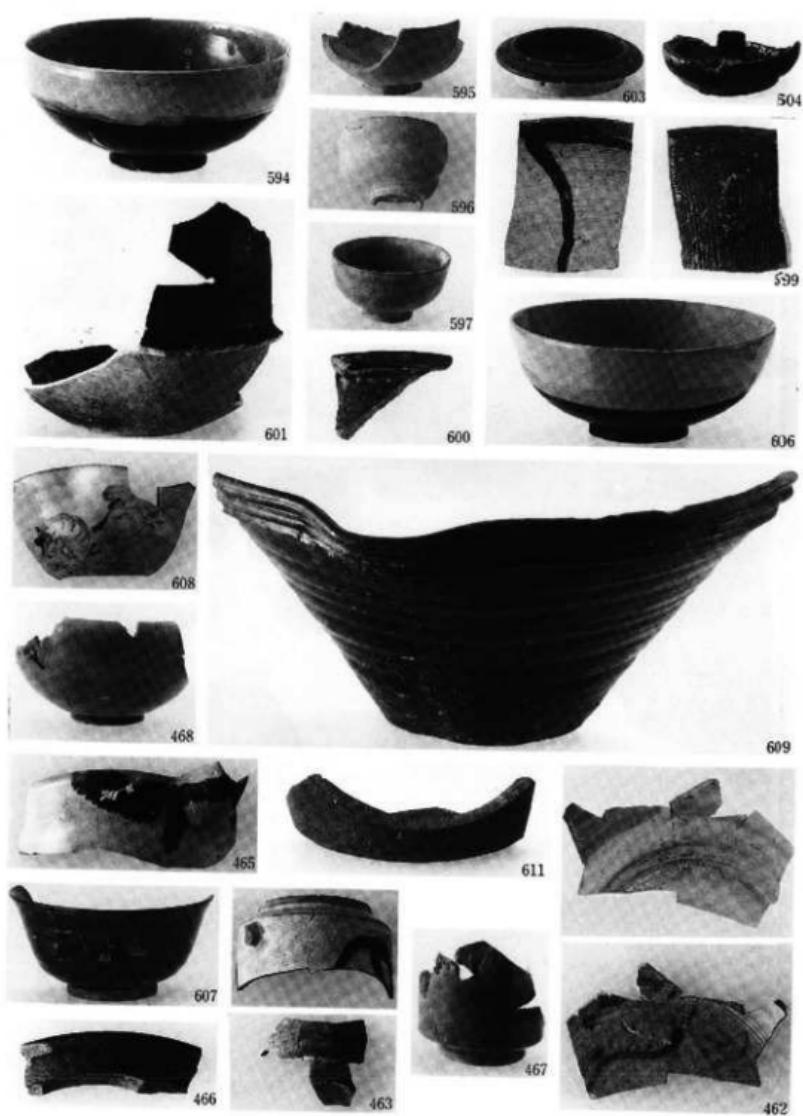
图版41 第9地点出土陶器(10)
Pl.41 Glazed ceramics from NM9(10)

S = 1 : 3



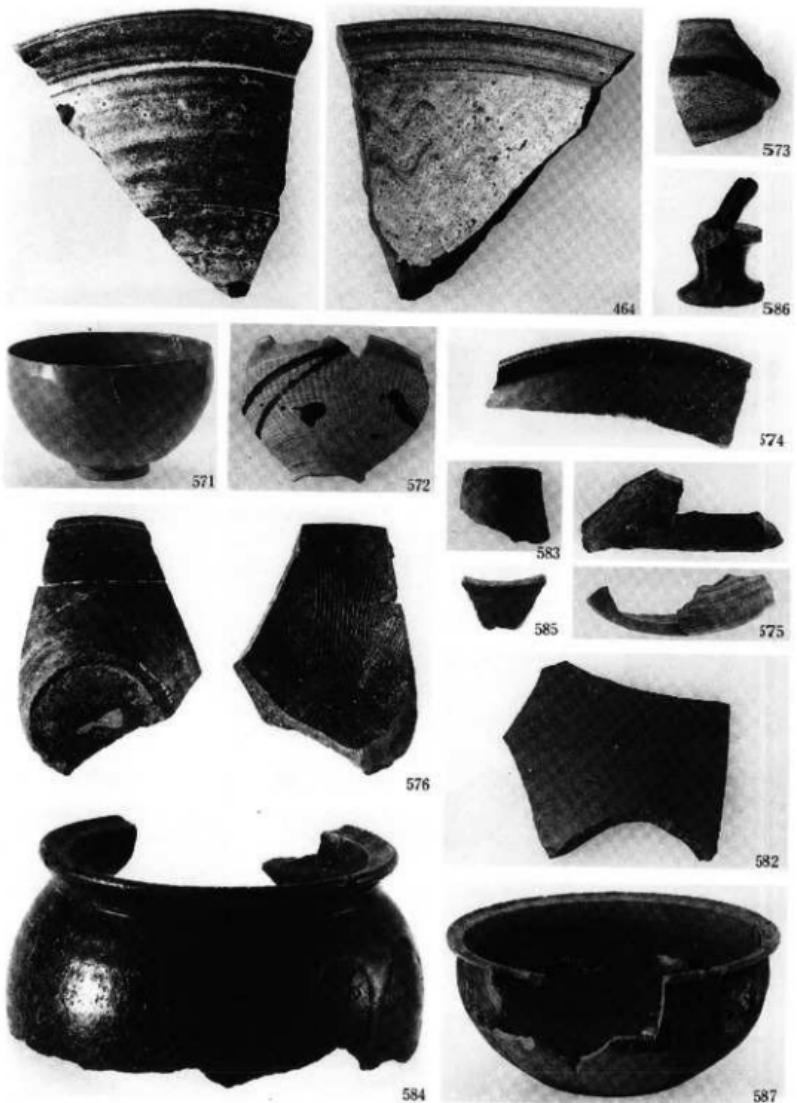
圖版42 第9地點出土陶器(11)
Pl.42 Glazed ceramics from NM9(11)

S = 1 : 3



图版43 第9地点出土陶器(12)
Pl.43 Glazed ceramics from NM9(12)

S = 1 : 3



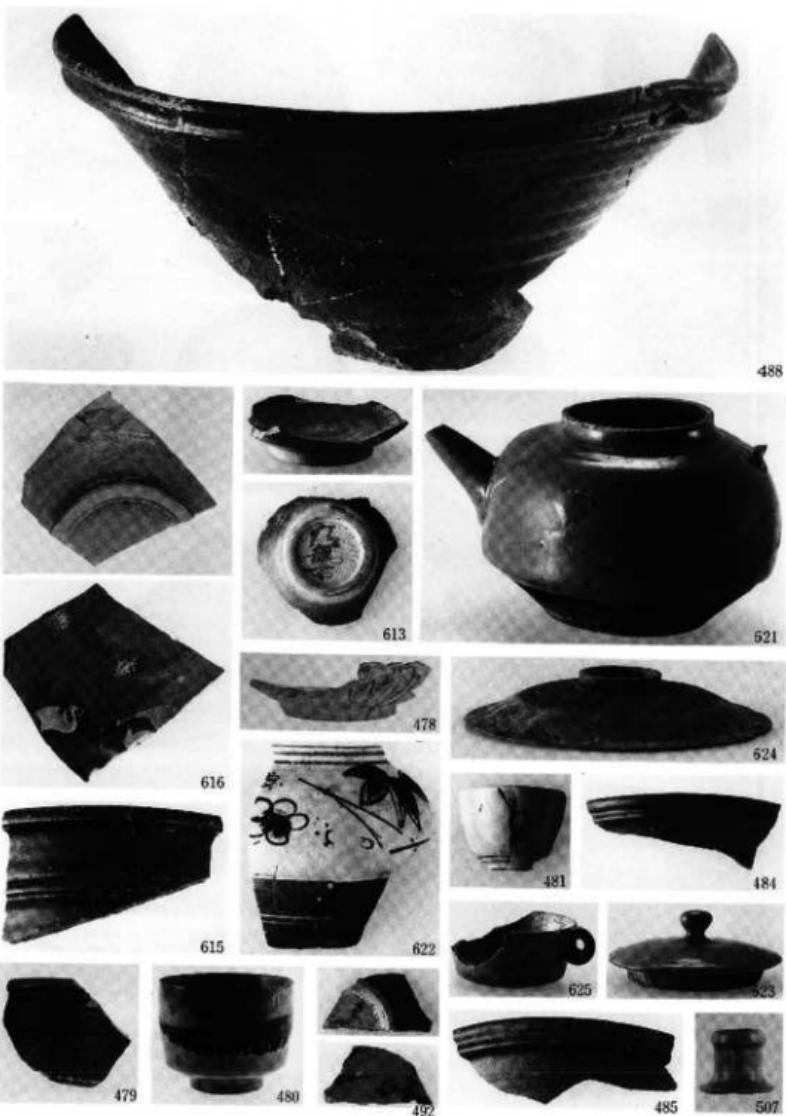
圖版44 第9地點出土陶器(13)
 Pl.44 Glazed ceramics from NM9(13)

$S = 1 : 3$



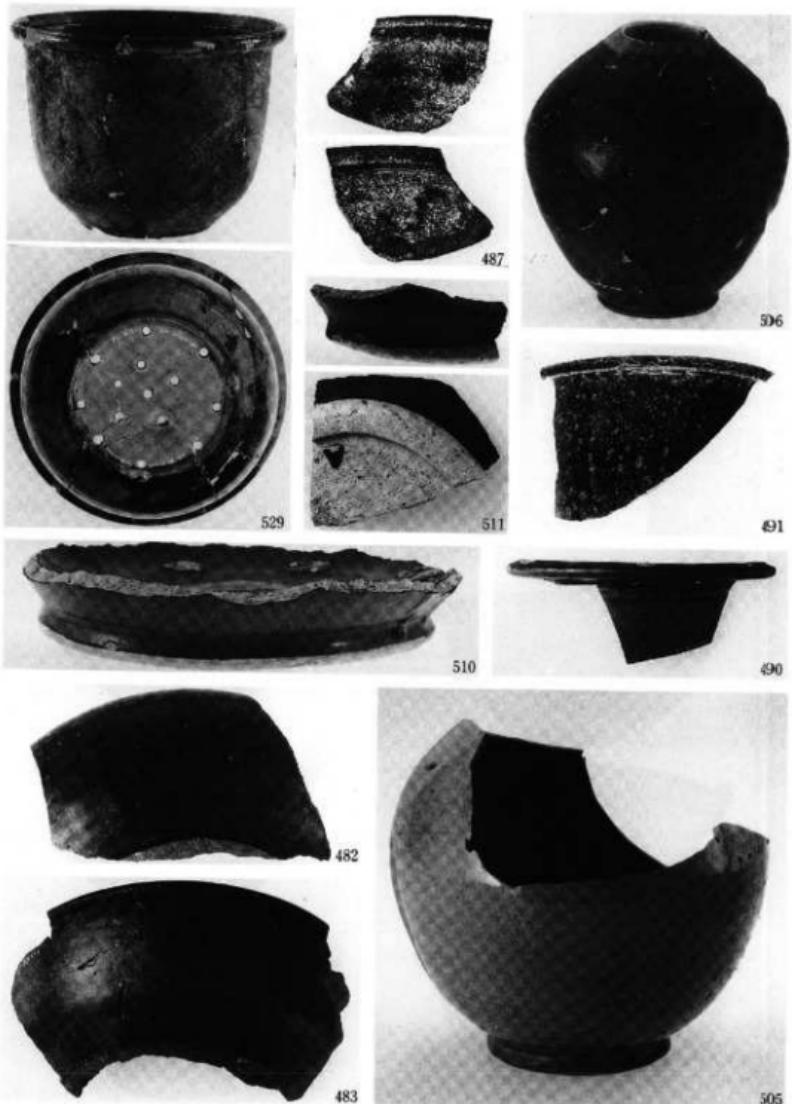
図版45 第9地点出土陶器(14)
Pl.45 Glazed ceramics from NM9(14)

S = 1 : 3



図版46 第9地点出土陶器(15)
Pl.46 Glazed ceramics from NM9(15)

S = 1 : 3



図版47 第9地点出土陶器(16)
PL47 Glazed ceramics from NM9(16)

S = 1 : 3



圖版48 第9地點出土陶器(17)
Pl.48 Glazed ceramics from NM9(17)

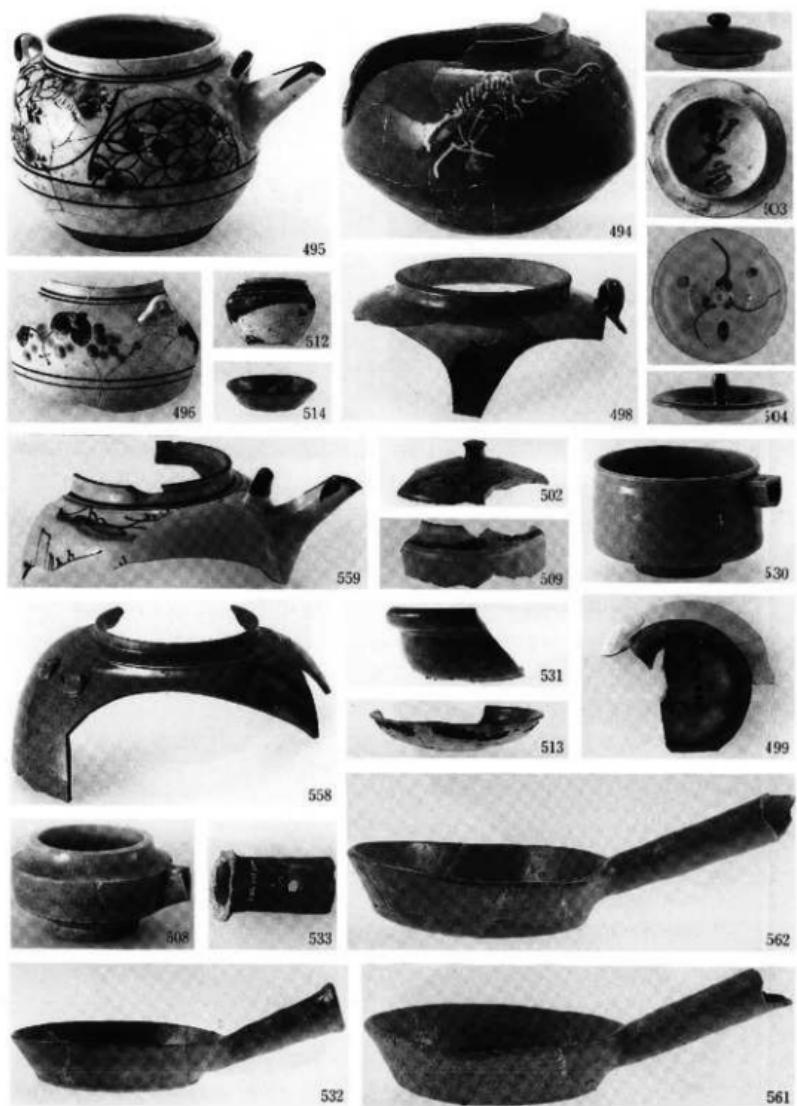
S = 1 : 3



497

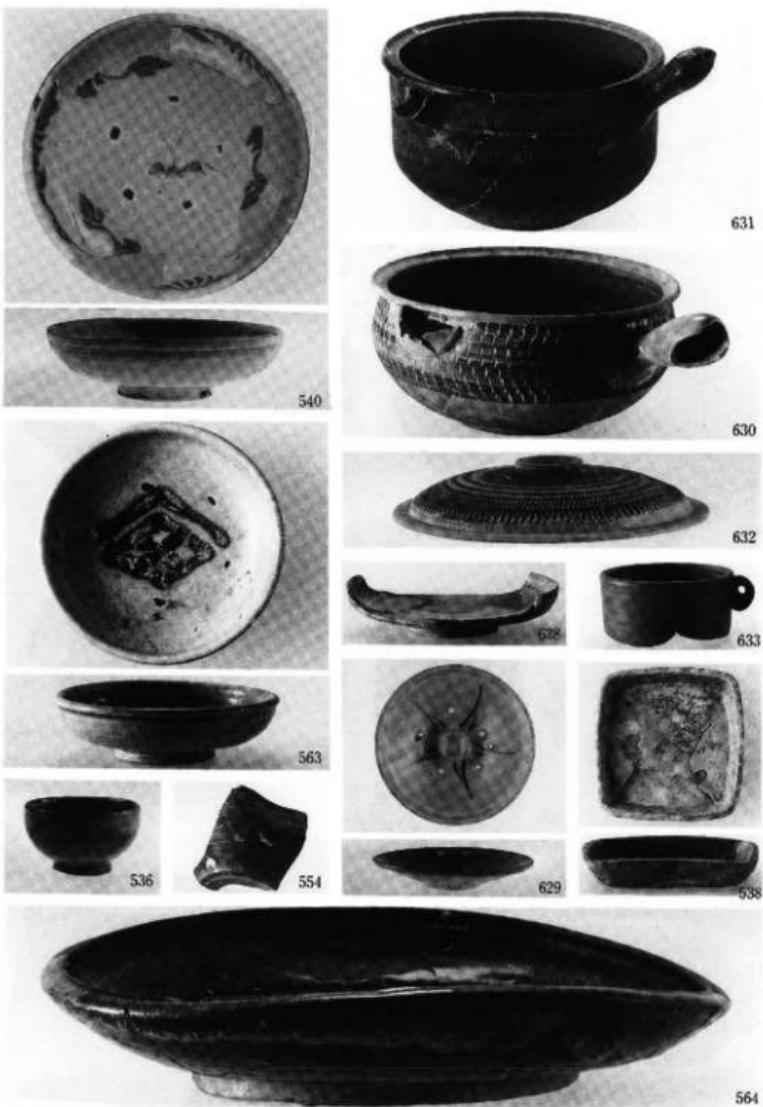
图版49 第9地点出土陶器(18)
Pl.49 Glazed ceramics from NM9(18)

S = 1 : 3



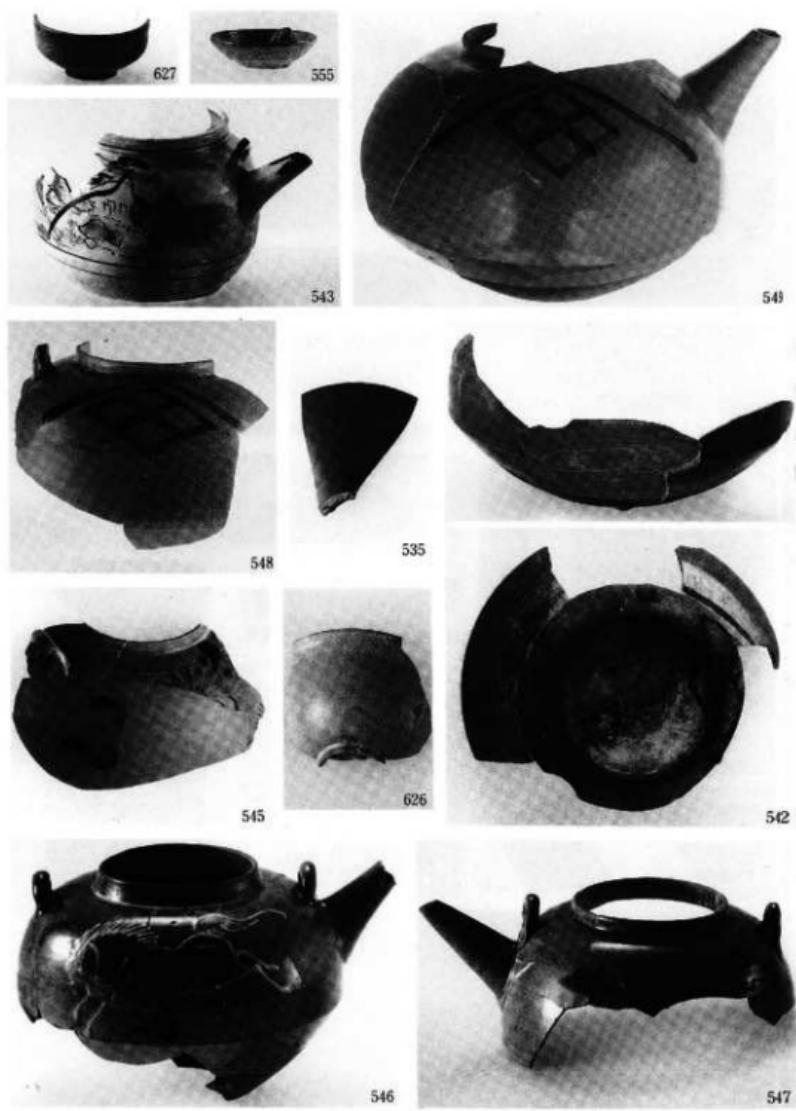
圖版50 第9地點出土陶器(19)
Pl.50 Glazed ceramics from NM9(19)

S = 1 : 3



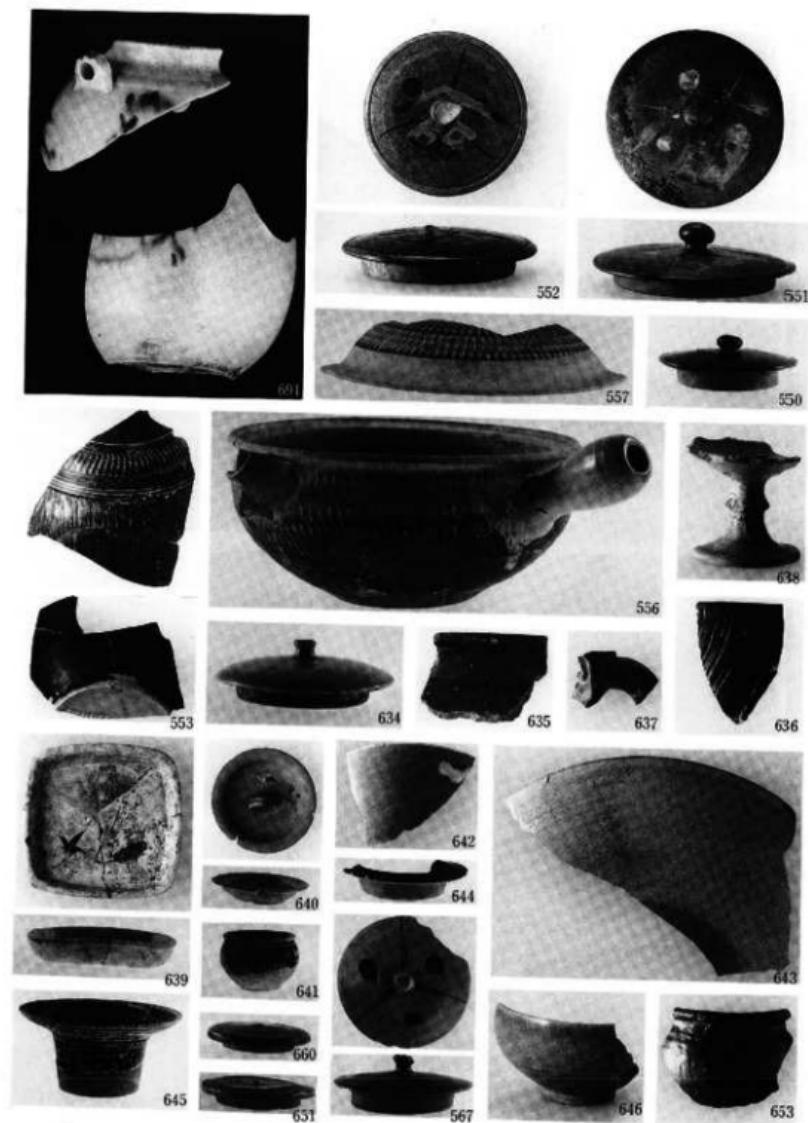
图版51 第9地点出土陶器(20)
Pl.51 Glazed ceramics from NM9(20)

S = 1 : 3



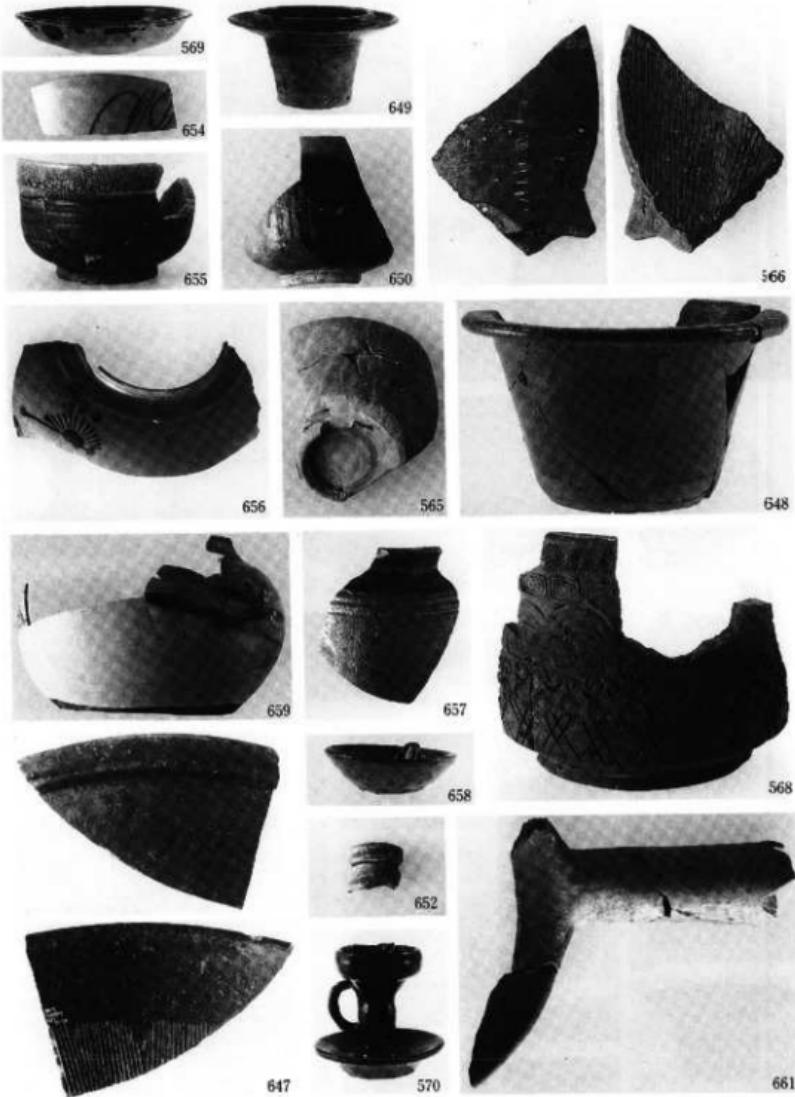
図版52 第9地点出土陶器(21)
Pl.52 Glazed ceramics from NM9(21)

S = 1 : 3



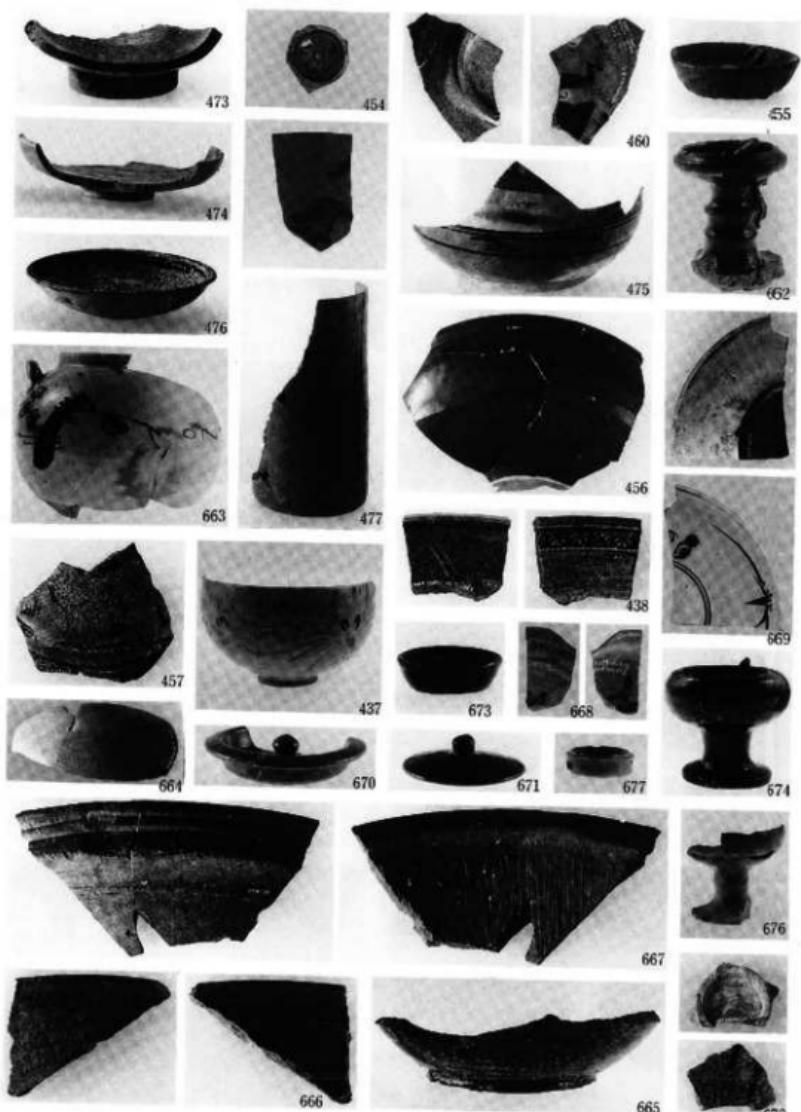
图版53 第9地点出土陶器(22)
Pl.53 Glazed ceramics from NM9(22)

S = 1 : 3



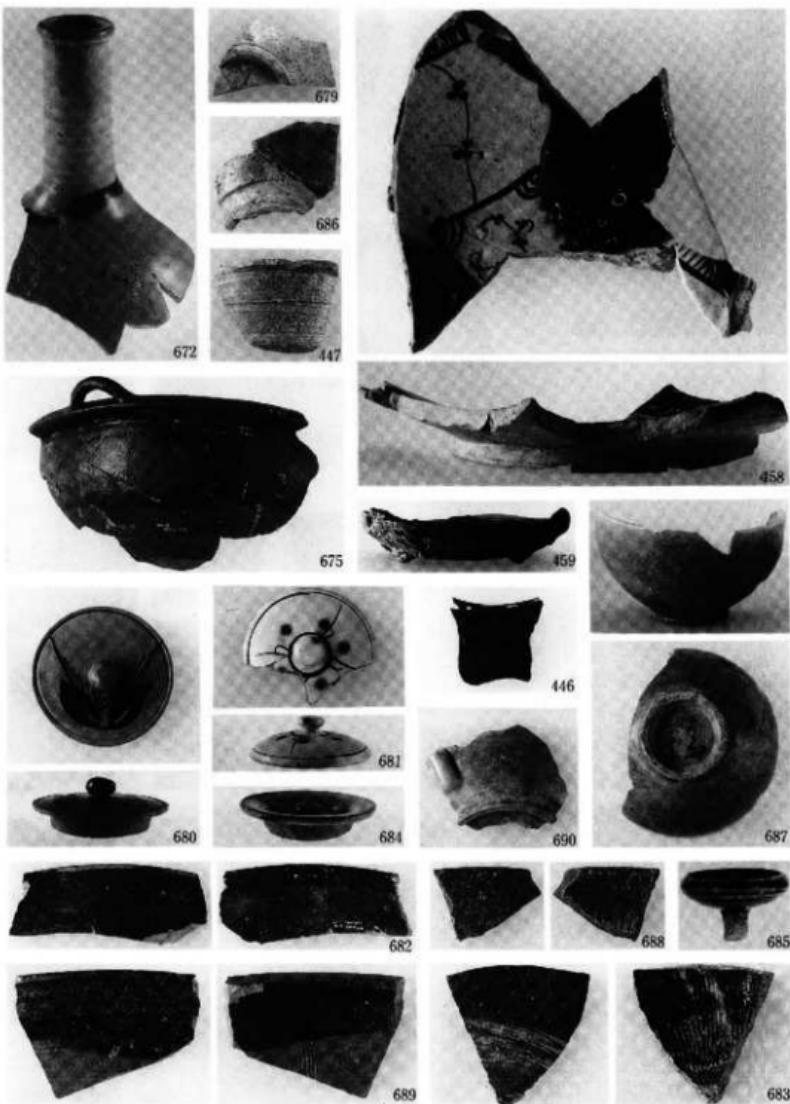
圖版54 第9地點出土陶器(23)
Pl.54 Glazed ceramics from NM9(23)

S = 1 : 3



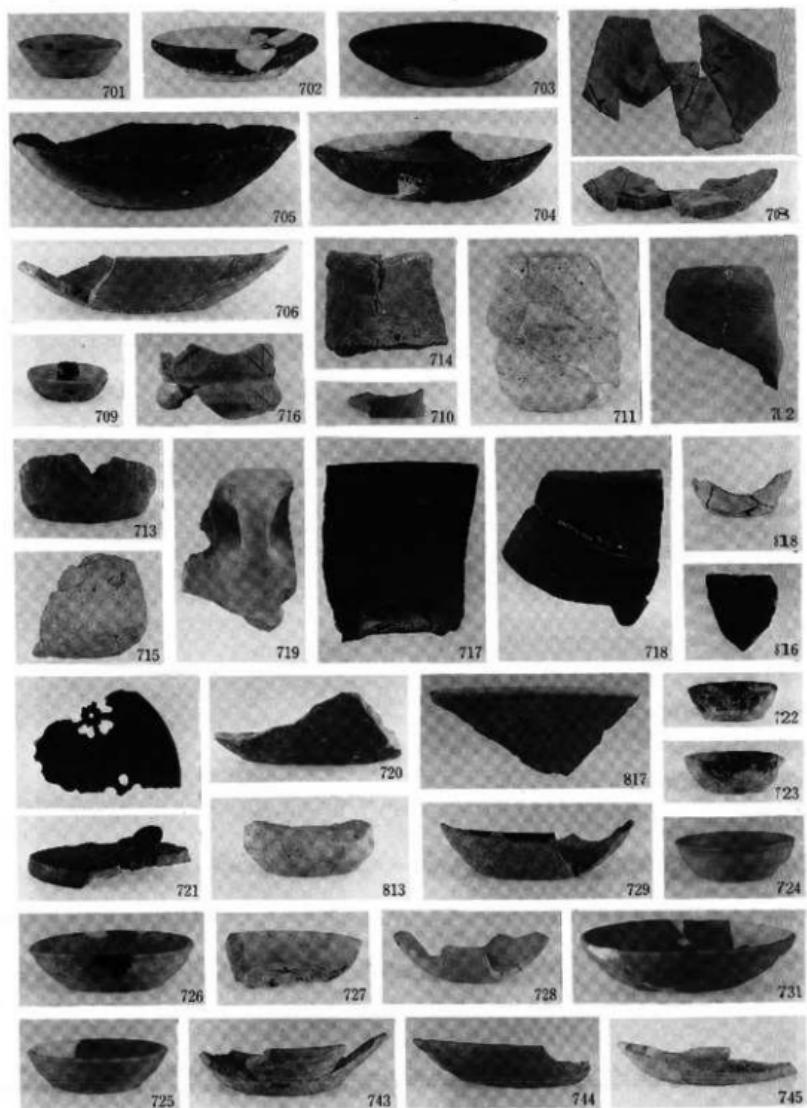
圖版55 第9地點出土陶器(24)
Pl.55 Glazed ceramics from NM9(24)

S = 1 : 3



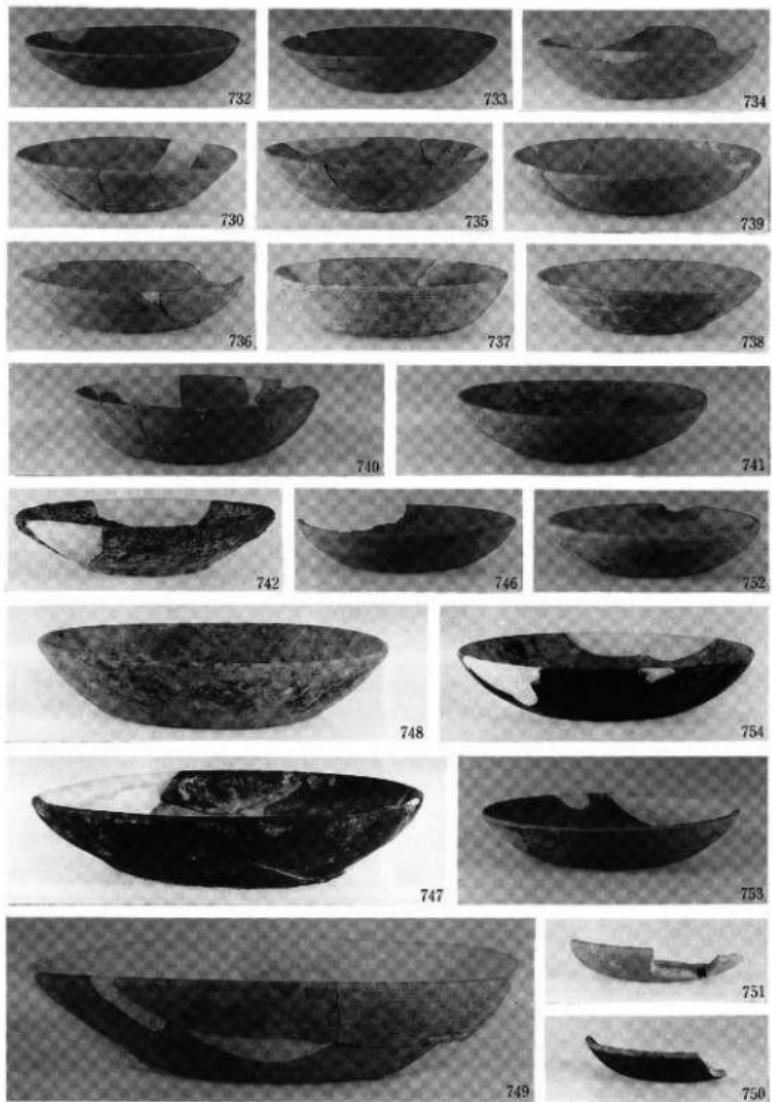
图版56 第9地点出土陶器(25)
Pl.56 Glazed ceramics from NM9 (25)

S = 1 : 3



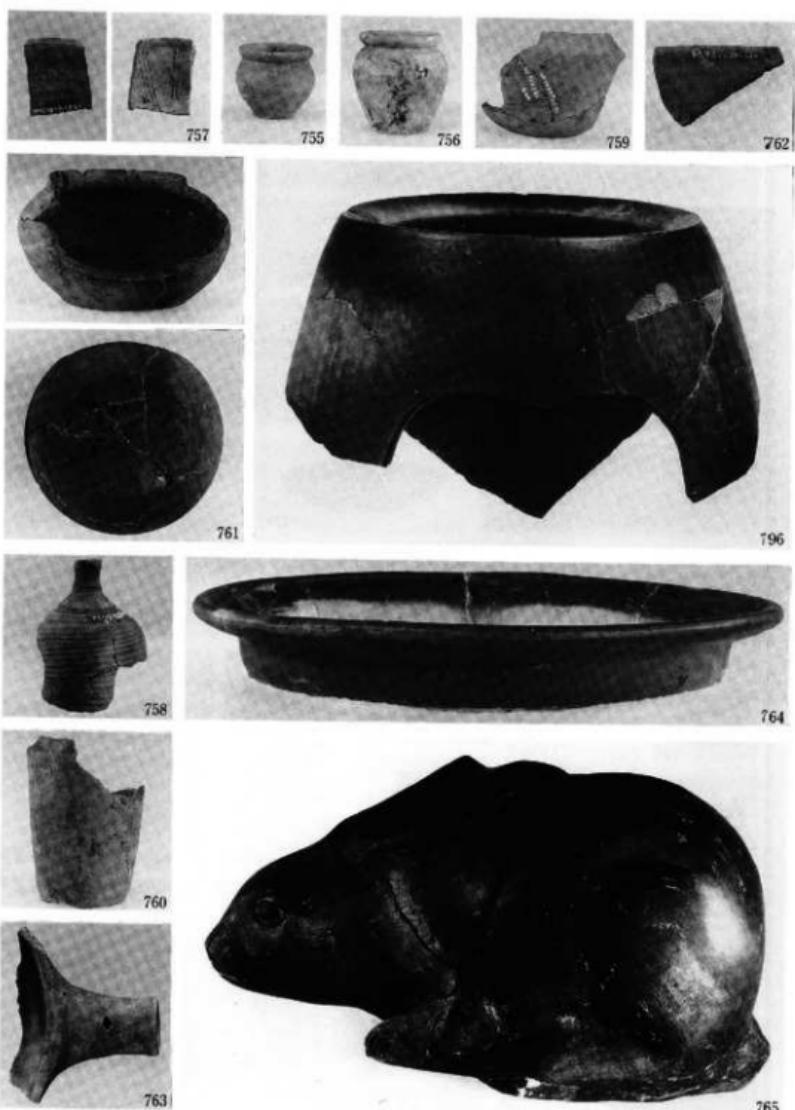
图版57 第9地点出土土器(1)
PL.57 Ceramics from NM9(1)

S = 1 : 3



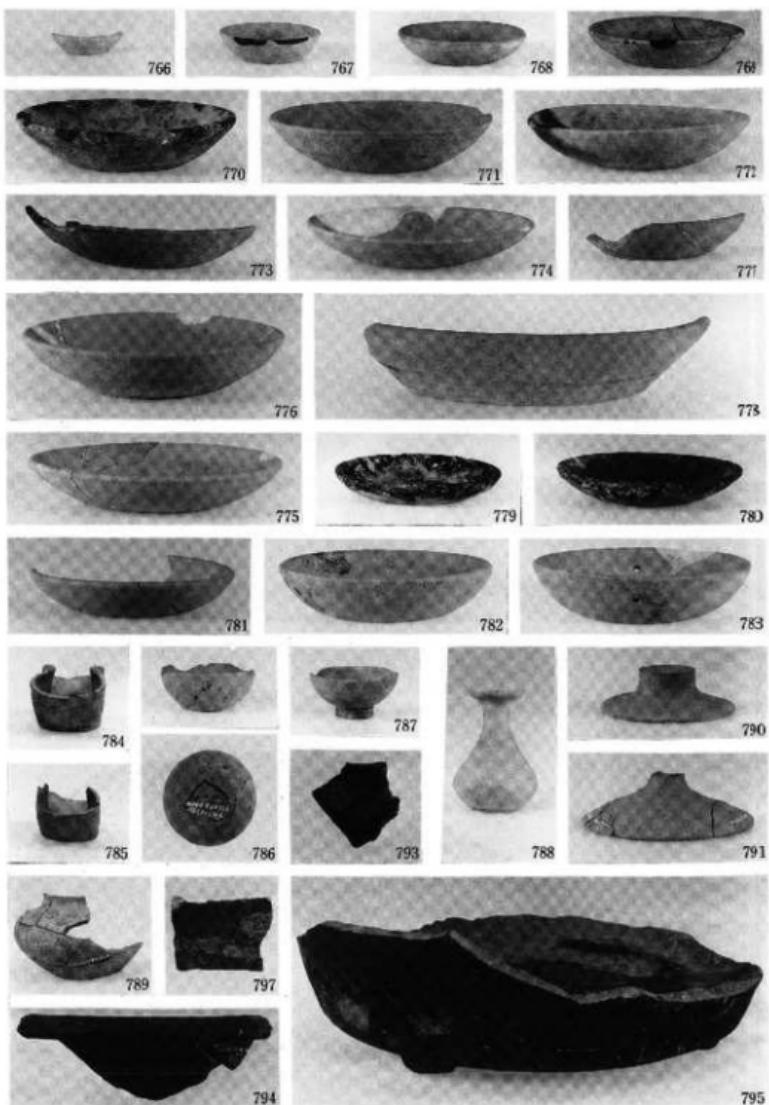
图版58 第9地点出土土器(2)
Pl.58 Ceramics from NM9(2)

S = 1 : 3



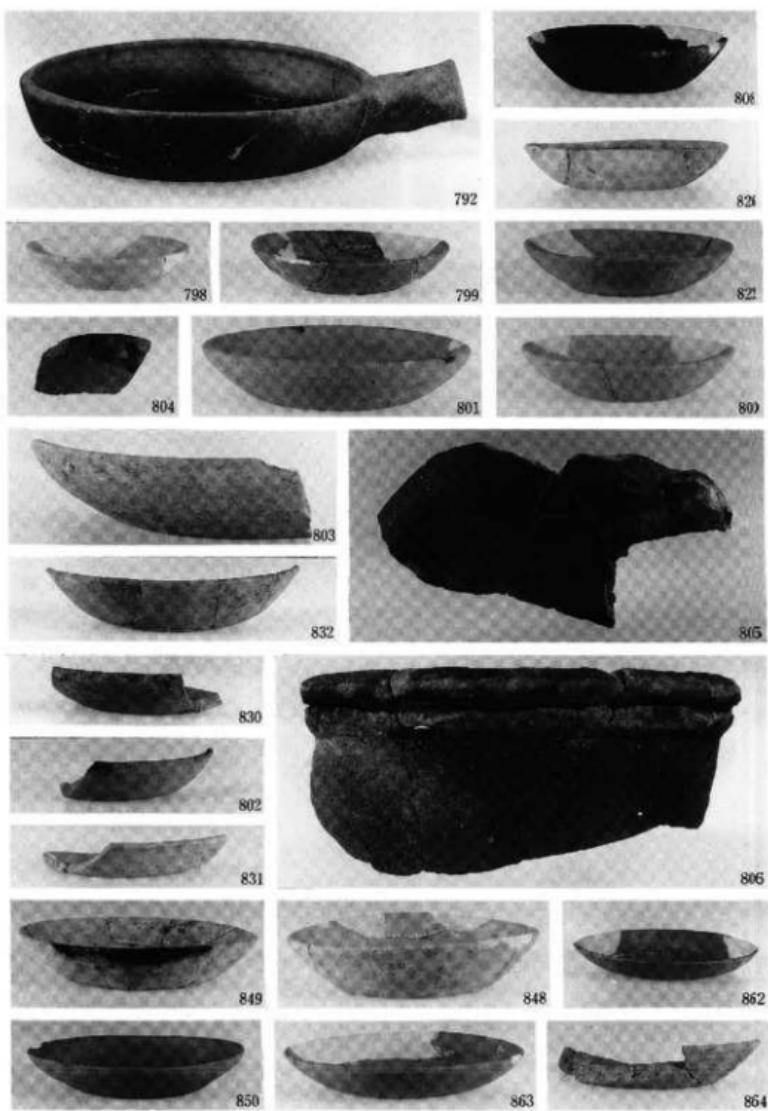
圖版59 第9地點出土土器(3)
Pl.59 Ceramics from NM9(3)

S = 1 : 3



图版60 第9地点出土土器(4)
Pl.60 Ceramics from NM9(4)

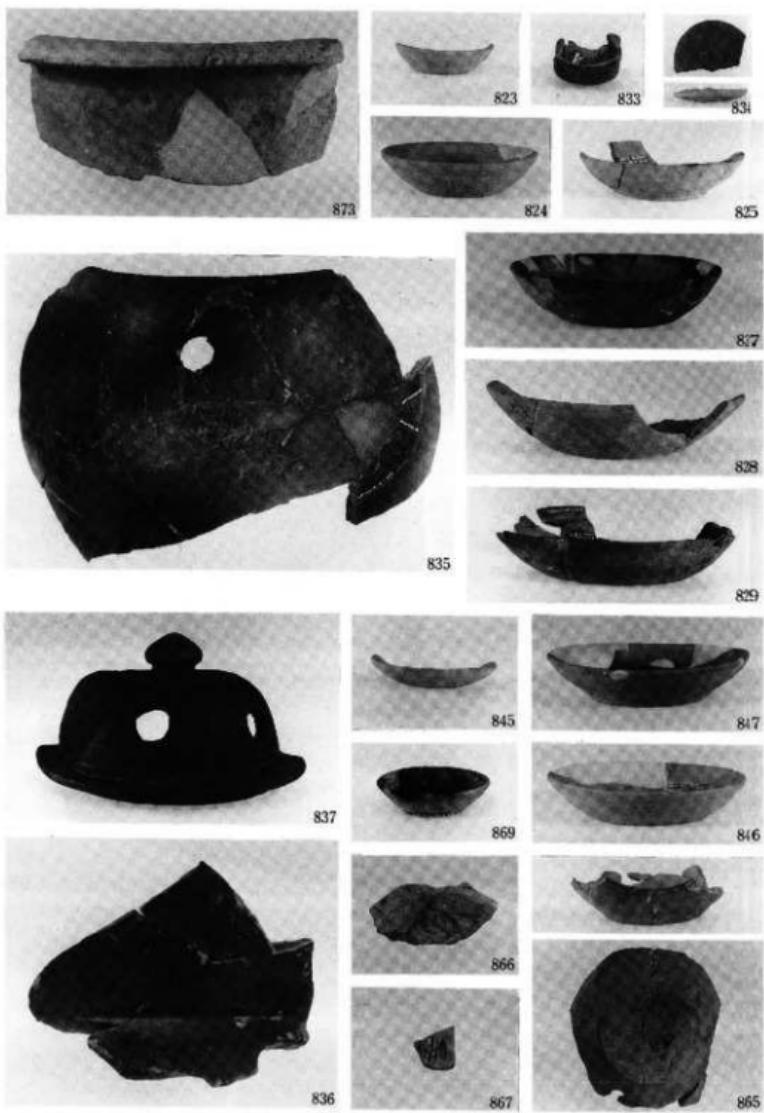
S = 1 : 3



图版61 第9地点出土土器(5)

Pl.61 Ceramics from NM9(5)

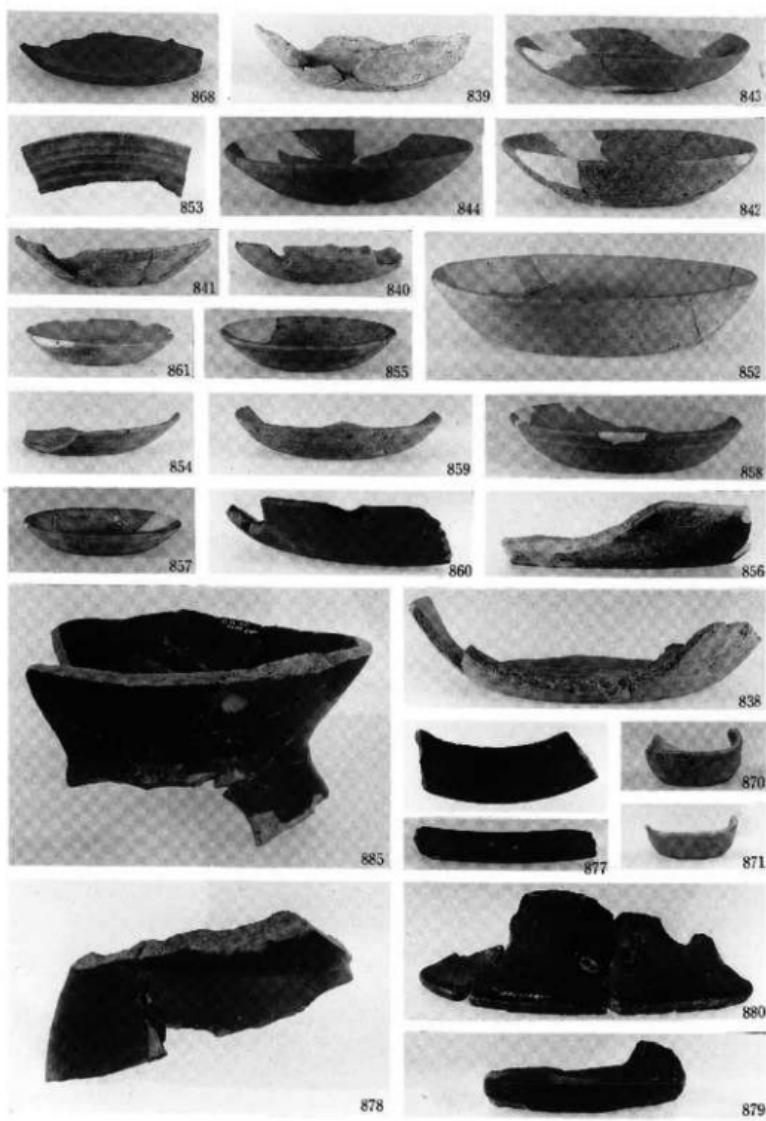
S = 1 : 3



图版62 第9地点出土土器(6)

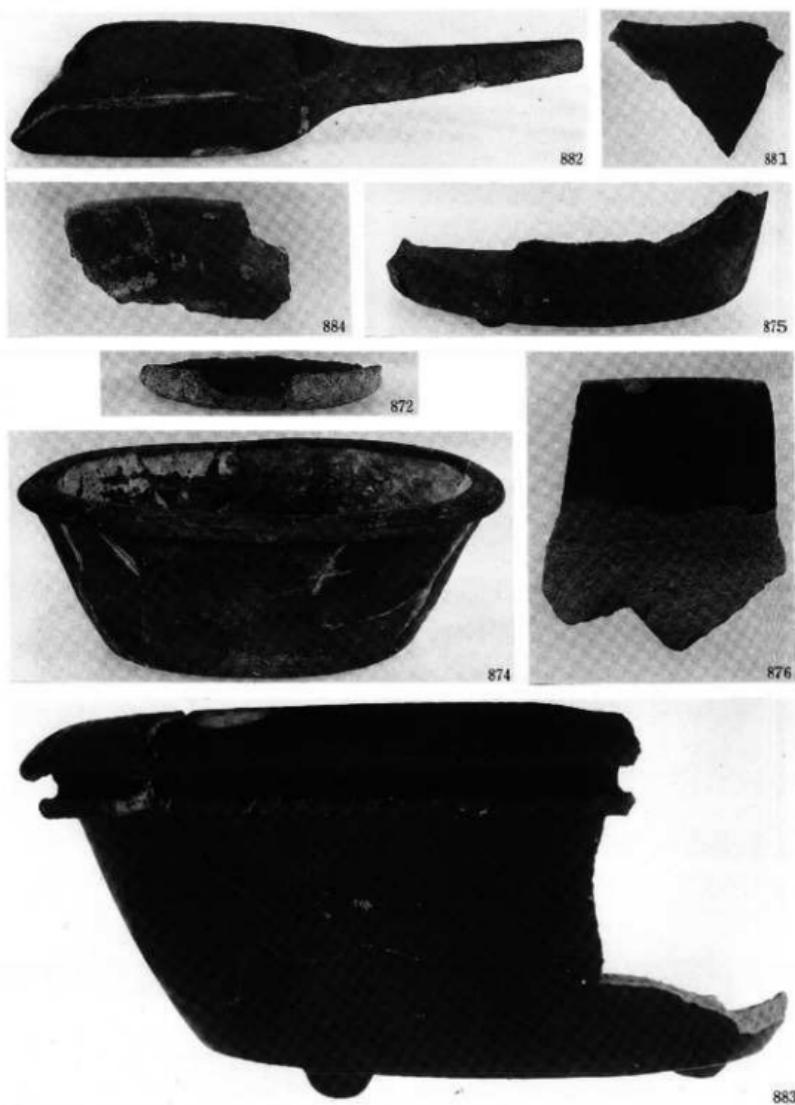
P1.62 Ceramics from NM9(6)

S = 1 : 3



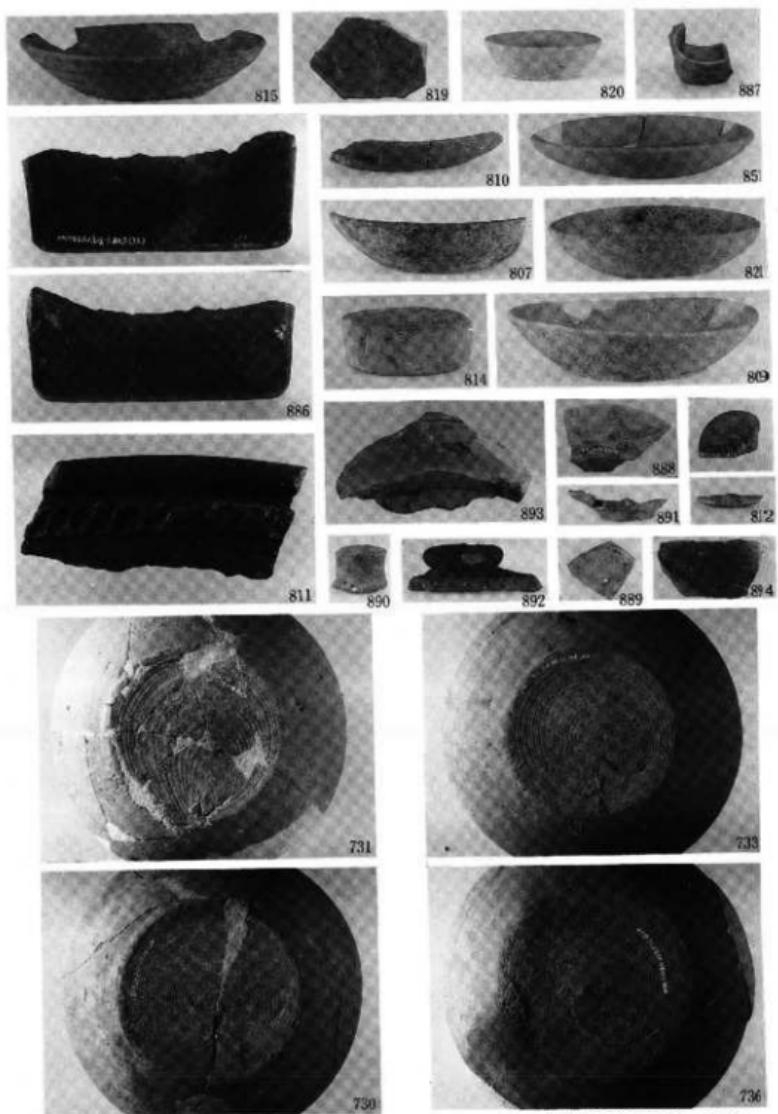
圖版63 第9地點出土土器(7)
Pl.63 Ceramics from NM9(7)

S = 1 : 3



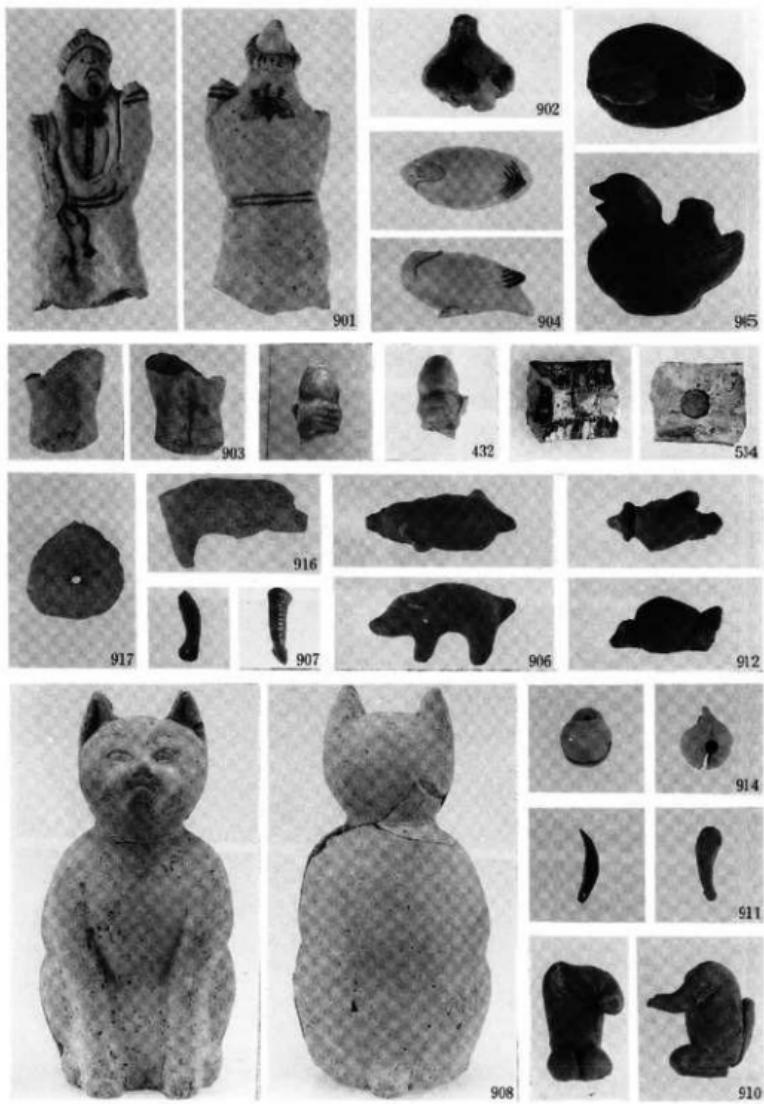
圖版64 第9地點出土土器(8)
Pl.64 Ceramics from NM9(8)

S = 1 : 3



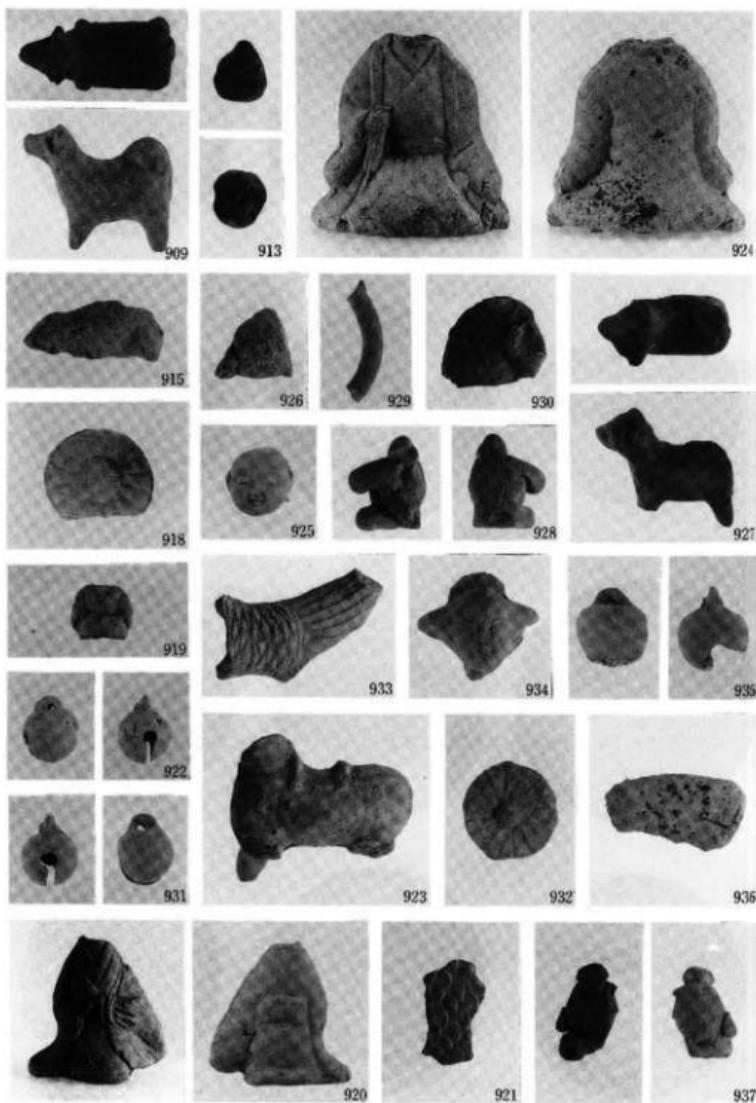
图版65 第9地点出土土器(9)
Pl.65 Ceramics from NM9(9)

730,731,733,736 S = 1 : 2
其他 S = 1 : 3



图版66 第9地点出土土製品・人形(1)
Pl.66 Clay figure and clay objects from NM9(1)

S = 1 : 2



図版67 第9地点出土土製品・人形(2)
Pl.67 Clay figure and clay objects from NM9(2)

S = 1 : 2



8



7



5



6



3



2



4



1



11



12

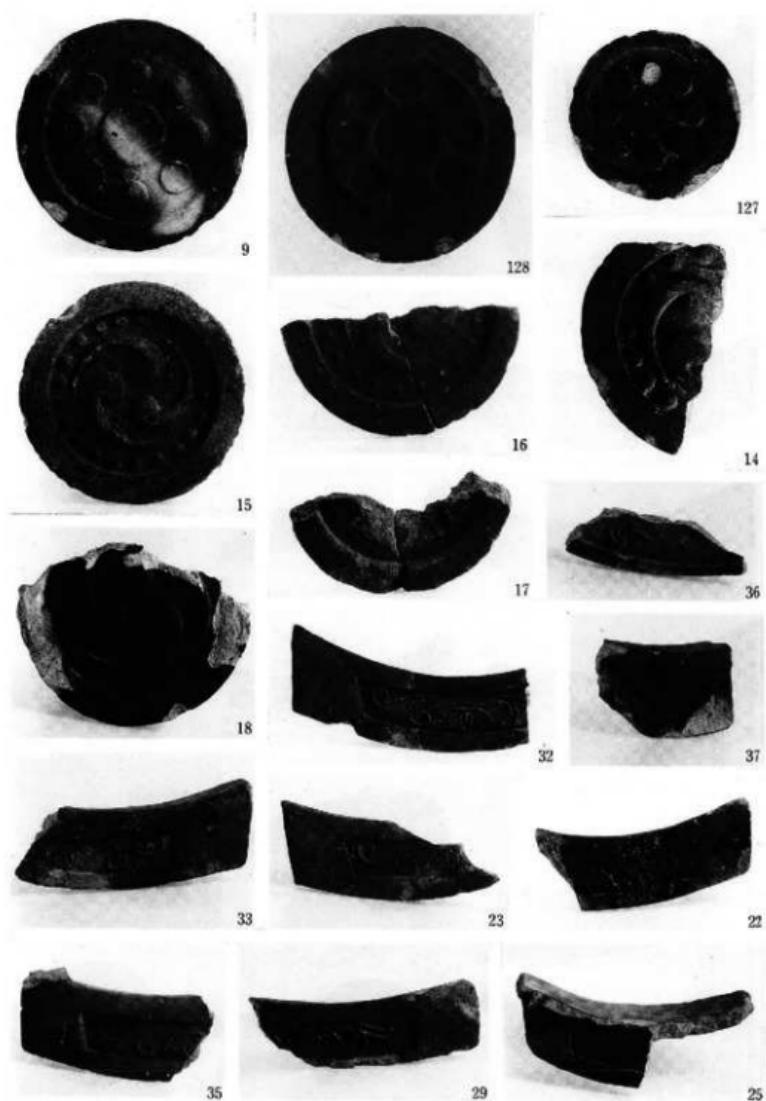


13

10

圖版68 第9地點出土軒丸瓦類(1)
Pl.68 Round eaves tiles from NM9(1)

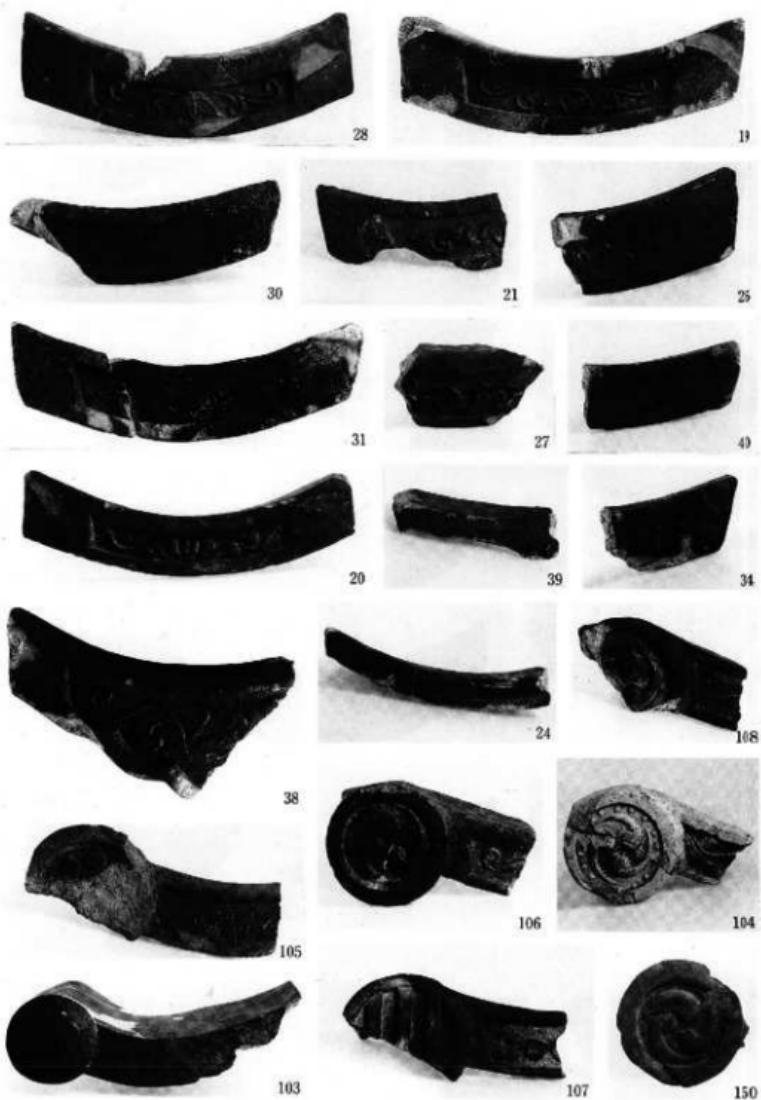
S = 1 : 4



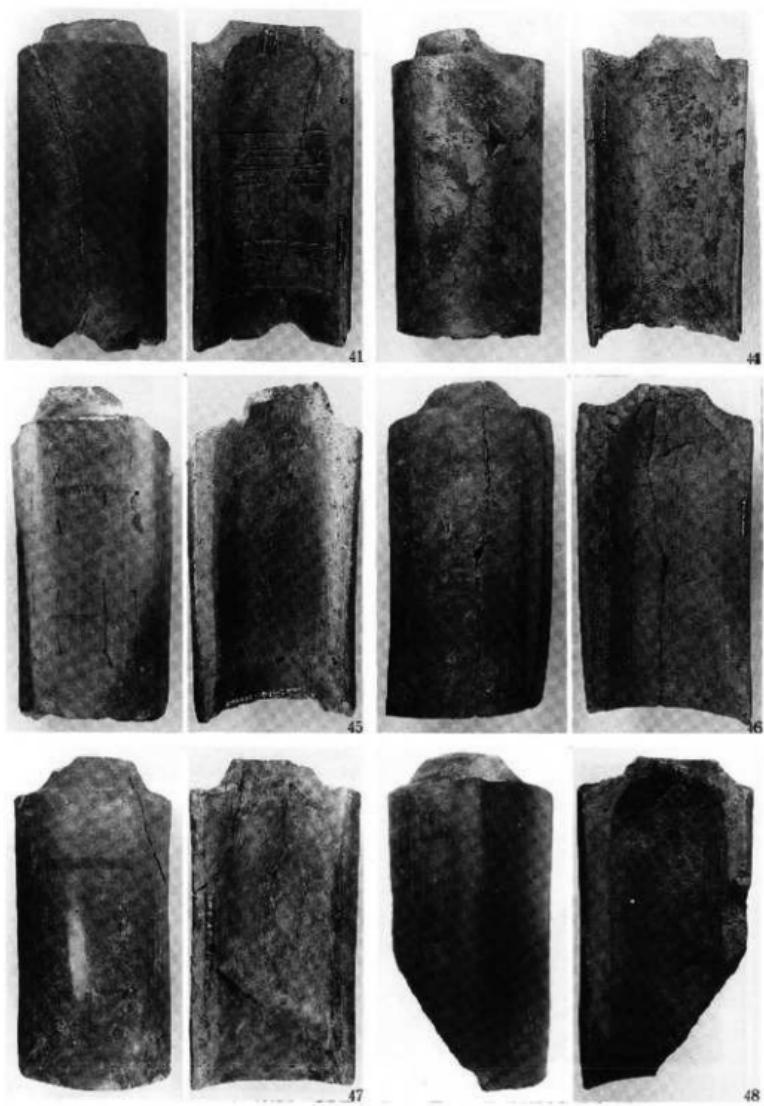
圖版69 第9地點出土軒丸瓦類(2)・軒平・軒棧瓦(1)

S = 1 : 4

Pl.69 Round eaves tiles, flat eaves tiles and eaves-pan tiles from NM9



图版70 第9地点出土軒平・軒棧瓦(2)
Pl.70 Flat eaves tiles and eaves-pan tiles from NM9



图版71 第9地点出土九瓦(1)
Pl.71 Round roof tiles from NM9(1)



图版72 第9地点出土丸瓦(2)·平瓦(1)
Pl.72 Round roof tiles and flat roof tiles from NM9

S = 1 : 5



58



68



62



100



97

图版73 第9地点出土平瓦(2)·棧瓦(1)
Pl.73 Flat roof tiles and pan tiles from NM9

S = 1 : 5



99



102



113



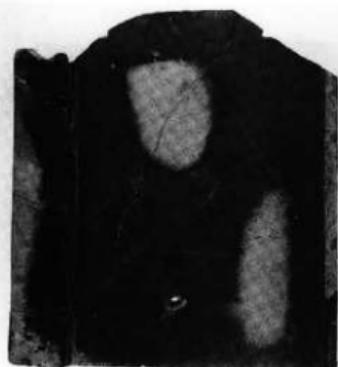
117

圖版74 第9地點出土棧瓦(2)・板塀瓦(1)

99,102 S = 1 : 5

113,117 S = 1 : 6

Pl.74 Pan tiles and pan tiles used for fence from NM9



111



109



110



115



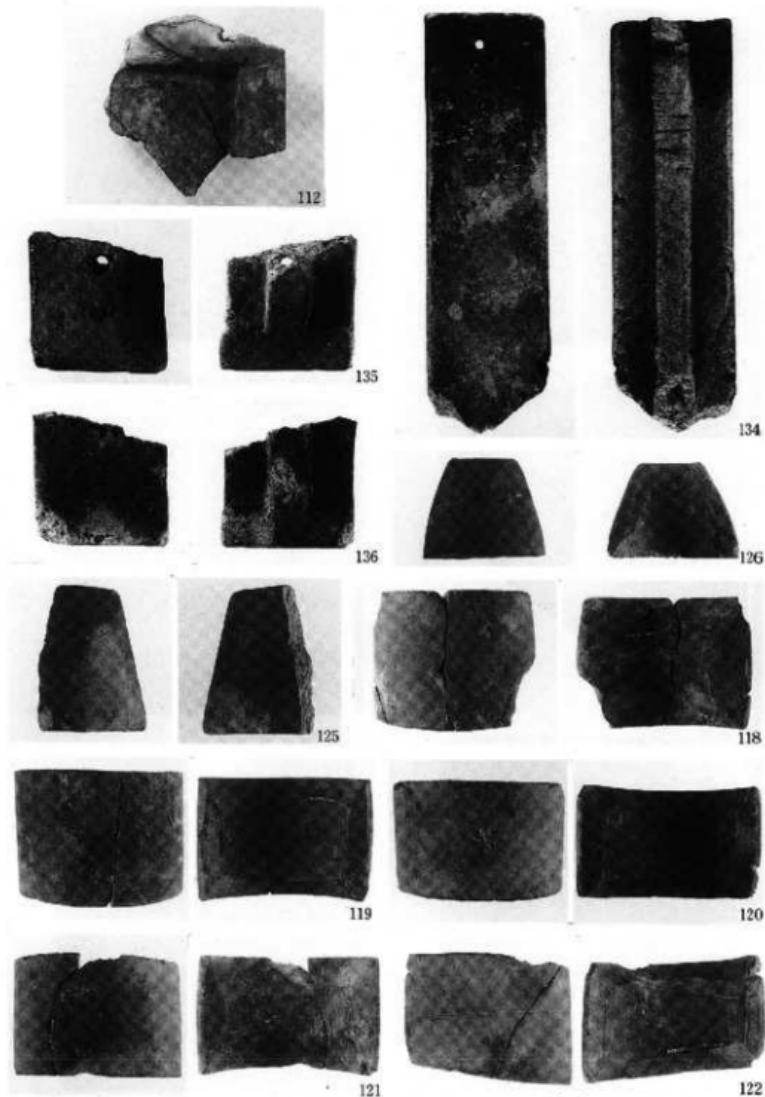
114



116

图版75 第9地点出土板墙瓦(2)
Pl.75 Pan tiles used for fence from NM9

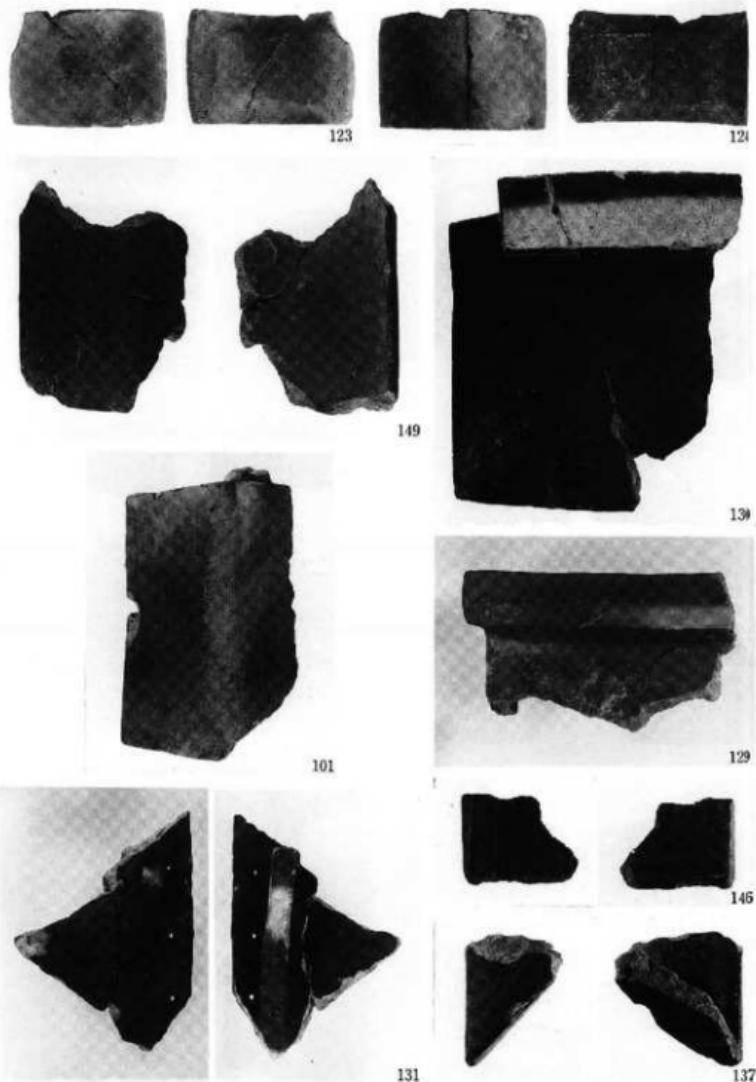
 $S = 1 : 6$



図版76 第9地点出土板塙瓦(3)・T字瓦・輪違い・面戸瓦(1)

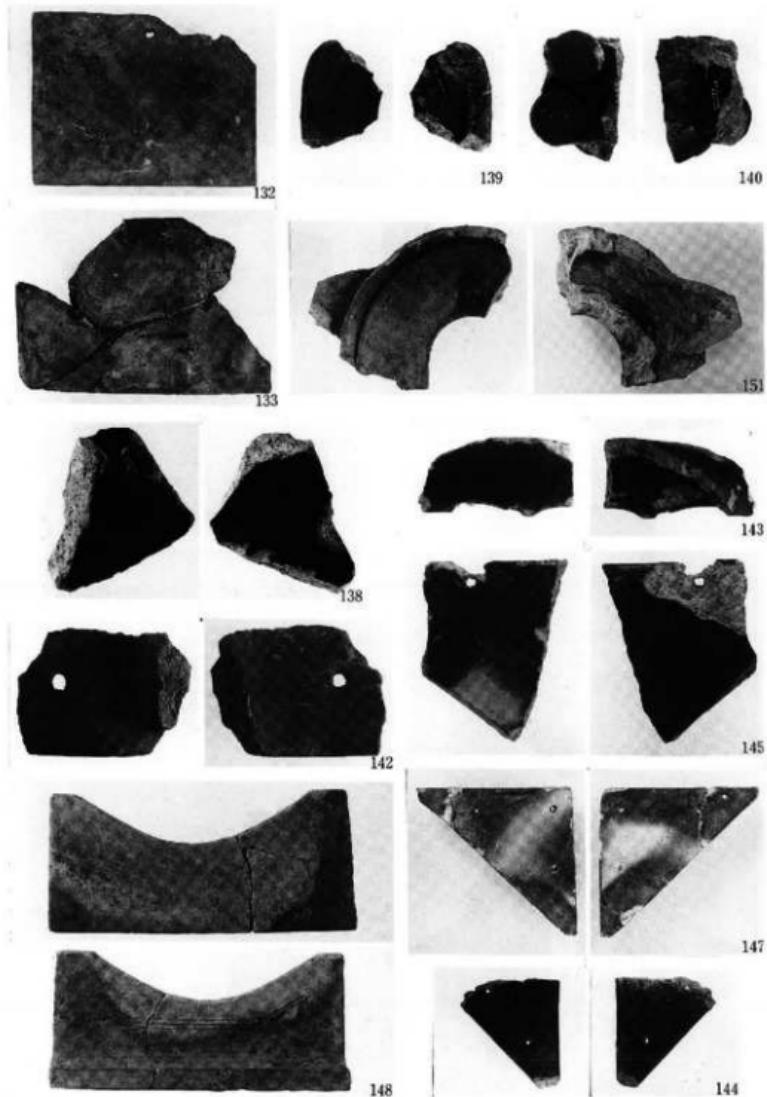
Pl.76 Pan tiles used for fence and various roof tiles from NM9

112 S = 1 : 6
118~122, 125, 126 S = 1 : 5
134~136 S = 1 : 4



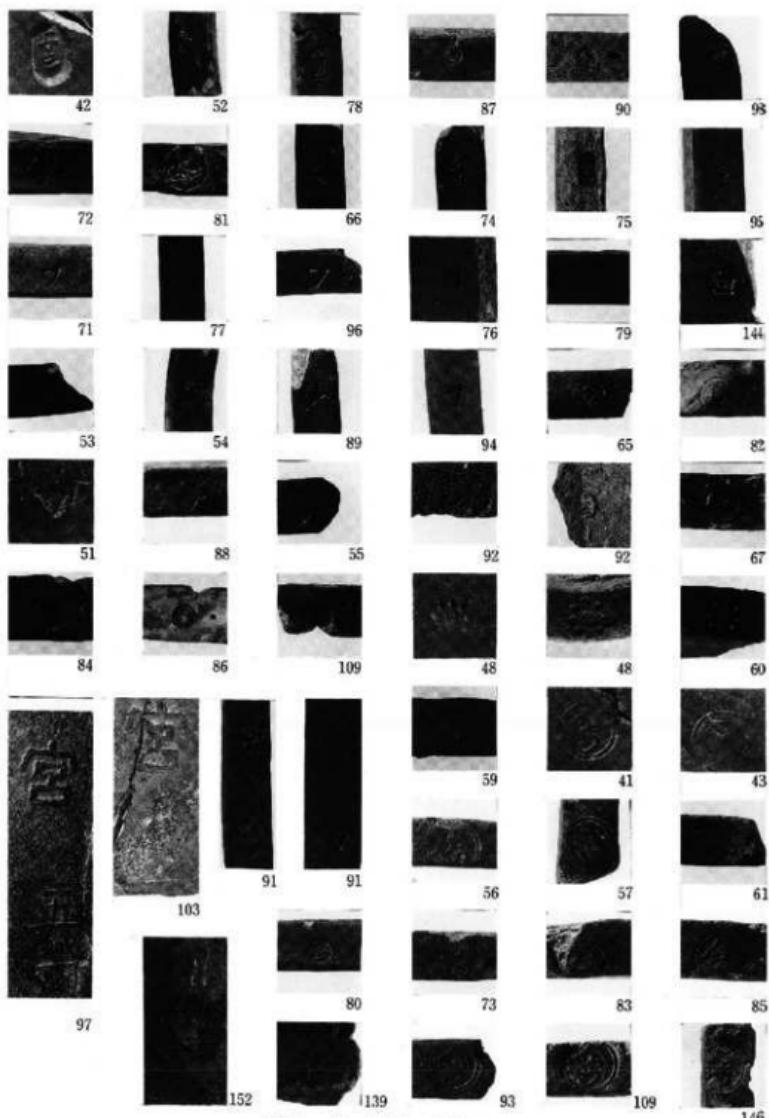
図版77 第9地点出土面戸瓦(2)・冠瓦、棟瓦・その他の瓦(1)
 Pl.77 Various roof tiles from NM9(1)

$123, 124 \text{ S} = 1 : 5$
 $101, 149, 129 \sim 131 \text{ S} = 1 : 6$
 $137, 146 \text{ S} = 1 : 4$



図版78 第9地点出土その他の瓦(2)
Pl.78 Various roof tiles from NM9(2)

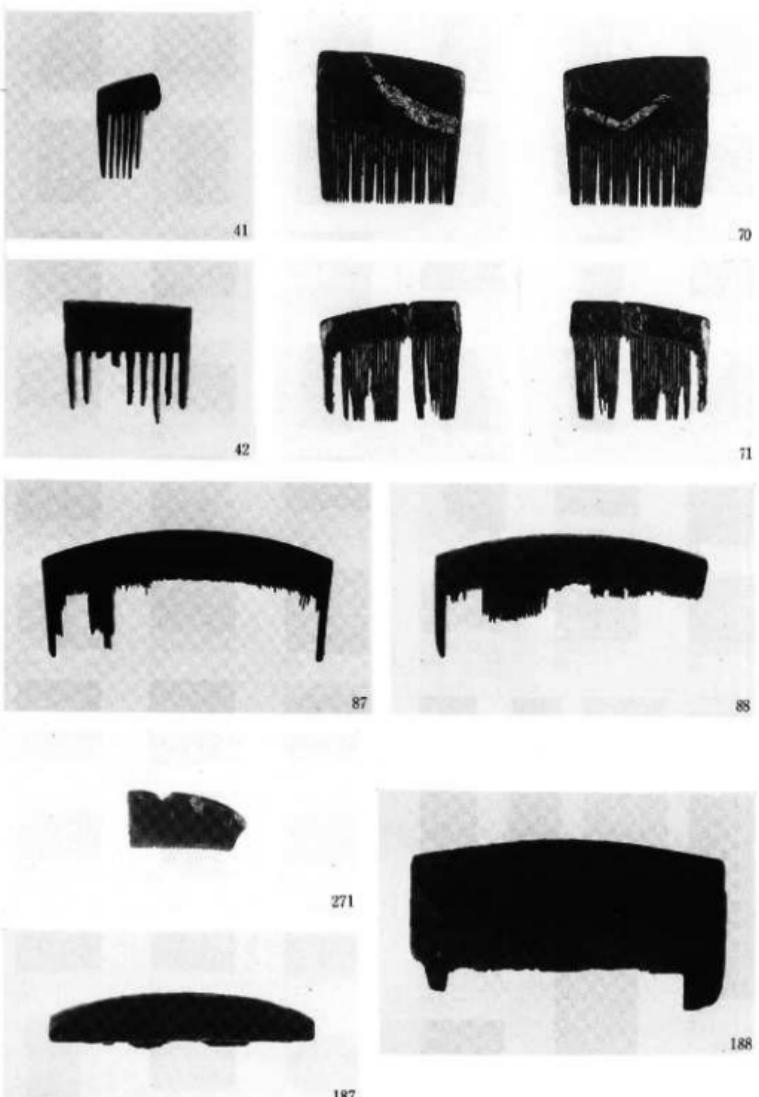
138~140 S=1:4
他は S=1:6



图版79 第9地点出土刻印瓦

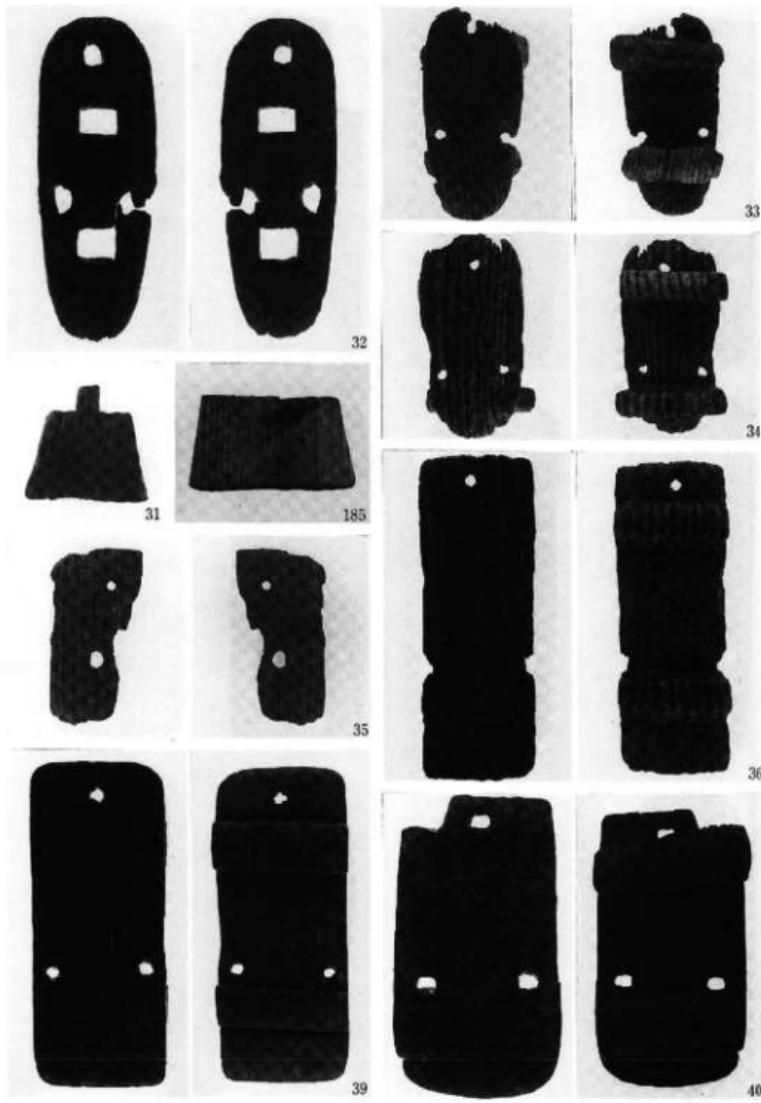
Pl.79 Roof tiles with seal impression from NM9

S = 1 : 2



图版80 第9地点出土梳
Pl.80 Combs from NM9

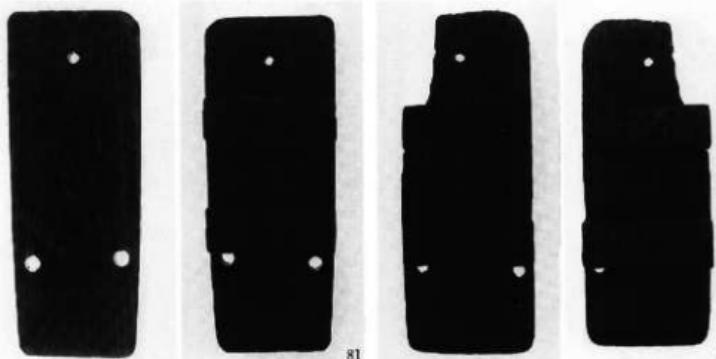
S = 1 : 2



图版81 第9地点出土下駄(1)

Pl.81 Clogs from NM9(1)

S = 1 : 4

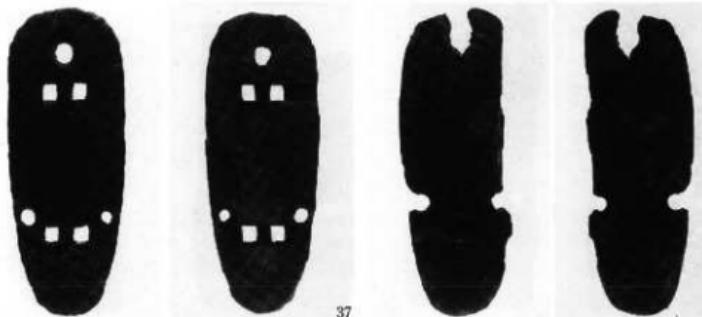


81

82

79

83

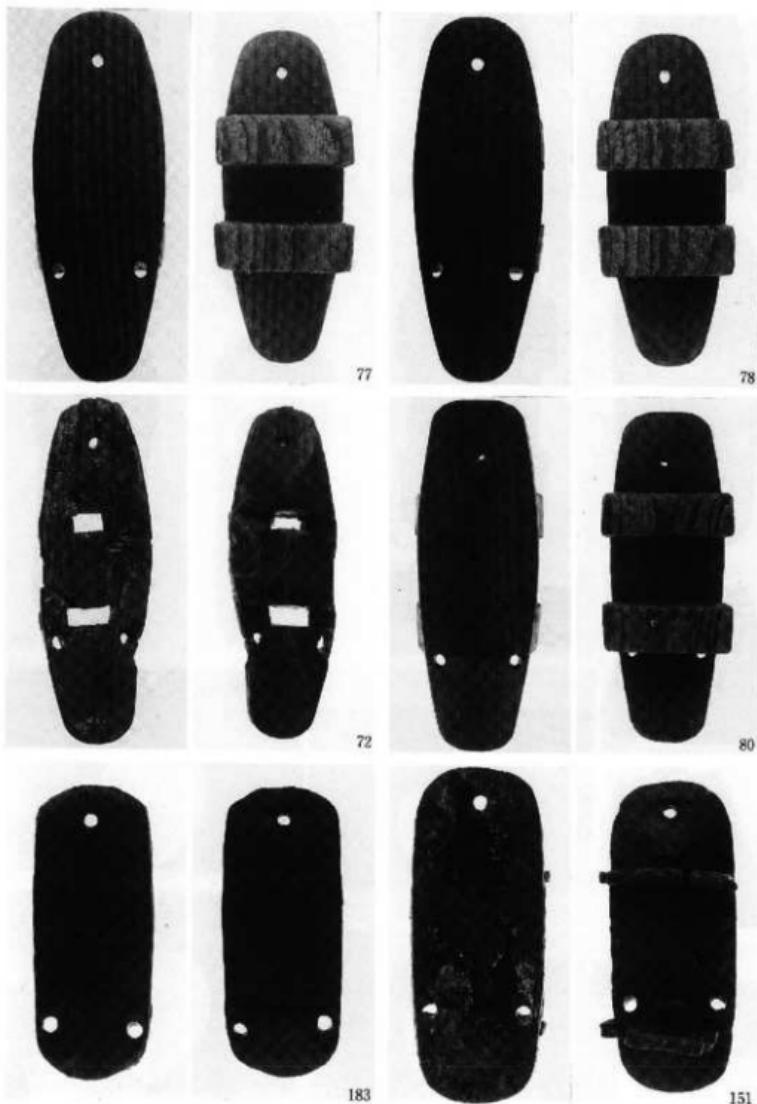


37

38

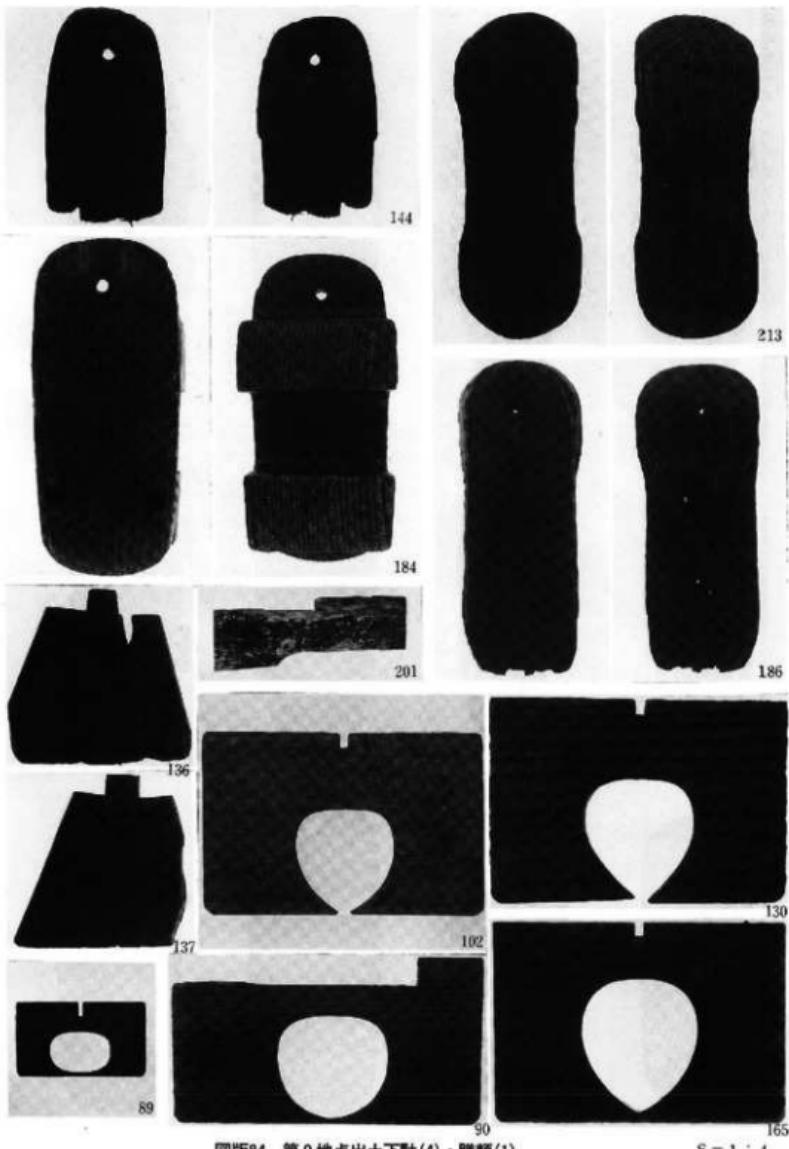
图版82 第9地点出土下駁(2)
PL.82 Clogs from NM9(2)

 $S = 1 : 4$



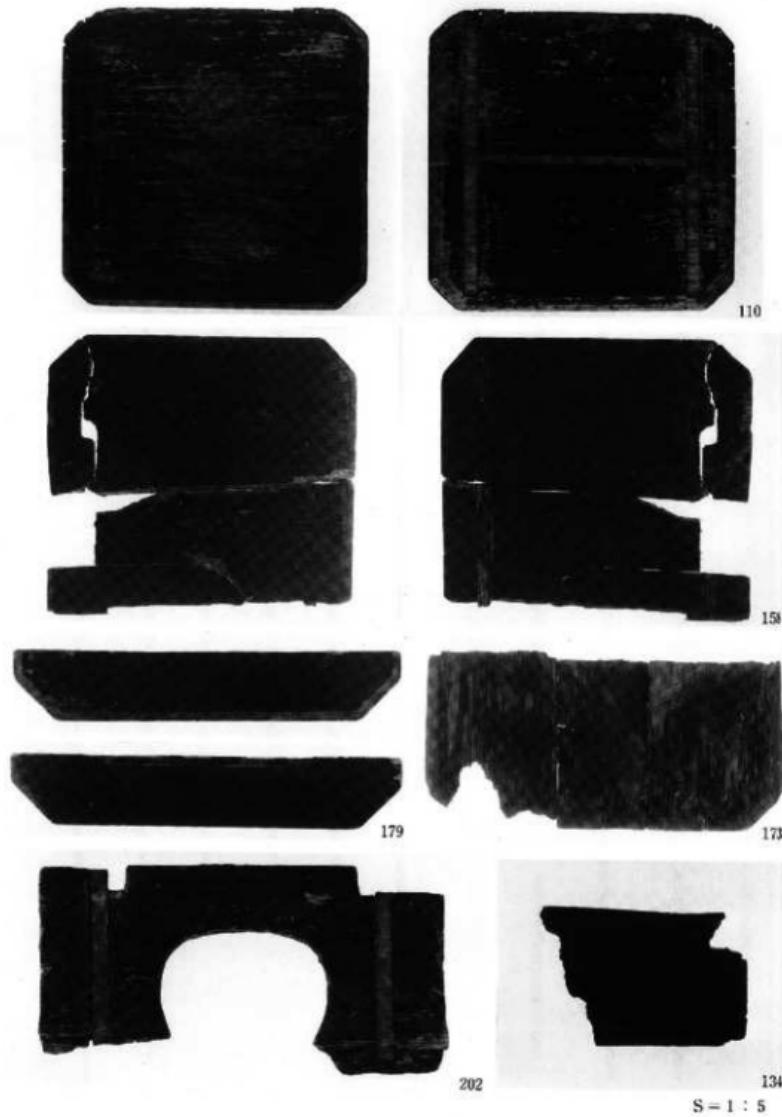
图版83 第9地点出土下駄(3)
Pl.83 Clogs from NM9(3)

S = 1 : 4

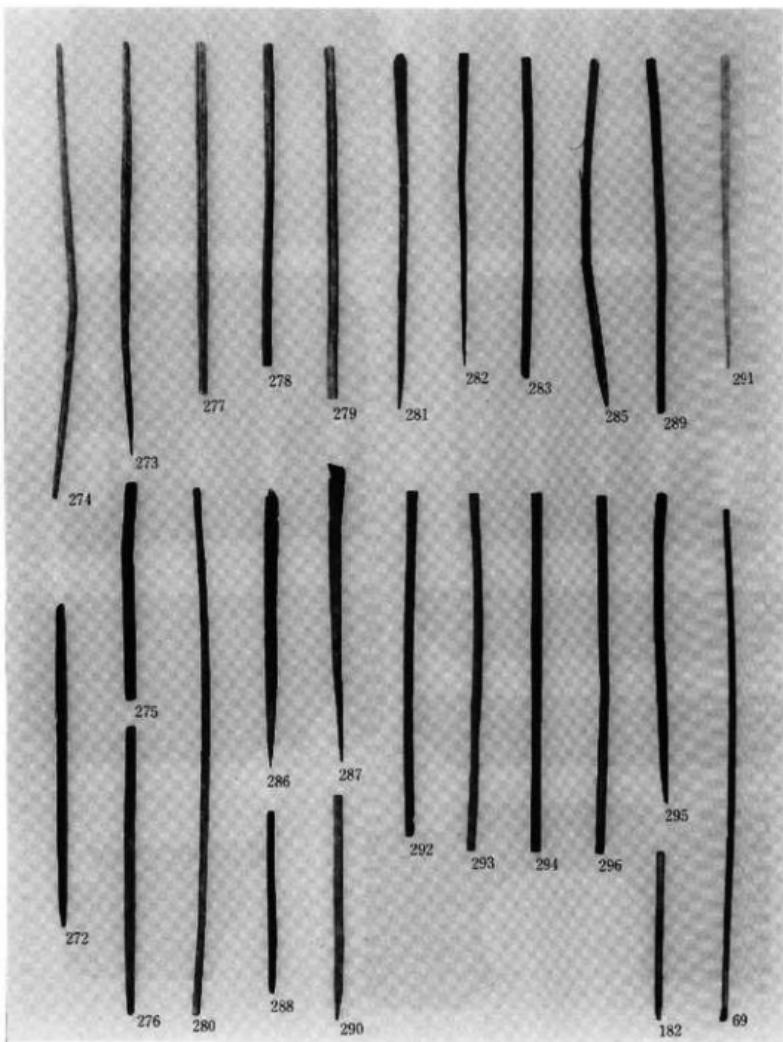


图版84 第9地点出土下駄(4)・腰鉢(1)

Pl.84 Clogs and wooden tray like objects from NM9(4)

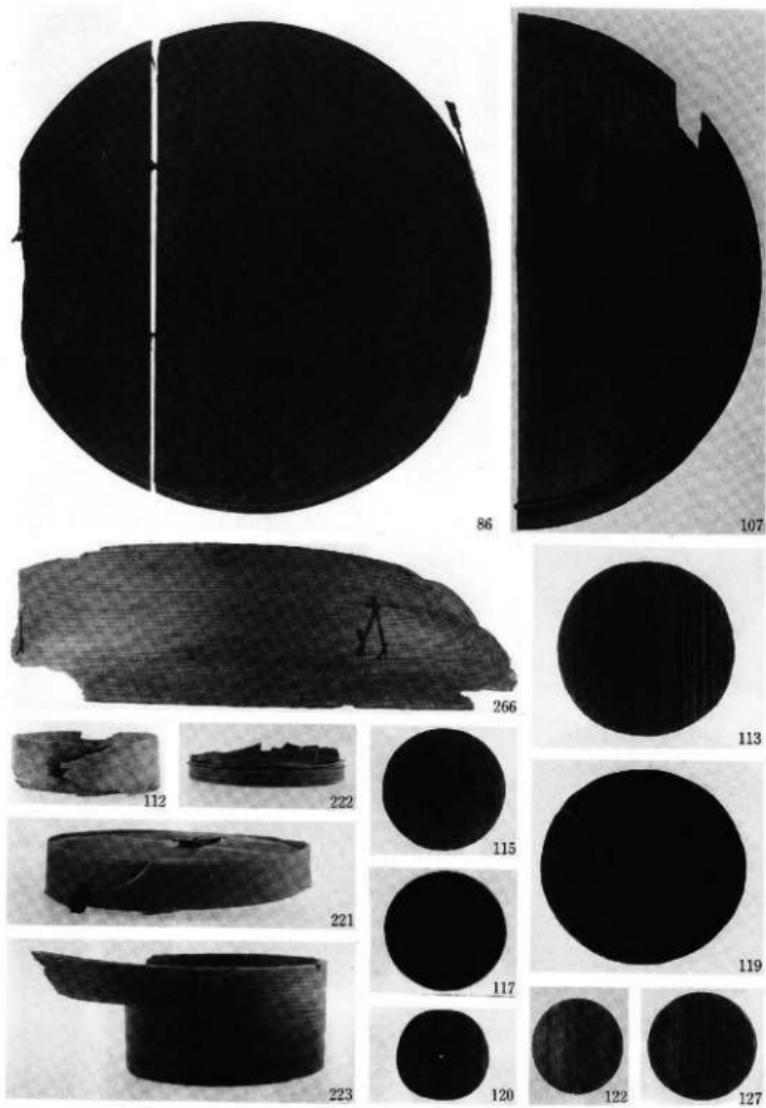


图版85 第9地点出土腰类(2)
Pl.85 Wooden tray like objects from NM9



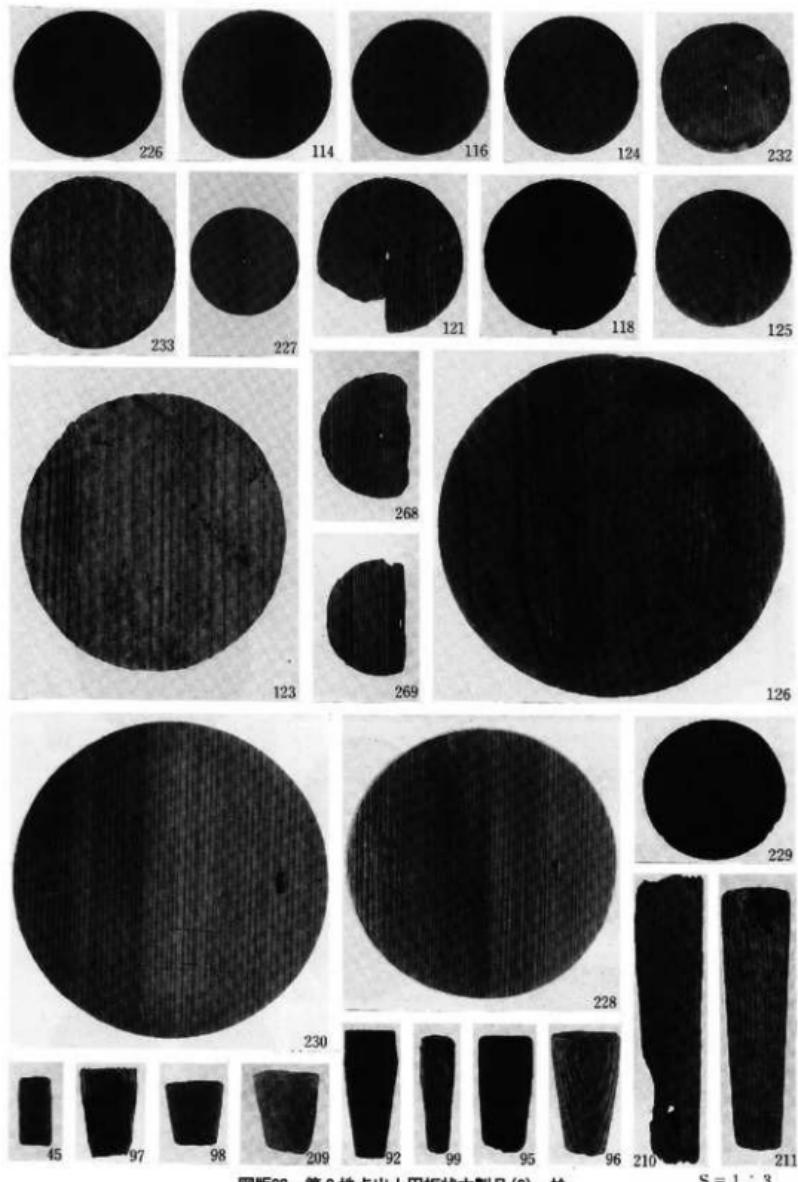
圖版86 第9地點出土箸狀木製品
Pl.86 Wooden chopsticks from NM9

S = 3 : 10



図版87 第9地点出土曲物・円板状木製品(1)

Pl.87 Round vessels by bending and securing a thin sheet of cypress wood and wooden implements shaped round plate from NM9

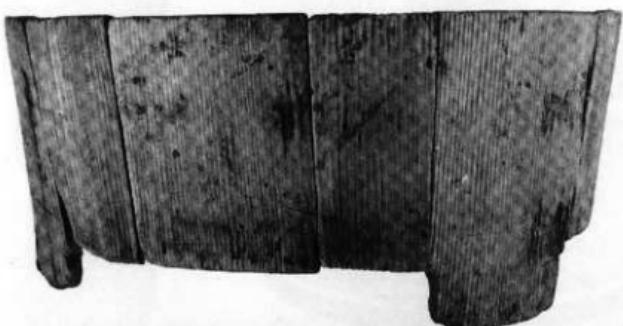


図版88 第9地点出土円板状木製品(2)・栓

PL88 Wooden implements shaped round plate and wooden plugs from NM9



139



140



129



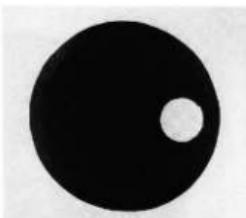
141

S = 1 : 4

圖版89 第9地點出土桶・樽類(1)
Pl.89 Troughs and barrels from NM9(1)



145



224



225

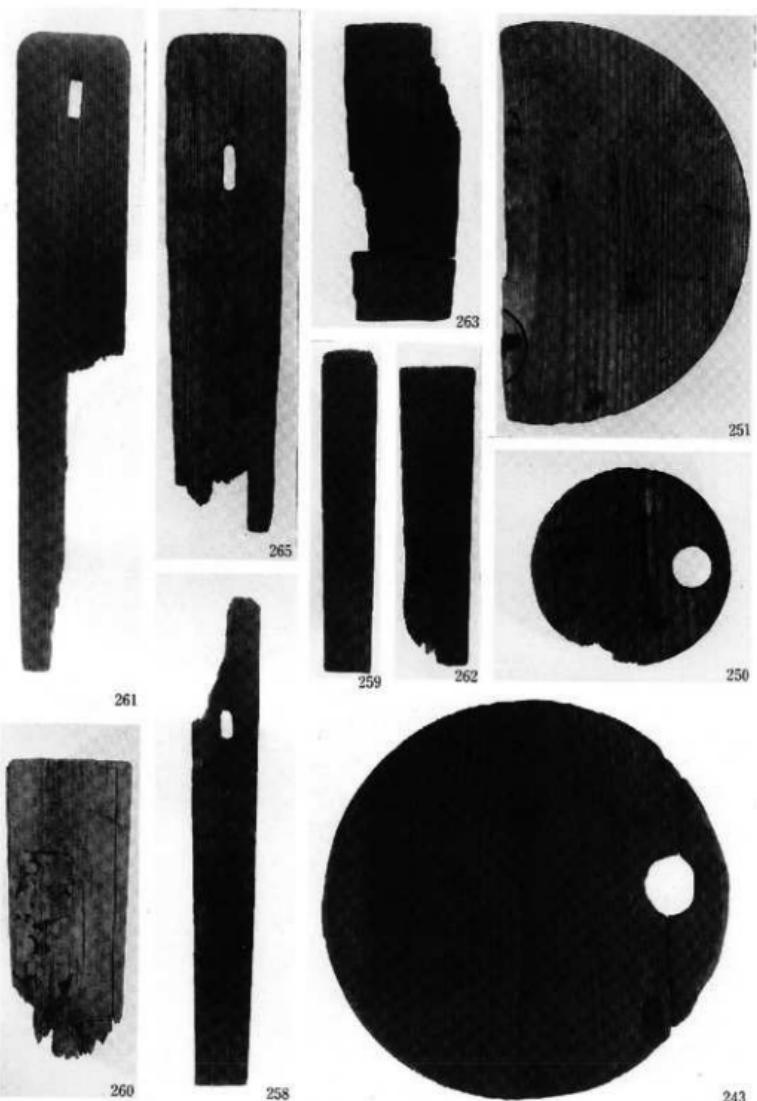


142



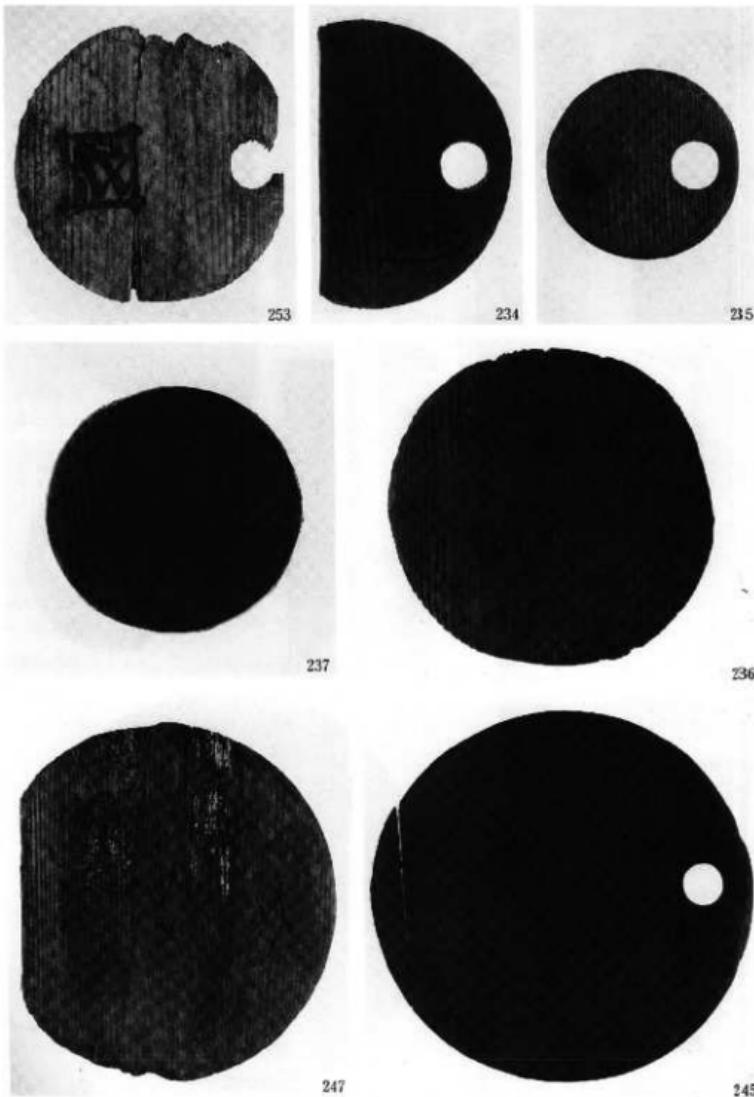
264

図版90 第9地点出土桶・樽類(2)
Pl.90 Trougues and barrels from NM9(2)



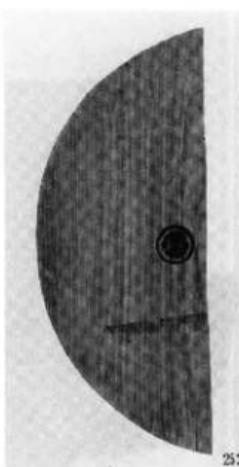
圖版91 第9地點出土桶・樽類(3)
Pl.91 Troughs and barrels from NM9(3)

S = 1 : 4



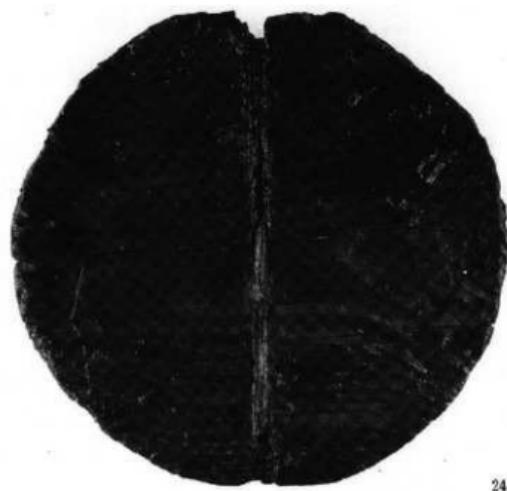
図版92 第9地点出土桶・樽類(4)
Pl.92 Troughes and barrels from NM9(4)

S = 1 : 4



254

252



248

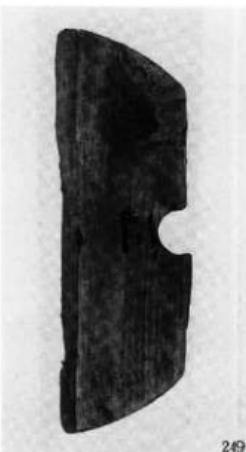
244

 $S = 1 : 4$

圖版93 第9地點出土桶・樽類(5)
Pl.93 Troughs and barrels from NM9(5)



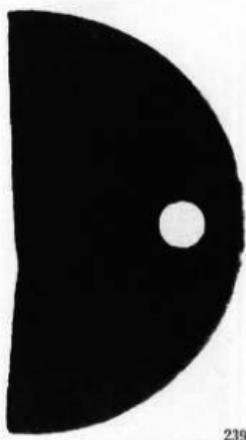
246



249



239



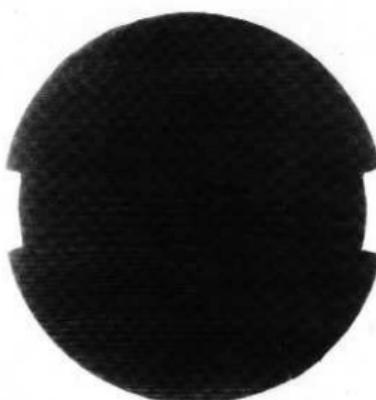
239

S = 1 : 4

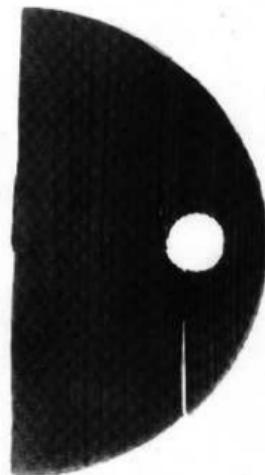
圖版94 第9地點出土桶・樽類(6)
Pl.94 Troughs and barrels from NM9(6)



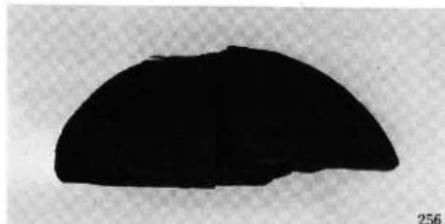
238



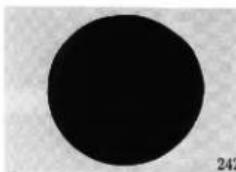
257



240



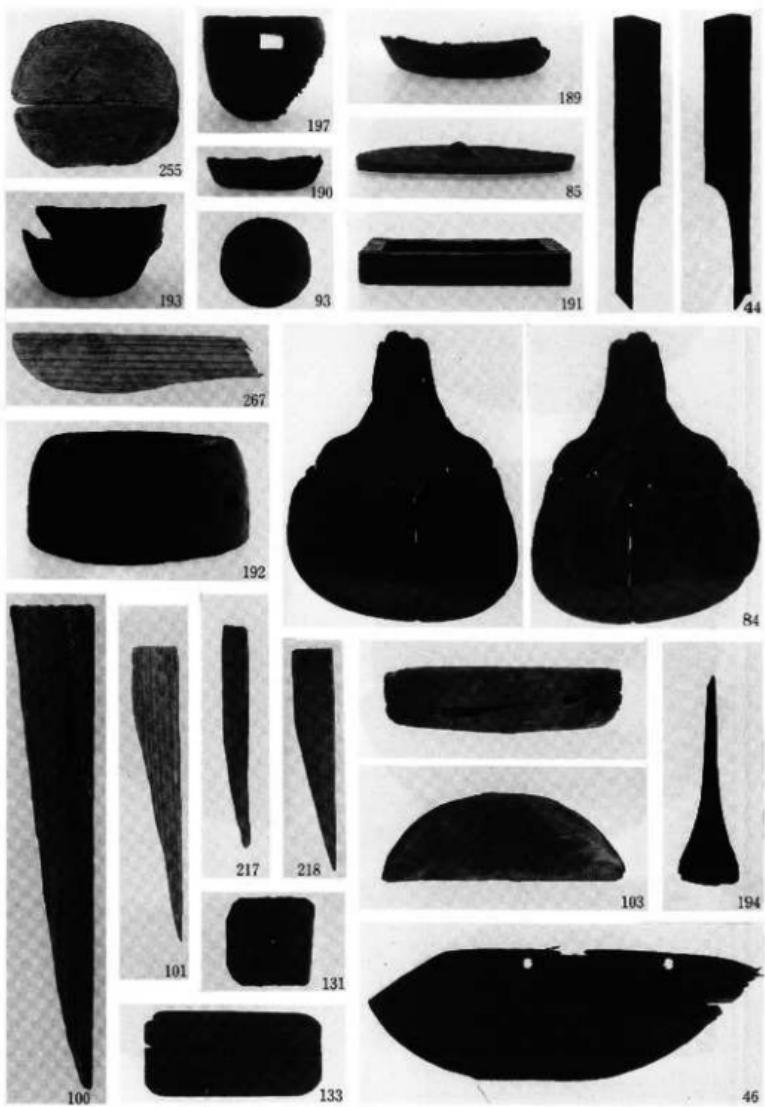
256



242

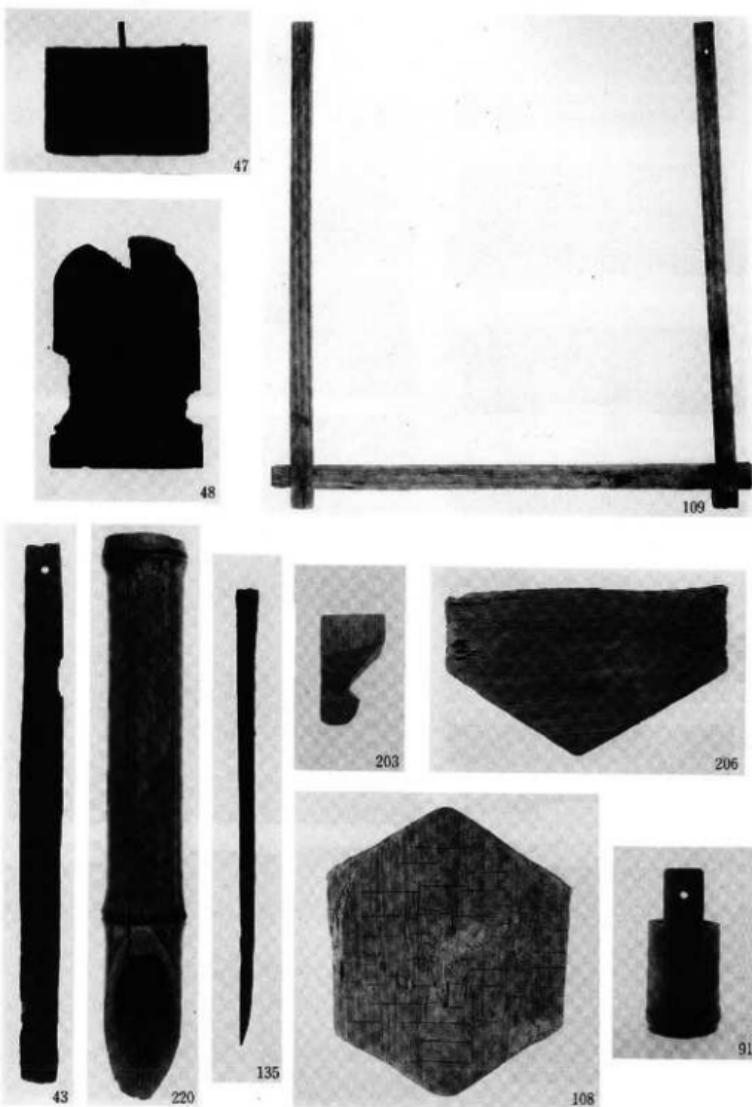
圖版95 第9地點出土桶・樽類(7)
Pl.95 Troughs and barrels from NM9(7)

S = 1 : 4



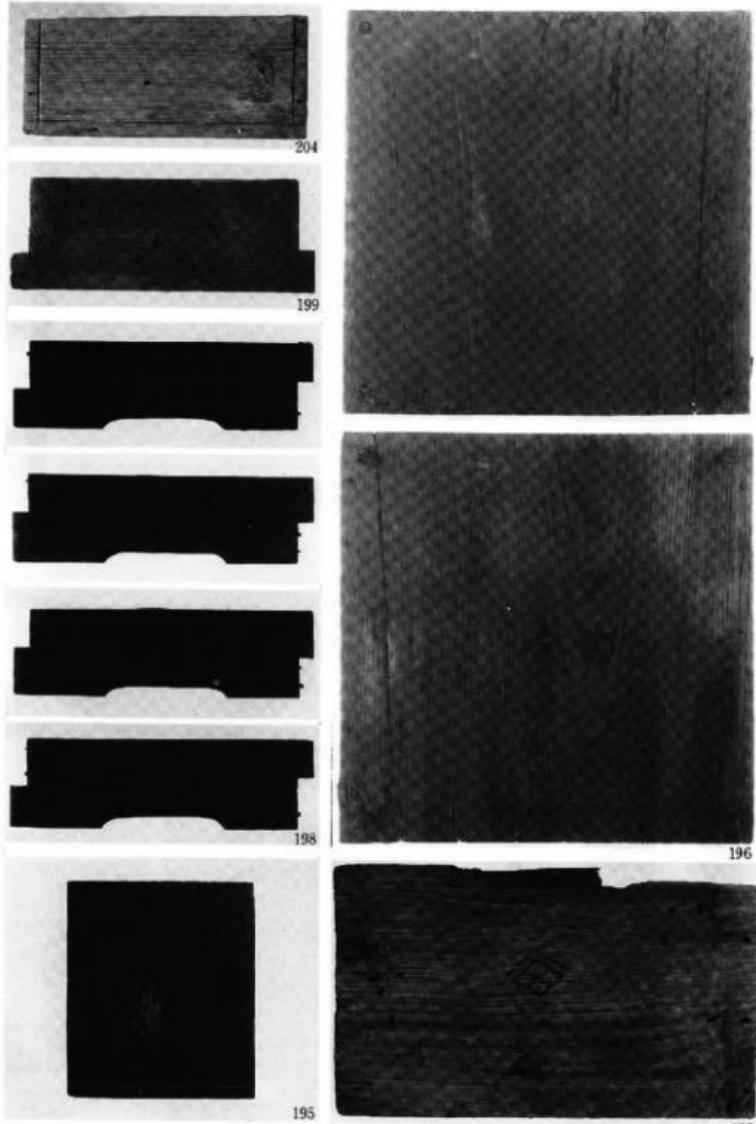
図版96 第9地点出土その他の木製品(1)
Pl.96 Various wooden implements from NM9(1)

S = 1 : 3



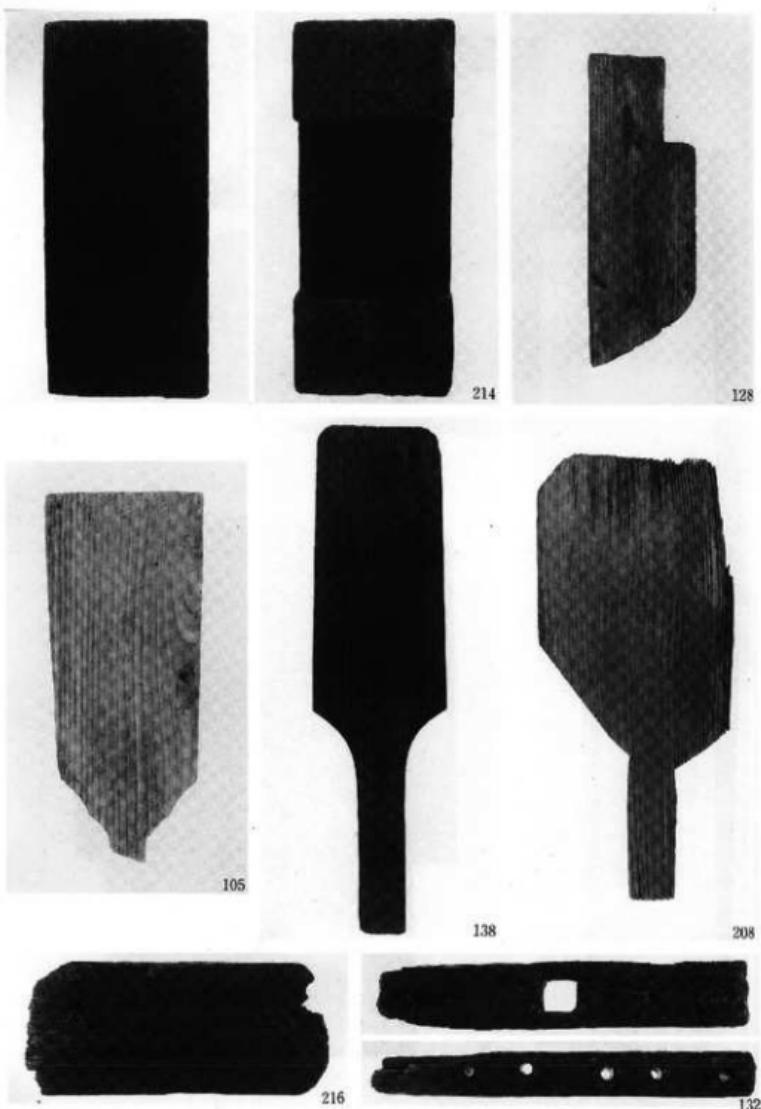
図版97 第9地点出土その他の木製品(2)
Pl.97 Various wooden implements from NM9(2)

S = 1 : 3



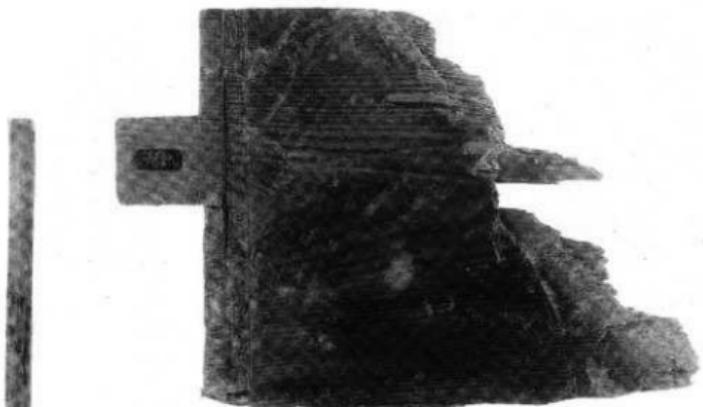
図版98 第9地点出土その他の木製品(3)
PL.98 Various wooden implements from NM9(3)

S = 1 : 4

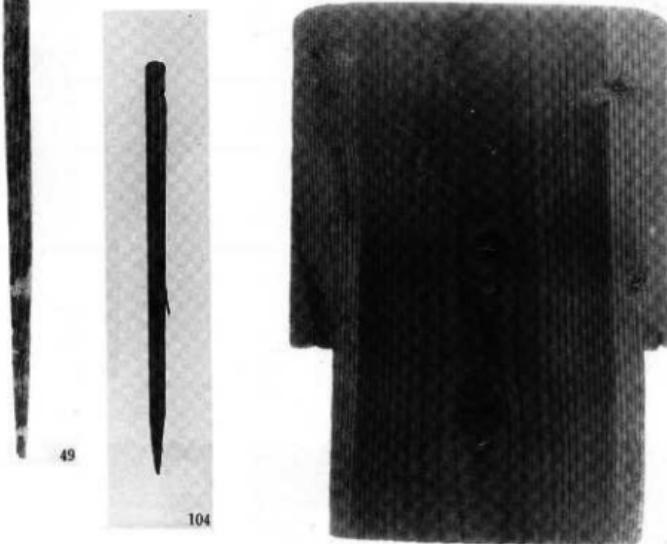


図版99 第9地点出土その他の木製品(4)
Pl.99 Various wooden implements from NM9(4)

S = 1 : 4



215



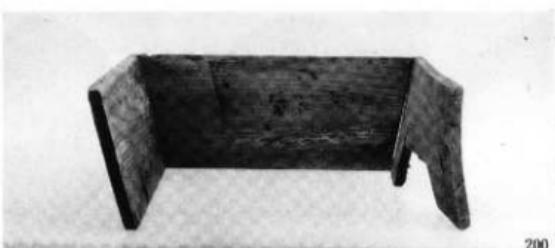
49

104

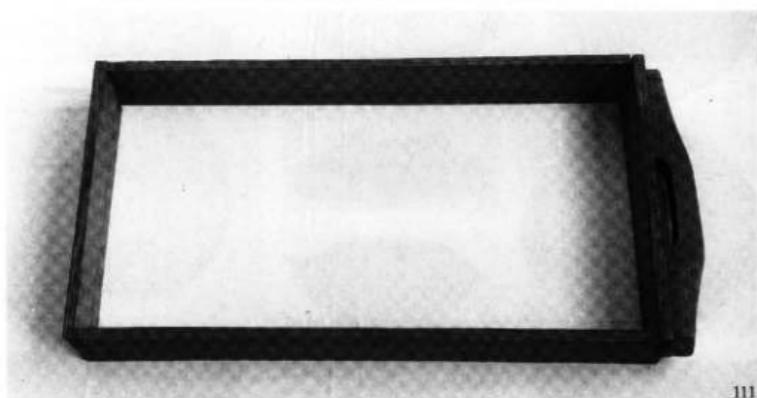
212

図版100 第9地点出土その他の木製品(5)
Pl.100 Various wooden implements from NM9(5)

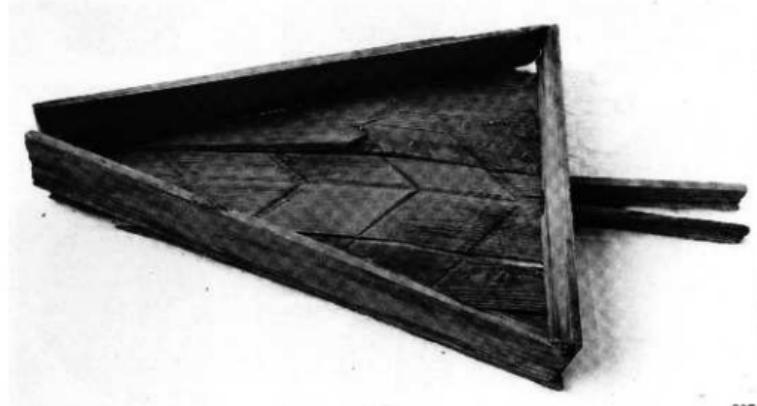
S = 1 : 4



200



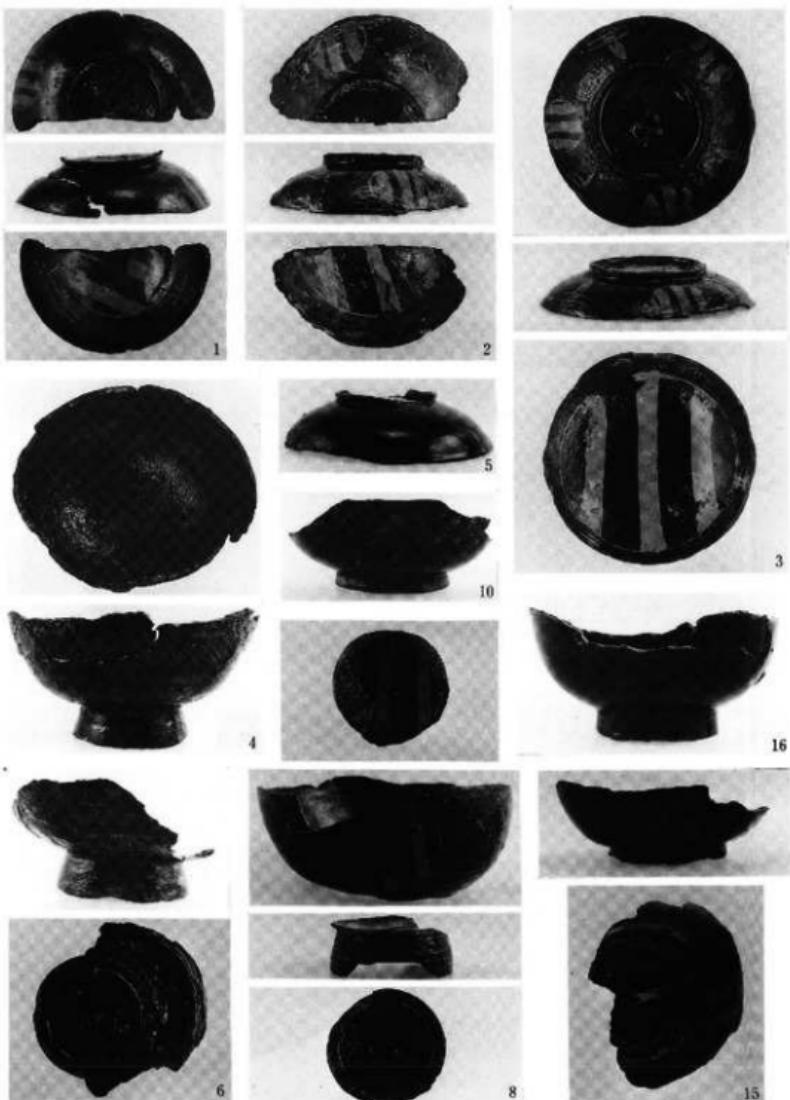
111



207

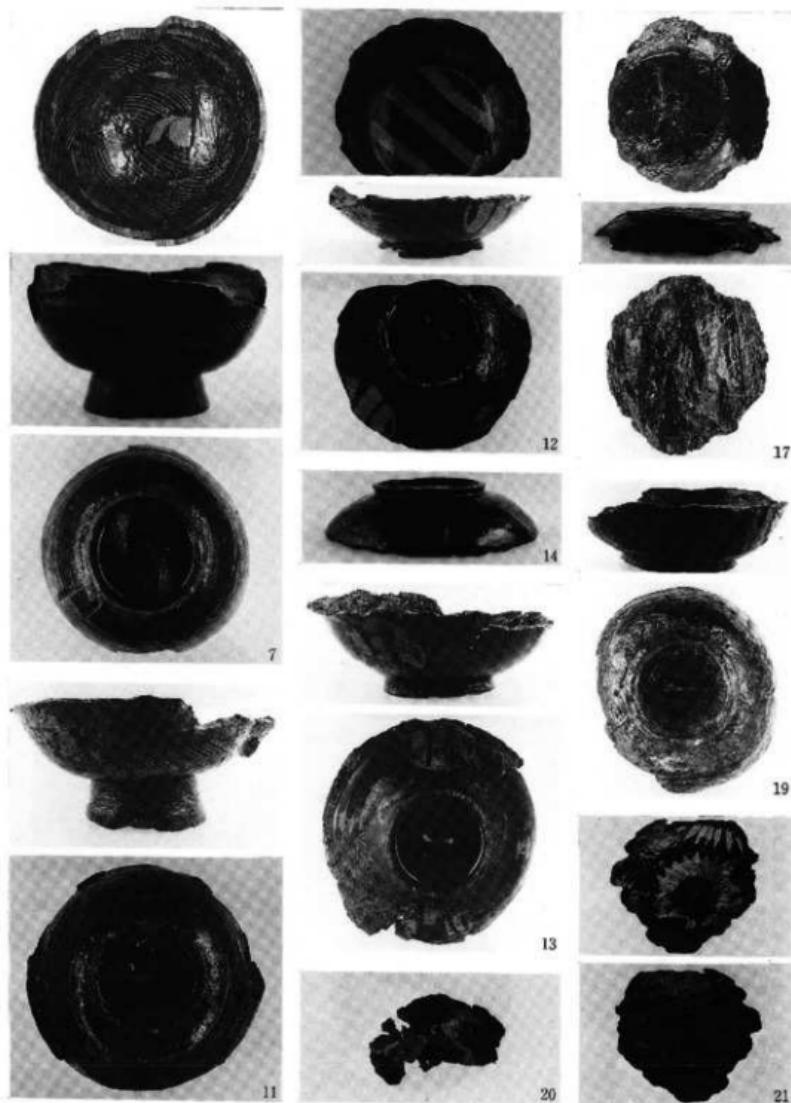
図版101 第9地点出土その他の木製品(6)
Pl.101 Various wooden implements from NM9(6)

200 S = 1 : 6
111,207 S = 1 : 8



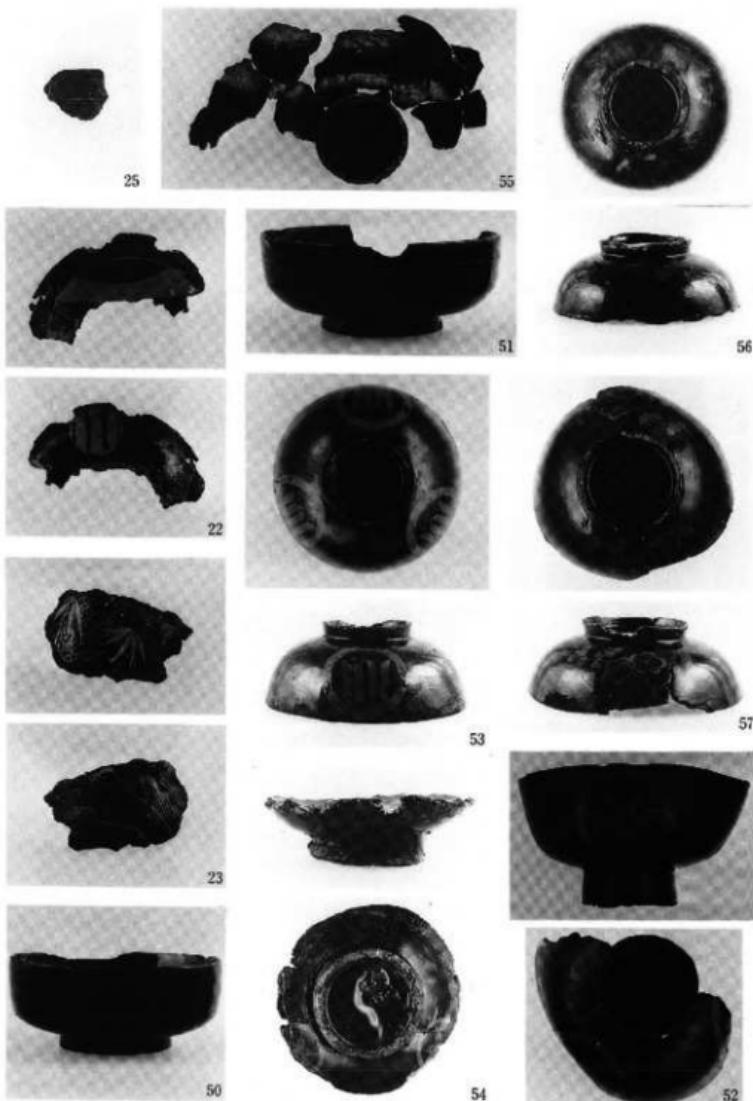
图版102 第9地点出土漆碗(1)
Pl.102 Bowls with lacquer from NM9(1)

S = 1 : 3



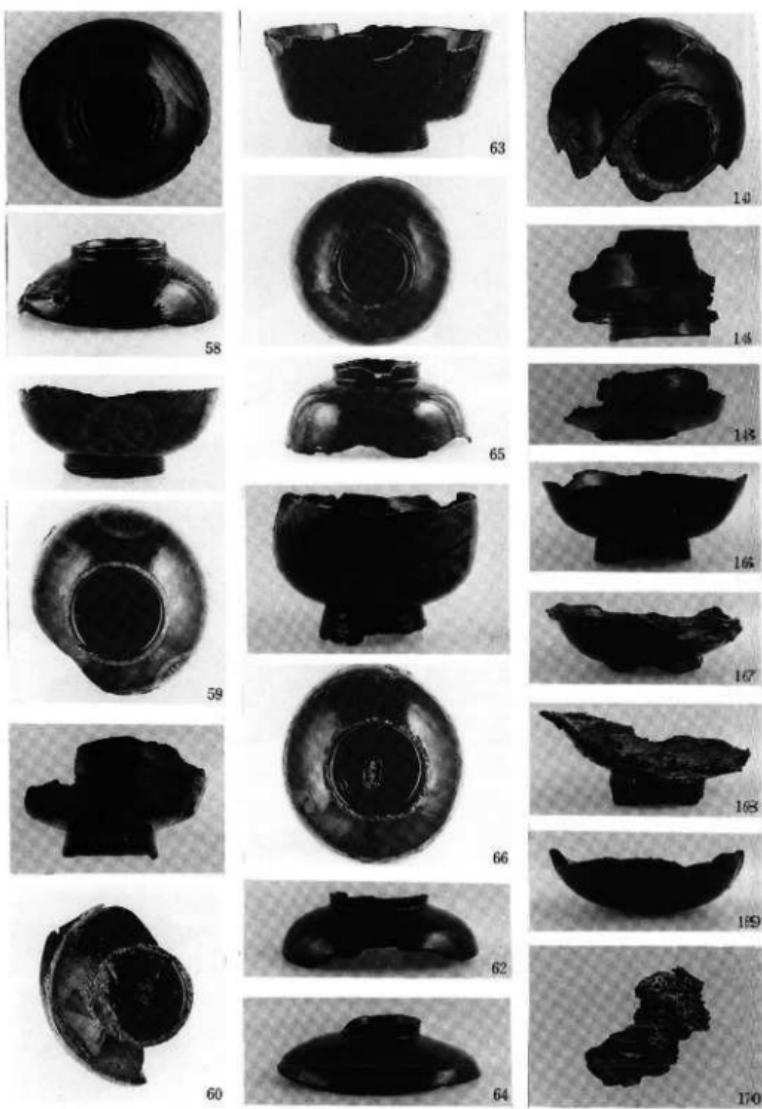
圖版103 第9地點出土漆碗(2)
Pl.103 Bowls with lacquer from NM9(2)

$S = 1 : 3$



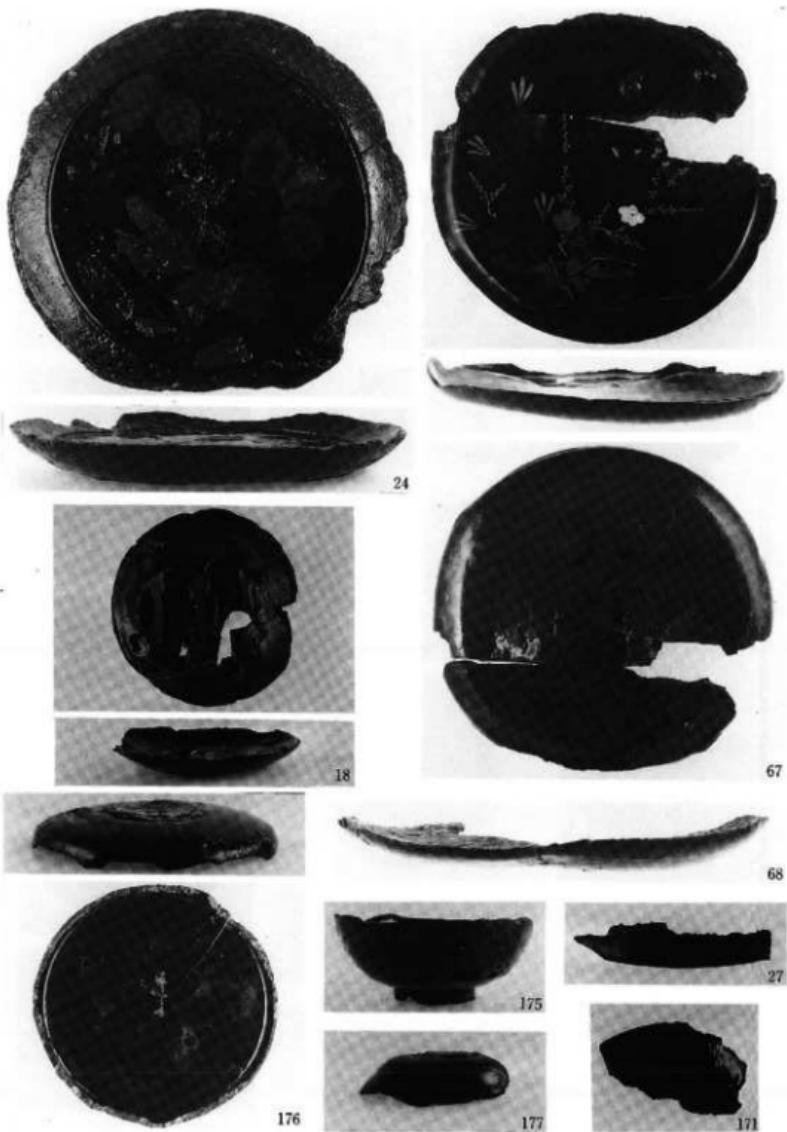
图版104 第9地点出土漆碗(3)
Pl.104 Bowls with lacquer from NM9(3)

S = 1 : 3



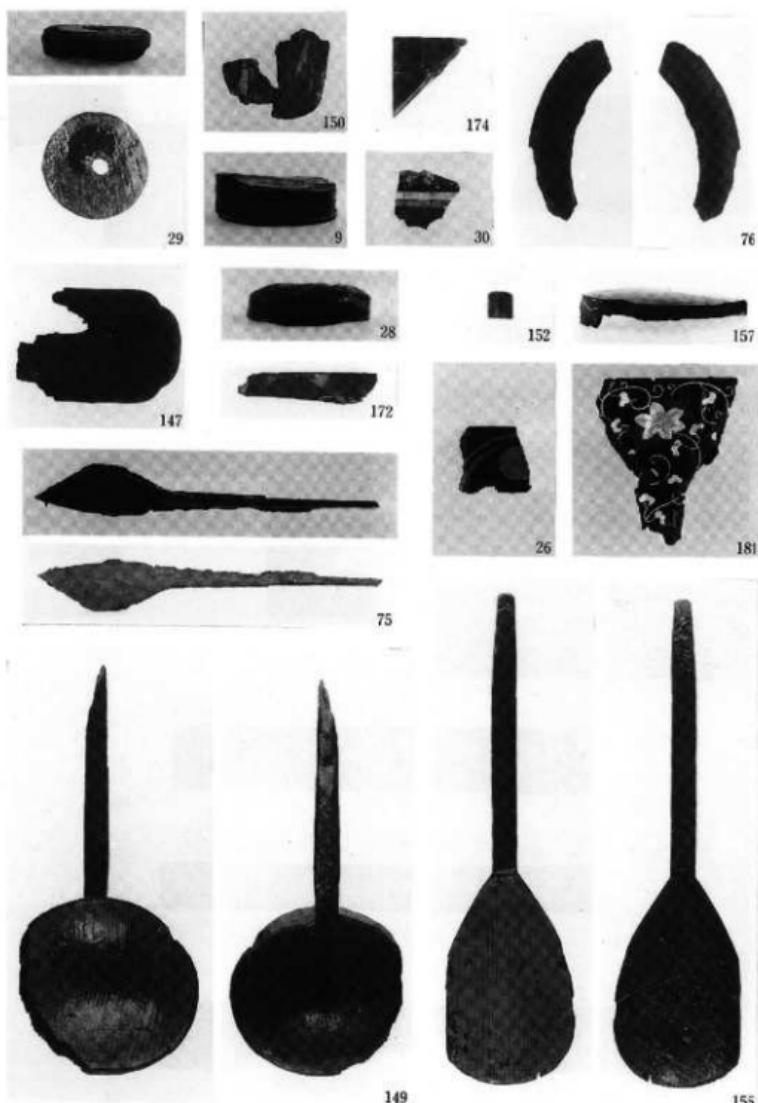
图版105 第9地点出土漆碗(4)
Pl.105 Bowls with lacquer from NM9(4)

S = 1 : 3



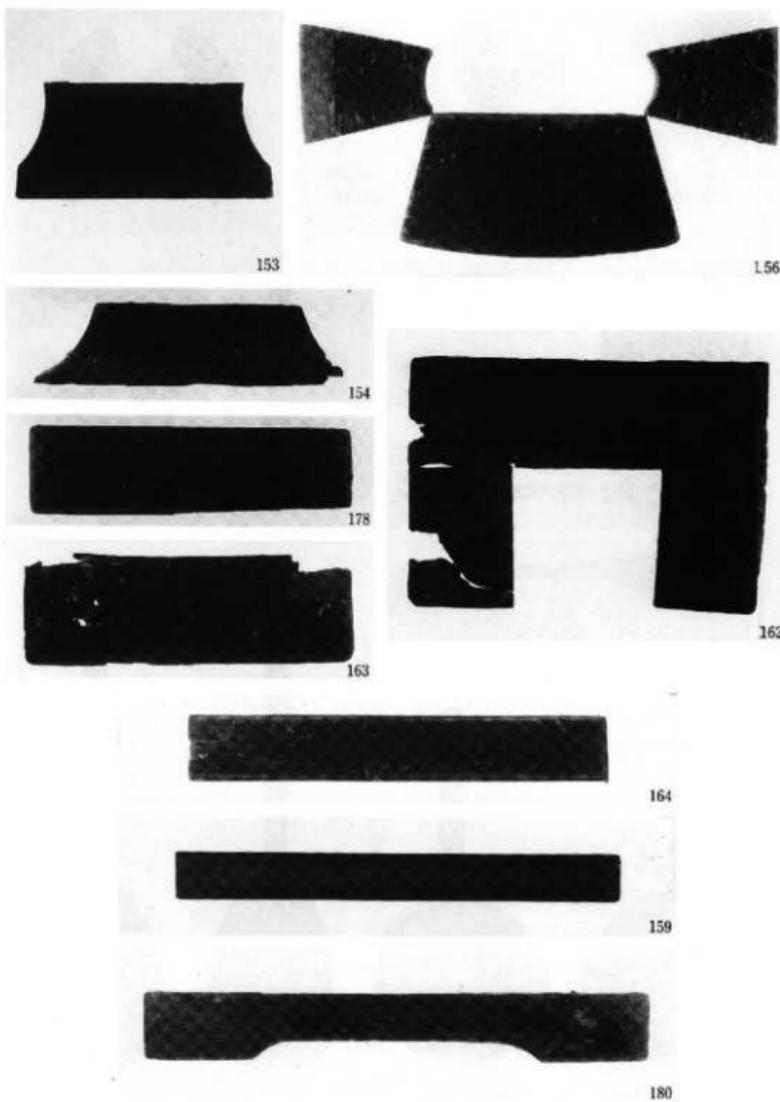
图版106 第9地点出土漆碗(5)·漆皿
Pl.106 Bowls and dishes with lacquer from NM9

S = 1 : 3



図版107 第9地点出土その他の漆塗製品(1)
Pl.107 Various wooden implements with lacquer from NM9(1)

S = 1 : 3

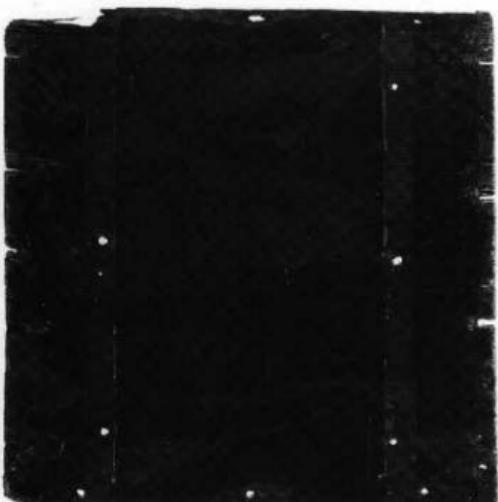


図版108 第9地点出土その他の漆塗製品(2)
Pl.108 Various wooden implements with lacquer from NM9(2)

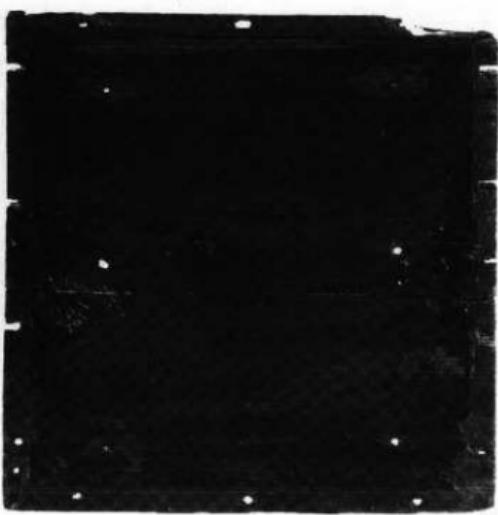
S = 1 : 4



74



270



160

図版109 第9地点出土その他の漆塗製品(3)
Pl.109 Various wooden implements with lacquer from NM9(3)

S = 1 : 4



161

S = 1 : 6

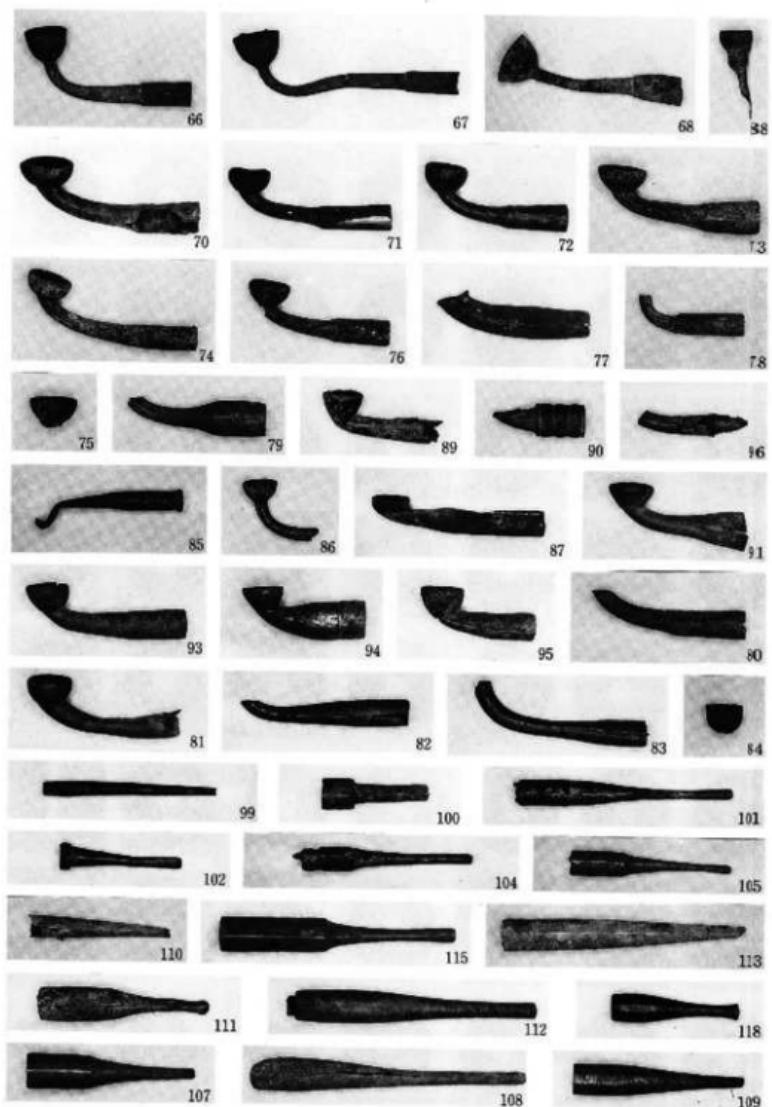
図版110 第9地点出土その他の漆塗製品(4)
Pl.110 Various wooden implements with lacquer from NM9(4)



图版111 第9地点出土古钱

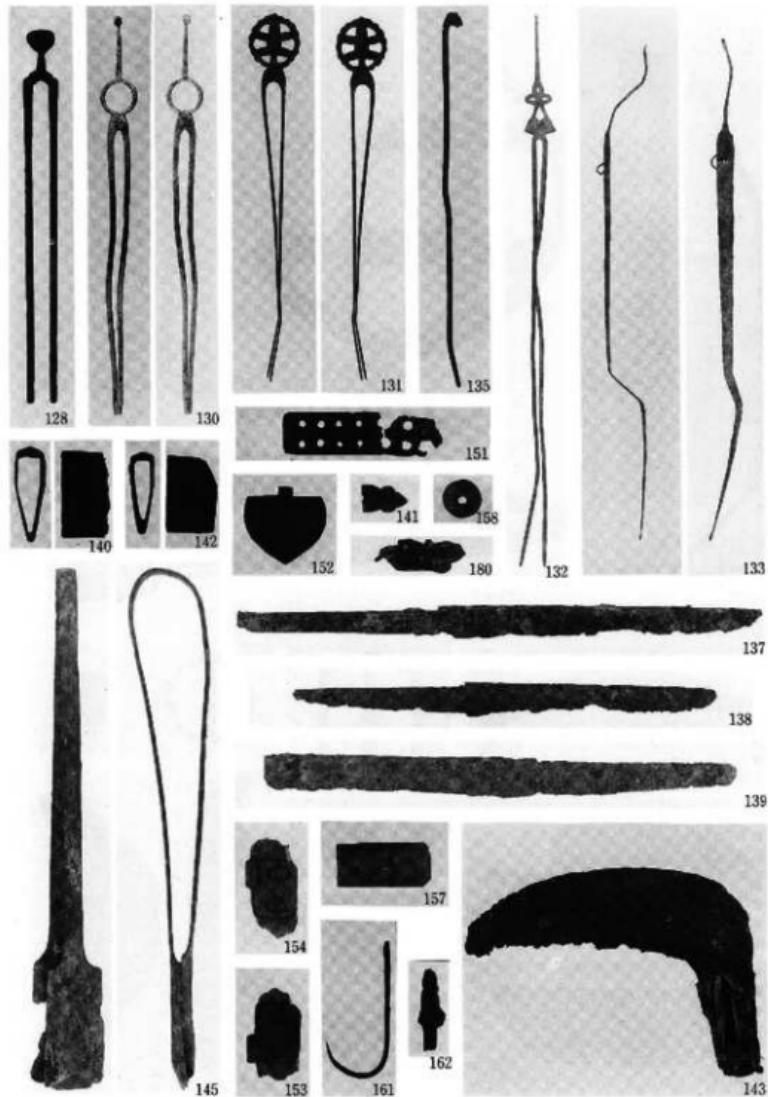
PL.111 Coins from NM9

S = 2 : 3



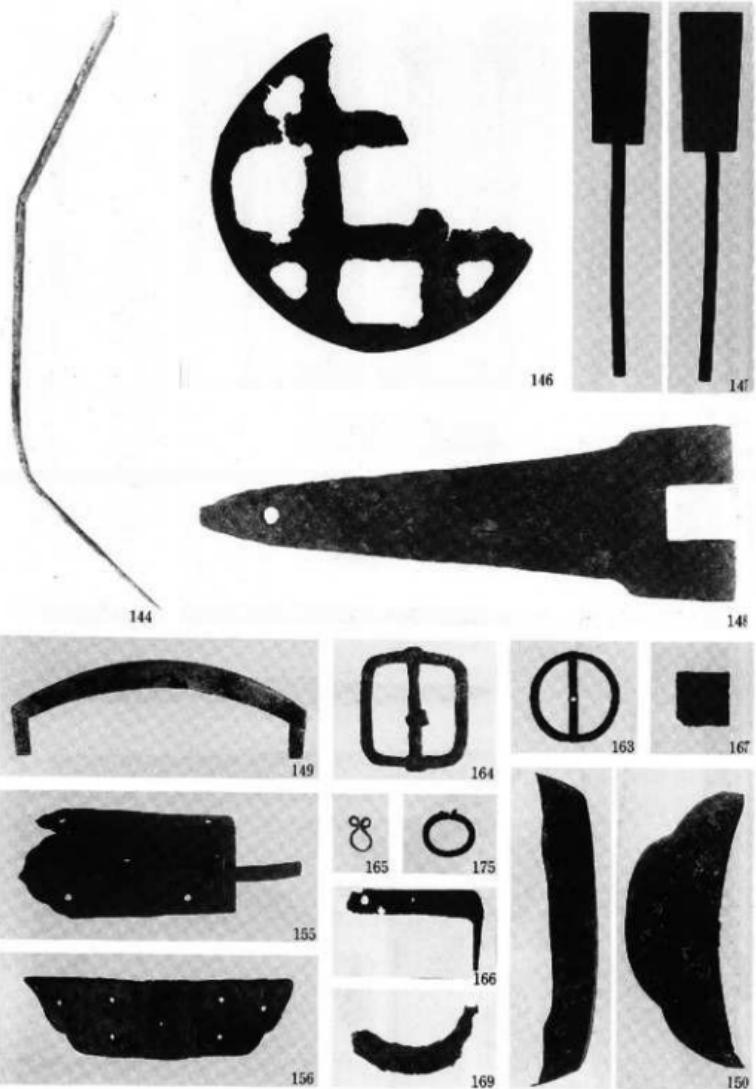
图版112 第9地点出土烟管
Pl.112 Pipes from NM9

S = 1 : 2



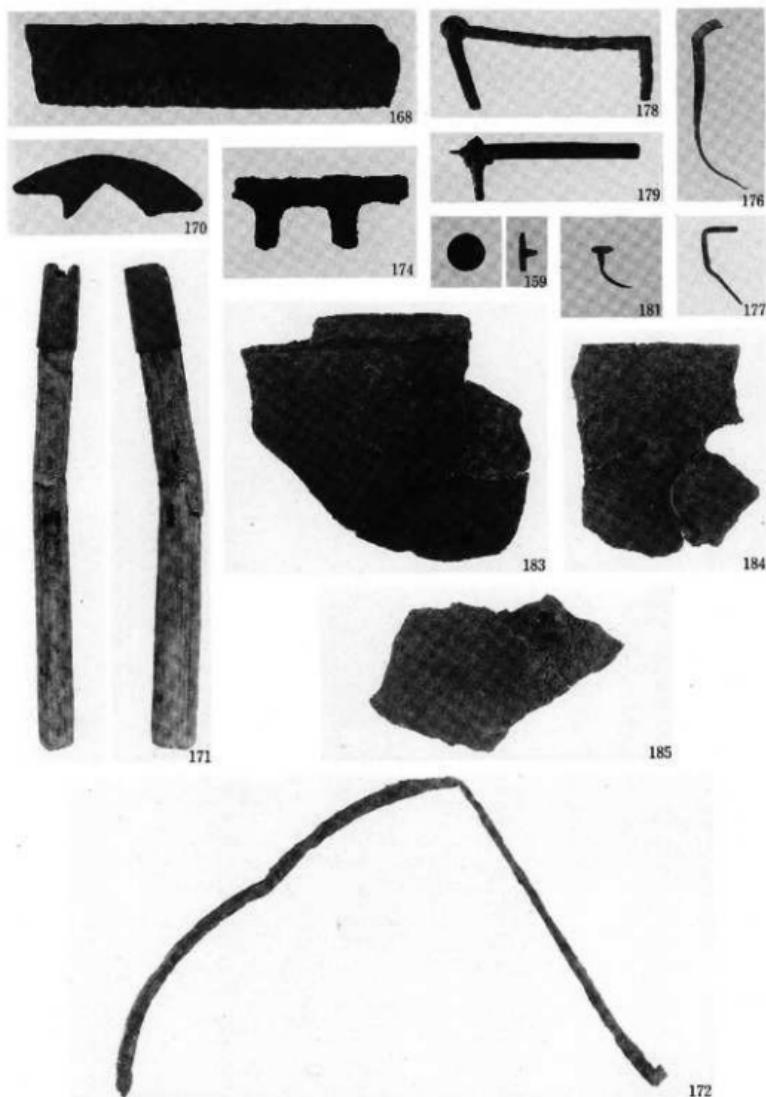
図版113 第9地点出土その他の金属製品(1)
PL.113 Various metal implements from NM9(1)

S = 1 : 2



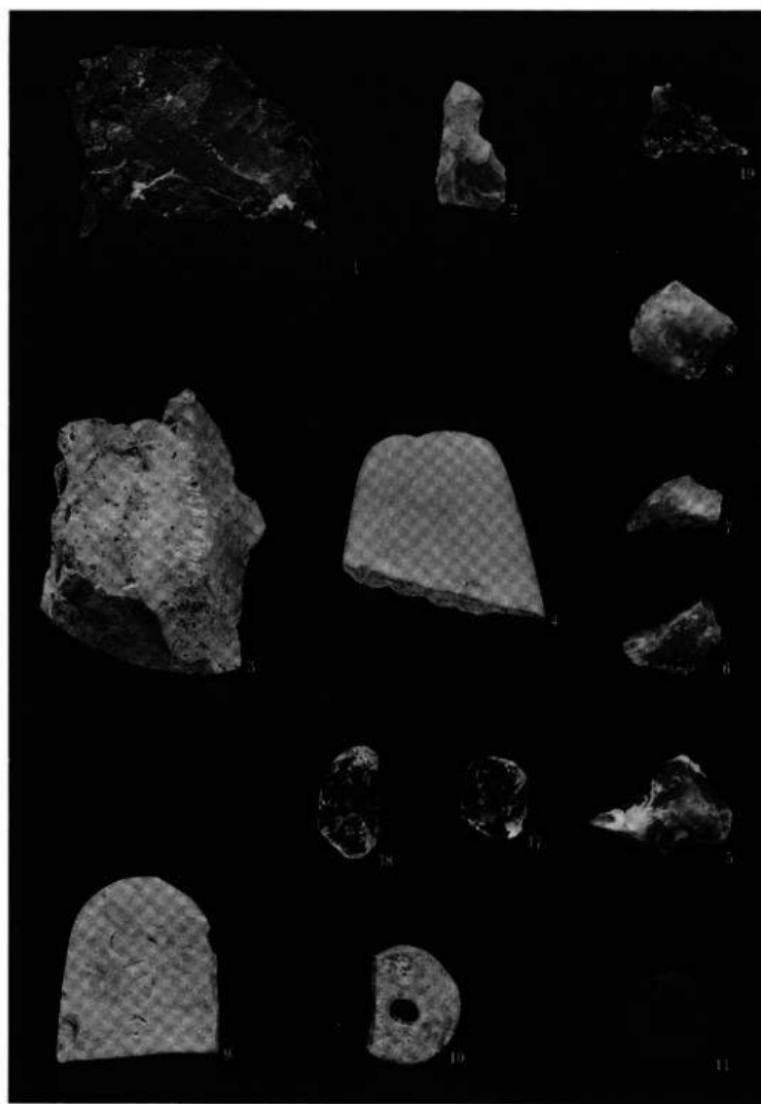
図版114 第9地点出土その他の金属製品(2)
Pl.114 Various metal implements from NM9(2)

S = 1 : 2



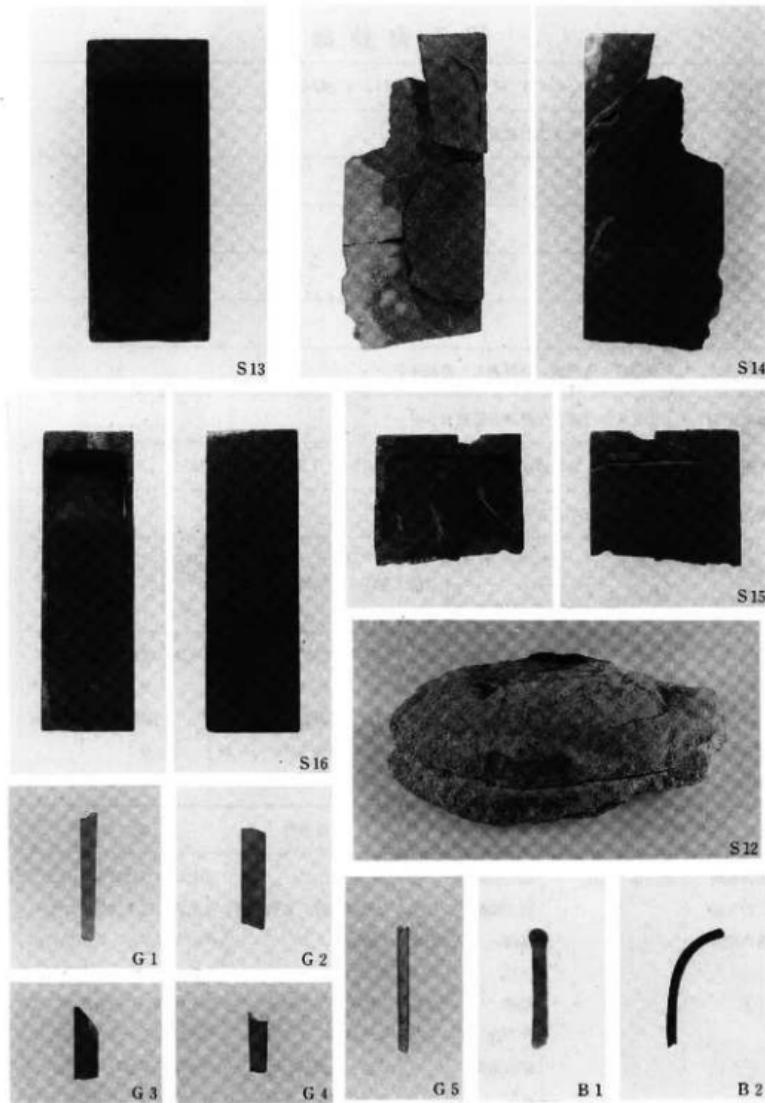
図版115 第9地点出土その他の金属製品(3)
PL.115 Various metal implements from NM9(3)

S = 1 : 2



図版116 第9地点出土石器・石製品(1)
Pl.116 Stone tools and Stone-made objects from NM9

S = 4 : 5



図版117 第9地点出土石製品(2)・その他の遺物
Pl.117 Stone-made objects and various implemets from NM9

S12~16 S = 1 : 3
G1~5.B1~2 S = 2 : 3

報告書抄録

ふりがな	とうほくだいがくまいぞうぶんかざいちょうさねんばう						
書名	東北大学埋蔵文化財調査年報						
副書名							
巻次	8						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	須藤隆・藤沢教・関根達人・菊池佳子						
編集機関	東北大学埋蔵文化財調査研究センター						
所在地	〒980-77 宮城県仙台市青葉区片平一丁目1-1 TEL 022-217-4995						
発行年月日	西暦 1997年 3月28日						

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査 面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
仙台城跡	宮城県 仙台市 青葉区川内	04100	01033	38°	140°	試掘調査	473	学校建設 文・法学院研究棟 新館に伴う事前調査
				15'	51'	1989.6.29~7.26		
				16°	23°	本調査		
						1990.5.10~11.29		
						1991.3.14~3.27		

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仙台城跡	城 鎮	近世	掘立柱建物 7棟 掘立柱柱列 17条 溝跡 21条 土坑 22基 池跡 2基 井戸跡 1基 畝状遺構	陶磁器 土師質土器・瓦質土器 土製品・人形 瓦 木製品・漆塗製品 金属製品 石器・石製品 ガラス製品・骨角製品 動植物遺存体	寛永15年(1638年)の二の丸造営に伴う大規模な整地層の下層から、17世紀初頭に造られた伊達宗泰の屋敷跡を検出。二の丸造営に伴う整地層の上層からは、二の丸期の遺構群を検出。二の丸の奥門である台所門周辺の遺構群と推定。
二の丸跡					
第9地点					

東北大学埋蔵文化財調査年報 8

平成 9 年 3 月 28 日

発行 東北大学埋蔵文化財調査研究センター

〒980-77 仙台市青葉区片平2丁目1-1

東北大学遺伝生態研究センター内

TEL 022(217)4995

印刷 小宮山印刷工業株式会社

TEL 022(213)6221
